

AC Zokuzoku gunsho ruiju
145
G857
v.5

Call no *AC*

Author *—*

145
G 857

Vol /Page

Title *Zoku-zoku*
Gunsho Ruiju

v. 5

Pub date

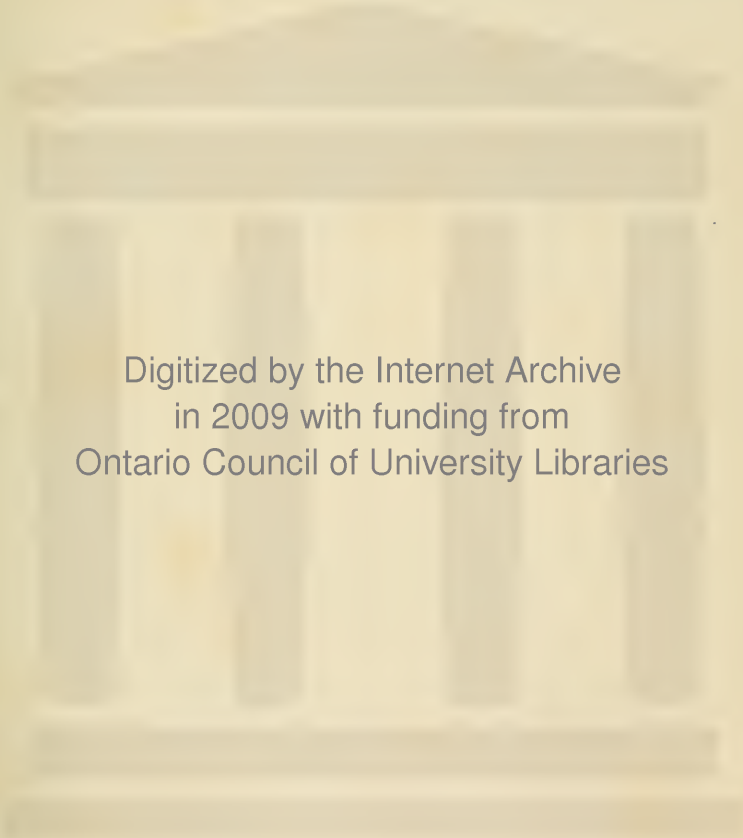
Not needed after

OFFICE USE ONLY

Date due

Today's date and time

Searched

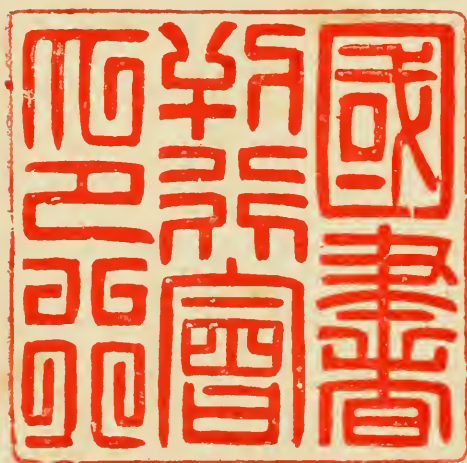


Digitized by the Internet Archive
in 2009 with funding from
Ontario Council of University Libraries

續六群書類從

第五

AC
145
G857
v. 5



續々群書類從第五

例言

一本編は、記録部として、三代御記以下記録類十九種を收む。

一記録部は其採る所廣く各時代に涉り、種類の多方面なるを主としたり。而かも紙數に制限ありて、二三種の外は成るべく分量の多からざるものを選びたり。

一三代御記三卷 寛平延喜天曆三代の御日記なり。又延喜天曆御記を二代御記と稱し、北山抄には二朝御記とも記せり。花園院御記に寛平御記は十卷ありし事見え、春記に、延喜御記は二十卷ありしよし記せり。天曆御記は、卷數詳ならねど、二代御記抄とて、二代御記を部類せるもの五十卷ありし事、後二條師通記に見えたるによれば、三十卷ばかりのものなるが如し。まづ此御記の事は、

貫首秘抄に、執柄若職事、能知主上御作法公事之條、備顧問、或又幼若之主奉教訓、仍寛平御記、二代御記、内裏式、寛平遺誠、常可見之也。と記し、殊に二代御記は、清涼殿なる日記、御厨子に置かせ給ひし事、禁秘御抄、玉藥に見えたり。蓋し此御記の中には、政事儀式の先例をたづぬる便となるべきもの多く、後代の龜鑑とすべき事抄からざるが故なり。かくの如く此御記は、世の寶典と仰がれて尊重せられつるに、今は亡佚して一卷だに遺りしものなく、僅に西宮記以下の書に、御記の文を引けるものあるのみ。全編悉く傳はりたらんには、彼政事要略に掲げたる寛平御記の文にて、阿衡の顛末を詳にするを得たるが如く、貴重なる史實數多あらんを、實に惜みてもあまりある事なり。此書は、中津廣昵氏が博く諸書を涉獵し、御記の遺文を抄録して、編纂したるものにて、御記の原本に比すれば、其卷數廿分の一に及ばずといへども、之によりて、三

代の聖主が、仁政を施し給ひし一端をも伺ひ奉るを得べく、史學に裨益する事少きにあらざるなり。此書は、既に歷代殘闕日記の卷首に掲げられつれど、もご稿本のまゝにて、未だ完成に至らざりしものなれば、今は其漏れたるを補ひ、誤れるを訂しつ。こは古人の著書に對して、徒に改刪を施さんこにはあらず、唯御記の逸文のあらん限を纂輯して、史家研究の用に資せんとするにあるのみ。尙二代御記抄なるもの柳原家に藏せらるこ云へども、刊行の期迫りて、借覽の暇無かりしを憾みとす。以上和田英松氏増訂本の卷首に在りしな故に轉記す。

一 貞信公記一卷 攝政太政大臣藤原忠平の日記にして、記事簡單、

誤脱甚だ多く、読み易からずと雖、他書に載せざる事實あり。原本は九條家の所藏なるを、嘗て修史局にて謄寫したるものなり。今こゝに内閣本を底本とし、文部省本修史局所藏本を以て校訂す。但し兩種共に別つて十一本とし、其第六本は普通流布本とす。依つて此部

は黒川氏所藏本、田中勘兵衛氏所藏本、歴代殘闕日記本等を以て校訂するを得たり。黒川本は塙本にして、其奥書には

右貞信公記依仰校合書寫

享保元年八月日

檢校 保己一

とあり。田中本はもと山科家の所藏にして、寛政二庚戌年初秋書寫一校了内藏頭藤原忠言とあり。

按ずるに、山科道安の槐記に、御家ノ御記録ハ、幸ニシテ應仁ナドノ大亂ニモアナタコナタト預ケタレドモ、終ニ無事ニ遣リテ、貞信公ナドノ眞記モ今ニアリ、凡千年ナリ、目出度御コト、謂ッベシなご記されたり、以てこの日記は、應仁の兵火に免かれたる事を知るに共に、近衛家に於ては秘本なりし事を知るべし。

一九曆一卷 九記御曆、又は九條右丞相之記と稱す、九條師輔の日記にして、今存するもの右大臣たりし天曆元年より、天德四年薨

去に先づ約一箇月に至るまで凡十四年間に度る。記事極めて簡畧にして、事項を示すに過ぎざるものあり。雖、當時禁中の事實を知るには、第一等の資料とす。本書は黒川氏所藏本東叡山文庫本を底本とし、同氏藏山崎美成本及び別本を以て校訂せり。

平記一卷 行親記とも稱す、左衛門權佐平行親の日記にして、今は長暦元年禁中に於ける行事のみを存す。内閣本を底本とし、黒川本を以て校訂せり。

一 高野山參詣記一卷 伊豫守平範國の記す所にして、後冷泉帝の永承三年、關白賴通、高野參詣の事を叙したるものなり。沿道の光景、地理風俗等仔細に描出せらる。殘闕日記本を底本とせり。

一 江記一卷 權中納言大江匡房の日記なり。匡房博學にして典故に通ず、其記す所の日乗數多ありしも、終りに臨んで晩年の日録を焚けりと。後人他書より抄出して、今存するもの三卷となせり。

こゝには鳥羽帝の天仁元年大嘗會の一卷のみを收む、黒川本を底本とせり。

一 平知信朝臣記一卷 關白忠通の家司中宮大進平知信の日録にして、おもに長承四年、大納言藤原頼長の任大將の儀を録したるものなり。殘闕日記本を底本とし、黒川本を以て校訂せり。

一 爲經卿記一卷 吉田中納言爲經の日記にして、たゞ寛元四年のみを存す、黒川本に據れり。

一 冬平公記一卷

關白鷹司冬平

後稱
念院

の日記にして、後二條帝の嘉

元、徳治、改元の勘文、花園帝延慶改元の事、同即位式、元亨四年正月詩會、歌會等を主として記す、内閣本を底本とし、圖書寮本もこ鷹司家本、黒川本を以て補訂せり。

一 匡遠記一卷 左大史小槻匡遠タカの日記なり。流布本は觀應三年六月七月八月を以て一冊とす、黒川本を底本として、圖書寮本及び

殘闕日記本を以て校訂せり。猶別に圖書寮に匡遠記と稱せる原本二卷あり。素より殘篇たりと雖、修綴表裝天保十四年六月加寛打訖したれば讀み得べき所多し。而かも補綴の際順次を誤れるもの有るが如し、後世の爲めこゝには一枚毎に縦線を劃して其表とす。年號の記入なきも、其考へ得べきものは假に之を加へたり。さて此二卷の筆者匡遠たる事につきて、尙多少の疑無きに非ずと雖、頗る重大なる記事ありて、舊史の缺を補ふに足れば、觀應の記と比べて稍、體裁を異にせるにも拘らず、その卷首に加へたり。識者の是正を俟つ。

一 北面假名記一卷 院北面始記、又は北面源康成記とも稱す。源康成の日記にして、應安四年院の北面始の事を記したるものなり。殘闕日記本に據りて收む。

一 齋藤基恒日記一卷 原本前田侯爵家の所藏にして、もと幕府日

記と題せるを、修史局にて謄寫の際に改稱せしものなり。永享十二年より康正二年に至る迄の事を記す。基恒は法名玄良、足利氏の執事代となり、内評定衆をも兼ね、その履歷卷末に載す。子、孫四郎基雅、後に民部丞親基と稱す、基恒の奉公次第及記中の旁注など、親基の加筆あるべしと云ふ。史料編纂掛所藏本を底本とせり。

一 東大寺法花堂要錄一卷 三月堂の記録にして、其外奈良京都間に起れる風聞など集む。殊に應仁頃兵亂の狀を窺ふに足るべき好資料たり、黒川氏所藏の影寫本を底本とし、外一本を以て校訂せり。

一 繼芥記一卷 記者不詳。元龜元年四月五月、天正七年正月の日記なり。樂に關する記事頗多く、又禁中にて源氏物語の講釋、信長の米進上の事、同上洛及下向の事等を載す。黒川本

中院通勝の得て謄寫したるものに據る

を底本とせり。

一東大寺繪所日記一卷 原書奈良手向山神社の所藏にして、天文年間の記録とす。字形判じ難く讀み能はざるもの多し。史料編纂掛影寫本を底本とし、黒川氏影寫本を以て校訂せり。

一惟房公記一卷

内大臣萬里小路惟房

崇恩院

の日記にして、天文十

年十月より十一年三月迄、永祿元年四月より閏六月までを存す。永祿の記は一名を「蟬冕魚同」と云ふ。本書中河内太平寺の合戰將軍義晴坂本より上洛の事、足利末年京中の亂、幕府衰頽の狀、天皇即位の資を大友に求むる事、尼慶光院の伊勢外宮勸進再建の事、禁裡御料を若州に徴すること等、史料として採るべきもの頗多し。内閣本を底本とし、殘闕日記本及び史料編纂掛本を以て校訂せり。

一天正日記一卷 徳川氏の臣、内藤清成の日録にして、徳川氏江戸に移る時の事を記せり。今活字版本によりて、注釋附のまゝ茲に

收む。

一親綱卿記一卷 中山權大納言親綱の日記にして、文祿四年十月より十二月に至る三箇月を存す。京都伏見兩者の關係を知るべき好資料たり。黒川本を底本とせり。

一九州下向記一卷 慶長三年、是齋重鑑が石田三成に隨從して九州に下る時の日記なり。記事簡略なれど、當時の狀況知悉せられ、其文また讀むべし。史料編纂掛本に據れり。

一本編の編纂につきては、堀田璋左右氏の勞最も多く、材料の選擇に就きては、史料編纂掛の諸氏及び赤堀又次郎氏、校訂につきては和田英松氏に負ふ所多し、茲に記して謝意を表す。

明治四十二年六月

續々群書類從第五記錄部

目 錄

三代御記	一
宇多天皇御記	一
醍醐天皇御記	一五
村上天皇御記	六二
貞信公記	一二六
九曆	一二七
平記	二四二
宇治關白高野山御參詣記	二六八
江記	二七六
平知信朝臣記	二九〇

吉田中納言爲經卿記……………二九九

後稱念院關白冬平公記……………三〇六

匡遠記……………三一七

北面假名記……………三三三

齋藤基恒日記……………三三七

東大寺法花堂要錄……………三六一

繼芥記……………四〇九

東大寺繪所日記……………四二二

惟房公記……………四二七

天正日記……………四六九

親綱卿記……………五〇五

九州下向記……………五二二

續々群書類從第五記錄部目錄終

續々群書類從第五

記錄部

三代御記上

藤原廣昵謹抄

宇多天皇御記

稱寬平御記

仁和三年

十一月

十七日丙戌、卽位、辰一刻駕御鳳輦、出東宮南行、幸八省御小安殿、二剋關白太政大臣參上、四剋出大極殿卽于帝位、又天下僧尼八十以上施物、滿位已上授一階、又天下鰥寡孤獨者等皆給物、卽送勅

宇多天皇御記

書於太政大臣云、今日之事、平安令果、歡喜無涯、先有遺託之命、況余已爲孤子、而思隨敎之命耳、如_レ此之言若有辭退、更亦不_レ住世間、小子不_レ攝世間之政、抛_二小君之號_一、逃_二隱山林_一、是所_レ念也、○扶桑略記
圖元弘二三廿六、一品被_二相語_一云、今度御卽位燒香、返々無煙、只大風吹散之由承及、卽位者、以_二燒香_一知_二吉凶之事_一也、且仁和寬平御記云、昭宣公被_レ進狀、其記云、

今日卽位、天晴、香煙直入碧霄、風閑虹旗不_レ動、地上還疑堯舜柴燎之秋、小人幸甚云々、

如_レ此被_レ載御記、○夕郎故實

同四年

正月

廿一日己未、太政大臣送_二朕書_一云、內宴陪膳、古跡以_二采女_一爲_二奉仕_一之、而先帝令_二更衣陪膳_一、令_二問_一古老采女等、自奏_レ之若無_二更衣_一、復舊用_二采女_一、○小野宮年中行事

二月

十一日、時平朝臣爲仲春春日祭使、其變近衛等之口、父太政大臣執其經盃勸彼舍人爲過也、○小野宮年中行事

五月

十五日、太政大臣進奏狀、稱可被定行雜務事、太政官奏事、右國家之事、一日萬機、而自去年八月迄于今日、未奏太政官所申之政云々、臣伏奉去年十一月廿一日詔書、萬機巨細關白於臣、幸遇无爲之世、當作少事之臣、由是上表辭謝、不敢曰「當又奉同年閏十一月廿七日勅旨、宜以阿衡之任、爲汝之任者、其於臣以阿衡之任、是增臣以素養之責也、但未知阿衡之任如關白何、以持疑久矣、伏聞、左大臣令明經博士等勘申云、阿衡之任、可無典職者、以其可無典職、知阿衡之爲貴、以臣比擬、非所克堪、抑至于无分職、知暗合臣願爲少事之臣、伏請聖口、早仰執奏之官、莫令擁滯萬機云々、○政事要略三十

六月

朔日、左大臣侍簾前、召參議文章博士橘廣和朝臣、右少辨藤原佐世、助教中原月雄、有所對論、先是太政大臣上表有辭攝政、有勅不容、其中有以何衡之任爲卿之任一句、爰世論嗽々、大閣持疑、左大臣聞之、不私勸之、輒使道々博士等勘申之、爰申云、阿衡殷三公官名、准周代不典職、然則太閤者、不可聽政者也云々、夫周代三公不典職之謂者、彼周代有六典職、所謂天官、地官、春官、夏官、秋官、冬官也、彼三公之尊、與王同職、不以一職官、故與六典之分職理政相異之謂也、非惣三公不爲政之謂也、又既云與王同職、然則王者不爲政者、從佐世議、若王者謂可惣天下之事者、三公何因不惣天下之事哉、事具周禮疏、仍去五月廿九日、召左大臣、以愛成佐世等勘文、及作勅人廣相朝臣勘文等、於左近陣頭、令辨定件兩疑、大臣言曰、彼此是非忽難理也、答曰、知書之大義者誠難、但聞彼是之辭論、相定是非、何道

于今日、召三件人於殿、述三兩人之義、聽三其言、各有道、是日暑熱、心中煩苦、仍不辨了、万機之事、无三巨細、皆擁滯、諸國諸司、愁恨万端、使三左大臣就太政大臣之第二日、如三前詔心、且行三万事也、○政事要略三

二日、早朝、左大臣還奏曰、昨暮仰三彼太政大臣、奉詔已畢後語、奏三此事、未三定三阿衡之趣者、不三能三行政、朕以爲不三可三然、先日先帝左執三愚之手、右執三相國之手、託曰、我日衰耗、不三知三、是據三何事、此人必如三卿子、爲三輔弼三耳、於三、是帝崩以後、朕謂彼大臣、今無三親可三馮、既成三孤未三覺三知政事、更屬三誰人、惣無三善惡、皆以當三知、況卿從三前代三猶攝政焉、至三朕身、親如三父子、宜三攝政三耳、答曰、謹奉三命旨、必能奉、何大臣出三如三、是異議三哉、甚爲三不便、○政事要略三十三日、先度詔書、參議廣相朝臣所作也、次二度詔書、同人所作也、而諸公卿依三不三先觸三及於己、毀三譖作者、右中辨希持三官奏三詣三太政大臣許、大臣先問曰、

先詔旨者、先關三白太政大臣、而後奏下者、後詔以三阿衡之任、爲三卿之任者、此事如何、是彼大臣逢三希、而所三言之事也、希答曰、關白奏下并阿衡之由、憶念依三同三其義、而先所三白也云々、朕聽三其言、召三希問三之、希具奏三其趣、仍召三對廣相朝臣與三佐世等、詳問三其事、佐世以爲引三阿衡者、是不三預三政事三之義也、以三此答三之、欲三定三其事、公卿等皆稱三病退出、明日左大臣進奏曰、太政大臣不三聽三事已久、速出三權謀三改三詔書三可三施行、朕聽三此言、不三肯容許、大臣固請、芒刺不三可三知、速誅三錯可三防三之未然、朕遂不三得三志、枉隨三大臣請、濁世之事如三、是、可三爲三長大息也、○政事要略三十五日、廣相朝臣奏三五條愁文、其文云、一愛成月雄勸文曰、尙書正義曰、阿衡保衡俱三公官名、非三常人之官名、盖當時特以三此官三號三伊尹三也者、即引三儀禮疏曰、三公論三道不三典職三云々、是極不安也、何者、既稱三非常人之官名、當時號三伊尹三也、然則殷國之

世、只有伊尹一人、殊受此號、何更引他三公論道之義哉、仍以此事、難問諸儒、佐世申云、除伊尹之外、無他阿衡之狀申了、二儀禮、是周事也、以周事證殷事、亦所不安、仍以此事難問諸儒、佐世勘申云、晉書職官志、伊尹曰、三公調陰陽、九卿通寒暑、以此論之、殷周一同云々、廣相伏思之、甚不安、何者、調陰陽通寒暑、非指三公无職、九卿、之謂也、只引殷時有三公九卿之名之證也、而以此文證殷周同三公无職掌、未分明也、按、殷官二百、周官三百、大略惣有此異、何必一同、三公无職是周世也、至後代、則、三公之職无所不統、而今諸儒申三公无職、極不安、三佐世申云、所申只阿衡之任也、未被問古今三公之職、故不指申後代之事、是亦不安、何者、欲稱无職、則引晉書志、至有職之文、則申非被問之事、極不安、四佐世申、後代稱阿衡者不定、或謂爲丞相者、或謂爲

大司馬者、或謂錄尙書事者、或謂攝政、然則、後代之事不定、不足爲信、惣可據經家之義云々、是亦不安、何者、稱阿衡者、非謂爲丞相大司馬等職也、指下謂執朝政者耳、故其官不定、楊駿以大尉錄尙書事、會稽王是、晉穆帝時、以撫軍錄尙書事、摠萬機、哀帝時、以司徒統内外務、海西帝時、以丞相錄尙書事、是晉詔所謂三世阿衡者也、成都王穎、以大將軍錄尙書事、執朝政、齊王冏、以大司馬輔政、件等諸公、以執朝政、謂之阿衡、是一同也、何以其官異、而稱阿衡之名不定哉、至廿八將論是文藝、欲論灌嬰非其人、居其官、故推崇丞相、謂之阿衡耳、非嬰身生被稱阿衡也、嬰死後五百餘年、范曄所作之文也、不可爲此事之證、五佐世申云、勅答若稱伊尹之任、則可謂有典職、今稱阿衡之任、則可謂无典職云々、是最不安、何者、史記曰、伊尹名阿衡、又除伊尹外無他阿衡之狀申畢、而

以伊尹阿衡爲別、最以不安也、爲恐判書、不省、○政事要略三十

九月

十日、朕之博士是鴻儒也、當以_二太政大臣_一令攝政上之詔書、令_二此人作_レ之、其詔文華雖遺麗、而徒有_二阿衡之句_一、是則群邪所託意、於是公卿以下枉稱有罪之人、于_レ時在_二六月晦日_一、有_二大穢之事_一、其日无_二公卿一人_一、外記等至_二太政大臣家_一請_二處分_一、即仰云、當告_二廣相朝臣_一、外記告_二廣相朝臣_一、答云、奏聞龍顏、仰云、莫罷行云々、天下噉々自此始也、但其實否所_レ不知矣、○政事要略三十

十七日、朕博士之事、命送_二太政大臣_一、其辭曰、先日太政大臣參入時、以_二具事_一示_二時平朝臣_一、厥後世間噉々萬端、況乎復朝政壅滯、天下愁苦、以_二是等事_一問_二左大臣_一、即答曰、此事如_レ是、諸務猥集、一日希曰、爲_レ陳_二官事_一、罷_二向大臣家_一、昨日以前、設_二官史座_一、今日无也、仍令_二人每事通陳_一、返答曰、阿

衡之趣、當案以否哉、何以來邪、希答曰、无_レ案、開口徒還云々、厥後、召_二明經博士愛成_一、助教月雄、

左少辨佐世等、與_二廣相朝臣_一相對、使_二各詳指_二其正條_一、愛成等奏曰、阿衡者三公官名、无_レ所_二執當_一、但三公之事、件人等所_レ引言違謬、吾博士所_レ指明、左大臣曰、彼是有_レ所_レ執不_レ伏、須_二罷退陣頭_一、辨中間之上耳、俄而還奏曰、无智而兩論難_レ辨、嘩喧不_レ斷、吾又共問_レ之、博士所_レ問如_レ故、佐世所_レ答又如_レ先、問答猶未_二悉詳_一、朕內心鬱憤、頃_レ之、左右云、噉々轉起、爰未_レ定_二其事_一耳、如_レ此之旨示_二送太政大臣_一、○政事要略三十

十月

十九日、辰刻、我國者神國也、因每朝敬_二拜四方_一大中小天神地祇、敬拜之事始_レ自_レ今、後一日無_レ怠云、○江家次第抄(圖)年中行事秘抄

廿七日、朕博士、月來蒙_二冤屈_一、隱居不_レ仕、朕傷_レ之日深、仍今賜_二書於太政大臣_一、述_二朕本懷_一、其報奏曰、

御書具奉云々、又廣相朝臣事、先日奉了、而重賜仰示矣、其經從始无何意、然前詔者、有可關白大少事之恩命、後詔者、以阿衡之任爲卿任者也、微臣疑先後之詔其趣不同、暫不視官奏、敬慎之懷、更无他腸、而去六月有不善之宣命、可謂當時之一失、謹奏、酉二刻、勅遣使召博士廣相朝臣、即使參入、召於龍顏、勅曰、依不善事、又以隱居、中心悼念、然而事遂歸理、早就本職、勤仕官事、卽下階再拜、○政事要略三十

十一月

圖九日、以溫子爲女御云々、○日本紀略 廿七日、御

禊、○日本紀略

月日不明

圖太政大臣奏云、昭訓門移御腰輿、自是微行至神

殿云々、○北山抄大嘗祭事

寬平元年

正月

朕自爲兒童、不食生鮮者、歸依三寶、八九歲之間、登天台山修行爲事、爾後每年往詣寺々修行、至十七歲、言中宮可爲沙門狀、答曰、此極善也、大原寺有練行法師摩修者、爲彼法師、裁縫細紵裝束並袈裟、先可以與耳之、後日又答云、善哉善哉、好三寶事、雖然、暫見盡世間、須修此事、經三四月、復如是事、未有一妻子可也、若住千世間、斷煩惱是難耳、答曰諾、然敢不肯許、後四個月、大臣持鳳輦、奉迎先帝、愚心偷以悚戰、未及復奏、歷四十年、傳此寶位、而代口人心有兩端、可治難周文賢哲主也、○扶桑略記

圖十八日、太政大臣奏云々、昔臣父有三名劍、世傳壺斬、但有二名、田邑天皇喚件劍、資陰陽師、卽爲厭法埋土、于時帝崩、陰陽師逃亡、是見鬼者也、而不知劍所在、彼陰陽師居神泉苑、爰推量其所、掘覓得此劍、拔所著劍、令覽者是也、

光彩電耀、目驚霜刃、還納室、件事仰別當給
子云々、○西宮記東宮行啓、扶桑略記、

二月

閏六日、朕閑時、述猫消息、曰、驪猫一隻、太宰少貳源精、秩滿來朝所獻於先帝、愛其毛色之不類云々、皆淺黑色也、此獨深黑如墨、爲其形容惡似韓盧、韓盧、韓盧也長尺有五寸、高六寸許、其屈也、小如拒粒、其伸也、長如張弓、眼晶晶熒、如針毫之亂、眩鋒直豎如起上之不搖、其伏臥時、團圓不見足尾、宛如堀中之玄壁、其行步時、寂寥不聞音聲、恰如雲上黑龍、性好道行暗台五禽、常低頭尾著地、而聳背脊高二尺許、毛色恍澤盖由是乎、亦能捕夜鼠、挺於他猫、先帝愛翫數日之後、賜之于朕、朕撫養五年于今、每旦給之以乳粥、豈啻取材能翹挺、因先帝所賜、雖微物、殊有情於懷育耳、仍曰、汝含陰陽之氣、備支竅之形、心有寧知我乎、猫乃歎息、舉首仰睨吾顏、似

咽心盈臆、口不能言、○河海抄若菜上

三月

廿四日乙卯、依有踏歌後宴之事、出御射場、獻菓子魚鳥類、召式部卿親王、基經太政大臣、融左大臣、能有右大將源朝臣、按察源朝臣、左兵衛衛光朝臣、右衛門督諸葛朝臣、前美乃守貞恒朝臣、右兵衛督是真朝臣、右近少將敏行等、陪斯宴遊、合イ殿上侍臣等、皆次第更射、而後分配前後射孔方、募御衣一襲絹二裏、而太政大臣室王孫、人康親王女書イ又以任韓書本口卷女衣裳一襲爲賭、只書本爲朕賭、朕即中所期之、真イ員得書本、朕所募之物光朝臣射得、太政大臣室之物無敢得者、于時彼室、就事每在尙侍曹司、○小野宮年中行事

四月

十四日乙亥、朕之外祖母當宗氏神在河內國、自今年可祭始之狀仰畢、○小野宮年中行事、抄、師光年中行事、世俗淺深秘抄、十九日庚辰、後方賽其所負、前方念人民部卿

親王、太政大臣、後方念人朕、左大臣、而始小童子等進舞、十數觴後興酣感深、公卿等更起呼舞、天下倚賴者太政大臣、仍喚^{仁明}三饗之、朕者不^レ然、是故同呼

氣、昔深草^{仁明}聖帝內宴之日起舞、又歌吹^レ笛、今日朕起舞者、蓋其比也云々、小舍人源敏相舞骨可^レ稱、

仍賜^三之祿、又太政大臣息忠平、齡始十歲、爲^三納會利舞、騰躍迅逸、節不^三錯違、又賜^レ祿云々、

○小野宮年中行事

廿四日乙酉、辰四刻、鴨祭使左近少將友于參入、

便令^三歌舞云々、然近衛府所^三歌舞、極以冷淡、仍

喚^三殿上人等、更歌舞、酷之至多過^三他日、即賜^三件

人等祿、各有^レ差、○小野宮年中行事

五月

二十八日戊午、石清水八幡宮殿自然震動、令^三神

祇官陰陽寮占筮、言可^レ慎^三大病、朕雖^三誠愚、而非

^レ法^レ不^レ行、非^レ道^レ不^レ言、假令犯^三小罪、而不^三必及^三

大過、而有^三咎害、奉^レ憑^三國內神祇、于^レ今無^レ怠、況

乎元來歸^三依^三寶、莫^レ不^三旦夕敬拜、而^レ異頻發、

可^レ有^三死徵、唯願天地神祇、并^三寶冥助、令^レ保^三身命、○扶桑略記

八月

十日己巳、大臣參內談說之次云、陽成院之人厄

滿^三世間、動致^三陵轢、天下愁苦、諸人嗷々、若有^三

濫行之徒、只號^三彼院人、惡君之極、今而見^レ之云

云、又相撲事、從^三柏原天皇御代^三至今、代々天皇

皆盡好^レ之、貞觀以後寂然無^レ音、今聖主不^レ捨^レ之、

亦不^レ樂乎、朕本自筋力微弱、而無^三可^レ敵者、今亂

國之主、而莫^レ不^三日致^三愚慮、每^レ念^三萬機、寢膳不

^レ安、爾來玉莖不^レ發、只如^三老人、依^三精神疲極、

常有^三此事也、左相丞答云、有^三露蜂者、命^三宗繼^三

○扶桑略記

九月

四日癸巳、先帝舊御願未^レ畢已仙化、今朕一向

故修^レ之、每事愍儲、豈惜^三小物乎、種々所具莫

^レ不^三周備、只八講之間、無^レ僧供料、中宮與^三諸公

子、其定其事、去月陽成公母后不豫、而今或藏人等言曰、娠善祐之兒臨其期、非有他事、每聞此事、悶慟無限、○顯文集

十五日甲辰、依御夢、有被行御八講之事、○花鳥餘情

聞可有御法事、議定、太政大臣被奏云、眞言經者、華山惟首、最圓、安然、此皆眞言阿闍梨也、又比叡元譽好於眞言、並有口辯、玄虛心念丁寧也、師講惟首、讀師玄虛、呪願律師、答喟最圓、散華勝延、三禮元譽、堂達安然、安然法師其才高、又受大法者也、而堂達職掌若不悞耶、然七人之中、生年廿、又夏曆下也、仍所定申耳、又大般若御讀經、貞觀之代一年四度、春夏秋冬仁和之時、惣無定例、今秋永可修之、仰尊重感悅、若有灌頂之事、除律師、他人下薦者、爲不可也、基經田村之代受之圓珍和尚、○扶桑略記
已上太政大臣詞、

爾廿四日癸丑、先帝御願入講、今日始修、佛器僧

供法眼等、惣朕之所營造也、諸公子只加獻捧物、并有加小供養、先帝遷化後、諸公子戮力當果行之、而任意遊遨不勤此事、可謂不忠不孝之甚者也、○顯文集、花鳥餘情

爾廿六日乙卯、彼八講、今日已當五卷之講、令先帝近侍者、荷薪搬水持菜之役、其捧物者、袈衣袈綿布、并袈裟百餘條云々、○顯文集

十月

朔日己未、未四刻御南殿、就帳內椅子、公卿等列座如例云々、大臣云、一日安然法師云、近來在雲林院人云、蟲蠢々、爰出看之、其虫所竟、東至園池司、西至絹笠岡、北至紫野、即羽蟻也、不知所由、朕答曰、極不善之事也、先帝欲崩之時、有如此之怪、今此事爲朕所示也、即位之間、有乾角山中、黃龍騰天、太宰少貳清原令望爲堰大井灘使見之、從五位下橘有棟參梅宮之次見之、丹波博士丹波有冬在彼國見之、伴三人慥見

之、往々見多也、○扶桑略記

廿四日壬午、從一口雨少降、未登祚之時、鴨明神託人曰、自餘之神、一年得二度之祭、只予一度而已、其自弘仁始得齋女并百官供奉、不敢所怨、只極寂寞、然秋時欲得此幣帛、是所以囑汝也、掌侍答云、奉幣之事不難也、但君御德不堪其勢云々、仍去年調備馬十疋令馳、又習東舞、而選衛府官人之中堪歌曲者爲陪從、內藏寮儲幣帛、依穢止、令藤原滋實與宮主於彼邊祓祈、以昨日暮同母妹卒、悲傷甚深、○大鏡裏書

十一月

廿一日己酉、辰二刻、走馬并舞人等奉向鴨社、以時平朝臣爲使、爰時平朝臣、於寢殿異隅設御座、預掃部寮立高机於御座東方、是幣案也、內藏寮進捧幣三裏、置案上、松尾鴨社上下料也、內藏寮置解除物於御座前、而令宮主豐宗言曰、近衛聞有死人穢、雖殊潔齋、而下人等若有觸犯者、

哉、今慎令祓申、而令時平朝臣捧幣、念願曰、朕微下時、託宣曰、他神明、皆一年得二度祭、我只一度而已、汝秋時常奉幣帛、答曰、身賤不任此事、又答宣曰、必當有可任此事之由、然則、明神託宣徵驗如此、即位之年、是諒闇也、次年卒然有穢不能果行、今年僅得奉供、所願已足也、先拜松尾、次第拜之、心存彼託宣、但件處隘阨、仍進男方、令牽走馬十匹、次賜所騎鵠毛馬十匹、并衣袴各一襲於舞人、令內藏寮、穀倉院、并後院、儲辦所々酒饌、子三刻、時平朝臣還參曰、宇豆廣御幣、平安奉畢、人々皆被酒、而言曰、觀者如堵牆、車馬不能廻入之、後院辨備最一、賜別當善祿云々、○大鏡裏書

十二月

六日癸亥、作物所預宮興害大言、左近陣有大虹、見之須臾消亡、人亦見虹飲、內兵庫安福殿、即是也、同時見之、計一虹光彩所映見兩所也、○扶桑略記按是

非御記之文、映字一本誤作
除、是蓋抄者所爲誤

同二年

正月

基經

廿日丁未、大臣奏云、華山僧正昨夜入滅、此僧正

光孝

殊事、先帝、又殊仕、當代云々、有賜勅使之例、遣

少納言若殿上侍臣等弔弟子、或有給物等之迹、

圓仁座主時、以良峯繼世爲勅使、狀具承矣、

扶○

桑略
記

廿一日戊申、詔遣少納言從五位下令扶於元慶寺、

弔故僧正遍昭遺室、并捨綿三百屯、調布百五十

端、令修諷誦、○扶桑
略記

基經

廿八日、又就議筵、問太政大臣曰、參議所掌其

職如何、大臣答云、爲政大夫、然則諸國長官有

下聽

其行者、具以奏之、○小野宮
年中行事

二月

基經

十三日己巳、大臣參入言曰、可加小童仲平元服、

即簾前立倚子就之、大臣祇候、爰使散位定國先

結髮、次朕著冠、此時左大臣融朝臣參入、太政大

基經

臣并仲平、相具舞踏、賜仲平白褂一領、朕即手造

位記曰、无位藤原仲平、今可正五位下、先帝御宇

之日、兄時平加元服、皆率其流也、即儲座於雅

溫子

院、爲會飲之處、雅院者是息所之曹也、太政大臣會

語曰、白壁天皇時、將立皇太子、其議未定、大

光仁

臣眞吉備并諸公卿、議立他帝之子、宣命之書奏了、

桓武

爰藤原百川破其書、立柏原親王爲皇太子、大臣

歎曰、我年耄、視恥如此、柏原天皇緣百川之功、

光孝

親臨加子緒嗣元服、即資劔曰、先帝所奏劔、今與

汝、而拜內舍人、封戶百戶、先帝之賞時平、恩

○之イ

踰海岳、慈同覆燾、朕曰、先帝常言、我今長大潛

藩底、因太政大臣之扶持、幸得登此皇極、枯木

更榮、是誰德乎、又朕有兩兄、雖有先帝之顧託、

是思是眞

自非大臣之濟導、朕寶位何至今日乎、○扶桑
略記

卅日丙戌、仰善曰、正月十五日七種粥、三月三日

桃花餅、五月五日五色粽、七月七日索麴、十月初亥

餅等、俗間行來以爲歲事、自今以後、每色辨調、
宜供奉之、于時善爲後院別當、故有此仰、○年中行事、事秘抄、御師

三月

二日、依御燈事、諸司廢務、○太政大臣參入、終日
有宴飲事、于時有詩興、其題三月三日、於雅院、
賜侍臣曲水飲、被召文人前讀岐守菅原朝臣、北
野典藥頭島田忠臣等、殿上藏人堪文之者、和交其
中、○年中行事抄

四月

八日癸亥、親王公卿等參上、灌沐、以勝延爲導師、
先日仰梵釋寺僧神惠、雕造白檀四天王像、今日
參入奏之、即令侍灌佛之座、朕童稚之時、令
參件寺已及十餘度、爰神惠辨備食膳、勞息旅
飢、爲養其功、爲大威儀師、以勝延爲律師、

○扶桑略記

廿四日、去月下旬、遣藏人橘公緒、勞問大學博士

善淵愛成、所以有此勞問者、今年不參入也、
向山寺不居家、其後重問、曰、自向來間累病痼、
旦夕沈吟、于今未止、朕親行至門前、可訊問之、
然而躬不能輕行、是以、只遣使者甚思悼耳、給
以內藏寮調布卅段、昨日差藏人所雜色至門存
慰、還奏曰、雖病平損、而不能行步、熱滯之由、
尤緣斯也、愛成授周易於朕、故有此意、○明抄

五月

六日、左右十列、漸以行上、分後院御馬二匹、賜
左右馬寮、競馳之間、或番左近衛墮馬、馬獨走勝
右馬三丈、左右請處分、勅答云、左馬可謂勝
也、何以言之、今日競馬不敢競人、抑群臣可議
奏云々、○本康式部卿親王曰、人墮馬走、猶爲負、太政
大臣曰、騎人墮者、馬不必走、故爲負耳、左大臣
曰、人已墮者可爲負、是古昔之言也、仰諸司
檢申勝負、而古人之迹如朕所言、○小野宮年中行事

七月

十三日、正衣端笏而向西郊、再拜稽首、聞天子迎氣候而出郊殿、仍向其方恭拜也、今日立秋七月節、故有此拜、朕雖不當其位、而躬居萬機、城致恭敬也、○小野宮年中行事

廿九日、今日引見昨日相撲人、又拔頗有疑者、令相撲、陣直近衛相撲如例、納言已上無有、一人、唯式部卿親王并參議等、陪從太政大臣、令謝奏不參之由、○小野宮年中行事

十二月

廿六日丁未、太政大臣請天台座主圓珍、令修法也、及今朝還向本寺、爰朕請引彼法師、奏曰、天台前阿闍梨所寫一切經、未校正也、於是大比叡小比叡明神等、現可校之事、已及數度、又圓珍所給十禪師供養料甚多、所成之功尤少、須轉讀此經、奉祈聖主、復前太政大臣於彼山、令寫一切經、開元錄所有四千餘卷、雖求書之、頗尚不足、昔日圓珍唐來之日、楊州人相隨來著此土、厥後還土、

國人往送筆、圓珍尋量其由、有所懷、今我國所書經二千卷也、開元貞元等目錄所來四千餘卷也、

三卷

爰爲求加其卷數、差從僧、令向彼天台、即便書三件經、可送之狀、囑送彼楊州人所、彼人信

其言、送五十卷、歡喜贈沙金、以答其意、頗有

如是之類、可寫足其卷數、圓珍身病殊重、不便

起居、下出山脚、問求醫家云々、朕聞歡喜信受、

爰朕極頭鈍、不得萬人之心、而從昔日歸依佛

陀婆梨、必清念願、○扶桑略記

關平利世者、皇王二世之孫、皇后之弟也、聲長蟬聲初

口秋虫之唱、乘間視聽曲調、宛如松風之動、曉後爰

守閑暇、所々令歌乞、得青鳥數千行并綾羅衣裳、

○花鳥餘情冊火

同三年

二月

十五日乙未、三宮御給、親王公卿給者、皆得

叶其望者、內給可問之歟、○角魯思別錄三

同四年

八月

翻一日壬申、御南殿、近衛中少將一人不候、午

刻僅奏^{勝脫力}二名籍、先是使左右相撲人拏擧、十七番、

左近衛右者十一人、右近勝左者二人、勝負未果

二人、此度左近勝者多、不可有其情、朕只任理

斷判、承和大臣良房朝臣伺得天氣、論定勝負、諺

曰、左方爲帝王方、貞觀以前尤有此事、元慶以來

只伺正理、○北山抄裏書
所引帥入道抄

翻十四日、巳四刻奉幣諸社、松尾、使左中辨
菅原朝臣、鴨上

下、式部大輔
平惟範、平野、源希、右中
辨昇、午刻進發太神宮、行方
王、

仍諸司廢務、先例幣太神之時、大臣行事、而今

日稱障不參、仍召大納言、而遲參之間、召左右大

辨藤原有穗朝臣令行事、○西宮記臨時
第十二裏書

同六年

九月

翻廿三日、奉山陵臨時幣、停尋常政、依新羅凶

賊來侵也云々、納言以上有障不參、仍使參議參

入行事、○西宮記臨時
第十二裏書

同九年

六月

翻十九日、尙侍藤原朝臣、於朕有養母之勤、仍每

年別給^{江次第抄}祿一人、以爲永例云々、○西宮抄
江次第抄

年月日未詳

翻寬平御記、社々多御祈禱之由有所見、○禁秘御
抄每日恒

例次第

三代御記中

藤原廣昵謹抄

醍醐天皇御記

稱延喜御記

寛平九年

九月

補一日癸酉、是日太政官奏、可有日蝕、而不日蝕、因

律師聖寶御修法終罷歸山、召給袈裟一條、○扶桑略記、醍醐寺雜事記、

昌泰元年

四月

補一日、遣仰右大將菅原朝臣、國口久不雨、召陰

陽神祇等令卜、

○智證大師記所載御記抄

補廿三日、有任官事、是日議畢、使菅原朝臣奉

遣朱雀院大間書、則還來後賜二省、○西宮抄

五月

補三日、今日自未刻到子刻雨、

○智證大師記所載御記抄

補四日壬申、是日因畢、使僧綱智行僧等大名神

社、令金剛般若經、

○智證大師記所載御記抄○恐有脫誤

補八日丙子、因神祇官口口月一日御卜、奉幣賀茂

上下及石清水、又因畢、入夜雷雨降、曉止、

○智證大師記所載御記抄

補十三日辛巳、是日有伊勢御幣使、因小差十世、自

晝雨降、入夜不休、

○智證大師記所載御記抄

補十四日、自昨日降雨不休、入夜乃雨、

○智證大師記所載御記抄

補十五日癸未、是日因奉幣伊勢宮、御幣欲出八

省、因密雨不御、御幣自諸司奉遣之、

○智證大師記所載御記抄

御記抄

補十六日、雨降、

○智證大師記所載御記抄

補十七日乙酉、左大將藤原朝臣奏、依不雨、令

僧綱等、令_三八幡、賀茂、稻荷、松尾、春日、住吉等
名神所爲_三讀經卷數、依不_カ不_レ依_レ雨興福寺讀經卷數、○智大

師記所載
御記抄

延喜元年

四月

補廿一日、右馬寮有_三牛死穢、仍仰_レ國御馬可_レ送_三
齋院_一由_上云々、右馬頭連直觸_レ穢之代、以_三右近權少
將佐方_一假充_三彼使、以_三事之起倉卒、賜_三御衣一襲、
中刻雷雨、差_三藏人俊蔭、問_三齋王途中安否_二云々、西○

宮記賀
茂榮

七月

補十日、宇佐御幣使清貫奏_三復命、又云、候_三帥菅原
朝臣氣色及府使等、大使葛絃_{野篁息道}如_三京下傳言、
其事甚不便也、令_レ候_三其氣色、殊無_レ爲_レ帥、又諸人

野篁息道
風父也

云、如此、但帥見_三氣色、殊示_三窮體、前日言意既
似_三埋伏、其詞云、無_レ所_三自謀、但不_レ能_レ免_三善朝臣
誘引、又仁和寺御言數有_レ奉_三永和故事_二耳云々、○伏桑
略記

十一月

補十六日、左大臣奏、式部卿親王薨、○河
澤抄

同二年

正月

補八日、梵唄後發樂者奏云、年々日記如_レ此注、然而
依_三式文_一先年改正、上諾_三兩國舞_一各一曲、了發_三
唄音、次諸僧出_三殿西戶、經_三西北東砌、入_レ自_三京戶_一
行道、是依_レ在_三御座北廂_一也、還時御輿間、又不_三警
蹕、事旨如_レ初云々、○西宮記
御齋會

補廿日、左大臣菅根朝臣奏、先朝雖_三御優寤、至_レ有_三
內宴、多用_三仁壽殿_一、此度內宴可_三仁壽殿行_二云々、

○河海
抄柳卷

三月

二日、內藏寮請_レ被_レ定_レ可_レ奉_三御燈寺、依_レ不_レ慥_三舊
例、召_三右大將_一問_レ之、奏曰、貞觀以來於_三靈巖寺_一
宇多被_レ奉、寬平初用_三月林寺、後用_三圓城寺_一、故因_三舊例、

於_三靈巖寺_一可_レ奉狀仰了、○西宮抄、年中行事略抄、
師光年中行事、江次第抄、

三日、云々、御禊拜之三度、○西宮抄、年中行事、江次第抄、

廿日、此日左大臣飛香舍藤花下有獻物事、執獻物時平

僧、菅根獻可爲御息所宣旨別當也、而後列坐藤穩子

花下、盃酒數巡後、左大臣殊仰右大將、令獻題定國

目、飛香舍藤花和歌、則左大臣置御硯匣奉手跡仁明

匣、暫獻橫笛和琴、其橫笛箱是承和舊物耳、酒盃

間、舉群臣酌酹、管絃歌舞、訖召敦固親王、備前

介忠房令吹笛、暫給祿、群臣有差、○河津抄

有殿上賭射之由見御記○河津抄

五月

五日、辰三刻、御武德殿、儀式如常、但給藥玉、內侍四人、藏人十三人、不足四人者再出給云々、○西宮記裏書

六月

十日、因有旱氣、南殿願祈諸神、○智證大師記所載御記抄

七月

廿一日、申一刻、御仁壽殿、覽左相撲、左大臣時平、左衛門督有實、左兵衛督友于朝臣等、陪於御

前云々、右相撲、右衛門督源朝臣貞恒、右近中將仲平

朝臣、非參議等候云々、還本殿、○西宮記相撲

廿九日、御南殿覽相撲、訖追相撲、其後左右

奏樂、戌一刻還殿、王卿賜酒祿云々、○西宮記相撲

十月

八日、齋院使公節陳煩病由、兼可遷宮否云

云、差藏人公利勞問之、○西宮記臨時五

九日、仰左大臣、令定王移他齋家事、入夜

公節來云、親王甚無氣力云々、此夜罷出、○西宮記臨時五

十一日、左大臣奏齋院君子內親王、以九日夜

薨狀云々、○西宮記臨時五

十一月

三日、齋王薨狀可奉告賀茂一狀、仰右大臣令

勘例之、○西宮記臨時五

五日、右大臣奏賀茂宣命、○西宮記臨時五

月日不詳

雖飛驒奏事輕者給官符、見延喜二年御記、○山抄

同三年

正月

三日、此日奉^{宇多}謁^仁和寺、例三日供^鳳輦、而慈花輦、失例也、^{○小野宮年中行事}

十四日、歌頭給^禪、舞人給^禪、召人藏人所人等給^禪禪子云々、^{○河海抄}

十八日、賭弓訖、右大臣向^{時平}其第、而左近官人以下、以^其賭弓^勝、率至^其第、^{○河海抄}

二十日、左大臣令^{菅根}朝臣奏、先朝雖^{宇多}御^仙宮、至^有內宴、多用^仁壽殿、此度內宴可^仁壽殿行云々、^{○河海抄}

廿二日、從五位上源封子、无位源周子、藤原淑姬等聽^{禁色}、^{周子今日陪膳也}大臣立^行酒、左大臣、大納言國

經朝臣、或唱歌、他公卿等多不^能唱歌、依^大大臣請、御臺盤東邊五尺許讀^詩、^{○北山抄內宴、撰集秘記}

二月

一日、召^王卿給^酒、^{本殿}奏^絲竹、左大臣仰^中

納言湛朝臣、合^獻壽言、召^公卿遞^供御酒、又以^恩盃給^式部卿親王、^{舞次給禪祿有差、宮記}

六月

十日、使^清貫問^左大臣、御^中院時方閑例、大臣曰、前代不^忌天^一太^白、貞觀以來有^此事、以後御^中院方閑例未^詳、只仁和法皇御時、因^方閑、忿通^曉神饌、以避忘、見^此例供^神饌時刻具存^事式、而早速云々、此度雖^不御、有^何憚云々、

^{○西宮記裏書、北山抄}

同四年

正月

七日、御^南殿、內辨參上、自餘儀如^例、年來奉^卯杖仁和寺、而去年有^不可^奉仰、仍不^奉仁和寺卯杖、^{○西宮記卯杖條裏書}

二月

十日、召^左大臣、仰^立太子宣命旨、午一尅御^{紫宸殿}、^{諸司懸御簾例}、即^大床子、堂侍守子出召^大臣、^{大左}

臣立_二近廊_一候_レ召_レ之、内裏式无_レ召、内

辨因_レ陣日記_レ之、可_レ言_二不式例_一、

帳及臺盤二基銀器一狀、且令_レ賜_二太嘗時悠紀所_一進

近衛開_レ門、次中務置_二宣命位_一、次諸大夫參入、

辨内

不_レ召_二大_一列定、大臣召_二中納言有穗朝臣_一、乃稱唯、

自_レ列昇受_二宣命文_一、下立_二東近廊_一、則大臣下_レ即_レ列

立、宣命者進_二即版_一、而宣制曰、詞在_二宣宣了群臣再

拜_二其間宣命者復_二本列_一、而退出、近衛閉_二開門_一、退還寢召_二左近少

將忠相、右近少將好蔭、仰_下率_二宮人近衛_一可_レ侍_二東

宮_一狀、左大臣仰_レ之、皇太子坐_二左大召_二左大臣_一、定_二坊官等_一、

又召_二右大臣_一預_レ之、以_二右大臣_一兼_二東宮傳_一、右大將

藤原朝臣春宮大夫、菅根兼_レ亮、枝良兼_二大進_一、以_二太

宰監藤原良忠、刑部丞藤原忠門_一爲_二少進_一、右大臣取_二

除書奏_二次語曰、襁褓未_レ宜_二受_二傳道_一之力_一、而自今有

_レ之最所_レ悅也、大臣正_レ笏揖而退、大將藤原朝臣奏、

左大臣時平朝臣奏曰、貞觀故事有_二御劔_一、以_二山陰朝

臣_一爲_レ使云々、吾又始爲_二太子_一初日、帝賜_二朕御劔_一、

名號_二壺切_一、左近少將定方爲_レ使、持_二壺切劔_一賜_二皇

太子_一、定方賜_二祿料一襲_一、菅根朝臣奏曰_二東宮無_二御

臺盤二基銀器一具_一、後日仰_二作物所_一新造、○扶桑略、
記西宮抄、

十三日、召_二左右大臣_一、右大將藤原朝臣、定_二藏人殿

上陣頭侍臣等_一、錄在_二別紙_一、○西宮抄、以_二藤原俊房_一、遠規、

望見、源靜_二爲_二藏人_一、自餘殿上陣頭侍者等錄在_二別

紙_一、○扶桑略記
西宮抄

十七日、遣_二使柏原_一、後田村兩陵、告_二立皇太子由_一、

○西宮抄此夜皇太子自_二左大臣東一條第_一遷座、○扶桑略記
西宮抄

三月

廿四日、樂所仲平朝臣以下、率_二樂工_一立_二瀧口木蘭

樹下_一、奏_二亂聲_一、左大臣_一侍_レ之、初奏舞_二陵王_一、舞

畢、定國朝大臣下_レ殿著_二樂人座_一、更引_二上殿_一、其後

奏_二納蘇利_一、有穗朝臣大臣請、此兩童宜_レ被_レ聽_二昇殿_一、

依_レ請、大臣即仰_二兩人_一、令_二拜_二舞殿庭_一云々、了侍

臣給_レ祿云々、左大臣同舞_二庭中_一、更仰令_レ推_二太鼓

階前_一、大臣打_レ之、自餘王卿下侍_二庭中_一云々、畢大

臣納言等互鼓舞遊樂、參議已上給_レ祿有_レ差、是日

御ニ坐椅子、大臣奏曰、終日事者、前用ニ大床子、○西宮記
臨時樂

圖廿六日、法皇因ニ仁和寺圓堂新成、請ニ百口僧、

差ニ藏人頭仲平朝臣、令ノ奉ニ舞童樂工等、又仰ニ內藏

穀倉院、各令ノ供ニ五十口僧、又給ニ百僧度者各一人、

○西宮記
臨時樂

圖廿七日、備中介公利參入、召ニ階下ニ給ニ御衣一襲、

舊衣、○西宮
記受領赴任

閏三月

圖廿三日、左大臣奏ニ官奏ニ云々、下ノ殿後、令ニ菅根

朝臣奏除目直物、須ニ大臣手奏、而渴病不堪、數起

居、故殊給ニ氣色、令ニ參議菅根朝臣奏之、○西宮抄除目

廿八日、使ニ左衛門督藤原朝臣、與ニ坊司共於ニ左近

射場、令ノ試下可ノ補ニ帶刀一人步射、大臣及坊司等定令ニ

三度射、依ノ請、大底在ニ勅使契、○西宮抄

四月

三日、使ニ左衛門督藤原朝臣、於ニ右近馬場、試下可

補ニ帶刀者騎射、○西宮抄

四日、左大臣參入、選ニ定東宮帶刀舍人、右大將藤

原朝臣預ノ之云々、以ニ六日可ノ給ニ兵仗ニ云々、○西宮抄

圖七日、此日自朝迅雷密雨、左大臣兼大將時平、右

大將定國參上、列陣如ノ例、又召ニ左右兵衛督佐等侍

之、兵衛上ノ殿、差ニ左少將元方、奉ノ入ニ仁和寺、

及ニ未刻終イ頗止、左右解陣、取ニ諸陣見參、暫雷電又甚、

近衛列立、差ニ左少將忠相、左右近衛各十人、奉ノ入ニ

仁和寺、及ニ酉刻、左大臣行ニ解陣事ニ云々、○西宮記
雷鳴陣

八日、太子自志貴院遷ニ東宮ニ云々、○西宮抄

十日、召見ニ東宮帶刀兵仗、入ノ自瀧口、跪ニ東庭、

各稱ニ姓名退出、以前三日因ニ東宮新移、仰ニ內藏穀

倉院等、每夜令ノ給ニ酒食等也、○西宮抄

十五日、依ノ有ニ齋王月事、會祭停止、是依ニ神祇官

定中、准ニ齋宮例、祓ニ謝事由ニ停ノ祭云々、○西宮記

八月

十日、右大臣奏光ニ東宮廐口、仰云、依ノ例給ニ左右馬

寮御馬、時不左大臣定曰、且可給各二疋一歟、依請、

○四
宮抄

十一月

一日

圖依平野祭不出御之由、見延喜四年四月旬日

御記、○鑑
戒記

廿三日、賀茂臨時祭試樂如常、但因雨雪深著深

履、○西宮
記裏書

十二月

圖十九日、此日使左衛門督藤原朝臣、令祭雷公

北野、此祭本意訪左大臣、曰、此故太政大臣昭宣公、

元慶中爲三年穀、祈雷公有感應、因每年秋祭之、

仁和中不祭、寬平初年頻不登、彼時奏元慶祭雷

公故事、太上法皇因之、臨時令諸司祭、自爾以

來、祭之不絕、今因之爲豐年可祭、又不可下

以季冬祭之、此度事俄爾、故因年來之例、○西宮
記臨時

十二
裏書

同五年

正月

圖一日、是日有定、止小朝拜、仰曰、覽書史書、

王者無私、此事是私禮也云々、○西宮記
小朝拜

三日、行幸仁和寺、召左大臣、仰云、參御寺時、輦

入寺門內事、是不便也、此度必可留門外、未三

刻御輦、近衛中將已下皆著褐獵衣當色接腰、如

臨時野行幸、出自殷富門、直行至仁和寺西門、

留輦門外、諸衛及侍臣等皆膝地、左大臣侍門下、

時菅根朝臣出候門下、告左大臣曰、法皇仰曰、

入御輕幄間、寺門內可用腰輿、朕曰、此最不可

如此、則下輦步行、所司鋪筵道、自門至幄、

右近中將仲平朝臣、左近少將定方持御劔璽、左大

臣并右大將藤原朝臣從之、朕把笏著靴、步自

筵道入東寢門、持御劔等留在二戶外至御室上南廂、拜舞

訖退出、左大臣奉仰旨曰、可入、則進即御前座

云々、法皇御座鋪一一枚、上加菅圓座、予座當母

屋等一間南頭、鋪錦端疊二枚、疊上加菅圓座、此御室所設、拜談既訖、退出還即輕帳、御厨子所供酒肴、事畢還宮、○扶桑略記參御寺、近衛中將已下

著褐衣當色接腰等、如臨時野行幸云々、法皇御座則把笏著靴上南座、於帛上拜舞、了退出、有仰

進即御前座、錦端疊二枚、上加菅圓座、法皇曰、拜禮宜無用

笏靴、又手三度可拜、吾受三部法、而受此法、

是毘盧遮那也、拜佛猶可三拜、朕對曰、前年參拜

時用三度、而未知合禮、仍問大臣等、定以爲三

日、參拜事是非佛法禮、是則親親禮也、故用親

親平生之禮也、法皇曰、至三日拜不可必有之

云々、○西宮託宣扶桑略記

廿二日、召保忠令吹笙、曲調頗堪聽、因賜橘

皮篋、是故太政大臣昭宣公弱冠時、承和天皇爲令

學習所給也、寬平中、以其名物而獻之、其後

爲宜陽殿篋、令尋舊意以賜之、○花鳥餘情若榮上圖體源抄

三月

二十日、御仁壽殿、召殿上人及藤原董之、坂上是則、帶刀長在原相如、帶刀梗井清郷、令蹴鞠、召酒殿內膳于物給、二百六度揚不墮、召內藏絹給之、○西宮記蹴鞠

廿一日、晚頭、綾綺殿前令侍臣蹴鞠、○河海抄若榮上

法皇御藥師寺、因使元方奉問途中消息、令仲平朝臣奉褐衣百條、藥師寺萬燈會料也、先日菅

根朝臣傳御氣色、所令奉仕、今法皇御彼寺、令

行會事、仍令運奉彼寺、○扶桑略記

廿七日、備中介公利參入、召階下給御衣一襲、

○西宮記受領赴任

四月

廿一日、入夜內藏使衆樹差隨身近衛、令申社頭

關濫事、仰左右衛門陣志、門部衛士等、遣社頭

令執勘關濫云々、此間、右衛門無檢非違使、故

仰吉永之各歸參、且申日記由、且申上下社奉幣

事、○西宮記裏書

八月

○一日、友于朝臣令_レ奏_二赴_一府狀、仰聽_二昇殿、又召_二

殿上、左大臣奉_二勅宣_一云々、給_二酒祿_一云々、御裝束一
襲、襪一

領、○西宮記
太宰帥赴任

十四日、於_二仁壽殿_一、覽_二秩父御馬、歸御以_二黃湯一領、

給_二牧司利春、○西宮記
駒牽

九月

○廿六日、右大將奏_二源惟時卒狀、酉四刻、服_二錫紵、

令曰、凡天皇爲_二本服二等以上親、喪服錫紵云々、

而年來不_レ行、只不_レ聞_レ朝三日、而此度者存_二令條、

始行_二此服、○西宮記
臨時裏書

十月

○廿二日、召_二左大臣、給_二神祇官申伊勢太神宮宮司

被_レ載除目文、可_レ依_レ請、只列官次第可_二定置、○西宮
抄除目

十二月

○三十日、亥一刻、御_二南殿、友于朝臣申云、元慶

御時、故太政大臣言、晦日儼儀式不_二必御_二御帳、以_二

其更深夜暗、兼世俗忌如此也、前朝故事猶如此云

云、仍此夜雖_レ出_二南殿、不_レ著_二倚子_一云々、了主殿寮

供_二御湯殿_一如_レ例、○西宮
記追儼

同六年

正月

三日、昨日仲平云、仁和寺幸時、先々諸衛中少將佐

等著_二褐衣、去年幸時著_二當色_一云々、○宮
西抄

○九日、召_二多安邑_一給_二位記、仰曰、大歌所琴歌、傳習

無_レ人、恐此事絕、故殊授_レ之、宜_二知_二此狀、能令_二

傳習_一勿_レ絕、○西宮
記叙位

○廿六日、讀詩訖、仰_下左大臣可_レ敍_二定方事、大臣

仰_二右中將仲平朝臣_一令_レ唱、定方稱唯、下於_二舞臺

前_二拜舞、○北山抄內宴、
撰集秘記

二月

廿六日、於_二襲芳舍_一書_二御屏風、○古今集目錄素性下
三十八人歌仙傳

四月

○二日甲申、不_レ御_二南殿、公卿以上、於_二陣頭_一給_レ酒、

晚頭左大臣奏見參、此日欲御南殿、以當

平野祭、松尾祭、問流例、左大臣曰、令勸先例、

嘉祥二年四月一日甲申、御南殿、引見侍從、舉樂

如常、又貞觀十九年四月一日、廢務二日、當平野

梅宮祭日、此日出御云々、嘉祥已有例、將出內侍、

或向祭所、或依輕服不候、仍不出御、○西宮記句

六月

六日、左大臣談語、及給淑子故尙侍勅書等事云、先

例給葬家、勅書納楊宮、○典イ大臣問吾曰云々、大臣

曰、先例勅命使、於樞庭所、讀詔書可有其儀、

昭宣公薨時、樞先至小野墓所、勅使大江朝臣至彼

所、以本家中儀云々、國經執傳宣命、臨樞

讀之云々、○西宮記臨時裏書

九月

廿日、播磨介澄清參入、召階下、令菅根朝臣給

位記、仰云、年來治國大夫等、雖能奉仕、皆治二

國、且南正下波給與云々、此國近都、而尤爲京友、而年

來凋弊無興復、而勇止之○管イ上治給云々、拜舞退出、

○西宮記受領赴任

十月

十三日、令當時朝臣給大納言藤原、興福寺中、

以左大臣爲檢校、前例以氏中亞相、爲件寺別

當、今以氏長者可當其事、申請依請、○西宮記臨時裏書

十一月

七日、因太上天皇滿冊算、設宴朱雀院云々、了

召左大臣、語曰、見續日本後紀、嘉祥三年、仁明

天皇奉謂嵯峨太上天皇時、天皇降於階殿下、而跪

北面、端笏召左右大臣、勅云々、見終日把笏明

也、而前年奉謁時、只奉拜時、把笏、此已朕失也、

今終日把笏如何、大臣曰、然、於把笏有何事

乎、則把笏進至西對下候、于時法皇出簾則昧候、

法皇揖過御寢殿立、從後法皇即籬內太床子云

云、著靴奉拜還出、候、本所、爰法皇令菅根召、則

入坐御前、法皇曰、舞踏之時、初垂袖左右、意在

掃_レ地、欲_レ臥、而今日見_レ之、取_二袖端_一、此所可_レ畏事也、如_レ此之儀式、先帝能知_レ之、然今无_二知_レ之人_一耳云々、○西宮記臨時致敬禮條

補先奏_二萬歲樂_一、次蘇合、次皇鹿章、○河海抄若菜上作十二月廿日御賀

補母屋前立_二三尺塵蒔御厨子四基_一、二基納御法服、二基納御法具、○河海抄

十二月

補廿九日

下_二御簾事_一、可_レ有_レ服_二親王之喪_一、不_レ聽_レ朝之時等、可_二必垂_一云々、見_二延喜六年十二月廿九日御記_一、

○北山抄彙奏

月日未詳

補左大臣申云、諸國損過_二三不_レ得_一七、雖_二少猶可_一

申_レ損、而申_二一分半_一不_レ受_レ使每事也、故立_二制不_一

許、○西宮記不堪伺田奏

同七年

正月

補一日、不_レ御_二南殿_一、以_二識子內親王薨_一、不_レ聞_二朝

政_一也、召_二侍從已上宣陽殿_一、賜_二酒饌_一、左大臣云、承和日記云、御曆付_二內侍_一令_レ奏、氷樣腹赤列_二立南庭_一云々、公卿等語、則仰令_レ附_二進物所等_一云々、○西宮記

會節

三日、參_二御寺_一、著_二靴把_一笏拜了、退使_二律師觀賢召_一之、參入御語良久、更召_二左大臣_一、時平仰令_レ給_二朕茶_一、

律師如無供_二法皇御茶_一、有_レ仰召_二式部卿親王_一、左大

臣_一令_レ侍、法皇仰_二親王大臣_一令_二圍基_一、懸有_二好馬_一、

御駢別當春野、寧鹿毛御馬立_二庭中_一左大臣勝、又初局間口暮、則退、

有_レ召又參、律師如無、中納言源朝臣各取_二一捧物_一、貞恒

法皇自持_二和琴_一、仰曰、此圓城寺所_二生木也_一、此寺自

幼少時_二御_一之、見_二來此物_一、雖_二不_レ好_一、以爲猶勝_二他

所物_一也云々、則召_二左大臣_一、令_二持授_一之、則受彈_二

兩三聲_一、左大臣曰、此御馬宜_二給_一左馬寮、則定方朝

臣代_二春野_一、牽_二御馬_一給_二寮_一、又給_二左大臣等酒_一、一巡

起_レ座拜舞退出云々、還_二宮_一、昨日仲平云、仁和寺幸

時、先々諸衛中、少將佐等著_二褐衣_一、去年幸時著_二當

色、從_レ仰令_ニ左大臣定_一、此日朝左大臣申云、左右從_レ仰可_レ用、著_レ褐有_レ例、又着_ニ佐當色_一善也、仰令_レ著_ニ當色_一例服、○西宮記及西宮抄

七日、用_ニ雨儀_一、左大臣奉_ニ內辨_一、而在_ニ敍人中_一、而大臣自申、式云、大臣可_レ被_レ敍、宣命拜須_レ立_ニ敍人之列_一、須_レ如_レ式、而病後不_レ能_ニ久立_一、用_ニ宣命次_一下侍陣座、入_レ內時令_レ奏_ニ賀喜_一云々、又左大臣有_ニ所勞_一罷出、右大臣奏_ニ見參_一云々、○西宮記裏書

十七日、御_ニ豐樂院_一、覽_ニ射禮_一、如_ニ內裏式_一、左大臣自_レ內令_レ奏、寬平御時、東宮帶刀有_レ仰、在右近次射仰、依_レ彼例、帶刀一兩射、時日已暮、乃還_ニ宮_一云々、○西宮抄

二月

廿二日、踏歌所奉_ニ仕踏歌後宴_一云々、御_ニ射場_一、中務卿親王、左大臣以下侍、更召_ニ殿上_一、上卿等、預_レ召立_ニ書別_一、如_レ例御賭物臣下賭、○河海抄

二十三日庚午、左大臣言次云、供御朝服綾文、臣下

四月

十四日庚申、年來例、齋院女騎、以_ニ左右馬寮調度_一借給、而右馬寮有_レ穢、仍令_レ仰_ニ左馬寮_一、召_ニ女騎料_一覽、又左右大臣、左衛門督等、進_ニ女騎料馬_一、此中選_ニ定公卿等馬_一、先日所_レ仰也、○西宮記

十五日、召_ニ男女使飾馬_一覽之云々、使內侍藤原長子、令_レ申_レ依_レ病不_レ得_ニ騎馬_一狀、不_レ許云々、○西宮記
十六日、祭使命婦源信子復命、自餘等未_レ奏、使_ニ希世_一令_レ問_ニ齋院親王所惱_一也、○西宮記

六月

九日、中宮崩、依_ニ繼母_一雖_レ可有_ニ一日服_一、依_ニ志三今日著_ニ錫紵_一、○中右記、永久二年十月十日下午引_ニ御記_一、不_レ注事、天皇著_ニ錫紵_一三日、月日、日本紀略、有_ニ九日令_ニ諸道勅_一申中宮崩後之文、仍今收_ニ于此_一、

七月

廿八日、美濃守是恒卒去、可_レ止_ニ召合事_一、子三刻服_ニ錫紵_一、因_ニ是恒朝臣卒_一者、○小右記長和二年七月六日、下引_ニ御記_一、爲_ニ五年_一誤也、

按一代要記光孝天皇條、載皇子是經、從四位上、美濃權守、賜姓、延喜七年七月薨之次、且、日本紀略、廿九日甲辰、依四宮崩、停相撰召合、園太曆、延喜七年七月廿九日、依大納言源貞恒薨、止相撰召合者、蓋是恒而非中宮及貞恒也、中宮以、前月九日崩、貞恒以、明年八月一日薨、據此是爲誤可、知、
本書力

九月

十一日、無納言以上、行幸及行事例有、關而左大臣時平

令奏云、有秘無納言兼合御物忌、雖不御、入

省、有、何事、又宣命式云、參議已上得行者、行之無妨、只禰宜位記無捺印者、載宣命後日可追給云々、仰宣命事、令參議等行、只出八省事、行程無幾、諸衛供奉如例、至子無納言、有、何

關乎、午一刻御八省、拜幣如常、參議有實朝臣、令給宣命、訖還宮、○西宮記例幣條裏書

左大臣令中、左近將監或假或勘事、無下可供、大刀契者、先例無將監者、以將曹令供奉、仰依

例者、○撰集秘記

十月

一日、使道明仰左大臣曰、仁和寺可御紀伊

國、若可有、所申否、大臣令申云々、勘先例、清和太上天皇御平城時、能有朝臣等引宿衛奉從、又前時法皇行幸時、友于朝臣奉從、今以爲奉遣參議少將等、可善、抑明日參入可、定仰云々、

○西宮記諸社行幸

二日、使仲平朝臣奉問途中云々、○西宮記諸社行幸

十八日、拜伊勢、賀茂上下、松尾、石清水、春日、平野、住吉、日前等神、祈法皇道中平否云

云、召河內守安世王於藏人所、令管根朝臣勘太

上法皇還御之時供奉闕怠狀云々、○西宮記諸社行幸

十一月

四日、太宰府言上、帥友于朝臣、任符不注、分

付字、依請、○西宮記太宰帥赴任

廿二日、敦實親王加三元服、參入殊敍三品、○西宮記裏書給之、親

王拜舞云々、○西宮記裏書

廿三日、左大臣令奏位記可作狀、○西宮記裏書

廿五日、左大臣奏、敦實親王位記捺印了、付右

少辨清貫_二給_二親王、○西宮記
桂史抄

延喜七年□月一日御記云、先例近衛少將以上、一

人即座、而後公卿等昇殿、此日公卿等先昇、少將

恒佐良久昇殿、非_レ例也、同十三日御記云、旬、王

卿等參上時、皆少將先昇、而檢_二左近陣年々日記、

至_二此時_一少將後上、○西宮抄、按孟夏冬
間未詳、仍今載于此、

十二月

圖五日、奉_二伊勢及諸社十四所幣_一云々、御建禮門□

口拜、伊勢幣了還、其儀設_二幔輕幄_一、荷前時裝束、

南幄下當_二御座東南_一、去_二座一丈餘_一、立_二八足机_一、置_二

御幣_一□、伊勢幣外諸社幣、皆候_二幔外屏幔內_一、置_二

版位下舉座幄下_一、主水司供_二手水了_一、把_二笏兩段再

拜、召_二舍人齋部_一取_二幣_一、中臣受_二旨儀_一、如_二九月十

一日云々、○西宮記
臨時奉幣

同八年

正月

一日、朝拜裝束如_レ例、因_二雨雪_一、差_二藏人_一到_二大臣_一、

令_レ問_二先例_一、大臣令_レ奏、天長九年晦夜雨雪、元日

猶受_二朝賀_一、寬平七年晦雪、停_二朝賀_一、先例如_レ前、依_二

寬平例_一停_二朝賀_一、○西宮記朝
拜條裏書

左大臣語曰、前代元日侍從給_レ酒後、有_二絃歌事_一、勸_二

日記、承和六年、十一年、貞觀三年、有_二此事_一云々、

未_レ剋、御_二南殿_一、儀式如_レ常、雅樂奏樂了、左大臣起

座曰、召_二書司_一、仰イ許_レ之、大臣目_二內侍_一召_レ之、典書滋

子持_二御琴_一、入_レ自_二東障子戶_一候_レ之、左大臣持_レ之、

授_二兵部卿_一令_レ彈、侍臣同音唱歌、數曲後、大臣奏_二

見參_一、逢殿給_二御被_一了還寢、先例召_二御琴_一時、殊

召_二堪_一琴歌_二親王一兩及大臣_一、更給_二草敷_一、又或召_二

能_レ歌者_一、而此度并無_二此事_一、便於_二本座_一奏、○西宮記
元日節會
條裏
書

七日己卯、卯杖、因_二雨雪密下_一、付_二內侍_一奏_レ之、

例卯日當_二元日七日_一、奏在
開門後、大臣未_二上殿_一前、餘儀用_二雨例_一、御弓於_二承明門_一

奏_レ之、列立公卿立_二宣陽殿西廂_一、諸大夫立_二承明門

東西廊_一、是左大臣案_二舊記_一所_レ行、只敍位宣命等、

舞蹈時諸大夫猶立_二本座前_一云々、○西宮 記裏書

十七日、幸_二豐樂院_一給_レ給時、關司不_レ奏、因勅之、關司申云、前例相傳、今日以_二武事日_一關司不_レ奏、

先入_二清暑堂_一云々、畢御_二豐樂院_一、少納言奏_二鈴奏_一、

關司先奏如_レ例即置_二東階上_一、掃司取_二置高座東軟障下_一云々、

○西宮抄

關殊聽_二式部卿是忠、乘_レ輦出_二入宮中_一、諸節不_レ立_二行

列_一、此日左大臣令_レ勸之、故葛原親王、本康親王

例奏_レ之、則令_レ因_二彼例_一了、○西宮記臨 時一裏書

十八日、親王令_二昨日宣旨慶賀_一也、○西宮記臨 時一裏書

左大將進_二四府奏_一、以_二文狀_一給_二各府_一云々、○北山抄 射狀不_レ記

月日、無_レ射必十八日也、仍以_レ戴之

廿一日、召_二散位菅原淳茂_一、左大臣所_レ奏小野篁黃

衣葛履得_レ預_二宴席_一例云々、讀詩畢賜_レ酒、次授_二藏

人內藏善行從五位下_一、大臣仰_二左少將恆佐_一令_レ唱、

○北山抄內宴、 撰集秘記、

二月

二日、仰_二清貫_一、仰_二監物_一令_レ奉_二仕鑑奏_一清貫云

云、監物申云、前日五位奏_レ之、而今日不參、仰云、

或不_レ指_二五位_一、又無_二宣旨_一、隨候_二六位_一可_レ奏者、于

四刻御_二南殿_一、大原野使右近將監藤原定行、令_レ內侍

奏_二向_二祭所_一由_一云々、○西宮 記旬

九日庚戌、召_二大臣_一給_二民部大輔大藏善行朝臣言致

仕表_一、依_レ請許_レ之、○河海抄

四月

十七日、左大臣、令_二外記春正申_一云、齋院禊所木工

寮工暴死云々、○西宮 記裏書

十八日、道明朝臣細奏_二裝束所死穢狀_一云々、仰_二穢

所在幕外无_レ限、河原限_二何處_一爲_レ穢、以爲不_レ可_レ穢、

中臣稔有_二視聽穢詞_一、雖_レ不_レ爲_レ穢、宜_レ避_二其詞_一、又

令_レ替_二近邊帷幕等_一云々、○西宮 記裏書

五月

十一日、賜_二大使裴璆別貢答物_一、其物御衣一襲、

青白橡表袍、二藍下重具如_レ例、○河抄

十四日、於_二朝集堂_一可_レ饗_二蕃客_一、午一刻、雷電風雨、

兩脚如射、以先召參議長谷雄朝臣、問事、因雷而不遂事意下殿、道明朝臣申朝集院內雨水甚深、左大臣令奏曰、如聞行禮儀甚無便、況裝束食物難急調、若待整備恐及晚日、請今日事明日將行儀者、依請矣、○扶桑略記

十五日、饗蕃客朝集堂、并賜彼國王等物、使右近少將平元方、殊給大使裴璆御衣一襲、造參議菅根朝臣、內藏頭高階朝臣鴻臚給勅書、使右中辨清貫、少納言玄上給官牒、又賜唐客大使答物、○扶桑略記

廿八日、從神泉苑西掖門入御俘殿、左大臣仰令捕池魚、右衛門督清經朝臣、捧所捕得魚奉覽、則御前料理供膳、餘給侍臣、右衛門佐兼茂調御膳、御厨于所一兩人陪下調給臣下、此時騎射北度、○花鳥餘情藤裏葉

廿九日、大中臣申開神泉水開、先例直依百姓請給之、又貞觀中給此水、遣少納言、率六衛府舍人各三人、及相撲八十人、駕輿丁等、令監開出水、

一日一夜、水盡與止合略苑使少納言茂行、又仰諸衛府、仰曰、使依前例、只戒六衛舍人數堀駕輿丁數、停遣相撲人、○智證大師記所載御記抄

十一月

廿六日、左大臣令奏鑄錢司所進新錢、依例可班佛神云々、奉仁和寺、陽成院各五萬文、左右近少將給、東宮二萬、親王以下、外五位以上依見參、左近陣頭給之、未得解由者預之、殿上及女官、在宮中諸司、所々諸陳取見參後日給、諸陣左右少將、諸司所々遣藏人取、召左大臣仰曰、云々、見前記、

唐使廻著時、唐物皆奉神社陵廡、何無此事、但勘前例之綾帛幣、奉綾時卽燒之、而此物不可燒、又無所納、仍不奉之、○西宮記臨時裏書廿七日、太宰少典御船高相、領唐人貨物及孔雀到來、略記

廿八日、左大臣令申前后、寂靜可授奉二萬文、一日承僧綱可給錢狀、僧都一人、律師二人、僧都准四位、

律師准ニ五位、仰ノ丞依ノ請、依仁和尚御消息所給也、○西宮記臨時一裏書

十二月

翻十一日、奉ニ諸社新錢、伊勢料付ニ月次祭使、自餘差ニ大中臣人奉ノ之、中納言堪朝臣奉ニ宣命、此錢去月廿六日取ニ其料、即神祇官以此日奉ノ之、前例奉ニ伊勢時、或付ニ日月次使、或[□]官參向時使云々、

○西宮記臨時一裏書

翻十三日、班ニ新錢七大寺云々、○西宮記臨時一裏書

翻十四日、給ニ僧正聖寶、仰云、廿七日、以ニ藏人所新錢、給ニ童親王等、男女合十一人、各四千文、又差ニ藏人所雜色、給ニ大學、勸學、辨學院等、大學二千、勸學各一千文、此依ニ前例、○西宮記臨時一裏書

月日未詳

翻延喜八年、大使斐璆色々の物を献するよし、御記に見えたり○河海抄梅枝

翻二十九日、仰ニ大臣、去年晦夜處々、或不ニ追儼、人々云、今年京中愁咳、此依ノ不儼疫鬼云々、宜下

仰ニ所司勤令儼、○西宮記追儼
同九年

二月

翻廿一日、皇太子始朝親、乘輦入自ニ玄闥門、至ニ清涼殿北簷下、候ニ息所直曹、藏人供ニ奉御裝束、尋常候立、倚子鋪毯代、不立置物机、即太子進當ニ御座ニ拜舞、寬平入自南方、於此度以ニ太子幼齒、殊用ニ正廂拜、此間、左大臣候ニ簾下ニ奉ノ引、禮了還、更召ニ侍所、此座平敷、又召ニ左大臣語云々、授ニ息所藤

原朝臣從二位、光召紙筆、自書告身、即給大臣、此時又給ニ太子御衣、舞踏退去、此度、左大臣近侍、令太子於又廂拜、暫左大臣率ニ藤原大夫等

令ニ奏慶、以ニ息所加階也、其後給ニ東宮傅、學士、坊官、進以上乳母等祿有差、傅左(右イ)大臣於御前給之、大夫以下於侍所給之、乳母於北方給之、○西宮記童親王拜觀

三月

廿二日、高階朝臣申云、齋院供奉祭日進止如何、輕服仰ニ外記令ノ勘ニ先例、外記春正中云、國史日記等無ニ所見、案令式文、親王有服云々、然則齋王不可

參祭也、又召神祇大小副藏人所問之、申云、齋宮不忌輕服、准之則可參祭、又令公卿等定申云、准齋宮例、參祭無妨云々、依公卿定、可參祭事仰高階朝臣、○西宮記裏書

閏八月

閏九日、令仰、唐人貨物、年來遣使令檢進、此度停遣使、令太宰府檢進之、又給藏人所牒、令仰可進上物色目太宰府、○扶桑略記

十月

二日、素性法師於御前書御屏風、左中將定方給酒獻歌、即給祿、絹六疋、綿二連、御馬一疋、左穗坂一赤毛、○西宮記、三十六人歌仙傳、古今集目錄、

十一月

廿七日、太宰少典御船高相、領唐人貨物及孔雀到來、○扶桑略記
同十年

正月

七日、出南殿、近衛開門、吾語大臣云、例開門在置住記宮、後大臣即立呼令停開門者、而案式、實先可開門、即催令開門、此大失也云々、○西宮記裏書

廿三日、依承和故事、令奏絃歌、帥親王聽佩劍、親王下殿拜舞云々、還清涼殿、更出侍所奏歌、舉酒以定方朝臣劍、令帶將順親王、即召藏人所劍、令佩定方朝臣、○北山抄內宴撰集秘記

二月

四日、止祈年祭、以內裏有犬死穢也、又仰公卿、於神祇官令祈申祭延期事、又勘先例、此祭止時不行大祓、故此度不行、○西宮抄

三月

三日、霞再拜、○江次第御燈
五日、紫宸殿請百口僧、修春季御讀經、此日僧綱不參二人、預最勝會四人、有障不參、○西宮記季御讀經條裏書

四月

八日、灌佛如_レ常、右大臣云々侍、以_ニ少僧都觀賢_一

爲_ニ導師_一、訖給_ニ白袷_一、右(左イ)大(臣持給之)此日奉_ニ錢爲_ニ常法_一、

而公卿等定_ニ一部_一、令_レ奉_ニ撤_ニ畫御座_一、下_ニ母屋御簾_一、

南第四間立_ニ佛臺_一、其南立_ニ散花机二脚_一、南北重、行立_レ之、其北

立_ニ置_ニ鉢杓_一机二脚_一、南机置_ニ盛_ニ五色水_一鉢_一、北机_一敷_ニ小筵_一

等_一爲_ニ佛臺机下敷_一云々、佛前鋪_ニ半疊_一、爲_ニ導師座_一、

孫廂額北間鋪_ニ小筵_一爲_ニ弟子座_一、出居王卿座同_ニ季

御讀經_ニ云々_一、○西宮
記裏書

五月

廿一日、召_ニ將軍茂永階下_一給_ニ祿_一、○西宮
記受領赴任

九月

廿日、召_ニ陸奥守眞與殿上_一、自_ニ右實璽_一門_一昇_ニ給_ニ綸旨_一祿_一、

○西宮記
受領赴任

十一月

廿三日、云々、使等還參、賜_ニ飲食_一如_レ初、次召_ニ

群臣於庭燎前、依_レ次令_ニ奏_ニ神歌_一、左兵衛佐敏相爲_ニ

人長、歌了奏_ニ神樂_一如_レ常、宴了給_ニ祿_一云々、○西宮記賀
茂親時祭

十二月

十一日、昨縫殿、申_ニ有_ニ大產_一、神態御服等不_レ可_ニ

供奉_一狀、仍召_ニ縫殿神祇官等_一、問_ニ先例_一、皆曰、此

御服雖_レ不_レ御皆供奉、仍仰_ニ大藏行_ニ御服料_一、令_ニ御

匣殿裁_ニ縫之_一、此夜不_レ御_ニ中院_一、付_ニ諸司_一云々、○西
宮記

神今
食

同十一年

十一月

一日、有_ニ觸穢_一、然而供_ニ忌火御膳_一如_レ常、○西宮記裏書
云、同云々之御
記文、仍今載、

云、同云々之御
記文、仍今載、

十二月

十一日、昨今日物忌也、戌一刻、御_ニ中院行_ニ神

事_一云々、今夜參議二人供_ニ奉小忌_一云々、○西宮記
神今食

十二日、還御之間、近衛大忌陣、或時相_ニ副於小忌

陣_一、是已違_ニ式文_一也、被_ニ紉仰_一、○九條年中行
事新嘗會條注

十六日、御_ニ南殿_一、掌侍時子臨_ニ東楹_一召_ニ大臣_一、

前例出_ニ御南殿_一時、內侍召_ニ公卿_一、而五六年来自_ニ內
受_ニ氣色_一參上、此日左大臣令_ニ奏_ニ先例_一、故行_レ之、云々、此日

障子爲_二修治_一撤却、仍施_二屏風_一供_二奉裝束_一也、○西宮
同十二年

正月

一日、出_二南殿_一、堂侍召_二大臣_一、右大臣至_二左仗_一立揖、
還上_レ殿、依_二雨漏_一所_レ行也、故左大臣不到_二代頭_一、直起座、稱
唯上_レ殿、而今此儀無_二所見_一也、○西宮記元日節會條
書裏

四日、太子參入、暫克明代明親王庭中拜舞、又召_レ之、太子親王給_二酒肴_一、親王等拜舞時落_二一拜_一、仍召_二親王別當恒佐利蔭_一、給_二罰酒_一云々、召_二大納言藤原朝臣、仰令_二皇太子拜_一、女御藤原朝臣、年來事謬不_レ得_二此事_一、仍仰令_レ行、只簾中拜、○西宮記童
親王拜觀

廿一日、申刻、夕陪膳、更衣代出陪_レ之、讀詩畢授_二式部丞淳茂從五位下_一、令_二恒佐唱_一、淳茂候_二階下_一、稱唯拜舞、○北山抄内宴、
撰集秘記、

七月

廿七日、覽_二召合_一云々、次侍從參入侍_レ座、先例侍從
等申請當
時召_レ之、今年
預仰令_レ賜_レ座、相撲右勝數_二、只最手_一、不_レ右亂聲奏_二納會_一
レ決_二勝負_一

利、訖左奏_二陵王_一、左負已不_レ可_レ奏、因左方別當式
部卿親王、右大臣等罰酒、是忠
光
只舞遣_レ使令_レ停、而舞者已在_二庭中_一、
因更仰令_レ果、其后_二左重發聲_一、即仰
止_レ之、次右奏_二新鳥蘇_一、未_レ訖還_レ殿云々、○西宮
記裏書

八月

廿四日、休日也、諸卿不參、於_二清涼殿_一覽_二信濃御馬_一廿疋、參議定方候_二御前_一、左右寮擇_二取御馬_一如_レ常、此日國解文主當寮進_二藏人所_一、頭以_二左少將恒佐_一奏_レ之、○西宮
記西寮

正月

一日、辰二刻御_二八省_一、是忠
出時定方朝
臣召_レ舍人式部卿親王、參議定方朝臣
供_二奉御前_一云々、畢奏賀者參議仲平朝臣
奏_レ瑞、左馬頭玄上朝臣共進互奏_レ之、○西宮記裏書
朝拜條裏書

御南殿云々、一獻後、仰令^三雅樂奏樂、例三獻終奏樂、而入^レ夜、仍仰令^三忽奏^レ之、又依^レ雪承明門垣上舞、○西宮記元日節會條裏書

七日、依^レ入^レ夜減^三舞數^一、○台記久安四年正月一日條、延喜十三年、十七年、十九年七日御記云々、

十四日丁巳、此夜有^三踏歌事^一、○河海抄、一條延喜十三年正月十四日丁巳御記曰云々、同十七年廿三年因^レ之、晚頭風雪、及^三戌刻雪晴、亥一炷、踏

歌人等參^三入於右近陣前班^一管絃、此時即意子、中務卿親王、常陸太守親王、大納言藤原朝臣、權中納言藤原朝臣、參議仲平朝臣、定方朝臣等、侍^三寶子數^一、舞

人等到^三竹架東頭^一列立、先奏^三調子^一、次奏^三萬春樂^一、漸進^三南北^一惣三度、訖當^三御前^一分立、言^三吹吐詞^一

持^三囊計綿^一、即奏^三鴨曲^一、次奏^三此殿^一此間內藏寮、口臺盤食竹東編掃部施^三床子^一、奏^レ歌了、行著^三床子^一、

親王公卿等下行酒、三四巡後管絃、更調^三歌竹川曲^一、便北列^三庭中^一、內侍藏人等持^三被綿^一給^三階座歌頭以下

舞童以上^三雙々舞進上^一階給^レ綿、彈琴以下樂人等、令^三男藏人付^レ後給^レ之^一、歌^三我家曲^一退出、時子一炷、自^三瀧口^一到^三東宮息所^一

曹司一踏舞、弘徽殿次尙侍曹司、飛香^{和子}次承香殿息所^景

次克明親王直廬、昭陽舍次參^三入東宮^一、寅四炷還參^三入

內裏、候^三右近陣前^一、召^三之東庭^一、掃部給^三平敷座^一、給^三酒肴^一令^レ奏^三絃歌^一、三四曲後給^レ祿、歌頭給^三雅樂人^一、藏人所人等^三物師等給^三匹絹^一、即

入^レ內、歌舞人等退出、于^レ時卯三炷、○河海抄廿一日甲子、內宴也云々、三獻了、女藏人取^三若

菜羹^一度^三御前寶子^一、給^三親王已下參議已上^一、親王等下座跪受、去年一獻後給^レ之、而三獻御酒後臣下並未^レ行之、前給^レ之、以^レ時少有^レ間也、而少失^三次序^一、自^レ今不^レ可^レ中間

大納言藤原朝臣奏^三事由^一、召^三清行^一令^三獻題^一、先例召^三二人^一令^三奉^レ題、選定只故紀朝臣^一長谷雄^一爲^三參議^一、故左大臣^一時平^一一人令^三獻^一、若因^三彼例^一歟、敦固樂、公卿遞起行^三酒^一、五六度後太宰帥親王起座行

酒、年來无^レ親王行酒事、故式部卿親王^一本康^一在時又无^レ此事、後聞、親王申^三故左大臣語令^一行酒^一云々、然則、可有^三故實^一、若是忘^レ却歟、讀詩了、有^三御遊^一、數曲後女藏人持^三御衣^一、給^三參議已上^一云々、○西宮抄

五月

五日丙午、糸所供^三奉樂玉^一如^レ常、撤^三去年九月來奠^一、以^三樂玉替^一例也○河海抄

六月

十一日、御中院云々、下輦、掃部司申、少納言不候鈴云々、有定遣少納言左右近將監等取鈴、去八年有此事、仍遣少納言左右近將監等、令取鈴云々、○西宮抄

十月

十三日、仰侍臣、令獻新菊花各十本、分一二番相爭勝負賭、以申時各方領花參入、一番入自仙花、一番入自瀧口、次第進花立庭中、一番種花、以右洲形、二番栽火桶、左各々藏人所二人取立御前、衛門督藤原朝臣候御前、作勝負、惣十番、勝方簾中拜舞、選進菊中各四本、栽西方小庭、○古今著聞集

十四日、是日於西方、賜侍藤原朝臣四十算賀、未刻撤西庇障子、渡殿部殿西庇自南四間鋪御座、西面、○河海抄若菜上第五間鋪尙侍座、

命侍臣、令奏絃歌、自彈和琴、中務親王彈琵琶、克明親王彈琴云々、○河海抄若菜上

十二月

九日、二番侍臣獻負物、菊時負物也、此物於射庭可獻、而實獻延失也、入夜出待賢門、左衛門督、權中納言侍之飲酒、○古今著聞集十九日、御佛名、亥一尅法師等參上、而大僧都觀賢依病俄辭導師不參內、仍以最詮法師爲初願導師、○東寺長者補任同十四年

十月

一日、右大臣奏官奏、任大臣後始奏之、大臣著陣見奏如例儀、或無奏○西宮記十月旬同十五年

正月

廿一日、令右大臣候內御書所、勘解由次官諸蔭可召預由、前例候藏人所校書殿文章生、皆預此所未有例故仰殊召之、奏舞間、召大納言藤原朝臣、仰右大臣男實賴依院仰可叙事、從五位下、作位記令奏之、樂訖、右少將俊蔭立文臺下、右大臣下殿、於舞臺前拜舞、事畢令奏絃歌、仰左少將忠房可叙從五位下事、大臣召恒

佐朝臣仰之、恒佐朝臣直進唱、忠房稱唯拜舞、○北山抄
內宴、撰集秘記、

四月

十八日、齋院長官希世申、齋內親王、自昨有月事、
仰外記令檢先例、無所見、召神祇大副安則、
問齋宮例、申云、於離宮有月事、不參外宮、又
於外宮有月事、不參內宮、但所備幣物、宮主所
司等持至河邊、祓其由棄之、齋院事、非神祇官
之所知也云々、仰希世、齋院參社事宜停止、只於
院令祓停止由、又所設幣物、依齋宮例、院司宮
主等、相共於川邊令祓棄之、○西宮記裏書
十九日己酉、祭如常、只齋王不參社頭云々、午
刻、使等令申向社之由、覽使等飭馬從者、了命
婦藏人聞司等、召南廊給祿、典侍於陣外、令申參由、未一刻、
出南殿、拜賀茂太神、申齋王不參狀、兼祈平安、
○西宮記裏書

六月

十一日、御中院、大忌、親王公卿等不參候云々、
又內侍皆有障、殿上命婦二人供奉、內侍代年來未
有例、然以無內侍不可闕供祭事、故、准他
時例令奉仕云々、○西宮記神今食

十二月

廿三日、當物忌之年、諒闇年不出御、仍不自拜、而
承和出御、然則不御失禮、○北山抄荷前條
同十六年

正月

一日

御酒敕使經座末、就北簾南端、付內侍令奏、
小部持宣命見參、同付內侍退立如常、遲參王
卿、內辨令藏人奏、此儀見延喜十六年正月一日御記、
○北山抄元日宴會事

無御出之時、諸司奏付內侍所、依不可有勅
答也、見延喜十六年御記、
○江次第元日節會

廿一日、出南殿云々、內膳宮人等有勸事、不供
奉、有典膳一人、即問例事、申云、番長有供進之

例、仍今日番長等與典膳持御臺盤云々、○西宮記裏書廿一日元作十六日、今據北山抄及西宮記引之諸記訂之

三月

五日、試樂、吾即床子、時未一刻也、樂行事參議保忠朝臣等、率樂人參着座、○河海抄若菜上

御賀試樂、中務卿親王、太宰帥親王、在階下唱歌、侍臣五六人又唱歌、○河海抄若菜上

七日、左右少將、諸衛佐、馬寮助等、引御馬十疋奏覽、○河海抄若菜上

嵯峨御手跡一裏、和琴各一面一枝云々、○河海抄若菜上

若菜

立三尺蒔繪御厨子、各納御法服冬夏各五具、○河海抄若菜

當御座南庇鋪地敷二枚、其上鋪四幅帛備舞踏所、○河海抄若菜上

十九日癸酉、行幸亭子院、拜謁法皇、還御時、左衛門督藤原朝臣、少僧都如無、各把著捧物、附授殿上侍臣等、嵯峨天皇御手跡一裏、和琴一面也、○扶桑略記

七月

西向東宮座、當同廂第一間、皆用土敷、○河海抄若菜上

立蒔繪大床子三脚、其上立沈香狹息一脚、○河海抄若菜上

四日、廣瀨龍田祭、仍廢務如常、今日依祈雨、丹生貴布禰奉幣馬、云々、是弘仁十四年七月四日、

依祈雨和泉國大鳥積川等社、依奉幣之例所行也云々、○西宮記裏書

八月

十三日、事有、御馬等好御厩不侍波、左宇々々

可爾有因天奈奉入留、○河海抄、延喜十六年秩父御馬賜右大臣忠平、御返事、延喜御記曰云々

廿五日、云々、立机一脚東庇南一間、机下敷

鏡、雖有自餘幣物、有傾取云々祓了兩段再拜、召

幣物分奉、慥問先例可記申事、問先例內藏寮、申云、雖有惣數、不知其宮廟幣數幾許云々、宮主茂陰中、前度爲一部、彼宮、仍問之、申云、受幣物至太宰府、分留香椎縣、又

察、問此使發遣時御祓有無、寮申云、或時有、或時無云々、自想像、去昌泰元年奉自所帶劍之時、此奉拜發遣、即有御祓、今以爲致、臨時祈禱奉拜並祓清、於云々、召使浣仰奉幣之意、又

至字佐宮、分奉三所云々、今茂陰雖申惣數、難依一度使說、凡奉幣察隨其數、領裝猶可奉進、而至於彼宮、使者頒奉於事、似輕略故令云々、賜祿即於東庭拜舞退出、○西宮問子細之由、

十月

二日、此日殿上冬裝束、昨日依物忌不供奉之○西宮

裏書

三日、右大臣奏、太政官奏、大納言源朝臣藤原

朝臣等、依不上狀文、文○○口給奏之時、女官奏、仰殊無勘任、

令待病瘳須解任、上口仰令加殊字、○西宮記臨時一裏書

廿一日、遣衆樹朝臣於亭子院、申明日可詔書一

事、召右大臣、仰明日詔書及叙位事、衆樹朝臣

還來復命、又有東宮過明日可參入旨、入夜大

臣令案詔書奏之、○西宮記裏書皇太子元服條

自東宮息所許奉書、申東宮元服夜故左大臣女可

令參入一事、又參入時可用輦車、報書并許、○西宮記

裏書

廿二日、檢承和五年日記、立女御尙侍料障子一脚、

又以屏風張座後及皇太子座西、又設此等座於第

二間之中、此度女御等不供此事、仍立倚子一脚、

又不立屏風、又太子加冠座去帳差遠、仍今定立

第三間、又南廂大臣大納言立所不慥日記、今定云

云、○西宮記裏書

檢舊記、皇太子冠時、無給加冠等人祿例、只承

和九年、田村天皇爲親王、加元服之時、給加冠

右大臣禱衣、今不能徒然、仍因准彼例、給此兩

卿、○西宮記皇太子元服條注不記月日、據扶桑略記十月廿二日甲辰、皇太子加元服之文、收于此、

祿辛櫃、皆在方東邊云々、○西宮記皇太子元服

侍臣持御冠置之、舊物納時繪月當口口後、女

藏人可置、侍臣先置失也、○西宮記皇太子元服條

檢式、傳爲口、今依弘仁十三年例、命右大臣、

立母屋、自東第二柱下有便宜云々、在母屋南面東第二柱下、○西宮記皇太子元服條

今月吉日、始加元服、其幼志、愼其成德、壽考

惟祺、以介景福、此不見舊記、今依唐禮所定

云々、○西宮記皇太子元服條

關弘仁承和例、下殿拜舞、延曆例殿上拜舞、內裏式

上不見下殿之儀、仍從延曆例也、○西宮記皇太子元服條

關坊官等同撤式北廂座等也、○西宮記皇太子元服條

中少將帶三弓箭一著靴、府生布帶、近衛常裝束、○西宮記

皇太子元服條、天皇更御帳中、近使警蹕而後着座注、

廿三日、皇太子拜謁於亭子院、昨日元服、令下右大臣中

依昨日日暮今日令參入狀云々、○西宮記裏書

廿四日、東宮令○拜謁邦基、昨日於院所給御馬二匹令

見、依日暮不見、此夜東宮乳母叙位者參入、令

奏慶賀、由給御衣、其後宣旨方子候北陣外、令

奏喜、令掌侍時子給之、○西宮記裏書

廿五日、東宮昨日馬覽、令帶刀引之云々返給、○西宮記裏書

十一月

廿六日、大僧都增命、七十自去月廿九日、每夜侍

殿上一念誦、今朝歸山、召之賜御衣襦衣、又就房、

以內藏綿百屯施之、○扶桑略記

廿七日戊寅、此日克明親王加元服、又慶子親王著

裳、皆年十四歲、其儀、今朝藏入裝束清涼殿、於

東庇自南第四間西頭東面、立大床子二脚、下鋪毯代

第二間壇上北面鋪親王座、鋪錦端疊二枚、其上施茵一枚、鋪錦端疊二枚、其上施茵一枚、東又庇第二

間東端西面、鋪加冠大臣座、鋪錦端疊二枚、其上施茵一枚、掃部於宣

陽殿西庇設親王以下、侍從已上座、如二孟、不出南殿時、名侍從坐、

兩親王家立屯物酒食及祿辛櫃於南庭、立所在庭東邊、其屯物酒食、各

每廿具、韓櫃各十合、已剋、右大臣參入侍陣、令衆樹朝臣仰

可加親王冠事、午剋、克明親王上侍所令侍臣

召之、親王參入、進坐御座、又令召右大臣、大

臣參入、侍東又庇座、大臣喚侍臣、仰藏人等持

櫛調度、唐韻二階、泔坏等也、當蓋置二階上、並薛給又御冠納立親王座東邊

退出、仰大臣令召衆樹朝臣、衆樹朝臣稱唯參

入進、至親王座東、衆樹朝臣座、預置管圓座西面理親王髮、訖

退候南階邊、右大臣起座、進至親王座邊、執冠

加親王頭、訖起座退出、大臣又退出、至射庭北

便所改換衣服、訖入自仙華門進庭中西向拜

舞退出、仰令參入於二條院、令左衛門督藤原朝

臣輔資謁見、即令掌侍明子喚右大臣、大臣進坐

御前座、女藏人執御衣及褂衣給大臣、御衣襖各一襲、左右

馬寮允各一人、引御馬各一匹、出自北方立庭、

立梅樹北邊馬西首、大臣下殿、庭中拜舞、退出引馬者還出自

北方、授大臣從者、次內侍喚衆樹朝臣、衆樹朝臣

參上、候南階邊、女藏人執祿給之、白襦一御阿右女一重也、衆

樹朝臣庭中拜舞退出、時末一剋、此間、親王公卿等著宜

陽殿座、又召侍從等給酒肴、克明親王家設侍從以上、及殿上侍臣饗慶子親王、人所饗也、昇出庭中屯物酒食、班給諸司、白長樂門、令諸衛舍

設女房及藏人所饗也、衆樹朝臣退出之後、召侍從撤親王

座及調度等、更下御簾敷內親王可弁座、其座

敷錦端疊於大床子北一間、女藏人數女親王齒於其

上、南面、先敷土鋪二枚、敷茵一枚其上也、座邊立櫛中調度、親王座西頭

東面敷可治髮、尙侍齒、未上尅、內親王進座改童

裝著衣裳、此間隔以几帳、尙侍藤原朝臣進結裳

腰訖退、次典藏在原尙子理親王髮、尙侍又進結裳

理髮訖親王進出座前、西面肅拜退出、

髮、此從簡易、尙侍等又退出、即給尙侍褂衣及綾絹等、白襦一重、綾二襲、尙子襦一重、白絹一裏、令命婦藤子藏人等執也、便於西

方給也、申三剋事訖、撤座及調度、上御簾口口東

又庇親王等座、于時左衛門督藤原朝臣進來、復院仰

旨、即召右大臣、仰院仰旨、暫退出、西一剋、親王

以下諸大夫、執獻物候瀧口、即右大臣進御前座、

執御贊者進列立庭中、南面重行、大臣問何物第一、式

部卿親王稱唯云、克明親王等奉御贊、以次稱物

名、訖大臣云、給膳部親王喚膳部、內膳候仙華

門下、稱唯來受御贊、親王大夫等更不還出、便自

南方退陣頭、令式部兵部卿親王皆參上于前、又

召中務卿親王、太守親王、太宰帥親王、及侍殿上參

議已上、給酒肴、坏三四行後、仰左右近府令奏

樂、暫左右近候瀧口、亂聲奏樂、入居三葉松樹邊

互奏樂、舞人各四人、只近樂人不具、頗以右近人、稱緩供奉云々、始奏樂間、右大臣

退出、執侍從以上見參進奏也、覽訖出授少納言、

當時理須用衣髮及筭、而理衣侍

於南庭唱名、以親王家所儲_禮衾給侍從以上、
暫召克明親王、令差孟式部卿親王、良久右大臣
供御酒、時令大臣告式部卿親王院仰旨云々、親
王申歡水狀、即仰下大臣、克明親王可叙三品事、
大臣下殿退陣頭、令作位記奏之、覽訖請印
又奏、仰於侍從給之、親王改換朝服、於庭中拜
舞、始左衛門督藤原朝臣參院時、令請親王叙品宜
否、而仰旨有依親王最長、殊可授三品旨、故
有此授、亥二刻、侍臣執袞衣、給在座親王大夫
等、此親王家所儲祿物在_{宜陽殿}者應召各先行、在殿上
等者未給之、女親王家所儲祿物付給見奏命婦以上、即於
庭中拜舞退出、更召令侍座、命召和琴、令彈奏
歌管、此間近衛樂止退出、子刻、更以御衣、給參議以上、暫
入內、王卿各退出、_{○親王元服部類記}
同十七年

正月

一日、出南殿、內辨侍座、皇太子參上、_{帶刀太子上殿之後、居左右}
近衛前陳北邊、立胡床子、東行西上、只檢東宮
例、今日帶刀須著上儀、而著中儀黃衣違失也、直進侍座、

始依雨濕儀、太子謝座事問右大臣、大臣定申云、雨濕時、在南殿內
者可_レ拜、內辨於座邊拜者、而前例不拜直上、然則太子雖在殿上、
宜與_レ諸臣同不拜、仰宣使命命版宣制了、太子先拜
舞、次諸大夫拜舞、了復座、內侍執御被_一重、授
太子、太子受小拜退出、_{退時繼頭把勢而出}中務輔左右唱見
參_{○西宮記元日節會供裏書}

廿一日、事次藏人申請、親王子十月晦卒云々、仰_{○二}

邦基朝臣、令左少史高行、勘申不視事日限、及

服錫紵事、申云、姪爲三等、儀制令云、二等以上

親喪不視三日、_{後日高行勘申義解}文不視事一日者、喪葬令云、爲本二

等以上親服錫紵云々、右大將藤原朝臣等定申云、

五月服五日、三月服三日、是以日易月之意也、今

姪雖爲三等、准先例、更不可有錫紵、依定申、

不著御不視事三日、又可_レ有太政官奏、而藤原

朝臣_{右大將}等申云、前例新年始不奏凶事、今年未_レ有

奏事、請依前例、以內奏日、便爲視事之始、更

不奏官奏、仰依_{○西宮記、北山抄}請_{內宴、撰秘記}

廿二日、邦基奏右少史高行服日勘文失由、此文

狀云、坐_三姪孫襲、皇帝假不_レ視_レ事、仰_下高行令_レ進_三過狀_二之旨_上云々、○西宮記裏服

闕廿四日、幸_三亭子院_二、○御游抄

二月

闕十五日、故左大臣息敦忠、參_三入御息所許、令_レ召_三侍所_二、○西宮記臨時裏書即聽_三昇殿_二、○西宮記臨時裏書

闕廿七日、右大將得業生惟舟、去年遭喪、未_レ有_三貢舉_二文、公廉臨終、有_下雖_レ在_三喪中_二可_レ果之遺書、令_レ問_三先例_二、

菅原是善在_三母喪_二對策、而博士以下近年无_三此事_二由_上候_三氣色_二、可_三貢舉_二、仰云、以爲遭_レ喪者、可_レ無_三自進_二、至_三于博士舉_二、有_三何妨_二、已有_三先例_二、宜_レ令_レ舉、○西宮記臨時裏書

三十日、二十七日始御讀經、近衛中少將不參、今日又遲參、仍仰_三、朝臣_二勸_レ其由、○西宮記季御讀經條裏書

三月

六日乙卯、晚頭常寧殿看_レ花、命_三實賴_二令_レ吹_レ笛、令_三二兩侍臣唱歌_二、臨_レ昏還_三清涼殿_二、坐_三東北廂_二、參

議保忠朝臣侍_三殿上_二、櫻下施_レ筵、召_三大内記理平直

内御書所_二、勘解由次官諸蔭、播磨權大掾橘正臣、文

章生春淵善規、坂上垣蔭、藤原高樹等、令_レ賦_三春夜翫

櫻花絕句_二、邦基千古同預_三其座_二、理平作_レ序、子二

尅、召_三理平_二讀詩、訖給_三文人綿_二、又鋪_三座階前_二、玄

上朝臣以下侍唱_三歌之_二、召_三備前介善行_二彈_レ箏、藏人

所藤原有時吹_レ箏、讀岐孫千兼彈_三琵琶_二、保忠朝臣

時々彈_レ琴吹_レ笙、夜深給_三保忠朝臣御衣_二、侍臣絹_二、息所

殊以_三女裝束_二給_三近侍管歌盃酒者數人_二、○河海抄

九日

闕有_三殿上賭射之由_二、見_三御記_二、○河海抄

闕十三日、大臣令_下奏_上勸權威儀師慶進遷_三任外國講

師之文_上、無其例令_レ仰云々、於_レ不_レ遷任、殊_レ難、

宜_レ依_レ請、又仰、威儀師令_三祐公家和爲_レ代、於_レ事失、

宜_下慶進遷_上任所、以_三彼法師_二爲_三權威儀師_二、永令_レ發_三

代職_二、○西宮記臨時裏書

闕十六日、此日參_三入六條院_二、此院是故左大臣源融

朝臣宅也、大納言源朝臣奉進於院云々、令申參狀、有命參西對云々、僧都如無供御菜、玄上朝

臣賜菓^{用折敷}於御前地火爐令燒筭調供、又召

王卿給^{邊イ}盃云々、山南退發音聲、又命王卿奏管

絃云々、賜御盃、給盃飲了、把盃於南廂拜舞、

始不持^{仲平}笏^給臨^{時召}笏^{藏人還意}、拜舞了、左衛門督

藤原朝臣來、傳勅命云、唯令寂寥、令親王奏唱

平如何、令申云、在南殿時、臣下所奏事也、

今在御前、此事不可有、抑可隨仰、又有命云、

事誠然、唯有吾仰、令奏有何事乎、仍命上野

親王、親王召玄上朝臣^{南殿時召采女令供之、今玄上朝臣奉膳故召之}

朝臣稱唯、執御盃到于前、上野親王避座跪唱平、

則飲了呼精、了親王下階拜舞、復座行酒、^{此儀久不行之}

^{今忍行之、頗有誤失云々}于時日漸黃昏、侍臣酣醉、左衛門督藤

原朝臣持被物、給在座親王已下侍臣等、上皇脫

橫被給、受之拜退出、有命召羣於近所令乘

之、戌四刻到宮云々、^{也イ}○西宮記臨時五

裏書、河海抄、

幸三條院、法皇御在所、左大臣融宅、龍頭鑄音樂人唱歌者舞之、^{○御道抄}

廿日、有殿上賭弓、^{○河海抄、延喜二年二月廿二日、同十七年三月廿日、同廿三年三月九日、延長四}

年三月六日、

河內守清平申罷由、召殿上給白袈、^{○西宮記受領赴任}

四月

五日、大納言藤原朝臣令奏齋院司除目、^{以右近中將兼茂爲}

同日令奏陪從等云々、^{○西宮記初齋院}

十六日、宣子內親王臨鴨河禊、入野宮云々、

廿二日、此日返納宜陽殿累代書法、此殿自本納

書法百九十七卷、往年暫出看覽、又於御書所摸出

也、今摸功訖返納本所、只雖大數本、無納目

錄、觀其題名或有誤謬、仍新作目錄一卷、細記

題名裝束及訛謬加之置之、欲後來者見之頗有

分別耳、又書加書法三卷、足二百卷、凡厥子細

具有目錄、即令_三右近少將伊衡、藏人淑行等檢納之、
○花鳥餘情若菜上

廿九日丁未、申剋、元長元利兩親王、以_三始加_三元服、候_三陣頭、令_レ申_三其狀、左近權中將_三玄上朝臣奏_レ之、即召_三親王、親王入_レ自_三仙華門、自_三南殿階下、於_三進_三仙華門、於_三庭中、拜舞退出、令_三玄上朝臣喚_レ之、兩親王參入侍_三殿上、親王座於_三東又庇第三間、施_三管_三、_三西座、吾座立_三倚子於東廂也、暫召_三玄上朝臣、稱_三唯、邦基朝臣參入、到_三屏風頭、受_三祿物白褂一襲、
口給_三親王、親王下_レ殿於_三庭中、舞踏退出、○親王元服部類記

月日未詳

延喜十七年御記、葛木宗公申_レ依_三經說_三由、弘範
申_下使_三會昌_三草由、○北山抄
同十八年

正月

一日、太子參上、帶刀著_三位色袍、違失也、可_レ著_三黃衣_三、○西宮條裏書
記元日會條裏書

二月

廿日、入_三神泉苑東門、至_三馬坪下_三與、此間左衛門
以_レ網捕_三池魚、付_三御厨子所_三調供、又於_三南屏慢下_三
調給_三侍臣等、及_三西一對_三競馬、○花鳥餘情藤裏書

廿六日己巳、參_三入於六條院_三云々、了召_三王卿_三給_レ酒、兩三盃後有_レ命、召_三栲目和琴、例行等時、圖書候_三宇陀法法和琴_三今日此琴、有_レ命_三令_三候_三、令_三右大臣彈、又召_三院新作和琴_三令_レ彈、校_三試其音聲、音聲甚高不_レ減_三朽目_三云々、了令_三侍臣之中博士等賦_レ詩云々、自_三西剋_三陰雨、藏人頭兼輔朝臣請_三停留待_レ曉、以_三諸司侍候無_レ便還_三宮、王卿等戴_三大笠、戌四剋至_レ宮、少納言淑光於_三承明門壇上_三奏_レ鈴、王卿稱_レ籍退出、又與長等已多勞苦、仍取_三大舍人、近衛、兵衛、衛門、與長、駕丁、及舉炬殿部等見參、後日給_レ祿有_レ差、○西宮記裏書

三月

一日、午剋、大僧都觀賢、令_レ持_三故大正僧空海自_三唐賣來真言法文策子卅帖_三參入、觀訖返付、仰令_下藏_三東寺、永代不_レ給失_三、此策子、是空海入唐自所_三

八月

受傳之法文儀軌等也、其文即空海及橘逸勢書也、其上首弟子等相次受傳、至于僧正眞然隨身藏置高野寺、其後律師無空、爲彼寺座主、持此法文、出於他所、無空沒後、其弟子等不返納、所々分散、右大臣忠平奏事之次、語此事間、惜根本法文空欲散失、去年十二月語觀賢令尋求、昨日令申求得由、故召見之、

○東實記劍東寺三十帖冊子

六月

十一日、依穢內膳部等不足可供神事數、仰大納言藤原朝臣、以大膳膳部等、借補內膳膳部不足之數、令供神事、此夜、於神祇官行神今食事、

云々、作日、有淑景舍大死穢、仍不御中院、付所司被行、○西宮記神今食

十二日、主殿、主水等寮司、供解齋手水粥等令問、

前例、申云、雖有穢、下供神事、猶供解齋、手水粥等云々、案事意、有齋而後可解齋、而依穢不齋、宜無解齋、此例已以迂誕、後宜改定之、

○西宮記神今食

十月

廿日、召武藏御牧司道行、賜衣十條、○西宮記駒寮

八日、幸朱雀院、爲覽造作及御馬也、至柏殿云々、王卿下殿持右京職御覽、侍從大夫職官人同持之、至

庭中覽了、召膳部下給云々、左衛門督藤原朝臣請捕魚、依請、左衛門官人率門部令昇網參入、

施網前池、得鯉鮒十餘條、於御前調供、又於東砌下調給侍臣了、雅樂於池上奏音樂云々、○西宮記諸社

行幸、花鳥餘情、

十九日、幸北野、大將不參、依承和例無大將也、云々、鵠鷹鷹飼兼茂朝臣、伊衡、言行、以上青麴履、雲雁壽袴衣、紅接腰等、但並如去年裝束、但淺紫布袴、

以花摺唐草鳥形、雄鵠鷹飼源茲、同致、小鷹鷹飼源供、良峯

義方、以上四人、檜皮色布袴衣、鳥黃壽鳥柳花形、紫村濃布袴、青接腰帶、紫腰巾、各臂鷹鵠、八

人、小鷹東西、立版位、西鷹々飼御春望春、播磨武

仲、春道秋成、文室春則、各臂鷹一列、立版位西

南、以上四人、紫色絹綿帽子、履纏行襪並如去年、非制、紫雲魚繪袴衣、去年用黃色衣、其色非宜、仍改用之、但鷹飼行時衣、

與前、雄鷄次在其前、小犬養八人、候安福殿前、犬養裝鷹次之、應在、近衛陣前、束如、去年、犬養衣袴、去年用、賀布、今年改、以給草、云々、畢乘爲、自餘如、去年、犬養等行時名在、鷹飼邊、云々、

與到、知足南院、隼人、左右衛門、左右兵衛等陣、及侍從等、以次倚留、鈴印及威儀御馬等留在與後、

親王公卿等候與後邊、左右近陣左右開帳並行、

即鷹飼等皆解大緒、就舊云々、到船岡下與就、

輕幄座、仰親王納言令就舊、即中務親王、上野親王、敦實親王、太宰帥親王、左衛門督藤原朝臣、

左兵衛督藤原朝臣等、起座改服、各著舊衣、還著、常陸親王參來、又著、舊衣、仰可供、舊、親王公卿惣八人、而衆樹有所病不參入、故有七人、

給酒兩三巡後、鷹飼等持鷹授衣納言以上、

左衛門督藤原朝臣鷹、中務卿親王、上野親王、敦實親王、左兵衛督藤原朝臣並、帥親王雄鷄、但左衛門督依使鷹、著行鷹、自餘騎狩只著、

即各臂鷹大退出、騎馬始日船岡北野就

信、鷹飼及小鷹等相隨入野、于時乘腰輿就西岡

上、望見堀也、○西宮記野行幸

同十九年

正月

正月初

正月初

正月初

正月初

一日、大臣依申有小朝拜、午三廻、坐帳中、

皇太子參上、於東又廂一拜舞、了退出、四廻、親王

以下於東庭一拜云々、○西宮記小朝拜

中務唱見參、唱者列立、韓橫西北邊、此衣就服位、違例、○西宮記元日節會條拜書

七日、依入夜、減舞數、○古記久安四年正月一日下

廿一日、獻題後、仰右大臣女御藤原能子可加從

四位下事、大臣退下、令成三位記、令伊衛仰大

臣、宜侍座令納言行之、良久左兵衛督藤原朝臣

奏三位記、又捺印奏之、仰令內侍就給、○北山抄內實日、據日本記略、廿一日庚寅內宴仁壽殿之文、載此、

三獻了、內教坊別當下殿取舞奏、上御前退出、進

奏暫奏樂、前例文人著坐之後、進奏之樂、今日退著座、已移時刻、仰先令奏樂、不可爲例云々、侍臣

等賜紙筆、先列文人進著座之後、給帶筆、今日先給失誤、○撰集秘記內宴條不注、月日、據紀略、載此、

二月

六日、此日代明親王加三元服、親王年十六、午廻、藏人立

大床子於東庇、又敷親王加冠座茵、又於東又庇

敷加冠人茵、并如克明親王時座、未三廻、代明親王參上侍侍

侍

侍

所、令召之、親王進侍座、又令侍臣召右衛門督藤原朝臣、進著座、侍臣等置髮御調度於親王座東邊、仰藤原朝臣、令召兼茂朝臣、兼茂朝臣進跪南階、仰令理親王髻、訖退候、藤原朝臣、以冠加親王首、訖退還、兼茂朝臣參進理髻、訖親王退出、於射場改衣服、藤原朝臣兼茂朝臣相從退出、親王改衣服、訖入自仙華門、進庭中、拜舞退還、時申三刻、令內侍喚藤原朝臣、藤原朝臣進著座、女藏人持祿給、白襦衣一襲、御衣一襲、但無表衣、藤原朝臣下殿拜舞退出、又召兼茂朝臣、兼茂朝臣進至南階下、女藏人又以祿給、白襦一、御阿古女、兼茂朝臣又下殿拜舞、暫中務卿親王以下、殿上侍臣、藏人所等執御贄、進自瀧口、列立庭中、皆口人少不得調、內々此院所調、右衛門督藤原朝臣侍前、問之、中務親王云、代明親王進御贄、以下稱物名、訖藤原朝臣云、給膳部親王、稱唯喚膳部、內膳正率膳部、稱唯入自仙華門、來受之、執餘御贄者、同南度付膳部、于時、令代明親王參入於六條

院、此日仰內藏寮給殿上男女房饗、親王家調屯物、給所々陣々、於親王直曹邊立之、班給諸司、內々此院所調、承和例、及克明親王時、親王家給殿上及侍從等、此度仰停止事、任簡略之也戊剋、召中務卿親王、克明親王、右衛門督藤原朝臣、參議衆樹朝臣、恒佐朝臣等、及侍臣於前、給酒、暫令絃歌、又召樂所管絃三四人、同令奏、亥剋、親王及右衛門督藤原朝臣等還來、

藤原朝臣與親王共參入、及三子剋給祿、殿上五位已上、內侍取物參正續、女房同、同三剋入內侍臣等退出、議已上卿加給御衣、六位及樂所部類記又同

三月

三日、

圖潔齋之間、必不可有官奏云々、延喜十九年御記○北山抄、江

次第三月三日御燈、

四月

廿四日、使掌侍守子申有、病不堪、騎馬由、殊許

乘車、○西宮記實茂祭條裏書

七月

十二日、御南殿北廊、召樂所人、令奏所習

○曲力
之由、樂等、南殿西面北
上、○西宮記臨時樂

九月

十日、令仰大臣、忠幣物依今日在三藏內、不可

下、明朝以在下之幣物、可_レ行_レ之、○西宮記例
幣條裏書

十一日、八省院奉幣如常、訖還宮、○西宮記例
幣條裏書

十一月

二日、令仰右大臣、忠二事、又令仰故大僧正空

海自唐持來真言法文策子、令藏東寺、不出他所、

并真言長者阿闍梨一人永代、可_レ守護之由、可_レ被

仰彼寺事、此法文事由、具去年三月一日日記、權大僧都觀賢

上請蒙公家宣旨、嚴重此物又新造納此策子料宮、

以今日可_レ送遺彼令藏人所藤原幾絲送付可_レ納其言

法文、當一合於權大僧都觀賢許、○東寺要集圖
東寺三十帖冊子

十二月

廿一日、御佛名云々、了給法師等衣、僧退出、

內藏依給王卿酒肴、更召雲晴法師、令唱一句、

訖令右大將藤原朝臣仰云、奉仕佛名事、年歲已

久、殊任權律師、雲晴隨喜、前時平勢勝延等偏依

化他之道、任綱維之職、雲晴雖不及前人、於

當今頗有_二一日之長_一、故有此會釋、此間給歌、又

折削花、爲_二插頭_一、有_二和歌事_一、暫給雲晴及王卿等

御衣云々、○西宮
記佛名

同二十年

正月

三日、幸仁和寺、○御
遊抄

二月

五日、大內有穢、越中守惟親候陣外、申罷由、

越後守忠紀參、召御前給祿、忠紀有所_レ申、仍召、

○西宮記受領赴任

三月

廿二日、遣宮使於越前國、賜渤海客時服、○扶桑
略記

五月

五日、定客徒可入京日、並蕃客入京之間、可聽

著禁物、召仰瀧口右馬允藤原邦良等、見客在京

之間、每日可進_二鮮鹿二頭_一事、○扶桑
略記

廿七日、明經學生刑部高名參內、令問漢語者事、

高名奏云々、行事所召得漢語者大藏三常、即召之、於藏人所令高名申云、其語能否奏云、三常唐語尤可廣博云々、勅從公卿定申、以三常令爲通事、○扶桑略記

關八日、唐客可入京、辰三刻、申四刻、掌客使季方朝綱等參入、御衣各一襲給雨使、○扶桑略記

關十一日、此日、渤海使人斐璆等、於八省院進王啓並信物、已四刻、親王以下參議以上向八省院、○扶桑略記

關十二日、於豐樂院可賜客徒宴、自夜中陰雨、辰四刻雨止、已一刻出御南殿、乘輿出宮、入御豐樂院、○扶桑略記

關十五日、掌客使民部大丞季方、領大使斐璆別貢物、進藏人所、○扶桑略記

關十六日、於朝集堂饗渤海客徒、並賜國王答信物等、○扶桑略記

六月

八日、齋院宣子內親王、自夜中所病困口、及曉出院、至大宰帥親王桃園、○河海抄
關十四日、文章得業生朝綱、就藏人所令奏渤海大使斐璆書狀、並遺物、仰遣書可返遺物事、○扶桑略記

關廿二日、朝綱令奏遣渤海大使斐璆書狀、客已飯郷、渤海客使大學少允坂上恒蔭等、申遁留不歸客徒四人事、○扶桑略記

關廿六日、右大臣令元方奏領歸郷渤海客使大學少允坂上恒蔭等申、遁留不歸客徒四人事、○扶桑略記
廿八日、仰遁留渤海人等、准大同五年例、越前國安置云々、○扶桑略記

八月

關廿八日、於清涼殿覽信濃御馬廿疋、參議定方候於御前、分取解文、主當寮付頭恒佐朝臣、○西宮記駒率

九月

一日、已刻神泉苑修法結願、召大僧都語談、又召

仁昭法師令侍、仁昭僧部弟子爲修法天供、阿聖施僧都及仁昭衣、故即退出、但僧都內藏寮於御垣下房、加給絹綿、以久侍可歸山也、○祈雨日記
○西宮記

十一月

翻十四日、昨尙侍、令奏下、縫殿寮申、以養田福貞子、請攝田海子死關替、仰得氏人解、申省官、省官補任云々、仰此度依奏、但以後須依國判、可申有之、○西宮記
時一裏書

十二月

十五日、獻荷前云々、了藏人在衛、申犬死事、即令外記勘先例、兼令公卿等定申、公卿等申不可忌之由、仍著建禮門幄、拜荷前如常云々、○西宮記裏書

正月

翻一日、蓋供、例內膳典膳六人、進物所膳部六人、並十二人、供之、而今日有四人違失也、○妙音院相國

白馬節會次第
四日、兼輔朝臣申童親王等參狀、即倚子、親王等

入自仙華門、至仁壽殿西砌下拜舞、依雨不立、庭中云々、召出之給酒祿云々、○西宮記元日
節會條裏書

七日、掌侍有子奏中務省覆奏、去廿八日勅書、依令即奏所給勅書、即令返給也、○北山抄八日元作、一日、據一代要記、
類聚符宣抄等改之

十月

翻十八日、召雅樂寮人於清凉殿前奏舞、立所平文大床子、毯代、王卿候孫廂二間、樂人候北廊、寮官外召馬
允千策、源雅
時、甘南風雅承香殿西砌、立侍臣座、候南廊、右大臣參上發物聲、王卿參上、內藏備王卿候供御菓子干物、雅樂屬船木氏有著鷹飼裝束、臂鷹鴛獨舞、放鷹
樂、新羅琴師船良實、著犬飼裝束不隨犬、權中納言藤原朝臣著小鳥於菊枝、立階前奏云、船木氏有進御贊、召膳部給種々奏舞、大臣仰大允

小子百雄_二任_レ助、大屬氏有任_二少允_一、左兵衛志大石

岑吉任_二權少尉_一、共拜舞盡精妙、大臣已下奏_二絲竹_一

給_レ祿、寮頭案一條、寮官總子、絹布等右_レ差也、○西宮記臨時樂

十一月

圖廿四日、於_二清涼殿_一元服、加冠右大臣、理髮右兵

衛督藤兼茂朝臣、常明有明等親王同日元服、加冠右

近大將藤定方卿、理髮右近中將藤公賴朝臣、臨_レ昏更

召_二親王公卿於前_一、兵部卿親王以下給_レ酒、暫召_二和

琴_一、命_二大臣彈_二絃歌_一、酒盃頻巡、絃管間奏、重明

親王獻_レ物、帥親王等持_レ之、式明有明等親王參上侍

座、重明常明等親王有_レ所_レ煩不參、亥尅給_レ親王以

下祿、○河海抄

同廿二年

三月

九日、有_二殿上賭射_一、○河海抄

廿日、自_レ院令_二公賴朝臣仰_レ雅明親王給可_レ預_二寬平

親王列_二事_一、○河海抄

四月

圖十七日、外記等、依_二穢疑_一被_レ行_二御卜_一、依_二不淨

由見_二賀茂祭延引_一、○玉海安元元年七月十三日

圖大臣令_レ申云、穢事云々、依_二先例_一卜定、被_レ行宜

歟、神祇官卜云、有_二不淨氣_一无_レ應云々、○西宮記賀茂祭

圖廿一日、於_二建禮門_一大祓、依_二賀茂祭止_一也、中納言

橘朝臣、令_二內侍奏_レ明日可_レ警固_二事_一、依_レ請、○西宮記賀茂祭

圖廿三日、停_レ祭依_レ穢也、○西宮記賀茂祭

延長元年

正月

十四日、此夜有_二踏歌事_一、○河海抄

三月

九日、有_二殿上賭射_一、○河海抄

四月

圖十六日庚申、於_二建禮門前_一修_二大祓_一、依_二祭止_一也、

中納言橘朝臣令_二內侍奏_レ可_レ警固_二狀_一、依_レ請、例祭前

一日、召仰_二警固事_一、而昨日公卿皆依_二物忌_一不_二參入_一、

不得行、令問此由、申云、延喜八年、有申日召仰例云々、○西宮記 賀茂祭

七月

廿四日丙寅、辰刻、中宮亮藤原元方候陣外、令藏人頭伊望朝臣、奏皇后產事、朱位男也、即令伊望朝臣問平否、又召元方細問事由、申廻、令右中將英明朝臣又問中宮、暨伊望朝臣奏報、戌刻、英明朝臣奏報、○御產部類記

八月

一日壬申、此日、依中宮誕兒七日、仰內膳司調御膳令供、其羽膳樣、御箭、及馬頭盤酒盞、永院等用、銀時、自餘盛樣器、臺盤□□其上手打飾蠅翼、朱墨等色取之、以白羅爲打敷又仰內藏寮、令賜公卿大夫等饗、及諸所料屯物酒食粥羹等、又裊衣廿條、白絹廿疋、赤絹百疋、綿五百屯、調布五百端、付職司充大夫以下祿料、又穀倉院賜女房酒食、○御產部類記

九月

關四日、牽望月御馬、中納言仲平候於清涼殿令

分取、○西宮記 駒牽

十一月

廿一日、今日有神事、輕服者猶不可參入、雖然、可奉幣使還來夜、及深更、仍右大臣云々等、殊仰令侍從參入云々、○西宮記 臨時五裏書同二年

正月

關九日、正四位下妓子女王授從三位、此女王自陽成院被申停男女御給爵、令叙三位、右大臣云、三位此貴階也、停御給有此叙、恐成後例云々、上皇御旨懇切、故有授之、○西宮記 女叙位

關廿一日、右大將藤原朝臣來自院、有仰云々、近間寂然、甲子日朝、摘若菜奉入之、○河海抄 若菜上

關廿五日、甲子此日自院賜子日之宴、○河海抄 若菜上

關左右大臣起事院御馬被奉入、仰令早牽、大臣稱唯下殿仰之、即分御馬卅疋、入自日花門、時西一尅、○河海抄 若菜上

南廂自東第四間立_二掃頭机一脚、有_二銀山銀水金銀花

樹等、_{○河海抄}
_{若菜上}

圖采女調_二和若菜羹_一供進、采女又以供_二進餘羹_一給_二時

臣、盛_二中院_一置_二中盤_一、_{○河海抄}
_{若菜上}

圖御馬引出之後、主殿舉_レ炬、雅樂寮入_レ自_二日花月花

兩門、東西相_二立承明門前_一、_{時西上}遞寮_二舞曲_一、唐高麗各

二曲、_{○河海抄}
_{若菜上}

圖橫笛、琴、箏、和琴、次第取_二一物_一、各有_二其袋_一、笛

着_二松枝_一、同御引出物也、_{○河海抄}
_{若菜上}

十一日、參_二中六條院_一、已刻出_二南殿_一、少納言於_二承

明門壇上_一、奏_二請鈴由_一、_{依雨濕於}壇上奏_レ之云々了、召_二左大臣_一

語云、若奉_二御酒_一如何、大臣云可_レ宜、即把_二御盃來

授、持_レ之進跪_二御座前_一、左大臣把_二銚子_一盛奉_レ之、

即進_レ之、法皇指令_二先飲_一、申云、尊不_レ可_レ有之事也、

固辭再三、遂不_レ被_レ許、即飲_レ之、置_二盃於下_一、大臣

又以_二御盃來授_一、即奉_レ進_二盃_一、而退_二於南廂_一舞踏復

座云々、_{○西}
_{宮記}

四月

十七日、祭也、出_二御南殿_一、覽_二使等_一、_{○年中行事抄}
_{師光年中行事}

十一月

圖廿一日、還御之間、近衛大忌陣、或時相_二副於小

忌陣_一祇候、是已違_二式文_一也、被_二糾仰_一、_{○九條年}
_{中行事}

十二月

圖晦日、雪降、親王公卿侍從著_二於承明門東廊外平

座、亥一刻開_二承明門_一、陰陽寮班_二賜桃馬韋矢桃枝於

群官、親王以下著_二深沓_一、自_二壇上_一從_二儺人_一入_二立_二南

庭、訖各隨_二被_レ差之方門_一而出、此夜諸卿曰儺無_二雨

儀云々、_{○西宮}
_{記追儺}

同三年

正月

三日、行_二幸仁和寺_一、_{○御}
_{遊抄}

圖十四日、今朝雪七寸、令_二內藏助仲連以_二綿一千屯_一、

施_二給大內山御室道俗_一、以_二昨日寒今朝大雪_一也、_{○西宮}
_{記初雪}

五月

五日丙申、書司立三萬蒲瓶、糸所奉續命縷一如常、
○河海抄

八月

關十三日、覽秩父御馬、上卿不候、配賜兩寮、

○西宮
記駒牽

九月

十一日、奉太神宮幣一如常、又加奉幣帛、及金銀
鏡劔雜神寶等云々、把笏著座、奉幣如常、別幣同
置例幣案、神寶等內藏寮納辛櫃、便於外付使者
也、○西宮記例
幣條裏書

十月

廿一日、立太子、左大臣令奏宣命、已四尅、出
紫宸殿坐簾中、近仗服中儀、陣殿前、令內侍
召內辨、左大臣參上著座、諸衛開承明門建禮等
門、大臣召舍人、仰可召刀禰事、先是、大臣令申
十一年、寬平五年、宣命時仰召舍人、天長十年、承和九年、仁和
三年、延喜四年等、並不召舍人、開門、即刀禰參入、延喜四年日記
云、不召依天長十年、承和九年、仁和三年例、而承和仁和例、不
必依貞觀寬平例行之、可宜如何、令仰云、見內裏式、無召

舍人、事、仰召舍人、又有其
例、准彼令、行有何事乎、少納言傳宣如常、刀禰四品重

明親王以下、東西相分參入、立定大臣召權中納言藤
原朝臣、授宣命文、大臣下殿就庭中列、即藤原朝

臣進就宣命位、宣制訖、諸大夫拜舞、內裏式云、再拜令
拜舞、依前例歟、

宣制者復本列、即刀禰退出、同刺還來、宮抄

午三刻、召左右大臣、定坊官等云々、又定藏人

殿上人、兩大臣退出、更召右大臣、仰以下左大臣

可爲東宮傳事云々、左大臣令伊望朝臣申云、

隨仰令行差啓陣事、令仰云、太子在內、不可

有別陣、然而寬平五年有左右近陣、須准彼令差

但兵衛陣不可令差、申尅、王卿就洪輝殿東方

令啓慶由、即於凝花舍給饗祿云々、太子幼稚

不可別處、仍有定、令居后宮同殿之、宮抄

廿八日、仰左大臣、令行春宮坊監署除目事、又

仰封事等、宮抄

十一月

一日、仰左右馬寮、依例可令口馬事、宮抄

八日、遣桓武使柏原、深草、後田村山陵、告立太子事、

○西宮記

廿日己酉、向社頭云々、了依向晚陰雲、仰令庭中立幄、及戌刻、使等歸來、給座幄下、酒食如常、供奉神樂、及寅刻給祿退出、○西宮抄

十二月

十八日、於朱雀院試可補帶刀者、遣參議兼

輔朝臣注申其能否、○西宮抄

十九日、於朱雀院試帶刀騎射、○西宮抄

廿四日、自院給可補帶刀者名簿、令申明日

可召見事、○西宮抄

廿五日、出射場殿召之、令射各二度、訖令還參、

○西宮抄

廿八日、召左大臣定帶刀、○西宮抄

同四年

正月

一日、此日當御物忌、而御南殿、但小朝拜之事內

宿侍臣供奉之、○西宮記小朝拜條裏書

二月

十七日、此日殿前櫻花盛開、仰召文人、聊開花宴、

昨暮預令召可候文人、今日遣使召常陸太守貞

眞親王、左大臣、忠平大臣有所煩不參、申剋、常陸太

守親王參入、同剋仰藏人立倚子於東又庇、自北

第二間、敷菅圓座兩三枚於北階南簀子敷、爲親王

納言座、櫻樹下鋪座、西面爲文人座、西廂、左衛

門督藤原朝臣參、即著倚子、令召親王藤原朝臣

等、即參來侍坐、仰令召文人、即文章博士公統朝

臣、民部大輔博文朝臣、右中弁文江、民部少輔諸蔭

侍內御書所、大內記橘正臣以下、文章生以上七人、

參入仙花門、著樹下座、侍臣給紙筆、仰令獻

題、藤原公統朝臣進昇殿、口藤原朝臣座前給之、

令書題自奏、花房紅櫻繁春仰又令上、又書奏之、日斜

仰以後所上爲題、又仰令探韻字、右近權少將實賴探韻奉上、次親王以下、就文臺探韻、仰清

平朝臣、元方、在衡、維時、尹甫等探讀、令就庭中座、于時、內藏寮給酒肴、中納言藤原朝臣參入、仰令探讀、其後仰召樂所管絃者四五人、令奏音聲、以助謳吟、及子嗣終頭取文臺、以公統朝臣爲講師讀詩、仰文人等近侍砌下、令講、其後管絃頻奏、吟詠不止、仰常陸太守親王彈箏、中納言藤原朝臣彈琵琶、朕彈和琴、及丑尅、給親王納言御衣、文人給綿、侍臣及樂所人等給匹絹、寅二尅入內、侍臣退出、○河海抄

三月

延長四年三月六日、有殿上賭射之由見御記、

○河海抄

四月

二日、不御南殿、以平野祭日也、召侍從以上宜陽殿、給酒饌如恒云々、○西宮記十月旬

廿一日、左大臣奏官奏、奉幣諸社、可祈年穀及天下平安事云々、大臣奏陰陽寮擇申奉幣日時文、

擇廿五日而□□也、仍改來月四日、○西宮記裏書

五月

一日、左大臣依服召大納言藤原朝臣、令仰可

差幣使、令案宣命事云々、○西宮記

四日、奉幣十八所云々、○西宮記

廿一日、召興福寺寬建法師、於修明門外奏請、就唐商人船、入唐求法、及巡禮五臺山、許之、

又給黃金小百兩、以充旅資、法師又請此間文士

文筆、菅大臣、紀中納言、橘贈中納言、都良香等詩

九卷、菅氏紀氏各三卷、橘氏二卷、都氏一卷、但伴

四家集、仰進可給、道風行草書各一卷、付寬建

令流布唐家、可相從入唐僧並雜人等、從僧三口、

童子四人、通事二人、勅遣元方於左大臣宿所、寬建

法師入唐之由、宜遣書大二扶幹朝臣許、可仰其

六月

二日、辰一刻、伊望朝臣來、申中宮產事、男也、即

令伊望朝臣問安否、還報、只今無殊事、由、令藏人維時仰內膳司、中宮七日所調供御膳事、內藏寮可設、○御產部類記

圖七日、依有院仰、勅奉黃金五十兩、此爲給入唐求法沙門寬建也者、○扶桑略記

八日、此日中宮七日也、仰內膳司令供御饌、調供事同去元年、但餐盤元年用朱漆、此度以榎木作之、取色目、臺盤數及銀器物打飾等如元年也、仰內藏寮、賜公卿大夫女房等饗、公卿饗設桂芳坊西廂、女房設北廂、侍四位五位及侍臣大夫饗門東廂、又調屯物食、以被物料衫衣及絹綿布、

碁手錢、預職司令給、白微十五領、赤微五領、衣廿條、白絹布五百段、碁手四十貫、也食廿具、但綿已上今納辛糧十令、臨夜供御膳、左大臣、右大臣、大納言藤原朝臣、參議邦基朝臣等著饗、及寅剋各退出云々、○御產部類記

七月

九日、去月廿三日、式部省奏省試判文、其判及第者

三人、○河海抄

八月

十六日、參六條院、召大臣親王等給酒肴、奏絃歌、左大臣奉法皇御盃云々、左大臣請雅明親王令勅授事、大臣傳命旨、此事專不欲令然、又申云、此事只非親王而已前至六位、皆有此例、今日蒙可許、最幸甚、大臣遂不許所請、奉命間、法皇脫御橫被給之、即拜舞退出、○西宮記

九月

圖廿九日、於女房侍、命九月盡密宴、撤中度殿隔、設華燭於菊花間及欄頭、令親王及侍臣獻詩奏絃歌、式部丞維時獻題、彈正親王奏之、盛探韻字楊宮、置之欄東、勅維時探御料、次親王以下探之、召源脩於壺中會彈琵琶、事了右權中將伊衡於欄西南唱殿上見參、有勅令唱脩名、給親王三人御衣、五位以上四人白襦、自餘此日不給、○北山抄

圖十九日壬寅、奉爲太上天皇增寶壽、京邊七個寺、南京七大寺修御誦經、施用絹六百疋、布六千端、京七寺、東寺、西寺、延曆寺、東塔大和寺

以上五所、絹各百疋、淨福寺、圓城寺二所、各五十疋、七大寺東大寺、興福寺、元興寺、大安寺、藥師寺五寺、布各千端、西大寺、法隆寺二寺各五百端、其使七寺遣五位侍從、仰其由、又以穀千二百石、行施行事、令檢非違使、及諸衛人分三行其事、檢非違使於朱雀、給會集者、大夫諸衛官人給京中隱者病者等、勅言、今年當太上天皇六十算、欲算賀事、而去年五月、令公賴朝臣有仰旨、傳曰、聞可有奉賀事、更不可行、仰旨兩廻、事趣切至、難違勅命矣、○扶桑略記、河海抄若菜上、

廿八日辛亥、此日、行醍醐寺新堂釋迦佛像、并四大天王像開眼事、依眉間玉未造、不行菩薩開眼、不便藏人近江大猷尹輔、以布百端誦經、兼見其事、令奏、具書附扶桑略記、醍醐寺繪事記

同五年

六月

閏四日、左大臣參入云々、內藏寮申云、寮中有犬、昨

入小兒一腰脛色懸、令勘爲穢不之由、貞觀十九年四月有如此之例、彼時不爲穢、行諸祭事、自今以後有如此事、更不可爲穢者、○西宮記臨時十二裏書

十六日癸未、此夜丑刻雨降、及寅止、自去四日以後久不雨、○智證大師記所載御記抄

十八日、令淑光朝臣仰左大臣、近日久不雨、傳聞、漸有愁申處、而公卿不申此事、若未可祈禱歟、大臣令申不雨漸久、祈禱可宜事、○智證大師記所載御記抄

廿二日、奉幣帛八社祈雨、○智證大師記所載御記抄

廿五日、左大臣令實賴中、一日降雨、只降京邊不及遠處云々、重祈禱可宜、○智證大師記所載御記抄

廿七日丙午、此日、奉幣八社祈雨、○智證大師記所載御記抄

廿八日、令時望朝臣仰民部卿藤原朝臣云、頻有奉幣事、未雨氣、爲之如何、若依例可令卜

果、○智證大師記所載御記抄

七月

一日巳酉、左大臣令_下時望朝臣中_中被_レ行_二奉幣_一事、猶

未_レ有_二雨氣_一、若尙不_レ降、恐致_二損害_一歟、被_レ定_二

行季御讀經及修法諸事祈禱事等_一可_レ宜、民部卿

藤原朝臣參入、以_二淑光朝臣_一仰_二季御讀經可_レ令_レ行

事、又仰_二修法事_一、阿闍梨仰_二律師觀有_二神泉_一、○祈雨日記比智證

大師記所載御記抄

二日庚戌、民部卿藤原朝臣、令_下淑光朝臣中_中七大

寺及有封諸寺、令_二讀經祈_レ雨事_一、依_レ請、○祈雨日記比智證大師

記所載御記抄

三日、午_三二尅、暴雨雷電、及_二四刻_一止、○祈雨日記比智證大師記所載御記抄

七日、仰_下淑光朝臣、神泉修法可_レ延_二三一_一日一事、依_二降

雨潤少、兼可_レ祈_二五穀生熟_一也、○祈雨日記比智證大師記所載御記抄

十一日、自_二申尅_一時々雨降、及_二申宵_一止、○祈雨日記比智證大師記所載御記抄

十二日、天氣晴明云々、○祈雨日記比智證大師記所載御記抄

同十七日、未一刻以後密雨、○智證大師記所載御記抄

同六年

正月

同六日、仰_二左大臣_一、以_二醍醐寺延性法師、真崇法師_一、

爲_二內供奉十禪師_一、醍醐寺雜事記

同十日、使_二藏人所源國興_一、遣_二齋內親王位_一記、○西宮記

女叙位

十二月

一日、神祇官中、御卜間、例無_二行幸_一云々、○權記長保二年七月十日

日三

同七年

正月

一日、四位以上命婦無_レ可_レ供_二威儀_一者、仍檢_二前例_一、

寬平八年正五位下藤善直爲_二四位代_一、又蕃客時諸衛

督佐代皆以_二五位六位官人_一權充_レ之、各服_二本職位

服、以_二此事_一仰_二左大臣_一、令_二定申_一云、男官皆用_二代

官、於_二女官_一何無_二其事_一、況有_二寬平例_一、被_二循行_一可

無_二何事_一、仍以_二五位爲_二四位代_一、各著_二其色服_一、令_二供奉_一、又奏_二賀仲平進_一奏瑞_二者_一、玄上不_レ進、內裏式

云、奏賀奏瑞者共進云々、其注云、無瑞者無奏詞、案此式、雖無瑞、猶與奏賀共進可就位、仍檢前例、弘仁口年、仁壽三年、奏賀奏瑞共進、依無瑞不奏、貞觀六年日記云、承前之例、雖無奏瑞事、猶置其人、而別有新式不置其人、亦無其位、其外年々不見奏瑞人奏否由者、但寬平八年朝拜時、四位侍從忽闕、以奏瑞人一補侍從即知奏瑞不進者、延喜二年奏賀者獨進、然則仁壽以前依式行之、貞觀六年以後無瑞、不設其人、而今設其人置其位、而又不進、皆無所據、須後日一定云々、○西宮記朝拜條裏書

七月

一日壬戌、祈雨御讀經結願也、遣延光朝臣於大極殿、仰云、所祈雨快降、依有感應、賜法師等度者各一人、○智證大師記所載御記抄
二日癸亥、此日降雨、及晚漸晴、○智證大師記所載御記抄

七日戊辰、右大將藤原朝臣令藏人為光奏室生龍穴神社兩所奏讀經遍數、因使權律師祥延申下加叙龍王階、兼因准舊例、施給度者十一人、又云、不仰可祈加龍穴神位階事、而祥延自所祈願也、令仰云、非輒祈、神位階事不可然、而已可申請有感應之由、何无報賽、須體問申云々、○智證大師記所載御記抄
年月日未詳

內裏有穢、不可御正殿御衣、內藏寮人、夜中皆在內裏纏所、仍仰縫殿寮、受大藏御服帛、忽調御服御衣、即彼寮送宮內云々、又內侍藏人皆參侍內裏、仍仰次女史命婦安部靜子、為內侍代、壹志厚代為藏人代云々、○北山抄十一月甲寅鎮魂祭
內膳自西階供御膳、其膳供精進物、○河海抄榮上
叙親王以參議為代官、仍留外辨相引參入、其列在親王次、或在親王前、或列三位下參議上、共為失誤、見延喜御記、○北山抄正月七月銀位

延喜御記云、侍從代者、猶召三加四位六位者不

叶者云々、延喜御記可尋見一歟、○後六條師通記寬治六年三月十九日

石清水放生會、依御願被行由、載延喜御記、

○年中行事秘抄八月十五日放生會

寬平法皇、奉御盃於醍醐天皇、天皇給之、召

御笏奉舞踏一由見、彼御記、○世俗淺深秘抄

御物忌之時垂御簾、觸穢之時猶有御拜之由、

見延喜御記、○禁秘御抄每恒例次第

延喜御記、群列櫻木東頭有之、○禁秘御抄草木

凡補藏人、延喜天曆御記、頭奉勅向大臣亭

仰之、又召御前仰之、○禁秘御抄藏人事

如長寬二年勘文者、延喜御記中、有太神宮與

豐受宮一如君臣之文云々、○皇宇沙汰文

三代御記下

藤原廣呢謹抄

村上天皇御記

○天曆御記

天曆三年

三月

三十日癸酉、此日於藏人所、有尚書竟宴、博士

直講六人部忠常、尙復明經學生浮島仲陳、鴨連輔

等也、前三日各免詠爲仰、內藏寮令儲饗僕、前

例聽此講者、各出備物、此度饗殊件寮令儲之、

博士座在公卿座末、殿上親王公卿座設南廂、北

上東西面、又今日公卿不着、尙復座在殿上人座末、

殿上人座南上東西面、尙復二人之座南面也、藏人所

座在宿所內、○垂幌殿上四位遞起勸盃、蓋尊重博

士矣、數巡之後各獻詩、仰藏人所雜色文章生橋爲

政令作詩序、獻畢復召御前、令式部大輔維時

朝臣講、事了博士尙復等給祿、○博士絹六疋、尙復二人各三疋、○西宮託藏人所講書

十月

翻廿三日、於仁壽殿、覽後院利山萩原御馬、近衛府分取、遣給當時親王等、遣給垂水御牧、○西宮記御率
同四年

四月

翻四日辛未、仰云、今年賀茂祭當本月十七日、而內裏有穢、十八日可滿已齋內也、先例齋內穢時從停止、又有御卜停止、與以下申酉、令祭吉凶一事也、○年中行事秘抄四月賀茂祭

翻五日壬申、口鳴下社禰宜是秀、上社禰宜祝春里、

仰云、今年祭當十七八日、而內裏依有穢停彼日、但下申酉當廿九卅日、可被供奉、但神祇官卜云、被延引可宜、若臨彼期、有不淨氣歟、上卿宣奉勅、於明神社各致誠可祈申者、件祭有穢從停止、而今有朝議、以廿九卅日可祭云々、

○年中行事秘抄四月賀茂祭

翻廿七日甲午、賀茂祭御禊也、○年中行事秘抄四月賀茂祭

翻卅日丁酉鴨祭也、○年中行事秘抄四月賀茂祭

七月○十二月カ

廿五日、民部卿藤原朝臣令奏明日山陵宣命草、申云、山階、後山階等使申障、須差中納言源朝臣、而申穢由、至于山陵不可忌歟、令仰云、山陵不忌穢、又內裏有觸穢事、宜差充源朝臣、○西宮記

十月

翻廿日、參議保平致仕、遣左少將伊尹、口勅許所謂管乃眞○西宮記、召內記於陣、賜辭狀、次賜承知官符、○西宮記

十二月

翻廿三日、御佛名竟夜、曉錫杖間、簾中調琴音、三禮間、頭雅信朝臣、自簾中以御衣一襲給淨藏、又召公卿侍臣塗籠口、有遊盃酒興、延喜十三年例、御導師景鈴、○西宮記

記佛名

翻使立事、依無日次、陰陽寮雖撰申十三日、猶可用後日也、其故、一年累常物事、當神今食御齋故云々、見村上御記云々、天曆四年也、○年中行事秘抄十二月荷前

同五年

十一月

十九日、參內奏宣命、次官眞忠朝臣^{行カ}不申^ニ故障^一不

參、仍奏事由、改代^ニ左中辨好古朝臣云々、^{宮記}西

同七年

正月

八日、於雲林院^令轉^ニ大般若^一、^{海抄}河

閏正月

廿八日、令^レ請^ニ小野之盛爲^ニ院^{冷泉院}預事、依^レ請、以^ニ之

盛^令補^レ預、^{河海抄}

二月

十二日壬戌、丑刻藍齒町有^ニ出火事、延及^ニ神祇

官、後廳一字燒亡了、遣^ニ左少將國紀防^ニ止其火、

○中右記大治二年二月十五日
○裏書下關扶桑略記

十三日癸亥、令^ニ有和朝臣仰^ニ左大臣、可^レ令^レト^ニ

神祇官火事果事、可^レ行^ニ大祓事、遭^ニ失火^一百姓賑

給例、宜^ニ勘申^一、又令^レ給^レ祿^下去夜失火、登^ニ神祇官高

倉^一撲滅火^上者事、左大臣令^下有和朝臣奏^中陰陽寮

擇申大祓日文、^{十四日、十九日、}令^ニ改勘申^一、又令^ニ陰陽寮占^ニ申

今夜有^ニ失火事^一延^ニ及神官事、文推之含^ニ怨靈氣^一所

致云々、仰^ニ同伴寮、右件失火穢同宜^一勘申、其雜

物觸^レ穢否、并延引之例等、左大臣令^ニ有和朝臣奏^ニ

少外記御船傳說勘申失火百姓賑給例文、^{承和九年七月十九日、寛平}

三年六月十九日、延喜十年二月十九日、同^ニ十四年四月二日、同年五月二日有^ニ此例^一、又勘^下申有^ニ式日^一祭

延^レ日之時、以^ニ後日^一祭例文、神祇官勘^下申園韓神祭所

用神寶裝束、并供奉官人以下狀文、又勘^下申今夜

失火間登^ニ高倉^一消^レ火者交名、^{山城國乙訓社祝部貴茂}陰陽寮改

擇^ニ申大祓日時文、^{今日、}令^下仰^ニ遣檢非違使^{注申}申燒

亡烟、依^ニ前例^一以^ニ米鹽^一令^ニ賑給^一、園韓神祭以後丑

日可^レ令^レ行、撲^ニ滅火^一者眞茂可^レ令^レ給^レ祿、又大祓

日依^ニ定日^一、^{○中右記大治二年二月十五日下}

十八日戊辰、詔於^ニ雲林院^一始奉^レ造^ニ御願小多寶塔

八基中佛像、^{○扶桑略記}

廿日庚午、始^レ自^ニ今夜^一、於^ニ仁壽殿東西庇^一、以^ニ權

大僧都延昌、權少僧都寬空、各始修法、番僧各廿口、並爲息災也、○扶桑略記

廿三日癸酉、伊豫國封廿五戶、奉充石清水護國寺、○扶桑略記

廿七日丁丑、此日園韓神祭也、依神祇官失火延及□□、○中右記大治二年二月十五日裏書

四月

十一日、依物忌不出、令仰公卿依例可賜侍從等座事、左衛門督高明令奏見參如例、○西宮記

七月

十七日、奉幣神寶於宇佐香椎、了大日僧都觀空奉觀音供如常、○西宮記進發宇佐使

廿八日、未刻、出仁壽殿、覽左右內取、依左右大將不候、右內取之間召左衛門督惟口、令候云々、右府小野命云、於清涼殿御覽、大將若上達部候時、東孫廂敷菅圓座、爲非參議將候、座力資子無圓座云

云、○西宮記相模

九月

十五日、左大臣令清時奏外記勘申九月行除日、例、令仰以廿三日可○西宮抄除日行、

廿三日、始議京官除目云々、○西宮抄除日

十一月

二日、右大將令有相朝臣奏陸奥臨時交易御馬十九疋解文、昨日付令於仁壽殿、覽中宮大夫藤原朝臣顯忠

候御前、令左右次將分取、了先以二疋給東宮廐、還清涼殿、○西宮記駒引條裏書

同八年

正月

四日、母后崩、○河海抄

太后於昭陽舍崩、其後移住清涼殿北近廊、殿上侍臣候瀧口所、自子刻內豎不音奏、○西宮記裏服

七日、左大臣定奏任御葬司事、又仰諸衛警三關、固關如例、可停止素服舉哀事云々、

今夜奉_二太后於二條殿、_一○西宮記裏服

八日、停_二御齋會、_一○年中行事秘抄、按三僧記類聚云、御齋會延引例、天曆八年正月廿二日被_二始行、依_一

去四日太皇太后御事、式日延引、

○十日、亥刻坐_二倚廬、_一或曰、發_二裏日可_レ移件廊、_一即著_二

素服、_一鈍色_二紫布、_一衣袴、同刻、左大臣及殿上侍臣女房

等、於_二修明門外、_一皆著_二服素服、_一今夜有_二太后御葬事、_一

於_二鳥部東山邊奉_二火葬、_一近習官女等拾_二御骨、_一○西宮記裏服

○十一日、早旦遣_二右中將重光於葬所、奉云々間、從_二

今日、以_二黑衝重_一供_二御膳、_一○西宮記裏服

○十六日、左大臣宣、令_二解陣開關云々、_一○西宮記裏服

○廿二日丁酉、初修_レ之、○年中行事秘抄

○除_二喪服、_一出_二倚廬、_一先是、內匠撤_二畫帳、立_二白木

帳某帳、_一並_二懸_二鈍色帷、_一撤_二大床子並御座等、_一儲_二鈍色端疊

茵等、_一侍臣女房等出_二修明門外、_一除_二素服、_一著_二皂衣、_一

○西宮記裏服

○廿三日、初以_二黑漆器臺盤、_一供_二膳、_一○西宮記裏服

○廿四日、今朝撤_二却常御簾、_一改_二懸蘆簾、_一以_二鈍色細布、_一

爲_二端冒額、_一○河海抄、_一西宮記裏服

○廿九日、內匠寮撤_二夜御帳、_一替_二御屏風、_一○西宮記裏服

二月

○七日、始政、大臣用_二平敷座、_一○西宮記裏服

○廿二日、當_二太后七々御忌、_一仍本宮於_二二條院、_一修_二

法會、_一午刻著_二東廂座、_一眼墨襖袍、鈍色下裳、同表

都延昌參上、供_二呪願、齋會如_レ例、_一先是每_レ當_二七日、_一

齋食、但不_レ召_レ僧云々、○西宮記裏服

○廿三日、始上_二御簾、_一○西宮記裏服

三月

○二日、御四十九日間候_二二條院、_一二十口僧給_二度者

二十口、_一於_二法性寺、_一爲_二太后修_二法會云々、_一僧等

給_二度者、_一朝綱朝臣作_二願文、_一吾自書_レ之、其文云々、

皇帝成、_一稽首和南云々、○西宮記裏服

四月

○七日、給_二右大臣文章博士等申、_一令_二歷_二試得業生

菅原輔正_二文、_一仰_レ令_二勘_二諒闇年課試之例、_一○西宮記裏服

九日、左大臣令_成藏人元輔、奏_了延長五年十一月廿一

日散位治方不_レ向_二任所_一解任、宜_丙預_二節會_一給_レ位祿宣

旨、_先日給_令勅_中、令_二仰云、准_二件例_一、參議朝臣雖_レ辭_二大

貳_一、宜_下從_二例務_一兼給_レ位祿_上之、_西宮抄

爾廿三日戊辰、於_二七大寺、東西寺、延曆寺、並諸社_一

讀經祈_レ雨、_日記_{祈雨}

爾廿五日、右大臣令_レ奏云、令_三輔正歷_二試文_一、_{制式部}省勘申、

文章得業生、諒闇之間奉_レ試例文云、元慶四年十二月天皇

崩、而文章得業生三善清行、同五年四月廿五日奉試云々、仰依_二件

例_一依_レ請、_時一裏書_{西宮記}臨

五月

一日甲戌、大原野社御讀經使律師濟源不_レ到_二彼

社、仍擇_二他日_一令_二讀經_一、依_二旱氣之盛也_一、又依_二先

例_一、奉_二幣丹生貴布禰社_一、又於_二龍穴_一讀經、東大寺大

佛殿同令_二讀經_一、又給_二官符於諸國_一、奉幣讀經令_二祈

雨、_日記_{祈雨}

爾九日壬午於_二大極殿_一行_二祈雨讀經_一、_日記_{祈雨}

爾十一日甲申、令_レ仰_下祈雨讀經可_レ延_二三二箇日_一事、

○祈雨
日記

爾十七日庚寅、於_二東大寺_一祈雨御讀經日時定、此日

雷鳴樹雨、不_レ及_二濕_一地晴、_日記_{祈雨}

爾十八日辛卯、醍醐座主權律師定助參上、供_二觀音

像、令_下伊尹仰_下定助可_レ修_二請雨經法_一事、令_レ申云、

當宗上諸僧綱多數、仍不_レ能_二專一供奉_一、午後樹雨、

不_レ及_二地濕_一又止、_日記_{祈雨}

爾十九日壬辰、陰陽寮擇_二申五龍祭日_一時廿三日、_日記_{祈雨}

爾廿一日甲午、午刻、雷鳴降雨、日來炎旱今日降雨、

○祈雨
日記

爾爲_二御厨子所_一定外膳部、以_二壬生忠見_一、_{本名}實子爲_二定額

膳部、_三三十六_{人歌仙傳}

六月

爾十九日、一品康子內親王、令_下右中將朝成奏_二辭_一

封戶年官年爵_二之表_一、_{西宮}記論奏

爾二十日、遣_二左近少將藤原國紀_一給_二勅答_一、不_レ許_二

所請之旨、○西宮
記論奏

七月

十四日、備御瓮八十口、被送醍醐法性兩寺各卅

口云々、○左
經記

八月

卅廿日、令元輔仰左大臣、以陰陽頭茂樹可爲

桂院別當云々、○河
海抄

九月

卅四日丙子、奏雅子內親王薨狀、即下御簾、西

刻著錫紵、此般不儲冠、依期年心喪著重服冠

也、○西宮
記裏服

卅七日、除錫紵、此日復日也、○西宮
記裏服

卅九日、大貳元名朝臣令申赴任之由、召御前

參上南廊小板敷、令大納言藤原朝臣傳仰旨、次

給御褂一重、支干染依心喪、元名拜舞退、○西宮記太
宰帥赴任

十月

卅七日、召後院路御馬、於本殿覽、二疋賜左右寮、

又賜親王外戚侍臣於中隔取之、○西宮
記駒牽

十月

卅十四日、令國光給左大臣小野右馬寮申可飼白

馬料物文、仰令勘諒閏年養白馬例、○西宮記
白馬節會

十二月

卅三日、左大臣令奏外記勘申諒閏年白馬事、副右

申白馬飼料文、文殿勘申檢、前日給令勘申、一昨日付令

奏、依無例留中、○西宮記
七日節會

十一日、神今食祭云々、參議正明朝臣一人行祭事、

又以辨代官令供奉云々、○西
宮記

卅十三日、令仰大納言源朝臣云、今日不能山

陵廢置事、須定此事之後、可定荷前使者、○廣弘明
記

年十二月
十五日

卅十五日、給左大臣、少外記博說勘申山陵國忌廢

置、又勘申生二帝以上之太皇后山陵事、仰令定

可廢山陵、○西宮記臨
時裏書

卅十六日、左大臣令奏云、貞觀勘申續日本紀等

文、生二帝皇后國忌此日定仰停三鳥戶山陵、贈皇太后以三宇

治山陵二代之、先皇太后也、○西宮記臨時一裏書

嗣公望勘下申生二帝皇后國忌不廢之日本紀等文上

云々、○西宮記荷前

廿四日、奉三荷前云々、相三當物忌之中、諒闇年々不

御三建禮門、仍今日不三親拜、而後檢三承和九年荷前

例、天皇御三前帳、然則不御失例也、○西宮記

嗣廿七日、左大臣令下藏人元輔、奏中請三停三六月三十日

贈皇太后國忌論奏上云々、○西宮記荷前

同九年

正月

嗣廿五日、右大臣令下奏縫殿寮申被給三宮符於大和

近江國氏人、令下差三進猿女三人死關替文、猿女氏高

橋岑則等、早被三補下、任三宮符勤御鎮魂、未三補

任三猿女一人猿掌狀文、○西宮記臨時一裏書

天德元年

閏三月

嗣僧無三傍親服、見三天德御記、天德元年閏三廿七、○拾芥抄

五月

嗣廿日、延曆寺三綱卒三衆於修明門上三賀表、藏

人大江齊光傳取奏覽、令三藏人頭左近中將藤原伊尹

仰三覽由、去延曆元年、以三增命三爲三僧正之由有上

奏事、依三彼例、藏人傳取表頭仰三勅答、○西宮記論奏

同三年

十月

三日、參議左大辨好古、令三藏人申云、今日言上秩

父御馬延期解文、而依三公卿不參不令奏、令

仰三明日可令奏之由、○西宮抄別牽條裏書

嗣十九日、召三內教坊妓女十人、令三奏三絲竹、其儀、中

渡殿御簾中、敷三疊六枚爲座、女房侍前小緣敷三疊、

爲三唱歌侍臣座、中宮賜三銜重於妓女、內藏寮設三侍

臣饗、事畢、中宮以三袴十具給三自三納殿、以三疋絹三

給、○西宮記內教坊舞、河海抄、

十二月

圖十日、官奏後欲_レ奏_二御體御卜文_一、而內侍不_レ候云、仍令_二賴忠朝臣、申_二可_レ給_二代官_一由、而仰云、或時令_二藏人男等奏_一、准_二彼例_一可_レ行者、經_二階下_一參進奏聞云々、宮抄

同四年

正月

圖六日、始_レ自_二今日_一、於_二天台大日院_一修_二熾盛光不動兩壇法_一、又令_レ轉_二讀大般若經_一、並七箇日、爲_レ消_二天變_一也、遣_二藏人修理亮平珍材_一仰_二事由_一、兼賜_二度者各一人_一、○天台座主記

圖廿四日、左大臣語、未一刻諸卿參上、議除目云々、議了、參議藤原元名兼_二任讚岐守_一、太宰大貳解由依替人未_二任到_一、不能_二放與_一而設大納言扶幹未給、大貳解由任左大辨、准_二彼任_一之、○西宮抄餘目

二月

廿一日辛卯、於_二大日院_一修_二熾盛光法_一、限_二五十個日_一、

○天台座主記

圖廿七日、民部卿藤原朝臣令_レ申云、主計大屬小槻忠

臣申、遂_二本寮課試事_一、如_二式部省勸申_一、弘仁十一年有_二此例_一、但非_二近代事_一、若下_二宣旨_一者、他道准_レ此有_二申請_一乎、仰非_二無止事_一、何有_二希有之例_一、仍留_レ此文、○西宮記臨時裏書

三月

一日庚申、宮主直常澄令_二藏人珍材奏_一卜_二御灯奉否_一文、推云不_レ應、不_レ可_レ奉例一日當_二子日_一、以_二三十日_一卜、而今日卜之不_二避忌_一歟、○西宮抄

圖五日、民部卿藤原朝臣以_二藏人藤親子_一令_二內侍代奏_一內案、依_二有_一早給_二宮符_一也、○西宮記臨時裏書

十四日、矢取遞論不_レ申_レ的、仰_二左大臣_一遣_レ使見_二

大臣_一、召_二藏人藤原守仁_一令_二檢見_一、守仁須經_二前庭_一到_二到_一兵部官人候、_二樞實檢_一而從_二後方_一所問、失也

及_二四度_一、又相論令_二仰_一左大臣、大臣遣_二

少納言兼家_一見_レ之、前例遣_二五位_一檢_レ之、前度遣_二六

位_一、違_二舊例_一、○西宮抄賭弓條

若有_二的論_一、有_レ勅遣_二藏人_一、藏人從_二屏幔東_一往返、

或遣_二五位_一、○北山抄賭弓條無月日

卅日己巳、此日有_二女房歌合事_一者、去年秋八月、殿上侍臣鬪詩合時、典侍命婦等相語云、男已鬪_二文章、女宜_レ合_二和歌_一、及今年二月、定_二左右方人_一、就_レ中以_二更衣藤原修子同口口等_一、爲_二左右頭、各令_レ排讀、蓋此爲_レ惜_二風騷之道徒以廢絕_一也、後代之不_レ知_レ意者、恐成_下好_二浮華_一、專內_レ寵之謗、仍具_レ記之、其儀暫撤_二却清涼後涼兩殿中渡殿北郭_一、設_二公卿座於同渡殿之內_一、鋪_二左右方人座於後涼殿緣東_一、左在北、女房又右在北、相分候_二清涼殿西庇簾中第五間_一、立_二倚子_一、便用_二女房侍倚子_一、此間上、申刻就_二倚子_一、良久右方入_レ自_二北方_一、獻_二和歌洲濱_一、沈押物花足淺香下机、繪花柳鳥、花文綾覆、綺地敷、眞衣之童女四人昇之、進_二御前渡殿、算刺洲濱置_二北小庭座之前_一云々、暫左方經_二侍所_一、自_二南方_一、獻_二和歌洲濱_一、紫置押物花足藤方下机、繪_二兼手花文綾覆、綺地敷、更衣之童女六人昇出、如右算刺洲濱、又置_二南小庭座_一、始童女口机下後改置云々、仰令_レ召_二殿上公卿_一、即左大臣_{（實賴）}大納言源朝臣_{（高明）}、右大將藤原朝臣_{（師尹）}參議雅信朝臣、朝成朝臣、參來候_レ座、次各方人侍臣著_レ座、于_レ時日已昏、供燈兼立_二篝火於南北小庭_一、令_レ召_二可_レ讀_レ歌人_一、

左方左兵衛督延光朝臣、右方右中將博雅朝臣、進就_二洲濱下_一讀_二其和歌_一、左作_二金山吹花枝、其葉書歌、右小書_二色紙_一、左近少將伊涉、右近少將助信等、取_二脂燭_一照_レ之、殿上舍人著_二小庭座刺算_一、左大臣評定、于_レ時各方賜_レ饌、於_二公卿及方人_一、讀_レ歌之中、左詠_二鶯歌二首_一、而右誤讀_二柳歌_一、仰_下依_二失次_一爲_レ負、惣甘首、讀合已畢、左勝負九、比_二讀_レ歌終_一、令_レ召_二樂所人_一、和_二分南北小庭_一、遞奏_二歌曲_一、大臣彈_レ箏、大納言源朝臣彈_二琵琶_一、此間盃酒頻巡、絃歌無斷、大臣起座獻_二酒_一、及_二遲明_一、賜_二大臣以下祿_一有_二差_一、大臣夏裝束一襲、大納言白令御衣平一、參議白單重御衣、自餘足絹、旦起座入_レ內、侍臣退出、此曉霜降、近臣云累口霜寒氣口、人恠_二時序乖違_一云々、○內_二和歌合又見於奏略記_一卅日、民部卿藤原朝臣令_レ奏_二外記朝望勘中_一、諸祭有_二穢之時例文_一、仰云、平野、廣瀨、龍田等祭、已有_二越_レ月祭之例_一、須_下以_二五月吉日_一、令_レ祭_二松尾社本當宗等以下_一、申酉、可_レ祭_二大神山科祭等_一、依_二昌泰二年例_一、雖_二非_レ卯巳日_一、以_二月內穢後日_一可_レ祭、至_二于

賀茂祭、依天曆四年例、以丁酉可_レ行之由仰了、
○西宮
記裏書

四月

三日、未刻之、飛香舍以_二歌合_一洲濱、給_二中宮_一還來、
○內社
歌合

西刻、左洲濱給_二昌子內親王_一、
○天宮
座主記

十日、今日相續於大日院修熾盛光法、限_二五十日_一、
合_二前惣百口_一、並爲_二消_一天變也、

十一日、右大將藤原口口令_二延光朝臣_一申云、齋院御

禊前驅申_二障之替_一、差_二諸大夫等_一、而皆申_二障_一、請_二被_一

_レ差_二殿上侍臣等_一、略令_二仰_一安親佐理等、
○西宮記
賀茂祭

廿七日丙申、此日有_二齋院禊事_一、例午日行、而依_二穢

今日行_二之_一、藏人所陪從、山城近江牛等不_レ覽、遣_二彼

院也、
○西宮記

廿八日、鴨祭、
○年中行事
秘抄賀茂祭

五月

一日、令_二藏人永保給_一參議朝忠朝臣請_二罷_一右衛

門督狀云々、
○西宮記
時一裏書

三日辛丑、令_二雅材仰_一民部卿藤原朝臣云、近

日久不_レ雨、人愁漸多、若可_レ行_二奉幣_一歟、又疾疫死

亡之輩甚繁、須_レ勘_二如此之時_一被_二行例_一、口藤原朝臣令

_レ申云、耕種之間无_二雨潤_一、愁申尤多、早被_レ奉_二祈雨

幣可_レ宜、申刻、藤原朝臣令_二奏_一少外記正澄勘申疫

病之時被_二祈禱_一之例文、令_二仰云_一、依_二延喜廿三年例_一、

行_二諸社讀經_一事、可_レ宜、祈雨幣之次、同可_二祈申_一

歟、
○智證大師所載御
記抄、祈雨日記

四日丙寅、前右大臣藤原師輔朝臣薨_二於九條第_一、年

五十三、
○智證大師記所載
御記抄祈雨日記

召_二大雨記博說_一、令_二藏人爲光仰_一可_レ勘_二申皇后依_一

服喪出_二宮否之例_一、
○西宮上
記中宮

五日癸卯、民部卿藤原朝臣、令_二藏人雅材申_一云、

今日將_レ令_二擇_一申奉幣日時_二差_一其使、而有_二故右大臣

穢入交_二云々_一、雖_二見觸穢_一、著_二座者事疑尤深_一、爲_レ之

如何、令_二仰云_一、觸穢之事、必可_レ相_二交奉幣事_一、未

_レ定_二其日_一、須_二於_一神祇官_二祈_一甘雨、並除_二疫疾_一事、

又付在地國司、奉幣馬丹生貴布禰、同祈雨可宜、

○智證大師記所載
御記抄祈雨日記

○八日、令永保仰中宮大夫源朝臣、大外記傳說勘

申太政大臣忠仁公薨、皇后宮宮人服事文、令仰所

勘申不慥、令明經明法勘申、○西宮
記中宮

○九日丁未、民部卿藤原朝臣令藏人守仁、奏陰陽

寮擇申七大寺祈雨御讀經日時文云々、令仰云、依

前例集七大寺僧大佛殿讀經祈雨可宜、○智證大師
記所載御記

抄

○十日、兩道博士勘之云々、令仰依令條職官人

不令著服、又戌二刻、中宮從飛香舍移伊尹朝

臣宅、依父丞相薨、乘牛車出自玄輝門
並上東門到被宅公卿侍從諸衛

供奉如常、今夜依先例、不仰牛車
宣旨云々、○四宮記中宮

○十二日庚戌、今夜白雨、申刻之釣殿、召漁者丹

波春助、下網捕魚、捕得一二喉鰒、即放入、入夜

還、○河津抄、智證大
師記所載御記抄

○十三日辛亥、被行軒廊御卜、自今日以大僧

都寬空、於仁壽殿被行孔雀經法、民部卿藤原朝臣

令三文範朝臣奏神祇官卜申不雨崇文、申云、理運之上、
有神事誤所致

陰陽寮申不雨崇文、推之理運之上、若災難
乾方神祇成崇所致歟令仰云

須慥令勘申成祟之趣、兼合其神祇事、○智證大師
記載所御記

抄祈雨
日記

○十四日壬子、民部卿藤原朝臣令藏人重輔奏、重

有御卜、神司卜云、理運之上、大神宮並豐受宮也、

膳物預人穢惡、並鳴御祖別當社供奉神事、禰宜等遇

穢所致者、陰陽寮云、巽離神社不口云、仰遣神祇

官人於彼宮、又陰陽寮卜申所、遣檢非違使令實

檢者、今日甘澍沱瀉、○智證大師記所載
御記抄祈雨日記

○十五日、民部卿藤原朝臣令申云、大納言源朝臣、左衛

門督藤原朝臣、各可飾一壺四中觸穢之由、此穢口

遍若被免者、他人必申同障歟、又左右衛門府中、

依例可飾社々、一稱而官人等觸內裏穢、若付

山城國令飾如何、早可付山城國司、又內裏有穢、

須不許源朝臣等所申云々、○西宮記仁
王會裏書

六月

九日丁丑、此日理子内親王家、於園城寺修四十九日御法事、其佛供具及七僧法服料、同等預給令調備、使左近衛中將伊陟、誦經布施調布二百段、又差侍臣五六人充行香役、○河海抄

十二日、遣藏人助信於右大臣藤原師尹家、仰可

行内給所事、○西宮記臨上時裏書

十三日、候藏人所者、超次任之、見天德四年

六月十三日、○北山抄除目

廿八日、令右大辨賴忠朝臣、仰左大臣、左衛門少

尉藤原邦保、衛門少尉源學等、可爲檢非違使、○西宮記臨時

一裏書

七月

在衛

一日、民部卿藤原朝臣令藏人爲光奏山々施米使勘申僧數等十五卷、副可施米鹽勘文、大儀職山々施山々僧料鹽有無事文、仰依請、

以率分米鹽令給、○江家次第施米

九日、令仰左大臣云、脩從者來桂芳坊樂所、取

置彼所納口譜櫃退出、脩去七日死去者省定脩從者甲人也、所取之櫃可爲乙物、然則宮中可爲丙所云々、○西宮記

十日、於神祇官、行月次及神今食等祭、去月依藤延引、

又奉別幣太神宮云々、令文範朝臣仰民部卿藤原

朝臣、可令擇今日奉幣時事、藤原朝臣令藏人

守仁奏宣命案、申刻、發遣幣使、依内裏爲丙穢、

不參八省、裏調如例、民部卿藤原朝臣著左衛門

陣座、藤原朝臣觸内裏穢、仍着陣座行事、延喜十九年例云々、召使王於陣外、以

在外少内記時文書宣命、内裏穢時、或召大臣家、或令進圖書紙、而大臣輕服也、其

室物有懸簾、又圖書忽不違、于時美禮守真材在、京、更不奏

仍令進年料紙、充此料、於一本御書所書之、便授使者云々了、於南殿祈伊勢大神也、○西宮記十二

書裏

内侍司印櫃、以此稱契櫃之由見天德四年御記、北山抄六月十一日次祭神今食

八月

七日、左大將藤原朝臣遣外記、就藏人申云、可迎

今日駒左近中少將、或假或重服不迎云々、令

雅材仰_二左中將伊尹朝臣_一、申云、重服者不_レ供_二此役_一、加以_二私鞍具_一被_二寮御馬_一、於_二事無_レ便_一、然間、御馬牽來若被_レ免_二迎役_一、將_レ供_二分取事_一、仰依_レ請云々、侍_二仁壽殿_一令_レ召_二左大臣_一、大臣參上、次牽_二御馬_一、覽了仰_二大臣_一、召_二春宮亮伊尹_一、取_二牽分馬一疋_一、次大臣召_二左中將伊尹_一、左馬頭有年、右中將元輔、右馬助國興、分_二取御馬_一訖、○西宮記駒牽條裏書

十一日、於_二仁壽殿_一覽_二穗坂御馬_一、以_二春宮亮延光_一令_レ取_二御馬一疋_一被_レ奉、○西宮記駒牽條裏書

廿二日、以_二大納言顯忠卿_一任_二右大臣_一、勘_二大臣薨後任替之例_一經_二三四年_一或經_二一兩年_一云々、于_レ時降雨、仰_二裝束司_一改_二雨儀_一、申_二一冠_一、

坐_二南殿廂廉內大床子_一、左右近陣階下、依_二前例_一內辨立東軒廊西_一自_二左近陣_一進來、昇_二東階_一、著_二南廂東第二間兀子_一云々、了大違例也、

臣授_二宣命雅信朝臣_一、下_レ殿立_二軒廊下_一、左大臣下_レ殿就_二宜陽殿西廂列_一、經_二東軒廊_一、更南折自_二親王後_一就_二列_一、次雅、信朝臣就_二同殿版_一云々如_レ例、新任者不_レ拜在本列、先是檢_二先例_一、仰_二可立_一、

時、依_二宜陽殿此輩_一不_レ能立、新任_二標仍任人等_一在此列、是天曆元年等例也、訖雅、信朝臣經_二親王

等後_二南行就_二本列_一、次親王以下退出、新任大納言藤原朝臣進就_二大納言標_一、中納言藤原朝臣乍_レ在_二本位標_一、以_二无兼左衛門督字_一敷、中納言大江朝臣進就_二中納言標_一、共拜舞了退出、次右大臣候_二射庭邊_一、令_二右近少將_一助信申_二慶賀之由_一、大臣又令_二中云_一、賜_二御酒公卿_一事、即令_二助信仰_二左大臣_一、可_レ聽_二右大臣新任饗事_一、

宜令_レ仰_二有司_一、宮抄廿五日、中納言藤原朝臣自_レ權轉_二正_一、若可_レ仰_二兼左衛門督_一宣旨否、宜令_レ勘_二申前例_一、令_二中云_一、自_レ權轉_二正_一、以_二宣命_一任之時、兼字_二宣旨_一忽無_二可_レ准例_一、

令_レ仰云、除目轉正之_二兼字_一例可_二相准_一、宜令_レ勘_二申_一、暫大臣令_レ奏_二大外記傳說勘_二申權中納言轉_一正時付_二兼字_一例文_一、令_レ仰云、此已勘例也、中納言藤原朝臣宜_二下_一兼左衛門督宣旨、○西宮抄裏書

九月十一日、依_二物忌_一不_レ御_二八省_一、藏人雅材申云、東宮廳有_二犬死穢_一、而候所入_二交內裏_一云々、有_レ仰召_二

左大臣家紙充宣命紙、并不奏草清書等、大臣令甲云昨日令奉大產經文、而求他處色紙令奉也、民部卿藤原在衛於八省發遣奉幣使云々、○西宮記例常條裏書

或云、有別辭者、奏草並清書交者、只奏清書也云々、見天德四年御記、○北山抄九月十一日例幣

十四日、重光云、就溫明殿所求得大魚形二隻、金銀銅魚符契合卅九隻、○令抄

廿一日、令藏人爲光仰大炊助忠明如故可爲作物所預事、忠明爲大炊允之時、爲此所預、轉助之後、依前例下宣旨云々、○西宮記

廿二日己未、始從今夜、於仁壽殿令僧正延昌修熾盛光法爲消滅天變也、○熾盛光法日記

廿三日、庚申、此夜寢殿後聞侍臣等走叫之聲、驚起問其由緒、少納言兼家云、火烧左兵衛陣門、非可消救、走出見之、火焰已盛、即著衣冠出南殿庭、左近中將重光朝臣持御劍璽宮相從、即遣人召御輿、不能早持來、又侍臣取內侍所所納

太刀契等、又令召御讀經僧等立願、而火勢彌盛、延政門以南廊漸燒、煙滿承明門東邊、于時知災火不可止、更還清涼殿、經後涼殿及陰明門、微行到中院、留神嘉殿避火、此間心神迷惑、宛如夢裏、主殿官人持腰輿來、皇太子被抱侍臣來著、左衛門督藤原朝臣參入、仰向內裏令行救火事、次右大將藤原朝臣參入、仰行取出鈴印鑑櫃、次右大臣、并公卿等參來、依火勢漸近、右大將藤原朝臣相議、令幸太政官、即乘腰輿出中院、到太政官朝所屋、乍乘輦在板敷上、太子相從候同屋內、右大將藤原朝臣言、太政官自內裏當御忌方、又太白在此方、須移御職曹司、皇太子乘車相從、召左大臣詔、朕以不德久居尊位、遭此灾殃、歎憂無極、朝忠朝臣還來奏、火氣漸衰、不可延及八省、起自亥四點迄于丑四點、宜陽殿累代寶物、溫明殿神靈、鏡、太刀、節刀、契印、春與安福兩殿戎具、內記所文書、又仁壽殿太一式盤、

皆成_二灰燼_一、天下之災无_レ過_二於斯_一、後代之譏不_レ知_二所_レ謝、鈴櫃置_二御所_一、內印并鑑幸櫃納_二外記局_一、人代

以後、內裏燒亡三度也、難波宮、藤原宮、今平安

宮也、遷都之後、既歷三百七十年、始有_二此災_一、○扶桑略記

廿四日、辛酉、令_二延光朝臣仰_一云、遣_二左右中少將_一

鑿_二求温明殿所_レ納神靈鏡并太刀契等_一、○扶桑略記

遣_二藏人忠尹_一、仰_二僧正延昌_一、於_二左近府大將曹司_一、

可_レ修_二畢御修法_一、御讀經於_二八省_一、修畢可_レ宜、重光

朝臣來參云、依_二火氣頗消_一、罷_二到温明殿所_一、求見、

瓦上在_二鏡一面_一、徑八寸許、頭雖_レ有_二小瑕_一、專無損、

圓規並帶等甚以分明露出、俯_二破瓦上_一、見_二之者無_一

不_二驚感_一、又求_二得太刀契等_一、以_二神鏡等_一安_二置縫殿

寮高殿_一、○扶桑略記

重光朝臣申云、罷_二到温明殿所_一、求_二見瓦上_一在_二鏡一

面_一、其鏡徑八寸許、頭雖_レ有_二一破_一、專無損、圓規并帶等、又求_二得

太刀契等_一云々、又以所_二求得_一大銅魚形二隻、女官等或稱是

亦神也、然而未_レ知_二眞偽_一、太刀四柄、室攝並燒失、只遺_二種々小調度_一、金銀銅魚符契合

四十九隻、或銘_二發兵解兵符_一、其國、或銘_二其官契_一、皆作_二魚形_一、相合如_二木契之趣_一、又有_二片々不_レ合者_一、又有_二鑲右合

損之所_二到_一、云々、○小右記寬弘二年十一月十七日下收_二之_一

廿五日、清遠伊勢等令_レ申、又求_二得燒鏡一面銅魚契

卅餘枚、合_二前摠七十四枚_一、雜劍四十柄、云々、中可有_二銀劍等小調度_一、○同上

爾廿八日乙丑、定_二造宮_一、參議雅信書_レ之、紫宸殿、

仁壽殿、承明門、職、修理常寧殿、清涼殿、察、木工承香殿、

淑景舍北一字、美濃國貞觀殿、周防春興殿、山城宜陽殿、

襲芳舍、播磨綾綺殿、淑景舍南一字、近江麗景殿、大和

宣耀殿、安藝溫明殿、伊賀安福殿、攝津校書殿、丹波弘

徽殿、河內登華殿、備前後涼殿、紀伊昭陽舍南一字、

美、同舍北一字、淡路飛香舍、阿波凝華舍、和泉建春門、

若、宣陽門、尾張陰明門、長門玄輝門、土佐四面廊、東

狹、伊勢越前、南面伊豫、西面備後、北面讚岐、進物所、御輿宿屋、

及殿々間軒廊、直廬屋等、可_レ分_二充近國帶_一、以_二

來年_一爲_二造畢期_一耳、○扶桑略記

爾大貳好古朝臣申_二赴任之由_一、即召_二東庇_一、侍所令_二

延光朝臣仰之云々、依旅所不召御前、給祿云

云、○西宮記太宰師赴任

圖廿九日、丙寅、勸學院倉一字、政所板屋二字燒亡、

○扶桑略記

十月

圖一日、左大臣令申、二孟日不御出之時、於三宜

陽殿取見參、而今無可行所、爲之如何、令仰

云、於侍從所令取見參、入夜、左大臣令奏公卿

侍從見參目錄等、○西宮記句

圖十日、大納言源朝臣、令延光朝臣申云、今日可

奏內案、而口不候口官奏如何、令仰云、內侍

傳仰上卿、侍從所便宜定申、令申云、少納言就

內侍候所授內案、內侍臨殿上侍、仰公卿下

宣、令仰云、內侍不候口如何、前日於奏征符

以後日、以內侍令奏內案也、○西宮記臨時十二裏書

圖廿一日、少納言文相來此屋、北女房付內侍代命

婦橘恭子奏內案、口口尙西庇南、預仰大納言源

朝臣口之後、右近陣坐行捺印事、○西宮記臨時十二裏書

圖廿二日、延光朝臣申云、依仰召保憲、具瞻道光

等、問自職御曹司指冷泉院可當大將軍方、不

滿四十五日遷御猶可忌否事、保憲中、不可忌、

依大將軍爲年忌也、具瞻道光等申、可忌、須

當日御他所、以彼院當吉方遷御之由、仰各令

進勸文、○西宮記諸社行幸

圖廿三日夜、內裏燒亡、仍移御職曹司、召天文

博士保憲等、令申遷御冷泉院、自內裏當御

忌方否事、保憲申云、依一方分法計之、件院

當異方也、今年大將軍在午可領南、即巳丙午

丁未五辰至異方、是維地不可忌之、○陰陽新書

圖延光朝臣云々、得死人骨、疑內裏失火之夜燒死

歟、仰令立穢疑札云々、後日相定以見著之日爲

始、可忌七日云々、○西宮記臨時十二裏書

圖廿三日、延光朝臣申、保憲申云、遷御職御曹司之

後、不滿卅五日、依御忌猶留內裏也云々、道光

申云、御忌可_レ隨_レ身、然則自_レ此指_二彼院_一、可_レ當_二大將軍云々、有_レ定猶因_レ可_レ移_二彼院_一、宜_レ勸_二申可_レ出門_一、

廿六日○西宮
記諸社行幸

卅日、民部卿藤原朝臣令_二奏_一明日奉幣宣命草四枚、令

改_二案伊勢告文_一、自餘依_レ案云々、○西宮記

十一月

一日、奉_二幣伊勢、石清水、賀茂、松尾、平野、石

上等、告_二內裏火災_一、兼謝_二崇由_一、伊勢、石清水、告_二火災_一、只告_二火災_一、石上兄謝_二崇由_一、辰刻、內膳司供_二忌火膳_一云々、民部卿

令_二延光朝臣奏_一諸社告文、同四刻、乘_二轎_一、掌侍置_二御劔_一等、皆如_二常_一、

持_二候內侍司印櫃、及鈴韓櫃等_一如_二常_一、舊例以_二內侍

印鈴契櫃、行幸之時、必令_二持候_一、燒亡仍新鑄代_レ之、

仰令_二內匠寮造、赤漆小韓櫃納_一之令_二持_一、又侍臣以_二

太刀櫃同欲_二持候_一、而右大將藤原朝臣、仰_二依_一神事

行幸_二不_レ可_レ候之由_一、令_二留_一置_二之_一、○西宮記

圖四日、移_二冷泉院_一云々、入_二自_一西門、陰陽頭具瞻

前行、次童女四人、一人脂燭、一人棹二人奉_二黃牛_一、各一頭、牛左大臣所_レ獻、童女仰_二御殿內侍乳母_一、

所_レ令_二獻_一也入_二西中門_一、具瞻先到_二南殿及中殿_一、施_二呪術_一、

退出、又水女童女二人昇_二自_一南殿西、到_二中殿_一、以_二

脂燭_一、炷_二殿內燈_一、三日夜不_レ滅、牽_二牛童經_一南庭、

繫_二牛於中殿前庭_一云々、如_二常_一、內藏人給_二酒肴_一、基手

等於王卿侍臣等云々、○西宮記
諸社行幸

圖十四日、仰_二左大臣_一云、近來京中盜起云々、須_二檢非

違使之外、差_二副諸衛官人_一勤_二夜巡事_一云々、申云、自

餘檢非違使馬寮官人等之外、宜_二給_一寮馬_二巡行_一、仰依_レ

請、○西宮
記搜盜

圖十九日、昨今物忌也、此日奉_二幣伊勢、石清水、賀

茂、松尾、稻荷等神社、告_二以下_一可_レ始_二作_一內裏之事_一、

云々、申尅於_二南殿拜_一祈伊勢太神宮云々、酉尅右

大將藤原朝臣令_二永保申_一云、向_二內膳司_一、以_二平野御

竈納_二韓櫃_一、以_二庭火竈納_一長櫃、並令_二荷_一擔奉_二遷

此院、但忌火無_二其竈_一、臨_二其期_一新設_レ之云々、今承_レ

左右近左右衛門可供奉_二之狀_一、而源朝臣前日召_二仰

六衛府、仍六衛府共供奉遷來之後、令_二官人供_一奉

御禊二已了云々、○西宮記臨時十二裏書

廿日 翻左右各立三置物御机、各垂三總平文二歟、見三天德四年七月廿日御記十一カ、○江次第第二十七日節會

廿二日、民部卿藤原朝臣兼明延光朝臣申、明日柏

原山陵使、差三中納言源朝臣、而申下有三所勞二之由、

仍依三貞觀十八年例、可レ差三參議、仰依レ請云々、○西宮記

翻廿五日、臨時祭云々、了奏舞間、參議相忠朝臣、

乘レ醉交立三歌人之中、歌事了、使等向三社頭、亥刻

使等還來、合三奏神樂、及三丑刻、賜三祿使以下及垣

下親王公卿二有レ差、○西宮記

翻十一日、御三神祇官二行三神今食祭事二云々、依當日子日、昨日

令卜供奉男女房、並駕輿中等事云々、○西神記神今食

十七日壬午、於三比叡山惣持院、令下僧正延昌率二

廿日伴僧、修中熾盛光法、○天台座主記

翻天德四年、御三冷泉院二之時、內侍召レ人、右中將

重光承レ召向三右仗座、告三諸卿二之由注三御日記、○春記長

曆三年十一月八日

應和元年

正月

翻一日、四方拜設三二座、仰云、一座拜レ陵、設三二所、失也云々、○西宮記四方拜

供三御藥二如レ例、今日尙藥女藏人等、不レ著三摺衣二纈纈

裳、用三尋常裳衣、○西宮記元日御藥條裏書

止三小朝拜二事、依レ當三物忌二兼延喜之始、勅停三此禮、○西宮記小朝拜條裏書

五日、此日有三叙位議二年來六日行之、而或及レ曉、更

七日節會自闕、仍如三年中行事二、以此日二行之○年中行事

七日、左大臣申三延延光朝臣二云讚岐介子高、前任之內

記可レ被レ賞由、昨日諸卿定申畢、而令下執下奏宜中申二

此由、仰依三公卿定二令三加叙、大臣令レ申云々、子高

位記、今日可レ令レ作三加位記二、所司已退出、令レ召令

間、日漸欲レ晚、且始行三節會二何、令レ仰云、始節會

之後、何作三位記二乎、須三後日二令レ作云々、○注史抄

八日、左大臣令延光朝臣申云、今日可令作三子高位記云々、○注史抄

十七日、召陸奥所進鷹犬於侍所覽之、助信朝忠

朝臣令申云、故御春武仲遭喪之間、以源教權爲

御鷹飼、以件例、左近府生公用遭喪之間、以源撰

被補御鷹飼、仍便令補撰、○花鳥錄情盛桐卷

二月

三日、外記令申云、納言等不著釋尊所、只有參

議好古一人、仍檢先例、去年參議一人就之云々、

仰、依去年例令行云々、○西宮記釋奠條裏書

十六日、令延光朝臣仰左大臣、今日可行改元事

兼令行敕事否之由、大臣令申云、大災之後變異

不正、須行敕事云々、令給文章博士等勘申

年號、中納言大江朝臣撰申年號字文、令定申件

字之中无忌、而有便稱謂之字、又令勘申可

行赦免罪之程、大臣令奏文一時進前年勘文案、

外記勘文、恩詔例文、仰云、以應和可爲年號、

又依延喜元年詔法、行敕并可賜物、○元秘別錄

今年當革、令宜改元、加之天德火神之名也、尤可

三月

三日、御釣殿、泛觴流水、令侍臣飲、公卿侍臣獻

詩云々、○北山抄

九日、始自今日、於延曆寺法花三昧堂、令座主

僧正延昌修元量壽決定王如來法、七日竟之、○天台座主記

圖阿婆縛抄

廿日、召春宮帶刀及左右近能射者令射之、射

場令右少將助信召殿上公卿云々、了右大將藤原口

口起座、執左右近官人以下帶刀等射手奏、左右近各

六人、帶刀十人、十人之一人障不候、覽了、給大納

言源朝臣令改番、左右近官人近衛等申奏之、復座

給助信記中否、延光召左近將監令懸的云々、

○西宮抄殿上賭号

卅日、之釣殿覽曳綱、又令泛船、○河漢抄

閏三月

六日、此日召_レ納言、大納言源朝臣入_レ夜參入、令_レ藏

人雅材、仰_レ可_レ定_二作明日奉幣宇佐宮告文案_一事、及_二

子刻、源朝臣令_レ奏_二告文案云々、仰依_レ案、而_レ及_二深

更_二不_レ能_レ奏_レ之、_○西宮記

七日、奉_三神寶幣帛於宇佐宮_一、又奉_二幣香椎_一、已刻大

納言源朝臣令_レ藏人雅材奏_二告文案云々、_○西宮記

十一日、藤宴、舟樂奏酣醉樂舞人四人云々、_○花鳥餘情

廿一日、奉宇佐使伊陟、本心相違歸京云々、_○西宮記

廿二日、令_二神祇陰陽等、卜_二伊陟歸京云々、_○西宮記

ト可_レ遣使五位三人_一、_○時經、清遠懷忠、時經令_レト、_○西宮記

關民部卿藤原令_レ申云、造宮所、犬喫_二入死兒二足_一之

事、仍令_レ勘_二先例_一、_○西宮記、時十二裏書

廿七日、有明親王薨日、寬忠法師召_二預於仁王讀經_一

也、專_レ可_レ有_二其憚_一、但又不_レ可_レ觸_二彼穢_一、_○拾芥抄、作_二五年誤_一、

今據_二日本記略廿七日庚寅、兵部卿三品有明親王薨文_一、計_レ之、

四月

十一日、右大將藤原朝臣、令_二延光朝臣申_一云、齋院御

禊前駈申_レ障之替、差_二諸大夫等_一、而皆申_レ障、請_レ被_レ

差_二殿上侍臣等_一、略令_レ仰_二安親佐理等_一、_○西宮記

十三日乙巳、此日山科祭也、上已依_レ相_二當服_一錫紵

之間、延及_二今日_一也、_○西宮記

十七日、賀茂祭也、少內記紀時文、令_二藏人守仁奏_二宣

命、_○依_二內侍不_レ候、付_二午刻、命婦藤原子臨_二南殿西檻_一、

以_二宣命_一授_二內藏使助繩_一云々、_○西宮記裏書、按藤原子、

也四字、西宮記闕、_○北山抄作_二藤子_一、賀茂祭

今據_二柱史抄_一補、

五月

十五日、令_レ仰_二民部卿藤原朝臣、令_レ行_二宇佐告支_一、

并使官符等請印_二云々、_○西宮記裏書

十八日、經櫃各置_二花足下机_一、加_二花文綾覆_二二色綾地

敷、_○河海抄

廿日、此日奉幣使、飾劔於_二宇佐_一、并奉_二幣香椎_一、_○無

御禊宮口出即拜_二御劔_一、_○此劔自昔所_レ傳物也、訖召_レ使仰_二雜事_一了、

給_二御衣一襲、拜舞退、_○西宮記裏書

六月

○補一日、仰民部卿藤原朝臣等云、納緘書持來之可爲穢否、令申云、至子文書不爲穢、此通例也、但納函者縱大小相異猶可謂穢所物、然則可爲穢、仰依定申、去月卅日典侍口子申、尾張久正母死去之由書狀、納函送之、仍有此定也、○西宮記

十一日癸卯、奉幣大神宮、爲祈雨也、○祈雨日記

右中將元輔、問大忌名謁云々、○西宮記神今食條無日

十二日甲辰、奉幣諸社、入夜雨降、○祈雨日記

十五日丁未、奉幣之後、猶未快雨、須依例集

七大寺僧於東大寺大佛殿、讀經祈雨、○祈雨日記

十七日己酉、龍穴御讀經、○祈雨日記

廿一日癸丑、旱災御卜、○祈雨日記

廿五日丁巳、請百僧於大極殿、令修御讀經、祈

雨也、○祈雨日記

廿七日己未、祈雨御讀經、明日結願、而未降雨、被

延二個日、○祈雨日記

令藏人文利問神祇官、服錫紵之間、依例可供

御贖物、而不供之由、宮主常統令申失錯不供之

由、○西宮記裏書

廿九日辛酉、大雨、○祈雨日記

藏人守仁、奏神祇官中、以大中臣清子、令供奉

御節折藏人同皇子死闕文、仰以內侍宣令下、先

例內侍仰下神祇官、而今日不候、仍令藏人以其

宣傳仰之、○西宮記臨時裏書實錄女條、江次第六月晦日節折條、

七月

一日壬戌、祈雨御讀經結願也、延光朝臣於大極殿

仰云、所祈雨、快降依有感應、賜法師等度

者各一人、○祈雨日記圖智識大師記所載御記抄

○二日癸亥、此日降雨、及晚漸晴、○智識大師記所載御記抄

七日戊辰、右大將藤原朝臣、令藏人爲光奏室生龍

穴神社所奏讀經遍數、同使權律師祥延申加彼

龍王階、兼因准舊例、施給度者十一人、又申云、不

仰下可祈加龍穴神社階事、而祥延自所祈願也、

令仰云、非輒祈神位階、事不可然、結而已所
申請有感應之由、何無報塞、須慥問申龍王
事、又令勘申件讀經給度者例、○祈雨日記、智證大師記所載御記抄
十三日甲戌、日者頻降雨、還成損害、須奉幣丹生

貴布禰神祈雨止、○祈雨記

十七日戊寅、此日降雨、右大將藤朝臣、令藏人雅材
奏延喜十八年二月廿九日等、龍穴御讀經僧給度
者例申文、前因祥延所祈龍王位階事、此使彼龍
穴神名歟、仰云、此度龍穴御讀經僧等、依先例令
給度者、又祈增神位階事、非宣旨不可輒
祈申、然而已祈其由、又有感應、何令止乎、須
勘本位、可行加位階事、但可誠仰律師祥延、
民部卿藤原朝臣令雅材申云、明日祈止雨幣使事、○祈雨記

雨日
二十三日甲申、終日降雨、右大臣、令文範朝臣奏東
大寺平崇申被口預祈雨御讀經、仍給度者文、前日讀申之上、今日
御讀經行事、左少辨國光申、口發願日令取見參、綱

所注請書注申平崇至結願日、申平崇供奉之者、
然而錄僧名上奉之時、猿注平崇、仰令問綱所、
始注平崇之由、令文範朝臣仰右大將藤原朝臣
云、淫霖難晴矣、有物崇乎、預令多申、又令勘
申祈請雜事例、○東大寺要錄

左下

廿五日丙辰、右大臣、令保光朝臣奏前日給文一枚、
檢東大寺全破使帳、并寺家注進損色帳事文、副兩卷帳申

云、件帳、所相違已多、仍問奉使右少辨偕行、
偕行申云、彼時率所司所錄也、而今與寺家所申
帳已違、重遣使實檢、自決真偽歟、然則、件等
事、可罷下辨官、加仰此事、令實檢歟、令仰
云、前司光智之時、當國守安親依宣旨注申損色、
而光智惣申有所漏之由、仍重遣偕行實檢、今
法藏又申偕行所注相違之狀、常疑官司所申者、
以誰爲證乎、須勘合安親所進損色帳、定仰左大
臣令保光朝臣奏前日令勘文一枚、○東大寺要錄、保二年二月三日之條、按是恐非應和元年之文、須參昭康

廿六日丁亥、右大將藤原朝臣、令藏人雅材、權律師
祥延注_三申龍穴神位階、又仰、令檢_下增_二一天下神位_一
之時不_レ授之由、○祈雨
占記

廿八日、天陰小雨、此日有_二相撲召合事_一、已尅、左
大臣、令_下文範朝臣請_中給_二侍從一座事_一、仰依_レ請、同四
尅出_二御南殿_一、其儀云々、即還_二來中殿_一、令_下文範朝臣
仰_二大臣云、廿九卅日相_二當御物忌_一、以_二來月一日_一
覽_二相撲_一、以_レ有_二先例_一也、○西
宮記

八月

一日、未四尅、之_二南殿_一覽_二拔出追相撲等_一云々、○西
宮記
十二日、秋季御讀經結願也、參議重信、伊尹朝臣等
參候、此日、納言以上不_二參入_一、不_レ奏_二卷數僧名_一、年
來無_二此例_一、○西宮記季御
讀經條裏書

十三日、民部卿藤原朝臣、令_下文範朝臣奏_二御讀經卷
數僧名_一云々、○西宮記季御
讀經條裏書

十四日乙巳、此日陰雨、遣_二左中辨文範於右大將藤
原朝臣_一、仰云、龍穴本位、仰_二右小辨善理_一、令_二勘

申_一、而未_レ申_二其報_一、但問_二民部卿藤原朝臣_一、申云、
授_二一天下神位一階之時_一、無_二件位記案_一、仍不_レ授云
云、以_二此由_一仰_二律師祥延_一、祥延進_二本位記二卷_一、就
此見_レ之、彼時漏不_レ授、令_二神申結_一、則此度可_レ授_二

二階_一歟、即令_下奏_二室生龍穴神位記二卷_一、一卷貞觀九年
正五位下_一、一卷延喜十八年
八月十三日授_二從四位下_一、
八月十三日授_二從四位下_一、
二階_一、○祈雨
占記

十五日、右馬寮令_二延光朝臣申云_一、寮頭助等、依_レ病
共不_レ候、不堪_レ迎、今日御馬仰云、此度殊以_二六位
官人_一迎_二御馬_一云々、民部卿藤原朝臣令_下申云、右馬
頭助不_レ候、依_二前例_一無_二左右馬寮_一、令_下取_二御馬_一、仰
依_レ請云々、○西宮記駒
引條裏書

十七日戊申、右大將藤原朝臣、令_下藏人雅材奏_二陰陽
寮擇申可_レ遣_二勅使龍穴一日時_一、又告_二同社宣命草_一、
告_二山陵宣命案等_一、藤原朝臣、令_下雅材奏_二室生龍穴
神位記_一、依_二天慶賊之時_一、御祈_二奉_一授_二一天下神位階之日_一、須授_二
四位_一、從四位上_一、而漏不_レ授、仍此度相_二加律師祥延之所_一祈授_二正
四位_一、覽了返給、捺印、○祈雨日記、智證
大師記所載御記抄

廿日辛亥、申尅、右大將藤原朝臣、令藏人雅材奏授龍穴神位、宣命、○祈雨日記智證上人師記所載御記抄

九月

三日、藏人所瀧口人內藏官人校書殿人等、修二百个寺誦經、爲息災也、遠寺使賜所御牒於路地國々、令供給也、○西宮記臨時一裏書

七日、於本院覽後院小笠原御馬、賜親王及右大臣小舍人實正、○西宮記臨時一裏書

十日、左近府穢入交內裏云々、右大臣令奏云、明日供奉所司雖不觸穢、納言以上或服或穢、無可行事之人、延日行之、已有其例、令仰云、先依內裏所司共穢、延日行也、所司不穢時、猶付所司行之、又延喜七年、雖無約言以上、幸八省被奉幣、定知、後日參議行事歟、大臣令申云、依內裏穢、延日時、慥不記所司共穢由、又延喜七年九月日記紛失、不能勘申參議行事例者、依定申延日令行、○北山抄

十四日、令仰左大臣、穢間令勘申奉幣日例、宜令勘申、令申云、去天慶七年九月一日、左近府有失火穢、侍臣向彼府還參內裏、仍以六日令勘其日、改定奉幣、此其例也、仰依件例、令勘申奉幣日、大臣令奏陰陽寮擇申日時文、定仰廿二日、○北山抄

廿三日、於南殿覽武藏諸牧御馬、左右分取了、牽立立野御馬二疋、騎覽如前、左右進取云々、○北山抄

廿四日、賴忠朝臣奏、式部大輔直幹勘申、弘仁格可復任郡司文、令仰中納言源朝臣、前日大外記傳說給申郡司服解替之時、令式部省勘申有郡司可復任由否、而勘申无所見之由、而直幹朝臣所申如此、宜令勘問彼省、○西宮記臨時一裏書

十月

二日、遣藏人珍材於左衛門督藤原朝臣第、仰可奉五節事、有所勞依不參也、○西宮記五節定

十九日、臨時仁王會、爲欲遷內裏也、參議朝成朝

臣令珍材申云、納言不參、若着南殿行事如何、令仰云、無_レ納言參議已上參、須_二早罷著行事_一、午刻、

撞鐘僧侶參上云々、○西宮記

廿八日、民部卿藤原朝臣、令奏_下左京職申被_レ下_二

永宣旨、檢非違使受_二仕囚_一狀、仰依_レ請、○西宮記

四月朔日、當_二申日_一者、三月使立、當_二四日_一者、中西

行_二件祭_一之由、見_二應和元年十月御記_一、○北山抄常宗祭

十一月

四日、此夜、輔子資子內親王始謁見、戌刻坐_二帳中

倚子、次兩親王出_レ目_二南廂東戶_一、到_二御前間_一、肅拜退

出、更召_二內親王等_一、內親王進著_二菅圓座_一、○圓座御命帳南邊

婦藏人等以_レ祿給、親王還入_二中宮在所_一、又令_レ給_二親

王乳母三人襖子各一領、○編イ中宮典侍平子朝臣以下、掌

侍命婦藏人等、於_二東南對西廂_一給_二饗祿_一云々、又典

侍灌子、依_レ供_二資子_一、○朝臣イ親王同事、殊於_二中庭東廂_一給_二

饗祿、又給_二男女房饗_一、○西宮記童親王拜觀

召_二桐原駒甘足於南庭_一覽_レ之、延光朝臣持_二御劍_一

候_二御前_一、召_二左中將重光朝臣、右近權中將清遠、令_レ分

取後院牧御馬、多如_レ此、又不_レ召_二馬寮_一、○北山抄

七日、今朝雪、分_二遣殿上侍臣於諸陣_一、帶刀取_二見

參、又男女房、主殿掃除者同預例也、○西宮記初雪

十日、令_レ給_二民部卿藤原朝臣去七日所々見參、仰

以_二大藏卿令_レ給_二祿_一、○西宮記初雪

十二月

六日、傳聞、右近少將高光昨日到_二橫山寺_一出家之

由、○大鏡異本裏書

十四日、左大臣、令_下藏人雅材奏_中定_二荷前使_一文、中務

省擇申荷前日文、○十九日令_レ仰云、檢_二延喜十七年例_一、避

後復日被_レ定、而件兩日共爲_二復日_一、宜_二改勘申_一、暫

大臣令_レ奏_下陰陽寮改擇_二申荷前日文_一、○十七日仰云、是日、

中宮東宮遷_二內裏_一、又昌子內親王始拜、仍公卿侍從

可_レ供_二奉行_一、廿一日、依_レ有_二忌不_一擇申_二歟、但復問令

申云、先日不_レ擇_二戌日_一、尋_二由趣_一、戌日忌_二祠祀_一、疑

祭_二宗席_一歟、公卿等定申可_二相准_一事也、令_レ仰云、

檢延喜十七年例、陰陽頭滿房勘申云、十二月十五

日當_レ住亡、忌祠祀可_レ准事也、而猶避_二復日_一被

用_二後十五日_一、今依_二其例_一、可_レ用_二廿一日_一有_二何事_一、

但此口亦有_二他忌_一、更宜_レ令_二間申_一之、戊日又無_二他

念_一、須_レ以_二後日_一拜、○小右記長和三年十二月十七日上下載之、隱小野宮年中行事節略

十九日、右大將藤原朝臣令_二延光中_一云、依_二申日_一不

作_二昌子內親王位記_一、以_二後日_一令_レ成、○柱史抄

爾廿二日、召_二御導師_一云々、了僧徒退出、今夜親王

公卿無_二參入_一者、尤違_二先例_一、廿六日、仰定光等令問不參公卿等、右大臣重信相出、

○西宮記
御佛名

應和元年御記云、上總介國幹申_二赴任之由_一、令_レ仰

云、肅靜部內_一兼致_二豐稔_一、隨_二其勒狀_一將_二賞進_一、

即給_二祿如_レ例、同年阿波守嘉生申_二赴任之由_一、仰云、

彼國久寒幣、若致_二興復_一、兼濟_二貢調_一事、又造宮事、

無_二其意_一隨狀可_レ賞進、給_二祿如_レ例、○侍中群要無月日、仍今載于年表、

同二年

正月

爾九日、右大臣藤原朝臣令_二延光中_一女御芳子叙_二四位_一之喜、此日掌侍鮮子率_二女叙人_一、於_二南殿板敷上_一

賜_二位記_一、女藏人永子以下肅拜、次各退還、○西宮記女叙位

二月

爾廿一日、大臣召_二民部卿藤原朝臣_一、式部大輔直幹

朝臣、令_レ獻題、先例有_二公卿儒者_一、多召_二一人_一、而

今日所_レ行如_レ此、此日內司自_二北慢後_一供_二中宮膳_一、

采女於_二承香殿南_一度_レ殿轉取、令_二中宮內侍藏人等供_一、

延長六年例也、卯刻還_二清涼殿_一、○北山抄內宴、撰集秘記、

爾廿二日、出_二侍所_一令_二侍臣_一不_レ改_二昨服_一猶候、賜_二酒

奏_二音樂_一給_二足絹公卿_一、○北山抄內宴、撰集秘記、

三月

三日、自_二中宮_一以_二女裝絹_一給_二侍臣以下_一、○文朝成朝臣

等令_レ候_二東簀子_一、次召_二御書所人等_一、及殿上文人、

藏人所文章生等、入_二自_二仙花門_一、就_二御溝邊座_一、○殿上人座

滿西、自餘溝東、侍臣給_二紙筆_一、仰_二源朝臣_一召_二直幹朝臣_一令_レ獻

題云々、了令_二延光朝臣探_二吾料韵_一、即到_二庭中_一文

臺下探二字、雲進二字奏、次源朝臣進探韵、內藏給酒肴公卿以下、卽流盃溝水、文人等飲之、曉召樂所人令奏絃歌、事了給公卿祿、左少將濟時唱見參、後日給侍臣文人樂人祿云々、○西宮抄

十五日、射場裝束用兩儀云々、諸卿經紫宸殿北廂、下自西北階、入自明義門著座、例公卿經

紫宸殿南階、下自屏幔內入著座、而開明義門參入、違先例、後聞、大臣等云々、依雨不可自

庭參入、今日所參皆殿上公卿等也、須用此門、今以爲、若依雨殿上公卿不可經前庭者、宜從

侍方戶入、所行都無所據、○小野宮年中行事賭射條、无月日、今據日本記略十五日壬申賭弓文載于此、

四月

一日、令仰伊尹朝臣、可令得度前右近少將高光及相從者二人之由、○大鏡異本陸書、

二日、遣藏人所雜色輔成、問天台座主爲盜被凌辱之由、○西宮記臨上時一裏書

十九日丙午、齋院禊如常、已尅、召左大臣家并山城近江等國牛於東庭覽、○遣イ丁遣院、午尅右大臣參上奏官奏、未尅、召藏人所陪從及騎馬等覽、了遣彼院之云々、○西宮記

廿八日、御仁壽殿、侍臣蹴鞠、昌子內親王給汗巾、○西宮記蹴鞠

五月

廿六日、仰左大臣給宣旨伊勢守保衡、共可令催行造太神宮事、○西宮記臨時十二裏書

六月

十八日、請四十口僧於清涼殿、令讀仁王經、爲消物恠也、民部卿藤原朝臣、令延光朝臣奏僧等辭書、仰令請補、已二刻發願云々、申刻、修夕座、以扇令施給僧等、權僧正啓白事由、○西宮記季御讀經條裏書

申刻、安置觀音像二鉢仁壽殿、令權僧正寬空開眼供養、去天德四年、件堂持佛已燒亡、仍造白銀白

檀觀音像一軀、各居如舊安置觀音也、以白檀奉

造高七寸梵天帝釋、口口六寸、依延曆仁海勘文

奉造、○年中行事秘抄、按帝釋下可誦、各高二字、與、○今按此按文誤歟、

二十一日、御讀經結願、民部卿伊尹朝臣參上、依物

侍、次僧侶參上、法用之後給度者、民部卿藤原朝臣、

令文利申卷數等由、依物忌明日覽之、○西宮記、季御讀經

書條裏

二十九日、此夜神祇官供御贖、如例、但依有主

殿雜人觸穢入交官中之疑、仰神祇官人不令參

入、只神祇琴師大中臣高枝及宮主等參入、中宮東

宮節折等、以同高枝令供奉、○江次第

神祇官人中臣女并縫殿官人等、雖當御物忌、以

外宿人令供奉、昨日不令召候藏人等懈怠也、

遣使七箇寺誦經、物忌之間、外宿人參入也、○江次第

七月

一日丙辰、令延光朝臣仰民部卿藤原朝臣、近日

久不雨、恐成損害、若可祈雨歟、藤原朝臣令申

云、渠溝爲去夏洪水盡破、若遭旱可致損云々、

然而未聞愁申、豫爲年穀被祈可宜歟、令三十

五大寺及有供諸寺讀經祈年穀可宜云々、○祈雨日記

十日乙丑、右大臣令文範朝臣奏興福寺進寺家、以

東春日野廿七町寺家領掌狀文、副本記帳、資財帳并調度文書等、令仰

召春日神主時用、可令仰寺所申、先是寺社遞

有所申、今就此公驗令問云々、○東大寺要錄

廿九日、被仰侍從座事、○西宮記相摸

八月

廿日、於仁壽殿覽秩父御馬、以一疋賜左大

臣、奏賀拜舞、○西宮記駒牽

廿三日、牽望月御馬、上卿不參、依仰相分令候、

左右馬寮、○西宮記駒牽

廿八日、左大臣令奏神宮勘中太神宮新宮心御柱

違例無判官、狀云、雖先例、依格上、可科上被者、依定

申、令稗科、○西宮記臨時十二裏書

九月

補三日、御仁壽殿、覽眞衣野御馬、依雨取手立

綾綺殿壇上、兩牧一度牽時、度々取之、牽綏イ由比小

川石川立野之時後取、立野御馬別貢又後取之、有

先後論之時、依外記日記上卿定下、自御即位年

可定取一歟、公家有事時、牽諸牧御馬、准繫飼

例、仰左右馬寮於本寮令分取承平元年例、○西宮記駒牽

補七日、遣太神宮遷宮神寶使、諸司廢務、已尅、使

神祇伯懷古王令藏人文利申發向之由、辨官等皆觸穢

豐受遷宮之例、以件王爲代、又左大史安國爲神寶行事、而觸穢

裏穢其穢歷在今月十二日不及遷宮之日、仍外史共不向、於事

可無傾、仰安國宿禰別赴向令行事、依內裏穢不給祿、只仰聞食之

由、又無宣命、宮司依式讀申祝詞、此先例也○西宮記

臨時十裏書

補廿六日、左大臣、令文範奏諸卿定申諸國言上去

年不堪佃田文事之中、備後國應和元年言上、增天德四年言上

免三分二由、奏料、依諸卿定申下宣旨、令仰云、前日不疑諸卿定所仰

也、須改正奏報返給、又令仰自今以後不堪佃田

解文、初年奏副二年來言上數勘文可奏之由、○西宮記不堪佃田

文奏

補於南殿覽上野御馬、爲平親王候屏風邊、今年

殿上人賜御馬、依延喜七八年例、兩年賜之、○西宮記駒牽

十月

補十九日、左大臣參上、奏諸國言上不堪佃田解文、

副勅年來言上數文、仰令諸卿定申者、然則應和二年

依○所副奏、以往有二度奏、自此年初有二度也、故江左大

承獻天聰書云、自第二度可反舊及故書年來言上數文、

然而、彼應和以後初度奏也、江大承只詳上古例而

已歟、奏文卅九枚、相模上野等田後不堪二枚、○西宮記

臨時十裏書

補召內教坊妓女十人、令奏絲竹、○河海抄若菜下

卅日甲寅、尙侍藤原貴子薨奏、侍臣垂御簾可在

服親之喪、不聞朝之時、不可必垂、○小野宮年中行事

補貴子、延喜年中入太子宮、太子薨後守貞節、天

曆之間父相國薨、執孝道殊篤、仍雖非當時親戚

功勞之人、爲美其節操所贈也、後代以尙侍之職

不可_三必預_二此恩_一云々、○大鏡裏本陸君

十一月

七日、懸の後召_二王卿_一云々、○西宮記号場始條裏書

十八日

圖下御簾_二事、可_レ有服親王之喪、不_レ聽朝之時等可_二必垂_一云々、見應和二年十一月十八日御記、

○山沙北裏奏

十二月

十三日、請_二二十口僧於清涼殿、令_レ讀_二仁王經_一、依_二天變_一也、○西宮記李御讀經條裏書

十六日、大納言源朝臣、令_二佐忠奏_二御讀經卷數僧名_一云々、○西宮記李御讀經條裏書

圖廿六日、令_二國光朝臣給_二左大臣、大和國司中、以_二大掾巨勢忠明_一爲_二追捕使_一、左大將令_レ申依_レ請、西宮記臨時_一裏書

廿九日、東宮令_二延光申_一、正月二日依_レ例可_レ行_二饗事_一、而中宮所誕生有_二凶事_一、依_レ有_二事疑_一、問_二遣傳左大臣_一、左大臣令_レ申云、可_レ奏_二事由_一者、又二日參上事如何、

令_レ仰云、無服殤_一假已有_二其限_一、此爲_二臣下事_一也、況自_二凶事之日_一計之、可_レ過_二其假日_一、須_レ行_二大饗_一、又依_レ例可_二參上_一云々、○西宮記元日節會條裏書

圖此日、供節折如_レ例、但神祇宮人觸_二產穢_一、立_二陣暫不參_一、令_レ仰_二事无_一止猶參入可_二供奉_一、○江次第

圖大納言源朝臣、令_二國光朝臣奏_二大外記傳說勘申新藥師寺文_一、中云、日本紀有_二聖武天皇造新藥師佛像之由_一、不_レ見_二具由_一、但外記奏_二繁元所_レ進文_一云、光明皇后造_二新藥師寺七佛藥師_一者、兩端亦難_レ辨、爲_レ之如何、令_レ仰_二須_レ令_二本寺進_二緣起帳_一定_上也、○東大寺要錄

正月

二日、左衛門督藤原朝臣、令_二延光申_下所司候_二御杖_一之由、仰_二附內侍所_一、同_二禮_一、女孺等以_二東宮卯杖机_一、

立_二南廊小板敷上_一、藏人傳取著_二御帳_一、如_レ例、○西宮記卯杖條裏書

圖九日、右大將藤原朝臣令_二延光申_下女御芳子敍_二四位_一之喜、此日、掌侍鱗子、卒_二女敍人_一、於_二南廊板敷上_一、

賜_二位記_一、女藏人永子以下肅拜、次各退還、○西宮記 女叙位

十一日、遣_二藏人頭延光朝臣_一、仰_下左大臣可_レ擇_二申

皇太子元服日時_一事、○西宮記皇太子御元服、東宮御元服記

十三日、左大臣令_二延光奏_三元服日時文_一、來月十一日、廿一日、廿三日、

○西宮記皇太子御元服、東宮御元服記

十六日、仰_二左大臣云_一、丙午日加_レ冠凶、須_下慥問_二

此由_一一定、令_二民部卿藤原朝臣作_三儀式可_レ宜之_一、○西宮記皇太子御元服、東宮御元服記

宮記皇太子御元服、東宮御元服記

十七日、令_下延光朝臣仰_中右大將藤原朝臣、可_レ行_二

東宮御元服_一日事等、○西宮記皇太子御元服、東宮御元服記

二月

十一日、於_二大日寺_一、以_二僧正延昌_一、率_二番僧廿口_一、

修_二熾盛光法_一、並天變也、遣_二藏人共政於僧正_一仰_二事

由_一、○天台座主記

左大臣令_二延光奏_三元服日吉凶文_一、今月廿三日、廿八日、仰令

問_二兩日勝劣_一云々、令_二延光朝臣仰_三左大臣_一、東宮

參上之間、坊官等行列事、又加_二元服_一拜_二謁中宮_一

事、若依_レ式宴以前可_レ行歟、若宴以後可_二參拜_一歟、

又太子初把_レ笏、參上加冠之間不_レ可_レ持_レ之、退入_二

北廂_一改_二衣服_一之時、更把_レ笏便宜歟、大臣令_レ申云、

大略依_二此十六年儀_一被_レ行、但令_レ依_二唐禮_一加_二空頂

黑幘_一事可_レ宜、拜_二中宮_一事、如_レ式御前拜舞之後即

可_レ參也、又初取_二把笏_一、加冠之間置_二置物机_一、事了

更把入_二改_レ衣所_一可_レ宜、被_レ列事想_二像舊事_一、大夫傳

一々列立、次太子至_二于學士亮等_一次第不_二憶得_一、今

須_二定申_一、仰令_二定申_一、又令_レ仰_二加冠祝詞_一、檢_二唐禮_一、

每_二三加_一各有_二其祝詞_一、今改_二彼十六年所用說_一可_レ

宜、大臣定申、此度用_二第三祝詞_一可_レ宜、仰依_二定

申_一、又大臣令_レ申_下廿八日加_二元服_一由_上也、令_レ仰_下以_二

廿八日_一可_レ行、○西宮記皇太子御元服、東宮御元服記

十三日、令_レ仰_下右大將藤原重信朝臣叙_二三位_一之

後、更可_二院別當宣旨_一乎、○西宮記臨上時一裏書

廿一日、右大將令_レ申云、內暨所_レ勘、大江朝臣叙_二

三位_一之後不_レ待_二宣旨_一、猶爲_二別當_一云々、修理大夫

源朝臣更不待宣旨、猶可爲冷泉院別當、○西宮記皇太子御

元服、東宮御元服記、

關入夜太子參上南殿、習元服之禮、傳左大臣、大夫

藤原朝臣候、○西宮記皇太子御元服

關廿六日、右大將、令濟時中東宮直廳承塵料可給

率分帛四疋事、○西宮記皇太子御元服

關廿七日、召左大臣前、仰可令草明日詔書事、

可作設女位記五卷事、大臣令奏詔書草、大臣

令申、明日未得解由、及進過狀大夫、皆可預

坐、諸國司未赴任、及爲擁政參上者、同可召預

歟、仰可召預、大臣令申云、太子參上道、陪從

坊官等、次於帶刀陣、次亮二人、次大夫、次傅、檢

先例、拜當時所定如此、仰依此令行、○西宮記皇太子御元服

關廿八日辛亥、其日平明所司裝束紫宸殿、御帳中

立平文倚子、補御帳東南一許丈立皇太子御座倚

子、平文有鋪南廂東第二柱北邊立加冠人座、其東五

尺立理髮人座、並元自母屋東頭柱障子下南行立屏

風二帖、屏風南口當母屋中間之中、北廂東第一二間以屏風爲隔、

其內敷疊二枚、爲東宮改換衣服所、檢延喜十六年例、

見立強之由、而此殿傍東第一間、御帳西立通障子二基、同

帳艮角去一許丈、立屏風一帖、如節會時、檢同十六年

立此屏風、而准主水司東廊東第二間北邊設洗手具、標

亦手巾等置入足机上、左右近陣前并期屋前立斑幔鑑鈴

等、幸櫃運置宜陽殿只如節會時、春宮坊司於母屋

自東第三間北障子南去七尺許南向平文倚子、鋪

座云、其南相對二尺餘立平文倚子一脚、北向、此加冠理髮人

例無金箔飾者、而有其左右立平文置物机、當南北倚子中

飾、似無分別云々東頭屏風下立三尺五寸蒔繪厨子二基、南北一行設威儀

東東頭屏風下立三尺五寸蒔繪厨子二基、御膳菓子干物、

盛以花盤六庭中列陣祿幸櫃屯食、辛續三十合、當春興殿西

立之、其南端限同殿西庇南一間、其北端限同庇北一間、飯酒二列

魚菜百具相分、在東西版位、南三許丈立之中間相去一許丈、午一

刻、天皇出御南殿、于時皇太子出自凝華舍、就

給直廬、太子出行出自凝華舍東門、經弘徽殿西、及南路承香殿

路、更南行、經同殿東路斜行就直廬、其行列次帶刀前行、次亮二人相分在左右、次大夫、次太子、次侍臣、宮司、陣頭、侍者、帶後陣、

但傳左大臣依供加冠同二刻著帳中倚子次命婦平貞子

執御冠御冠舊物進置太子加冠座左置物机上退

入、薨太子出自直廬入自敷政宣仁兩門昇自

東階傳大臣大夫藤原朝臣平列北折入東廂自母屋東

兩南一間西進著尋常座自倚子南進者也太子雙臂著

束也尋常裝實賴次左大臣參議右衛門督藤原朝臣等至東

廊洗手參上著南廂兀子先是春宮坊司就各宿所賜加冠理髮人等裝束各二具即換著

衣服候陣座今參上內裏儀式云大臣中納言無洗手云々而中納

言之中無堪理髮事人仍以朝忠朝臣令供奉了以去廿一日

令延光朝臣仰知大皇太子起座著加冠座經左置物机東

右衛門督藤原朝臣起坐進著太子前倚子理髮訖取

空頂黑幘著於頂上件續藤原唐臣之中本朝太子加元服之時著空頂黑幘雖無所見檢唐

座東著退西面立謂母屋南面第二柱下藤原朝臣議大臣

起座進到東置物机下跪執冠右執頂左執前

北向上先是藤原朝臣爲解纓出冠蓋當蓋重重蓋之大臣進取立同置物机南邊也祝云以歲

之正以三之令咸加三元服以成厥德萬壽無疆

承三天之慶祝聲如平生之讀書但微音不審聞延木十六年皇太子加元服時祝言今月吉日始加元服并其幼

志慎其成德壽考惟祺以介景福此唐禮初加祝詞也今改用同禮第三加祝詞者亦有其由云々

先脫空頂黑幘納冠筥檢唐禮寶者脫空頂黑幘納冠而納加冠訖延木十六年例先入巾子後復南廂座藤原

朝臣亦進著倚子結纓理髮訖復南廂座太子起

座著加冠座理髮及加冠之間以本所把笄置左置物机上欲起座入北廂之時更把所置笄而加冠後把笄理髮之間

又置今更入北廂大臣及藤原朝臣退下此間女藏人二

人持御笄昔爲太子時納平文宮錦袋御衣阿古女各一重置納時繪衣

綾袂只朝服彼宮調候給太子權掌侍慶子及女藏人三

人出取置物机上取調度納東厨子退入暫太

子改換衣服把所給出自北障子東戶斜行自母

屋南面東第一間至南廂實賴傳大臣先候東階下待

太子出更昇同階實賴贊引太子自南廂西行大臣

至南階東間北向留立傳大臣自贊子敷進向檢延喜十六

年例大臣立南階上東邊而今立東

前例太子進當御座拜舞禮了退還左側傳引下殿

向直廬內裏儀式云傳更昇殿贊皇太子令拜賀勅命參中

宮次權掌侍恭子臨東楹又弘仁十四年例只如此而今日隨便宴了令參

時至階下恭子仰令喚左大臣右衛門督藤

原朝臣濟時、稱唯却廻、即大臣及藤原朝臣等參上、

著_三南廂座、命婦橘慶子、藏人藤原信子等、持_三祿進給

之、大臣赤白襖袍、及御衣一襲、白御襪一重、藤原朝臣白御襪一重、各受_レ之、下_レ殿於_三庭

前_一拜舞_{左使南頭柱、}退還、即還_三清涼殿、其後春宮坊

司等參上、撤_三加冠座、倚子、机及厨子等、所司更

立_三殿上親王公卿座、內膳辨_三御膳、造酒置_三御酒

器、主膳辨_三皇太子饌、前餐盤引、馬頭盤、銀箸七、唐菓子、木菓子各四

種、盛_三又撤_三北廂改_三換太子衣_一所之座、爲_三東宮饌候

所、立_三棚厨子一基、以_三屏風一帖立_三障子戶內、隔

之、並如_三節會時、所司宜陽春與兩殿西庇設_三四位已

下五位已上座、床子二大膳立_三上下臺盤、造酒立_三酒器、

皆有坊司奉_三所司、辨_三上下羣臣饌、諸大夫饗者、令_三穀倉院

藏人所饗、坊司同賜_レ之、令_三延光朝臣給_三左大臣東宮宣旨、乳母名

簿、以_レ可_三就位_一也、春宮大夫藤原朝臣、令_三延光朝

臣申_三東宮殿上大夫陣頭等、可_レ供_三奉公卿饌手長_一

事、仰令_三下_三宣旨、先_レ是仰_三延光朝臣、主膳監官

人以下、依_三先例_一可_レ參_三入恭禮門前、由給_三了宣旨、申

一刻、實額左大臣令_三藏人文利奏_三詔書、詔書旨爲_レ父後、六

位已下賜_三爵一級、應和元年以往調庸未_レ進、咸從_三

免除_一者、此弘仁十四年太子加_三元服_一時例也、即遣

日返_三給大臣、又令_三藏人共政奏_三授平寬子宣旨、橘等

子、源正子、藤原都子、同五福子、已上乳母並從五位下

記、覽了返給、覽捺良_{印力}又令_三奏下_一、給_三付坊司_一各分

給左大臣、令_三延光朝臣申_一、今日供奉之間、進退甚

苦、不堪_三著到_一、請自_三腋將_三參上_一、仰_レ依_レ請、同二

刻又出_三南殿、左右近出_レ自_三本陣、列_三殿前_一、其裝束中少將帶_三弓箭

著_三執、府生以上右帶近衛尋常裝束也、豫無_三立_三前床_一也、即就_三倚子、近仗警蹕、次皇太

子參上、當_三座東南六許尺_一謝座立、東宮采女_{命_三嬪壬生}

把_三空盞、出_レ自_三障子戶、進授_三太子_一、自_三北邊授之、退立_一御帳長角御屏風後、

太子受_レ之再拜、采女進受_三盞南廻、太子著座、覽親

王以下、五位已上入_レ自_三日花門、列_三立庭中_一、參議已上

位以下在後重行、並北面西上、在_三板位以東_一三許丈、當_三也食前、未得_三解由、及_三進過狀_一大夫等皆預_レ之、王卿比入_三日花門、近仗

興如、謝座、春宮亮兼通朝臣把_三空盞、授_三貫首親王、

即謝酒、下訖上下各著座、于_三時左大采女等進欲_レ撤_三御

臺盤覆、即自止之、獻物之後令撤、親王公卿更下

殿出、自敷政門、諸大夫起座、出自日花門、初在春興

殿座、大夫等不退出、應是執獻物、人已剩而近衛陣皆令坐、執御贊入、自日花門、列

立庭中、總百捧、須相依隨道、近仗與、左大臣獨留殿上、

間、貫首人中務卿親王稱唯、曰春宮坊獻御熟、稱御子宮

以次稱口物名、執捧物、大夫四五人、此間進加立、可謂遺失、大臣曰、給進物

所、貫主親王稱唯、膳部、親王不待大臣宣、早喚膳部、膳部先稱唯進置參也、膳部

來受、受參議已上所執物、而膳部多來、欲受諸大夫所持、近衛陣退還、諸大夫持就進物所、

親王公卿等還侍座、即內膳自西階、益供御膳、東

宮采女益供皇太子饌、坊司賜上下群臣饌、此間日

已昏、主殿供炬獻物之後、左右近衛將曹一人、率

近衛各二人、開長樂永安兩門、良久辨二人起座、

出自長樂門、率史各一人、更自長樂永安門參

入、立屯食邊、左少辨國光立、東屯食西、右少辨文相立、西屯食東、令六衛府舍人運

出、預給諸司所々、須皆運出中隔、須給、而或令身出、或放入所給諸司、雜人成、猥濫不能早

運、此辨官失也、良久閉兩門、于時三獻了、治部雅樂率樂

人、入、自日花月花兩門、分立承明門壇下、遞

奏音樂、大唐高麗各二舞、樂終退出、實續、左大臣執見參候上、轉

內侍、令奏覽了、還以見參付少納言、先是皇

太子退下、不能參上、仍以春宮權亮延光朝臣御

衣一襲、就直廬賜太子、少納言在寬入、自日花

門、進就版位唱見參、親王以下應召起座、就給

祿所、坊司立辛櫃下、依次給祿、親王已下大

夫等列立庭中、拜舞、北面西上列立之所如初、拜舞不煩給了、爲歎夜深也、即還清

涼殿、時子四刻、檢延喜十六年例、宴闌召書司奏絃歌、

而今夜大臣早奏見參、仍無此事、同刻太子參弘

徽殿、拜中宮、禮了還凝花舍、

今夜三品昌子內親王適皇太子、○東宮御元服記

三月

圖十九日、雲林院新造塔會事云々、遣延光朝臣於

雲林院、左大臣云、彼院別當春暹可爲權律師、但延年、勸修寺法會日寺別當口高任律師例也、又給請口者云々、酉刻還參、大

臣承仰、衆僧參入、口後召春暹於公卿廳、仰任權

律師之由、大行道訖、延光朝臣導師高座下傳下仰賜

度者之由、又給_二袈裟_一之狀、○西宮記臨時一裏書

爾廿日、大納言源朝臣、令_二藏人_一口口口奏_二去月詔書

覆奏、內侍不_レ候、令_二藏人_一仰_レ依_レ請、暫源朝臣令

奏_二詔書覆奏_一、畫可下給、○西宮記臨時一裏書

爾一日、大納言源朝臣、令_二國光朝臣奏_二新藥師寺

勘申緣起流記帳文、仰_レ依_二前日定_一、可_レ告_二聖武天皇

山陵、可_レ造_二立風損御願七佛藥師堂佛像等_一事、○東大寺要錄

爾廿四日丙子、大納言源朝臣、令_二藏人棟世、申_二明

日奉_レ告_二山陵宣命_一趣、令_レ仰了、新藥師七佛藥師堂、

即聖武天皇御願也、而去年八月爲_二大風_一顛倒、令

可_レ修造_二之狀可_レ裁_二宣命_一、○東大寺要錄

爾廿五日丁丑、大納言源朝臣、令_二藏人輔成奉_レ告_二

山陵_二宣命草覽了返給_一、暫源朝臣令_二爲光奏_二告佐保

山陵宣命、即發_二遣使者_一、○東大寺要錄

五月

十五日、此日、召_二左馬寮十七栗毛_一、於_二東庭_一、覽訖飼

芻人召_二左馬頭有年朝臣_一、令_レ仰_レ能調_二養御馬_一之由、○又イ

召_二左近將監尾張安居、府生茨田相平等_一、仰_レ能騎_二

御馬_一之狀、並於_二南廊_一、賜_二祿_一、有年朝臣白襪一、重、安居等足緒、此延喜六

年、賜_二左近將監尾張遠望祿_一例也、○小右記長和三年五月十七日下載之、西

宮記觀射條

爾廿九日、大納言源朝臣、令_二奏_二山城國司申宣旨下_一

檢非違使、仰_二公田人民對_二捍官物_一、隨_二國移_一令_二召勘_一、

察_二官物_一後、又隨_レ移令_レ免、又諸司官人所_レ執、未_二

進言上_一、其夾名暫停_レ勅_二釐務_一云々、又令_レ仰云、對_二

捍官物_一輩事、依_二舊例_一行_レ之、諸司官人所_レ執、錄_二

上名令_二言上_一、隨狀待令_二勘紮_一、○以下闕、西宮記臨時十二裏書

六月

十一日、物忌於_二殿庭_一拜_二大神_一、又神祇官參_二入御殿

祭云々、○西宮記神今食條不_レ注_二日_一、

爾廿六日、雷雨、仰_二濟時_一、雖_二物忌_一令_レ立_二陣云々_一、

雨晴、令_二藏人雅材仰_二藤原朝臣_一、令_レ解陣_二如_レ常_一、○西

宮記雷鳴神

七月

補一日辛亥、此日、奉幣馬於丹生貴布禰兩社、祈

雨、以藏人左衛門少尉藤原重輔同大尉佐時等、

爲使、有_二此先例_一也、○智證大師記所載
御記抄祈雨日記

補五日乙卯、令佐忠仰民部卿藤原朝臣等云、頃

者早氣甚盛、須_レト其崇、又於東大寺讀經祈雨

何、藤原朝臣等令申云、爲祈雨集七大寺僧於東

大寺大佛殿讀經、其供料給大和國々々難堪乎、若

遣名僧於諸社讀經何、又加修請雨經法可_レ宜、

令仰云、前々大佛殿讀經有_二其靈驗_一、仍依前例、

於彼寺可_レ令修、又加修請雨經法可_レ宜、藤原

朝臣、令佐忠奏神祇官ト不_レ雨崇、云、理運之上坐乾
方天神所致歟、陰陽

ト申同崇文、推云、理運天災、
之上、貴靈爲崇、令仰云、須_レ合方天神謝

崇、陰陽寮擇_二申請雨經法日文、仰定_二九日_一、○西宮記臨時
裏書、智證

大師記所
載御記抄

六日丙辰、可_レ勤修請雨經法之由、先仰權僧正寬

空、申_二有_レ所煩之由_一、令問可_レ修阿闍梨、令申_下

慥傳授寬靜之由、令仰請寬靜之處又令申障之

由、仍令請權律師救世、○東寺長者補任智
證大師記所載御記抄、

補八日戊午、午後雷電澍雨、○智證大師記
所載御記抄

補九日己未、此日、集七大寺僧於東大寺大佛殿、轉

經祈雨、限三々日、使右近少將清遠監修、又於神

泉苑、令權律師救世修請雨經法、限五箇日、○智
證大師記所載御記抄又以下、祈雨日
記、祈雨法記、西宮記裏書同、

補十日庚申、令國光朝臣仰民部卿藤原朝臣云、

炎旱甚、衆人愁尤盛云々、須_レ重奉諸社、又例奉

幣神社之外、宜令_下勘前例加奉、又令修三五龍

祭、○智證大師記
所載御記抄

補十二日壬戌、雷始鳴、及午終聲止、雨不_レ及濕地

晴、○祈雨日記、智證
大師記所載御記抄

補十三日癸亥、民部卿藤原朝臣、令藏人雅材申_中十

五日奉_二幣丹生貴布禰_一、可_レ加奉馬一駄、仰令_二加

奉、暫藤原朝臣令雅材奏云、左右馬寮申、繫飼馬

用盡、以_二野放馬_一將牽進、仰依_レ請、○智證大師記
所載御記抄

十四日、伊勢奉幣、令藏人雅材傳_二仰民部卿藤原朝

臣、在衛

臣云、權律師救世、修請雨經法、始限三日、而救世令申、七箇日可修之由、啓白佛已了、今縮其日數、不可然之由、仍令問始仰事由右中辨佐忠、申仰五箇日可修由、隨進其支度、昨日依仰以相當神事、不可延日之由令仰示、而所

申如、此令勘申祈雨時、佛事神事并被行之例、

可延日修歟、令申云、今日可結願、若令勘申

之間、時尅自移乎、尋事旨、同祈雨也、所修在

宮外、被延日被行可宜、依仰定申延二日、令

修之、○祈雨日記、西宮記、祈雨法記、智證大師記所載御記抄

十四日此日、孟蘭盆不拜、自內藏寮送醍醐法性

兩寺、以明日可奉幣伊勢大神宮齋也、○小右記長和二年七月

三日下

圖十五日乙丑、此日、奉幣伊勢大神宮、石清水、賀

茂、松尾、平野、稻荷、春日、大原野、大和、石上、大

神、廣瀬、龍田、住吉、丹生、貴布禰、以上之社奉黑馬木島、

乙訓、水主、火雷、平岡、恩智、廣田、生田、長田、坐摩、

垂水、龍穴等神社祈雨、民部卿藤原朝臣、令藏人輔成、申春日使右衛門佐正輔、丹生使神琴師大中臣高枝申云、无騎物、將給御馬、仰依請、○智證大師記所載抄

圖午尅、藤原於八省發使者、同刻於南殿祈神

云々、○西宮記臨時裏書

十六日、申尅雨降、入夜風起雨澍、○祈雨日記、西宮記、智證大師記所載御記抄

圖十七日丁卯、民部卿藤原朝臣、令佐忠奏僧綱進東

大寺御讀經卷數僧名等、請雨經法卷數并僧名、仰令

勘申請雨經法結願日、降雨之時、給僧度者例、○智證大師記所載御記抄

廿一日、藏人式部丞藤原雅材、供御祓物、以明日

令天文博士保兼赴難波湖及七瀬三元河臨禊上

云々、○河津抄

圖廿二日壬申、令延光朝臣給右大臣僧綱申依前

例、元所得修仁王會祈甘雨文、令定申修否、

令申云、炎旱已久、但每祈非无其感、謝雨濕少、又

愁未斷、僧綱已請僧事等、○智證大師記
所載御記抄

關廿八日戊寅、此日、修臨時仁王會、依禳旱災及
天變地震也、已刻發願、權少僧都光智爲清涼殿講
師、○智證大師記
所載御記抄

關民部卿令延光奏、公卿請停舊錢、用新錢上論奏、
狀中云、以來十月書閣下給、○西宮記
爲禁止之始者、時一裏書

關廿九日己卯、西寇降雨、○祈雨日記、智證大
師記所載御記抄

八月

十九日、遣延光朝臣於左大臣許、仰明日可參候
之由、還來傳、大臣報、有所勞不參、若夜間頗損
平者將參、猶不平日、將申其由、此日、改東庇并
母屋簾、今夜廣平親王緝子內親王參入麗景殿、○親
王元

二十日己亥、今朝陰雨、此日、廣平親王加元服、年
十四、其儀垂母屋御簾、撤尋常畫御座立大床子、
鋪毯東庇南第二間鋪親王座、北面鋪二枚上
代、茵一枚、用本案、其東鋪
菅圍座一枚、人座、東又庇南二間鋪加冠人座、始鋪錦
毯一枚

鋪茵一枚、而依納言可供其事、遣使召左右大臣等、並
稱病不參、仍令延光朝臣仰右大將藤原朝臣可加
親王冠之由、令申先例、大臣等供之、身在末座
不能供奉、令催猶可加之狀、同四寇、遣藏人
文利給親王作物所造櫛調度及什物、畫所張
上屏風等、充今日料、細目在別申三剋、廣平親王參上候
侍所、即著大床子、令濟時召親王、親王進著座、
召侍臣令喚右大將藤原朝臣、藤原朝臣進候、令
置親王櫛調度、即令侍臣等以件具置親王座東
蔭給二盞、同唐匣一合、加冠器一仰、藤原朝臣、召左近
合加蓋御冠納藤原宮、置二盞上、仰藤原朝臣、召左近
中將重光朝臣、理親王髻、藤原朝臣召之、重光朝
臣稱唯進、著座理髻、訖退候、南階邊、藤原朝臣
進執冠加親王頭、復座、重光朝臣又進理髻、于時
日晚、侍臣執脂燭照之、事訖、重光朝臣退下、
次親王退出、次藤原朝臣退出、親王到射場殿西便
所、立屏風、改元服之間、侍臣撤親王櫛調度、遣
藏人頭延光朝臣於左大臣第、問可授親王品事等、

入夜主殿舉燈、次廣平親王入自仙花門、於仁壽殿階底下拜舞退出、依庭溫於此拜、次令掌侍慶子召藤原朝臣、藤原朝臣進就前座、慶子以御衣給、御下襲一合、白合、細長藤原朝臣下殿於階底下拜舞、此間左右馬允各一人率御馬各一疋、左藤原五赤毛、右藤原廿赤毛、入瀧口戶、立吳竹架西邊、待藤原朝臣退、引出白瀧、藤原朝臣退出、口月、令授藤原朝臣從者、出自仙花門、并御馬曳出了、內侍又出召重光朝臣、重光朝臣進候南階下、藏人執祿給、白襪一領、紅染御阿古女、重光朝臣進拜舞退出、次侍臣撤親王座及加冠座、更設王卿座於東又庇南一二間、如例、延光朝臣還奉傳大臣、報云、親王敍品、依克明親王例、被行尤可宜、即令延光朝臣仰右大將藤原朝臣、可令召中候供奉二位記事所司上之由、此日仰內藏寮、賜殿上王卿、及男女房、左右近樂人等饗祿、親王家以屯食一班陣々所々、於玄暉門東廊須行、須於中口家與檢非違使共行之、又承和例并克明親王加元服時、親王家儲王卿侍從男女房變、而延喜延長之間、克明親王以下次々親王加冠日、仰內藏寮儲此饗事、戊寇、又就大床子、于時從簡略、令因循簡伶之例文行、

中務卿親王以下、殿上侍臣、及藏人所執親王家所儲獻物、入自瀧口東戶、列立庭中、其首親王常御座、而此程不可然、右大將藤原朝臣候御前、問曰、何物、中務卿親王曰、廣平親王獻御贄、親王頭先稱唯、次云所獻者不稱唯失也、次各稱物名、訖藤原朝臣宣給膳部、親王進一兩步喚膳部、親王不稱膳部、公卿又令旨也、一聲、內膳官人稱唯、入自仙華門、所贊、親王公卿等授御贄、可出、白仙華門、而贊音中務卿親王不知、退下、執贄出仙華門、付膳所、次令召公卿、暫中務卿親王、兵部卿親王、左兵衛督藤原朝臣、治部卿源朝臣、朝成朝臣等參上、內藏寮給酒肴、坏二三度之間、左右近衛入自瀧口、候北廊南庭、發亂聲奏樂曲、御厨子所供御酒肴、令延光朝臣侍、仰廣平親王勸盃中務卿親王、暫召右大將藤原朝臣、仰可授廣平親王三品事、藤原朝臣退下陣頭、令書二位記、進奏覽覽返給、暫奏捺印位記、仰先例於侍所給也、藤原朝臣申便可付親王別當

佐忠、于時左右近各奏舞三曲、訖退出、仰令侍

臣奏絃歌、令兵部卿親王彈琴、朝成朝臣吹笙、

廣平親王改著位服、參入自仙華門、到前拜所

拜舞退出、次給王卿以下男女房祿、有差、親王白細長二領、納言白細長一重、白微一領、參議紅染細長一重、同微一領、四位五位各一帖、六位并童各疋絹、又更衣、典侍、乳母、命婦、紅染微各一領、掌侍命婦等各一條、藏人疋絹、又樂人給祿、即入之法、印官人疋絹、番長、并物師調布各三端、近衛各二端、

內、王卿退出、時丑此間親王參中庭拜賀、服部類記

廿九日戊申、民部卿藤原朝臣、令佐忠奏外記勘

中被修請雨經、并修法以後降雨例文、副官勘申又

勘申龍穴御讀經僧等給度者例文、又勘申諸社諸寺

祈御使僧給度者例文、令仰云、請雨經法、結願日降

雨、依天曆十年例、阿闍梨救世及伴侶、同可給

度者、至于龍穴御讀經、彼間他祈已多、須給使

律師祥延度者一人、○智證大師記

九月
所載御記抄

五日、齋院司、申不勸神座修理神殿事、又令

仰神座移齋王住所、可加修理事、○西宮記

十一日、依穢停伊勢幣、仍於建禮門前行大祓

事、○西宮記例
幣條裏書

廿二日、民部卿藤原朝臣、令申檢非違使可下

知左右職、令諸條保長刀齋勤行部內夜行事、依請

仰令諸卿定中云々、○西宮記

廿六日、到八省奉幣、加七月八日祈雨奉幣云々

了、左近將監等、皆有障不參、仍以將曹間人秀

仁、令供契櫃、此有先例也、○西宮記例
幣條裏書

十月
九日、此日弓場始也云々、了之弓場、左中將重光

召右將監有茂懸的、須待名一聲稱、唯而一聲稱也、令重光召三公卿

云々、○西宮記

令仰云、依諸卿定、五位以上及諸司主典已上良

家子姪不勸者、錄名奏聞、○西宮記

十九日、左大臣參上、奏諸國言上不堪佃田解文、副

年來言上○文、依仰令諸卿定申者、○西宮記

廿三日、於仁壽殿覽後院利山萩原御馬、近衛

分取、又給_二當時親王_一、遣_二給垂水御牧_一、○西宮記駒率

十一月

廿日、此日新嘗會也、今明雖_レ相_二當物忌_一、依_レ不得_レ止、親莅_二會庭_一者、○小右記長和三年十一月廿二日下注之

十二月

十一日、自_二去六日_一至于今日、物忌也、神祇官進_二

御躰御卜、自_二內侍所_一傳奏、昨日上卿奏_二事由_一可

付_二內侍_一、而不_レ奏、只付_二違例_一也、○西宮記

令_レ仰_二右大臣可_レ聽_二侍從時中著_二雜袍_一、助信朝臣

以_二少將_一重不_レ仰_レ之、○西宮記裏書

令_レ左大臣在_レ第、令_二國光朝臣奏、木工寮勘_二申可_レ修_二

理東大寺大佛堂損亡朽_一支度、○西宮記裏書東大寺要錄

閏十二月

三日、左衛門督藤原朝臣令_二藏人輔成申_一云、奏_二

內案之後、欲_レ捺_レ印、印納_二辛櫃_一、鑲固_二口不開_一、

尋_二先例_一、未_レ有_二奏_一內案不_レ捺_レ印之例、口事請_二口

破_二鑲令_一出、仰_レ須_二打開_一、後日令_レ修_二理之_一、○西宮記裏書時十二裏書

閏廿一日、召_二御導師_一云々、了比_レ明召_二王卿侍臣於

女房簾前、給_二肴物_一、又以_二酒盞瓶子及藥器_一、置_二山洞

中、象_二仙室之體_一、令_二小舍人景舒施_二山中醴泉_一、○西宮記裏書以_二大酒器_一

酒、以_レ盃給_二兵部卿親王_一、親王飲下_二小庭_一拜舞復

座、數巡之後、以_二中宮女裝束_一給_二王卿_一、以_二納殿絹

給_二侍臣_一、令_二左少將濟時唱_一見參云々、○西宮記裏書御佛名

第三夜曉、錫杖之間、於_二簾中_一聊調_二琴倭琴等_一、事訖

出_二殿上_一令_レ奏_二絃歌_一、○北山抄佛名、撰集秘記

閏廿七日、令_二延光朝臣仰_二右大將藤原朝臣_一、藤原朝

臣和子可_レ聽_二禁色宣旨_一、○西宮記裏書時一裏書

康保元年

正月

一日、依_二忌月_一不_レ出_二南殿_一、入_二夜式部卿親王_一、

令_二藏人文利申_一云、有_レ所_レ煩遲參候_レ陣之由、仰_二許_一

參上之、○西宮記裏書

二日、皇太子參上、著_二帳中倚子_一、次太子出_二自_一

侍所、於東又庇、拜舞、了退出、即令侍臣敷御座及太子座、太子座用茵、設御座南間、令延光召太子、太子著座、

侍臣給酒肴、御厨子所設之、次令召爲平親王、親王入仙

花門、進東庭、拜舞出、仰侍臣召親王、親王參上

候、東又庇、南一間鋪管、圓座一枚、又召左大臣、令候、同廂南一間鋪管圓座、

爲座、大臣依傳召之、侍臣酒肴給大臣等、左衛門督勸孟太子、

太子屬爲平親王、親王屬大臣云々、有勅爲平親

王帶劔云々、進東庭、拜舞、又召之、命婦以御卮

給太子云々、○西宮記小朝拜

圖十日、使左近中將重光朝臣、賜齋內親王位記、

令命婦昭子頒女敍位記、今日內侍不候、仍以

代官、令給之、○西宮記女敍位

二月

四日、止祈年祭、依穰也、於建禮門前行大祓、

左大臣在、第、遣大外記傳說、付文利奏陰陽寮

擇申祈年祭日文、十六日令仰云、以廿二日可行、○西宮記

圖五日壬子、爲平親王遊覽北野、子日之興也、平旦

天陰及午尅、漸晴、同刻召爲平親王、參議伊尹朝

臣於前、又召覽陪從殿、侍臣鷹飼等被馬、四位著直衣、五人著狩衣、鷹飼

四人著野裝束、又召從親王、小童三人、其騎馬等同覽、

未刻許、爲平親王使藏人所雜色藤原爲信獻、鮮雉一

翼、助信朝臣所捕獲云々、入夜爲平親王、右衛

門督藤原朝臣朝忠、伊尹朝臣等、還參候侍所、即

於侍所給酒、侍臣等執獻物、列立、藤原朝臣問

之、即重光朝臣稱親王獻御贄、各稱物名、藤原

朝臣仰令給御厨子所、侍臣酣醉奏絃歌、良久賜

王卿等祿、先是親王退下、不給祿、亥刻入內、○大鏡裏書

應和四年、直幹作仁王、會呪願文、二九年被問、此

由、申云、唐家本朝以改元年、文時所作呪願文、

十九年由、與直幹依異、問其由之處、自即位

年、可計在位之數也、直幹所申不得其理、云

云、○山槐記安元年八月廿八日下云、計在位年、有三說、事、或自愛禪年計之、或自即位年計之、或自改元年計之、

村上先帝御記云々、無月日、今據日本紀略二月廿六日癸酉仁土會之文、載此、

三月

○九日、仰_二右大將_一、以_二大僧都鎮朝_一可_レ補_二延曆寺座主_一也、申云、作_二宣命_一、藤原令_二奏_一宣命草、申云、以_二少納言_一可_レ差_レ使、而未_レ參、明日御衰日、明後日重日也、仍檢_二先例_一、或奏_二宣命_一之後、經_レ日遣_レ使、或使_二近衛少將_一、仰云、且奏_二宣命_一可_レ待少納言若不_レ參者、後日可_レ遣_レ之、少納言□□仍_レ問イ今日可_レ遣_レ之、問_二十口座主鎮朝_一、差_二增恒法師_一、就_二藏人輔_一申_二喜由_一、兼令_二申鎮朝長意_一□□依_レ籠_二山_一、以_二弟子僧_一申_二喜由_一、合鎮差病連退不□、仍准_二彼例_一所_レ令_二參也_一、令_二仰_一聞食之由、○西宮記_レ臨時

一裏書
○十三日、令_二藏人文利_一仰_二左衛門督_一云、依_二物忌_一

不_レ臨_二覽射禮_一、公卿等著_二彼所_一行事、○西宮記_レ臨時一裏書

○十四日、令_二藏人學仰_一參議賴忠朝臣、建禮門可_レ

行_二射禮_一事、○西宮記_レ臨時一裏書

四月

二日、左大臣令_二文利_一奏_二禊前驅并次第使文_一、○西宮記

○七日、民部卿藤原朝臣申云、當將親王著服事、依

令_二爲_二嫡母繼母_一可_レ著_二一月服_一、仰、爲_二皇后_一所_レ服如何、仰云、須_レ依_二令文_一著_レ之、但延喜七年六月、先帝爲_二七條中宮_一著_二給錫紵_一三ケ日、是異_二繼母之

例、藤原朝臣令_二申云_一、貞觀十三年、太皇太后崩、此

天皇祖母也、而被_レ定_二心喪五日_一、服制三日、此與_二令文_一不_二相合_一、以_二諸道勘文_一取_二捨彼是之文_一、被_二定

行_一也、又延喜七年例如_レ此、左右只可_レ隨_二勘定_一、仰

云、此兩度例、爲_二朝家服制_一、被_二議定_一也、至于親王

等、猶依_二令文及尋常之例_一著_レ之可_レ宜云々、○西宮記_レ裏服

九日、召_二左衛門志飛鳥部常則_一、圖_二書西廂南壁白澤

王像、○河海抄

十三日戊午、齋院禊也、召_二覽右大將藤原朝臣之家

牛、并兩國牛等_一遣_二院之云々_一、又召_二覽陪從等_一之云

云、○西宮記

○十五日、以忠上_二去十四日戌刻月犯以前星異奏_一、令

中云、須_レ加_二左大臣封_一、而大臣申云、身親觸_レ穢、被_レ行_二大神事_一、間加封、非_レ無所_レ憚、須_レ候_二氣色_一、加_二以忠封_一、可_レ令_レ奏、仍上奏、○西宮記臨時十二裏書

圖廿一日、令_下文範朝臣仰_中民部卿藤原右少志美努定信、左府生能登公藤、可_レ爲_二檢非違使_一、○西宮記臨時一裏書

廿九日、辰刻、使_二藏人文利問_一中宮、兼令_下問_下止產養_二否之由_一、還來申、伊尹朝臣令_レ申云、自_二今曉寅刻許_一、氣息雖_二纔通_一、不_レ可_二敢存坐_一、更不_レ可_レ被_レ行_二他事_一、即令_レ召_二惟賢_一、惟賢參來令_二文利申_一云、中宮氣已絕、但聞_二御身頗暖_一、依_レ有_二事疑_一、不_レ能_レ參上、兼通朝臣有_レ所_レ令_レ申、爲_レ之如何、令_レ仰云、若未_二終給_一以前參來者、早_二可_レ參上_一、惟賢參上申云、兼通朝臣令_レ申、候_二宮諸司官人等_一、若可_レ被_レ忘_二御穢_一者、不_レ可_レ令_レ通、隨_レ仰將進止、令_レ仰云、聞_二此由_一、悲歎不_レ知_レ所_レ爲、官人暫不_レ可_レ令_レ通_二內裏_一、又遣_二文利問_一、中宮已刻崩、文利還來申云、中宮已崩、加持僧等皆退下、皇后是前右大臣藤原師輔朝臣第一

女、諱安子、母故出羽守藤原經邦之女盛子也、予在藩之時、以_二天慶三年四月_一配合、爲_二儲貳_一之後、同八年正月以_二太弟妃_一、授_二從五位上_一、及_二于登_一帝位、爲_二女御_一、授_二從四位下_一、厥後頻進_二階級_一、又授_二從三位_一、天曆四年五月生_二男子_一、以_二同年七月_一立爲_二皇太子_一、太子初謁見之日、又授_二從二位_一、至_二天德二年_一、策命爲_二皇后_一、以_二應和四年四月廿四日_一、於_二主殿察廳_一誕_二生女兒_一、今日已刻終_二于同寮_一、時年三十八、在_二后位_一七載、夫榮耀無_レ常、運命有_レ限、何處避_レ之、誰人永存、然而弘仁以來、無_レ爲_二正妃_一之皇后、當時殞_レ命之者、今配偶之後廿有五年、共_二一禍_一、同_二枕席_一、多經_二春秋_一、況聞嬰孫兒子比肩戀哭、先_レ言淚下、何日何時敢慰_二心腹_一乎、午刻、春宮大夫藤原師尹朝臣、令_二學士齋光申_一云、皇太子今日欲_レ參_二中宮_一、而已崩不_レ遂_二臨問_一、須_レ避_二正寢_一、坐_中下地上之所、然南專無_レ有_二其使之處_一、令_レ仰_レ可_レ令_レ坐_二西庇_一、未刻或人告曰、中宮今聞_二蘇生_一云々、又遣_二文利_一

問消息、文利還來申云、兼通朝臣申云、近侍女等、以薄紗掩御面、而如風吹、疑此氣息歟、又御身體冷畢、更以暖熱、仍即加持僧猶令加持、又淨藏法藏等、卜可蘇生給之狀、故所行也、左衛門督藤原師氏朝臣、令文利申云、伊尹朝臣中、穢已入交内裏、惟賢參入、此令崩後也、兄弟等皆候此、春宮無候人歟、若有仰者一人參候東宮、如何、即遣文利仰伊尹朝臣、參入可侍東宮、兼問人□□□消息、文利還來申云、伊尹朝臣等申、御胸頗暖、雖有三事疑、更非可憑云々、入夜伊尹朝臣參入、亥刻、即伊尹朝臣語、暫退下向凝華舍、○大鏡裏書

五月

二日、藏人付典侍、奏交易御馬解文、右大將依仰賜左右馬寮、中宮尉御時也、○西宮記駒牽

三日、仰春宮大夫藤原朝臣云、皇太子著服、神事之間、在宮中甚可無便、須定可移所、又可定坊官近臣等帶朝官者著服之程等云々、藤

原朝臣令申云、太子乍在宮中著服、神事之間不可輒出入、須出他所、而延長間、東宮依輕服出桂芳坊云々、此中重也、事與内裏同云々、又坊官近臣著服事、令諸道勘申、仰云、太子可遷處擇吉方諸司、令加修理可移、○西宮記東宮

七日、右大臣令奏明法博士公方等勘申皇后崩心喪期限文、狀中云案之、以本服三月、可爲心喪限者、令仰云、所疑已以相令、須如此行之、大臣令申云、臣下期限之間、不可著美服歟、仰云、除諒闇之外無所見、不制美服、去四月廿九日、中宮安子崩、○西宮記裏服

亥刻、於凝華舍、乘輦退出左近府云々、同日、春宮大夫藤原朝臣令申云々、仰云、明經道辨、並直幹朝臣猶可著素服、依從服之義也云々、○西宮記裏服

十四日、令濟時賜右大將藤原朝臣之文二枚、令仰可令分取陸奥御馬事云、於中重分取者、外記日記如駒牽儀云々、○大府記應德二年十二月三日夜下

右大臣在筵、令濟時申依天曆八年例馬射手

手結一度可_レ行之由、仰依_レ請_〇宮記

六月

四日、遣_三藏人濟時於左大臣第、仰云、直講長列勘申
曆運雜事二箇條、一今年當_三甲子年_二可_レ被_レ施_三德化_一
事、一應和四年甲子值_三中興年_二可_レ被_レ慎_三災變_一事、其
右狀云、若改元施德、新_三其視聽_一者、天文博士保憲
覆_三勘文_一申云、當_三甲子之年_一、仍施_三德化_一、及慎_三災
變_一、并改元事、所_三勘申_一可_レ然、但中興之運事不_レ可_レ
_レ然、抑屢改_三年號_一、頗雖_レ有所_レ念、勘申之旨爲_レ之
如何、濟時還來傳_三大臣報_一云、依_三長列保憲等勘申_一、
被_レ改_三年號_一尤可_レ然、_〇革命_{勘文}

圖十日、左衛門督藤原朝臣、令_下文利奏_中神祇官申蒙_三
處分_一供_三奉御體御_一文、令_レ仰云、依_三先例_一、穢限
滿之後、可_レ下_三其文_一、縮_レ日令_レ行、藤原朝臣令_レ申、
齋日數事、外記不_レ能_三勘申_一、爲_レ之如何、令_レ仰云、
延喜十五年、延長二年例、穢後齋四日奏_三御卜_一、不_レ
見_下陰陽寮擇_二日時_一之由、又令_レ申云、承平六年外

記日記、有_下陰陽寮擇_三申其日_一之由、然而令_三勘申_一
之事不_レ慥、但明日可_レ行_下祭、仍彼官不_レ可_三忌龍_一、
十二日當_三御衰日_一、十三日重日也、其後可_レ及_下被_レ修_三
中宮法會_一之日、爲_レ之如何、令_レ仰云、衰日何避_三忌
龍始日_一乎、然則、始_三自明後日_一齋、以_三十五日_一可_レ
奏_三御卜_一、又可_レ勘_下神祇官追申_三事由_一事、_〇西宮記_{御體御卜}

圖十四日、掌侍奏_三御體御卜_一云々、_〇西宮記_{御體御卜}
十八日、此日、召_三保憲、長列、兵部丞三善道統於藏
人所_一、令_レ問_下今年當_三革命年_一否之由、濟時中、道統
中、案_三祖父清行朝臣所_一傳王肇改元曆紀經、今年
不當_三革命_一、但非_レ無_三易說并詩說_一、依_レ被_レ施_三德行_一
有_三何妨_一乎、保憲申云、道統依_三家所說_一陳申、尤可_レ
_レ然、但易說詩說同聖人所_レ傳也、然可_レ有_三慎之趣_一、
不_レ合_三此說_一也、以_三可宜_一爲_三兩說共難_一決也、長列
偏申_三當革命之運及中興之年由_一、而道統等不_レ詳_三
其所_一中、令_レ仰云、保憲道統等所_レ申、各有_レ所_レ據、長
列申_三中興之運、頗似_レ不_レ叶、須_下以_三此由_一仰示_上云々、

○革命
勘文

十九日、令_レ濟時仰_二左大臣_一云、保憲、長列、道統等、

勘_二申革命當否事_一、大臣令_レ申云、道々博士各有_レ所_二

爭申、忽難_二辨決_一、但各申件革命事有_二兩說_一、依_二先

聖撰定之旨_一難_レ決、依_レ有所_レ據、同被_レ用_二兩說_一有_二

何妨乎、然則、如_二前日_一定申、被_レ行_二德改_二年號_一

可_レ宜、仰依_二定申_一、令_レ勘_下可_レ改_二年號_一字、○革命_{勘文}

仰_二典侍藤原朝臣_一以_二采女小田姑子額田利有子_一

爲_二陪膳_一、○西宮記臨_{時一裏書}

七月

七日、左大臣、令_下藏人學泰_中文章博士文時後生等勘

申年號字文、令_レ仰_二明後日可_レ行之由_一、○改元_{宸記}

國民部卿藤原朝臣令_レ申云、欲_レ勘_二御讀經日時_一、召_二

陰陽寮唯_レ口保遠一人參、先々有_下長_二其道_一官人二人上、

進_二勘文_一爲_レ之如何、云早令_二保遠勘申_一、藤原朝臣令

奏_二日時文_一、○西宮記臨時一裏書

八日、左大臣、令_下濟時申_二十日無_二殊忌_一、彼日參入將

行_二改元_一事、仰_レ依_レ請、○改元_{宸記}

十日癸未、令_二延光朝臣仰_二左大臣_一云、可_レ令_レ作_下

改_二年號_一詔書、其事趣、朕以_二不德_一久君_二臨天下_一、

而今歲天變地震災變相頻、須_下施_二德政_一改_二年號_一以

攘_二災殃_一、即可_レ載_二大_一赦天下、大辟以下罪可_レ從_二原

免、但犯_二八虐_一、故殺、謀殺、強竊_二二盜_一、常赦所_レ不

免者非_二此限_一、又天下高年鰥寡孤獨、篤癯不_レ能_二自

存者、量賜_レ物之由、又數術家申、依_二諸說_一、今年

當_二革命之運_一、而如_二王肇開元曆紀經之文_一、不_レ可_レ當_二

革命、兩說不同、偏難_レ稱_二革命_一、只略可_レ舉_二事旨_一、

令_レ仰_二文章博士文時朝臣等擇申年號字_一、又故中納言

大江朝臣、參議朝綱朝臣等、舊勘_二申年號字文_一、仰云

此度所_二擇申_一字、頗以不快、仍亦下_二給舊勘文_一、須_二定_二

其吉_一者、大臣令_レ申云、令_二民部卿藤原朝臣重定申_一

云、大江朝臣所_レ上、嘉保、康保、及後生前年所_レ上、

綱範等之間、可_レ隨_レ仰、令_レ仰_レ可_レ用_二康保字_一、申尅

之弘徽殿、酉尅、左大臣、令_二延光朝臣奏_二大內記成

忠作上詔書、令仰、事意未盡、仍令改案、入夜令奏詔書案、仰依案、暫大臣令奏詔書、晝日、了令下所司、○改元宸記
西宮記

八月

關廿五日、左衛門督藤原朝臣、令奏神祇官進六
月御下過狀、式目イ日蒙處分狀、戒將來令免、西宮記
御體御下

九月

關六日、於建禮門前行大祓、以明日可遣豐
受宮遷宮神寶使也、左少辨文相令藏人文利申依
豐受宮遷宮奉神寶事、以今日已尅發向、仰於
腋陣令給祿、白職一領、此件豫仰內藏、令進藏人所、而
忽紛失不能給、乃仰令進給、西宮記臨時
書十二裏

八日、左大臣、令濟時申以安愿爲今年灌頂阿闍
梨文、申云、此大臣所宣下、而鎮朝座主常稱病
申代人、於事不便、仍所令奏、令仰云、如聞、
鎮朝之老病不可堪奉仕之、常申代人、甚不便、
但以不可堪人、何獨令供奉、依例宜仰定、傳

聞、頃日者座主長意亦如此、其時所行如何、大臣
令濟時申、灌頂阿闍梨是山中無止事、而常申代
人、甚以不可然、此希例也、每度下宣旨、非無所
恐、仍所令奏長意事、今可尋問云々、○天台
座主記
關十七日、文相還來、令藏人佐時申遷宮神寶平奉
之由、西宮記臨時十二裏書

關廿八日、皇太子上辭封五百戶表、自中務省轉
內侍、西宮記臨時裏書

十月

關一日、今日依句事、出御南殿、而依故中宮心
喪、近不舉音樂、中宮四月廿九月崩給、御心喪五
六七合三ヶ月也、已隔二个月、西宮記句

令延光朝臣仰大納言源朝臣、令內記外記勘中唐
家本朝皇太子表之時勅答之例、入夜源朝臣令奏
大內記成忠勸申、東宮上表時勅答由云々、西宮記臨時裏書
關一日、源朝臣令奏勅答草云々、使右近權中將延
光朝臣給勅答云々、西宮記臨時裏書

備八日、懸_レ的後、召_二王卿云々、○西宮記射場始

備十三日、東宮上表、口兼通朝臣、○西宮記臨時一裏書

備十五日、仰_二源朝臣、令_レ作_二不_レ許_レ所_レ請勅答云云、源朝臣令_レ奏_二勅答清書、口時申云、右大將藤師尹申、太政大臣上表、又前年一品内親王上表使差_二公卿、如_二彼例_一差_二遣納言_一宜歟、仰_二外記_一令_レ勘_二彼所_レ請、以_二一品内親王上表勅答例_一遣_二納言_一也、○西宮記臨時一裏書

備十六日、使_二左衛門督藤原朝臣勅_一答於東宮、不_レ許

臨時一裏書

備廿五日、令_二日初於_二樂所_一調_二賀茂臨時祭歌舞_一、但無_二唱歌_一、參_二入掖陣下_一、○春記長曆三年十一月三日

十一月

備三日、左大臣、令_レ奏_下橘氏等申、准_二勸學院等例_一、以_二學館院_一爲_二大學別曹_一文云々、諸卿定申云、所_レ請尤可_レ然、仰依_二定申之旨_一、參議好古朝臣率_二氏大夫等_一、令_レ奏_下學館院爲_二大學別曹_一之由、慶_二賀之_一、○西宮記諸院

備七日、云々、仰云、檢非違使員數、佐尉志府生之間、加減有_二前例_一、近則寬平七年、左右合佐四人、尉四人、府生二人、天慶三年、左右佐二人、尉五人、志三人、府生四人、同九年、左右佐二人、尉五人、志二人、府生四人云々、○西宮記臨時一裏書

備廿日、裝束使安國令_レ申_二子細_一、雖_下未_二始參_二節會_一之時、所司不_レ設_レ座、舊例皇太子不_二參上_一之時、唯

立_二其倚子_一、不_レ立_二臺盤_一、又皇太子未_二元服_一之時不_レ設_二其座_一、雖_二元服後_一有_二故障_一時又不_レ立、○江家次第元日宴會條

備右大臣奏_二見參_一、令_二爲光仰_一大臣云、廣平親王不_レ候_二座在_一御後、見_二儀而載_一見參如何、申云、問_二外記懷之_一、申云、慥不_レ尋_二舊例_一、聞_二參入由_一入_二見參_一、令_レ仰以_二不_レ候_一座親王、不_レ蒙_二處分_一、輒預_二見參_一、不_レ可_レ然云々、○北山抄

康保二年

正月

備八日、入_レ夜右少史豐金令_二共政申_一云、納言參議

皆申障、不能給_二女王祿事_一、依仰重令召、遂不參、仰云、後日可_レ行_レ之、後日被_レ勘_二不參上達部_一云々、○西宮記
給女王祿

關十日、給_二女王祿_一、○西宮記
給女王祿

關十七日、藏人頭延光朝臣、於_二左大臣第_一仰、永賴、通理、爲信等爲_二藏人_一、朝光信輔昇殿、大臣稱_二所勞_一不參、仍就_レ第令_レ仰、延光還申_二大臣報_一云、件人々各可_レ然者也、早被_レ下_二宣旨_一、仰以_二內侍宣_一仰下了、○西宮記
時一裏書

二月

關令_二延光朝臣問_二右大臣_一、東大寺別當僧都光智申、被_二覆勘_一寺修理事、是爲_二重任_一歟、將如何、大臣令_レ申、指不_レ申_二重任事_一、只爲_レ表_二修理_一也、令_二結權律師_一法藏申_二任東大寺別當_一、光智秩滿替文、仰云、光智任已滿、然則任_二其替_一、此道理也、仍下給、但於_二實檢_一寺使_二已申_一有_レ所_二勤之由_一、猶差_レ使可_レ宜令_二辨光給_一右兵衛源朝臣文四枚、○東大寺要錄

三月

五日丙子、今日有_二花宴事_一、尋_二其由緒_一、去正月廿七日、堀_二東都櫻樹_一植_二南殿巽角_一、白砂埋_レ根、朱檻迎_レ朵、頃月之間、逐_レ日鮮明、上達部令_レ候_二此座_一、共_レ憐_二其意_一、自_二日中_一及_二夜半_一、詠_二古詩_一誦_二新歌_一、且以眺望、且以愛翫而已、○河津抄

關十一日、左大臣令_二延光朝臣奏_一太政官奏請省國忌文、三月十日太
后、興福寺、即書聞訖返_二給之_一、○西宮記

關十九日、前右近少將高光給_二臨時度者二人名簿_一、又仰令_レ受_二戒高光_一畢、○大鏡異本陰書

康保二年三月、右大臣在_レ第、遣_二文範朝臣_一奏_レ檢東大寺全破使右少辨偕行等注進帳、又注_二進大佛殿四天王像內奉_一造南分一體事文、○東大寺要錄不注
仍附_二月末_一

四月

十九日己未、午尅、左大臣參上奏_二官奏_一、訖於_二仁壽殿_一覽_二賀茂祭女騎料馬及右馬寮家島牧馬_一、大臣令_レ延光朝臣申_二諸衛可_レ警固_一事、今日內侍不_レ候、仍令_レ奏、

仰依請、○西宮記

五月

十八日、左大臣令中、准先例、以內舍人安倍行方、令請^{騎イ}行幸之日所出馬、仰依請、○西宮記觀射

卅日、召雅樂笙師九部利茂、小治田有秋、令吹

笙、○證源抄

六月

四日、左大臣令保光朝臣申、今日可候除目直物、進退甚惱不可、屢參上、傳聞、故時平大臣於左

近陣、令奏之者、若有許容、乍候陣座、將令奏、仰依請、暫大臣令保光朝臣奏、勸除目誤文、合九人

人給申文三枚、仰早令改直、又令給申文一枚、大臣令中人給不任正員云々、仰依定申、又大臣

令保光朝臣奏、除目直物、仰令改正字誤也、抄除目

十六日、民部卿藤原朝臣令奏、定申造崇福寺使

文云々、使以宣旨可仰歟、可入除目歟、尋先例、造法性寺使以除目任云々、仰可勸先例

云々、○西宮記

十九日、民部卿藤原、令奏、定申造崇福寺使文

云々、使以宣旨可仰歟、可入除目歟、尋先例、造法性寺使以除目任云々、仰可勸前例云

云、○西宮記臨時一裏書

廿九日、此日御讀經如昨、今夜於東庇第三間、供節折事、依御讀經之所、不堪裝東南第一間、仍於此間行之、○江家次第

七月

二日、令延光朝臣、令仰右近少將懷忠差字佐

使事、○西宮記臨時十二裏書

十四日、右大將藤原、令外記有方、勸申造崇福寺使任例文、申云、造法性寺使以除目任之云々、仰

以除目任似失錯、須以宣旨可卜、○西宮記臨時一裏書

十七日、民部卿藤原朝臣令申云、諸祭致闕怠、辨

少納言侍從等同留位祿、到于公卿俸祿尤可宜、令仰云、依定申云々、○西宮記二月祈年祭裏書

廿一日、仰藏人頭延光朝臣云、以左馬助源滿仲、

右近府生多公高、兄右近將
監公用議右近番長播磨貞理父右馬屬
陳平議

等、並爲御鷹飼、○花鳥餘情桐堂卷
○河海抄藤裏葉

廿三日、午尅之八省院、于時小雨、到太極殿後

房、下輿云々、了還宮、此間又降雨、仰延光朝臣

令公卿戴笠、○西宮記未刻雷鳴大
雨仰令立陣云々

廿五日、此日有左右相撲內取事、申刻、於仁壽殿

覽左內取、左近機イ中將伊尹朝臣候事、了退出、次

右大將藤原朝臣候、有右內取之事、入夜主殿舉炬、

年來入夜不行內取、但前年及昏、令近衛官人

秉炬、而今日主殿官人供之、失歟○西宮記

廿八日、此日有相撲召合事、左大臣令文範朝臣申

云、依例侍從座可賜宜陽殿、宜陽殿及日斜甚

熱、有櫻樹之時、依隱其蔭、殊不苦光景、至

令賜張席可宜、令仰云、侍從座張席無先例、

給出居座、張席之次、可令施張歟、左大將源朝

臣令濟時奏、天慶七年、以高麗箕藥帥大石富近、
可爲唐箕藥帥、宣言、申云、有如此之例、以右近
衛秦清雅爲左近衛、令供奉舞、仰依請、○西宮記
廿九日、藏人爲信奏、左近衛府擬近衛奏、即奏聞
令下給者、○小右記長和二年
七月廿七日下午收之
八月
廿七日、下侍東第一間施立屏風、其中敷土鋪二
枚、茵一枚、並用一本
家物爲親王換衣所云々、○花鳥餘情不
本記略、廿七日甲子爲平親王加元服、綵三品、加冠大納言高明、理
髮藏人頭延光朝臣、親王以下參入、軸子內親王始筭之文載于此、
廿八日、藥師寺三綱五師等、相率參陣外云々、○花鳥餘情玉
是月、二社被副進赤毛馬、○繁祕抄止兩
條不注日
九月
一日、令藏人共政、仰左右馬寮可給宇佐使御
馬各一疋事、○西宮記臨
上時十二裏書
二日、令藏人輔成、仰左大將源朝臣可作宇佐告
文并官符事、同日、源朝臣令輔成奏宇佐宮并香
推唐告文草、仰依案、○西宮記臨
時十二裏書

四日、宇佐使懷忠、令_レ申_下有_レ所_レ煩、不堪_二進發_一之由、午尅有_二御祓_一、依_二宇佐使延引_一也、○西宮記臨時十二裏書

十五日、奉_二神劍幣帛於宇佐宮并香椎席_一、香椎廢不奉劍、云々

了左大將源朝臣令_レ奏_二宣命二枚_一、覽了返給、即授了、○西宮記臨時十二裏書

是月下句、令_レ仰_下可_レ獻_二舞姬一事_一、例以_二十月朔_一仰_レ之、而今年新嘗會期已早、仍今日令_レ仰_レ之、○西宮記

十月

關三日、左大臣乍_レ奏_二檢非違使所勘文_一、仰云、好古給_二播磨非違_一已了、自今以後、諸國檢非違使之替、秩滿年誤雖_レ下_二宣旨_一、非違所_レ須_二申返_一之、○西宮記

關七日、左大臣、令_二延光朝臣奏_二太政官奏_一、中納言朝忠依_レ病不上_二百廿日由文_一、仰殊許_二勘官_一待_二病變_一、

○西宮記臨時一裏書

廿三日、此日行_二幸朱雀院_一、辰四刻出_二紫宸殿_一、自_二

朱雀路_一到_二朱雀院_一、入_レ自_二永寧坊_一、就_二馬殿_一、仰_下左大將源朝臣可_レ令_レ召_二御馬_一之狀、源朝臣下_レ殿下仰、

了更參上、召_二左近少將爲光_一、爲光進立_二東階北邊_一、源朝臣仰_二御馬令_レ馳_一、爲光稱唯退_二還本陣_一、暫左右近將以下、近衛以上各十人、起_レ陣趨_二向御厩_一、良久馳_二御馬_一、白馬口左右大將下_レ殿執_二御馬奏_一、參上奏_レ之、御馬北上、先十列、次當隨、次馳了、○河年駒各十疋、海抄廿六日、令_下延光朝臣、仰_中左大臣召_二博士等_一、可_レ定_二朱雀院試詩一事_一、關文所勞進_二假文_一、仍不_レ可_レ參、依_二延喜十六年例_一、召_二藏人所_一令_レ定、即延光朝臣召_二博士_一、申刻、博士等參候、文時朝臣申_二穢由_一不參、即給_レ詩令_レ定、直幹朝臣令_レ申云、度々行幸、詩題云、七言行幸、某題應製一首、又位所書_二臣某上_一、而此詩題、或書_二七言奉試賦得云々應製一首_一、位署_二臣上_一、或加_二注七言四韻_一、頗以不同、又乖_二前例_一、就_レ何爲_二判定_一乎、令_レ仰云、去年試判、以_二七言八韻之注_一者、稱_レ有_二先例_一、預及_二於今_一、不_レ加_二應製等文_一、與_二彼例_一如何、又加_二給題之外字_一、若有_二先例_一乎、令_レ申云、去年承_二自今以後_一不_レ可_レ然之仰、仍不_レ隨_二身其_一

十二月

例書、又加題外之字、專無例歟、令仰云、去年依漏落題者所書之字、仰其由令口應製并行幸朱雀院臣上等詞、此例文也、可謂學生體不尋勘之事也、但先求所獻詩、善惡不可拘題外之例文、良久令奏橘倚平詩一枚、申云、自餘詩、或有病、或有難、不可及第、令仰後日將定下也、
○西宮記臨時一裏書

廿八日、令延光朝臣給民部卿藤原朝臣試詩、令博士等判定云々、
○西宮記臨時一裏書

廿九日、依博士判、下橘倚平詩於式部省、爲文章生云々、
○西宮記臨時一裏書

十一月

圖十九日、召使以下給酒饌、王卿等佐酒、左大臣在座、召使兼通朝臣授告文、
例於仗所若陣授之、而於座授之違例、
數巡之後、令給插頭去々、了親王公卿等又向社頭、入夜爲平親王等還參、亥一刻使等還來、奏神樂云々、使以下給祿、又給朝成朝臣祿、
○西宮記賀茂臨時祭

圖十九日、召安源開眼一萬三千佛、今夜御導師一人次第僧一人不參、
○西宮記佛名

廿五日、式部大輔直幹獻梅一株、即栽仁壽殿東北庭、以前日所栽小紅梅移栽清涼殿東北庭、此梅去月四日所栽仁壽殿木也、
○禁秘抄草木條
康保三年

正月

圖一日、今日雨雪、供御藥、未尅、出侍所令飲酒、王卿侍臣暫入內、申尅、左大將源朝臣高明、令申可供小朝拜之由、因就倚子、登時上野太守親王以下殿上侍臣、入自仙花門立東庭拜舞云云、
須立仁壽殿階下并南殿廊、而立庭中、又民部卿醉倒、然而依次退出、○西宮記小朝拜
藥女孺、例著潔衣供之、而稱所給絹龜惡之由、至今日不著、不可爲例、
○西宮記供御藥條裏書
十六日、民部卿藤原朝臣、令延光朝臣申云、今朝左大臣申送可令勘送大臣一人任宣命例之由、

即令_レ奏_下天應元年藤原田鷹一人任_三右大臣_一宣命、令_レ仰云、已有_二件例_一、又昌泰四年、有光朝臣一人任_レ之例、宜_レ令_下作_下大納言源朝臣可_レ爲_三右大臣_一宣命云々、如_レ常依_二忌月_一自不_レ臨、右大臣參入、令_三延光申_二喜由_一、民部卿藤原朝臣令_レ申云、聽_三大臣新任饗_二之由_一、仰_三有司_一事、雖_レ記_二日記_一、上卿令_レ奏之由無_二所見_一、令_レ仰云、件饗事、主人所_レ令_レ請也、而無_二其事_一退出、不_レ可_レ謂_二違失_一、須_二待請_一仰下云々、而諸卿等相率到_二饗所_一云々、宮抄西

十八日、右大臣、令_下延光朝臣請_二追被_レ下聽_二新任饗_一宣旨事、令_レ仰_三民部卿藤原朝臣宣_下、宮抄西

廿八日、右大臣、令_三延光朝臣申_二兼左近大將喜_一、即申云、例以_二宣旨_一兼之時、不_レ奏_二慶賀_一、而被_レ載_二除目_一、仍申_三此由_一之云々、宮抄西

二月

關廿二日、有_二內宴事_一云々、仁壽殿南簀子敷_二當殿南廂東第一柱_一、西向立_三皇太子倚子_一、有移其前立_二臺

盤一基、有輜座右置_レ硯、以硯納_二黑漆草笥_一、置_二黑柿机上_一云々、同座南少東四尺餘立_三王卿座_一、上紫宸殿北廂格子之間、年來不_レ上此格子_一、其北廂當_二第二柱_一、施_二五尺屏風_一、二帖隔_レ之、其第一間中、爲_レ供_二東宮膳_一所、少開_二北端_一爲_二供膳道_一、又當_三其北廂中戶東柱_一、施_二屏風_一二帖隔_レ之、其西邊爲_二供御膳藏人等候所_一、爲_三東宮參入給所改_二裝束_一也、太子出_二宿廳_一、自_二東階_一至_二座東_一、西面謝座立、亮兼通朝臣把_二空盞_一、跪授_三太子_一云々、畢女藏人供_二御膳_一、兼通朝臣率_二侍臣_一供_二東宮膳_一云々、右近中將延光取_二文臺宮_一、皇太子親王公卿文人近侍_{太子殊以_二管圓_一座爲_二座云々}、以_二右少辨齊光_一爲_二講師_一、內藏積_二祿_一、右少將爲_二光唱_一見參、給_三太子以下文人_一以上祿、太子祿法隨無_二所見_一、昨日准_二定百廿屯_一、加_二文人祿_一十屯、自餘如常、侍臣及文人退下、仰_三大臣_一令_レ奏_二絃歌_一云々、就_二庭梅下_一遊云々、賜_二祿親王公卿_一云々、還_二清涼殿_一、右大將藤原朝臣持_二御劔_一前行、延光朝臣執_二璽筥_一隨_レ後云々、師尹西宮記北

山抄參取
今朝立_三倚子於庭樹下_一、即就_二花下座_一、親王公卿又移

座、同樹北邊奏管絃、行三盃酌云々、河海抄

三月

三日、有曲水宴、御稜訖、立御倚子東又庇、亦

給公卿座、如臨時祭儀、設文人座於御溝邊、殿上人

給公卿座、如臨時祭儀、設文人座於御溝邊、殿上人

御書所學生已上、入自仙華門着座、探韻畢、

賜酒看公卿以下、即流盃溝水、令文人等飲、晚

頭召樂所、令奏絃歌、講詩畢、又奏管絃、即給

公卿祿、左少將濟時唱見參、後日給侍臣及文人、

樂所人祿、北山抄拾遺雜抄上

五日、左大臣、令保光朝臣奏、可給當年位祿王祿

衣服、諸國勘文、大臣令保光奏、定充位祿文二枚、北山抄

十一日、殿庭櫻花盛開、御又庇倚子、召左右大

臣以下、令候東簀子敷、召侍臣及樂所歌管者四五

人、候東庭奏絲竹、內藏賜酒看、于時月明風

和、侍臣折花插公卿以下冠、左大臣令延光朝臣

立令各讀和歌、頃之給祿、大臣女裝束、自餘白襦、侍臣樂所人等正絹、北山抄拾遺

四月

一日、此日、平野松尾等祭也、午刻、民部卿、令延光

朝臣奏、定齋院前駐次第使文、未尅、出御紫宸殿、

年來無當祭日出御之例、而嘉祥二年例也、即就帳中倚子云々、了還清涼

殿、此日、皇太子不參上、依忌月也、但所司須設

座、而不立其座失也、西宮記

七月

廿三日、令仰民部卿藤原朝臣云々、臨時奉幣

使齋院禊等致關意、諸大夫可停位祿事、宜下

宣旨云々、至于釋奠、依定中、不可載宣旨、

公卿定云、於釋奠者、事甚廣博、關意者臨其時、

被勘事宜云々、西宮記臨時御願

八月

六日、令召納言已上一人、申尅、右大將藤原朝臣

令藏人爲信奏、明經博士已下名簿、依物忌停內論

議云々、○小右記長和四年八月十一日下注之

廿六日、令濟時仰外記、今日聞牽進真衣野柏前

牧御馬由、而依發務不可分取、須候左右馬

寮、○西宮記駒引條裏書

廿七日、之仁壽殿云々、了令春宮亮延光朝臣、

令取引別馬一疋、訖召左右馬寮令分取、訖還

清涼殿云々、○西宮記駒引條裏書

閏八月

十一日、左近少將懷忠令申云、在私宅下女已死、

未_レ知其由之間、從者到來著直廬、其後聞此告、

且令奏事由、卿仰慥尋間件女死程令申懷忠、

令申云、件女初夜之間相語、寢後不知宿惱、今朝

依驚推驚之間、始知死去之由、從者男到來、在三人

未_レ驚以前、然則不_レ辨知其死程、即仰諸卿令定

申可_レ爲穢否之由、入夜民部卿令奏、天慶八年十

月廿八日外記日記云、有宮內省置死兒之穢、及

內裏之疑、而不_レ知其置死人之程、依太政大臣

仰、令神祇官卜之、卜云、不可爲穢者、件例可

相准、令仰云、令神祇官卜云々、○西宮記臨時十二裏書

十二日、民部卿令神祇官卜申穢否由、推之不_レ見

穢由、仰依勘申不可爲穢之云々、○西宮記臨時十二裏書

十九日、遣左右看督使巡檢洪水、其五六條及

西河渺々如海、○河海抄常夏

廿五日、民部卿藤原朝臣、令奏內案云々、又

令時清申、今日欲捺神位記、中務辨少將等不候、

檢先例、有中將供代官、請故仰延光、即以此由

令仰延光、而不奏位記也、○西宮記臨時十二裏書

九月

廿七日、遣藏人永賴於前大貳小野朝臣宅、間稱

老病不_レ申可_レ奉五節之由、永賴來申云、仰旨相

重須奉五節、○西宮記

十月

一日、未三刻、出紫宸殿、仰裝束使令撤御倚子

及皇太子座毯代、暫著帳中倚子云々、了右大臣參、

無官奏、以_レ樂_二次皇太子參_二上自_二東階_一、次王卿參上、

次出居左少將濟時率_二保光朝臣_一、入自_二日花門_一參上

云々、○西宮記

關須_二應_二出居召_二內暨_二聲_一、昇_レ出太子臺盤_一云々、○西宮記

句、北山抄裏書

關七日、此日、覽_二殿上侍臣奏樂_一、去秋欲_レ奏_二此音樂_一、

而依_二洪水之災_一停止、近日無_二殊事_一、仍果_二其志_一也、

午刻著_二東又廂座_一、_{南第三間立大床子二座}次召_二公卿_一、即_二左大臣_一、

右大臣、民部卿藤原朝臣、左衛門督藤原朝臣、治部卿

源朝臣、修理大夫源朝臣、朝成朝臣、賴忠朝臣、重

光朝臣、延光朝臣等參候、_{納言以上候東簀子、參議}次召_二

樂人_一、左近中將博雅朝臣以下相牽著_二河竹架邊座_一、

先_二是太鼓一面、鉦鼓一口、立_二同竹架東_一、_{並如火招、其前立梓}

車_一、內藏寮給_二酒肴公卿以上_一、次兵部卿親王、上野

太守親王等參候、次奏_二參入音聲_一、_{勇勝、左大臣彈琴、右大臣琵琶、治部卿}

源朝臣、朝成朝臣二人琴篳、博雅朝臣、右馬允藤原清通二人橫笛、

吉永清真、貞一、大藁東、其半行正小藁東、右_左衛門督藤原朝臣

闕鉢子、修理大夫源朝臣鞠鼓、助信朝臣檜鼓、實信朝臣柏子、右衛

門志豪良助太鼓、共改鉦鼓、左馬允永原守節、播磨掾藤原公方唱歌、

此間皇太子參上、_{東又廂南第四間數首爲座}次奏_二萬歲樂_一、_{舞人右兵衛佐}

佐理、次奏_二延喜樂_一、_{舞人兼系朝臣、忠升朝臣、朝高遠、光、理兼、藤利子兼通朝臣、于}時御

厨子所賜_二太子酒肴_一、次奏_二賀殿_一、_{兼通朝臣、親賢朝臣、自奏}延

喜樂_一之間、時々小雨、仍於_二仁壽殿階隱下_一舞_二件急_一、

次奏_二輪臺_一、_{序修理大夫源朝臣、延光朝臣、青海波濟時、爲光}

臣、重光朝臣以下_著麴塵圖掖袍帶_二釧_一、左衛門督藤原朝臣、賴忠朝

臣、重光朝臣以下_爲垣代_一、朱紫交舞、視聽催_レ感、舞訖主殿供_レ炬、

次奏_二散手破陣樂_一、_{重光朝臣舞}次歸德隻時中次太平樂、

{初定舞人四人、而濟時忽有所勞、次酣醉樂、{兼系朝臣、次胡}}

飲酒、兼通、次羅陵王、_{小舍人藤原親光、次納蘇利、_{小舍人}}

舞衣、舞畢召_二實資於床子_一、脫_二阿古女衣_一賜_二之_一、左大

臣不堪_二欣感_一起舞、前例給_二御衣_一者拜舞、今夜不

拜、依_二少小之內舞裝_一難_二致_二拜禮_一歟、右大臣獻_二

御酒_一、又令_二奏唱歌_一、賜_二祿公卿已下_一有_二差_一、_{大臣賜御下敷}

_{其袴各一重、親王納言白微紅梅袴各一重、參議紅紫袴各一重、舞人四位白袴一重、五位單重白袴一重、小童亦同、自餘給_二足絹_一、皇太}

子先_二是退下_一、次奏_二退出音聲_一、_{越天}朕即入_二內_一、公卿侍

臣退出、_{丑二刻、○西宮記臨時樂、扶桑略記、續教訓抄、體源抄}

十日、申尅、御_二弓場殿_一、左中將藤原伊尹、重光朝臣、

延光朝臣等參候、仰令射、又分前後令射、限以

五度云々、○西宮記

圖廿日、大貳佐忠申赴任之由、召前仰云々、畢即

座、東又廂南一、間數疊西南北上、侍臣給

肴、公卿侍臣進行酒、五六巡之後令中將元輔給御

衣、○西宮記太宰帥赴任

十一月

廿五日、此夜上野太守親王、於昭陽舍宿廬、娶右

大臣息女、於禁中一行婚禮、頗雖無便、予在藩之

時、天慶年中、於飛香舍納故中納言師輔女、依

有蹤跡殊許之、撰集秘記

十二月

三日、左大臣、令奏延曆寺座主良源、申請雜事十

箇條之内、廣學堅義一人、明年春季御讀經、被召

預最初闕請者云々、仰云、請阿闍梨之次、預件堅

義者云々、○西宮記季御讀經條裏書

十日、左大臣令申云、今日定申荷前使如何、令仰

云、今日神今食散齋也、舊說諸陵官人、齋月不入

宮中、況定荷前使、○小野宮年中行事荷前使條

十一日、依無小忌、納言二人例、納言參議各一人

可供奉之由令仰、又卜食外記不候、仍以史令

行事云々、○西宮記

圖十九日、始御佛名、立春之後、當明年衰日、然

而依有其例、今日始也、亥二尅、召御導師云々、

○西宮記御佛名

廿五日、仰民部卿藤原朝臣、在衛信正王申親喪內登省

事、可准例宜令勘申、○西宮記臨時裏書

右大將藤原朝臣、令濟時奏、延長五年正月二日有

中宮東宮大饗、由敦固親王薨時例也云々、皇太子

依年來例參上者、用輕服裝束、頗可無便、若

元日參上可著吉衣、歟、又延長五年被行大饗、此

太子幼稚無服歟、爲之如何、令仰云、承和五年、

可有如此例、宜令勘申、○西宮記臨時裏書

廿六日、仰左大臣、學生信正王、平美信、令登明

日省事、信正王依故中務卿親王喪假未滿、令勸先例、忽無所見、而准半減假限、依召參入之例、令仰下之云々、時一裏書
○西宮記臨

廿九日、右大將藤原朝臣令濟時奏、承和六年正月

二日外記日記云、乙卯、是日依卯杖奏、可御紫宸

殿、而依芳子內親王薨日之近、不御南方、辰

三刻、東宮傳右大臣及春宮大夫文室朝臣、亮藤原

貞守等令資御杖、入自日華門、置殿上、取引而

退出云々、于時內侍執而奉清涼殿、依芳子內親王服

儀式已訖、公卿共參嵯峨院、次參淳和院、次參

東宮、無拜禮、但召東陣聊給祿有差、天長九

年十二月廿五日外記日記云、此日春日內親王薨云々、

無天長十年日記者、申云、以件勘支啓東宮云

云、東宮申云、承和太子頗不宜之例也、饗事依

例行之何、又以爲不御坐別宮歟、仍無拜禮、

至于饗祿、承和六年已被給、然則於此廊行饗

無殊妨歟、但參觀事、依假不被行可宜、仰依

定申、依延長五年例、行東宮大饗、准承和舊蹤、不太子拜禮可宜、○西宮記臨
時五裏書

月日未詳

左大臣曰、延喜故左大臣時平代講師、以長谷

雄卿令讀御製後、依彼例、以民部卿讀御

製、即召令讀吾詩、○八雲
御抄

同四年

正月

廿一日、具平親王可預巡給之由、令文範朝臣給

左大臣、○魚魯
愚抄

廿九日、今夜親王等退出冷泉院、神事之間、依

輕服不可候內裏也、東宮不出陣外、依前例、

輕服之時不見出例之由云々、○西宮
記東宮

出不出御時、上卿仰外記令付內侍所、先可

令奏事之由、見康保四年御記、○北山抄正
月獻卯杖

三月

一日、春宮大夫藤原朝臣、令兼家朝臣申東宮所煩、

猶不_レ平復、御燈齋不_レ見、忌_レ僧之文、況依_レ御卜、不_レ奏覽、若召_レ加持僧、如何、仰_レ依_レ請、○年中行
事秘抄

○三日、齋間不_レ可_レ必忌_レ僧之由、見_レ康保四年御

記、○北山抄三
月三日御燈

○十四日、有_レ賭射事云々、左兵衛佐兼基、令_レ國

用中_中可_レ供_レ奉賭射、尉山田直道忽煩病不_レ供奉、他

尉皆申_レ障不_レ供奉、依_レ去年例、以_レ志令_レ引_レ射手、何、

右大將藤原朝臣、令_レ齊光申_レ右近中少將多奉假文、

只少將正輔一人參候、請_レ令_レ召_レ進假文者、仰_レ依_レ請

令_レ召_レ之、○西宮
抄賭射

二十日、季御讀經結願也、民部卿藤原朝臣、令_レ齊光

申_レ云、元方彼物怪相_レ示道々、勘_レ申國家可_レ慎之由、此

度僧等給_レ度者云々、仰_レ依_レ請云々、○西宮記季御
御讀經條裏書

廿一日、民部卿藤原朝臣、令_レ齊光奏_レ季御讀經卷數

僧名等、昨日依_レ物忌_レ今日奏_レ之、○西宮記季御
讀經條裏書

○廿二日、召_レ左大臣定云々、山城守爲輔女御芳子

家別當中納言橘好古爲_レ學館院別當、件院別當、以往非宣
旨補之、而前年爲

學學院別當之由下宣旨、
宣旨被補之由、故卿下宣旨、
○西宮記臨時一裏書

○後日招_レ範家奏曰、學館院別當慣_レ近例、以_レ是

定宣輔_レ之了、而見_レ天曆御記、以_レ勅宣_レ可_レ補之

由所_レ見也、所充篇康保四年三月廿二日
○台記久安三年四月十七日

四月

○八日、右大將令_レ齊光申_レ云、東宮猶非_レ尋常、御

在所不_レ如_レ常、今日不_レ行_レ灌佛事、如何、仰_レ依_レ請此

日有_レ灌佛事云々、如_レ常、○西宮
記灌佛

五月

十四日、始_レ從_レ今日、於_レ真言院、東寺、雲林院、蓮臺

寺、實相寺、講_レ仁王經、限_レ二十箇日、竟_レ之、爲_レ息

災也、○河
海抄

年月未詳

○此般不_レ供_レ冠、依_レ暮年心喪_レ著_レ重服冠也、○玉
葉安

元二年九
月十四日

○經櫃三合、並机一脚之上、加_レ花文綾履、○河海
抄野分

○嵯峨太上皇揖讓之後、單騎入_レ御大內之時、出_レ

入宜秋門、陪從侍臣不_レ過_三四人_二云々、見_三延喜

天曆御記、菅家集注筑紫入道抄、○局中寶

翻或記云、大內裏秦川勝宅、橘本大夫宅、南殿前

庭橘樹依_三舊跡_二殖_レ之、見_三天曆御記_一、拾芥抄

翻應和、丹波守高輔赴任之時、被_レ召_三御前_一、不

_レ垂_三御簾_一、止_三昇殿_二之後不_レ幾故也、在_三御記_一、○禁秘抄

翻凡補_三藏人_一、延喜天曆御記、頭奉_レ勅向_三大臣亭_一

仰_レ之、又召_三御前_二仰_レ之、○禁秘御抄藏人章

翻土御門右府、承保之頃被_レ敍之時、天曆御記十

年而可_レ敍_三一位_二之由有_三所見_一、○玉葉承安二年閏十二月一日

貞信公記

延喜七年

私記、昌泰二年正月任參議、停任之、依法皇命、諡清經朝臣云々、喜延八年正月十三日又任參議、

正月 一日、此日不御南殿、侍從已上着宜陽殿

如常儀、去月廿八日奏識子內親王薨由、故不御也、二日己卯、御南殿、獻東宮御杖、傳大夫中

持共也、中持東宮所爲也、又未獻此御杖前、南

門開近衛口也、諸司御杖如例、三日、行幸仁和

寺、出從建春門入自宜秋門、四日、左大臣

殿大饗如例、五日、右大臣殿大饗、六日、叙

位議、七日、風雪有節雨、口口大殿門、有御加

階、而不口叙人列後、令口口將奏慶、即此口辨、

八日、有女叙位、九日、御直所御慶令良少將口、於

左近東庭拜儀、手時有人大殿門、大納言主左兵

衛督及口位以上十餘人奏大內了、參東宮令啓、

十一日、除目議始、十三日、除目、十四日、御

齋會畢、內論義如例、十六日、踏歌儀如常、此

日雨儀、十七日、幸豐樂院有節射、平大夫六

七人許射間、供御膳如南殿儀、又口口延射平射、

了左兵衛出立、而有仰下、南召坊帶刀三人射

間、歸本宮、十八日、賭射如常、廿一日、御

仁壽殿有內宴、於綾綺殿內教坊奏口口雨口口、

廿五日壬寅、口記政始、

二月 八日、大殿門、藤中納言、左衛門督及四位五

位等、於左近陣頭令少將口嗣朝臣口、尙侍慶儀踏、

口大殿門率口公口氏大夫等、口申梨壺御曹司、次

口東宮、而依御物忌口得啓之、十七日甲

子、遷三五條、

三月 廿三日庚子、參極樂寺舍利會、

四月 八日、灌佛事如例、此日左閤參絃、令奏

齋院御前、十五日、中口不被注賀茂祭事、

五月 無事

六月 八日、中宮崩、十六日、口面奉口文、

七月 無事

八月 一日、此日上御□□、供膳番奏、庭立奏等如常、命采女給下物、左大臣紀座跪□、今日親王不參、三獻了御膳罷、□少將召內堅、內堅稱唯宣云、□□太參來、內堅等參上、持大盤退出、了侍臣退出後、□歸殿、

九月 七日辛巳、遷小二條殿、九日、節會儀如例、但未供御膳之前賜題、與三年來例相違、是故實也、十六日、上御南殿、番奏及供膳等如例、

十月 二日丙午、參向極樂寺、十日、參向同寺菊會、十一日、內匠寮中、被^{任カ}考文事、是由長官病不參、掃部寮中、辨別當□左中辨者、左閤宣仰□野常實、十五日乙未、參向極樂寺禪師灌頂、

十一月 □輪來宛禱□忌却、廿四日丁酉、依四條殿藏、改此日□祭事、廿八日辛丑、有賀茂臨時祭事、

十二月 五日、有臨時奉幣諸社之事、此日上御建禮門、拜伊勢幣帛、但諸神候南帳中、延喜八年

正月 十二日、除目、十四日、參八省、十七日、參^{正月十三日□□}樂院、廿一日、參內宴、廿二日甲午、參向宇治、

二月 二日癸卯、參大原野行幸、五日丙午、着座、^{丑二魁官}八日己酉、參入外記、十一日、列見參□、十三日甲寅、極樂寺□、廿二日、除目

議始、廿三日、除目、廿六日、參御讀經始、廿九日庚午、參拜宇治、

三月七日、參宮御讀經始、九日、內裏殿上如故□、

四月 十日庚戌、極樂寺舍利會、廿日庚申、警固、廿一日辛酉、賀茂祭、大殿門御共參向、

五月 四日、參仁和寺、□日□仁、次內裏試樂、十日庚辰、渤海使進啓信物等、十一日、豐樂

院宴、

六月 十一日、候_二大齊_一、三日、參_二松尾公使_一、廿二日、仁王會、廿八日、口讀奏、

七月 四日、奉_二假文_一、十四日、有_二公口口口_一、十五日、參入、而依散文口不着、外記退出、十六日乙酉、伊勢幣、廿九日、相撲召合遷_二五條_一、此日無口口、

卅日口口、

八月一日、日蝕廢務、二日、依_二祈雨事_一參_二深草山陵_一、十七日、爲_レ祈_二願晴_一有_二雨師幣使_一、十

八日、釋奠、宮御讀經初、十九日、上御_二南殿_一有_二論義事_一、廿七日、參_二西寺國忌_一、廿八日、除目、

九月 五日癸酉、參_二宇治_一、十九日、口乳始、

十月 七日乙巳、初着_二兵衛陣座_一、九日、依_二伊勢

神財事_一廢務、十六日甲寅、極樂寺菊會、廿六日

甲子、爲_二公使_一參_二賀茂_一、廿八日丙寅、極樂寺萬

燈會、

十一月 十八日丙戌、五條院御神樂、廿一日己丑、

參_二宮內省_一、廿三日、候_二大齊_一、廿六日甲午、有_二新錢見參事_一、

十二月 一日、上御_二南殿_一、二日己亥、內口賀茂臨時祭、十一日、大齊、十七日、産、廿四日辛酉、荷前、參_二北野_一、卅日、參_二雛陣_一、

同九年

正月 四日、大饗、五日、大饗、九日、除目議初、

十一日、南庭除目、十二日、口口御杖、

二月 一日丁酉、釋奠止、四日、大殿門參_二入東

宮_一、廿一日丁巳、東宮始參_二入內裏_一、曆曰注十死一生私所記、

三月 五日庚午、仁王會、廿二日丁亥、內御讀經始、

四月 四日、大閣薨、左カ九日、公卿_{任權中}納言、七日成_二選

短冊_一、十四日、賀茂祭、十五日、授_二成選位記_一、

式曰事更不注、

五月 十日、參入、大臣及二院東宮奏_レ慶、十一

日、有_二昇殿口_一、十二日、參_二入大內_一、奏_二大內昇

殿慶_一、十四日戊寅、參_二向宇治_一、遇_二御穢_一延引也、

廿二日丙戌、寅時着座、廿六日庚寅、仁王會、

廿九日、外記余被定所雜色並所々列常口、

六月十六日庚戌、始爲上日、十九日、諸卿巡見鴨

川、廿二日丙辰、廢務、由伊勢幣、

七月二日、無除服、

八月三日丙申、有伊勢幣使、仍廢務、四日丁

酉、參官及大學、七日庚子、有字佐使、十九日

壬子、內御讀經始、廿四日丁巳、宮御讀經始、又

今上一皇子對面、廿五日戊午、有祈止雨幣使事、

此日減日九
故私記也廿九日壬戌、移職曹司、

閏八月四日、除目、八日庚午、依服請假、九

日、有召、

九月三日乙未、貞觀寺修法始、內會日
私記今年口時行

洪水、仍九口節止、十一日、依雨不御入省院、

十二日、於左近馬場馳宮御馬、十八日、平中

卒、廿七日、任大將、廿九日、入外記不着

座、參仁和寺、並所々申慶、

十月四日、內裏有菊花宴、八日庚午、參宇治并

極樂寺、有供菊事、十六日、內裏引庭始、廿一

日、上御南殿、有庭立奏、智講師事仰春正宿禰、

廿八日庚寅、仁王會、

十一月十三日己巳、宮御書始、十四日、元善朝臣

卒、十六日戊申、奉假文、廿三日乙卯、候大

齊、

十二月五日丙寅、不看檢遺館、極樂寺萬燈、

九日、依有伊勢幣廢務、十一日、候小齊、十

四日乙亥、御息所參入口內、十六日丁丑、荷前使

參柏原深草山陵、令相應修法、廿日辛巳、內御

佛名初、廿四日乙酉、宮御佛名初、口參入、卅日

候陣、

同十年

正月一日、無朝拜、御南殿、二日、參仁和寺

陽成院、三日、有行幸仁和寺、四日、東宮朝

觀內裏、入夜還宮、今上一親王、清涼殿東庭拜

儻、五日左カ大臣大饗、六日、敍位議、七日、

節會、十一日、除目議始、十三日、除目改權爲正、

十七日、上不射カ御豐樂院、十八日、賭射カ口、廿三

日、內宴、帥親王今上一親王聽帶劔、廿五日、御

息所退出、廿六日丁巳、外記政始、廿七日戊午、

三元口、

二月 一日、上御南殿、四日、依穢改日祭也、

七日丁卯、未二點着座、八日戊辰、祈年祭、十四

日、除目議始、十五日、除目、十八日戊寅、修善

始、廿五日、女一公主薨、依心喪三日不參、

三月 五日乙未、御讀經始、又除目、七日、有女

宮召、十日庚子、宮御讀經始、十一日、上御南殿、

廿四日、前皇后崩、

四月 二日辛酉、修法始、遷九條殿、九日戊戌、

遷識曹凶口、十一日庚午、參向極樂寺、由、如二

宮御口也、便參亭口院、申賜廿七鹿毛、爲欲貢

內裏也、十二日、依召參內、廿八日、駒引依

雨延也、

五月 二日、小五月、五日節、六日、右十列負、

所謂左論、八日、依犬死請假、十日、依召

參入、十五日、給成選位記、依三省官人不具

延也、十六日、定賑給使、十九日、御息所參

內、廿日、雷鳴陣立、廿一日乙酉、移五條、

廿七日乙卯、東宮入覲、廿九日、除目、

六月 十五日癸酉、祈雨御讀經始八小、廿日戊寅、

結願、此日依有幣使、不參大內、廿二日庚辰、

有散齋不參、廿三日辛巳、有幣使、廿五日、

讀奏除服、

七月 四日辛卯、修法始、七日甲午、有產事、

八月 六日、相撲還饗、八日乙丑、宮御讀經始、

九日、除目、十一日、帝御南殿、小臣爲上、

十四辛未、修善始、

九月 十一日、依御物忌不辛八省、上卿於八省

東廊行事、

十月 一日、補侍從十四人、上御南殿、依損年、不奏音樂、五日辛酉、仁王會、八日、除目、

十一日、上御南殿、十五日、極樂寺菊會、廿九日己酉、藏人所有漢書口竟宴、予左右大辨着、醉後有公參上、終夜奏管絃、

十一月 十四日庚子、參大原野、廿一日丁未、御息所參內、

十二月 一日、上御南殿、三日己未、寫經始、

十六日壬申、荷前使、參深草、廿九日、參雛陣、

(以下內閣本第二冊)
同十一年

正月 一日、日蝕廢務、二日、上御南殿、三日、

御幸仁和寺、四日、東宮入觀、即大饗、五日、

大饗、七日、節會叙位、九日、女叙位、十一日、

議始、十三日、除目任大、此夜地震鳴雷、十六

日、節會如例、十七日、不行幸、仍公卿對豐樂

院行事、十八日、右勝、廿一日丙午、參向宇

治、廿二日、定殿上人所々別當、廿六日辛亥、政始、廿七日壬子、法始、

二月 二日丁巳、丑二點着官、口點着外記并西門、八日口口官奏、十四日、議始、十五日、除目、廿三日戊寅、仁王會、

三月 四日行直物事、十一日上御南殿、奉仕官奏、次參東宮、爲有弓場始事也、十四日、直

物、十六日、上御南殿、有官奏、小臣 廿三日

丁未、內御讀經、廿七日辛亥、宮御讀始、廿九

日癸丑、參極樂寺、口口會也、卅日、宮有弓場口

方口物、

四月 一日、侍從宜陽殿口廂、十一日、上御南殿、

有官奏、廿九日、除目、

五月 一日、御南殿、十一日、上御南殿、

六月 一日、日蝕、十一日、依穢神今食止、

七月 四日、依穢祭止、九日庚寅、御讀經始、

十二日癸巳、依八省死穢、御讀經衆僧不令參內

裏、於_{殿力}大極_口結願、此度南所行也、十七日、郡
內召、卅日、後覽、

八月、十三日、相撲饗、

九月、九日有_{日力}節、十_口依_二御物忌_一不_三行_口、公卿

於_二八省東廊_一行事、十六日、除目、凶會、十九日

己亥、有_二臨時幣使_一、廿三日、饒_二大貳_一、廿四日、

大貳賜_二御酒_一、兼叙_二正下_一、廿九日己酉、服紅_{同力}_口

口、

十月、一日、依_二御物忌_一不_三御_口、五日、內裏弓場

始、十一日辛酉、服鐘乳九_口、十四日、依_レ病

請假三_ケ日、十七日丁卯、修法始、廿八日、改

葬所人入_二內藏寮_一、寮人今朝參_二入內裏_一、仍_口兩度_{處力}神

事付所_口可_レ行_口、廿九日、依_二大死穢_一不_レ參_二陣

中_一、是依_二內仰_一、卅日、極樂寺萬燈會有_二小樂_一、

十一月、九日、內從_口九、_口五日、御息所入_口、

十二月、十一日、候_二大齊_一、十三日癸亥、凶會、_口五

條院、十六日、上御_二南殿_一、十九日、_口佛名、

廿一日、參_二佛_口、結願之後退出、廿_口日、宮
御佛名始、仍參、廿六日、參_二山階山陵_一、廿九日、
雨儀、親王已下座、設_二承明門東廊_一、但開門之後、如_二晴
儀_一、

同十二年

正月、一日、依_二御物忌_一廢_口、但御_二南殿_一有_二宴會_一、

三日、依_二御體御_口、停_二止行幸_一、四日、東宮朝覲、

五日、右大臣大饗、六日、叙位儀、七日、節

會如_レ例、十二日、除目議始、十_口日、參_二八省_一、

次參_二入大內_一、祿僧_口義如_レ常、十六日、有_レ_口不_{處力}

參、十七日、上御_二豐樂殿_一觀射、十八日、右勝三

度、惣四度畢、廿一日、內宴、廿七日、外記政

始、

二月、二日、行_二幸仁和寺_一、賜_レ祿一如_二承和七年例_一、

但院判官代及五位賜_二入衣_一、十日、有_二直物事_一、

十一日、不_レ令_二舉樂_一、爲_二紀中納言薨_一也、廿八

日、奏_二位祿勘文_一、廿九日戊寅、仁王_口、

三月 九日、有_二櫻花宴_一、 十一日庚寅、定_二御讀_一

僧、此夜請_二昭律師_一修善始、 十四日癸巳、河臨解

除、 十六日乙未、參_二同成寺_一、由_レ有_二塔會_一也、

十八日、季御讀經始、 廿日己亥、參_二水宮_一、

廿三日壬寅、東宮參_二入大內_一、 廿四日、宮御讀經

始、 廿六日、除目始、廿七日、除目、

四月 一日、安居之間元臺一燈、 三日、有_二直物

事、 五日、參_二向極樂寺_一、爲_二□□也_一、 七日、上

御_二南殿_一定_二擬階奏_一、但不_レ覽_二短冊_一、其義_二□執奏文

率、公卿入_レ自_二□□_一列_二□、二省從_レ之_一、勅曰將參

來、稱唯昇立、從_二□後立_一、定臣進奉_二覽奏文_一、其道

從_二公卿座西_一直進_二於御帳東_一、跪而奉_二□□文杖_一給、

外記還_二本所_一覽了、上曰短冊、從_レ之臣稱唯召_二式部_一、

式部唯召_二兵部_一、兵部唯持罷、二省唯召_二各丞_一、各丞

參入、荷_二書櫃_一退出、 八日、灌佛如

常、 十日戊午、有_二祈雨幣使_一、從_二去月十七日_一無_二

雨閏、而今日快降、 廿七日、有_二直物符_一結、

廿九日、依_レ雨駒引停止、 卅日、駒引、今□□不
參、小臣候_二御前_一、

五月 二日、小五月、五日□□幸_二武德殿_一、 六

日、今日無_二厨御贊_一、 十六日、上御_二南殿_一、

閏五月 一日日蝕、 五日、除目、 廿日、任_二郡司_一、

廿六日、御息所退出、

六月 二日戊寅、祈雨幣使□、 十一日、依_二內裏穢_一

停止神事大稜、 十五日辛卯、_{神今力}□□食月次、 十

七日、定_二仁王會諸僧_一、 廿六日壬寅、仁王會、

七月 七日壬子、向_二八省_一行_二伊勢幣事_一、 九日、

可有_二召合之狀_一仰_二諸衛_一、 十一日、到_二府定_一召合

事、 廿日、向_二府_一、 廿□日、依_二試樂_一向_二府_一、

廿□日相撲召合、更_二□入覲_一、 廿八日、東宮入覲、

八月 八日、相撲_二饗_一、_{歸力} 十二日丁亥、御讀經始、

十五日、依_レ雨不_レ覽_二御馬_一、親王以下就中雖_二馬寮_一

各取_二五疋_一、親王以下賜_レ之、此間日暮甚狼藉也、所

司取_二遺馬_一、了親王公卿參_二陣頭_一令_レ奏_二慶舞踏_一、所

亥力

廿四日己未、宮御讀書始、而有障不參、

九月 九日、今日初行內辨事、年來日記召刀禰

者、而上日可召大夫等、仍今日召大夫等云々、

十七日辛酉、向八省、行伊勢御幣事、□□日例

事、依內裏穢今日行□、

十月 一日、上御南殿、其儀如常、□□晚頭內侍

召小臣云、到御帳頭而跪、勅曰、□式部卿親王、

中臣稱唯退出、令少將立草□橫座、臣先着之、

召親王、□其後賜恩蓋、奏管絃、自含親王以

下、猶侍本座、又殿上侍□能歌者一兩人、依□祇

候、今夜親王以下無別祿、九日癸未、參向極樂

寺、有供菊花音樂事、廿三日丁酉、參向慈恩

寺、

十一月 一日、日蝕、二日、上御南殿、廿日

甲子、第四皇子^{朝力}觀、廿二日丁卯、候大齊、

廿四日、奉仕內辨、□□日、修善、昭園梨、廿□日、職曹司定式事、

十二月 六日、依召夜參、十一日、行幸中院、

今日祈年穀幣奉伊勢、十八日辛卯、有報祭使、

十九日、內御佛名始、廿一日甲午、荷前、其儀如

例、

同十三年

正月 一日、朝拜儀、小臣內辨、宴會如例、但今

日刀禰參入、是違例、二日、院宮饗如常、入夜

召仰行幸事、□日、行幸仁和寺、四日、東宮朝

覲、重親王且同、六日、叙位議、小臣執筆、七日、

有產事、而依召參入、行內辨事、八日、有

女叙位、十二日、御杖、兩儀行之、十四日、

有男踏歌事、仍入夜參入、依心神不調不參八

省、十七日、依固物忌不參、今日主上不^イ出御、

十八日、賭射依□停止、十九日、賭弓左勝、

廿二日、內宴、廿四日、依召參入、廿五日戊

辰、除目儀始、愚執筆、外記政同始、廿六日、宿職曹司、廿七日、右大臣、依召亥剋參入、丑剋退

出、廿八日、除目、卅日癸酉、參向宇治、有

所障延引了、

二月 六日、口一分宣旨、 七日、口分口、 十一

日、有直物事、 十七日、依官穢今日列見、但

穢雖未畢、爲無神事、 廿九日、殿上賭弓、

三月 三日、欲幸神泉、而依右大臣忽不覺停

止、 八日、行位祿事、 十一日甲寅、定御讀經

請僧、 十二日、右大臣薨、 十五日戊午、御讀經

始、 十八日辛酉、御讀經結願後、奏右大臣薨由、

有贈位事并別給物、今日不警固、 廿三日丙寅、

宮御讀經始、 廿五日戊辰、御息所退出、今日

四月 八日庚辰、遷西五條院、 十四日、除目議、

十五日、除目、

五月 一日、日蝕、 廿六日、行幸神泉苑、至暮小雨

即止、 廿九日、郡司讀奏、

六月 七日、御息所參入、 十五日、任郡司、 廿一

日、除目、雷鳴陣立、霹靂亭子院、藤原有時從者重

死、 廿二日、昨夜二省不參、除目簿今日夜束封文

納外記、有仰召式部輔文章博士等陣頭、勘問評

定、所奏之詩不好由、博士時無所述、仍仰云、

此度殊許、從今以後若有如此事、可勘博士等、

七月 一日、向相撲司、 七日、向相撲司、 八

日、有祈年幣使事、 十三日、向相撲司、 十四

日甲寅、歸東五條、 十七日、向武德殿殿定裴

束事、諸卿會集、 廿二日、向相撲司、今日試樂、

廿六日、幸武德殿覽相撲節、左勝、宿職、廿七

日、幸同殿、右勝、宿職、 廿八日、御南殿覽

追相撲、左右樂、日暮召內藏御借、賜出居以上、

口口太子參入、入夜還口條、

八月 一日、大風猛烈、公私屋舍多顛倒、 二日、

召勝相撲人給祿、今日有勅、遣使左右京令

檢被損風口、爲賑給、 六位以下、 九日、

上御南殿、依內論口、 十二日辛巳、御讀經始、

廿九日、除目、

九月 九日宿職、依有風損、停止節事、但侍從以上口菊酒如例、今日以前豫申損田廿國、不堪佃田廿四國、十一日、行幸八省、伊勢幣使如常、廿四日、依召參入、廿五日甲子、雨師二社有奉幣、爲止雨也、

十月 十八日丙戌、極樂寺菊會、廿五日癸巳、東

宮始讀御注孝經、宿貞朝臣宅、

十一月 十四日壬子、參大原野、廿七日乙丑、今

夜閑院君着裳、廿八日丙寅、昭阿闍梨法初、

十二月 九日、宿常三居、廿四日辛卯、荷前、

同十四年

正月 一口、宴會如例、停止朝拜、三日、行幸

仁和寺、宿職曹司、四日、東宮朝觀、今年初從

建春門參入、七日、節會如例、雨儀、八日口女叙

位、十日、除目議始、十二日、除目、此夜宿職、

十六日、節會如例、十七日、依雪不_レ幸豐樂院、

仍公卿口、十八日、左勝、親王公卿等會集垣下、

皆有被物、廿日、吏部王來、仍獻鷹馬、廿五日壬戌、外記政始、廿九日、參亭子院、

二月 四日、宿職曹司、五日、有直物事、八日、東

宮朝太_二上法皇於亭子院、被儲饗祿、賜直丁以上

有差、今夜還五條、十四日辛巳、御息所參內、

十五日、可奉封事詔書出、其儀陣頭內記書之、上

奏御書、口了給中務少輔朝見詔書、入內記所草

朝見捧筥迎口、十九日、詔書覆奏、其儀外記以

中務所入詔書奉覽上、上覽返給、卽判書杖候、

上立軒廊轉執付內侍奏、廿四日辛卯、參極

樂寺拜造、口口日甲午、仁王會、

三月 十六日、上御南殿、十九日丙辰、御讀經

始、一分召、廿四日、宮御讀經始、廿九日丙寅、

請昭闍梨修善、

四月 十一日戊寅、東院公主薨由奏、十五日、授

位記如例、廿一日、除目議始、廿二日、除目、

五月 二日、左京有失火、其數六百餘烟、四日、

失火家々給_レ口有_レ差、十一日、上御_三南殿、東宮在_三御帳後見_三旬儀、十三日、定_三口口使等、十五日辛卯、始從_三伊勢口社_二遣_レ使奉幣、和八省行事、十七日、定_三祈雨御讀經僧名、十九日乙卯、祈雨御讀經、廿一日、召_三時口朝臣於陣頭、責_三檢非違使等過狀、是蒙_レ仰之後、勘_レ申右兵衛等罪緩怠也、六月九日、依_レ召扶_レ病參入、十六日辛巳、新佛開見、仍參_三極樂寺、廿五日、讀奏、廿九日、任郡司、

七月十八日、定_三御讀經僧、廿一日丙辰、御讀經始、紫宸殿大極殿相分修、廿二日、大宰科罪事奏、廿八日、綺綾殿前有_三童相撲童舞事、左勝、八月七日、參_三向極樂寺、造佛事始、九日、除目、十九日有_三童相撲、負方獻物事、奏_三童舞、廿四日、依_レ召參入、廿五日、有_三任公卿事、大納言以下來_三賀垣下、親王四人、廿九日、遷宮公卿兼任如_レ舊、仍召_三二省_二仰、

九月二日丙申、奉_三幣雨師二社_二祈晴、五日、定_三諸司等別當昇殿、如_レ舊、七日辛丑、初度喪、就_三中務_二奉_レ之、即日返_三給中使玄上朝臣、仰云不_レ可_三更_二如_レ此言、九日、節會如_レ常、但女未_レ畢、式部取_三久產女樂、了群臣拜舞、勘_レ曰依_レ舊口召_三博士等_二令_レ讀_レ詩、稱唯召_三當時朝臣、人口召_三博士三人、而口御帳、更讀_レ口、理平爲_三講師、親王以下口聽、讀_三宣命見參_二奏也、今日有_三御製、又采女令_三史取、代官供_三奉口膳前、其人典膳早部口卿也、十三日丁未、參_三拜宇治、又入_三極樂寺、諷誦儀也、十五日己酉、二度表使_三邦基朝臣奉_レ之、中使俊蔭朝臣被_レ返_三表章、廿三日丁巳、奉_三三度表、廿六日、中使口佐朝臣至賜_三勅答、十月一日、上御_三南殿、無_三庭立奏、也、自餘如_レ例、除目祓、今日初有_三宮奏、三日、夢_三加階、夢中口登、四日、定_三不堪佃使、八日辛未、遷_三口五條院、十四日、有_三除目、十九日壬午、極樂寺菊會口、今日親

王納言參議每色三人會集、廿六日己丑、凶會奉減封表、

十一月 十日、壬寅、昭闇梨修善始、十九日辛亥、

今上女一公主始着裳、召殿上親王公卿御前、賜恩

盃御衣、又公主簾前有祿、終夜奏管絃、有召吏

部王口口、廿五日丁巳、衣口着裳、廿七日己未、

依齋宮病、有奉幣伊勢事、

十二月 五日、民部卿來、出物馬二疋、有被物、

九日辛未、東五條今日奉請減封口行口一狀、十

日、被返申口、十一日候大忌、十四日丙子、

宮御書竟宴、十九日甲戌、佛名始、廿日壬申、荷

前儀如常、廿二日、奏二年終斬罪、

(以下內閣本第三冊)
同十八年

正月 一日、日蝕廢務、參仁和寺二日、宴會、三日、依

口口皇御消息不行幸、四日、東宮大饗、五日、

家饗、七日、節會如常、但無叙位、八日壬午、

宿修善始口供口、九日、除目議始、十二日、除

目、十五日、月蝕大分皆既、十八日、不口口依

心神不調、十九日、召昨勝人給祿、廿一日、

內宴依病不參、廿五日己亥、外記政始、廿七

日、讀經鷹馬夢、廿八日壬寅、口山二部、極樂寺

一部今日始、大般若口左大辨々召勅來也、爲定曆

宗論、

二月 四日丁未、奉幣如常、祈申可參祭之由、

六日己酉、奉幣諸社、十日癸丑、加炙治、

十六日、直物、廿一日丙寅、凶會見禪院、廿六日己

巳行幸六條院、依仰候彼院、廿八日、除目議始、

廿九日、除目、

三月 四日、殿上賭弓、九日壬午、極樂寺壽命經讀

始、廿日癸巳、內裏御讀經始、

四月 三日乙巳、女參東宮、九日辛亥、大德參東

宮、是途始也、口口日、松中少將定府口口、

五月 十一日癸未、最律師於定法寺口口五始、

十七日、東宮入觀、十八日、參極樂定法寺與口、

廿日壬辰、行幸神泉苑、廿二日、仰施米事、定交替使、廿八日、定封事、

六月 三日癸卯、爲宮曹、小修善始、最律、七日、孫王、廿九日、民部卿薨、源昇

七月 十二日癸未、行幸八省、爲奉幣伊勢、是祈年穀、十三日、奉幣、師二社、爲祈年止雨也、

十五日、月蝕、十九日庚辰、御讀經始、八省行之、廿九日、召口、會力

八月 六日、相撲歸變、十一日辛亥、遷西五條院、十三日癸丑、法會始、十五日、公卿并少納言等

有奉物事、口有口々論口六口、十七日、法會口內裏陽成東宮有御論經、又有口所々論經四度、今度

歸一條、廿七日丁卯、後田口山陵有宣命使、邑力卅日、參極樂寺定所、

九月 七日、奏不堪佃田解文、良定使、九日、節會如例、東宮入觀、十一日、行幸八省、十五

日、定封事、十六日、除目、廿五日乙未、鑒園

梨修善始、廿九日、有口口三人、口日間日口、世在此中、

十月 一日、上御南殿、八日、行幸朱雀院、十日、震宮始、御馬爲從北野行幸也、十一日、

極樂寺菊會、十七日、召仰、十九日、行幸北野、皇太子追參、親王公卿口其道者、着狩衣鷹會、

日暮賜祿有差、十一月 二日辛亥、爲參春日、從宇治到佐保家、左兵衛督、右大辨、宰相中將口相口參向、口

口口口自願東舞及神樂等、廿二日、候大齊幄、廿三日、節會如常、

十二月 一日庚子、本命祭、三日壬寅、鑑阿闍梨修口始、八日、定封事、修口口未送、九日、口

參口條院、依御藥事也、十一日、着大齊幄、但口侍曉退口、十四日、定封事、廿一日、參御佛

名、廿二日、召曆博士等於陣頭、令論日食事、弘範所申口伏口之草無有正文、仍隨口口所申、

廿六日、荷前□、廿八日、伏□申有_二夜封、日食不可_二廢務_一云狀、明經紀傳博士勘申了、仍仰_二中務省_一、又了召_二諸儒等於陣_一□申、

同十九年

正月 一日、節會如_レ例、殿上侍臣有_二小朝拜_一、先_{年力}□依_レ仰停止、而今日臣下固請_二復舊_一、有_二此禮_一、所以者何當代親王有_二拜賀_一、臣下何無_レ禮、此臣子之道□□□、二日、東宮饗、四日、大饗、今日依_二雨濕_一不例、□從_二東階_一就_レ座、予在_二西妻庇_一見_レ客、入_レ從_二寶子等_一逢、七日、節會如_レ例、但雨儀也、諸司失禮□□□、十三日、□中鑒從_二今夜_一芥子燒三夜、十四日、月蝕、□□不參、七寺誦經、依_二月蝕_一也、廿一日、內宴□□始有_二御詩_一、群臣悉感_二歎之_一、_{舌力}左金女御叙位四_□旨、內裏依_二位記事_一、□外記、而一人不_レ候、仍昨□□少納言_{淑力}□光朝臣令_レ進_二過狀_一、即返給、其詞云、□□□□將來□□、廿五日甲午、外記□并除目議始、廿八日、□□□□□□□□、

二月 四日、今日依_二產穢_一停止、五日癸卯、今日祭依_二朝_一□牛死穢人參_二入內裏_一停止、九日丁未、有_二官_一□□、又直物事、而依_二一省不_レ參_一封、令_レ納_二外記_一、十日、令□□右大將賜_二直物_一、十一日、有所勞_二不參_一、官伏前□□預見參者、觀□律師修善始、又極樂寺□□寺讀經始、廿六日甲子、當代三_□王子加_二元服_一、三月 一日、內裏參所下人死穢、四日壬申、內會鑒閨梨芥子燒三夜、十五日癸未、鑒閨梨修善□、□一日癸巳、藥師念誦始、廿六日甲午、令_二鑒閨梨_一□□□大般若之狀、四月 三日、祈年祭□_レ穢延也、六日癸卯、□□□、□□四日辛亥、清花等事始、又台山大般若請經、_{清公力}□□圓契、廿二日己未、齋院御禊、依_二內裏犬死穢_一□也、五月 二日戊辰、鑒閨梨一切經願立、今日可有□□、而依_二左右大將病不參_一、停_二止節_一、又同止_二□□□_一、

鑾閣梨修善始、十日、定御讀經請僧、十四日

辰、奉幣諸神^{有カ}、祈病事、十九日、御讀經

始、廿一日丁亥、台山義房千百讀、宮御讀經

始、廿五日、定武藏申仕事、狀、廿八日甲午、

七獻章祭、

六月二日、除目議始、^{三カ}日、除目、五日庚子、

^{及カ}日、曉本命祭、六日辛丑、奉幣諸神、祈雨、觸

云人昨日參入、着右近陣者、彼府也、幣使立

後、此事來、十一日、命日神事依穢止、十

五日庚戌、鑾大尊供、十七日壬子、祈誦經

諸社而行、十九日、定所々別當、下式部宣旨、

給于古今日後給者、廿日、定奉幣諸社使、廿

一日、今日中陣有犬死穢、廿二日丁巳、參八省、

御幣事、<sup>爲ニ祈
雨ニ也</sup>廿三日戊午、奉幣諸社、左

就本陣座、使參議以下就床子、內記權

命者、此儀依禁中穢也、廿六日、依穢神今食

今日被行、但犬死穢、依及散齋於神祇官行之

、廿八日、郡司召、定臨時御讀經請僧、奉幣記

、於神泉苑修請雨經法、廿九日甲子、山階

御^{陸カ}有宣命使者、也、爲祈雨有御

經事、

七月四日、奉幣祈諸雨神、五日、請雨、六

七八日雨降、八日、終夜快降、十五日、鑾閣梨

俄有障不供尊、十八日癸未、舟上人、寫

經料送其府、廿六日、相撲召合、但無樂依早

也、廿七日、御覽、

八月四日戊戌、內論議、七日辛丑、季御讀經始行、

八省院命、有女官召、八日、相撲歸饗、六

日庚戌、太上法皇登大內山、定陵地、十七日家

於極樂寺、有論經事、女房之所施物布、

丙辰、於五條有賀事、廿五日、綾綺、覽

御馬、右左各、賜一皇子、僕各一疋、廿八

日、召博士於陣頭、問擬生惣落之由、及弟者、

廿九日癸亥、當代公主二人着裳、

九月 三日丁卯、修善法、 七日、直物、 九日、依損^二□□□、停^三止節會、賜侍從以上菊酒^二如^レ例、
 十一日、行^二□□八省、伊勢幣如^レ例、^{幸カ}□八日有^二東宮大産穢、而下女人更大内、然而依^レ不^レ及^二致齋、有今日幣□□□、貞觀十二年例也、^{廿カ}十八日、宮御讀經始、□□□入、 廿九日、有^二直物、
 十月 一日、上御^二南殿、不^二□音樂、依損不堪□□、今夜中務卿親王帥親王、左衛、右左兵等、中納言、右衛門督、刑部參議等來集、有^二飲事、□所各獻^レ馬、
 六日□子、參^二極樂寺、十講會始行、火闌梨修善始、命^二上人西法^二同行、十日甲辰、罪□、於□□□政所有^二諷誦事、十一日乙巳、東宮御息所□□有^二賀事、^{貴子}十五日、今夜宿^二源芳宅、廿日、行^二幸朱雀院、廿四日戊子、菊會、侍所有^二論行事、□□□方、廿八日、東宮朝覲有^二管絃興、今夜宿□大醉、
 卅日甲子、參^二極樂寺、與令^レ鎮^二堂處、十一月 一日、上御^二南殿、七日、遷^二五條、依^レ

有^二□□□□恠^二也、八日壬申、觸^二死穢^二人交入湯、成院□院□不參、入^二大内、仍十三日以前神事皆停止、以後□行、 九日、令^二極樂寺□申稻荷^二云、□衣堂處崇有^二此病、明日内除□隨則堂□停止□、十六日庚辰、依^レ病不參、五養一人忽煩^二地氣、以^二他人々^二□、□□朝臣女病也、十八日壬午、鑒闌梨於^二花山^二□善始、五大像□基塔同始有^二事、有中使^{勸カ}□□海客來、十九日癸未、春日幣如^レ例不^レ下、廿四日、中^二左中辨有^二明日可^レ參^二公仰、^{使カ}廿五日、定^二蕃客行之□、廿七日、明年維摩講師宣旨仰^二久永、專寺□□□、廿九日、明令見學文、見學立義宣旨仰了、
 十二月 五日、任^二存問使通事等、十三日丙午、新□大尊令^二五闍梨供奉、十八日、今夜請^二花山鑒闌梨^二加持、近習大□等四□論度各百端、 廿二日、今夜宿^二宮別納、爲^レ避^二忌也、女房參^二宮、^{壽カ}廿五日、□令^レ仰^二祈四大六天等像^二事、勸學院事、□命經心

經等於_二彼院_一供養、賀_二不惑年_一也、又既於_二寺_一誦經絹卅一疋、_口所及有_二諷誦事_一、廿八日辛酉、_口政官_口局、於_二極樂寺_一有_二諷誦事_一、施_二昆布_口端、從_二今夜_一鑒上人於_二一條_一燒_二芥子_一、卅日、諸寺_口命卷數甚_口、淡路守良助事_口壽命經百卷供養、狀文馳送云々、

同二十年

正月 一日、日蝕、 二日、宴會、但雨儀、御曆不_レ付_二內侍所_一、今夜夢八幡大菩薩支良腸助優_口太子參入、不_二朝拜_一如_レ例、 三日、行_二幸仁和寺_一、心神不調不_二扈從_一、 四日、東宮參入、依_二卯杖_一也、今日冷泉院東宮饗、 五日、家饗、痔發、 六日_口發不參、又大納言不參、叙位儀停止、 七日、痔不_二參入_一、道明大納言行_二內辦事_一、群臣着座之後、有_二勘當_一退出、不參、昨召今日參入也、 十日癸酉、_口鑒_口祈_下可_レ圖_二萬抄_一之狀、痔、 十六日、節會如_レ例、 十七日、不_レ_口射禮_一在_二豐樂院_一、 十八日、賭弓、左勝、

十九日、意觀二師修善始、 廿日、痔_口等物_口_口病者、 廿七日、下除目議始、宿_二東宮_一、 卅日、下除目、寅二剋歸_一五條、

二月 一日、今月六日、居_二此家_一可_レ滿_二卅五日_一、 三日丙申、不_レ_口幣帛_一、依_レ有_二口者_一也、 _口日、少將子生、 六日、下_二山河原_一、令_二走馬_一、今夜鑒闇梨加持、 七日庚子、本_口祭、 十日癸卯、大原野祭不_二奉幣_一、 十一日甲辰、_口造_口始、_{佛力} 十二日、叙師所_レ送十_ケ月料紙、 十三日丙午、令_口_{師力}_口祈_二曹陽事_一、 十四日丁未、釋奠停止、 十七日、直物官奏、治國爵位記請印、 十八日辛亥、北岑念誦始、 廿一日、多武峯檢按國解給_二高行_一、又穀倉院修理事令_二史途_一左中辨、 廿五日戊午、御息所入_二坐東五條_一、 廿八日、直物宣旨等給_二典殿_一、_{師力} 三月 二日甲子、_口_口例供始、定_二乞雨幣使_一、 三日、御息所向_二河原_一解除、便入_二坐_口條院_一、 六日戊辰、乞_レ雨幣使立、 廿日壬午、內御讀經始、 廿

三日乙酉、御息所御修法始、今日北山始供燈明、
 廿五日丁亥、日曜東宮御讀經始、 廿七日己丑、請口
 曰、師口明後日參神宮、可祈申除病之、願狀云、
 若力口平損奉幣走口神寶、又自參口口、 廿八日、霜、
 四月 二日甲午、定掌客使等、並賜領客使召名、
 五日丁酉、賜掌客使召名、 十三日乙巳、口口
 口小口產、酉剋七九日、^{有天}有御息所御口事、
 廿一日、五條院調酒食、 廿三日、枇杷殿養產、
 廿四日、師宮養產、 廿八日、家養產、
 五月 公卿巡檢八省院、有^{所勞}不向、 五日口
 口、有^{試樂事}、御覽左右馬寮御馬、 七日、御覽陽
 成院及諸家馬、賜口事召 八日己巳、^{凶會}客徒
 入京、 十日辛未、^{凶會}口臺^{驛力}奏、又御覽宇多
 院御馬、 十一日壬申、進^{啓信}口、^{物力}外記取^{令力}所進大
 臣、即令開^{開力}國、口加口口奏門、御覽了返給、令收^外
 記信物、從^{敷政門前}令口請運^{於內藏寮}、 十二日
 癸酉、幸豐樂院、賜宴渤海客、 十六日丁丑、月曜、男

子坐朝集口饗、佑有^{產事}不參、 十七日、依召參
 入、而依口病者告退出、所煩反痢也、 十八日
 己卯、金液丹令服病者、二九又二九、 十九日、
 乞假口依病者也、令奏舞師修善、御息所遷
 給口五條院、 廿一日癸未、丹又一九令服、 廿
 四日乙酉、泰口法了、左金吾令貞壽始修善、 廿
 五日丙戌、口丹口九令口、左金吾令最律修善始、
 廿八日、位記召給、
 六月 五日乙未、於^{葬山}修金剛經讀經千口、
 九日己亥、三元河臨祭、 十日庚子、本命祭氏口口、
 十四日、定仁王會請僧賑給使等、治國者^{八力}人賜加
 階式部卿親王入道、 十七日、^{道明}民部卿薨、 廿五日
 乙卯、仁王會、 廿七日口輔更衣口中頓滅、 廿九
 日、助繩交易物持來、南院若賜送馬二疋、
 閏六月 六日、牛飼子乳母頓滅、 九日、齋內親王
 薨、 十三日、參入東宮宿侍、依有^{藥力}御口事也、
 十四日癸酉、臨時御讀經、爲攘天下病苦也、今

夜齋內親王葬送、十五日、宿侍東宮、十七日、

百觀願令□立申、廿三日壬午、爲除咳病、

可奉幣白□祇園之狀、令眞祈申、又令鑒

上人立^{冥力}送願、廿四日癸未、令^{意力}御太宮子修

善、廿八日、入道□通封之例可勸之事、仰左大

辨、

七月一日、就外記不^入侍從所、五日、午開

肉散^{喃力}服、八日丁酉、仰齋主令祈雨、□令

讀位記、穴使國司奉幣、十三日、依召參入、

定祈雨、十四日癸卯、祈雨使立、心神不調不參、

仍令右將□行之、十五日、□雲雨、十八日、子

時□師遷化、廿日己酉、□師葬、戌廻着服、少

將大德同着、廿日、中使藏人在衡來仰云、明日

可參、

八月一日、定季御讀經請僧、二日、今八坂關

亂、五日癸亥、御讀經始、六日、左大丞來、令

見常晴申官符草、七日、左金吾來、八日、左

中□勅來也、九日丁卯、宮御讀經始、十三日、

遷寢殿、□□太守說於無二之□□定利□□、

廿一日、元慶寺入寺僧解文□左中辨、廿二日

庚辰、止雨幣使立雨師□□二社、又齋王薨由申賀

茂令氏□□臨、廿四日壬午、令□□遷一條院、

令鑒閣梨修善、廿八日、源等役、卅日戊子、於

台山令讀大般若、

九月一日、修善了歸五條、六口午^凶會令觀最律師

尊□師等同時修善、又女房令讀大般若、皆於家

中行之、依有無變也、廿三日辛丑、□仁王會

令讀、十四日、仁王經結口、本意^{德力}百部也、而過

其數也、十六日甲辰、於宿^{依力}所爲室、令行

千口讀經、廿日、仰□擬補講讀師事、伏^{依力}式定云

云、有官奏、報未定、廿二日、除目、

十月一日、上御南殿有^{以力}官番奏等、不奏音樂、

依損止、八日、一分召、九日、□舊例不奏樂

□音、依召參□泉院、賜金吾馬二疋、十二日

庚午、極樂寺、此寺有供菊事、不音樂、從寺□□

□定法寺、十三日、招中少將定府□、十五日

日癸酉、令□御供七十餘五十口、十七日□□直物、

廿二日、郡司讀奏、左金吾定令、廿三日、參

向極樂寺、依法花會始也、廿六日、□□□中樞□

振三度、右近陣所聞也、令會理行東寺遺塔事者、

此宣旨仰淑□、是□法室召所被仰也、廿七日

乙酉、參向極樂寺、講師師達冬□倉、一條公卿以

下執□、施力

十一月一日、上御南殿、春御曆等如例、今日以

□□□王爲大炊別當、仰左大丞、七日甲午、

於台山、大般若讀經、今日郡司召、八日、吏部王

□□□病不調、八日乙□、依□□□有疑、令占

奉幣、吉凶占云、奉之無咎者奉幣如常、九日、

平野幣如常、十三日庚子、本命祭、十七日甲

辰、節會如常、廿二日己酉、賀茂祭如常、廿

六日、吏部王來、廿七日、雪令□爲明年維摩講

師宣旨、仰久永宿願又理平宿願、免雜役事同仰、

十二月十二日、中使兼輔朝臣來、十日親王齋院近日

病事等仰、十四日、勸學院別當右將軍本參所別當

左金吾□左中辨、□五日、荷前、今日內裏有犬

死穢、十七日甲戌、定親王三所、十八日、參河

原院爲賀□□也、廿五日、定當代源氏口直

物、廿七日、□部直物、廿八日、賜源氏勅事、

(以下內閣本第四冊)
延長二年

正月一日、雪降、節會如常、雨儀也、二日、參仁

和寺陽成院、宮饗后宮饗、在玄輝門西廊、三日、

依雨停止行幸、四日、大饗、六日、叙任議、

七日、節會、敘位如例、八日、行幸八省院、心

神不調不扈從、九日、參仁和寺陽成院、十三

日、請基繼律師令齋食、十四日、有三所□不參

入、十六日、依病不參入、十七日、不參入、

主上不御、十八日、不參、度持小數、左勝同、

十九日、召昨勝人賜祿、廿二日辛酉、有任大

臣、依病不參、大臣以下來賀、不得相謁、廿五日甲子、法皇奉賀今上、其儀不能具記、以右衛門督參議中將□□車遷宮之處、兼大將如舊、廿六日、行幸六條院、院有音樂、廿七日、召廿五日被奉御馬□左右馬寮、又賜中務上野帥親王左右大臣、廿八日、除目儀始、

二月 一日、除目、寅刻退出、七日、有官奏、定昇殿人、□惟□ 八日、□惟□於陣頭賜位記、有仰事、以民部卿元方朝臣春蔭爲前坊周忌御熊行事、十日戊寅、參法性寺、始聽鐘、音家及公卿家人等行小諷誦九度、十一日己卯、□剋見大原野祭、十四日壬午、天台座主修善始、大內有御修法事、僧延□爲阿闍梨、十九日、有官奏、廿日、有直物、並定季御讀經僧名事、又復任者四人、廿三日、一分召宣旨、給權大輔仁□爲十禪師、一分宣旨之中有計歷者、廿四日、大和新司不可暫向任所之由、依仰仰兼茂朝臣、廿

五日、一分召、廿六日甲午、參拜宇治、誦經極樂寺如常、廿七日乙未、季御讀經始、卅日、辨曰、爲寶幢院別當御讀經結願、以於律師延徽爲東寺別當、治右大辨、

三月 一日己亥、解除使參法性寺、五日癸卯、依有臨時幣廢務、六日、依召參入六條院、見十親王、有被物御馬、七日、今日可有行事、而依雨停止、八日丙午、中宮於極樂寺被修前坊周忌御熊、仍參向、九日、東宮於同寺被修有所□不參、十日、明日欲行幸六條院、仍右大臣參入、召仰有召、稱病不參、十一日、行幸六條院、御覽十親王、公卿殿上侍臣賜饗祿、衆物二枝有奉今上、十二日、有召、依病不參、依十皇母氏位記事召者、十三日、有召、依病不參、京極叙二位、十五日癸丑、於內裏被修先坊周忌御熊有所事、不參向、十七日乙卯、同金液丹始服三二九、十八日、四九、十九日、五九、有官奏、

行位祿事、廿日戊午、從今日至六月晦、令

讀仁王院尊師知之、廿三日辛酉、有官奏、除

御服、卅九服、廿五日、右近府生蝮椿常樹、奏

賜兵部丞敏行、廿六日甲子、東宮除御服、廿

八日、今夜南院、卅日戊辰、練口始、

四月一日、召侍從如例、二日、左金吾右大

辨中宮大夫來、定御賀事、十日戊寅、午二點着

座、官外記同用西門、十三日、停止五月節

之由仰外記、又祈、十四日、祈年穀豐稔之狀、

齋主、六十九服了、齋院御禊御前、公卿大夫

用香葉轍、但長官加用藁蒲形尾袋、自餘如尋常

祭儀、十五日癸未、授成撰位記之日也、而依

未請印、位記不授、有官奏宣物等、警固召仰

齋主祈申文、賜宿禰令候、十七日乙酉、小

將祭饗於東五條行之、恒公卿大夫脫小袷賜

使、近衛等今夜最東、十八日、歸饗如例、使入

門狀時、聊調酒肴相逢、令飲少將已下、中將

伊衡朝臣等口持肴物二敷於大夫等出逢也、中

將等歸入之後、遲口舞着座、饗祿了歸去、廿日、

讀口候由卿假也、有奏申文、廿二日、有奏申文、

可召勸大和國司之狀、仰右大辨、依不供給

大神使也、廿五日、有通恒想成甚譽、廿六日甲

午、服金液丹一九、西院丹也、廿九日、參向法性

寺、

五月一日、有奏申入、參東宮、二日、有奏直

物等、三日、依中宮煩給、參彼宮、本命登嘉

枝、五日、手結、六日、宿法性寺、七日甲辰、山

座主於法性寺修善始行之、雨降洪水出、十六

日癸丑、東宮御讀經始、十九日、中使口朝臣

來、廿日、右丞相定賑給使施米事者、廿一日、

位記召賜、廿四日、相明朝臣來云、大和口狀須

猶責、又不令替事急云々、是口朝臣所傳

昭也者、召口行仰之、

六月二日、中使伊望朝臣來、有恩而又被問

折力

庭イ

祭力

頭力

問力

雜事處、人事云々、前坊所々人、上日付_レ頓奉入、

十一日、送_二大貳報書_一、今日神事付_二所司_一行、

十九日、民部卿行_二讀奏事_一、式部卿親王薨、廿五

日、爲_二拾遺千卷讀經事_一、又等身木像□□□可_レ奉

造事云、送_二意師所_一、卅日、相明朝臣口、

七月 三日庚子、本命登氏口、_{祭力}六日癸卯、於_二天

台山_一修_二大般若讀經_一、九日丙午、中使頭朝臣庶明

昇殿事、又恩問造四菩薩事始_レ之、於_二南門_一外記拜、

依_レ有_二家中犬死穢_一不_レ入_二寺中_一、十三日、有_レ奏_二申

文_一、十四日、有_レ奏、十五日、大德子生、廿日、

有_レ奏_二申文_一、廿三日、有_レ奏_二申文_一、又官奏受_二口吏

口限不_レ赴任_二之者_一、三令_レ狀、勅曰、依_レ穢不_レ赴_二二

人免_レ之、廿五日、從客散服始、廿六日、送_二大貳

書_一給、常行不_レ賜_二召府_一之事也、廿七日、召合、

持無_二音樂_一、廿八日、拔出追相撲

八月 一日、參_二東宮_一、依_二造伊勢大神宮打物忽々

請申_二參入_一、奏行、五日、定_二祈年穀幣使_一、七日、

奉幣事於_二八省院_一行_レ之、八日、除目議始、九

日、除目丑刻了、十一日、參_二法性寺_一、十四日、

相撲饗、十七日、季御讀經始、廿一日、有_レ奏_二

中文_一、廿三日、未時參入、依_二中宮男君初_一御膳、

上御_二弘徽殿_一有_レ賜_二酒祿_一、子三刻退出、廿四日庚

寅、於_二天台山_一令_レ奉_二讀大智_一二口、廿五日、有_レ奏_二

申文_一、以_二民部卿_一爲_二勸學院別當_一之宣旨、仰_二三元方

朝臣_一、廿七日、法性寺事口處分冰示_二送仁閣梨_一口

手書、廿九日、有_レ召、依_二病者重煩_一不_レ得_二參入_一、

中使頭朝臣來有_二仰事_一、伊勢神宮事也、

九月 二日、口假三日、依_二病者_一也、四日、依

召參入、定_二行伊勢大神宮事_一、五日庚子、廢務、

依_二伊勢大神遷宮神寶等使發遣_一也、依_二貞觀延喜例_一

所_レ行也、七日、有_レ奏_二不堪佃田等解文_一、伊勢大

神禰宜叙位、八日、於_二台山_一修善始、座主爲_二阿

闍梨意上人例_一天供同行、陸奥室許送_レ書、內作事也、

九日、節會如_レ例、爲_二守造明王事始_一、十日、定_二式

事、十一日、有_レ奏_三直物、十二日、從客散服了、
此散人^{入カ}鐘乳二兩也、定_レ式、十三日、十一日伊勢
幣今日發遣、依_レ穢所_レ延、十五日、有_三申文、定_三
賑給不堪佃事等、十六日、定_三式事、內裏御修法
始、僧正爲_三阿闍梨、十七日、見_三法性寺鐘樓、
十八日癸丑、中宮御讀經僧^{廿僧}廿二日、有_レ奏_三申
文、依_三地黃御園事、可_レ遣_三檢非違使於和泉之狀、仰_三
右大辨、廿五日、定_レ式、
十月 一日、上御_三南殿、補_三次侍從十一人、右大臣
奉_レ仰定_三奏者、二日、頭朝臣來、仰_下可_レ進_三五節_一
事、三日、請_三座主_二令_三修法、依_レ有_三怪異夢相等_一
也 令_三義海師爲_三室病修法、^{北方同來有_三煩給、御修善事}
^{連連不_レ絕、然而不_レ記_レ日、}
今日 六日、定_レ式、十一日、有_レ奏_三申文、宣符年
記、十二日、定_三式事、間、戶部來者仍止、十五
日、臨時御讀經於_三清涼殿_一行_レ之、廿僧金剛般若經、
十六日辛巳、極樂寺_口菊無_口樂_口口遺殿彼御子孫
可_レ行故也、此蓮花時與_三春宮大夫中納言_一相定了、

廿日、香取神宮司宣旨仰_三元方朝臣、大口_口明仙爲_三
極樂寺定額僧、仰_三良僧都、廿一日、有_三申文、依_三
御物忌無_レ奏、依_レ召參_三入陽成院、北野金吾御_口各
一疋賜_レ之、廿二日丁亥、極樂寺法花會始、仍參向、
以_三山階助精_一令_三立義、廿八日、有_三申文、厩町有
_レ薨、依_レ閉_三中門_一不_レ爲_レ口、
十一月 一日乙未、奉幣事馬如_レ例、二日、有_三奉奏
幣_一如_レ例、三日、有_三申文直物、四日、依_レ仰
定_三受領、到任事未_レ有_三可_レ許、春日祭中宮使_口國
朝臣馬寮當季朝臣家走馬乘人等到_三淀、與_三津人_一有_三
鬪亂事_口及_三太夫、往古所_レ未_レ聞也、令_レ奏_三事由_一
遣_三檢非違使、五日、_口田解文申事、^{損カ}六日、定_レ式、
七日、損田解文奏事有_レ奏、八日壬寅、於_三意師
房_一令_レ行_三熾盛光法、於_三天台山_一令_レ轉_三讀大般若_一經、
^{若カ}
十日甲辰、法性周_口七十_口、從_三今日_一三ヶ日、
十一日、有_三奏文、齋宮事與_三右丞相_一定_レ奏、唐人送
物將來、十二日、唐物令_レ覽_三內裏、十三日、定

式、十四日、定式、十五日、定式、新作式、今日定了、但有可相定事、一雨雪始降、大地振、十六日、有奏申文、十八日、王子大原野祭奉幣馬如例、廿二日、宴會、廿三日丁巳、於口給師所、修善始行、文靈以奉圖萬慈北像、廿八日壬戌、參詣法性寺、口口四菩薩安置南堂、鐘上構上、今日雷鳴、造菩薩始日又雷鳴、所達之初後有此事、感應云、了三僧令誦始、

十二月 一日、有奏、四日、有奏、前坊渡人口簿給大舍人内膳宣旨、仰元方、七日、有申文、定口替損田等使、十一日、以前日有所勞不參、中使頭朝臣來、有法皇御賀事可始行、仰、十三日、奏元日侍從荷前使等、又有官奏、十五日、有除目三人、十八日壬午、中宮奉爲主上、五ヶ寺御誦經施行、十九日、興福寺僧等來奉御賀卷數、差少將奉入、便有勅宣辨布施、但内藏官人領布施來也、廿一日乙酉、中宮奉賀天皇、廿三日、

山座主三綱等御賀卷數將來、即差少將奉入、有勅答、布施等如山階、廿四日戊子、秋季例供始、廿五日己丑、^{神カ}口今食月次、天皇御中院依穢延也、廿六日庚寅、曉女房入道座主爲戒師、御體御卜奏、又有官奏右丞相云、廿七日辛卯、賀茂臨時祭大神祭、廿八日壬辰、御佛名荷前未御南庭之前、覽集承明口云々、廿九日、廿二日以後、依病者不參入、

同三年

正月 一日、宴會如例、二日、二宮大饗、三日、行幸仁和寺、四日、依病者重煩不_二大饗、五日、右大臣大饗、六日己亥、爲病者修善始、伊州所行也、言上人爲阿闍梨、中使藏人口來召、依病者不參、七日、節會叙位如例、八日、從大内山差嘉枝朝臣、有恩問、九日、中使頭朝臣來、有除目節禮等事、十四日、女叙位二人、古故室家也、十五日、中使實賴朝臣來、賜女房

位記被物、口狀不來、一襲白大褂一重、十六日、

今日節不奏御奏、依御物忌也、令奏慶賀、

十七日、上御建禮門、節會如例、但依濕不謝

座、今日公卿不張口而者、躬弓懸、依夫故實口張

弓口口躬弓懸等、十八日、依病者不參賭弓、

十九日、御使頭朝臣來、昨射手官人近衛等賜祿、

前例只給勝敵之者、而今日依一度不負口日給、

廿二日乙卯、令仁上人爲女房修善始行、左右カ廿

五日戊午、外記政始、米鹽魚類等令給口口獄所、

廿六日己未、於議所除目議始、昨今依御物忌

也、廿七日、自今日御前議定、卅日、除目、

左金吾來、依故丞相消息也、相逢、

二月 四日丁卯、祈年祭、大原野、依犬死穢延引、

六日、以學生乏仁爲勸學院別當宣旨仰之、方

朝口爲病者、仰令意上人修善始行、七日、祈年

祭、布襖分施台山無衣之僧、命座主行之、十日

癸酉、爲諸天神祇所寫千餘卷經、於法性寺請

廿僧、令揚題名、今日中使頭朝臣、昇殿人事也、

十一日、列見、十四日丁丑、園韓神、釋奠、十六

日乙卯、大原野祭、奉幣如例、廿日癸未、季御

讀經、十三日召廿僧於御前、令讀仁王經、廿四日

丁亥、從內有召、依八九親王又公主等加元服

事也、可參入之狀奏聞了、而脚病發動不得參

入止、座主爲病者修善、六カ廿八日、招中少將

定府生、廿七日庚寅、於天台山令讀大般若

事、爲予也、

三月 一日、參有申文、中將告法皇許賜故式部

卿口之由、三日、左大辨來、門外逢清範、授

最勝會請僧口名、五日丁酉、於尊意口堂修善始

行、爲攘天變也、方延命菩薩像始圖、法性寺讀經

始行仁王也、限以五日、七日、參有奏申文、八

日庚子、本命祭氏於法性寺奉造五大尊、又令

三僧大般若始讀、小諷誦、早朝參詣、九日、參有直

物、定封事、十日壬寅、政所造石塔、請舟上人

令講讀爲含口靈所寫書、四卷佛名經等、二箇日夜、
十二日、少將希世朝臣來云、可召相撲白丁使、
事云々、十三日乙巳、河□一瀬、依雨也、十
五日、參中宮御讀經、□有申文、奏申而不召、
十七日己酉、供百延命鐘乳大來服□九、十八日
庚戌、供萬慈悲以上靈上人房行之、十九日、參
有奏申文、於台山令轉讀大智、又鑒閣梨修善
始、嘉技屬三星祭、廿三日、參有奏、又任僧□
定□祿、廿四日、昨夕所作定命頗有所加、又
學士橋力□保扶可預省試之宣旨仰久口宿禰、希世朝
臣所傳仰也、廿五日、定式、廿六日、定
式、廿九日辛酉、於台山令轉讀大般若一部、
依三天變、千卷金剛經始讀、爲病者內暨內藏楚茂
田口高相爲官人代、仰頭俊範、依舉狀補也、
四月二日、申障博文朝臣如口忍爲院別當、仰
文方朝臣、四日、北方只被引、法皇使公賴朝臣勞恩力
之□、八日庚午、大辨以下官掌以上率來、即向

山作所者、初七日誦經、今日愛宕、十二日、頭朝
臣來告之、所申度者等宣旨下了、十四日丙子、
從初夜懺法始、十六日戊寅、二七日御誦經□、
菩提寺寫經始、十八日庚辰、於台山令讀大般
若、爲攘三天變也、又修善始行、意閣梨、廿三日、三
七日御誦經修菩提寺叡口法花常行等堂、始從今
日至子來月廿三日、令念佛讀經、有佛僧供□、
廿八日戊子、中宮御修法始、仁義兩脚爲阿闍梨、依
御病重也、廿九日、四七日御誦經修花山法花三
昧、案四七日當五月一日、而今日被行、被忌朝日、中宮御修法、山座主又始行、
五月三日、誦百金依夢不吉也、六日、五七
日御誦經修極樂寺、十五日、六七日御誦經修
法淋寺、十八日己酉、七々日法事修法性寺、又
叡山法花阿彌陀二堂修誦經、十九日、頭朝臣來
召、依力病不參、渡一條、廿一日、中使頭朝臣
來、有申官事、廿三日、七々正日也、仍於家
中、有下行諷誦人々所々、今十八度又莊々施入

寺々、廿五日、令齋主祈雨者、廿六日、從曉雨降、廿八日、經師細工等賜祿、卅日辛酉、金鼓令懸東堂、口有小諷誦、使諸衛口捕京中盜人、

六月三日、頭朝臣來、有雜事、又遲參由仰、五日、大内口發、七日、辭大將表付少將、上人夜奏口、昨日御體不豫、只今不御覽、明朝御覽者、八日、民部卿行讀奉事、十日、中使希世朝臣來口表、其仰云、是昏曉地也云々、又命與祿云、十一日、歡賢僧正沒、十二日癸酉、金剛般若讀經始、請僧十口、依物性口想頻示也、十三日、圓超律師沒、十五日、始參大内、依御體不豫也、定勸修寺御熊請僧、今日御病不發給、十六日丁丑、大内御修法始、僧正爲阿闍梨、十七日、參東宮、依從昨下煩給也、十八日、左金吾來、依東宮御病急、相共參入、今夜東宮薨、廿一日、參東宮、廿二日癸未、皇太子葬神樂

岡西野、廿四日乙酉、根本法花三昧堂送燈油供米等懺法間料也、北政所送文、廿九日庚寅、於叡山令轉讀大般若壽命經萬卷等、尊意行事、七月一日、招頭朝臣付賑給符案、三日、右大辨來、告可有季御讀經事、又戶部卷官政定請僧、七日、未剋月見、九日、季御讀經始、十五日、往詣法性寺令講孟蘭盆經、又淨業障、侍從室產男、十七日、山座主來慶口、以僧正門徒、可任元慶寺別當官牒出由、十八日、中使頭朝臣來云、座口歸口正仁公笏返授、廿七日、參有奏申文等、延口爲醜醜座主宣旨仰右大辨、先坊御服如先坊時可着定了、於東大寺集七大寺僧徒、今日三ケ日行祈雨讀經事、八月二日、小雨、三日、雨降、四日、參有奏申文、以吏部王爲大學別當、雨降、七日丁卯、釋奠、前坊卅九日法事修極樂寺、仍有誦經追物等事、布二百口、九日、有官奏、以僧命延徹爲

北務僧綱、觀宿爲東寺別當、十日庚午、於法性寺奉供新造五大尊、山座主覺於空慧全覺慧爲阿闍梨、但中臺壇有伴僧四口、自餘無矣、今夜宿寺、十一日、清涼殿有御讀經事、中宮御修善、於五條法行、宿律師、雷鳴、十二日、雷鳴、十六日丙子、僧正御修法始、供口始延昌師、十七日、法畢還家、十九日、參有官奏、定諸司所々別當、有申文、廿一日辛巳、於台山令轉讀大般若事、爲息災也、廿三日癸未、七寺小諷誦、參向觀修寺御能、僧正爲講師、延微律師爲御誦經導師、今日他處誦經、只今多院許也、內口寮五百段、院六口端、僧綱十一人、延曆寺座主等爲揚御經題之人、三禮以上僧綱法用凡僧、惣十五人、施法服、又誦僧併給度者、布施神筆、住縫佛甚希有也、廿五日乙酉、鑒歡二閣梨大內修善始行、廿九日、郡司召、后宮男君初着御袴、上御弘徽殿、殿上侍臣賜酒祿、寅剋退出、右大辨殿、定內侍

叙位、卅日、新式付久永宿禰送民部卿許、

九月二日壬辰、立願奉造延命菩薩菩薩大智七丁、是爲救法界衆生命辰、增長壽命、遂令得業無盡口也、七日、有奏申文、依損不堪分、申停止節會之由、仰所司、九日、有奏申文、召侍從如例、十日、尊意閣梨於一條家修善始行、定式、十一日、御八省院、神事如例定式口、十三日癸卯、有臨時幣使、十六日、有奏申文、十八日、式事定行、十九日、有奏申文、定封事不堪佃使等、廿七日丁巳、於覺於所十七天供始修立今日也、又山上令轉讀大般若二部、十月二日、有申文、清水廣隆花山三寺諷誦、爲除病、三日、有奏申文、七日、有奏口口人平秀衣糧從穀倉院給宣旨、仰頭朝臣、八日、定式、中使頭朝臣、有震事寫經始、三寺誦經東花常行法性寺東堂等也、十一日、定式事、十二日、定式事、左金吾來、大內御書有六條院云々、

十三日、除目議始、七寺誦經、十四日、除目、
 丑四廻退出、十七日、有_奏、廿日、_{關カ}天例讀
 經行、花山寺誦經、廿一日庚辰、立太子、親王公
 卿_參入東宮曹、有_變祿、非參議不_預此例、左右
 近_{衛カ}陣如_例、但兵衛不_差、廿三日、有_奉榮祐
 維摩講師_{宣旨}、仰_{外記}口幹、爲_申慶賀_參六條
 院、而依_{出給}空歸、廿六日、_參入兩上皇宮、爲_奏
{慶賀}也、有{直物}復任等事、廿八日、有_奏
 宮品官除目、家弁備_{酒食}、賜_{宮所々}、又丞陣官人
 以下賜_祿有_差、
 十一月一日、有_奏申文、十講始、可_勘諸國調
 物減少_{之由}仰_{左大辨}、四日、以_{圓藝}可_任濟
 恩寺權別當_{之事行}之、方東宮_遷凝華舍、爲_行
 神事_也、五日、有_召、依_病不_口、八日立太
 子由告_{柏原深草後田邑山}、_{東宮還}弘徽殿、十
 日、山階寺_{下階}房馬道以東燒亡、十三日、東宮
 御服始將來、十五日、東宮_{梅壺}、十七日、

奏_損山解文、東宮還_{御弘徽殿}、十九日、有_奏
 申文、廿日己酉、_參拜宇治、又詣_{極樂寺}、行_{諷誦}
 例也、_口例天供始春料也、臨時祭、廿一
 日、中使頭朝臣來_云穢事、廿二日、有_奏申文、
 定_{宮所}柏原別當等、廿三日、定_式_口_口_口、
 廿七日、定_{封事}、廿八日、有_奏申文、今日
_口見侍從_口_口_口、
 十二月一日、有_奏申文、封事定畢奏、二日、
 定府物節_口_口有_奏申文、九日、京極產男、
 十日、又定_{封事}紅雪二斤送_{大貳許}、良佐有_{手書}
 和香子爲_女、_口_口右大辨、十一日、神今食延
 由、大移行、十三日、有_奏申文、十四日、有_奏
 申文、十六日、有_奏申文、十七日、返_奉
_口衛士等申文_進之、十九日、有_奏申文、
 廿二日、定_{封事}、廿三日、外記所_{納御覽}可_奉
供六條院{之狀}給、_口永宿_{禰依}淑_{朝臣}傳_仰
 也、廿四日癸未、東宮御修善始行、_口阿闍梨、

廿六日、可_レ停_二止私出舉_一、作田口符可_レ給之事、

仰_二左大辨_一、可_レ試_二帶刀_一之事、仰_二大夫_一、有_レ奏_二申文_一、

廿八日、有_レ奏、 廿九日、御體御卜、依_レ機延_二

閏十二月 一日、神今食、戶部口口定_レ式事、 四

日、有_レ奏、定_二封事_一了、付_二頭朝臣_一令_レ奏、以_二

延憲爲_二貞勸寺座主_一宣旨、仰_二左大辨_一、 九日丁酉、

口門前七寺誦經、依_二枕上恠_一也、 十日、有_レ奏_二申

文_一、 十三日、有_レ奏_二申文_一、 十八日丙午、意園梨

房修善始行、又口大供同_レ之、口帶試於朱雀院之、

兼輔朝臣爲_二勅使_一、 十九有、有_二申文_一內御佛名始、

口神不調、不參、參議中將宮口等來、令_レ見_二試帶

刀才書_一、 廿一日己酉、東宮御佛名始行_二凝華舍_一、

仍參入、 廿二日、有_レ奏_二申文_一、 廿三日、奏_二申

文_一、 廿四日、從_二右大臣殿有_一重煩、口_二時望久

永_一、 廿五日、小幢入_二天立寺_一、 廿八日有_レ奏_二申文_一、

(以下內閣本第五册)
延長四年

正月 一日、節會如_レ例、但雨儀、 二日、帶刀宣

旨、依_二宮亮中宮東宮饗_一在_二中陪北廊東西_一、 四日、

家大饗、大用_二魚鳥_一、右丞相依_レ病不_レ饗、 六日、

敘位儀、 七日、節會如_レ例、依_二物忌_一七寺誦經、

今日雨儀、 十日丁卯、中宮御杖如_レ例、 十三日、

請令_二仁口令_一齋食、尊意師例天供、 十二天供始行、

十四日、依_二物忌_一不參、於_二台山_一令_レ轉_二讀大般若

經、依_二人々夢想_一口口、 十五日、大貳所口口兩度

報書、 十六日、節會如_レ例、三寺誦經_{御物忌}、次侍從七

人補、但雨儀、 十七日、公卿行事、於_二建禮門前_一

令_レ射、 十八日、三寺誦經物忌也、右勝、 廿日、

中使口朝臣來、有_二除目儀事_一、議力 廿一日戊寅、東口

御修法、於_二台山_一始行、 廿五日壬午、外記政始、

廿六日、除目儀始、依_二七神不調_一、五寺誦經、 廿

七日、主口誦經、 廿八日、三寺誦經、連日御物忌、

廿九日、除目、

二月 二日、有_二口口_一退出之後、中使頭朝臣來、

七日、以_二彈正忠口延_一爲_二勸學院別當_一宣旨、仰_二元

方カ

由力朝臣、左大辨來授神祇官申豐受宮勸文過狀、爲之當日^{方カ}上奏聞也、八日、初有官奏、十日、丑剋天台座主遷化、十三日、有奏、十四日、從今日^{方カ}脚氣重發、十五日壬寅、東宮大般若御讀經、於山東西塔^{方カ}行之各一部、十六日、中御門末有炎火事、檢非違使等申其由、十七日、依有花宴有召、稱病不參、十九日丙午、今口口中宮東宮遷御飛香舍、廿日、七寺誦經、心神不調、夢想不吉也、廿五日、有奏申文直物等、又被定藏人昇殿人比口口內供等、廿八日、南及陣有申文、改定信饗下野越中損不堪使、三月 二日戊午、清意園梨修善始、四日、有奏、六日、有殿上賭弓事、而有^{方カ}所^{方カ}不參、七日、空慧定心院運昨日王院解文、可令申事仰行、八日、有奏定季御讀經、又位祿事等有之、宿禰口過五月後可赴任、由仰左大辨、十三日、有奏申文來、東宮如響、十五日辛未、季御讀經始、

又承香殿有御修法事、僧正爲阿闍梨、十七日、右大辨中宮大夫等來、定宮々御讀經請僧、十九日、僧正申季分口講師等事、仰希世朝臣、廿一日、登天台宿、廿二日戊寅、修法事入禮、大納言、左衛門、八條中納言、左右大辨、中將、宰相、四位以下七十八人、廿三日、歸從台山、廿四日庚戌、西塔下^{始カ}供常燈、廿五日辛巳、中宮東宮季御讀經始、四月 一日、日來心神乖違不參、左大辨將來國口支度文、二日、召良實宿禰返給國用支度文、依誤夕也、三日、震宮有頂給、四日庚寅、從今夜芥子燒五ヶ日泰師也、諸子參向菩提寺、今日七寺誦經、又從今日覺伶房尊勝入口誦始、口皆爲道成也、八日甲午、東宮御讀經於台山行、大般若壽命經等也、十一日、有奏申文、定齋院御禊所御前、又任彼院次官、十三日、差公賴朝臣有院御消息、有奏申文、定齋院長官代、又直物

申文、宣內、廿二日、左衛門督左大將尋來□□

月後日欲有行樂、而衣即消息、

止、廿六日、參_二河原院_一、廿八日、任郡司、

七月 四日戊午、宿_二法性寺_一、台山例千卷讀經行、

又於_二法性寺_一修法始、覺伶爲_二阿闍梨_一、大佛頂經於_二

座主房_一令_二始寫_一、五日己未、有_レ奏_二申文_一、并延平

等三僧、始_レ自_二今日_一轉_二讀仁王經_一七ケ日、九日、

有_二直物_一、僧正解_二法務表許_一給、宣旨作_二左大辨_一、

十日甲子、亥刻中宮東宮遷_二御弘徽殿_一、公主新君等

又參入、十六日、有_二申文_一、十八日、彼夕風吹、

終夜不_レ休、十九日、口口大師口祈年穀幣使、廿

三日、七寺誦經、依_二夢不吉_一、廿五日、右大辨來

授_二封事符口_一、廿六日庚辰、行_二幸八省院_一、有_二祈

年穀使事_一、廿七日、有_二申文_一、廿八日、相撲召

合、無_レ樂、廿九日、拔出、卅日、有_レ召、稱

病不參、

八月 二日、定_二止雨幣使_一、三日、止雨幣使立、

有_二申文_一、五日、送_二御讀經請僧_一、召_二神祇官陰陽

寮等_一令_レ卜_二雨不_レ止崇_一、召_二造住吉社使_一、可_レ問_二勘

遲造_二之由_一、又可_レ祈_二魚住神_一官符事、仰_二左大辨_一、

六日、定_二止雨幣使_一、七日、有_レ祈_二止雨_一幣使

事、八日、有_二官奏_一、九日、季御讀經始、相撲歸

饗、十日甲午、東宮御修法常寧殿行、座主爲_二阿

闍梨_一、十五日、依_レ召參入、定_二行伊勢大神宮鑢事_一、

又止雨事等、十六日、三寺誦經、行_二幸六條院_一、

午後雨降、但還御之間不_二雨北_一、到_二建春門_一大雨、

今夜還御不_二鈴奏_一、依_レ雨 十八日、宿_二修理大夫曹

司_一、爲_レ違_二忌也_一、十九日、奏_二伊勢并諸神宣命案_一、

廿日甲辰、幣使立、物忌不參、仍令_二右大臣奏_一宣

命、廿一日乙巳、東宮參_二清涼殿_一、廿四日、左

大辨來、乙_レ見可_レ祈_二住貞神符案_一、廿六日、五寺誦

經、依_二吉爲成出示_一靈也、廿七日辛亥、始_レ從_二今

日_一、於_二台山中堂_一令_レ讀_二大般若_一三ケ日、每日一部、

爲_レ攘_二天變_一也、廿八日、中使頭朝臣來、卅日、

參_二弘徽殿_一、依_二若宮不豫_一也、

九月 二日丙辰、_{持力}陰持院塔下始供_二常燈_一、五日、

伊勢使立、七日、有_レ奏不堪佃田事、九日、節

會如_レ例、召_三公_一博文朝臣等、以_三博文_一爲_三講_一口、

十一日、伊勢幣使立、十三日、有_レ奏、定_三不堪

田使_一、有_三申文_一、十七日、中使頭朝臣、十九日、

有_レ奏、廿一日、有_レ奏、廿八日壬午、亭子院有_三

法皇御賀事、

十月 一日、有_レ召、依_三物忌_一不參、三日、有_レ奏、

爲_レ避_三忌師宅_一、五日、有_三申文_一、令奏々候之伏而

不_レ召、今日有_三弓場始_一、侍陣大臣以下不_レ被_レ召、仍

各退出、主上聞食仰云、殿上公卿不_レ待_レ召參候者

也、八日、中使頭朝臣來、有_三除目事_一、又御賀事

等、十日、五寺誦經、法皇幸_三西河_一、依_レ召追_三從

右丞相_一、戶部等又候、十三日、定_三西河行幸事_一、

十四日、院御使衆望朝臣來、故丞相送有_三負物馬_一、

十九日、行_三幸大井河_一、御舟泛_レ河、法皇相_口御_三

十、皇子奏_レ舞、了賜_三御半_一口、又_口聽_三帶劍_一、侍從

以上賜_レ祿_口臣預_レ之、廿四日丁未、極樂寺十講、

又菩提佛頂經事始、欲_レ有_三行幸_一而依_レ雨停止、廿

五日、中使頭朝臣來、有_三北野行幸除目等事_一、廿八

日、除目議始、廿九日、除目、雨講_口、依_レ有_三賜_一

穢、來月七日以前諸登改_レ日可_三行幸_一事、仰_レ諸司乙

大納言、

十一月 三日、以_三仁敦_一爲_三明年維摩講師_一宣旨、

仰_三外記滋並_一、五日、有_レ奏_三申文_一、六日、行_三幸北

野_一、八日、有_レ奏_三損田解文_一、又有_三申文_一、伊勢齋

宮鬨亂事、令_三淑光朝臣勘問_一、十日、弘徽殿有_三行

器典_一、侍從昇殿、勘_三問齋宮鬨亂事_一書令_レ奏、十

五日戊辰、節會如_レ例、十七日、臨時祭試樂、入

夜參入、有_三行器之興_一、十九日、齋宮鬨亂、又

口卿定問事、仰_三左中辨_一、又遣_三非違使_一事、廿一

日、中宮男君爲_三親王_一、戊剌若子加_三元服_一、南院西君

口、廿五日、中使頭朝臣來、御賀御誦經事、廿

六日己卯、仁觀師東宮御修法始、其所禪院、卅日、

中使頭朝臣來、有_三御賀賑給事_一、損田事等、

十二月 五日、有召、有奏文、奏採銅使勘文、諸司官人口到之罪勘文、 八日、有奏申文、諸國調物可減事令所司勸者、 十一日、神今食、依觸穢付諸司被行、 十三日、有奏申文、山階寺僧勝材木打給、大和正口宣旨仰元方朝臣、 十四日、定荷前日、 十五日、頭朝臣等來被仰定御誦經使、 十六日、有奏申文、定賑給使、 十九日、朱雀門前東西京有賑給、今日奉爲法皇、口天寺並京邊七寺有御誦經、東宮秋季御讀經始、 廿三日丙午、公口荷前、依雨御座儲宜陽殿西廂、依延喜十五年例行、於台山之轉大智二部、又例天供始修、 廿五日、有奏申文、貞從由十禪師宣旨、仰左大辨受領功課、 廿七日、有奏文、父令奏伊勢國亂勘問文令奏親王 廿八日、有奏申文、兵部卿親王薨、敦國同五年

正月 一日、節會如例、兵部卿事依日次凶未奏、仍所行也、次侍從六人補之、 二日乙卯、晚頭參

入、令奏兵部卿薨由、 四日、家大饗、 五日、右丞相大饗、 六日、叙位儀止、 七日、節會如例、但不奏音樂、依承和六年例、 九日、除目議始、但議所行、 十日、於御前議、 十一日、議、 十二日、除目、今日御前不召諸卿、只大臣候、 十六日、節會如例、但不奏、在樂有踏歌、 十七日、上不_二出御_一、公卿奉勅、於建禮門前令射、 十八日、賭弓依雨止、 十九日、賭弓左勝、亂聲依仰不奏、 廿三日乙亥、外記政始、 廿四日、中使希世朝臣來、

二月 四日、祈年祭、有伊勢臨時幣、 五日、右大臣家從昨死穢、入交而不知_二彼家人_一、入內裏、口穢_{讀カ} 廿五日所_二口者_一、 八日、中使希世朝臣來云、左右近將監皆觸穢、仍以_二右口允藤原有忠_一爲大原野使云々、 九日、有負拘事、又藏人頭補之、 十二日甲午、東宮御修善、於山座主所行也、十親王口_{初カ} 口內裏、彼親王別當淑有朝臣依院御消息昇口、親

王及陪從四位以下六位以上賜祿有差、十四日、行幸六條院、去月依兵部卿事不朝勤也、依口不扈從、十七日、中使實賴朝臣來有恩問、十八日、近江守告赴之由、相逢被物女裝束、次女裝束、十九日、一分召、

三月 四日、中使希世朝臣來、有恩問又色々公事、五日、右大臣位祿事定行、十一日、有奏、定御讀經請僧口、十四日、院百日人度者定宣下、十五日、希世朝臣^{合カ}命有二兩事、廿日辛未、季御讀經始、廿四日乙亥、東宮季御讀經始、廿六日丁丑、中宮御讀經始、

四月 七日、奏擬階、奏定齋院前駟戶部、十日、召^{祭主}、仰明日於神祇宮可祈年穀之狀、其諸神數口^{書カ}出給、延喜二年例也、十二日、依召令御覽家馬於大内、十三日、有奏申文、定五月節事、以來月一口駒引可有之事、仰外記久永、廿日、行讀奏事、定節名奏毛奏口、廿二日、任

兵部卿、廿三日癸卯、宿律師於石山寺、東宮御修善始行、廿八日、有奏、有口帳遺國、不奉官符、申返國々解文、不可裁許之狀、仰左大辨、是勅語也、廿九日、出居三人宣旨仰將監利實、

五月 三日、駒牽、口暮不得兵衛騎射、五日、節會如例、但依雨濕無謝座酒禮、而賜藥玉間頗噪、仍拜舞如例、六日、^左御馬九勝、左右左兵衛只射五寸、右兵衛有口^{勅上カ}打毬如例、又帶刀騎射如常、十四日、中使希世朝臣來有節口事、廿

二日、定賑給施米使、廿三日癸酉、山座主東宮御修善始行、^{殿御修善人}祭主於神祇宮西院祈雨、

六月 三日壬午、東宮御祈願造佛等於台山始之、造山崎橋、使定彥真大宰以下内帳事、令諸口口者、四日、諸國申損不堪使勘通口待國司罪、依員口勘否由可慥勘申事、仰奉蔭、任造東大寺長官主典、十一日、幸神壽殿、十九日、定祈雨使又直物、廿五日、枇杷奏狀通給、常午祈雨等事、

可_レ早被_レ行之狀、令_二實賴朝臣奏_一、仍被_レ行矣、廿八日、子時許右衛門佐宅出_二來失火_一、東風吹來、風口甚危也、不_レ賀_二春角長清廣法祈禱登時風止_一、

七月 一日、可_二重新_レ雨事、令_二午_{年カ}預奏_レ之、季御讀

經諸大寺等讀經也、五日癸丑、季御讀經於_二八省_一、

行、祈雨修法神泉行_レ之、六日甲寅、請_二七大寺

僧於東大佛前_二三ヶ日_一、又延曆及有_レ供_二諸寺讀經祈

雨_二雷雨_一 七日、雨、十四日、可_レ停_二大口春米_一事、

臨時交易絹事仰_二右大辨_一、十六日、召合事、依_二去

年例_一可_レ行宣旨仰_二伊衡_一、召_二希世朝臣_一外記之_二口_一、

十八日丙寅、臨時御讀經始_二廿處_一、十九日丁卯、

二口有_二御修善事_一、廿一日、御讀經僧給_二座着_一、

廿二日、甚雨、廿四日、召合事可_レ在_二廿六日_一、而

依_二今日法皇煩給_一、改_二定晦日_一、廿五日、觀宿律師

爲_二少僧都_一、廿八日、郡司召、去月公卿了有_レ障不

參、其後西廳修理于_レ今延引、卅日、召合、左勝、無

樂、

八月 一日、日蝕、二日、相撲御覽、七日、祈年

穀官符給_二五畿七道_一事、仰_二左大辨_一、依_レ穡停_二止釋奠_一、

十四日、相撲饗、廿三日辛丑、后宮公主有_二御

對面事_一、亭子院親王等、仍藤氏公卿奏_レ慶、廿六

日、中使少將有_レ可_レ行_二幸朱雀院_一、卅日、行_二幸朱

雀院_一、御_二覽信濃駒_一、其儀如_レ例、令_二駒御覽_一、

九月 四日、文章生試、九日、節會如_レ例、十

日、入道_{齊世}三親王薨、十三日、奏_二親王薨由_一、今日欲

奉_二伊勢幣_一、而依_二親王薨_一延之由、大祓行_レ之、十

口日、基繼律師辭_二探題_一、改_二文付_一元方朝臣、令_レ返、

十六日、口_口山座主、東宮御修法於_二山_{上カ}口_一始行、

廿日、當代_{時明}八親王薨、廿三日辛未、今日欲_レ奉_二

伊勢幣_一、而依_二薨王事_一延由、大祓行_レ之、廿四日、

昨_丑許兵部卿薨、廿五日癸酉、奏_二兵部卿薨_一、

廿七日乙亥、東宮御讀經始、廿九日、奏_二不堪

田_{解カ}口文_一、

十月 一日、依_二御物忌_一不_レ御_二南殿_一、四日壬午、

東宮平部仁王院令讀經、召山中使、旦□□來有□
定行赤痢事之責、五日、定臨時御讀經僧名、召
齋主、仰令神祇官祈申伊勢御幣來月可奉遣^{赤力}狀、
十二日庚寅、臨時仁王經始、紫宸殿爲攘^{赤力}土北疾
病也、□□日、可有御修善令狀付希世、辨令
奏希世朝臣來云々、□左中辨修理大夫來、^{十六力}□六
日甲午、奉爲東宮付佛神有御祈、^{十九日力}□□丁
酉、極樂寺菊會、內裏東宮御修法始行、^{廿二力}□□日庚
子、十講始、廿九日、春日祭使依內藏寮□□、一
從大藏御倉町出立、

十一月一日、依內裏穢不奉幣、□□有別以
上障、召大祐大中正廉、令折□□□□常來月可奉
之狀、依有今月內裏穢也、□□□申文□□損只
出雲國□□、十五日、除目議始、十六日、除目、
廿一日戊辰、節□□、□□□丙子、大原野祭、
依忌日不奉幣、只能□□□臨時祭、□□□□
官厨燒□、□□□一切經所草、主上庄物一向可須

安能之出□□□□年作□□師以寬靈可請宣
旨仰□□□、□□日、御卜奏付內侍所、依有
穢也、□□□元幹善觸穢、□入遣狀、可令
明法博士勘申之事仰左大辨、□□日、差遣檢
非違使、令勘諸國調物宿量、□□□、^{十五力}□□□行
幸八省、有伊勢幣使事、九月例□□□□引、今日
行、又有三年穀幣^{等力}□□□□西、公□□前二宮御修善
始行、□□□□□廿九日、有奏申文、

(以下內閣本第六冊)
延長九年辛卯 承平元年也

正月一日庚申、拜天地四方、大納言以下來拜、又帥^{從預見參}
親王入坐、停止節會、又無小朝拜、親王公卿陣頭聊
有飲食、非侍從大夫皆預見參、其祿法准十六日、
是嘉祥三年十一月十九日例也、二日辛酉、台山修
善始行、座主覺恰爲阿闍梨、伴僧十四口、七日、
入夜參入、八日丁卯、大內御修法於法性寺行、
仁親義海爲阿闍梨、九日、白雪滿庭、雪見參取女
官、先度只取男官、不取女官故也、十二日、退

出宿家、夜地震、十四日、論義如例、風吹、十

五日、雪、十六日、雪、入夜參入宿侍、十七

日、雪、神室造始、即經日御願也、令^{實カ}神祇、行^{官カ}祓事、

非大祓、廿一日、海賊文付公忠朝臣、右大將來、

有院御消息、純茂等事也、廿二日、夜參上、退

出宿家、實往來、左中辨來申東寺入寺僧事、暮客用

途帳、山崎橋所申雜事等、可參向宇佐狀仰雅

文、廿三日、外記政始、從今夜台山所々令供

灯祈願、爲除事也、廿六日、右大將來、有院御

消息等、女官衣服宣旨國指、又內教坊申、衣服月料

米事、仰高堪朝臣、廿七日、大納言、大藏卿、左

右大辨來、又治部卿、中宮大夫來、皆不相^{ナシイ}朔日雪

見參等事、仰高堪、又進院綿二千屯之事同仰、

廿八日、中宮大夫來仰宣旨、臨時交易絹未進、又

可春米國等勘事、仰左中辨、依病不能行除目

事之狀、令同辨奏院、雷鳴、廿九日、大學事別

當博士紀辨來、有院御消息、又越前生江常陸是房

等勞書事、^{等イ}

二月一日己丑、道行息物、而依不堪申、臨時給

錢十五貫、布五十端、大原野使內侍治子俄申、穢由、

仍令參明子內侍、刑部卿、治部卿、中宮大夫來、

朝賴灌子朝臣等、借物給物宣旨仰清方、又雅文借物事

令常行仰、年初令諸國修善、欺例仰春蔭令勘、

二日、從東三條送笠原牧券文書狀、大納言成相、

仁數師來云、山階寺法師等以僧都請僧正云々、

又去年簡定多入同里僧云、三日、今日祭饗家行、

后宮依御服也、大原野奉幣事、依有所疑令占

不吉也、仍河頭解除、四日、祈年、入夜參宿侍、

基繼僧都卒、六日、台山東西塔令讀仁王經千部、

大炊寮有死兒、腰以上相連者、春御稻事於宮內

省行之、所々饗^{ナシイ}熱食付便宜、諸司令炊進、右金

吾成相、七日、候朱雀院、內暨等文返付、依昨

日死穢令大祓、公忠朝臣大貳奏赴任、內令賜白

大衣一重、今夜退出宿家、十日、近衛勘事御書可

始事、夜漏參入宿侍、十一日、列見、今日參入、左右金吾、大藏卿、左大辨也、刑部卿從東門退出者、式部輔丞皆稱病不參、召代官、而已四點政治、可免近衛官人勘事可始御書、吉日可候瀧口人々事等仰頭、十二日、大内御讀經行三十寺依人夢也、四角祭行之、丹波守忠朝臣卒、十三日、國韓神依有穢疑問定間停止、雷鳴陣起、左右大將依病不參入、仍參上釋陣、脩明門前樹霹靂、十四日、左中辨來、授院申文等之中、加物綿一年料卽給宣旨了、又千人度者符案、寺々師達等申文二卷給同辨、又可臨時交易國々書出可進事仰同辨、又給出羽解文七枚、前司所申也、十五日、伊豫損戶解文付春蔭、大貳來勸酒、被物送馬、十六日、梅壺定季御讀經請僧有官奏、左中辨、十七日、有官奏事、高堪朝臣、左馬寮申諸國御馬芻備前大豆未進等下勘事仰內辨、十八日、大極殿驚怪、七寺誦經爲息災也、十九日、季御

讀經始、十五僧分候御前、雖物忌勘文也、依殿上公卿不參入、祇候御前、廿日、加賀解文四枚給助繩有官奏、心忠朝臣、去年依急用、所仰國々在下絹布宣旨、不待民部勘見物可行狀、公忠朝臣申仰了、廿一日、有官奏、顯忠朝臣、任國之責申文、卽給春蔭令勘、左大辨持來、秘樹朝臣被免遲赴、元日雪見參祿以^{九イ}太宰綿布可行事仰春蔭、廿二日、御讀經了、給度者各一人、廿三日、有官奏高堪朝臣、廿五日、國韓神祭、左大辨來、上達部皆稱障、依此送消息刑部卿令參、廿六日、奉辭攝政表修善始、義海爲阿闍梨、廿七日、左大辨來、令見可春米國々不動穀勘文、即仰可令春二千石米之狀、又左中辨來覽臨時交易絹勘文、廿九日、朝小雪、又聞始地震音、進奥州報書、積薪愁勘前例可進退云々、階事也、可有申文、三月一日、己未、出河原解除、今日不堪無力

服^眼三千物、見東家狐出走、 四日、左大辨來、定春米

穀三千石也、書所申、內匠長上春實任主殿之替

文付高辨、又仰藥院藥師死闕、狛野生^{包坐}任事、

五日、左金吾來、左大辨、左中辨、右中辨等申政大

藏帳、主殿班幕、不可借諸家宣旨、仰左中辨、

十一日、除目議梅壺始行、依予病此儀于今延引、

仍諸卿相定云、待平損事春程難知、不如雖不

出議所、早始行者、招大納言中宮大夫等、簾前

行大祓事、 十二日、有議、內御修法於承香殿

行、 十三日、除目、丑四剋議畢、定受領間、招

左衛門督、其後爲問良氏、行置等能治之由、招左

大辨、 十五日、有官奏、公忠朝臣、又給雜宣旨、

以平源爲興福寺別當、以仁敷爲角寺別當、宣

旨仰高堪朝臣、依院御消息、所任人々書出、付

左中辨、令奏、雷鳴、 十八日、所行雜事、國忌

齋會司、造寺司、僧綱左秘樹事、直物位祿事、怪事

宅直、出羽試申等^{越中}孫可直事、醍醐僧供三年分等事、

十九日、座主來也、所勞不平、無便參入、仍

召在勘文私宅位祿事、左大辨來、 廿日、御修法僧

等廿一人、施度者各一人、仁觀施二人、伊豫守

留京宣旨仰左中辨、以內給所中宮職等錢家米鹽、

賑給京中、餓者惣五十餘名程也、 廿二日、左大辨

來、令見不堪佃使定文、 廿三日、以先日遺物送

西院、崇親院、左右獄、所々悲田等各有差、 廿

四日、曉參入、令延昌施所北山修行者、即注幣

帛使出立、但有別奉神寶之社、左金吾行事、

廿五日、秘樹申文、公方勘文合四枚、令公忠朝臣

出陣定申、左金吾右大辨等定日赦後給裝束、及依

病假百廿日可免遣者、依議免了、有官奏直物

內印等、直物廿四人、 廿六日、秘樹申文奉二月

中云々、其文入左大辨手者、赦後滿百卅日也、

但廿二日左大辨持來、然而依入官所免也、 廿

八日、定二分奏等、又任國忌御齋會司、下京官

復任宣旨、式部大輔奉宣旨、又給二合停任等文、

廿九日、大輔又來奉_二宣旨_一、尾張守秘樹朝臣申_二赴任之由_一、仍被物、兩大納言、民部卿等來、 卅日、大輔來、又奉_二宣旨_一、一分召內暨官人代給、惟扶酒頭預給、明子掌侍神苑_{泉イ}預給、民部卿惟扶朝臣所_レ傳也、即預等宣旨仰_二惟扶朝臣_一、

四月 一日己丑、八條大納言爲_二興福寺院別當_一、仰_二高堪_一、陣頭厨師儲饗、不_レ取_二見參_一、仁和例也、 二日、有_二官奏_一高堪、內印左金、賀茂上禰宜、女藏人親子等叙位、女官二人入內、 三日、有_二官奏_一、公忠朝臣、左大辨來、有_下伊豫調丁事、賀茂社修理等事、

又太宰春米可_レ給_二責符_一事_上、 五日、山階登夜退出_{堂イ}、雜宣旨給_二公忠朝臣_一、勘解由檢校宣旨又以添、右弼等爲_二檢非違使_一、左金吾奉行、 七日、史經行、勘解由主典益國可_レ令_レ直_二式所_一事、仰_二奏成選短冊事_一、行_二久永宿禰_一、院召_二少將_一仰云、信濃諸牧別當郡行任可_レ延_二二年_一者仰_二公忠朝臣_一、但先可_レ勘_二四年爲_レ限官符_一、又可_レ勘_下依_二三合_一官符_一、又可_レ給_二諸司仕丁采

女內教坊等一月料、女官主殿縫殿等半月料以_レ殺可_レ給、仰_二同辨_一、 十日、內藏寮有_二入_レ井死人_一、十一日、出陳有_二直物事_一、又令_下神祇臣陰陽寮占_中申穢氣入_二禁中_一否_上、而無_レ穢之由同占申也、是依_下中明從_二彼寮_一昨朝參入_上、爲_レ有_レ疑所_レ占也、 十二日、先昨日直物今日令_レ給、依_二伊勢正殿不開_一有_二御卜_一、 十三日、有_二官奏_一、內印左金、右中、召_二朝綱朝臣_一、仰_下可_レ作_二改元詔書_一事并年號可_レ定、右大將來云、院仰、右近府生有_レ闕者可_二補給_一、又例度者名符進何承諾、大神使立、 十四日、有_レ奏左中辨、又維時仰_二改元事_一、御書始、仍候_二御前_一、 十五日、位記召給、左金吾爲_二上日_一、又明日宣命草案、賜_二伊勢太宰等官符_一同上奏聞、兩平宰相左大辨來、 十六日、有_二伊勢幣事_一、大納言行事、 十七日、宇佐使立、前例御前行_レ之、而依_二御在所裝束諒闇之儀_一、與_二右大將_一相定、從_二所司_一進發、但宣命祿等召_二使禁中_一、賜_レ之、如_レ例有_二官奏_一、 十九日、雨、警固召_二仰念珠篋_一、可

仰_レ是行、廿日、讀奏依_レ祭間延之、左大辨來令_レ見、依_三三合後閏月在今年、可_レ慎_三官符案、廿一日、今日行列無_三命婦藏人、只有_三騎馬女一人、又典侍事無_三下仕者、不_レ催_三出命婦藏人、是尤違失也、但見_三衆歸_二後、兩女追參云々、廿三日、夜參人、山崎橋材木曳事、仰_三左大辨、依_三高堪朝臣再三申_二也、大納言、右大辨、中宮大夫、丹後守、三河守等申_三赴任之由、召_三前被物、右中辨來有_三院御消息、太宰府春米寬授奉狀等也、廿五日、有_三官奏、右中辨大度止_三殿下藏人所名簿、令_三惟時朝臣等見_三帖字事、廿六日、改元詔書出、有_三內印、今日出_レ陣令_三諸卿定_三年號字、廿七日、郡司讀奏、左金吾行_レ之、詔書覆奏左金、廿八日、有_三官奏、高堪朝臣右中辨、美作解文、度者改名等、五月 一日戊午、有_三官奏、左中辨民部卿來陣、定_三祈雨使、二日、出_レ陳定_三祈雨使、又有_三申文、三日、祈雨幣使立、今日雨降、終夜不_レ休、左金吾

行事、四日、有_三官奏事、五日、右大將入坐有_三飲事、召_三瀧口男等、令_レ射_三進的、聊有_三懸物、不_レ能_三射取、七日、霜臺宮來、宣旨仰_三春史、有_三官奏、左中辨、左大辨來使、仰_レ可_レ給_三責官符於鑄錢司_二事、八日、出_レ陳、定_三大嘗會國郡檢校行事、但_レ郡不_レ卜_三國、是依_三寬平例_二所_レ行也、見_三神祇官文簿、九日、有_三官奏、高堪朝臣、左中辨申、前齋宮去年九月以後、十二月以前料絹布綿米等、依_三前例_二可_レ行_三彼家之狀、可_レ給_三官符、又定_三遍空玄昭之替可_レ入_三延鑒延昌於東寺、但_レ玄昭代可_レ令_三寺家定申、又有_三白少宣旨、十九日、右大臣家有_三殤胎穢、而先入_三內裏、右將軍家鷗鷺入云々、廿日、有_三官奏、公忠朝臣、仰_三木工寮、可_レ令_レ作_三醍醐寺_二事、同辨、但明日可_レ仰_レ令_三戶部定_三賑給使_二兼給米事、民部省奏封宛文、便付_三內侍返給、廿二日己卯、九坎、有_三內印、廿三日、大嘗會行事始、令_三齋王祈_二申止_二霖雨_二可_レ無_三損害之狀、檢_三前例、嘉祥四年、元慶九

年等五月霖雨之間、有奉幣雨師二社祈止雨事、而依宮中穢不能奉幣、廿五日、有官奏、左中辨茂實、申不退寺官符、出雲神社使、諸國佃官符等事仰同辨、香御辛櫃事仰公忠朝臣、廿六日、定千人度者內百人、廿八日、有官奏、右中辨內印、左中辨云、悠主兩所夫切無由、京職有申須借用義倉料、以調錢可返納者、廿九日、着陣、有直物四人、右金吾奉行、悠主兩所請申錢各百貫、米各二百石、正稅稻各一萬束、御齋會造寺所申各百貫、又米并可仰諸國雜物等依請、閏五月五日壬辰、雅文還來、出陣問定受領赴任之後加階之例、又任造東大寺長官主典等、七日、有官奏、公忠朝臣、使作正倉垣破事、依霖雨久降、諸人多愁、令占若有祟歟、占申云、依穢艮坤方神社所致歟者、遣檢非違使令見檢、八日、右大將談說之次、略定昇殿人、九日、造率川社使散位良忠、十日丁酉、令實檢方合諸社、比

叡社近邊有死、十一日、左大辨來、有常平所事昇殿人々頭宣旨等、仰中明、廿日、招左大辨、定諸寺御讀經諸僧並施穀事、又御前僧臨時御讀經僧名等事、廿七日、七大寺東西延曆等寺始、從今日一至晦日、令讀大般若、同寺々又自餘寺合廿七寺令讀仁王經、一箇日爲御息災也、但尼寺任各可讀、臨時御讀經行弘徽殿、大般若廿僧也、法性寺令轉讀金剛經三箇日也、六月四日庚申、京邊七社遣名僧、始自今日三々日讀經奉拜、令祈御息災、虹立承明門下、十二日、幣使立間、雨快下、臨時使立、是爲吉、白虹怪可懷給、又有天文異象祈雨等也、右大將爲上宜陽殿板敷鳴、恠可懷、子午年公卿十七日、鷺居東家、十九日、參入陣、有申文、問外記政有無、左大辨答云、從去八日以來、依上不參入無政者、可捺內印念倉イ事今日請印者、右大將令奏內案、廿三日、虹立長樂門內、

七月 二日、近日法皇重煩給、其御病血痢也、依有_レ所勞不能參候之也、遲達京極、七日、右大將來、有_レ院度若申給事、卅三人也、右大臣陪_レ殿上、元方季方朝臣等、又右近將曹復任事奉行、度者六十人、奉_レ法皇、依_レ御藥重也、月犯_レ心星、九日、內御讀經、十寺行_レ之、依_レ天變也、十五日、牛入_レ外記廳後廂、占_レ子午寅申年人相、煩如_レ人病者、十九日、戌一剋許、法皇崩_レ於仁和寺、此夜奉_レ遷_レ大山直置、廿日、依_レ御物忌不能奏勅符、仍明日可_レ行_レ出陣、仰_レ可_レ警固_レ狀於六衛府、淑光朝臣令_レ中云、有_レ遺詔、可_レ停_レ任御葬司、同料物、國忌、荷前、諸崩後雜事者、固_レ兵庫馬寮三關使發遣、依_レ心神不調令_レ左金吾行_レ之、廿二日、丹後解文給_レ忠範、令_レ付_レ史常行是滋、給_レ符事也、廿三日、近江國固關使復奏、而上不_レ參入、不_レ待_レ奏所、仍明日可_レ參入_レ狀令_レ告_レ彼此、廿四日、今日又上不_レ參入、予因_レ物忌不能_レ出行、仍召_レ彼奏、

令_レ藏人奏、遣_レ參議結政所_レ捺印_レ官符、廿五日、侍從所忌丑未巳亥年人、天皇服_レ錫紵、殿上侍臣不_レ着_レ服、依_レ彼院諸人不_レ着也、廿七日、伊勢美濃國固關使復奏、左金吾令_レ奏_レ陣頭_レ開職、令_レ奏_レ可_レ問_レ前例、廿八日、解關事左衛門督行_レ之可_レ勸_レ事別當例、廿九日、有_レ官奏、高堪朝臣、便仰_レ勸學院公卿、法皇崩後今日始_レ政、但上不_レ參入、八月 三日、右大臣奏_レ伊勢近江解關解兩文木契等、外記公驗申云、近江使晦參看、伊勢使今日到來、昨日以前依_レ御物忌不_レ奏、六日、牛入_レ拾遺館_レ折_レ損松枝、恠占云、恠所_レ中以下丑未卯酉年人有_レ病患、期_レ卅日內及十日節丙丁日也者、七日、仰_レ右丞相、又太嘗會延事定行、八日、有_レ勸奏、公忠朝臣、比江社禰宜祝等罪狀可_レ令_レ勸事、廿三日、上不_レ參入、不_レ取_レ御馬、夜來分_レ左右馬寮_レ令_レ飼、廿四日、中宮大夫來、大納言參入、令_レ取_レ昨日仰事、廿八日、御齋會行事、右近中將少將各稱_レ障不_レ參

入、依此不能取御馬、往古未聞所也、廿九日、昨日御馬今日取、

九月 六日庚寅、始從寅剋法皇火葬、八日、

法皇七日御誦經修東寺、有內裏御誦經、又京極於仁和寺、有造佛寫經法事、九日、馬入外記廳、

惟可忌、十日、郡司勘籍、依年來例可行之狀可

仰式民兩省事、仰久永宿禰、又可告左金吾、

十一日、雷鳴、虹立左近陣並櫻樹下、十二日、

伊勢例幣今日發遣、至于十日、有犬產穢也、又有臨時幣、依物性也、十六日、後太上天皇御

國忌法事、中宮被修天台西塔院、先帝御願一切經、

此次揚其題名、有內裏御誦經、十八日、法皇心

喪事、停國忌荷前事、先帝國忌修寺事、內藏寮御誦

經例事可勘、貞觀、元慶、仁和、寬平、廿三日、定

法皇心喪事、廿五日、鳥喫時板、占御藥并御近

親子午辰戌年人、國忌御齋會修醍醐寺、卅日、尊

號前坊渡人雜色、齋宮齋院納殿預減服御物道供除

目、

十月 一日乙卯、右大臣以下參入於陣、有酒饌、

侍從候拾遺館奏見參、而依御物忌不經奏者、

二日、維摩會料不足米百石、給大和正稅事、以

八條大納言爲勸學院別當、以藤原良高爲宿院

別當、政信子良持弟也、而後父子爲別當、不預官

班皆死者、哀憐所補也、件等宣旨仰高堪朝臣、

八日、久永宿禰云、民部卿云、依病不上滿其限、

宜奉論奏、十二日、左金吾來云、式部丞佐臣申

給、彼省申送云處勘事年也、不可給者、而故千古

依病不上問、二年給、有給例者、不可申返之由

仰了、又放宮中牛馬可令看督、使取送馬寮宣

旨仰同卿了、十六日、雉入中陪、占御傍親、子

午辰戌年人、

十一月 一日甲申、日蝕廢務、法祭延內官延、大嘗

會之由、可祈申事可定其日、二日、外記公鑒

來云、今日可奏御曆、而上卿皆物忌不參入、爲之

如何者、殿上又御物忌也、須候^{項イ}内侍所、明日令奏
 狀仰了、 八日、兩太上皇崩後、御封返納之年、可
 令^レ勘申狀、仰^レ公忠朝臣、 十七日、御禊、大嘗會
 等料可^レ別納事、召^レ左中辨梅壺給^レ宣旨、并仰下^レ
 符諸國、明春可^レ令^レ開田之事、但先案官符可^レ令^レ
 見者、 廿日、召^レ齋主奥座、仰^下可^レ申^下停止大嘗
 會之由、 廿七日、添申被免宿直卿行山陵壇事之
 狀、仰^レ左金吾了、

十二月 二日乙卯、招^レ左大辨、仰^レ淀山崎等五道、
 仰^レ山城守事、又結保^{條イ}道守等事、依^レ群盜橫行也、
 十二日、群盜籠^レ故式部大輔菅根朝臣家、檢非違使
 并諸衛官人舍人等、終夜圍護、比^レ明奉^レ弓矢、請^レ降、
 仍捕縛下^レ獄、召^レ左金吾^ニ於^ニ殿上^ニ令^レ行事、 十三
 日、請^レ右軍告^下昨夜圍^ニ護群盜^ニ諸衛官人舍人等可^レ
 賜^レ祿狀、 十七日、申時除^ニ法皇心喪^ニ、大祓行、
 十九日、御佛名始、公私荷前今日公卿多申^レ障、仍
 橘相公兼^ニ後田村長岡^ニ家宰相兼^ニ後山階^ニ小野、鳥戶、

是無^ニ前兼^ニ也、 廿五日、上初御^ニ南園^ニ、御膳事如
 例、三獻之後還^ニ本殿^ニ、今夜定^ニ齋宮齋院^ニ依^ニ卜食^ニ
 也、

承平二年壬辰

正月 一日癸未、申二刻、主上御^ニ南殿^ニ、三獻之後還^ニ
 御本殿、自餘雜事如^レ例、補^ニ改侍從^ニ、 四日、大饗如
 例、但右丞相依^レ病不來、 六日、叙位議所^レ行、

七日、節會如^レ例、但不^レ卷^ニ御簾^ニ、御弓付^ニ内侍所^ニ

例、公賴伊望朝臣又兼忠加階、今日加入、 九日、申

刺計曆者二人宣旨、仰^ニ左中辨^ニ、 十一日、内宴處定

仰、 十四日、今日御物忌也、然而内論義不^レ停、但

御殿法師等退出之後還^ニ本殿^ニ、 十六日、節會如^レ例、

但上不^レ御、又不^レ卷^ニ御簾^ニ、 十七日、建禮門前有^ニ

内弓事、 十八日、依^ニ弓場殿壁未^レ了、賭弓停止、

十九日、主上在^ニ御簾中^ニ覽^ニ賭弓^ニ、三度射間還^ニ御

本殿、今日候^ニ御前^ニ、不^レ分^ニ公卿座^ニ、右近、 廿一日、

兼明朝臣、俊連、滋典侍等、禁色雜袍宣旨仰下、 廿

二日、弘徽殿有_二內宴_一、其儀如_レ例、講師之後、帥親王聽_二帶劔_一、左衛門督聽_二昇殿_一、親王以下近衛佐以上賜_レ祿有_レ差、依_レ奏_二管絃_一、又內侍采女等預_レ祿、廿五日、除目議始、廿七日、除目、筑後守雅文過_レ期不_レ向_二任國事_一、令_二諸卿定申_一、左右衛門督左大辨等申云、雅文所_レ申雖_レ不_レ體、代々宇佐使有_二遷宮處_一、此度殊免給、宜_レ就_二私事_一、不_レ可_レ准_二申此例_一者免給、

廿九日、雅文免由仰_二春蔭_一、辰剋、鹿入_二中陪_一、而陰陽寮申云、非_レ恠、

二月 二日甲寅、中宮御修法、五人阿闍梨給_二度者各一人_一、十一日、今日上左金吾自不_二參入列見_一、十四日、藤原清平、源興國、島田公豫、多治命各可_レ令_二候藏人所之由_一、付_二中明令奏_一彼勸文、月付_{同イ}是前御時藏人所人々也、源修平、忠孝、藤原爲忠等合七人、是上日千日以上者也、十五日、卿家定一分事、依_二重服參省頗無便也_一、十六日、一分召、十七日、召_二藏人俊連_一、仰_二陪膳闕怠之人可_レ勘之由_一、

廿一日、有_二官奏_一、廿三日、中宮小親王初讀_{成明}御

注孝經、以_二維時朝臣爲博士_一、公卿文人等有_二饗祿_一、

廿四日、召_二行貞仰_一遂_{古イ}占試事、廿五日、季御

讀經始、依_レ病不_二參入_一、廿六日、令_二大納言行直

物事_一、廿七日、左中辨候奏、依_レ病不_レ見、廿九

日、有_二乘_二牛車_一聽_二從_一上東門出入、宣旨奉_レ爲_二大

內令_二諷誦廿一寺_一、依_レ彼此夢想不吉也、

三月 一日癸未、以_二空晴_一爲_二維摩講師_一、宣旨仰_二久

永_一、五日、有_二官奏_一、左中辨、七日、從_二丑時許_一

女四宮燒亡、十三日、有_二內印_一留文三枚、十四

日、雉_{入カ}神鳴_二壺_一、十六日、有_二內印官奏等_一、右中

辨、左大中辨等來定_{便イ}齋院入使處、伊勢宮內、賀茂京

職、廿日、天台山修_二七ヶ度逆修_一、誦經一日、同

時七寺、廿一日、入_レ夜參入、大內宿侍、丑時、中宮

煩給、依_レ有_二先日車宣旨_一、令_二奏慶賀_一、廿二日、

有_二直轄_一又改_二給位記二枚_一、廿三日、有_二官奏內印

等_一、十六日、有_二內印_一、廿七日、中宮極樂寺御

熊、

四月 八日庚申、勘去年所仰止大嘗宣旨、可果
始行事仰左中辨、 九日、奏擬階奏、又定賑給

使奉幣諸社使等、爲病事也、八條大納言定行之、

十一日、有內印、左金吾、有官奏、在衡左大辨來

云、中宮御封奉加官符、可給民部省事、又可勘

前例、 十二日、賑給使廻京中趣、 十三日、奉

幣諸社使立、爲攘病事也、 十四日、月蝕、 十

七日、有內印官奏等、 十九日、右中辨候奏、而

有所煩不見、 廿一日、向河原奉幣如常、還

口參入內裏、召使馬從者御覽、依遲參入不能

次第、 廿六日、有直物定、爲攘疫氣令諸寺讀

經、于來月四日可始十四日、 廿八日、有奏、左

大辨來令見諸寺讀經宣旨、其次仰追捕海賊使可

定行事、

五月 一日壬午、日蝕雨、 二日、有內印、有官

奏、 十三日、有官奏、 十七日、有官奏、 十

八日、定藏人所雜色五人、 十九日、有官奏內印、

廿三日、內御讀經從今日三ケ口、在諸社、有

官奏、

六月 八日己未、公忠朝臣來、令見讀岐介淑茂臨

時交易諸春米違期進納過狀、仰云、仰官與傍國司

過狀取集、可令法家勘中所當罪者、 十日、齋

宮御禊、入宮中、 十一日、公忠朝臣來云、檢前

例、諸神神寶、宇佐神寶同日奏遣者、依例可行、又

初齋院御調度什作物可令作、是先例也者、依請、

十四日、有官奏、 十六日、祈雨幣使立、 廿

日、中宮遷給飛香舍、有御修法、 廿三日、參入

職曹、兩大納言參議等來、略議闕國受領、依可勘

夫功過、今日不行、 廿七日、中宮御膳供進飛香

舍、親王達膳各辨備純物給六陣、宮廳破子給所

所卅荷也、酒在其始、此物不及下女云々、

七月 三日癸未、於職曹司定關受領、但清書左近

陣行之、 八日、有官奏、 十一日、去五月內御

修法之仰、給_二度者_一、由仰遣、 十五日、有_二官奏_一、往_二東家_一見、 十六日、內裏屬星祭、惟香奉任、拜_二第二星間_一、是降來者、 廿二日、有_二官奏_一內印、免_二左中將清鑒朝臣_一、依_レ病不_レ上、 廿三日、祈年穀御幣使立、 廿五日、得業生經臣可_レ令_二試事仰_一大納言、讀_二奏事_一、大納言行_二於職曹司_一見口、即參入、右丞相使右金吾息子等名簿內取、 廿八日、御_二南殿_一、御_二覽相撲召合_一、御出之時午二點也、十四番取間暮、三番不_レ取、但初五番取間、主上還御、予留定_二左右論_一、今日右大將候_二御簾所_一、予候_二簾中_一、以_二左衛門督_一令_レ奏_二左奏_一、此度可_レ有_二音樂_一、而依_二右大臣病重_一、此日令_レ停、 廿九日、後覽如_レ例、還_レ殿後召_二親王公卿_一於殿上_二賜_レ祿_一、

可_レ停、今日事是年記文也、不_レ得_二具記_一、 十日、右大臣薨、大納言來令_レ見_二讀奏勘文_一、便示_二明日可_レ行_一、右大臣贈位事_二狀_一了、 十一日、藏人佐衛來云、觸_二死穢_一入_二交內裏_一、 十三日、右將軍相撲饗、未三刻、虹立_二日華門前官聽_一、 十四日、中宮大夫云、去十一日被_レ差_二故右大臣贈位使_一、仍欲_レ向_二彼墓所_一間、副使國淵朝臣遲來、入_レ夜又云問_二孝子所在脚_一、來_二本家_一、授_二宣命位記等_一、是北邊大臣例也云々、 十八日、季御讀經始、故丞相觸穢人入_二來廐_一、 廿三日、有_二官奏_一、 廿四日、可_レ令_二式部丞在躬問_一秀才經臣、仰_二外記公鑒_一、 廿八日、除目議始、右大將以下着_二議所_一行之、予心神惱苦不_レ出、今夜遷_二飛香舍_一、 廿九日、從_二今日_一桂芳坊議、右大將、大納言、中宮大夫、宰相在_二此_一、自餘納言參議在_二議所_一、 卅日、除目、寅時奏_二清書_一、 九月 一日庚辰、左大辨來賀、令_レ問_二事_一、入_レ夜參內宿、 二日、有_二奏_一、 四日、參_二向職曹司_一、定_二御祿_一

女官數等、七日、北野御馬牽、十日、招左大辨、令諸卿定明日例幣、不擇吉日、穢外日、早奉遣會祭日、與擇吉日、祭後發遣如何者、令定申來廿日、使外記久永宿禰遣之、十一日、延伊勢幣由、行大祓、有內印、十二日、亥一刻勅許、十三日、貞崇於律師辨日、覺恰義海奏舞爲三十禪師、十四日、郡司召、上野御馬牽、十五日、立野來、十七日、於職曹司定奉神寶使、從內賜左右馬、今年駿足各八疋、撰取、仍給穗坂四鹿毛、御使師輔、左右近衛等牽之、院仲宣清景馬寮官人等候御使被物、廿日、伊勢例幣立、貞直親王薨、廿一日、可令勘御禊日時出門并方發鼓聲一時等事、又可勘十一月朔當卯日一年、行新嘗會例、仰永久、廿二日、有大死事、卽位之後、神社神寶今日奉遣、八省出云々、廿三日、五條有產事、秩父御馬來、左金吾候陣、而依不進解文退出、上各申障、不參不能取馬、廿五日、賀茂齋院

御禊、入左近衛府少將曹司井本也、左大將令取秩父馬、廿六日、職御曹司定御禊裝束司等、申剋鳥喫祓時杭、廿七日、右兵衛督進敏通舉狀、廿八日、鳥昨祓時杭、伊勢齋宮御禊、入野宮、廿九日、維時朝臣來、以文夏卿舉秀才、十月二日庚戌、有官奏、四日、有官奏、六日、左中辨略定、依大嘗會事、奉諸神幣帛、可在來月上旬、七日、十二親王令見牧駒、留一疋、式部卿宮給四疋、留二疋、十一日、式部卿宮重給一疋、返奉馬二疋、依其消息丁寧賜留、廿二日、左衛門、右兵衛督等來、仰大臣代事、廿五日、行幸東二條、未河頭御禊、其儀如例、但中宮同興、十一月一日己卯、有內印、依大嘗會事、可奉幣伊勢、并諸神使立、二日、羅城祭可行去月廿三日、而所司稱用途不足不行、仍今日行、去八月除目、停任二合等文、給有聲朝臣、四日、以惟扶

朝臣爲裝束司、以平時常藤原有茂爲藏人所雜色、十日、入夜參入、宿桂芳坊、十一日、招兩大納言議叙位事、自餘上來陪在議所、十三日、戌時幸廻立殿、丑刻幸悠紀殿、寅刻幸主基殿、是行事所緩怠之甚也、同刻幸清暑堂、中宮同興、十四日、口時幸豐樂殿、依主基方公卿饗極緩怠所致也、十五日、依神宴不能精食、未時御殿其儀如昨、但須先奏和舞回舞、後奏兩國風俗、而先奏失也、還御清暑堂後、召親王公卿、公卿聊有管絃興賜祿、十六日、未時幸豐樂殿、其儀如例、但式部叙一人後、主殿寮秉燭、依殿裝束懈怠所致也、寅時還本宮、廿一日、女叙位、廿五日、有官奏、法性寺講始、廿六日、任近江守定、殿上人退出之後、差藏人中明被給位記、仍被物白大褂一重、廿七日、奏慶賀、參陽成院、馬二疋祿等、廿八日、在衛候官奏不見、十二月一日戊申、日暮在衛朝臣將來官奏、仍不

見、二日、桂芳坊有官奏、七日、有官奏、八日、參向後山階山陵、宇治御墓、爲有慶也、十日、有內印、左大辨來、定今日可被行悠記主基國郡司祿事、卽仰、十二日、勘左近舍人等豐樂院濫惡事、賜上卿、十四日、賀茂臨時祭、於弘徽殿使等出立、十六日、有官奏、大嘗會祿綿事、備前申海賊事等、仰左大辨、十七日、有官奏內印、十九日、內御佛名始、減御服物詔書出、廿五日、荷前、山階山陵使右衛門督、稱病粟田口二字蓋誤入乎、歸去資、廿七日、有官奏、廿八日、有內印、曆博士弘範位記改給、今日渡職曹司行此事、

〔以下內閣本第七冊〕

承平八年天慶元年也

正月一日、上御南殿、其儀如例、四日、大饗、五日、右大臣殿大饗、口大臣殿不有此事、六日、於御前議叙位、右大臣執筆、七日、御南

殿、未_レ就_二御帳_一之前、兼忠有相加階、緣_二左右大臣申_一也、兼忠中宮御_口之代、有_二相任國功課_一、十四日、內論義、乘燭之後_口賜_二布施_一、往古未_レ有_二如此_一此緩怠、十六日、御_二南殿_一、不_レ卷_二玉簾_一、十七日、已_レ剋幸_二建禮門_一見_レ射、十八日、賭射如_レ例、廿二日、右近將曹山春樹、候_レ陣欲_二頓滅_一、仍載_二部持去_一、即死者、廿三日、內宴、廿六日_口西、修法始、義海律師伴僧、十四日緣_二有_二物恠_一也、廿八日、外記政始、

二月 十日、官廳有政_口考選目錄、式部省依_レ無承不_レ申、中務兵部省等欲_レ申、而外記追留、中務未_レ知_二其由_一、誰所_レ行者、十五日、右大臣定_二御讀經_一、廿一日、定_二御讀經闕請_一_{使力}_口朝綱朝臣、廿二日己亥、辭_二攝政_一表使_口、有_二季御讀經始_一、廿四日、賜_二勅答_一使師氏、廿五日、平中納言薨、廿六日、故平中納言家借_口二百端、宣旨仰_二清方朝臣_一、存生時申文也、

三月 五日、藏人信明、將_下來左大臣辭_二大臣大將_一表、令_レ勘_二舊例_一可_レ被_レ行也、狀奏也、六日、返_二給左大臣表_一、十日、可_レ勘_二申左右四人_一末_口口口左金吾、十一日戊午_{子力}、內御修法、於_二山上_一令_口緣_二天變_一也、座主爲_二阿闍梨_一、伴僧廿口、熾盛光法也、十二日、_{鵜力}口入_二上御厨子_一、十四日、元方、有聲、在衡、朝綱、在昌、在躬朝臣等來云、年來儒後故人隔年舉、任官命須_二依_レ格舉_一、儒後若有_二無山人_一者、舉_二故人_一、又陣年_口舉事無_二宣旨_一、_口儒定事、答云、先帝御_口口仰何報云、右大臣爲_二藏人頭_一時有_二此仰_一由、彼大臣有_レ被_レ申云、_口博士所_レ申似_二先後不同_一、須又々可_レ定、廿二日、除目議始、宿所定行、廿六日、子朝議了、左大臣奏_二大間_一晝退出、左金吾就_レ官、廿八日、試_二經所勾當律師以下十口_一、申_二度者各一人_一可_レ給事、仰_二左中辨_一、四月 一日、不_レ御_二南殿_一、內侍不_レ候也、十一日、仰_二停_一節由、左大辨來云々、便仰_下可_レ給_二祈年穀_一兼

攘夷官符事、十二日、往後院令競馬、乘口人賜

祿有差、十三日、參入、欲行擬階奏事、而式

部輔不參、皆在如意寺、故平中納言熊口公卿然

退出、十四日、外記公忠申云、大納言令申云、昨

關公事式部省可被勘責之由候氣色者、即仰可

早勘狀、十五日、戊戌地大震、其口有聲振動、

參入大内、十六日、今日震動不休、昨夜內膳司

屋口死者四人、宮口四面垣多臥、京中人宅垣口心頽、

自口口害多數不能具記、十七日、地震不止、建

禮門前有^二大祓事、依^レ停^二賀茂祭^一也、又有^レ地震事、

內膳人死事、十八日、地震不止、大内御誦口廿一

寺爲^二御息災^一也、警固召仰、十九日、地震不止、

廿日、地震不止、內膳炊御口釜破、仍令占申不

吉、令^二神祇少副賴基重祈申^一、廿一日、地震不止、

大納言左大辨口略定御讀經請僧、即參入大内、清

書可^レ奏、廿二日、聊地震、廿三日庚子、聊振、

內御修法於^二台山^一令^レ行、座主爲^二阿闍梨^一、伴僧廿人、

廿三日、振動如^レ昨、廿四日、左右獄所囚口者

卅人、殊可^レ免狀仰^二檢非違使別當^一、緣^二地震^一也、

廿五日、式部省進^二過狀^一、緣^二擬階奏^一同輔口候也、

廿六日癸卯、臨時御讀經始百僧也、爲^レ攘^二地震^一不

祥也、地震、廿八日、有^二震動音^一、廿九日、曉地

震、晝有^二口音^一度々不止、御讀經竟賜^二度口^一、

五月一日、御修法法師等可^レ賜^二度者^一事人和職朝

臣奏、二日、昨夜丑時依^二煩給^一參入大内、宿^二桂

芳坊^一、召^二賀茂上下社禰宜^一、仰可^レ祈申口、依^レ穢不

能^レ奉^二遣使者^一也、三日、定^二殿上人藏人^一、意義海

兩壇行、御修法、常寧殿麗景殿晚頭口、今日右丞相重

煩云々、五日、右大臣薨、^{恒左}六日、大地震、後聊

鳴、口令不止、七日、地震、朝綱維時朝臣等將^二

來年號字詔書草^一、八日、地震、九日、可^レ奏^二故

右大臣薨^一口一行贈位事、而納言以上皆有^二礙障^一不

參、故不能^レ行也、十日、御修法延^二箇同^一、^{日カ}地震、

十一日、左丞相入座有^レ政、定^二詔書等事^一、十二

日、山座主來、示_下御願堂僧供七人料可_レ給_二美濃國_一事、十三日、參_レ職、定_二仁王會請僧_一、十五日、今日欲_レ行_二故右大臣贈位事_一、而依_二公卿皆有_二礙障_一不可_レ早申行_一狀、十六日、左大辨來、口可_レ行_二賑給事_一者、仰_下有_二贈位事_一、使左大辨口也、左衛門督行事、廿一日、大地震、後時々振鳴不休口今、廿二日戊辰、地震、口大臣口口定_二恩赦事_一、即參_二大內_一、奏_二行改元詔書_一、朝綱維時共定_二申天慶_一也、

天慶元年_{改承平八年五月廿二日戊辰爲天慶元年}、

五月 廿三日己巳、地震、左大辨來、令_レ見_二法洞申元_一、即仰_下依_二會赦_一可_レ免事、又武口口橘近安等犯_二過解文_一、即作_下依_二國解_一可_レ追捕_二官符_一、賜_二當國隣國_一事、廿四日、地震、廿五日辛未、仁王會、地震數々、廿六日、夜地震、廿七日、地_大地震、廿八日甲戌、依_二天平例_一可_レ令_二五十八寺延曆寺并有_一供寺々、三ヶ日間轉_二讀_一寂勝王經、爲_レ止_二地震_一也、

又定_二賑給口書覆奏事等_一、左金口、廿九日、地震、六月 二日丁丑、寂勝寺給自_二今日_一始行、三日、地震振、五日、今日奏_二擬階奏_一、十日、地震、十一日、地震、延_二二祭_一由、大祓行_レ之、依_二觸穢_一也、十二日、外記公忠申、神祇_{官脱力}申云、過月次祭從_二十五日_一、御體御卜始行、依_レ請、十三日、呼_二朝綱朝臣_一、令_レ案_二臨時宣命_一、因_レ無_二內記_一也、令_二左金吾定_二諸社幣使_一、同十四日、月次神今食、上御_二中院_一、當代今夜初御、付_二月次祭使_一有_二臨時幣_一、但差_二副王大扶幹_一夫又外官禰宜叙位、十五日、大納言令_レ上_二致仕表_一、十六日、地震以前日々不_レ止、諸社使立、地震事所申也、賀茂上社禰宜在樹叙位勞五年、雖_レ未_レ及_二此社_一、禰宜叙位年限准_二下社_一宜_二或三年或六年叙例殊_一叙也、加之日來天下不_レ靜云々多端、仍詩_二致_一神感_二有_一此事、十九日、風大吹、從_二暮雨快降_一、廿日、鴨河水入_二京中_一多損、入_二屋舍雜物_一、西堀川以西如此、不_レ能_二往還_一、是左右看督使等所_レ申也、廿二

日、五畿七道高名神五十四社可奉各度者一人之狀、真崇律師祈申有告文、廿三日、相撲人可停事、仰左大臣、廿四日、御體御卜奏、御修法事、御殿遷事等、仰相職朝臣、廿五日、左大辨來云、施米事明日可_レ行、而米之不足、彼數且以_レ所在之米、行_レ其遺米可_レ加行者、廿六日、大納言重上致仕表、廿八日癸卯、內御修法始、山座主於山御願堂行、覺慧禁中修十五人、廿九日、昨今小地震、大納言致仕表可_レ被_レ許之狀、令相職朝臣奏、卅日、地震、相職云、昨日使右近少將義方許_レ致仕由、仰大納言、

七月 一日、內御讀經、七箇寺終_{修力}之、又百寺令_レ擊金鼓、緣夢想不告也、三日、夜半地震、地振度、左大辨來云、可_レ令_レ讀仁王會一萬部事也、其次仰_レ申上上文、依_レ故右大臣例可_レ申_レ民部卿事、五日、齋宮司等且任_レ之、頭未補寬平例、後除目任_レ之、依_レ彼跡今日不任、六日、左右檢非違使佐來申云、無_レ別當不行_レ使政之狀、不_レ補_レ別當之間、依_レ例佐以下可_レ行、八日癸丑、十五大寺延曆寺并京邊諸社諸寺、令_レ讀仁王經、爲_レ御息災令_レ口地震也、十日、致仕、大納言薨、十一日、聊地震、又度振、十二日、地震、十三日、地震、內侍所遷_{清力}後涼殿、貴所等同遷、十四日、夜地震、廿一日、戶部來使仰_レ御讀經事可_レ定之狀、但先問料物有無可_レ行者也、廿三日、位記召給、廿四日、式部卿御消息云、來月五日以後可有_レ一分召、大輔口之滿期也云々、八月 二日、左大辨申、給_レ度者十三人、可_レ奏給事報了、六日、亥刻大地震、內釜屋顛倒、七日、鷺集大極殿上、令_レ民部卿定_レ季御讀經請僧、又仰_レ同卿可_レ出_レ齋宮車之狀、八日、故右大臣所得唐物砂金只口無_レ彼家、口申_レ藏人門、仍借_レ行二百兩金、若不_レ早補可_レ仰_レ有_レ相真忠等位祿也、仰_レ相職朝臣、九日、地震數度、御立願事仰_レ座主、五畿七道各造

寫^{觀力}口晉一鉢、大般若一部、是爲三^三界諸天六道衆生

也、依^三此善根、國^口增長寶喜^口願、史定可^三成熟^之

狀、國內神祇同在此中、十一日乙^{酉力}口、季御讀經始、

又遣^{召山}口十三社始^自今日^{七箇日}令^{祈禱}緣^三

頻有^{恠異}也、十三日、辭^{攝政}表使^{師乎上}、

十四日、中使義方朝臣賜^{勅答}、被物如^例、十

六日、地震、吏部王令^{一分}召可^行二十九日^由、而

依^{物忌}不能^下宣旨^{狀答}了、十七日、官考定

今日行^之、十八日、聊地震、十九日、內御修

法、山座主爲^{阿闍梨}、伴僧廿人、廿四日、地震、

鷲集^{豐樂院}、廿五日、宣旨給^{相辨山階十聽衆}

文在此中、廿七日、僧綱召、右大將行^幸、左大辨

爲^{勅使}、^{戌力}時遷^{御綾綺殿}、中宮同御、中納言昇殿、

廿八日、地震、招^{大納言}、仰^以尊意仁敷^可令

行^{法務}事、諸寺別當云々、廿九日、地震、

九月三日、齋宮顯忠^{頭力}幹位記今夜不^賜、五日、

地震、七日、一分宣旨給^{元方朝臣}、八日、一分

召、卿親王申^{病由}不^參省、十日、鷲集^{會昌}

門、十一日、地震、伊勢幣依^{延力}穢^口、十二日、民

部卿來定^{齋宮}口雜事、右大辨來^{三宮城}西面垣可

令^{畿內門々}築^{事云々}、示^{諸卿}可^{定奏}、十四

日、地震、十五日、地震、齋王出^從八省^{之後}微

雨、參^{入省}、出^{無伊勢齋王}、依^{御物忌}皇帝不^幸、

仍以^{黃楊木小櫛}愚加^{齋王額}、是准^{機力}處元慶代九月

例幣、帝王勅詞先大閣仰^{中臣}之例所^{加也}、自餘事

外史記^之、十九日、參^{職見}讀奏、又定^{諸司別}

當等、廿二日、振動數々也、廿四日、振動、御

信法山上行^之、座主爲^{阿闍梨}、^{廿一口力}告僧、廿五日、

右大辨來云、令^{五畿內}近江丹波等國築^{宮城垣}口

大納言等是^{定力}之者、仰^可候^{官符}之事、廿八日、

任^{二郡司事}、右大將爲^上、

十月七日、有^奏不堪^{佃文等}也、右衛門督來、稱^三

五節不^{堪由}不^調、八日、宇佐使好古朝臣來、

給^{白袈一重}、參^{職令}案^{宇佐宣命}、又彼宮大宮司

叙位事令大納言行、九日、五節事申中宮、十

日、五節仰右大將、十三日、摠持院塔破損、實檢

使申事、又入院僧等申解文給史口則、十七日、民

部卿略定坊河使、令見定隨時判官立身口典良邦、

十九日、陰陽寮申、曆博士二人異論事、可依茂經、

本口部卿行之、廿一日甲午、法性寺灌頂、極樂

寺供菊事、口西廊口起、無音樂、廿二日、地振二

度、內御修法山御願堂行之、座主爲閤梨、伴僧十

四口、廿三日、宣旨十一枚給相辨、但神分度者名

簿五十三枚爲一枚、廿四日丁酉、法性寺法花會

始、賀茂御祈神寶依穢延引由、命賴基被申、

廿五日、地震、廿六日、地震、廿八日、地震、

廿九日、地震、

十一月九日丙午、藏人所始讀禮記、博士良廉、中

宮遷御比殿、地震度々、賀茂社有御幣使、公忠朝

臣也、戶部之幣使不受宣命文、參向、仍差小舍人

召返給之、四日、地震、五日、地震、春日平野

祭如四親王薨、六日、地震、九日、在衛朝臣來

云、春日祭、宿院饗此度不儲云々、十一日甲寅、

地震、民部卿來、使仰衆望朝臣進過狀、所當罪

可令勘事、又忠舒過限不向任國會赦不事、

十四日、在如官除目普印、十五日、民部卿持衆

衆口忠舒等事法家勘文、即仰忠舒赴任可許事、衆

望事未決、大納言來入之、見法家勘申伊勢國司罪

狀、便仰可令進四等官署之狀、又退罷下、宜

勤行齋宮雜事々、仰宣衆望朝臣、廿日、尙侍

參北陣外令奏慶、有口使掌侍平子令賜綾細

口御衣一重、納時繪宮有義、又唐綾十疋以羅義、

付五藥二枚、尙侍女裝束一襲送使掌侍、中宮給薰

香調度、不具、廿四日丁卯、此夜參入、候大齋幄、

廿五日戊辰、依御物忌不御南殿、又不奏玉

簾、廿八日、地震、卅日癸酉、從晝微雨、使渡

後快下、依有親王見物、御輿同車出見、入夜也、

後使者發行、未如此之時、是緣滋典侍調舞人

裝束遲奉也、

十二月 一日、口卅五日、今夜宿南廐、爲避忌

也、 二日、有奏、損田文口口、 三日、右中辨申

云、左大臣命云、爲可大饗可請一節祿綿者、

報云、早可有事也、 八日、從陽成院召安能、

仰遣之、忠舒多預院事、而明日可赴任所、殊可

改任他官留也者、其無使之由報答、 十一日、

今日神熊依犬死穢停止、但延日可行、 十三日、

除目議、於桂芳坊始行、 十四日、丑剋議了、

十五日、地震、除目清書、今日辰時奏、參議皆罷出、

右大辨一人書云々、 十六日、月次祭神今食、於神

祇官行之、 十七日、左兵衛督卒、尙侍饗祿、

十八日、中使信明來云、去十日夜殿上侍臣之中、五位

以上一人不候事可勘者、當番無故障不參入、准

扶好古等可勘責之狀奏聞、 廿一日甲午、公家御

修法、相分內裏台山奉仕、座主爲山阿闍梨、明達

爲內阿闍梨、各十五僧、 廿二日、尙侍位記、使師

氏賜之、女裝束一襲、 廿三日、尙侍叙位、慶賀右大

將卒氏大夫等令奏、予有所勞不能參入、 廿四

日丁酉、公禮落口口、不出御、 廿九日、河闍梨口

申文四枚、平想弘蓮滿高口口也、

天慶二年

大饗、不出

七日、節會、射禮射遣、園韓神祭、無上

卿可行事、將門事不錄、賢圓堂會舞童、賀茂祭齋

王依雨不渡河、口羽賊亂、神今食依方忌不幸、

繁時叙位事、祈雨事種可被行於法性寺、口法事御

書始、新嘗祭依納言以上不參、無行辛、臨時祭宣

命、參議奏事、陰陽寮依准三宮進新曆事、從內

給誦經卷數口口口

同二年

口間伊勢使三奉幣諸社、依御齋會間不奉伊勢、

兵部手結、公卿不娶、賭射停止事、奉幣伊勢、參議

爲使、中宮親王元服、天台座主贈位、四月旬依厨家

口饗口侍從所取口口

天慶二年正月 一日、上御_ニ南殿、諸司緩怠、右近口會當包遲開_レ門、陰陽官人遲參、中務輔左口不_レ進、依_ニ如_レ此之事_ニ刀禰遲引、 二日、春日社鳴如_ニ聲鼓_ニ、又有_ニ鳴_ニ聲_ニ、_{儀カ} 四日、家大饗、自_ニ舊年_ニ心神卒適口、簾外錄事召仰事大納言行_レ之、 六日、叙位議、從_ニ桂芳坊_ニ行_レ之、 七日、依_ニ御物忌_ニ不_レ御_ニ南殿_ニ、不_レ卷_ニ口簾_ニ青馬渡_ニ南殿前_ニ之後、口渡_ニ御_ニ前_ニ者_ニ也、而不_レ渡_ニ分配所々々_ニ適_ニ以_ニ所_ニ遣_ニ七疋_ニ隨_ニ仰_ニ則渡_ニ、但左右助不_レ候、依_レ此可_ニ勘責_ニ之由仰_ニ大納言_ニ口有_ニ女叙位_ニ、又男二人_ニ大納言執筆_ニ、 十一日、地震、 十六日、節會如_レ例、但大臣大納言各依_レ病カ痛不參、右大將口內辨事、外辨無_ニ納言_ニ、次侍從口人書口、令_ニ大將奏_ニ之、 十七日、右大將着_ニ大庭幄座_ニ、有_ニ召參入_ニ、承_ニ下不_ニ出御_ニ之仰_ニ者失也、_{畢カ} 十八日、刑部卿不_レ蒙_ニ仰旨_ニ、直到_ニ南庭_ニ令_ニ射遣_ニ辛_ニ、異事也、賭射右近右兵衛口、 廿日、呼_ニ朝忠朝臣_ニ、昨日鷹_ニ二奉_ニ入大内_ニ、賜_ニ錄歸來_ニ、 廿二日甲子、外記政始、有口口

口右中辨、 廿四日丙寅、內御修法、義海律師始行、 廿一人、 廿六日、修理大夫忠文朝臣口來、於_ニ興福寺_ニ爲_ニ予所_ニ修卷數等祈算之意也、 廿八日、除目議始_ニ口芳坊_ニ、_{桂カ} 卅日、口立官正廳口、 二月 一日、除目議、口四刻口御修法僧等賜_ニ度者_ニ、口義海口師申請也、加之今年可_レ口也、_{儀カ} 二日、家法河内口近昌施_ニ度者_ニ一人_ニ也、口面告、 三日、天見_ニ長星_ニ、常住寺別當師口口卷數、口口_ニ大衣_ニ一領_ニ、 四日、仁王會事、來十日可_レ口行幸、可_レ進_ニ諸國米_ニ事_ニ、大納言來口仰、 五日、夜地震二度、五日宣旨給、口辨敏通奏_ニ試事_ニ、左口、 八日、夜度々鳴動、口日、大納言定_ニ仁王會事_ニ、 十二日、大納言來經、不_ニ明日_ニ何_ニ直物_ニ事_ニ、仁王會檢按口文事、可_レ催_ニ宮垣_ニ事_ニ、何_ニ同_ニ召_ニ將門_ニ使事_ニ、_{右カ} 十三日、有_ニ直物事_ニ、又藤原惟修鈺口勤仕、秩文御牧別當之上助國用也、 十五日、高麗牒付_ニ朝綱_ニ、 十七日、口口入_ニ夜外記貝_ニ口口、今日祭參議以上皆悉有_ニ障不參云_ニ、_{眞カ}

云、依_二大原野祭_一、無_二行例_一可_レ行之狀仰了、 十
 八日、外記貞用申出、昨_レ罷治部卿家吉事、同卿參入、
 行_二祭事_一、丑刻畢退出云々、是貞用以意招_二取老公_一
 也、何隨_二仰旨_一乎、已申_二卿有_二不堪之由_一、非有_二
 消息_一、何任_レ意呼_レ乎、 廿一日、民部卿奉_レ仰、欲
 □□□事、而依_二內記等_一不_レ候、□朝綱朝臣明朝可_レ作_二
 進勅書之狀_一云々、 廿一日甲午、臨時仁王會、地震、
 爲_レ攘_二三合實_一也、^{災カ} 廿八日、年官勅書出、
 三月 三日、□從基告言_二貳藏事_一、使左衛門督返賜、
 □被物如_レ例、 四日、令_二齋主_一新_二半坂_一乎_二東兵事_一、神
 社數古祈文□衛府官人舍人等、不_レ□當直_一、他直可_レ
 候之狀令_二右大將仰_一、 六日、有_二震動_一、以_二口日々_一又如_レ
 此、 九日、祈_二禱_一十一日社、又台山二壇法始、座
 主義海上爲_二□□_一、^{圖梨カ}是□基告言也、夜參_二入_二飛香
 舍、尙侍同宿、 十日、尙侍女官饗掌、侍以下藏人以
 上、□飛香自舍在_二縫殿高殿_一、 十一日、地震、 十
 三日、地震、□從_レ內賜_二左大臣_一□二、□表具□返奉、

十五座□御讀經、二分宣旨給_二元方朝臣_一、 十六日、
 一分召、今年無_二卿家內議_一、 十七日、左大辨來、諸
 國□□^{春米カ}春來事云々、召_二濟江_一同_二築垣_一之事、 廿
 日、仁□律師寫經誦經等令_レ修、願文將來、仍勸_レ□、
 施_二□白_一禱一重、 廿二日、召_二惟香_一□兼、同可□□
 可亂事_二貳無_一申_二校_一□□祭□宜者、仰_レ可_レ奉仕_二狀_一了、
 廿七日、仁和寺圓堂會、 廿九日、講_二日本紀_一事、
 雖_二公卿_一不參、令_レ仰_二可_レ□事_一、
 四月 一日、上不_レ御_二南殿_一、 二日、御禊前駐右大
 將、仁和寺圓堂會舞童令_レ儗御覽、式部卿親王依_レ召參
 候、親王公卿□人等賜_レ祿有_レ差、 七日、奏_二成選目
 錄_一大將、 十一日、定_二五月節_一有無事、以_二出羽介保
 利朝臣爲_二城司_一宣旨仰_二相職朝臣_一、 十四日、賀茂
 祭、終日雨下、有_レ日參向、河水之反出、渡人有_レ煩
 云々、□右□□入_レ夜馳來云、齋王並諸司使更不_レ能
 渡_レ江、皆留_レ邊、明朝待_レ得使、使_二將來_一可_レ遂給、
 但諸司使季舟今夜□可_レ參_二□奉幣_一、 十五日、早旦

使_ニ內舍人在_ニ舒奉_ニ同齋王_ニ夜來行事、公忠朝臣傳_ニ仕_{使カ}齋王御報旨、又云、昨夜_口來爲_ニ告_ニ仰旨_ニ令_ニ求_ニ便等_{使カ}、不知_ニ其所仕_{在カ}、今朝各出來參_ニ社頭_了、十六日、一和師將_ニ來祈算卷數_ニ請_口施祿去五六人_{日カ}、番人可_レ勘之事仰_ニ義方庶明敦忠在_ニ衛公忠兼忠等_ニ也、十七日、出羽國馳_レ驛言、_口賊亂連與_ニ秋田城_ニ軍合_口事等、左衛門督入_レ夜參入、被_レ關_口文_{所カ}、令_ニ外記送_ニ家_ニ、十八日、參職令_レ候陣、公卿_口出能文事、廿日、請奏、廿三日甲午、內御修法於_ニ口上座主奉仕_ニ廿一僧、廿五日、貞_口師於_ニ長谷寺_ニ所_レ修卷數將來、依_レ有_ニ祈算_ニ也、_口施祿、廿六日、東大寺別當明_口祈算卷數將來、施祿、_口辭_ニ攝政年官等_ニ也、表_口師氏朝臣奉_レ之、勘事殿上人等令_レ官、出羽城介保利朝臣申云、隨_レ仰可_ニ罷問_者召_レ荷仰_{前カ}可_ニ早_{赴カ}之狀、兼賜_ニ酒祿馬等_ニ、廿八日、中使師氏朝臣來賜_ニ勅書_ニ依_レ例被物、廿九日、令_ニ六衛府左右馬寮等搜_ニ索京中盜_ニ、卅日、夜半地震、

五月 五日、民部卿來便示、下_ニ官府_ニ可_レ責_ニ坂東諸國部內不肅_ニ口手祈_ニ禱諸社_ニ讀_ニ經諸寺等_ニ事_ニ可_レ定行_ニ狀、六日、出羽國馳_レ驛使來、其解文云、賊徒到_ニ來秋田郡官舍_ニ掠_ニ取官稻_ニ燒_ニ亡百姓財物_ニ又率_ニ異類_ニ可_レ來云々、七日、北邊院有_ニ競馬事_ニ、十日、地震、十六日、太一式於_ニ八省院_ニ修_ニ貳兼_ニ十五日、奉幣諸司使立、祈_ニ軍財事_ニ也、參職令_レ任_ニ武藏守等_日、廿日、位記召給、廿三日、定_ニ賑給使_ニ左金、廿七日、早旦地震、夜亦地震、廿八日、當年維摩講師可_レ請_口源_{修カ}事、使_ニ公忠宿禰示_ニ及太閤_ニ六月 一日、諸社諸寺讀經、又法淋寺大元法等始行、五日、官朝廳不着事勘責、朝相兩界辨各申_レ之、候_日荷_{前カ}後日可_レ着_口口定了云々、仰云、行定其日可_レ着乎、猶可_レ念_ニ日々着_ニ但人非_ニ木石_ニ行無_ニ不著之日_ニ、十日、呼_ニ兼忠朝臣_ニ告示、太閤令_日可_レ定_{間密告使}事、_{只カ}可_レ隨_{之カ}例不狀、參_ニ職曹司_ニ令_レ候陣、公卿定_ニ問密告使_ニ晚頭民部卿將_ニ來諸卿略定使等_口各仍令_ニ

卿盡出_ニ內裏、八日、御書竟宴、有_ニ所勞_ニ不參、

九日、大納言來、令_レ見_下可_ニ禁告_一人忠明勘文_上、即示_下

可_レ令_レ禁_ニ經基左衛門府_一事、諸興最茂等可_レ爲_ニ押領

使、但以_ニ五位_一充例可_ニ勘文_一、推問使官符可_レ令_ニ早仰_一

事_上、十一日、付_ニ月次祭使_一有_ニ臨時幣_一王使相加也、

是爲_ニ祈_ニ甘雨_一又申_ニ天變之事等_一也、神今食付_ニ所司_一

令_レ行、緣_下欲_レ幸_ニ中院_一西方塞_上也、十二日壬午、

祈_ニ雨諸社_一使立、宣命辭列有_ニ天變事_一、十三日癸

未、大內御修法、於_レ山御願書始行、座主爲_ニ阿_口口_一、

口僧廿口、又大般若三部、三ケ日間毎日一部、但御

修法七日也、口天變可_レ慎給_一也、近日地震數々、

十五日、未時虹處々立、內膳左衛門障荷作物所云々、

十六日、大助之定_ニ臨時御讀經_一請僧、廿日庚寅、

臨時讀經於_ニ大極口_一修也、爲_ニ祈_ニ日雨_一年穀并天下平

安也、廿三日、曉地震、御讀經、今日公結願、而

依_レ不_レ雨延_ニ二日_一、廿八日、宣旨竹相辨、又下_ニ經

基告_レ狀、外記勘_ニ申祈雨例_一、口付_ニ相辨_一、廿九日、

召_ニ言鑒_一仰_下者內辨吏官朝廳并估政所上日可_ニ注進_一事_上、

七月二日辛丑、爲_ニ祈雨_一令_ニ陰陽寮修_ニ五龍祭_一、又

奉_ニ幣上龍穴_一、又令_ニ讀經_一、未時雷雨、伊勢守繁時、

依_ニ肥後功課_一叙_ニ正五位下_一、去正月可有_レ氏、而依_ニ

一年調廊_一惣返不_レ請不_レ叙、然而准_ニ據前例_一、今日叙

之、又有_ニ愁申_一也、五日、祈雨御讀經始、海御修

法、藏人祭小法間候、此爲_ニ東亂_一也、八日、令_ニ相

職朝臣告_ニ民部卿_一云、祈雨事重定行者、口頭使外記

公忠宿願送_ニ神祇陰陽等占卜文_一云、左右隨_レ命者、報

曰、先度祈不_レ入_ニ諸社_一可_ニ祈申_一、九日、左右獄所

未刻囚人口_レ化者合被_レ僉也、奉_ニ幣諸社_一爲_ニ祈雨_一也、

是依_ニ昨夕報旨_一所_レ行也、十日己酉、十五大寺延

曆寺并諸有供寺々、經_ニ明從日_一轉_ニ讀仁王會_一三ケ日

間可_レ祈_ニ甘雨_一之狀令_レ仰_ニ綱所_一、十二日辛亥、從_ニ

今日三ケ日讀經祈雨、十三日、相職朝臣祈雨事、

又々可_ニ定行_一狀合告_ニ上達部_一、十五日、出明馳驛

戰力

言_二上賊_一行事、季御讀經從_二大極殿_一始行、是爲_二祈雨_一可_レ早修也、令_二山座主_一修_二尊勝法_一、請雨也、廿一僧也、

十六日、丑刻地震、依_レ召大納言等參入、言_レ可_レ給_二出羽報符_一事、雖_レ然不_レ遂_二議定_一、戌刻退出、

十七日、賜_二出羽國符案_一、言_二鑒宿禰將_一來御讀經結願、賜_二座主_一、

廿一日、山座主可_レ行_二御修法_一也、師等施_二度者_一、相撲召合、以_二廿七日_一可_レ有事仰_二所司_一、

廿七日、相撲召合、不_レ奏_二音樂_一、

閏七月 五日、左大臣參入、任_二備前介三河守等_一云云、相職朝臣人々告_二事由_一、

八日、修善畢、_{阿闍梨力}有_二別祿法願_一也、後加持也、_{近力}口_二感涙自降_一、若尊亂向歟、今日小念誦如_レ例、從_二會所_一不_レ能_レ行也、

廿三日、文章生改判今日定行、合三度而不_レ成_二停止_一者、

八月 三日辛丑、內御修法始、青_二延昌爲_一阿闍口、

七日、鳥犀純方帶一腰給_二內記直幹_一同無_レ帶、

八日、辰時鳥昨_二拔時_一、

十日、內論議、不_レ御_二南

殿_一、十一日、尾張守共理被_二口口_一之狀告來、出羽飛驒來、又尾張飛驒入_レ夜來、

十二日、參_二入職曹司_一、口尾張出羽解文、

十三日、賜_二國々_一官符案左大辨將來、頗受取_二口歸者_一、

十四日、十三親王元服、十七日、往_二白江家_一餞_二陸奥守惟央朝臣_一、聊有_二管絃之興_一、又賜_二祿有_一差、

十八日、祈年并出羽兵亂事等、幣帛使從_二入省院_一立、大納言行事、廿日戊午、中宮爲_レ予於_二法性寺_一有_二法事_一、銀佛金_二口經_一七僧法服自餘雜具等如_レ例、又四尺屏風四帖、_{沈力}口_二香折敷_一六敷銀器同瓶子地敷於_二庭等_一被_レ惠、左丞相勸盃_二三四巡_一後將惠、廿四日、曉賜_二口宮御云々_一、主上煩給云々、廿五日、口_二伴僧參入_一、山座主御_二口法始_一、明日後夜時可_レ始_二可_一之狀仰了、而依_二調伏法_一半夜始_二口_一、廿六日、參_二入大內_一、廿七日、參_二入大內_一、於_二御前_一有_二任公卿議_一、只與_二左丞相二人_一候_二議_一、了召_二右大將_一口書、

九月 一日、宜陽殿口產流失之由、左衛門督見_二間陣

官、掃部等不_レ知_二其由_一者、十一日、伊勢例幣言_二奉逗_一、十三日、伊勢例幣、依_レ有_二大死穢_一延_レ之、宮內卿口、十四日、七寺令_二誦經_一、爲息_口也、施物頗增_二例數位_一、午時許如_二熱口煩_一、依_レ左又三寺令_二誦經_一、以_レ水沃_レ首_{廿力}少椽平損、廿六日甲午、令_二眞救祈禱_一、祈口自_二今日_一七ケ日、南海濫行事、廿八日、左中辨將來賜_二五畿七道_一制兵兵官符案、廿九日、八月廿二日令_二公忠宿禰仰_一實和云、惟扶朝臣在_二宇治_一、項向_二彼宅_一受_レ習、庭立奏女奉仕、十月朔日云々、十月一日、左丞相入口、今日事相定、奉_レ付_二出居侍從等_一、略言_二交名_一、又旬儀次出書爲_レ令_二奏_一、_{聞力}上御_二南殿_一、秉燭之後、有_二諸衛_一、少納言家奏_二每事_一、多_二失禮_一云々、二日、可_レ責_二五節儻妓之事_一、仰_二新任宰相四人_一、皆承之狀便朝忠朝臣口被_レ仰之事、三日、左中辨來云、昨日諸卿定口、推問使中發兵事不_レ可_レ然、又加_二主典事止_一、_{前力}荷法家卿任後中人請醫師隨將師事不_レ可_レ給者、令_レ告_二故閑_一、十日、戶部定_二臨時御讀經_一

請僧、今日熱發、口冷水沃_レ頂冊祿、依_二熱猶不_一盡覆_二冷布_一、十二日己酉、極樂寺菊會、有口依_レ病不參、十四日辛亥、臨時御讀經在_二綾綺殿_一、僧數卅口、緣有_二天變_一也、十四日乙口、_{八力}法性寺十講始、廿二日、俊朝臣等來申云、依_レ諸卿定申不發軍士事、甚有_レ恐云々、廿三日、依_二中宮危急煩給_一、忍_二物忌_一馳_二參御內藏寮_一、十寺令_二御讀經_一、又六十人度者爲_二六道_一、可_レ度之事、令_二義海律師祈申_一、卯時退出、廿六日、中宮御修法、日中結願從_二初夜_一、又始行、廿六日癸亥、依_二中宮重煩_一、_{給力}參入宿_二禁中_一、台山口自_二今日_一三ケ日、奉_二爲宮_一、令_レ轉_二讀大般若三部_一、於_二法性寺_一、又有_二御修法_一、廿七日甲子、令_二山座主奉_一口大內修_二息口法_一、即山上行_レ之、_{給力}僧廿一口、廿九日、興福寺申、維摩會不足料、先竹之外卅石、大和國宣旨給_二左中辨_一、卅口參_二入中宮_一、令_二義海律師祈_一申_二六觀音普賢像_一、可_レ修_二法花三_一等事、奉_レ尊菩薩長一時、十一月一日、口淵師將_二來慈覺大監_一、徒所_レ修卷數、

諸前施祿、又有^{寶力}最幢院卷數、於而所施足絹此事甚

多、而先々不^{預力}□、^{奏力}二日奏不堪佃田文、七日、

參大內、奉問中宮御病、其次奏聞式部卿左大臣

輦車□別等事、即仰左衛門督、九日、今日今夜

重煩、十日、□義方朝臣□有恩問、陽成院有御

使、檢非違使申不供材木可沒官事□左衛門督、

但□修理職木工寮可給、十一日、勸學院後別當

不依舉狀補例可勸事、仰左中辨、十二日、宣

旨十一日仰相辨權新使遲發事、尾張不言□□事、

搜勘之由可責事等在此中、十四日辛巳、御出初在

衡□爲博士、□□□□、尙禮^{末力}□記、十五日壬午、公

家所祈申奉爲中宮別當等、差使殿上大夫等二分

奉、十六日、民部卿薨、^{伊望}廿三日、宗丁卒、藏人

信明蒙仰來云、五節妓異常遲參事、又作參入前後令

行例御□何云々、廿四日辛卯、上不御中院、綠

大臣納言等各有障不參候也、只源中納言一人在

小齋、仍付所司、廿五日、節會如例、但不卷

御簾、緣御禮頗不□也、廿七日甲午、大內御讀經、

於台山修之、大般若三部、廿八日、讀卷、^{奏力}

十二月一日丁酉、賀茂臨時祭、依納言以上皆有一

障不參、參議顯忠朝臣奏宣命、今綠有^{寬平力}宣命延喜他

日之例也、二日、依歟可主上慎給、使相辨示

送、可^{寬平力}行神明祈事之狀、於左大臣而禱、心神

惱不逢仍空歸也、人臣之節豈如此歟、四日、俊

朝朝臣來、進可發人兵文、仰付奉行此事也、辨可進

之狀返□、五日辛丑、陰陽助惟香□、^{卒力}□屬□新曆

□□將來云、有可^{卒力}准三宮宣旨、□同其由不體答、

九日、差遣家人於東西京、令見窮困者取有

賑、十一日、付所司令行神今食、左中辨來

云、左丞相今告三伊勢齋王可遙拜之狀、大神宮

有申、是綠損來也者、依先々例可定行狀答

了、十五日、左丞相參入陣外、召齋主賴基、佐

天變可^{寬平力}慎給之狀、令祈乎十二社、綠穢停止奉

幣事也、但明日辰時可祈申、十六日、任郡司、

十七日、伊豫國申、□□乘船欲出海上、被_レ早召上云々、十八日、大内有御修理始事、荷前兩儀行也、皇帝不_レ御、左大臣修也、十九日、推_□

使進_□今月廿八日可_レ發申文宣旨五枚、給_□相辨、又仰、從_□廿五日可_レ令_□有供寺々讀_□仁王經_□祈_□無事云々、今月廿一日御佛名始、相職朝臣將_□來依純友事_□國之官符、給力使仰_□明方彥真安生等可_□早進遣_□事

廿二日、以_□興福寺定峯_□爲_□明年維摩講師_□宣旨_□宿禰、但可_□仰_□明宣旨、廿五日、行力□乙□於_□法性寺_□爲_□我修佛事、造佛寫經、可_レ爲也讀經夜佛名、私記是發問

公家爲_□愚云、寺令_□行_□誦經、興福延曆各五百端、東西_□樂法性寺等各三百端_□門殿上大夫爲_□使者、

廿六日、昨今左閤始_□內儀、爲_□今日稱_□有所勞_□不_□被_□參入_□仍議停_□子高朝臣、從者馳來、子_□於_□攝津國_□爲_□支兵士_□被_□處云々日也、純友力公卿_□所行

之事、廿七日、曉參_□入桂芳坊、有_□除目議、丞相以下依_□例會、信士儀未_□畢、左閤稱_□痛退出、丑刻

儀了、廿八日、中使敦忠朝臣來、賜_□六寺御讀經卷數、國力□□賜_□度者六十人_□仰下、仍被物白褥一重_□裝束一襲、廿九日、依_□信濃飛驒到來、馳來令_□行_□勅符官符等事、大將奉行、丑刻退出、在_□職曹司、卅日、召_□賀茂忠行、仰_□若有_□功先殊可_□賞之事、請_□眞救師長谷御立願事、

同三年

正月 一日、從_□去月廿九日_□在_□職曹司、左_□相入坐、定_□追捕使等、又仰_□雜官符可_□事、今日不_□御_□南殿、不_□奏_□音樂、三日、聊_□除目、海賊時申軍功人等也、七壇修法始_□台山五東寺、愛太子各_□□、又有_□四天王寺合八所_□也、四日、御齋會講經金可_□講書事仰_□相職、六日、祈申京畿七道諸神祭文、召_□齋主賴基_□給_□之、於_□河原_□令_□祈申、始_□自_□伊勢太神宮_□祈申事旨在_□祭文、七日、不_□御_□南殿、無_□音樂、奉_□遣_□使者於伊勢大神宮、令_□祈_□申兵亂事、但無_□御_□緣_□有_□宮中穢_□也、是故實也、內亂所_□仰

告文給^{後力解力}、使令^{遠解力}書寫、爲^{後力解力}避^{遠解力}觸穢^{遠解力}也、九日、後^{後力解力}□

官位良臣廣^{遠解力}□□官、經基叙^{遠解力}從五位下、又於保^{遠解力}□□

叙^{遠解力}外從五位下、十一日、左丞相入坐、定^{遠解力}右金等、

不^{遠解力}遂歸^{遠解力}者、如^{遠解力}此公事似^{遠解力}無^{遠解力}人相定^{遠解力}也、十二日、

駿河國飛^{遠解力}驛到來、官職十四門可^{遠解力}立^{遠解力}兵^{遠解力}□□事、左中

辨可^{遠解力}□之狀仰了、十三日、是秀隨兵百人、押領

使十五人參上狀申、奉^{遠解力}幣諸社^{遠解力}祈^{遠解力}禱兵事、唯依^{遠解力}□□

八省御齋會^{遠解力}不^{遠解力}奉^{遠解力}伊勢、十四日、任^{遠解力}東國掾八人

畢、公雅等也、右衛門佐檢非違使等可^{遠解力}令^{遠解力}左丞定

之狀申^{遠解力}□□內裏、而不承退出人□□、豈如^{遠解力}此□□、

內論儀如^{遠解力}例、十五日、兵部手結、無^{遠解力}納言參議行

事、是無^{遠解力}前例之事也者、而其由彼日不^{遠解力}申、依^{遠解力}御

禮^{遠解力}御卜奉幣、捧^{遠解力}諸神位階、又□申神位記在此件

□事、大將奉行、十六日、好古朝臣辰^{遠解力}發向、節

會如^{遠解力}例、但無^{遠解力}音樂、所々進^{遠解力}兵士^{遠解力}更不^{遠解力}□□、公忠朝

臣爲^{遠解力}令^{遠解力}分^{遠解力}配諸門^{遠解力}也、觸^{遠解力}左金吾每事可^{遠解力}行之狀^{遠解力}

仰了、十七日、公卿着^{遠解力}南^{遠解力}□座^{遠解力}行事、十八日、

遠江飛^{遠解力}驛來、仍參入定^{遠解力}大將軍以下文、□□右衛門督、

賭弓停止、□□□慶之間、有^{遠解力}無^{遠解力}殊事^{遠解力}停止之例、仍

依^{遠解力}彼例^{遠解力}止、十九日、任^{遠解力}遠方成康官、又補^{遠解力}軍監

軍曹司等、廿日、召^{遠解力}新國檢非違使、憲仰^{遠解力}祈願之

事、文元等任官、又補^{遠解力}軍監、早朝左丞相入坐、被

告^{遠解力}西國兵船多來備中軍□散之狀、仍仰^{遠解力}五所修法

事、相辨奉、廿一日、高名十餘社□□十禪師爲^{遠解力}

使頭、名卒十口、僧舍讀^{遠解力}仁王經、□日伊勢幣帛使

立、以^{遠解力}參議保平宿禰^{遠解力}爲^{遠解力}使頭、是寬平例也、廿二

日、□□泰幽大元明達四王、向^{遠解力}美濃^{遠解力}目^{遠解力}六足、天王

寺□玄不動相應寺各二七日、海賊時祈^{遠解力}諸神、位記

可成□□□仰^{遠解力}左丞、廿四日庚寅、內御修法、於

山座主所^{遠解力}始行之十五人、以^{遠解力}明^{遠解力}□補^{遠解力}十禪師、緣

遣^{遠解力}美濃^{遠解力}也、柏原鳥戶山陵依^{遠解力}有^{遠解力}崇由、江中令^{遠解力}巡

檢、有^{遠解力}多武岑後、□始令^{遠解力}申^{遠解力}東西□、廿五日、

有^{遠解力}除目、左大□下會集、逃亡國司之代議定、遠江

國飛驒奏來、賊入^{遠解力}亂駿河國云々者、可^{遠解力}送^{遠解力}援兵、

之狀、仰參河尾張、廿八日、左大臣入坐、定國
國受領、夜闌召名、不給常平倉料、大和近江等穀
可運之事仰右大辨、各三千石也、廿九日、有
除目、卅日、左丞相來議奏、可叙純友五位事、
石清水賀茂住者三社有奉幣祈禱事、

二月 一日、駿河飛驒來、七寺爲頭、諸寺法七番
每番七日爲限、令讀經祈願、從今始行、二日、

昨日勅符今日賜之、三日、明方過來、進伊豫解

文純友等申文、純友位記給、蠅測有相遣之、節刀新

式給、左中辨輔代、申法師法始自今日、令修卅箇

日、四日、左閣入坐、定始古覽可、不向荷之事、

仰左中辨、五日、狐入御在所、左閣入坐、定淡

路事等、又有除目、淡路解又來、賊徒襲來奪取兵

器等、六日、狐入御在所、八日甲辰、征東大將

軍賜節刀進發、可召諸司所々堪兵之人、仰右中

辨、九日、可勘申御下、可送兵士官符、國々並

進來報口條事仰大將、十日丙午、大將着坐、仰

可進兵士之事、國々可勘事重仰左中辨、召相
辨仰、十三日、御誦經十寺可行、又始從十八
日可行御修法事、十三日、從陣頭令定仁王
會請僧權中納言爲上、十四日、所昨定請僧依

不憊、招公卿於曹司改定、令大將奏之、十五

日辛亥、口中宮男親王加冠、即叙三品、予爲列人、

仍扶病參入、三献之後勸盃退出、十六日、去

八日勅計文給相辨、十七日、左中辨國々解文、定承

式口諸卿定申也、十八日甲寅、內御修法、義海

律師始行、伴僧廿人、十九日、左丞相入坐、令右

中辨讀西國人々書、攝津國一口進也、廿二日、東

町邊有失火、成國解又入夜到來云、好古朝臣口文

云、純友乘船浮海漕上云々者、下口庭祈禱諸社問諸

陣官人舍人等候數、東口邊有失火、廿三日、左臣入

坐、定山崎風尻備後小警固使、又可進下阿波讚岐

司之狀仰左中辨、廿四日、山座主遷化、廿五
日辛酉、左大臣入坐、慶幸率兵士向山崎關、臨時

仁王會無南、從信濃國飛驒、言上平將門爲貞盛

秀鄉師被射殺之狀、廿六日、山崎燒已、陸奥飛

驛來、故尊意大僧都贈正僧以少納言泉爲宣命使

信濃勅符賜也、以內堅頭義支任伊勢掾、爲備後

警固使、以橘定平爲軍監、大將軍請申、廿七日、

西町燒已、廿八日、仰外衛非違使等、從今夜令

夜行、又十四門各置兵士二人令守、廿九日、遠

江駿河甲斐等一紙飛驒言上將門死狀、卅日、左

中辨定承國々解文之中、令定公卿之事、四箇口、退

出宿一條、

三月 口日、郁芳門大路南有口事、宅、左中辨來定

承、緣兵雜事、二日、給純友位記使總淵有相

將來申悅狀、又進伊豫解文等、五日、右中辨定

承國々所申緣兵雜事、陸奥飛驒來、常陸下野等任

甲斐解文、信濃解文、悉鄉申文來、將門殺狀右大將

奏聞、口口秀鄉等功可賞事、而未畢大臣退出、

七日、東京三條有失火、甲斐馳驛解文來、將武等類

人殺狀申也、左中辨緣兵事申承、馬寮御門與大宮

西大路間、有失火、九日、叙位秀鄉貞盛、又賜

國々報符、今左大將定御讀經請僧、常住寺僧房燒亡、

十日、地震、十四日、左中辨申年緣兵事、十

五日辛巳、季御讀經始、十六日、地震、十八日、

可賜御讀經僧等口者之狀、令相職朝臣奏聞、左

中辨將來射殺興世之狀解文等、十九日、除目、

於議所始行、左大臣爲上、廿一日、入夜參入、

口桂芳坊、依廢務停止殘事、廿二日、依仰大

臣以下集桂芳坊議除目事、藤原相公執筆、廿三

日、議事如昨、廿四日、議事如昨、廿五日辛

卯、義海律師爲山座主、中宮男親王參向山科山陵、

緣新冠、叙日以終夜有議、今日卯時令右大將奏

大問書、廿六日、內裏中宮御修法僧等賜度者事

仰相辨、智淵給度者、修宮七十天供也、使相職朝

臣以朝綱朝臣可補齋院別當口狀、示送左大臣

殿、丑時外記西廊顛倒、廿八日、去年賜度口之

內十二人、^{納力}口諸神於法性寺、^{沙力}令受御彌戒之中十一

人、近曾家中修法僧員也、一人口堂奉仕沙彌也、又法

性寺法花三昧僧施各一人、小座主來賀、施白大襦二

領、廿九日、左中辨奉、^{緣イ}錄兵雜事、

四月 一日、外記有春來云、左金吾令申云、口召

侍從等、厨家依_レ不_レ儲饗、不_レ知所行者、仰遣外

記、於侍從所_二可_レ令_二取_二見參、今日不_レ御南殿、

二日、藏人眞材^{持力}時武藏國解文、與世士卒討殺事也、

三日、呼_二右中辨、給_二武藏解文、爲_レ令_二給_二報符

也、五日、以_二在衛良佐等、補_二殺倉院別當、左日入

坐、左中辨緣兵事、左大辨來、便祈禱諸社、吉日可

_レ令擇之事、六日、以_二成國、任_二齋院長官、左中辨

承、緣兵雜事、停止碓氷關口埜岐會道使等、以_二村

蔭、改_二定阿波警固使、右大將定_二諸社使、十日乙

巳、臨時幣使發遣諸社、將門事西方事等也、左中辨

將來山陽道中凶賊發起疑解文等、十二日、外記

公忠宿禰來云、常陸飛驒文到來者、即令_レ仰_下可_レ告_二諸

卿之狀、藏人眞材將來飛驒解文、十三日、常陸飛

驒馳驛等奏解、遠江駿河上野等解文給_二左中辨、

十四日、賀茂祭奉幣如_レ例、依_二少將經使、渡_二東家、

簾口中見_レ之、十五日、有_二內印、右大將藏人眞材

將來內案、仰_下三河守任符口印之後、暫可_レ令_二候官

底之口、仰日上、十七日壬午、左衛門督男女於_二

東家、加_二元服、十九日甲寅、左金息女參入、左中辨

來定承東西使由事、廿日、宇治使基樹來中、羽藤

太隱居下狛里事、今日奏_二去年不堪佃田勘文、廿一

日、遣_二檢非違使、令_レ追_二捕口藤太、廿五日、右大辨

來、告_二將門首口來狀、廿六日辛酉、內御修法、義

海律師始行_二禁中、廿七日、位記召御定、今日公卿

參入、而依_二式部丞不_二參入、停止、

五月 六日、昇殿人々宣旨下、八日、左大辨來、可_二

賑口事云、依清左中辨申承、緣兵事、又吏部王消

息云、依_二痛一分事可_二延引、若有_二評者、依_二前例、不_二

參入、省令_レ行者、依_二請、右中辨緣兵事云々、十

日、左中辨相辨等有_二將門首_一□□、市司可_レ懸_二外樹_一之事仰、十一日、位記召、十三日、左中辨申承緣兵事、大將軍宿_二愛宕寺邊_一、十四日、朱雀院別當公忠貫之朝臣等、如_レ舊可_レ補、宜_レ奏之狀仰_二相辨_一、_{月蝕}皆□、十五日庚辰、大將軍進_二節刀_一、十七日、大將軍來良久談說、左中辨緣_二兵雜事_一申承、十九日、一分宣旨令_二左金吾給_二在衛朝臣_一、廿日、一分召、去年所_レ度者且冊七人、右簿付_二相辨_一、分_二配諸寺_一、令_レ轉_二讀仁王經一千部_一、緣_二引食可_レ愼也、以_二□江朝臣_一爲_二厩別當_一、恪勤者也、廿七日、使_下□侍上_中辭_二攝政_一表_上□、廿八日、中使義方朝臣來賜_二勅荅_一、授_レ祿如_レ例、

六月 一日、日蝕陰雨不_レ見、三日、明經博士維興宿禰年八十餘、□□重_病、仍以_二內□所錢十貫_一令_レ給_二彼宅_一、□亥刻內裏御使來云、中宮重煩給、只今可_二參入_一者、乍_レ驚參入、終夜祇候、左大臣同候、五日、宇□□來云、太閤御消息云、諸衛官人舍人等獄門

前立平張會集事、左兵衛府生忠財爲_二看督長_一、被_二陵轢_一事相訪也云々、召籠之間、脫_二冠袍袴久々利_一、令_二敵內□云、件類途中陵轢者、荅云、諸衛官人須_レ進_二愁文_一、_{不見}次□、六日、中宮御修法、於_二左衛門府廳_一行之、爲_下可_レ及_二神能_一、_{熊力}熊力一日不_レ能_二宮中修_一、十日、隨時朝臣申云、別當申、神依仰_二兵衛府生忠則_一可_レ令_レ候_二別所_一間、獄所有_レ穢不_レ能_二召入_一、□□如何者、仰_下可_レ給_二假之狀_一、十二日、左中辨定承、緣_二兵事_一臨時御讀經請僧冊口擇定、令_二相職朝臣奏覽_一、十五日、左中辨來、承_可今公卿令_レ緣_二兵雜事_一、十六日、御□四度到來云、中宮重煩給、可_二早參入_一者、參入終夜候、十七日、中宮御修法、明達□□兩壇修也、但本宮內藏寮相分行也、十八日、左中辨公卿口緣兵事、兵丞相許不等傳告、隨_二其議定_一可_レ給_二官符_一仰了、其一了□山陽道使追_二捕純友暴惡士卒_一事也、自餘在_レ別、十九日、左中辨令_レ見_下可_レ追_二捕純友士卒_一官符案、廿日甲寅、臨時御讀經□壽□僧冊口

也、廿一日、左大辨高麗牒、太宰解文等將來、

廿三日、左中辨來□、昨雨江博士勘文共署可進事

申、廿四日、左中辨來、申承緣兵事、便付朝綱

維時等勘文高麗牒、令戶部問兩儒、廿五日己未、

內御修法、智淵始行、^{十五}依中宮重煩、入夜參入、

丑時退出、^{六カ}廿五日、參入、戌時退出、宮御修法、

覺慧始、二十五人、依御病重、令義海律師□授三

歸十戒、^{畢カ}廿七日、呼相職朝臣於門外、令奏、爲

奉救中宮御病、以御修法加持等、法師童子□預

可令禱平復事、又左右京□西獄所可賑給事、

廿九日、□中宮□□頗有平損之氣、義海律師云、

光昨沙^{彌カ}戒授童子□、之後、有御痛減損氣云々、

无奏、

〔以下內閣本第九册〕

天慶八年 正月 一日、上御南殿、皇太弟參上、宴會如常、

太弟不及祿時退下、二日、二宮饗、四日、□年

□□□宮等封事□之、使中將奏、依去年封事、

被言上、不與狀之後進解由者、先勘雜意多少、叙

位除目之前爲例、可令勘申事宜被仰者、了□

家左大臣□依□無饗事、五日、右大臣饗、六

日、中使□□□書、七日、節會雨議、有叙位、

太弟□□上、今上不賜祿、八日、中使佐忠來賜、

御書、有犬死穢、九日、中使中將又敦敏朝臣等度

來、有女叙位、男爵頗加、深夜中使伊尹來、賜尙侍

正三位位記、而依被忌犬死穢不被物、限一點

□記□、公卿退出、召左衛門督令行大納言女位

記事、皇太□□也、於先例未有事也、然而御心愛

□□叙也、十二日、政所事、可令觸知中將之狀、

□助繩真人、十四日、納言以上皆申障由不參

入、仍有內仰、令召納言等、藤中納言未時參入行

事、秉燭□布施堂、御前參上間□剋也、眞言宗僧綱

□舜依□參入者、以□□法師令灌漑水、近代不聞

事也、十六日、申一剋、□□南殿、式部卿親王雖

參入、依先年宣旨不立列者、以大納言爲貫

首、今日不_レ給_レ祿、 十七日、大納言奉_レ勅、於建

禮_{門カ}□□□諸衛并春宮帶刀舍人等如_レ例、 廿日、中

使□規來、賜_ニ外記勘文、賭弓目無、左右大將□□被

行等例文、 廿一日、中使申陳二度來、今日賭弓停

止之由可_レ□事、 廿二日己未、中務卿宮女房葬送、

其用途物從_ニ家令_レ送、 廿三日、伊勢齋王可_レ令_ニ退

出_ニ事可_レ被_ニ定行_ニ□□□□漏奏、中使好古朝臣來云、

可_レ令_ニ退_ニ出齋宮_ニ事如何可_レ行乎、又彼母事有_ニ其次

被_レ仰也、 廿七日、令_レ□□出伊勢齋王、可_レ造_ニ行

宮_ニ官符賜_ニ路次國々_ニ、此事再三_レ奏所_レ□、藤中納

言奉行、 廿八日、公忠宿禰逢_ニ□□□□□事、賀

茂齋院長官補次侍從例等勘申、依_ニ過失_ニ進_ニ過狀_ニ了

云々、 廿九日丙寅、外記政始、藤中納言爲_ニ□上_ニ、

二月 四日辛未、春日祭使正明朝臣俄觸_ニ穢不_レ能_ニ發

向_ニ者、昨日左兵衛佐有年朝臣被_レ定了、 廿日、□

園韓神祭、上不參、仍准_ニ平野大原野祭例_ニ、以_レ辨

令_レ行、 十一日、列見延、 十二日己卯、大原野祭

延、 十三日、列見、 十九日、去年所_レ進諸太夫封

事諸卿定申、付_ニ中將_ニ返奉、 廿四日辛卯、大原野

祭奉幣如_レ例、但所勞未_レ平、不_レ能_ニ束帶_ニ着_ニ烏帽直

衣_ニ下_ニ居簾中_ニ、敬禮拜了、去年冬祭今日祭五位以上

祿不_レ給、但日上_ニ一人賜_レ之、依終□□畢、法師等尙

在_ニ家中_ニ、 廿七日甲午、今日中宮仰_ニ塔會_ニ一切經等

事、年廿以上堪_ニ法器_ニ者可_レ進之狀、宜_レ被_レ仰_ニ一_ニ白

九日_{門カ}請僧事、申_ニ入中宮_ニ者、公家度者百廿人被_レ進_ニ

中宮、以_ニ其度者_ニ被_レ施_ニ請僧_ニ也、 廿八日、右大□

□季□讀經請僧、令_ニ有_ニ相朝臣_ニ送_レ之、此事起_ニ自_ニ□

意_ニ歟、 廿九日、藏人遠規蒙_ニ仰事_ニ云、朱雀院申□

院朱_ニ以_ニ院返抄_ニ令_レ勘_ニ會抄帳事_ニ、若無_ニ殊妨_ニ下_ニ宣

旨、何者左右可_レ被_ニ定仰_ニ之狀_ニ令_レ奏、

三月 一日、中使敦敏朝臣來云、輪日韓□□諸卿定

申、紀成文伴僧相者令_レ奏云、成文造_ニ道橋_ニ事、頗得_ニ

其譽_ニ、至_ニ□師相_ニ未_レ知_ニ可_レ宜_ニ之由_ニ、 五日辛丑、內

御修法始、以_ニ山座主_ニ爲_ニ阿闍梨_ニ、伴僧□人、中務卿

宮法中修法性寺、因令誦經、又七僧布施口料供養等

送之、十二日、山座主房燒亡、十三日、內有

奏音樂、其裝束用相撲司物、大納言左右衛門督源

宰相候、十五日辛亥、季御讀經始、十六日、在

躬朝臣來云、齋院用度物在庫、在^{無カ}有一物、爲^{無カ}之

如何者、答云、可令奏大內、好古朝臣來云、春宮

入京用^{廿カ}延無一物、爲之如何、可奏事由之狀

仰口、^{廿カ}日、除目議始所、廿一日、依廢務無

議事、廿二日、中使敦敏來云、不肉食、家物忌、

除目議始而固物忌、^{廿カ}仰之何者、令奏云、近日種

種本病重發、^{廿カ}不堪左右口定申、早令參入、公卿

定仰給、甚可能、只今酉剋也、議事在^{廿カ}前、而依煩

右大臣退出、議停、廿三日、從今日重煩、中使

再三來、廿四日、中使^{遠カ}規也、使令奏、召左丞口

口遂除書之狀、^{種々御}夫記、廿六日、從內使口尹口口

口仰爲成除目事、令召左丞、而稱病不參、定受口

口奏云々、然而不堪之狀令奏、但委趣不記、廿

七日、御前口議、從中將敦敏朝臣等、賜公卿定申宗

官受口等文、而依病無奏一言、廿八日、除目、

殿上有^{賜カ}賜弓事、莊靈退出、有^{乘カ}宣旨葉聲事、

四月一日、上欲御南殿、而大臣納言皆稱障不

參、重有^{廿カ}仰口、右大臣口入夜參入、奏見參、

二日、中使左口口不來居、有東宮御口、三日、

昨夜今朝重煩、誦經二ヶ度、合十七寺也、中使來入、

中務卿入坐、四日、有大內東宮御使、七日、

今日公卿二人不參、仍有殿上、仰口右衛門督口無

他卿行例、在口平承平、鎮朝師從口始修法、^{不記}

口口中使仲陳來、有恩問、次傳仰云、從今令祈

年穀何者、奏言甚可口、有^{直カ}宣物事、十三日、從

內賜口、左丞相家僕濫行口也、十四日、召左大

丞家別當藤原遠口下獄者、十五日、中使遠規來

云々、爲法性寺、令造釋尊木像、於廣隆寺所造

二、^{所カ}句率塔婆令立、先日法性寺邊所立三所本合五

百本也、十六日、延喜八年私日記授大納言、爲令

書取一〇〇事、十八日、中使中將來云、藏人殿上等望申之中候可宜乎者、不堪定申、宜被定聖慮之狀令奏、十九日甲申、奉幣平野、上〇祭日依有物〇〇〇否、以後申日奉之吉也者北〇也、廿日乙酉、賀茂祭奉幣如例、但依病不能束帶禮拜、廿四日、明日於天台山東西塔可令讀一千部仁王經之狀、以敦敏朝臣於書馳山座主許、僧供料內給所錢五十貫文也、是大流皇古緣御年合也、廿八日、中使敦敏朝臣來云、召左右馬寮三坊以上又國飼等、欲御覽南殿、裝束前例何云々、又來云、雨不降耕作可有妨、仍欲祈雨師兩社、可有中宮東〇御〇僧等、未參以前行〇事何者、依公卿定申被行宜乎、可奏此旨云々、五月一日、丑時許盜人入來、取銀銚子中將衣等、〇〇壬寅、大内御修法始、阿闍梨鎮朝、伴僧廿人、八日、右衛門督來云、近日無明法官人、不得行或假使政、〇〇依延喜五年例、以他司明法官官人預政

云々、九日甲辰、中宮新寫法花經於承香殿、被轉讀者、十三日、豐樂院北御門從半顛倒、十七日、御修法畢、度者賜法師等事被仰也、式民部卿令承遠規告一分召、依病延引之由、廿二日、以興福寺延珍法師爲當年維摩講師、宣旨下了、此事使公忠宿禰示送左丞相、卅日甲子、酉時許、勸學院椎樹之枝三析落、破損西廊間、半本〇屋二間之狀、〇日高門中、

六月十七日辛巳、祈年穀幣使立、大納言行事、廿一日乙酉、内御修法始、敬一爲阿闍梨、伴僧廿口、賜大内御〇御使遠規、廿四日、中使仲陳參向石清水宮講〇、御願可、在來月九日、廿一日間者、定申九日百部法花經之書寫料物事云々、廿五日、中使師尹朝臣將來一〇〇云、令定申者、廿六日、一分〇於公家議、召源中納言令下、廿七日、中使好古朝臣將來諸卿定申諸神位記、依下祇官國司等奉授位階、被奉位記、但〇〇後

官國如此、不可奉授之狀、宜賜官符者、卅日、中使仲陳將來覆勸、法隆寺修理公堂等、又興福寺與東大寺鬪亂事、興福寺申賜檢非違使事、百部法花經口書事、以後主所申經師五十人、給物淨衣供米以見物、可給主、干切菜料以度者十人、可給者、仍儘可令定申之由令奏、自餘事等又能具記、

七月 一日、令藏人仲陳可被祈雨之狀漏奏、即付延喜年中祈雨外記日記勘文、二日、大納言奉仰、令神祇陰陽官寮卜占不雨日久若有崇獻云云、五日己未、極樂寺蓮花會事、左大承殿行音樂事、自餘事左衛門督行之、依陰陽寮占申、奉賀茂稻荷二社祈雨、大納言行事、六日、中使仲陳來、有石清水宮口役事、可定奏之條、令申云、先遣好古朝臣彼宮、令申每事便宜、又令納言一人行事、又請僧事令義海僧都定申、又百部法花經書寫事云云、十二日、雨降、可口甘雨、十四日、中將

播磨介成國申事、十六日、大納言日候官奏、次仰曰、可任大貳口人、宜定申狀示愚者、十八日、山階寺九品往生圖從善藏許請送、令維持朝臣奏高家使事、御趣云、仰可早罷下之狀了、若未罷者、令指申使者姓名等、若自餘者可召返獻者、而依犬死穢來下云々、是維時所聞也、成國朝臣高家使言上其口高家可取使、廿三日、中使遠規來云、成國所申高家使申、令問誰家使乎、令申云、偏依郡司解所申也、實高家使來者口事、奏之由如例、令問奏云、先令改正申解文、其後可被定行、廿四日、中使遠規來云、服事令仰成國申云、被問次可辨申云々、其所申不儘、爲之如何、口口重被仰事旨、若猶不承者、隨狀可被定行、廿五日、遠規來云、仰事成國申、猶以申文可進之狀、今一度可奏云々、廿七日、召合、左右大將不參、相撲來口、左右衛門督奏、有音樂、廿八日、後覽、廿九日、遠規將來成國後解文、廿九日、中使好古朝臣來

云、延喜十一年制、後唐人來着時、度々符案令見、即令奏云、溫期□早可安置者也、

八月 三日、左右囚人輕犯者可免之狀定申、中使□

□□□云、伊勢使御修善□、孰先可有乎、答云、左

右宜被定□□、遠規將來成國第三度解文、仲文事

注申也、令申云、此度事旨變改申家使申、左右、公

家可被定行云々、 四日丁卯、內御修法、寬宥、

廿一人、 五日、北邊奏調渡書等、給助繩令返

隨時、 七日、遠規云、今日於藏人所□勘問、召

成國、稱服、令煩下痢不參入、 八日辛未、□

口御讀經始、 九日、左大辨來云、十一日可有御

讀經結願而上卿多在假、內官考定無便行之、延

日可行者、 十四日、官定考、中使遠規、今日召

成國於藏人所、令問解文事、所申如先々、更不

承行、爲之如何、又忠房朝臣□何者、 十九日、承

香殿東北庭有花宴事、中使遠規來、日成國不從所

仰、其申旨無道也、爲之如何者、報奏如先、後中

將來曰、忠文朝臣上表行之、何者前例不□、但先年

爲將軍者也云々、又云、成國依故忠房例停昇殿

者、 廿一日、中使中將云、除目事可有何日乎、

廿三日、清仁僧都問山階寺別當事、其次僧都云、

八省如放牧地、御讀經時無僧座事等、 廿四日、

令中將昨僧都所言雜事觸奏、又諸司諸衛官人不上

事等、中使仲陳將來忠文朝臣二度表、

九月 一日、使中將賜忠文朝臣表、被仰可定

申之狀、亥剋許、兼忠朝臣來云、左閤御消息、仁教

僧都問病之次、可出家云々、 二日、中使中將左

丞相病重惱、並可出家事□口食爲之何、禪喜律師

來云、新發御名靜覺也、口將又來云、到左閤定、仰云、

可奏所思之事、又可甲有勸家人、可任官者

報奏、兼忠朝臣可惠給、但女子事令啓中宮家人、

事追可申云々、 五日、中使中將來□、口父六鹿毛

駿仍被物、近衛居飼、祿如例、北殿薨、夜半移極樂

寺、 六日己亥、法性寺五大堂五僧始、從今日至

于晦日、轉讀大般若經、令祈願、七日庚子、前左

仲平

丞相御葬送、在極樂寺東、每事不調、諸人歎息云

云、八日辛丑、家中裁縫成時着服、茂樹擇申、依

物忌也、宿夜夢似甚可慎、仍令誦經台山堂々東

西合六處法性寺等、施物孔方一萬中座三千釋迦二千

余一千也、九日壬寅、中使遠規來、日外記令奏

口薨由、奏否可相^{確力}、例不得檢口者、又十一日

無大將幸八省何、今日信濃駒牽、御南殿、仍御

南殿覽馬、十一日、行幸八省院、發遣例幣、

十二日、夜地震、十四日、夜地震、仁王會讀經始、

請僧十口、近日夢想口口慎、仍所修也、^{殿御修善不記、}

^{有用意}所記也、十六日、中使中陳云、故左大臣申、加舉口

極樂寺无動寺觀音堂燈分料文、又宇治保側代另玄理

云々、朱雀院御處分人口中務卿行事等、各有報奏、

不能具記、廿二日、西方淨土圖始、佛師定豐、

十月一日、口御南殿、有官奏庭口番奏等、無

^{立力}

音樂、不知其所以、今日大納言以下參入、親王大臣

不參、二日、內裏東宮口貢鷹二聯、以中將宮口

爲使、十三日、除目議始、十四日、除目、與福

寺臨時試經事、令別當平源僧都又仁敦僧都、行幸辨

有相朝臣等相定、進學生名以博、^{澤力}便試定口、十八

日、菊會、無樂、有相朝臣來云、維摩會布施堂依不

來、相師達歸房之後、送布施、是無例事也云々、

廿二日乙酉、故丞相四十九日法事修極樂寺、仍令

誦經、廿三日丙戌、^{甘露}法性寺十講始、卅日、入

夜藏人口輔將來僧綱召略定文、而今夜不召、

十一月四日丁酉、內御修法、於台山修之、座主

爲阿闍梨、伴僧廿人、熾盛光法也、依天變物恠所

行也、十六日、令遠規賜省成判文、十九日、

大原野祭、依服不奉幣、家出口印口參入、他家不

令參入、廿日、園韓神祭、依有宮內省死穢停

止、今日祭、廿三日丙辰、節會如例、廿五日、任

左右大將、又有他除目、廿六日、以予可爲三戶

生事仰在別、忠仁公之例也、

十二月一日、晚頭敦敏來云、昨蒙仰云、以右大臣可爲藏人所別當云々、又造山崎橋使事、使敦敏被仰、今年外記政有無日々可注進之事仰二千柱、五日、中使敦敏朝臣云、省試判有三人愁、可定行郡司讀奏、大納言定奏、六日、左右獄所輕犯人及東大寺三綱等被免、中宮煩給、依天變頻示、出教書、徒罪以下也、中使敦敏將來式部卿辭職表、仰云、師尹朝臣可聽昇殿、朝賴望昇殿、十日、中使佐忠來云、依豐受宮宮遷事、辨大夫可參向、而各有障不可參、仍令勸前例、無取代官之例、上無辨不參跡爲之如何者、令奏准諸祭例、用代官有何妨乎、又云、彼神宮未言上造了之狀、但神殿等作了云々、今年滿廿年、神祇官申云、且有奉遷之例者、可爲如例乎者、申云、儘可被問其例、十三日、伊勢豐受宮遷宮使辨代神祇伯忠望王、令持寶等參向、仍廢務、十四日、元日荷前等事、今日定奏、召諸儒於左使頭伏カ令定申、省試判事

及題者十一人、先日及題四人、今日七人也、但朝綱朝臣可進過狀之狀被仰矣、豫カ判文書口題同之落題有所執也、十九日、任郡司、大納言爲上、

廿日壬午、內御修法始、以明達爲阿闍梨、王女口卒、荷前雨儀、御佛名始、廿三日己酉、內口、天供於台山修之、座主行者、廿五日、文章博士等來云、今日可定補擬文章口、廿六日、中使遠規來云、可給王女御宅物員可定申、東大寺別當寬救、山階別當空晴律師可任事、令右大臣奏、依有可定申之仰也、大臣來云、依請者、卅日、任僧綱事、左大臣來云、昨夜蒙仰云、即位之後十六口也、寬平九年太上皇皇太后共出云々、
(以下內閣本第十册)
天慶九年

正月一日、御南殿、節會如例、皇太弟口、口口之後退出、二日、流星渡天、曉小地震、五日、右大臣大饗、入夜予有煩事、六日、叙位議遲始、七日捺印、其後又捺印二度、口召所未聞事也、

七日、節會叙位、太弟參上、 八日、行幸八省、
 十日壬寅、有御修善事、而依別記不記、後々
 不可記、正脱力源大僧來、請荷施白褂一重、明達律
 師來、施口口頃後々必不可記、只依有施物別所
 記也、 十一日癸卯、上御南殿、東宮獻卯杖之
 後、諸司獻之如例、 十六日、有節會、藤中納言
 行內辨事、自餘大臣納言皆稱障不參、源中納言依召
 參入云、年來遲出御口所怠也、誰可行內辨事者、
 外記口口如元、藤中納言可行者、口外記口乍口
 口蒲執行、今日口東宮御座依掃部寮申不立也云
 云、 十七日、上御建禮門見射禮、外列之後、貴
 首親王參上、道經左近陣南、不口善口口、參議以上
 經口陣西參上、口奇異事也、 十八日、賭弓口例、
 右近勝衛力口召左右近三以上、春宮帶口等令射禮、有
 懸物、近衛絹四疋、帶刀女裝口襲、殿上參議以上口
 口口、外記政始、中使敦敏來、口今明之間可始除
 目議、而廿六七日口口物忌也者、口之如何、 廿六

日、中使敦敏朝臣、口除目議始日、口右大臣令申
 左右隨仰者云々、仍令奏、從朔三日被始行口、
 二月 一日壬戌、日蝕、 三日、除目議始、
 從內賜御書并受領功課勘文、口口定申外記史式部
 民部兵部承等、又公卿子孫官申文等、御使敦敏、
 口日、中使敦敏來、賜御口、從昨日終夜有議事、
 今口除目、 十四日、有直物、 廿三日、唐物少許
 口留、口餘返奉、
 三月 一日、供燈如例、但依物忌不出河原家、
 內解除差使令奉、 六日、中使敦敏來云、朱雀院
 御處分事、中務卿稱口、親王定行之例不奉稱口、誰
 人令行者、見前例、院別當并御後源氏中宮大夫等定
 行也、彼詔所令奉、 十六日丙午、內裏御修法始、
 以延昌律師為阿闍梨、口口來、季御讀經始、 廿
 三日口口、此度御讀經布施、只有絹無口有、又第
 二日廿餘僧供養不得者、是往古不同之事也、 廿九
 日、中使仲陳、東宮御使師尚等馳來云、中宮只今不

知_二東西恒_一給_上者、奉入_二口行師_一、

四月 十一日、中使爲輔來云、賀茂遣日不_レ幾、而齋

院內送不_二三多數云々、近日有_二望馬_一屬之者、其打四百

貫也、承_二可_レ被_レ任之仰、且召_二用齋院_一事者、是行事

中納言_二口令_二奏事_一、_{也カ}云々、 十四日、入_レ夜氣上重

煩、口馬四足奉_二內裏_一、 十六日、中使度々來、 十

九日、中使敦敏來云、又有_二灌子_一禁色、中進固關使口

警_二固諸陣_一、兵庫馬寮始例、 _{廿カ}口日庚辰、有_二讓位宣

命_一、事了今上降_レ殿拜、口口口辭讓表奉_二於天皇_一、令

不_レ許、今日雨儀也、今上使隨時有_二殿上人事_一、 廿

一日、今上御云、有賜其旨_{固カ}同開口、詔_二中使爲善朝

口口、 廿二日壬午、今上 御_二綾綺殿_一、幸_二建禮門

南_一、奉_レ遣_二帛幣於伊勢大神宮_一、口可_二即位_一之狀、還

宮之後、不_レ替_二齋院_一、今旨告_二賀茂社_一、口帝御使馳來、

有_二中宮重煩給告_一、依_二危急_一、加持、 廿三日、中使隨

時朝臣云、殿上人可_二定申_一者令_二奏日_一、先可_レ被_レ奏_二

上皇、上皇令_二師尹朝臣_一仰曰、中宮今日御病猶重、

願_レ出_二禁中_一云々、 廿四日、返_二却隨身近衛等_一、但

口內舍人各任官之後、未_レ口_二其替_一、 廿六日丙戌、

可_二即位_一之狀、告者後宣_{旨カ}口云了、又尊號上_二太上皇_一、

又皇太后口太皇太后口內賜御出、入_レ夜賜_二詔書草_一、即

下_二中務_一、 廿七日、御使仲陳來云、昨有_上尊號_一

詔書、辭號御書程仰云了、御前有_二叙位議_一、晚頭隨時

朝臣蒙_レ仰來云、有濟和氣氏爵事云了、 廿八日戊

子、幸_二八省院_一即位、右四位侍從寬信不參、仍闕、

又五位兼材申_レ障、以_二村蔭_一爲_レ代、取_二左大辨禮服_一

令_レ着、今日違例事甚多者、不_レ能_二具記_一、大親王不_二

口劔云、

五月 一日、遣_二開關使_一尊號詔書以復奏、上皇御書

上_二今上_一、使大納言、今上御書不_レ聽、中使隨時朝臣

來云、院御給事、女叙位事、先女御藤壺和氣百濟等

事、其次令_レ漏_二儀子公主例_一、 三日、右大將於_二御

前_略定諸司所々別當、書依_レ仰將來住_マ內賜_二御書_一、

中使扶_{勝カ}口、太上皇辭_二尊號_一御書重上_二今上_一、 口日今

上御書又上_二太上皇、上皇諾、善藏師來云、昨日山階寺_一綱威從并五師智德法師等卅餘人參上、令奏慶賀、而稱無例不奏、仍空歸、但_レ乞僧、不知_二是_一口_一、綱威從不預給錄之列何云々、五日、中

使隨時朝臣來云、

爲_レ行_二女叙位、召_二右大臣、稱_レ病

不參、又瀧口武者_一口_一令_レ申_二上皇、御報_一口_一、可_レ依_二先帝

數カ

云カ

御時程者、

六日、有_二女叙位、大納言_一口深夜賜_二御書下名等、

十三日、右大臣依_レ召參入、定_二行大嘗會國行事公卿等、

口_一可_レ依_二關口詔書之狀、仰_二口記直幹朝臣者、

十五日甲辰、卯時野鹿入_レ從_二春華門、出_レ自_二宜秋門、

又巳時嶋鷄集_二梨壺西垣、上幸_二八省院、奉_二幣伊勢并諸社祈雨、

又京畿七道明神依_二前例告_二即位之由、

十八日丁亥、中使公輔將_二來口吹料御劔諸御古文、

又御修法行五_レ日吉也者、

十九日、上皇令_二保世仰遣、日中_一口_一從_二午時有_二重煩給、爲_レ之如何云々、

度者六十人、被_レ奉_二中宮、廿日、關口詔云、

口中使敦敏來云、今日可_レト_二定齋宮、

而口中_二中宮御修法事云々、若可_レ行者、可_レ令_二內親王等名書、云可_レ奉入、

又即位日擬_二侍從闕人々過狀、左衛門府遲聞門過狀進_レ之如何可_レ行乎、

又御_レ南、不_レ日何各有_二答奏、不能_二具記、敦敏朝臣又來云、

可_レ行_二廿七日狀仰了、但臨時御讀經御

修法等、於_二他所可_レ行、與通神事行、其間可_レ定申、

廿三日、隨時朝臣將來云、又藏人所人口_一定_二五十人、

上皇遷宮時可_レ有事等可_レ定申者、廿四日、中使

頭朝臣來云、御即位日擬_二侍從闕意人人罪事、問_二諸卿申云、

令_二法家勘申者、廿五日、賑給如_レ例、

中使云、口_一來云、定_二齋口_一由、申_二伊勢宣命、令_レ載_二可兵事御上旨何云々、

廿七日、中使頭朝臣曰、以_二右大將女可_レ定_二女御者、

外記千桂公今日令_レト_二齋宮英子內親王合_レ也、

以_二少將爲善朝臣令_レ告_二彼家、又有_二女御宣旨關白覆奏、

廿八日丁巳、內御讀經、於_二延曆寺東西塔口_一之、

大般若三部、東_二西_一、中使頭云、以_二英子公主定_二齋宮、

來二日諸社使可_レ立、

神今食當御物忌^レ出不河、除目事、先任^ニ坊官、而^ニ有^ニ京官召^ニ何、

六月 二日、定^ニ齋王^ニ之狀^ニ、依^ニ宮中物恠^ニ奉^レ遣^ニ御幣使伊勢并諸社、五日、大將女御產、男成時、中使公輔將來云、去四月所々上日、又可^レ制^ニ紅染深黑事、前御匣殿若有^ニ舊樣^ニ乎、詔出之後何^ニ緩怠、六日、左右兵衛隨身夾名將來、七日、今日可^レ始^ニ除目議^ニ狀仰^ニ所司、先^ニ西依^ニ皇子事^ニ停止、昨^ニ御衰日不^レ奏、令^ニ朝奏^ニ者、十一日、神今食付^ニ所司^ニ令^レ行、十二日、中使頭來云、御讀經事依^ニ延長七年僧綱等定申例、不^ニ忌稱^ニ、仍御躰御卜七月上旬可^レ口者、寬住兼材過狀理不理由法家勘申、十三日、廿七口可^レ御^ニ南殿^ニ紅染樣可^レ進者、十四日癸酉、大內御修法、延昌律師奉^レ修、伴僧廿日、又有^ニ御讀經事、冊僧、中使公輔云々、霖雨御占文等乾^ニ口方神崇者、十六日、令^ニ神祇祐大中臣賴行祈^ニ申伊勢石清水貴布禰社^ニ、辭^ニ關白^ニ表上^ニ中務有^ニ、中使隨時朝臣

將^ニ來弘徽殿祿法文、又霖雨^ニ口文等、又神祇官卜、有^ニ伊勢太神宮等崇事、除目事十九日何云々、十七日、深夜勅文、敦敏朝臣來賜^ニ勅書^ニ、不^レ許^ニ所請^ニ、依^レ例被物、十八日、中使^ニ時朝臣來云、伊勢太神宮豐受宮等事云、令^レ奏云、祭主賴基^ニ双月次祭參向、依^ニ前例^ニ令^ニ賴基大神宮正殿不^レ開、又外宮不^レ開、又外宮污穢物實檢、隨^ニ賴基勘申^ニ被^ニ定行^ニ何、廿日、使備前守、重上^ニ辭^ニ關白^ニ表、義方朝臣來賜^ニ勅答^ニ、其祿如何、廿一日庚辰、上始御^ニ南殿^ニ有^ニ官奏^ニ、少納言監物等奏、供膳了出居、朝成朝臣召^ニ內堅^ニ二聲、內堅稱唯、少將宣旨、內堅持^ニ盤參上^ニ、一々撤^ニ臣下膳^ニ云々、是甚違例事也、召^ニ大盤^ニ撤是舊例也、廿三日壬午、紅染樣付^ニ頭奉入、右大臣着座後、始着^ニ外記侍從所^ニ、史申文儀令^レ申^ニ納言^ニ、但大臣身文了卷結、皆給^ニ史、史一々讀申如^レ例、左中辨云、今日史業恒走出申云、奏有^ニ實者未^レ定^ニ奏文^ニ、是本與所傳故實也者云々、備前相公日奏候不^レ稱者、廿四日、中使頭

朝臣云、除目議何日可_レ始乎云々、其次日昨仰日今日官奏可_レ候申、大丞相見歟云々給、廿九日、頭云、懷素任幹眞蹟候_レ内、故權中納言後家貢也、

七月 四日、人々眞蹟四卷付_レ頭奉入、九日、三

赤毛^{秩父鶴力}快文^{鶴力}錫差^力助繩^力貢^力進内裏、夜御衣一重賜_レ助繩、

依_レ院召_レ奉_レ入大令_二脚_一、今上謁_二太上皇_一、臣弘徽殿

談之後、供_二御希酒_一二三巡後、今上捧_二玉盃_一勸_二上皇_一、

上皇示_下今上可_二先飲_一之狀_上數度、遂上皇受飲、其後

上皇執_レ盃勸_二今上_一、今上恭揖、上皇先飲授_二今上_一、今

上飲後拜_二上皇_一、避_レ座受禮、次大内獻_二入本_一琴箏和

琴御馬四疋、賜_二祿臣下_一、又院同賜、臨過御時御劔玉

帶獻_二今上_一、十一日、中使守正來云、明日爲_レ奉_二止

雨報幣、欲_レ御_二八省_一、女藏人少數幸否、十日戊戌、

太上皇太后遷_二御朱雀院_一、各用_二御車_一、但后車供奉諸

陣諸司、親王公卿等、^{今夜_二勅計_一}十二日庚子、於_二八省_一

發_二遣諸社使_一、大納言行事、十四日、中使敦敏來云、

中宮被_レ仰_二内親王_一、付_二可_レ給近江國五十戶_一之狀、又

宇佐使可_レ立之日、今月廿九日、内侍不_レ候、十二日、欲_レ幸_二八省_一、其事停止勘_レ之何云々、十五日、中使

守正來有_レ賜_二御_一、十六日、^{戒力}左中辨持_下來山申以_二

明達律師_一可_レ爲_二授戒和上_一、又_二狀等_一、中使隨時朝臣

有_二御書_一、又口宣、十七日、中使再來、皆有_二御

書_一、輔守正也、除目議終夜不_レ畢、明日卯時奏_二請書_一、

廿日、右大將來_二門外_一、依_二輕忌_一呼入談流、其次云、

相撲召合令_下可_レ在_二口_一九日_一宣旨仰_中諸司_上了可_レ聞_二食

音樂_一云々、先日宇佐使可_レ發_二遣廿九日_一之狀被_レ仰、

便_二口而有_一他事何、廿四日、中使備前守、召_二上人

自餘事等_一、廿八日、上御_二南殿_一、有_二相_一口_二左_一、右

大臣候_二御前_一、一番右勝、而有_二天判_一爲_二左勝_一、所謂左

論歟、最左勝左_二僂_一、右一僂秉燭了、廿九日、御覽

如_レ例、八月 三日、大將定_二季御讀經_一口僧_二送_一之、可_レ始_二九

日_一、中使隨時朝臣來云、興福寺御祈願僧供奉衣服等

可_レ給宣旨誰可_レ仰乎、又御燈數幾可_レ供、云了其次令

奏國用支度、令進可御覽事、上 四日、初齋院申授書頭事、

七日、民部省勘申、勅申取口口例事、

九日丁卯、季御讀經於大極殿行、十日戊辰、

御南殿、聞食釋奠內論義、十一日、依納言以物忌障等停止、今日定考、

十二日、御讀經僧等、各賜度者、十五日、定考、

十七日、行幸朱雀院、觀太上皇太后本院、親王以下次侍從等賜祿、有音樂、臨還御被獻鷹馬犬等、馬四疋、鷹聯、犬二口、

廿七日、右大臣參入朱雀院、上皇御池舟有管絃興、祿侍臣云々、

廿九日、大納言堤雨小兒參入朱雀院、饗男女房并后宮女房等、又有獻物卅捧純物十六具者、

九月一日、召兩宰相、仰造可宿衛禁中之狀、遮力

是依中宮御消息也、

四日、辭關白表使備前守上三大內、

五日、賜勅答、使爲善朝臣來被免關白事、

六日、中使俊朝臣諸司見不供勘文、口爲之如何者、

九日、中使公輔來云、伊勢例幣依

上御皆穢不可爲之如何者、令奏依前例延口可奉遣之狀又日大嘗會御禊等大事也、而無執行令了、諸司官人不上須先觸事由令勘也、而不然者口也云々、

十日、信濃御馬來、上御南殿、其儀如例、十一日、伊勢例幣依穢延、奏不堪伺文、中使公輔來云々、吏部王令奏一分召、依病家中行之云々、

十二日、右大臣云、昨停見官奏宣旨、下官乘牛車出入宮中宣旨下、又大納言可候官奏宣旨下者、十五日、賜御書、中使俊朝臣、十六日、賜御書、中使藏人守正有除目事、十七日、太上皇太后共御柏殿有遊覽之興、然間除書出來覽之、急々還御本殿、被問御門云々、

十九日、一分召宣旨大納言下、朱雀院御使仲陳朝臣來云、伊勢齋宮薨、其御服如何、可着給下簾程等何、只今位之間、御願甚多如何、可果行乎、兵亂時等甚多云、

廿一日、中使公輔來云、就彼此事、只有可憚之告、令修法、仍又以惟可爲

阿闍梨、廿二日、讀奏事右大臣行之、廿三日、

中使公輔來云、有種種々仰、廿四日、中使俊朝臣

將來御禊日勘申文、來內廿三日廿八日、又不_レ上_レ官人、不_レ申_レ人罪勘申文、

廿五日壬子、伊勢齋王薨由奏、昨夜近保從_二陽明門_一入_二宮中_一、其隨身者持_二戈

弓箭等_二云々_一、中使公輔來云、宇佐使延引事數々可_レ立事云々、

廿九日、院御使陳朝臣來、令_レ見_二良佐宿禰_一、公方朝臣等勘申御服事、良佐勘申云、上皇御服

與_二凡人_一可_レ同、公方申云、與_二正帝_一可_レ同、是說者

所_レ云也者、廿日、仲陳來問_二昨報旨_一、令_レ奏_二申先

日所_レ進三代實錄所_レ載貞觀十九年明經博士等勘申

旨、與_二公方_一勘申一同也、良佐所_レ申未_レ詳_二其旨_一、

十月 一日、上御_二南殿_一、無_二諸司奏_一、唯有_二口奏_一又奏

樂如_レ例、今日申時御出、乘燭之後番奏、三日、義方

朝臣來申云、朔日御服^{急イ}忿奉由、招_二簾前_一相、又曰、

家物忌日遣_二勅使_一時、非_二疎忽事_一、不_レ可_レ招入_二事_一、中使公輔來云々、伊勢太神使可_レ立事、齋王薨由可_レ申

事、口送_二神寶_一、寬平例在_二明年_一、

四日、右中辨來

云、欲_レ參_二維摩會_一、行_二主基事_一、此事何、中使公輔

來云、齋王薨由、可_レ申_二伊勢_一事、諸卿定申、先有_二

此事使_一、而後可_レ有_二例幣等使_一、

七日、昨夜中使公輔來云、伊勢使可_レ先、齋王薨事之狀諸卿定申、

九日、右中辨來申云、日維摩會令狀、即仰可_レ請_二闕請

之法師等_一、玄慶基^{操力}探^{照力}法藏義口安秀五人、其外辨並參

會僧綱等相定可_レ請補_二也_一、

十日宇佐使雅文朝臣發向、中使公輔來云、下_二太宰_一官符、依_二承平例_一有_二奉_一

走馬_一狀、彼時臨時御祈也、而官口請_二了_一、爲_レ之何又

今日使依_二先々_一口可_レ召_二御荷_一者、

十一日、中使公輔來賜_二御書_一、今夜聊有_二除目事_一、

十三日庚午、去九月例幣并他御祈諸社幣等奉_レ遣、

廿二日己卯、行_二幸八省_一、奉_二遣伊勢太神宮使_一、告_二齋內親王薨由_一、

并明春可_レ定者齋王事等_上也、

廿五日壬午、賀茂願今日果、如_二石清水等_一願賽出立、饗間大將兩宰相云

云、歸饗伊與守云々、今應給禰、先度不_レ給、^{廿二日石清水大原}

野等、將監白細長一重加袴、將曹無袴、府生袴一重

加正絹、陪從各絹、舞人以信濃布一如例口給之、

廿八日、御禊供奉大臣以下皆陪觀、親王只二人、

奉仕二十三也、餘皆稱障、又內侍鮮木子稱病不

參入、藏人一人落馬留、 卅日、極樂寺菊會、

十一月 六日癸巳、可_レ行大嘗會之狀、宣命使奉

遣伊勢、大將行_レ之、太神宮依正殿傾、造借殿、暫

可_レ奉遷事付此使、 八日、大嘗祭畢、還御本宮、

更可_レ幸豐樂院、而近代例從大嘗宮、便幸豐樂院、

爲_レ之何、叙位議承平例丑日行也、可_レ依彼例一歟、卯

日供奉神饌、采女前例口叙位、仍_レ彼此望申、其中

一人口子可_レ奉仕、今一人櫻井男子河內有子若口申、

而男子陪膳方多、口子年方勝也、以誰可_レ令奉仕口、伊

勢太神宮正殿度々使_レ申不開之由、仍造借殿奉

遷可_レ直正殿之狀、宣命使奉遣了、而告齋王薨由、

使惟時王申云、開正殿了云々爲_レ之如何、十

四日、叙位議、大納言執筆、大臣昨今物忌不參入

也、 十五日、位記入眼請印、 十六日、大嘗祭、

十七日、晚頭中使公輔來云、忌部奉鏡劔事口承平

三代日記、不見阿闍梨停乎、 廿一日、大貳來

令_レ見少貳經基書、其云々、大船二來着對馬島云

云、未_レ知何國船云々、中使頭朝臣來、好古朝臣

參入、令_レ奏經基書、爲_レ之何云々、 廿五日、中

使頭朝臣來云、行女叙位事何云々、 廿六日癸丑、

例八講始行、 廿九日丙辰、右大臣女參入內裏、

步行云々、

十二月 三日、朱雀院上皇幸宇治、大和國中、依

實性讓、以千口被_レ補多武立_{峰力}口所檢校文、寬

惠申請恩寺別當讓長守文付大臣、 四日、從朱

雀院使仲陳朝臣有恩問、更賜_{鷄力}鰒鯉等、白細長袴

賜御使、 五日、中使公輔將來所々上日之中有

辨少納言、史外記進上日、 十日、中使頭朝臣來給、

和泉丹波紀伊等國申給、檢非違使令口化部內濫惡

倫事、因幡國申請、瑯山諸院宮家點領所々事、返

上先日所給備前之後司申文、諸卿定申文、十一

日、幸中院、有祭事、十四日、臨時御幣使立、

御禊大嘗會間、祈晴報幣也、十六日、惟時朝臣來

云判可^{策カ}在、十九日、進口口廿二日、口口日、

中使頭云、拜御題因幡御服事、廿日、中使口口來、

賜御體御卜、廿五日、右大臣小爲女御、即大臣

奉之者、中使隨時朝臣來給左金吾辭、有司別當文

云々等、廿六日、口前、廿七日、任郡司事、

今日口口依無有座、辨少納言泉朝臣爲宣命使還、

口和例者、但彼時辨一人相共下立云々、中使國口朝

臣來賜御書、卅日、中使頭朝臣來、有口口褰帳、

無王命婦一人、口臣命婦行、

(以下內閣本第十一册)
天慶十年^{殿口善祈禱等不}口口^{レ記供在別記}

正月 一日、有朝拜、太納言奏賀、宴會如常、

二日、以延昌律師任山座主、宣命使少納言朝

望朝臣、四日、行幸朱雀院、朝太后於柏殿、而

後太上皇謁於寢殿、十二日、今日口大饗、而依

有從昨夜所煩停止、十四日、空中有聲如雷

鳴、或人云、天智天皇山陵鳴也、又云、非山陵鳴、

十四日、今日內論義、僧依御物忌不召御前、

於南殿西行、十六日、補次侍從三人、十七日、

射禮事在豐樂院、但不行幸、元方卿奉^{勅カ}口行^{勅カ}之、

十八日、賭弓、廿三日、內宴、式部中務兩卿諸卿

參入、曉有管絃事、廿五日辛亥、外記政始、

廿六日、除目議始、卅日、除口、

二月 十四日、內御修法、山座主始行、伴僧廿人、

十六日、中使公輔將來醜醜座主舉狀二枚、伯耆

守實平奏賊徒事等、十七日、有如此之事不記

私口廿六日、卜定伊勢齋宮、中務卿親王女也、廿七

日、御服常膳減^{四分之一カ}口口口口、詔書出、從大內差瀧

口武者文室保持、仰遣賀茂齋院群盜入來之由、又

差伴彥賴有內仰、曉成國朝臣來、告同事由、天

使隨時朝臣來、有昨夜群盜事口封等事、

三月 四日、山座主諸院於知封大師法文等事、口

使頭來云、御祈事一向奉仕之狀、宜_レ仰_三遣山座主、御願一院可_レ口口所將定申、九日、行_三幸朱雀院_一上皇皇后共柏殿相謁、召_三式部中務兩卿大臣大納言右金家宰相工人御前_一、有_三管絃興_一、賜祿、自餘又預者、十四日、中使隨時朝臣來、口可_レ任_三加賀守_一之人、今夜除目其數七人、十六日辛丑、中宮御八講始、十八日、今日捧物銀甚多、百餘寶、又口者尙侍誦經、砂金百兩入_三瑠璃壺_一、十九日、請僧八人、各賜_三度者一人_一、是官給也、_{定イ}廿一日丙午、季御讀經始、廿三日、可_レ令_レ作_三論奏事_一示_三大臣_一、廿七日、位祿事始、廿九日、奏_下減_三臣下封祿_一論奏、其儀右大臣令_レ持_三外記_一到_三御所_一、付_三藏人_一令_レ奏者、四月一日、上御_三南殿_一、親王大臣不參、四日、改元詔書事、可_レ勘_三前例_一、六日、依_三詔書論奏_一、賜_三官口_一、_{符イ}七日、奏_三成選短冊_一、差_三齋院前駟_一、十五日、行_三幸朱雀院_一、昨曉中宮有_三重煩給_一、仍欲_レ幸_三彼院_一、口院御消息云、御惱頗口之上、有_三甚雨煩_一

云々、十六日、定_三仁王會警固_一、召_三仰齋院御禊_一、十七日、入_レ夜中使俊朝臣來云、一紙所_レ奉神寶、寬平延喜例有可_レ進_三度者一人_一、佛舍利入_三銀塔_一之事、而承平無_三此事_一何云々、是宣命案所見、廿日、依_三前例_一始伊勢太神宮高名諸神被_レ奉_三神寶等_一、廿二日丁丑、改元詔書出、_{天曆}廿五日庚辰、一代初仁王會、廿六日辛巳、有_三任大臣以下宣命_一、左右大臣權中納言二人參議二人、大臣饗在_三東家_一、五月十五日己亥、內御修法、明達律師始行、伴僧廿人、廿二日、明達律師來、賜_三度者_一事賀、廿七日辛亥、大內十七天供、山座主奉仕五箇日、六月四日、除目議始、七日、外記正統將_三來大間成文等_一、八日、厩馬分_三遣處々_一令_レ口、_{私記、是有_レ由之事}、十日、中使公輔來、有_三種々仰_一、十五日、中使左兵衛督將_三來五畿內近江丹波守等申雜事_一三箇條、又延光朝臣令_三昇殿事_一、廿一日、從_三朱_一院_三賜_三御_一、_{雀脫力}前山口、御使仲陳朝臣被物、廿六日、民部卿忠文朝

臣卒、廿九日壬午、內裏臨時御□□始、又有諸社讀經、爲攘物恠不祥、兼祈年穀也、隨時朝臣公造改清涼殿、遷御何、若申無□更不令占吉凶云々、是仰旨云々、

七月一日、中使俊朝臣將來天台普門院地故置誼弟子等貢進御願堂所文、酉時鷺集豐樂殿北廊占云々、三日、從午後風雨□烈、舍室顛倒、十二日、大內有御修法事、阿闍梨延昌律師、伴僧廿人、廿三日、延長女十親王薨由奏、十五大寺並有供、寺々始自今日三箇日令轉□□□、爲攘恠異不祥也者、廿九日、召合、無樂、

閏七月一日、御覽、十五日辛未、仁王會、廿三日、左大臣奉勅、令左大辨內成國等不奉行、奉勅宣旨事、中使有時朝臣來云、興福寺南圓堂□卅人度者、依前例可給事、台山東法花三昧堂度者十二人、實性申御即位間御祈僧七人申度者、又曰、度者五人給故義海弟子、廿四日、中使隨時朝臣

來云、權中納言令奏曰、秀卿朝臣所申、故將門口第可及事、可給功田事等、

八月六日、中使公輔將來成國□日記、爲忠貞實過狀、七日戊子、上御南殿召博士等如例、鷺集南殿前、九日庚寅、御讀經始、十二日、

中使頭朝臣來云、御讀經法師等給度者何、雖有試經事、今年內非可試度云々、是左大臣所令奏也者、十四日乙未、建禮門前修鬼氣祭、十五

日丙申、南殿前建禮門朱雀門等前行大祓、十八日、大內欲行御修法、□依御惱有時行氣、俄改行御讀經、僧數卅人、元廿一人、中宮御書云々、又夜間煩給者、廿二日四角祭、次々可有四隅四

界等祭、

九月二日、頭朝臣依仰將來台山御願堂等圖、中使公輔來云、諸國調物龜惡違期事、依大同府行何、又別納租穀違令委不勅何、五日、觀學院椎樹

皆□□落也、詔書於敢大辟以下罪云、七日戊午、臨

時御讀經始、仁王經爲攘天下災難之所修者、十日、御讀經結願、次度者賜法師等、廿五日丙子、

伊勢齋王入主殿寮、

十月 三日甲申、九月伊勢例幣并臨時諸社御幣使立、

五日、弘徽殿女御卒、 九日、中使隨時朝臣來

云々、又已設女御賜位何云々、 十三日甲午、內

御修法始、寛坐カ口口律師爲阿闍梨、中使隨時朝臣來云、

故女御贈位可叙從四位下一歟、又勅使何人等可遣

乎、 十九日、雉入左衛門陣良方、 廿三日、今夜

有除目五人、 廿七日、入夜右大臣來云、今日被

定檢非違使并諸司所々諸寺別當、 廿九日、大內

尊勝法於台山始修、座主爲阿闍梨、僧十九人、七

箇日、

十一月 五日、讀奏、 十日、平野春日祭奉幣使尙

相朝臣、惟正、 十一日、興勢申云、春日祭所參氏

大夫只公泰朝臣一人也、是右大臣家幣使口、古未

有如此事、中使公輔來、賜諸卿定申雜物價直

文、其次云、昨夜御物忌侍人公輔親賢二人、宿侍少時有依二人希有記之、私記 十六日、中使頭朝臣來云、諸卿定申檢

約法如此也、沽價定狀下符畿內丹波等何云々、

又市司事、 十七日、敦敏朝臣卒、 十八日戊辰、

節會黃昏引列、右大臣依召參入、行內辦事、 廿

日庚午、中宮奉爲內裏於台山一座主房奉造不動

尊勝四、始從今日可有御修法者、 廿六日、

郡司召、 廿七日丁丑、臨時祭、 廿八日、行幸

朱雀院、親王不扈從、又內舍人一人不候、次侍從

只二人、左兵衛佐皆有故障不參、仍以左衛門佐

爲代者、 卅日庚辰、八十島祭使立、掌侍平子藏人

公輔也、

十二月 三日、中使兼通朝臣來賜沽書、 四日、

中使公輔來、賜大藏省勘申國用支度、又有省試宣

旨申學生事、國用支度主計寮勘申文上也、不知知故

實、上卿令勘歟、 八日、有省試御題也、 十

四日、中使頭朝臣來云、又云、今日被定藏人清正

朝臣、藤原季平昇殿橘定平等也、

十六日、荷前、

十九日己亥、內御修法、以明達律師爲阿闍梨、伴僧廿人、廿日、內御佛名始、廿六日、中使公

輔來云、安藝介藤原用忠可ト兼任宣旨者、元施藥院使有不治之聞、被左遷也、是私記也、廿七日、中使頭來云、昨左大臣上表

辭職、仍令勘先例也、仲平等大臣如是上表六有

口勅不許、今行如行、又壞清涼殿欲運醍醐、

過正日賂弓令壞何、

天曆二年

正月一日、宴會如例、用忠如舊可爲藥院使

宣旨、宜下式部省事示左大臣、伴用忠有不勤

行院事之聞、被左遷安藝介、而被奏候院事長

者知行之由、所復任也、後日除目下官不候、故

右承相候也、自件字之下所私記也、二日、中

宮大饗在朱雀院、三日、行幸朱雀院、四日、中

使隨時朝臣來賜御書并諸國司等功過所司勘文等、

五日、右大臣家大饗、六日、叙位儀右大臣奉行口、

中使頭朝臣來、賜預叙位人々書、於其仰云々、

七日、節會如例、但不給祿、有叙位、夜深事畢、

王卿多退出、八日、中使頭朝臣來云、今日欲幸

八省、觸死穢之人入來禁中、爲之如何、又女叙

位事行否、今年無多勞人云々、十日、有女叙位、

依右大臣障所込也、義方朝臣等四人加叙、十

一日、勸學院年終舉狀將來、依去年用忠遷任之間

云々返却、十四日、中使頭朝臣來云、祈年祭事可

致如在之禮者已、而年來懈怠甚多、仍令定諸

卿申云、神熊御倉置勾當然官人令勤行、又馬寮

繫馬事等令行云々、爲之如何、又賜明法博士

等、勘申成國罪狀、口有院御消息云々、又先日

所定下人着手作有事可制之狀、諸卿申、十六日、

節會如何、左大臣宣奉勅、予雖不參、其身宜預

諸節會、見參者外記公忠奉、十七日、幸豐樂院

行射禮、今日親王不參、十八日、有賂弓、近兵

古勝、十九日、中使頭朝臣來云、除目事何日可行

乎、坤方見長七尺許物、舊式云戈星也、廿二日、給二分一人織_二乎、秀世之狀仰_二彼男、依_二先々錦多織_一也、廿四日、中使清正朝臣來、賜_二御書_一、廿五日、中使頭來云、八十島祭裝束不具事、令_レ問_二神祇官_一勘申云、去承平年祭國不儲、仍召_二住吉社司_一令_レ進者、可_レ免_二國司怠_一歟云々、即內公朝臣申云、御琴師高枝彼日申云、前例有_二神樂事_一、何無_二座中_一云云、又神樂人々此度不候、只高枝一人彈_レ琴且歌云云、廿六日、除日議始、右大臣參行、即諸卿於_二御前_一、中使助信賜_二御書并受領功過勘文等_一、廿七日、中使頭來云、梨壺女御可_レ給_二三年給_一宣旨下何云々、安子廿八日、中使隨時朝臣來、賜_二御書_一、又有_二仰事_一、廿九日、中使頭朝臣來、賜_二御書准風雅量成國等勘文等_一、卅日、今日召_二右大臣於御前_一、不_レ召_二諸卿_一、中使兼道入_レ夜來、賜_二御書兼諸卿舉申受領文等_一、二月 一日、除目清書於_二議所_一行之、二日、以_二式部丞清雅_一補_二勸學院別當_一事、仰_二元鑒_一、三日、

清雅山階寺別當官符、宿院別當宣旨未_レ下之間、且可_レ令_二行事_一、以_二助繩書等_一、送_二有相朝臣_一、五日、明方語云、常陸國府鹿七頭來、又國分寺鐘皆濕、將門時鹿一頭鐘角濕、而此度多數云々、甲斐守維幹小說也者、七日、中使俊朝臣來云、依_二中宮御消息_一云云、又上_二清涼殿棟_一日有_二行幸_一何、十一日、有_二小除日_一有、十六日、民部卿差_二右中辨_一、馳_二送伊賀國申正月廿三日國分寺毗沙門金剛力士等振鳴由解文_一、十七日、右大臣定_二仁王會請僧_一、十九日、左大臣始參入、定_二奉殿上人_一、去年數子已逝、有_二所_一耻思久不_二參入_一私記廿三日、中使俊朝臣來云、欲_レ上_二清涼殿棟_一之間、可_レ有_二行幸_一云々、今有_二何日_一、廿四日、右大臣有_二令_一奏賀_二靜阿闍梨事_一、掌侍輔子奉_二辭書_一、可_レ下_二停任宣旨_一、廿五日、可_レ知_二行膳所_一事狀仰_二時柄_一、廿六日丙午、上_二辭職表_一、使伊尹朝臣、臨時仁王會、廿七日、中使右近中將義方朝臣來、賜_二勅答_一、令_二權中納言拜儀_一、贈_レ祿、

三月 六日、藤大納言差^{公カ}之輔朝臣告云、朱雀院仰

云、行事□□、可有^ニ音樂、借^ニ進極樂寺儻裝束等^ニ者

云々、 九日、行^ニ幸朱雀院、院調^ニ音樂^ニ令^ニ奏、又

賜^ニ祿親王以下近衛少將以上、 十五日、右大臣差^ニ好

古朝臣、令^ニ見^ニ位祿國宛文、 十六日、來月十一日

可^レ遷^ニ清涼殿^ニ事擇申、 廿日、中使俊朝臣來云、遷^ニ

御清涼殿^ニ日、陰陽口定^ニ申來月九日、而維時申云、

雖^ニ御物忌^ニ猶可^ニ十一日吉^ニ者、又本宮御書所預書手

等、便補^ニ一本御書所^ニ何、又樂所如^ニ舊置^ニ何、五月

節三合年行之何、按寮中納言息童昇殿申名簿給云

云、 廿二日、伊尹朝臣來云、廿日權中納言使伊尹

上^ニ辭職表、而今日返給、 廿八日、中使公輔朝臣

來云、昨夜丑時許、群盜入^ニ來右近衛府、少將有^ニ年

朝臣曹司剝^ニ取妻子等衣裳、是所^ニ未^ニ聞事也、 廿

九日、被^レ定^ニ所々別當、左大臣奉^レ之云々、仲舒朝

臣云、昨夜群盜入^ニ造酒司、盜^ニ取御器等^ニ云々、 卅

日、中使公輔朝臣有^レ傳^ニ勅語、其旨在^ニ別記、五月

節群盜口文章生判調物合期、雅樂寮樂人召^ニ御前^ニ令^ニ奏^ニ種々音樂^ニ者、

四月 五日、中使公輔朝臣來有^ニ守道事、又俊朝臣

來云、聞^ニ食擬階奏^ニ何、爲^レ令^ニ行^ニ沽價□□^ニ檢非違

使尉任^ニ市司權正^ニ何、是諸卿所^ニ定申^ニ也、 七日、

中使公輔朝臣來有^ニ恩聞、又御移間內侍所遷事、今

日奏依^ニ左右大臣物忌^ニ不御出事、 八日、中使公輔

朝臣持^ニ來□□侍所神十二日可^レ奉^ニ遷勸文、 九日

戊子、遷^ニ御清涼殿、 十日、今夜殿上有^ニ酒狂者^ニ云

云、 十八日、賀茂祭奉幣如^レ例、使典侍灌子出^ニ宅門^ニ

之間、飄風大起、前駟之中有^ニ落馬脫冠者^ニ云々、

廿一日、右大辨將^ニ來鑄錢司錢千餘貫解文、 廿七

日、中使公輔朝臣來、爲^ニ口先病有^ニ恩聞、又近日雨

不降、口病事聞□之、有^ニ奉幣讀經等事、此外又可

修^ニ何態^ニ乎、修法法師等給^ニ度者^ニ何、省試判事行

之何云々、

五月 二日、中使公輔朝臣口、先日謂讀經者令^レ修^ニ

諸寺一也、省試判事以學生等愁文令問何云々、
 日辛亥、幸八省院、奉幣諸社、爲祈雨等一也、
 五、左大臣定仁王會請僧口十三日可_レ行者、六日、
 從朱雀院口元病有令問給、中使有相朝臣將_下來山
 階寺御祈僧二人死闕、以空晴律師延珍等、諸寺解
 供僧等舉狀、又義光申文、二人闕所_三三人申、可
_レ爲如何_二乎、九日丁巳、代度者名簿付公輔朝臣
 令奏、雨師二社奉幣馬祈、右大臣奉_レ勅、令_レ問_二省
 試判、不_レ署_二博士、十一日己未、祈雨_{衍力}宣命使
 奉遣五陵、中使公輔朝臣來、有_レ賜_二未斷囚人勸文、
 強竊二盜嫌疑者鬪亂等、雜犯者口十七人可_レ免事、
 又近保事如何可_レ爲乎、極可_レ哀憐者也、十三日、
 西河邊人宅、群盜白晝入來、多取_二雜物_二云々、仁王會
 法師等無_二所得_一也、緣僧綱奏狀一歟、朱雀院差_二法
 師等、奉_二遣八幡賀茂等、令_レ祈_二廿雨年穀、始_レ自_二
 今日_二五箇日也、十四日、右大臣定臨時御讀經僧
 名、又仰_下可_レ修_二請雨經法_一事、寬容律師爲_二阿闍梨_一

者、十五日、左大臣定_二奉一分宣旨_一者、今夜待賢
 門大路南方、高倉小道東方人宅、群盜入來、主人男
 爲_二盜人_一被_二斬殺_一也、十六日、一分召、於_二卿家_一行
_レ之、大極殿行_二臨時御讀經_一、神泉苑可_レ修_二請雨經法_一、
 而降雨、止_二請雨經法_一、於_二真言院_一令_レ修_二孔雀經法_一、
 亥刺鹿四頭走_二廻延休堂壇上_一者、十九日、御讀經、
 法師賜_二度者_一、中使有相朝臣來云、御讀經法師等此
 度不_レ賜_二布施_一、賜_二度者_一何者、可_レ其貴_二之狀_一令_レ奏
 畢、廿五日、以_二山階_{延力}近空法師_一可_レ請_二當年維摩講
 師_一之事、告_二左大臣_一、昨夜朱雀院西對南、又廂一間
 無_レ故破壞、是中宮御在所也、廿七日、十二親王
 薨、京官除目議始、左大承於_二御前行_一、廿八日、
 議事如_二昨_一、廿九日、除目、召_二左大辨_一令_レ書_二除
 目_一、
 六月一日、群盜入_二勸學院_一、二日、使公輔朝臣、
 奏_二可_レ被_レ祈_二雨事_一之狀、三日庚辰、十一社并龍穴
 神等遣_二僧綱以下_一、又七大寺僧集_二東大寺大佛殿_一、可

祈雨事、仰按察中納言者、可造道守屋事、仰下左右京職檢非違使等狀史業恒有申、是右大臣奉行也者、四日、右大臣云、奉仰云、欲行賑給施米事、只今諸司無米、如聞備中伊豫等國米多隱舊也、伊豫山崎宅、備中西寺、是公輔等所申也、須遣檢非違使令檢封申上者、令給了、五日壬午、祈雨讀經、從今日始行三箇日、六日、雷鳴白雨陣立、按察依召參入、解陣處々神落云々、朱雀院池中見弓矢云々、是口誕事也、說不慥云々、七日、(日)二見云々、朱雀院南池中見如龍頭物、大膳醫院屋風吹倒打殺屬野中安世、十一日、伊勢有別幣、今夜幸神嘉殿、十二日、奉幣諸社祈甘雨也、使立之後雷鳴雨降、無幾止、外記正依來云、以寬空律師、從明日於神泉苑可令修請雨經法、又明日文章生試下宣旨、學生藤原致源清時高階成忠等也、十四日、省試有御題、昊天降豐澤、題中取韻七言十韻、十六日、仰諸衛馬寮

等令搜盜、十八日乙未、內裏祇園御祈被果行之、醫道博士舉申藥院醫師日佐房範文、付左大臣、廿日、維時朝臣朝綱朝臣來、告今日有省試判之狀、各呼簾前聞所云事、廿一日、直幹朝臣云、昨及第者十五人、廿二日、去月除日後、今日有直物、中使公輔朝臣賜擬文章生省試判文、其勅旨多不具記、廿五日壬寅、內裏御修法始、以鎮朝爲阿闍梨、廿七日、中使有相朝臣來云、又以桂芳坊可爲樂所事、又武兼申云、天慶兵亂時有難破祭事、其報祭可有者云、答曰、可勘前例者也、卅日丁未、朱雀院御讀經始、七月一日、中使有相朝臣來云々、當年見學堅以貞口舉文、給有相朝臣、又以清雅可令行計帳事、狀仰內辨、二日、中使有相朝臣來云、極熱之間、奉仕御修法法師等施度者何者、令奏左右隨仰之狀、三日、河面牧內山下取巢鷹一聯、加出羽守所送若鷹一、差伊尹朝臣奉入朱雀院、

七日、曉雷大鳴又降雨、陣立、右大臣參入有勅計、

八日、中使公輔朝臣來云、召博士等令問、各

有所_レ申爲_レ之如何、判省試文陣頭被_レ改定、左大臣

奉_レ仰、令_レ按察中納言定申、諸_{儒カ}候也、十日、左大

臣定季御讀經請僧、十一日、維時朝臣來云、陳

義策可_レ問人在躬朝臣也、而年中無_下可_レ着座_上日者、

直幹等可_レ問、或人直幹敏通維時弟子不_レ可_レ問云々

者、是不_レ可_レ然事也、先日直幹問國光故云々、

十四日、陳義策問頭、以直幹朝臣可_レ下宣旨狀

示_三左大臣、十八日、伊與國申、越智用忠依海賊

時功可_レ叙位解文等、令_三公輔朝臣奏_レ之、加_三用忠

貢書即還來、傳_三仰可_レ被_レ叙之狀、十九日丙寅、

季御讀經始、廿一日、位記召給、右大臣爲_レ上、

廿二日、中使公輔朝臣來云、可_レ任僧綱內供等事、

過今日後宜_三定行之云々、西塔法花堂申度者文付

之、廿五日、中使公輔朝臣云、今間無_三殊聞_{空カ}食

童相撲何、廿七日、夜大風雨、屋舍多顛倒、死人

有_レ數云々、廿八日、分遣諸衛官人於諸司、令_レ實

檢風損官舍、

八月七日、郡司讀奏事右大臣行、中使有相朝臣來

云、初齋宮申、入_三野宮料絹四百卅餘疋、內二百疋

代以_レ錢被_レ給者、十一日、中使藏人文實賜_三御書、

釋奠上_三右大臣、定考上_三民部卿、十二日、有_レ除

目事、無_三內論義、十六日、俊朝臣來云、明日行

幸、次御院馬場事何、其可_レ有_レ樣宜_三定申_{掃カ}者、是非御

本意、緣_下上皇賜_上令_レ除_{掃カ}彼處也云々、十七日、

行_三幸朱雀院、今夜丑寅時間、家中紀國光頓滅、

廿二日戊戌、朱雀院上皇皇后遷_三御二條院、

九月二日、午時碓女鳥九集_{十一カ}宜陽春興殿間、

日幸_三八省院、十四日、右大臣來_三門外_二云、今日

有_三臨時幣使立事、緣_三先日御祈_二也者、十八日、中

使有相朝臣將_三來初齋院_{空カ}申云々、十九日、有_三直物

除目等、廿五日、寬定申、依_三前例_{空カ}被_レ任_三東寺別

當、中使公輔朝臣將_三來故觀宿僧都弟子等申、以_三內弟

子峯鑒令預造宇治橋、廿六日辛未、伊勢齋宮

入三野宮、廿八日酉癸、大内御修法始、以實性

爲阿闍梨、卅日、使公輔朝臣入夜來云、明日不

可御三南殿、但次侍從闕十九人、望口人々先々補

任例勘文如何、又解却入三前例還補乎何云々、

十月 一日、上不御三南殿、中使有相朝臣來云、今

日可補三次侍從、而左右大臣各有障不參、補此人

人何、勸三申前例之中、首有御點十人也、七日、

中使有相朝臣來云、可行三幸二條院事如何、御修

法今日結願、阿闍梨實性任三僧綱何、此師從三先年

有奉仕勞、口籠山召出也云々、九日、后宮御使

早旦來云、從三夜半許三危忽煩給、中使清正朝臣來賜

御書、可有行幸旨也、十八日、中使左兵衛

督有僧綱内供等、十九日甲午、菊會、有音樂、

廿日、有任僧綱、廿三日丁酉、例八講始、

十一月 八日、可作致仕表事、仰直幹朝臣、

三日、從三朱雀院給三雉二翼、昨日宇治西所取者、

御使兼家朝臣、被物綾細長一重、廿二日丁卯、幸

中院、廿三日、節會如例、唯至祿賜綿足絹者、

廿七日、中使有相朝臣來云、山階寺御願十僧二人

闕所、空晴僧都義全等補何、

十二月 四日、清正朝臣云、今夜盜入、取真力忠朝

臣宿殿上之衣走出、惣盜候殿上之衣五度云々、

十日、丑時群盜入三好比朝臣宿曹司、取息子爲政

口妻衣裳、十二日、中務親王枉駕問病、不能拜

謁、十四日、中使藏人季平來、有恩問、左兵衛

督奉仰來云、近日群盜入三宮城、奪取人物者、而

諸陣官人多不三上者、依法欲行、明年除目次與舊

年間何、又參河介安行依病辭退、亦主祝寮不勘公

文云々所力也、筑前大隅守等闕、年中任三何者、

十五日、有小除目、解却諸衛口上人、十八日、可

作致仕表之狀示三左中辨、口日荷前、雨儀、

九 曆

天曆元年至天德四年

天曆元年

九條右丞相之記、號九曆、

正月

一日、寅刻拜四方、辰時向八省長樂門東廊宿所、依朝拜事也、文武官裝束悉綏怠、仍仰外記史令催、依爲外辨上卿也、巳三刻帝幸八省、午三刻、外辨上達部着座、四刻內大臣着座云々、即召兵部令槌裝了、鼓吹召鼓、未一刻引列、今日下官奉仕奏賀殊無失、申時事了、即幸本宮、節會內辨下官云々、二日、奉拜上皇間、不着靴、依御平敷座也、非殿上者、依仰着侍座事、上皇御廂平敷御座事、拜禮管絃事、依召候南寶子數云々於侍從殿中宮大饗事、侍從殿朱雀院內也云々、十四日、皮衣一領奉獻、依御衣損也、

十五日、兵部手番事、向兵部云々廿日、依殿御惱內宴延引事、

廿三日、內宴、參內、殿上裝束頗違去六年例、仍示藏人令改、未四刻即御座、依公卿遲參及此刻、依雨儀無謝座謝酒、又不刻立直昇、其次第王卿次將內記、三獻、後召文人、次予進坊奏、藤中納言左大辨獻題、用中納言進、花氣染春風以薰爲韻、令大辨付韻字、依惱子刻退出、典侍灌子爲陪膳、後聞寅刻事了云々、

二月

三日、或說云、佐保殿不當南方者、仍殿下御惱頗有小間者、今日欲進發身代、差伊尹、奉上錦五色幣神寶舞人走馬等、九日、拂曉密々向大原、得雉二翼、十七日、女御爲賀子冊算、廿五日、上皇遊狩北野、給云々、依惱不參、廿六日、大入道殿御元服事、有儀、

三月

九日、朱雀院行幸儀有_ニ管絃事_一、有_レ儀、

十六日、中宮御八講事_儀（有_レ儀イ）

十八日、御八講_{御イ}五卷事、捧物等有_レ儀、

十九日、尙侍家今日被_ニ奉仕_一、誦經金百兩入_ニ瑠璃壺一口_一、

四月

十二日、内々被_レ仰_ニ任大臣事_一、

十五日、依_レ召參院、仰云、先々行幸日、於_ニ門北外_一

下_レ與遊事也、至_ニ今日_一於_ニ中門_一下給尤宜、

廿日、一代一度神寶被_レ奉_ニ諸社事_一、宣命惣五十

廿三日、上皇御_ニ醍醐事_一、於_ニ栗田山口_一、_{三篇云々}

廿六日、任大臣事、（有_イ儀）_{乘_ニ御馬_一}

廿七日、處々申_ニ慶賀事_一、

五月

二日、參_ニ陽成院_一申_ニ慶賀事_一、

六日、不_レ給_ニ兼字_一以前手結_ニ饗祿事_一、

八日、山階寺步事、

九日、任大臣訖昇殿事、

十一日、依_ニ昇殿_一奏蒙事、

七月

廿七日、着座事、有_レ儀、

閏七月

十日、左大將還饗事、

十二日、右相撲還饗事、有_レ儀、

十七日、在_ニ昌朝臣進_ニ仁王會咒願_一、令_ニ朝綱朝臣奏_一

之、朱雀上皇在_レ上、陽成上皇在_レ下、令_レ申_ニ此疑_一、

仰云、陽成可_レ在_レ上者、即給_ニ作者_一令_レ改、又奏給_ニ

御書所_一令_レ書云々、

廿日、重光朝臣可_レ令_ニ及第_一之由宣旨被_レ下、左大臣

奉_レ之、

廿二日、以_ニ西塔院主照日_一、可_レ爲_ニ傳法阿闍梨_一之宣

旨被_レ下云々、

九月

十九日、依_ニ大臣慶_一參_ニ菩提寺拜賀事_一、其後誦

誦事、

十一月

十八日、節會事、有_ニ子細、

卅日、弓場始、主上先射給_レ當_レ當事、

天曆二年

正月

一日、寅時四方拜、次入_ニ念誦堂、已刻參殿奉_レ拜、
先_レ是左大臣奉_レ拜、即還退云々、

二日、向_ニ中務卿宮、早他行云々、向_ニ式部卿宮、王

卿多參、予拜禮間、◎王イ主人答拜、王卿省立退、數盃後、

主人卿、中務卿、予同車參_ニ朱雀院、

五日、午刻組_ニ上辨備_ニ了、上達部漸集來、同三刻予

出_ニ簾外、諸卿列立、予下_ニ立橋西腰、公卿以下、史

以上列立了、拜禮着座、初獻予南、彈正親王北、二

獻兵部卿親王、中務親王、此間進_ニ餛飩、三獻右兵

衛督源侍從以上一世源氏、召_ニ史生、後進_レ飯、此間

式部卿親王光臨、五巡被_レ仰_ニ祿使、次雅樂興_ニ音聲

二曲舞間、出_ニ穩座_ニ給、祿引出物如_レ例、召_ニ堪_ニ管

絃_ニ者、聊唱_ニ呂音、亥刻共分_ニ散垣下、親王式部卿、

彈正尹、兵部卿、中務卿、竝四人引出者馬一疋、

十七日、辰刻參內、已一刻幸_ニ豐樂_ニ、還主是歟也イ射禮儀_ニ有_レ之、

十八日、射弓儀、有_レ儀、勝饗儲_ニ西宮家_ニ事、有_レ儀、

二月

三日、春日祭使相立事、

五日、祭還饗事、口儀

廿日、寺座主鎮朝調_ニ屯食二具_ニ送_レ之、即分_ニ送東西

及常行三味師達、

三月

十二日、午刻參院、於_ニ對東庭_ニ有_ニ賭弓事、前方念

人中務卿親王、後方念人下官、奏_ニ射手奏_ニ後、勝奏_ニ

納蘇利_ニ方人奉_レ拜、伊豫介善文申文右少辨持來、即

示_ニ可_レ奏之由_ニ返付、

四月

廿一日、外記是貫來云、被_レ仰五月節隔心之由、又

業恒來申、可_レ下_ニ試經符宣旨_ニ之由、仰云、勘_ニ先例_ニ

可候陣頭、

廿三日、法性寺是殿下建立道場也、而上皇天下間、去承平年中立御願堂二字爲御願寺、

五月

四日、法務僧都來云、日來爲行試經事、經廻八省、但定岑禪辨進學生名簿、後其身死去、仍下臘僧申其代云、

五日、午時左大臣參入、召御前、還着示諸卿云、日來炎旱重日、疾疫間聞、因之可行仁王會事、其外又可行何事、宜定申者、令朝綱朝臣申、時召御前被定諸社度者分配、下官執筆書之、

九日、祈雨奉幣事、有儀、

十七日、去天慶元年朱雀天皇遷御綾綺殿之時、上達部座敷宜陽殿西廂、而今上去月九日遷御清涼殿、今日如本還着左近陣座、但此日大將不被參、依陣定移座云々、

廿日、左近陣儲饗、去十七日上達部初還着陣座所、

儲云々、

廿九日、除目、納言數少時兩度取菅文事、

六月

十四日、式部大輔維時朝臣給勅題、向本省試事、路イ

省試、

十七日、依服拾藥拾イ不參、已刻服紅雪三兩、紫雪三兩而微々也、仍辰刻又服紫雪二分、拾五度、

七月

十九日、秋季御讀經發願、午二刻殿上々達部左大臣以下候御前、地下卿上等候南殿、女御候上曹司、

八月

十一日、釋奠祭考定、同日巳時上臘着大學、次卿着官、源左大臣可被參大學事、

十九日、午時隨身高光參內、予依例自近衛御門、高光童殿上事、有殿上酒肴、未小童自上東門令入、先參藤壺、此

間天皇御此舍、令伊尹、兼通參上、殿上聊調酒食出、殿上依寂然也、高光依召候御前、隨仰

暗誦文選三都賦序、帝感歎云々、

廿二日、於侍從殿有親王以下侍從以上宴、卅巡後、給祿有差、

廿六日、參殿乍立候御前、勸學院別當辨以下學生以上合廿餘人來賀、依入封戸也、前例三日內來云々、而昨日以前有相障事、仍今日可來之由相示、因之延引也、聊儲小饗、依有前例也、

九月

廿日、依昨日仰、召神祇陰陽等官人、令占雨脚頻降祟由、申云、依有坤艮方神社四至內不淨氣所致歟、又見忿怒氣云々、重令占、申云、八幡宮依放生會事不行有此祟、

十月

十二日、左大臣依召參入、承行八幡放生會、以十五日可令行之由宣命、按察左大辨等參入云々、十四日、左大臣參入、立八幡宣命使、以明日可行放生會故也、先定大夫等、多申障、仍俄差

遣左中辨朝綱、

十九日、極樂寺菊會事、有樂、又僧綱召事、

廿二日、於仁壽殿御覽左右馬寮御馬事、依、

十一月

廿三日、豐明節會參內、未三刻御南殿、內辨左閣、申二刻引列、今日每事停滯、子刻事了、諸司小忌服、前例用佐渡布、而所服用似商布、未有如此之事、又外辨上達部座甚乏、有事煩、此日祿有綿無絹、保平殿上顛伏、

十二月

十六日、以唐僧令見病事、
天曆三年

正月

二日、比叡中堂火厄事、
三日、候殿不他行、入夜罷出、殿下今年滿七十、仍付中務省上致仕表、家司五位六位各二人、
十一日、午終請客使侍從延光朝臣來、即參向、延光

時々前駢、拜禮如常、初献式明親王勸_三尊者、主人勸_三納言、次第理可_レ然而已相違、太閤敕命給_レ祿如_レ例、被物櫻色唐綾張合細長、引出物鷹一聯、犬一牙、馬一疋、依_三御惱止樂事_二了、參門外承_三案内、垣下親王重明式_一有_一章_一辨少納言、前立_三机二脚事、非_三前例、甘栗勅使祿袴染色過差、仍天氣不快云々、

十二日、巳時甘栗勅使文實來、給_レ祿如_レ例、午刻上達部來、慙以_三府中將義方朝臣_二爲_三請客使_一、申刻尊者光臨、拜禮如_レ昨、◎一本有日字、初献_三手勸_二尊者_一、中務卿親王勸_三大納言_一、依_三殿御惱_二不及_三數盃_一早事了、尊者被物引出物如_レ昨、◎一本有日字、垣下親王同_レ昨、◎一本有日字、即參殿陪從五位六位同_レ昨、

十四日、御齋會、畢王卿着_三右近陣事_二、儲酒着、延爲喜御時例也、奉殿御祈_一修_三大威德法_一、其間於_三擅邊_二御禮拜事_一、

十七日、於_三建禮門南庭_二射禮事_一、

廿一日、頭有相參來、仰云、御病重由、助_レ憂不少、

爲_三息災_二給_三度者五十人_一者、復命云、依_三臣下病_二恩給_三之例雖_レ有_三一兩_一、是爲_三有功勤公之輩_二也、今臣年來纏_三病痼_一、無_レ由_三出仕_一、而蒙_三不涯之恩_一、不_レ知_レ所奏者、此仰具承、中納言傳_レ之、被物白大褂一重、

廿二日、昨日因_レ給_三度者_一、且分_三配冊人_一、令_三鎮朝律師申上_一、成_三祈願_一、

廿三日、依_レ召參內、左大臣申_レ障不參、下官執筆、

自_三廿日_一至_三昨日_一、藤大納言執筆、今日見_三大間物_一、誤已多、仍改正之間、已及_レ入_レ夜、通夜議_三定受領_一、

廿七日、公家奉_三爲殿下_一、於_三十六箇寺_一被_レ行_三諷誦_一事、

二月

五日、直物上卿間事、

十一日、列見、參宮、左大臣未_レ着座、仍予候_三尊者_一、須_レ於_三東廊_一着_レ靴而進_中北屏_上皆是失也、廳間作法無_レ外者、至_三朝膳所_一先着_三納言座_一而依_三民部卿催_一着_三南面座_一、以_三外記史等_一着_三宴座_一、三献及_三外記座_一

之間不着、其後不_レ幾着_二東廊_一、前例大臣着_レ東、納言以下着_レ西之、而今日皆着_レ東、着_二穩座_一、三献後召_二史生_一、次召_二近邊諸司_一、其後召_二雅樂寮_一、見參賢後_{覽イ}史是隆勸_レ盃、給_二半臂_一如_レ例、

十六日、二條院有_二紅梅宴_一云々、喚_二永興_一令_二彈琴_一、

十八日、一分宣旨事、

十九日、一分召事、

三月

二日、伊與介公輔朝臣來示_下向_二任國_一之由、相逢次、被物赤大褂一領、給物事被_レ給之間、必不_レ可_二被物_一、然而此大夫自_レ本相語者也、仍所_レ爲歟、

十一日、院花宴事、有_二音樂作文_一等、御參事、

十二日、花宴事、同、

十六日、參_二殿下_一献_二致仕表_一、使_二兼通御表作者朝綱

朝臣左大臣初行_二位祿_一事、

廿一日、寅刻服_二紫雪二分、紅雪四兩三分_一、六度拾_{拾イ}、

似_レ快、

廿二日、殿上賭弓、未時參入、今日不_レ着_二位服_一、着_二赤色服_一、右省上達部如_レ此之間、必不_レ着_二位服_一云々、仍所_二庶幾_一也、_{左省イ}

廿七日、尙侍爲_二殿下_一、於_二法性寺_一令_二修法_一事、有_レ儀、

卅日、藏人所尙書竟宴事、

四月

一日、官奏事、<sub>奏文二
枚例、</sub>

七日、見_二承和四年_一、寬平六年、延喜二十二年等日

記、不_レ見_二兩大臣參入例_一、稱_レ障不參、未_二刻御_一南

殿_一覽_二擬階奏_一、左大臣行事、中納言元方取_レ奏、依_二

兩大納言不參_一也、以_二參議庶明隨時_一爲_二式兵部卿代_一、

依_二寬平六年_一、延喜十年例、仲代着_二母屋_一、二省短冊

各二度云々、

十八日、左大臣以下實_二檢鴨川堤損所_一事、

廿四日、賀茂祭事、有_レ儀、

廿五日、祭使還立事、有_レ儀、

五月

一日、巳刻參内、左大臣不參、仍見奏、申二刻御出、大監物典職御鎰奏、内侍召人、參上、候奏、出居朝成朝臣相替參上、公卿着座、次第如例、番奏後賜御扇、欲拜舞間取内案、圍司早就版、仍庭立奏後拜舞、須准給馬、因例立一列、而異位重行是失也、三献後撤膳物、臣先下、但出居次將留警蹕、

廿日、院競馬、賭弓、東遊等事、不委細、

七月

十日、於八省院被行三季御讀經事、

八月

四日、軒廊御卜之時、陰陽寮不參事、

十日、相撲還饗事、

十一日、定考依殿下御惱無音樂事、

十四日、太閤薨御事、戌刻、此夕有詔、賜度者三十

人事、又有赦令事、

十六日、遣固關使、又警固事、

十八日、御葬送俄事、

廿五日、開關事、

九月

廿日、陽成院天皇依病惱、御出家事、

廿二日、雖服身、依仰注進群行次第事、明日齋王云々、延喜更衣藤原淑姬朝臣卒、是長明親王母也、

廿三日、齋王下伊勢、戌刻自野宮向西河、同刻天皇幸八省、丑刻齋王參八省、依有上達部多故障、長奉送使中納言在衡奏宣命、寅一刻進發、二刻上還宮云々、

廿九日、陽成上皇崩事、春秋八十二、

十月

二日、於法性寺御法事々、

請僧同經數、七僧在此内、法服外加大笠杖沓付、又七僧外請僧料儲粥時、

依上皇崩固關使事、

四日、七々日御法事々、

廿五日、家初行_二菊會_一事、行_二幸_二條院_一、左右大將依_二重服_一不_二供奉_一事、依_レ無_レ例也云々、

十一月

一日、御南監物御鑑奏御曆奏番奏等如_レ例、左少將伊初奉_二仕番奏_一云々、未刻參殿、及_二申刻_一持_二來番簡_一、是佐等緩息也、

廿六日、亥時中宮還_二遷朱雀院島町_一、其故去年八月御_二條院_一之後、頻有_二御藥事_一、占_二其禁_一、依_二御在所不_レ宜也者、有兩帝御定所移徙有_レ饗無_レ祿云々、

十二月

廿日、御佛名事、

廿一日、廿二日、御佛名結願事、

廿三日、以_二眞信公墓所_一可_レ預_二荷_一前幣之由蒙_レ仰

了、可_レ令_レ作_二官符_一之由、仰_二有相朝臣_一事、

廿五日、左右大臣奉_二仕荷前使_一事、

天德元年天曆十一年、此年四月賀五十算之由見_二公卿補任_一不_レ見_二此記_一如何、

正月

一日、參內、暫着_二陳座_一、即參_二東宮梅壺_一、申刻經_二

藤壺並後涼殿東廂等_一參上給、奉_レ抱_二兼家_一自_二侍北

壁邊_一進給、此間王公不_レ動_二座_一、是若理歟、東宮御

拜禮畢、暫着_二給侍座_一、供_二圓座_一、其後小朝拜、已及_二

秉燭_一、拜了儲君召還參給、有_二御着六打敷_一、余又蒙_二

召候_一御前、給_二酒着_一、此間引_レ列、不_レ御_二南殿_一、以_二

如在禮_一被_レ行_二宮御祿_一、青色於_二御衣_一、下襲於_レ袴、

又御拜舞、余不_レ着_二南殿_一退出、

二日、東宮大饗、於_二北廊_一行_レ之、先_レ是有_二拜禮_一、

三日、一親王參入拜禮、給_二御笏御劔等_一云々、

五日、左大臣家大饗、忠時朝臣爲_二請客使_一來、即參

詣、

十四日、家大饗事、蘇甘栗、勅使藏人致忠來、

十八日、喚_二木工頭道風朝臣_一勸_二酒_一、被_二女裝束一襲、

依_二書_一大饗料屏風、

廿一日、除目儀、左大臣不_レ奏_二闕官帳_一、始書_二任人_一

遣_二先閤命_一事、廿二日除目第二日、廿三日議第三

奏聞受領功過事

日、廿四日延引、廿五日議第四日、廿六日除目第五日、廿七日除目入眼、

三月

八日、花山燒亡、僧房雜舍合七宇云々、

十三日、射禮、豐樂院行幸停止事、大禮後年無行幸事

十四日、射禮射殘事、大將取奏事、廢中御時上卿進給奏事

十五日、仁和寺櫻會云々、

十六日、八省御讀經事、上卿出昭訓門之時、上官可爲前列之歟

卅日、殿上音樂舞事、

四月

一日、旬儀、左兵衛佐兼家番奏事、

五日、封事定事、儀、

十二日、召史吉祠給東宮御料位祿四具內三具家

位祿三具分配文、

十六日、賀茂社奉封事、

廿二日、息所於飛香舍、遂賀算事、儀、

放出事、未刻依垣下等催着座、其座在母屋放

出三間之中間、王卿座在東庇南東邊北西面、

六月

六日、一品公主御產、依邪氣入滅事、

七月

廿二日、一品四十九日御法事々、有儀、

廿四日、依四十九日正日法事、

八月

十一日、定考依一品公主事、止音樂事、不參、大

臣入見參事、予入見參云々

十二日、齋宮下向定、長奉送使等事、

十七日、令陰陽頭保憲鎮坊城家、此事雖及數度、

依去六月凶事、重所令行也、給絹二疋、

廿九日、齋王長奉送使中納言辭退、被仰參議朝忠

事、

九月

五日、伊勢齋王向國、

十月

五日、戊午未刻御_三南殿、太子被_レ候_三御後、大納言

顯忠卿爲_三內辨、少納言兼家初承_レ召、貫首有明親王

謝酒間失_レ禮、以_三文章博士國光文時_一令_レ獻_レ題如_レ例、

以_三文時寒輕菊吐滋_一爲_レ題、內膳遲供、依_三采女

正代早不_レ申_三文也、又遲取_三文臺宮_一爲_レ讀_レ詩召_三博

士等、內辨依_レ不_レ知_三前例_一狐疑問、時刻已移、又可

讀_三師居_一之處、內辨卿告_レ居、又給_三御製詩_一、內辨

不_レ給_レ之、左少將親賢給_レ之、又取_三紙燭_一之次將等

自_三階下_一取_レ之參上云々、惣今日事違失多端、

此一行後人加筆歟
此節會不_レ宜 菊宴歟

廿七日、改_三天曆_一爲_三天德_一事、極樂寺菊會事、

十一月

十六日、大原牧貢_三鷹一聯馬四疋_一、又牧司清原相公

貢_三韓二牧熊皮五牧_一、

廿七日、臨時祭使右馬頭博雅朝臣、初此家息子五人

兼通、忠君、高光、兼房、遠量、

入_三憐人_一、而依_三妹喪_一被_レ改_三入他人_一、

舞人甚不_レ調也云々、

十二月

十四日、左大將六十賀法事、有儀、於極樂寺有_レ之

廿九日、東宮鎮魂、小野宰相爲_レ上、去月依_三御輕服_一

不_レ行、仍今日所_レ行也、

同二年

正月

二日、一品親王參拜、勅使左大將顯忠腰劔令_レ着_三親

王_一、以_三御劔_一給_三大將_一、後日親王返_三送大納言劔_一云

云、

十四日、鹿入_三冷泉院_一、

廿二日、鹿入_三朱雀院_一事、

二月

廿二日、左太閤御惱殊重、仍又加_三修法壇_一云々、爲

救_三左大臣病_一、給_三度者十五人_一、是依_三奏請_一云々、

三月

七日、四品親王御對面事、有_レ儀、

廿五日、改錢詔書奏聞、大內記俊生朝臣作_レ之、錢

文云、乾元大寶、參議維時卿勘_ニ申詔書_一、奏聞後給_ニ中務丞維慶_一、裏云、職方朝臣貢鷹預渡、

廿八日、可_ニ新錢鑄進_一數、並鉛錢宜_{可_レ申者}、而依_ニ

公卿之參、不_レ能_ニ定奏_一、

卅日、法性寺燒亡事、

四月

一日、法性寺實檢事、

八日、御灌佛了後着_ニ陣座_一、召_ニ因幡介長連廣兼_一、圖

書允阿保懷之、令_レ書_ニ錢文_一奏聞、當時能書者道風朝

臣文正等也、道風稱_ニ目暗由_一、文正觸_レ穢、仍定_ニ件

兩人_一奏聞、以_ニ懷之_一爲_レ勝、

十二日、給_ニ鑄錢司改錢官符_一事、

十九日、依_ニ參議自明卒_一、天皇着_ニ錫紵事_一、

廿一日、帝除_ニ錫紵事_一、

廿二日、賀茂祭依_レ有_ニ內裏穢_一、祭使不_ニ參內_一、東宮

使止事、

五月

五日、東宮御修法給_ニ度者_一事、

六月

十五日、二條院燒亡事、

同三年

正月

三日、東宮行_ニ啓中宮事_一、有_レ儀、

九日、卯中宮御杖、作物所奉仕、但覆帶料可_レ被_レ給

自_ニ本宮之由絲所女宮申云々_一、東宮又被_レ奉_ニ中宮_一、

十日、道風令_レ書_ニ障子_一給_レ祿事、

十一日、左大臣家大饗事、

十三日、依_ニ故殿例_一、大饗料所_レ儲酒食魚鳥等、令_レ給

史、又送_ニ勸學崇親兩院_一、

二月

七日、壞_ニ坊城家_一、移_ニ立桃園家_一事、

廿二日、內宴題云、春樹花珠簾、章明親王及爲明

源氏等、柔子親王服也、而着吉參入云々、章明親王

給_ニ勅授_一、芳子女御叙_ニ正五位_一、

廿七日、積_二新錢_一之船事、

三月

中宮產_二男子_一事

廿四日、殿上賭弓事、有_レ儀、

四月

八日、灌佛布施錢、依_二寬平例_一進_二古錢_一、是中將說也、

十七日、新錢奉_レ遣_二諸社_一事、

廿二日、賀茂祭進_二勅使_一、中將伊尹朝臣中宮使_{亮兼通}出立事、

廿三日、使還立饗事、

六月

十九日、主上始御_二寢藤壺_一事、中宮之所也、

七月

七日、有_二中宮小車遊事_一、

廿六日、左右相撲司試樂、右府大將以下脫_レ衣、給_二

舞人_一事、

廿八日、相撲節事、有_二子細_一、

廿九日、次日儀還_二御本殿_一御遊事、

八月

三日、桃園燒亡事、

九日、右大將還饗、相撲三番、依_二忌月_一無_二立合_一事、

召_二最手佐伯豐村於階前_一、給_二官符_一事、

廿六日、宮雄名簿給_二勸學院_一事、

九月

五日、臨時除目左大臣奉行云々、藏人珍材來云、內

給所錢卅貫、可_レ進_二藏人所_一、

十六日、陸奥守國紀朝臣罷申事、

廿一日、以_二位祿_一充_二材木取料_一事、

廿五日、八省行幸依_レ雨停止、伊勢幣被_レ付_二諸司_一事、

例幣延引今日也、

十月

一日、旬儀事、

五日、節會事、題、風輻袖舞廻、

十九日、召_二內教坊女妓於清涼殿西渡殿_一、令_レ彈_レ琴、

給饗祿事、

廿一日、極樂寺菊會事、

廿三日、召囚人令掃池井事、仰右佐密々所召仕也云々

廿五日、宮雄着袴事、

十一月

八日、大輦申文事、

十五日、豐明節會事、小忌親王納言不參、參議爲首人事、大歌別當奉仕、內弁以右大將爲代事、

廿六日、后腹男女親王別當宣旨事、別當皆以御息子也、

十二月

九日、日三輪出事、又白虹貫日事、

十四日、遣殿上諸衛佐等、令計記京中隱居高年

等之員、爲恩給云々、民部卿在衛給一分宣旨

云々、

十六日、於殿上有踏歌興、左大臣朝忠朝成等候云

云、右近中將元輔朝臣壽言、兼通珍材取輪云々、

伴踏歌等依去九月天變已停止、而依左大臣催奏、

又被興行云々、時人爲不穩云々、

同四年

正月

一日、左大臣令忠君奏御曆水樣等、依年來例、可付內侍所之由、酉刻小朝拜、入夜引列、依腰病未平復、令奏難候列之由、而仰云、自腋可參上者、蒙仰之後心神忽惱、仍不堪參上、罷出九條、

二日、左大臣臨時客事、東宮拜禮事、四親王拜賀

事、

三日、家臨時客事、東宮大饗事、

五日、於陣受領功果定事、

六日、叙位儀事、

七日、申刻參內、先是左大臣參入、入夜始事、

依內記叙位宣命遲書出、遲々奏聞事由、從腋參

上、伊尹從四位上兼通四位兼家忠君正五位上等五人、

預加階、往古未聞兄弟三人以上加階之例、若是

榮華盛哉、

十一日、左大臣家大饗事、

十二日、家大饗事、有儀、

十四日、御齋會了、參八省、伊尹告云、大饗日依

令宮取出尊者祿物、天氣不快云、仍不下取布施物出、

二月

十一日、右大將孫皇子爲親王、其名昌平、左大臣氏人等以下、於仁壽殿東庭奏慶由、依御物忌、不參弓場殿、

三月

一日、出河原、依占告、先解謝、次供香燒、祈願後、兩段再拜、次心經、

七日、仁和寺櫻會事、

八日、內裏有弓結、去年十二月十六日聊有踏歌興、其後宴云々、蒙召參入、申刻御出、中四親王等被候射殿、獻物九捧、余問之貫首、右大將唯稱奏之、其後余行加射手列、余秉矢中的、在座公

卿皆射、中宮被奉懸物、

十三日、藏人所小舍人、持來射別一貫、

廿七日、公方服勘文事、有子細、

廿八日、中宮着服事、御衣見之、與方朝臣卒去故也、

四月

一日、旬儀事、依樂人不足、不奏音樂、

三日、向法性寺宿房、違節分忌、明日入夏節、

日御出家法名

平記

長曆元年
平行親記

〔前文缺〕

示云加供□□□□□□□□□□□□□□□□先例□□

所申不送、仍一通別卷加供□□□□□□□□□□龍一懸

□□施堂、一拜之後置布施、事了着古近陣一如例、

藏人□□□□□□公卿其儀如例、但公卿從階下一參

上、僧侶入右兵衛陣、經後涼殿北承香殿北一參入弓

場殿、今夜高陽院文殿燒亡、于時一宮御此處云々、

□□□□□□右兵衛督左大辨被着、有申文請印、南

□所申□□□□□□少納言家業勸杯、其後預申菜料

文□□□□□□□□卿拔箸被立、仍不申上、今日

史致親從朝□□□□而奉公事、參厨家、此間大辨

參入、其後歸參着座、而上臈等□□然氣色、仍入

急所、以着座、大辨被免云々、此事未知先例、又

所爲非、(○以下
缺文歟)

十六日、節會、無音樂、權大納言□□□□勤仕也、
十七日、射禮、民部卿被行云々、後院被奉御入
內時御調度於關白殿、女御料云々、賜御馬於御使任朝
臣云々、

十八日、賭射於東射場被行、宣陽門壇下從堀下、
引幔相對、日沒□□□□同曳幔、近衛射手候太子廬
北、兵衛在南□□□□□□□□如常、但射手等出入
從西幔門、左勝但無勝負樂、今日侍從宰相着射
遺所、衛府佐辨等遲參之間、與少納言家業行事入
內、從宣陽門、
從戟門、南行、

十九日、有政四條中納言右兵衛督左大辨被着、
廿日、甚雨、有政四條中納言左大辨□□□□、

廿一日、今日除目始也、依御物忌□□□□□□候、
有政民左□政後有云候、酉刻許有召、諸卿參上、

○被着候所、
內府執筆給、

廿三日、高陽院殿西有火、小舍人正近采女正
正清等宅云々

廿五日、今日於陣有安樂寺申事定、可遣使者、

其使左衛門權佐□□□□

二月

廿九日、今日主上渡御弘徽殿、歷綾綺仁壽承香等殿、從承香殿西長橋渡御、頭中將持御劍候御前、

殿下內府已下相被候御共、入御之後殿下已下着

片廂座給、殿上五位已下居、饗机盃酌數巡之後有

祿、內府御料源大納言執給、自餘料殿上四位以下取之、殿上人料

諸大夫取之、上達部料當殿未申角取出諸大夫之傳殿上人、

其後□□給女房祿、件祿未取出、傳殿上人、持參上蓋

中將被候臺盤所分行義云々、□□□□傳取度御前權大納言、次

於弘徽殿南西給女官祿、殿下御座東廂、權大納

言被候御前、源大納言已下被候南簀子、殿上人

候長橋、次第召南戶下給□□□□□□前被下

女御宣旨、即叙正四位下、頭辨仰內大臣□□□下

藤氏、上達部被參弓場、以頭中將被申慶賀、

卅日、有石清水行幸定、三月九日壬午、當臨時祭日

後日可被行、行事權大納言右（小イ）宰相中將、延至子祭以

才（ナシイ）辨責通、大外記賴隆、大夫史義賢、又於殿御宿

所、一品宮立后給雜事、權大納言民部卿被候、章信

三日、丙午今日一品宮□□□□辨爲勅使參廳景殿、申立后之由、有祿云々、

九日、於陣被定興福寺東大寺開亂事、前日依興福寺申遣使了、右衛門權佐隆佐、尉即言上解文日記

等、又東大寺中東南□□□□□□、仍遣史致親令

實檢彼等、檢非違使不入云々、仍遣史也、致親

又申解文、以此等被定云々、至于使被召返、

於不手人令本寺召進者、任定被行了云々、今

日一品宮從齋院渡御齋宮、即還御云々、昨夜渡

御齋院也、

十一日、列見也、權中納言右兵衛督左大辨被着、

有申文請印、申文了後、史須從上臈出也、而

下臈爲先失也、次二省列見、次着朝所、二獻後

粉漿、三獻飯、申文（史貞則去年考之日、四獻後餅飯令

粉漿、三獻飯、申文（了有申文、申文了上臈退出、

獻餅飯以退、下臈一兩欲退出、上臈達被示不可

然之由、仍留候、雜役史着東床子、以南爲一、

仍辨□□改着、依去年定考例無宴座、

長曆元□□□□

十三日、丙辰、今日一品宮立后給、於堀河殿有_二此儀、申刻宣命內府內辨、左衛門督經通、宣命使、少納言家業召_二群臣云々、主上出御、內侍女房等候_二內辨座、立_二御簾東間、內辨欲_レ着給間、引_二寄件間柱東_一給云々、上部達文帶螺鈿釧、無魚袋、自餘或用_二巡方帶、或着_二丸鞆、皆無_一、_{魚袋、蒔繪釧、諸衛佐縫腋袍壺胡錄蒔繪釧帶靴、又(外イ)衛練(深カ)淺履之者相交云々、檢非違使平胡錄大夫尉裝束又如_レ此云々、□□了上達部還_二着伏座、召文}

召所續紙被書

大夫正二位藤原朝臣能信兼

亮□□位藤原朝臣良經兼

權亮從四位下藤原朝臣中尹

大進正五位下高階朝臣俊平

權大進從五位上藤原朝臣惟經

少進從五位下藤原朝臣資國

權少進正六位上平朝臣業貞

大屬正六位上三島宿禰久賴兼

少屬正六位上

大臣被_二退下、召_二折契紙令_二清書□□也、後召_二式部丞下給、次召_二六衛府佐於陣、仰_二可_レ候□□□□_一由_二度、左右衛門一度二度仰_レ之云々、次□□□□率被_レ參_二中宮有_二拜禮、關白殿不_レ列立給、對面共設_レ座、侍從同以列立、侍從座外亦有_二殿上人座云々、畢給_レ祿、上達部大褂一重、關白殿加奉織物五重褂、侍從足絹、主殿啓所官人已下別_二給足絹云々、今夜弘徽殿出給、主上渡御云々、藏人右衛門權佐範國仰_二輦車宣旨、殿上人廿餘人女房七人奉_二仕御送、上達部數輩同被_レ候_二高陽院殿、西對南唐廂簾前不_レ立_二敷_二長莖、其上敷_二高麗端疊六枚、爲_二上達部座、絕席敷_二紫端疊、爲_二殿上人座、上中下三所立_二燈臺、寢殿南簀子立_二燈臺二本、□□□□輩、北對東面內女房二兩差車、東北渡殿戌亥角項之內、女房歸御乘車之後給_レ祿、典侍二人女裝束、

ナシ(イ)

宰相公賴親女少將命婦御乳母子織物打袴綾袴自余命婦二人綾

袴一重、藏人一人同綾袴、御乳母二位祿之、仍給命婦祿也、源大納言

新中納言取之、被入各車、次孟酌之後給殿上人

祿、四位白袴一重袴、五位緋一重、六位可給袴而皆退出、

十四日、今日女御殿有御使、少將定房杯酌給祿如常、

使女裝束、小舍人二疋、上達部殿上人參中宮有饗云々、今日依

釋奠參大學、入夜上卿着廳、辨少納言列立帳南、

少納言在北、以北爲上、着給後外記貞任云、欲居□□物寮允以

上□□代官如何、代官三獻之後所申也、而此事

無□□□□欲申者、示云、此事申代官如何、

內々自有氣色、左少辨相共言合之間、上卿聞此事

間、案內即申此由、不申代官、可令勤仕者、

仍以主計允時重令勤、一獻少納言行親、二獻左

少辨定親、三獻處□少納言、三獻後申代官、以官

掌觸講堂裝束了由於史、史觸外記外記貞任申

上卿、上卿着講堂、講論之後不着百度座被退

出、縱雖無安座被、着百度座一獻、

廿三日、今日可奉立后之由、可有勅使、仍西

面取御座、前橫敷長疊一枚、以高麗端一枚當

御座間、東西妻敷之設茵等件所、便イ□許

頭左中□□□□右兵衛督令申參入、□□源大納言、新

中納言、右兵衛督、新宰相頃之辨被候廊、殿下束帶出

御西面、先之南戶內敷高麗端一枚、東西茵爲勅使

座、頭辨依召着座、傳□勅□□後、右兵衛督取

祿參入、殿下取之給頭辨、女裝束一襲退出於中門、再

拜退出、小舍人清氏不着靴、在其共、仍給絹二疋、次

令參內給、上達部被候於弓場殿、令奏御慶

給、次令參御前給、次令參院無御拜次歸御有定

先之時親孝秀令進勘文、三月一日甲戌時已申次召章信朝臣、

被書定文、事了□□□退出、大夫史義賢參入申

云、今日依吉日、行カ依吉日女御之官符□下、□□

□其官符即返給、今夜左中辨息男元服、從殿□御

笏御冠、

三月

九日、午イ乎今日有_二石清水行幸_一、而從_レ昨有_二雨氣_一、今朝暴風忽吹、陰雲已蒸、渡_レ日之間、非_レ無_二其危_一、仍有_二事定_一、行幸不定也、召_二陰陽助時親_一、令_二奉_一杜御占、無事可_レ遂者、仍有_二御禊_一、其後御_二出從_一承明建禮朱雀門_一、東脇門、從_二朱雀大路_一南行、從_二七條大路_一西折、於_二西七條邊_一雨降、凡今日暴風口雨更不_レ可_レ言、供奉之人多損_二笠衣裳等_一、申刻着_二御社頭_一、此間降雨忽晴、陰雲口口有_二御禊_一、舞人引_二御馬_一、中宮大夫爲_二勅使_一、被_レ候_二庭中座_一、御禊了賜口口_一上卿料竈中納言定賴卿取_レ之、舞人等料殿上人可_二分給_一也、而依_レ無_二殿上人_一各取_レ之、次參_二御所_一於_二被_一戶_一可_レ有_レ被_レ而去不_レ行云々々、被_レ奉_二神寶等_一之後、引_二御馬_一三度、次東遊、次音樂、萬歲樂、賀殿、陸王、延木樂、地久、納蘇利也、次走_二御馬_一、次神樂、次使被_二歸參_一、次權左中辨資通朝臣行事被_二奏_一事由_二退出給_一、今日上卿召_二元命_一被_レ仰_二可_レ有_一賞由、元命申云、以_二所帶別當職_一可_レ讓_二弟子清成_一者、即以_二資通朝臣_一被_レ申_二其由_一、仰言依_レ請、以_二元命_一補_二檢校_一、以_二清成_一補_二別當_一、權別當院救

叙_二法橋_一、

十日、天晴、於_二關白殿御宿所_一上達部有_二饅饌_一、其後被_レ參_二御前_一、有_二御遊_一、上卿被_レ候_二藤中_一、口口口十舞了、賜_二上達部以下祿_一、還御於_レ渡暫令_二逗留_一、令_レ眺_二望河水之眇々_一給_レ歟、酉刻還_二宮有_一鈴奏、今日瀧口等凌燦瀧口延_レ任、延任內府御馬副也、內府依_レ有_二所_一申給、後日瀧口四人_{則友、爲新、}除籍被_レ下_二召名_一云々、

十五日、依_二吉日_一兼官之後初參局、用晴、今日官被_レ請_二印官符_一、留_二有_一禪文_一、新外記方賢初從_二廳事_一、

廿日、請_二印宮御封仕丁御頭給料_一、御季御服、御同料官符_一法師文等相交不_レ可_レ忌歟、

廿七日、石清水臨時祭也、使左宰相中將良賴、舞人四位四人、五位口人、六位二人也、使裝束如_二去年冬_一、中將殿於_二正方宅_一房イ脫_二御裝束_一云々、

四月

一日、平座如_レ例、右衛門督左兵衛督被_レ行、二日、今日奉_二仕宮御裝束_一、昨日依_二日次_一不宜也、

今日於宮有奉幣使定、殿下御御宿所、大夫權大
夫皆束被_レ候、宮御方片廂、先召_二行親被_レ仰_下可_レ召_二

陰陽師之由、即申_二時親候由_一、被_レ仰云、可_レ有_二奉

幣可_レ令_二勘_二日時者_一、進_二日時勘文_一奉_レ覽、次召_二

紙筆被_レ定_二使_一、定文副_二日時勘文_一內_二覽殿_一、其後啓_二

御前、次召_二大內記孝親_一、以_二行親被_レ仰云_一、可_二奉

仕_一告文、可_レ載_二冊立之由_一者、依_レ宿衣所_レ被_レ傳仰也、即進_二上

草_一先覽_二大夫_一、次覽_二殿口_一、口日有_二齋院御禊定並御

所卜定_一、即被_レ定_二御前_一云々、御視日來十三日、入_二御所右近府_一

三日、丙午早旦、召_二外記貞任_一令_レ書_二告文_一、賀茂紅紙、自餘黃紙

件紙請藏人所之入_レ宮候、已刻大夫束帶被_レ參、差_二下部_一遣問_二

時刻於陰陽寮、申云、午一刻、即被_レ仰_下可_レ立_二御幣

案等_一之由、此間以_二告文_一覽_二大夫_一、覽_二啓_一御前、即

返給置_二大夫前_一、依_二甚雨_一撤_二東面立部一間_一、二イ東軒廊

北第三間敷_二采薦_一、其上立_二案二脚_一、次第置_二御幣_一、其

北去五六尺敷_二圓座_一爲_二宮主座_一、以供_二御贖物_一、亮經

輔朝臣陪膳、大進行親益供、以_二宮主神祇大副兼忠_一

捧_二大麻_一、候_二御膳_一助_二陪膳_一傳_二進御前_一即返給、兼忠

着座、御禊_二宮主退出_一、以_二大夫召使等_一次第給_レ之、

隨退出、小使等取_二御幣退出_一、去イ筋カ小使等取御幣出石清

水使_二右中辨_一經長云々賀茂上下內藏頭松尾權左中辨平野左_二右_一イ稻荷

散位隆春日權亮大原野散位章吉田左近少將使立後雨止天

晴、今日齋宮御禊也、即入_二御大膳職_一、其儀如_レ常、

御前參議右兵衛督有_二泥障馬_一、有_二馬_一副隨身無_二雜色_一左近少將行經朝臣、

右近中將俊家朝臣、左兵衛佐能長、右衛門權佐範國、

左衛門尉維盛、右衛門尉季業、左兵衛尉公定、右兵

衛尉眞重等也、馬助允所衆等裝束等如_二齋院例御禊_一、

但無_二雜色舍人等_一、御前駈先々有_二近衛將監左右衛門

佐尉_一也、而此度諸府相交如何々々、今日殿下令_レ參

給、但無_二御見物_一之、

十三日、齋院御禊、從_二直成朝臣宅_一入_二御右近衛府_一從_二二條大路_一東行

給、還行之時自_二二條大路_一西行、從_二東大宮_一北行、

從_二一條大路_一御_二右近府御前_一、左大辨左衛門佐經季、

尉章經、右衛門佐貞孝、左兵衛佐代兵庫頭業任、尉

右兵衛佐朝棟、尉次口使右馬助親清、行列使左馬允顯輔、所衆六人、院別當左馬頭良經朝臣等也、行事右衛門督、中宮丈夫依有服親被行定無三宰相、今日供奉人無三雜色、所衆等間有三雜色、典侍候矣、

十八日、祭也、其儀如レ常、但齋王不レ御、仍無行

事、上卿以下行列使次第、使藏司助定職近衛右少將實仲馬

司右頭皇居宮亮良經中宮權亮有所之女使典侍御乳母三位祭使還

立所無レ饗、相許人々一雨宿衣、召官人以下給例祿

別祿、還遣之、丁イ中宮女使從主殿寮出立、皇后宮使從

故藏部令史是延宅出立、

廿一日、今日改元、先下給人々勘文令定申、左、右大臣被參先奏勘文等、例奉周長曆忠貞大治顯德永保義忠長曆以三長曆可レ用

之由定申云々、勅定口也、孝親作詔書、

廿二日、今日宮御竈祭也、欲建御寵神座、仍昨日

召三時親令勘申日時、並被問方角、日時明日

辰若午時、方北方、有使者欲作高陽院、而依大

將軍遊行方、有其忌、仍隨定申、作縫殿寮南門内

東脇、木工寮作之、作御寵神屋一字、南面東西北面作切懸、西刻別納所安置御寵神御衣、以宮主祭之、御窪手飯田菜田菜作少窪手入之之字一本作口也明日御窪手奉御前、并高陽院殿、各飯菜積之侍飯二殿上人參入食之

廿三日、改元之後有政、晴儀、有申文

廿七日、内文位記請印、又有直物除目等、宮御封省符今日分遣、顯家位記作、兵部召臨時叙位、

雖武官可レ作勤狀一狀、

閏四月

八日、有馬國定、可勘國司罪名、少諸卿定申云、仍被下宣旨、今日電鳴雹降、人以恐懼、伴國官人

雜色人等、左少辨定親於官令史致親勘問云々、

之日鳩飛座口云々、

十四日、有推問使申請定云々、三ヶ條、一停師釐

務、不口一推問日限府返抄、可依長保例也一推問之日無

所遁府、安樂寺口隨身可參歟、口任法可レ行斷決、終爲後備者今夜美作守召進及傷宮内承延任、並殺

可隨身者

害延任從者、下手人文平文保、下給右獄云々、今

月朔比成、此犯、仍先搜、構父光任朝臣宅、口被付、檢

非違使重允、於定經朝臣宅、被責、件文保彼美作妻乳母子云、口

院頻雖有御消息、已無恩免、分使於方々、搜、求

之、口口口從備前國、捕來云々、後聞案內文保

成、猜於光口口口責構預置云々、有消息者

未聞、候獄者書消息、通安事、又申請妻、可令

訪養者、廳定不枉此愁歟、

十七日、依大夫御物忌參門外、申史生事、賴孝

事雖被口、令申案內、後仰云、以此定可下

者、仍參宮仰屬重則、

十九日、頭辨奉仰、依右兵衛督被奏問、右衛門

權佐於殿上云々、金吾所述申雖不違法式、不被任

所申條之事、只推可恐申者、武衛被奏詞中、隨

身兵衛無故被拘禁云々、專不拘禁云々、若違

懸下薦者、奏事不實罪可有重歟、

廿七日、召右衛門權佐云々、

五月

一日、季御讀經始云々、當時最御前僧出、自三月華門

經後涼殿砌承香殿等、自弓場殿參入云々、三十

講始云々、

八日、參結政、外記實政先着々座後、申開殿內厨子

封、於座末申之間厨子取出錄最末少納言座前有狐矢

等、史生如忠云、有史生座末者、

九日、五卷口也、內府參給、

十五日、丙辰今日大宰推問使、左衛門權佐、右衛門尉下向、

從高陽院殿西御倉町出立、有反問、人々會合有少變、

立之イ、申刻進發之隨身、府生、番長、府門部并五人着冠、

主典衣冠、次判官、冠布衣、着看眉口口着裝束、在次使冠柏夾直、

皮尾鞘、看眉長四人、着次郎等障不不着劍之、路頭見物

之者不可勝計、

廿日、今日被定明法博士等勘申前但馬守則理朝臣

等罪名事、右大臣以下諸卿於左仗被定申書、定文

奏聞、左大辨、件事去長元八年、但馬在任之間、依有

官物負累、左□□宿禰衆長令申其辨間、籠座衆長

依爲三八幡別官司、□□別當神人等爲愁三件事、率

數百人、來國府近邊、即依有聞奪衆長、並可入

亂館、內々造相防之間、有^{◎落字歟}中矢死亡之者、因之

八幡宮以別當申旨、有愁申、國司又進國解、仍彼

年十二月、遣[◎]右少史高橋文俊、令推問彼此所申、

即歸參日記等、其後宮寺稱有所申、仍於京□□

推問、召遣左國司等之間、先帝有晏駕之事、相

次去年有限大事等指合、自以延引、今年三月召在

國司等於官、被勘問、任三件日記等、可勘罪名、由、

前日諸卿有定申、仍令下勘罪名、隨而法家進勘

文、又有可定申之宣旨、仍所定申也、勘申者

十一人之中、被處流罪者七人、可贖銅者并追

可被定仰者等四人云々、抑可配流之□□諸卿

又可定申者、被定申則理土左相奉^{伊豆}五位成任^{佐渡}

之後令造官符、并可召仰檢非違使之由被召仰、

辨定親檢非違使等奉宣後、各向^{云々}流人處々、先搦其

身、待三件官符等下向云々、官人某九可向其所

之由不仰云々、六惣仰之後、使等相議各向其所

云々、又召仰左右親負司、令差上府生六人門部

十二人、^{每門府生一人}即造上官符、外記史生入^{門部二人也}當見

少納言、^{在床}見了外記實政覽、右大臣、即右大辨着

結政、行請印、其儀外記退出後大辨奉大臣仰、起

座出自敷政門、少納言行親、外記方賢、相從^{使部}

到結政、先少納言外記着本局座、令出印、^{殿內自史}

生來開封、使部取出印、宰相着座、^{左右大辨座中從}

次少納言着、^{右中辨小辨座}外記着、史着、次史生持印

盤、^{官符置印盤、辨史座中立敷、}請三印官符、^{無請}

次史生取印盤退出、次外記出、次小納言起、

次宰相退出、少納言外記還着本座、令封印退出、

給使云々、^{可有報縣歟、今}史致親請取官符、於左衛門陣外、^{夜無之可尋之、}

贖銅事給官符云々、可召三位記之由被召仰辨

云々、六位已下可着鉢居作其事、先々載官符云云、雖相尋不尋得云々、定不載歟、國司請取任法自行歟、

結政、主殿寮兼燭、外記座下部兼燭、

史文利先日不_レ禁國所進人、禁制官人云々、仍被_二召問_一進申文、今日可恐申之由被_二召仰_一了、

流人等中有_二逃亡輩等_一云々、檢非違使尋在所捕進之時、使可_レ請也、其間使隨身官符候_二京許_一也、

後聞遣佐渡二人、而一人其身見在、一人逃去、仍使於_二大津_一申_二解文_一、仍給_二宣旨_一云々、且隨身一人可_二

下向_一也、

廿五日、有_二僧綱召_一、源大納言被_レ候陣、左中辨仰

之、僧部賴壽、律師明快、已上御持僧、眞範、山階權別當已講難_レ至_レ所被_レ無_レ闕、至于御持僧、口有_レ例被_レ加_レ任、至于眞範、依_二其理_一在歟、此次廣算補_二內供_一、成典大僧都賜_二封七十五戶_一、

同是御持僧也、而所_二申任_一、淨土寺樂音院阿闍梨解文、慶
命僧正可_レ放者、大納言召_二內記_一被_レ仰、可_レ草_二宣命_一
由、前々代初僧綱召、雖無_二僧_一、_二畢_一之カ依_二內御物忌_一
由、正、猶以_二宣命_一被_レ行云々、內覽草々後、依_二內御物忌_一

書_二宿紙_一被_レ奏、以被_二清書_一、頃之侍從宰相參入、大納言給_二宣命宰相_一、給_レ之起座、出_二自_一敷政門、於_二門下_一賜_二宣命於少納言行親_一、相議云、今夜已及深更、雖_レ非_二穩便_一已非_レ無_レ例、明日可_レ向者、仍退出_二了_一、

廿六日、向_二綱所_一入_二自_一西寺西大門、宰相先被_レ參、

史季賴外記史生信成等候_二所司裝束綱所_一、以_二帷_一一字立_二北屋前_一、此正廳前中央立_二几子一脚_一、宰相料床子一脚立_二

几子東、少納言料平張辰巳角立_二床子一脚_一、史料版前立_二床

子一脚、宣命料其南立_二長床子二脚_一、宣命料先着_二帷座_一、次

少納言立_二座着_二座中座_一、乍_二居置_一、宣命料笏於庭右、讀_二宣

命、次起着_二初座_一、次相率退出、綱掌等候申云、宣命

先々置_二座中床子_一者、仍給_二綱掌_一了、

卅日、宮內膳御炊男申云、明日可_レ供_二忌火御飯_一、仍

今日可_レ候_二忌火殿_一者、案_二此事_一從_二昨日_一土用爲_レ之

如何、仍於_二院申_一案內於大夫、殿下大夫今朝令參院給大夫申云、

殿下給_レ仰云、件屋假屋也、不_レ犯_二土可_一構成_二之由

可召仰者、即召木工屬正忠、仰其由了、聞案內、
 件屋十月晦月作之、十一月十二月今年六月三度忌
 火、於此處奉仕、六月十二日壞之者、其期已定、
 不忌大將軍王相土用等歟、內膳大炊在高陽院殿
 北門東脇屋、仍造其前、以黑木爲柱、葺板藩
 四面、以切懸、有戸高與屏齊、其內居地爐、木工寮同
 作之、八足一脚、切机一脚同渡之、仰右衛門尉季任朝臣、
 令掃除其所敷砂、今朝召宮主兼忠宿禰、仰明
 口御贖物、申云、仰付下部吉正、參宮、召吉正、仰
 此由、申云、御巫宮主可進也、專吉正不可勤仕、
 仍差副史生重考遣兼忠許、兼忠令申云、御贖物
 吉正可勤仕、御兼忠可進者、謁院女房案內、
 忌火御飯并御賜物事參宮申女房、

六月

一口、早朝參宮令供忌火御飯、其儀采女一人、理髮
 取御口臺一本、參入御前、東廂南第二間女房傳取、陪膳益以供、不、理髮指
 叙只采女還持御臺參入、御飯盛中境、匏御汁物盛中境、干物四種盛盤、干鯛匏一寸許盛

之、鯛燒物盛之、御箸一雙不置、盃、酢盞同盛杯女房傳取、陪膳供之、次令
 取御三把給徹之、先御飯等居飯盤賜之、次
 徹御臺、至于御飯返給、內膳御炊令埋忌火殿、
 御菜采女以下、云々、件御飯菜內膳御炊男所勤
 仕也、御飯料從大炊寮計之、御菜料米三斗從廳
 給之、今曉口鷄鳴、以忌火炊御飯云々、舊記
 云、御箸二雙御四種云々、以賴輔朝臣蜜々令見
 大內、御膳所供如此云々、任其例令供云々、今
 夕御巫參入、供御贖物、官人代吉正相副供御膳之後、從御
 膳口方參入晝御座方、先供人形、置人形於中取者二脚居折敷、
 次廿八、二折敷以紙裹其口供了次第徹之、懸御氣返給、但掛以御人指一度衛穿紙
 其穴懸御氣、造酒司從今日供釀御口口
 八日、今日賜御衣於御巫云々、

廿三日、甲午請渡印、並始行請印、早旦請印目錄
 二通、一通被留、一通口日時勘文奉覽大夫、次參殿令御
 覽日時勘文目錄等、目錄呂兩拂次參宮、已刻屬重則、史生
 爲恒、外記藏人國光、職掌松枝召三人、布衣着冠、史生已下束帶、

職掌 布袴 向_二外記局_一請印、即有_二請文_一、屬着_二外記末_一、史

生藏人着_二一分客座_一、職掌已下在_二壁外_一、先_二是內匠

寮進_レ印、印盤納_二赤辛櫃_一、居_二史生座上案_一、大外記賴隆人加封、屬以下着

座、書_二請文_一之後、召使須_二使部役_一而以_二召使々々_一役也、取_レ印出、屬

等起_レ座相_二從於壁外_一、授_二宮召使_一、即出_二外記門_一北

行、東西折入_レ自_二朔平玄耀等門_一參廳、置_二印案_一、

着冠召使二人在前、次印着冠者捧之、職掌相副、屬已下在_二後、烏帽子召使四五人、在_二過路頭雜人_一、未_二二刻_一、亮、

權大夫、進、屬重則等着座、于時廳在_二襲亮座在_二東橫切_一、

南上西面數進座東上屬座北東面、印案在_二南面_一、座定之

後、史生爲恒捧_レ筥來、授_二屬重則_一、件筥返抄三枚目錄一枚

納_レ之、又封紙筆等在之、重則奉_レ覽、亮見了書_レ封返_二給爲恒_一云々、置_二筥

印案中階、先取_二出印並丹盤_一、以_二印櫃_一置_二中階端_一、

笏却行申云、救文三印捺寸、亮與奪稱唯捺_レ之、捺

了申云、印捺志豆又與奪稱唯、取_レ文置_二中階_一、取_二上

印櫃_一納_二印等_一封、取_レ筥退出、次昇_二印案_一立_二西方_一、

次居_レ饗机亮前屬、手長史生益供、一獻後汁、次二獻、次

起_レ座、西度大夫進_二勸杯_一也、印納_二襲芳舍殿內_一、次退出、今日亮

已下從者廳給_二酒直料_一云々、

廿八日、戌刻被_レ奉_二御供於賢所_一、豫令_二陰陽師勘_一申日

時、件物折櫃卅合押折櫃塗_二胡粉_一以_二金青雜丹_一繪_二蝶小鳥_一、廿合

自米四合紙合了、白紙一枚各覆_レ之、但生物盛乳_一居_レ之、廿合

物和布、鷄頭草、四合干物干鮭、堅魚、四合生物鮭、鮎、在_二折

敷一條白絹打、高杯四十本、及_二刻限_一乍_レ納_二長櫃_一運_二

置花德門邊、一々供_レ之、少進義清、少屬重則等、

着_二石束_一、行事史生冠役_レ之、女官等於_二溫明殿戌亥角_一、

傳取供_レ之、_二口口各賜_レ祿、五位女史一人絹三疋、六位女史

掃部女官十六人各疋絹、又賜_二酒一口蜜_一於女官、女史

命婦爲_レ申_二御祈平安勤仕之由_一、隨身神賜_二單御

衣_一云々、

廿九日、有_二節折_一、其儀如_二大內_一、但文人不_レ候、諸官不

事了賜_二單御衣於節料廳_一、備_二稜物_一奉_二臺盤所_一云々、

晦祓是歟、又廳有_二酒肴_一云々、御巫申_レ可_レ給_二御留

腕_一之由、仍尋_レ例問、充_二給_一給_二緋四疋_一、

七月

二日、壬寅今日午二刻、今上一宮有御元服事、加冠殿下、理髮頭中、宮御裝束、加冠間童御裝束、青色御袍垂髮、頻、加冠後、淺黃綾御袍、綾御下重等、玉帶淺沓、件御裝束殿下令奉入衣、加冠御祿、白大襖一重、御衣一重、二合、有囊袋入惟等、加冠御祿、加給青色也、左右御馬各一疋、允率、理髮、大襖一領御袴一重也、宮退下給後御裝束、有御拜、殿下候御共給、其後有加冠等祿、上達部着宣陽殿、饗辨少納言同着、如句一獻、少納言、二獻、少納言、成、次粉熟、召侍從、左大辨仰、次三獻、權左中辨食通、初孟起座、上卿中有上賜、可取氣色、仍體辨立、右少辨還來着座、無酒部所、出日華門、取坏、經南第一間未申角柱內、從壇北行內、兩府着座給、內府依座內不取、以配座可取云々、藏人章祐召諸卿云々、參入有獻物、藤大納言以下於花德門邊取之、本宮行事並諸大夫等傳授上達部、枝物廿、籠物廿、折櫃廿、上達部殿上人內暨取之、淺折櫃廿、依無所不行、件獻物枝物、內大臣藤大納言皇后宮大夫中宮大夫源大立之、納言新中將二各三、宰相中將二被奉仕也、籠物殿上人十五人勤仕、依院仰事云々、折櫃、近江、和泉、攝津、但馬、備前等、上達部着座、一宮同參給、次樂、左萬歲樂、守各以勤仕之、王、右延喜樂、地久、納蘇利、此間有叙品事、召右府被仰之了、右府下陣座被行位記請印事、次藏人範圍朝臣被

奏請印之間、班屯食、及暮之間、出印之儀甚狼藉也、被奏見參給祿、宮着位袍給有御拜、

有御遊事、次又賜御衣、亥尅事了、從今日於綏殿寮有宮御修法、今度始所被行也、大僧正勤仕、今夜被行也、始點在近付而相撲間、當月有禪之由、府官人有所申云々、仍改定後聞案內、御讀經出此府云々、

三日、一宮御方上達部以下參給云々、主上渡御中宮御方、入夜少將定房爲御使、持參御折櫃十合、賜祿枝物、殿上人悉取其爲云々、仍不被奉、依此事取爲人々有勸富云々、此中有流鳥等云々、甚無心事也、

五日、申尅一宮參院給、爲申御慶、又即出御彼院也、從陽明門出御、皇后宮大夫取御裾、藤大納言近候、奉仕御打羽、殿下已下上達部候御後給、至匣小路給間、御前等趨出、次殿上人、乘御殿下御車、殿下候御車給、從大宮北行、從上東門路東行、入御自院中門、於中門以藤大納言被啓事由、於南

階前庭中有御拜舞、殿下已下候、西對東西一給、拜了從對辰巳角階昇給、中宮大夫取御寄參御前一給、

七日、宮有乞巧奠、

八日、有政、左衛門督左右大辨右兵衛督被着、右大辨着結政一間、於壁外召出史致親給宣旨、

立替使代官云々、此間左大辨未替、上卿着廳後、安屬召使申返事、如

常儀、次有請印、有毀符、其儀橫置文上、上卿先以卷

次見、次見、見卷文置、次見、毀如元、請印了後、史生授、

於外記、外記置、宮取文、二枚作置、於左方、開見、御合捧申云々、文

二口口上宣被稱唯、押入成文下近代不被云々、此間史生納印、外

記取、宮、史生退出、初史生授、宮之後、史生例奉、(零イ)印板、可

之故、其儀今日可有署着言口口史生不候、仍稱、內召、招出、在少辨

取、其署云々、

十一日、宮御修法結願也、依神事不案内、於壇

所、繚殿結願、令持布施等向其所、束帶、侍一兩相

從、僧正白綾襪一重、番僧、各二疋、又有例布施、僧正米

五石、番僧、御卷數依神事不啓、可塗壁料給、本司、

依所狹、彼司壁也、

十五日、一品宮令奉御、給云々、先帝御料廿口、昨日

依復日云々、前齋院昨日復日、今日御衰日、仍不

被奉、

廿四日、甲子今日於殿有東宮可立給、定上之、內府已下參會給、丹波前司濟政執筆、召三時親孝委令

勘申日時、先是以右衛門權佐範圍被奏云、天

慶七年、貞信公於私第令勘申、寬仁元年、入道殿

令勘申給者、依彼例令勘申、歟、勅許勘申定了、

以右衛門佐被奏、日時勘文、即持歸參、

廿五日、於仁壽殿有內取、懸御簾於壇間

今日權亮邦恒朝臣召陰陽師時親令勘申、可被

發遣鹿嶋使日時、即以勘文先覽大夫、次覽

殿下、召權少進範基、仰可勤仕鹿島使之由、

召大內記孝親、仰可作告文之由、上東門院例以

常陸國御封十五烟被奉鹿島社、同國御封口口烟

被奉香取社、下總國御封被寄施藥院、而先例又

以各本國御封被寄者、仍此度以常陸國十五烟封

口人被奉鹿島社、以下總國御封口烟被奉香

取社、件奉幣行事氏宮司可奉仕之由有定、仍權亮邦恒朝臣所勤仕也、

廿六日、今日依甚雨相撲延引、以明日可被行之由、頭辨仰上卿云々、

廿七日、有相撲召合、其儀如常、右大將不被參、左大將^{内大}右宰相中將執奏、不召侍從、不賜出

居張延、中宮出御、朝間雨降、午刻^{天晴}依朝間雨、人多成懈怠、及未斜事始、及秉燭事了、

廿九日、有御覽、昨日依御物忌中日、今日所被行云々、先定以八月一日可被行、而三條院最

初年以八月被行、人々以爲非吉例、仍所被行也、相撲五番之後、追相撲等如例、今日不賜蒞

云々、今夕主殿内方出家、蓮昭律師爲戒師^{法名布戒助}施織物褂一綾褂二袴等、今朝依日次不宜用夜半

八月

二日、辛未申二刻、今日被立鹿島使^{權少進左衛門權少尉藤原範基}也、大夫參着御前片廂座、少進義清以清書告文

^{書黃紙、今朝召少外記眞任、}奉覽大夫、即仰可内覽闌白殿

之由、持參内覽之後歸參、傳申殿下仰旨於大夫云、

被奉金銀御幣五色御幣等、而不載告文、只載

被刻奉御封之由如何、大夫被申云、尋上東門

院御時例、告文之相尋被刻奉封戶上分例間、旬

月多過適尋得天德二年例者、即告文不載御幣、

別紙送文注載御幣等、彼時若隨天德例被行歟、

仍偏依彼例所令作也、隨仰可改入者、義清重

參申此由、歸參申云、任長保例以別送文可

被奉者、此間有御禊、掃部寮敷葉薦一枝於東庭

廳、立案、於其上、置金銀御幣^{鹿島香取各二捧、金合、開筥、五色幣、兩社各一捧、五色指色別八尺、}掃部寮敷

蓋置之、^{插御幣篋以白布裏之、}案面、^{宮主在、西、使在、東、}供御贖物、^{右中辨經長朝臣爲陪膳、右衛門權佐範國爲益供、}次宮

主兼忠捧大麻候欄干下、經長朝臣取之奉御前、

即返給、次宮主使着座、御禊了撒御贖物、次使範

基取五色御幣立、次置御幣退出、撒御幣及案、

次大夫召範基給告文、^{一通鹿島、一通香取、}次大夫退出、次召

權亮邦恒朝臣於御前、被_レ仰可召_二範基_一之由、即範基參入、候_二片廂_一、邦恒朝臣取_二御衣_一、二藍織物御衣、給_二範基_一、出_二東庭_一、再拜退出、權亮邦恒朝臣召_二小使史生

惟宗賴孝給_二牒七枚_一、一枚奉遣鹿島社、御封十五月封丁一人被_レ寄奉、一枚被_レ奉國社、御封御幣送文、一枚給_レ常陸國、御封十五月封丁一人被_レ寄奉、一枚被_レ奉鹿島社、一枚給_レ下總國、御封被_レ奉、一枚給_レ路次國、御封被_レ奉、御取社、其後使等退出、

納御幣御外居一荷_二合納鹿島御幣_一、少使史生惟宗賴孝、職掌一人使武正等也、御幣持鑑取二人前掃仕丁二人也、使已下仕丁已上、豫給_二飭物當色等_一、使以下准諸祭別手作布一段三丈當色料也、路次准擬至_二于御牒_一、使隨身下向、但前一兩日遣諭御云々、奉幣日不被_レ定_二仰行事宮司祿

事、尋_二前例_一不_二分明_一、藏司申云、無_二別祿_一者、此度無_二社司祿文_一、御禊以前有_二請印事_一、件御幣送文牒并賜_二二寮_一、以_二兩返抄_一、可_レ勘_二公文_一、由移文等也、從_レ殿賜_二御馬於使_一、并賜_二御教書於

路次國云々、今日主殿內方逝去、及_レ晚更令_レ改_二着衣_一、具_二袴四日、陰陽允榮親書_二葬送勘文_一云々、今日午四點造

棺、俗諺云、於家中不造云々、仍占_二子四點入_一、令_レ着法沐浴、義公勤_レ之、重高_二普口_一汲室町三條小路井水、炭來盛_二乳坑_一、居折敷、加_二少木枝_一授_レ之、義公取_レ之入_二自下_一、灑_二三度_一有_二詞_一、勤_二其事_一人々、主殿、淡州、義公、行信、實友、事_二了後令_一北首、及_二凡

九日、戊寅今夜主殿內方葬_二送船岡西方_一、壬子子四點出、向_二辰巳_一壞_二未申角垣_一、南大將軍遊行、西大將軍王相府北方、於_二山作側行_一片禮、炬火在_二御前僧前_一、舜世明世兩園梨爲_二導

師咒願、舜世雖_二下馬勤_一導、有_二休所_一、入_二車昇_一、事漸了間、以_二清火_一燒_二播勤_一內事者、淡州、信久、行信、義家并居爐間昇_二棺_一、天明後拾_二骨_一、先淡州義公拾_レ之、役

花堂、副_二詔諫料手作布_一段絹一疋、路付_二此事_一三味僧料敷_二德通_一消息於_二三味僧圓_一云々、於_二河邊_一乍車洗_二手足耳目_一、解除歸_二二條_一、

十日、早旦伴山御所北二町許、法師來鎮_二地_一、播磨守山作所云々、事了_二山僧二人_一、騎馬從_二西歸_一南、

十日、夜事有_二除目_一、大宰帥隆家咄去六月八日進_二辭書_一今日被_レ任也、播磨守濟政（家輪去六日家開葬送以前也、）山城賴職_二取大_一監物_一長門資平、山城信事後三年壬子頭仲飾、今日有_二行幸試樂_一云々、

十一日、庚戌賀茂行幸也、自承明建禮待賢等門出御、自大宮路北行、從一條路、東行、着御下御社

御、左衛門陣佐不候、佐經季爲舞人、權佐隆佐朝臣暇、右兵衛陣佐不

候、佐朝棟城外、權佐正兼暇、諸陣佐不候、時雅謂、舞人陪從改

入他人、猶可令候陣也、鈴印在_{○右}大將御前、諸卿陪

從在殿上人後兵衛陣前、雖謂殿上人、不結唐尾、皆着深衣、前々或着靴結唐尾云々、

殿下御三車御前也、中有着白色之下襲者、不可然

歟、舞人之中可然年少君達有雜色、年長下薦勲

雜色、又不可然事也、舞人_藍下襲陪從_{黃朽葉}、人長右近

將監持宣、裝束如例、着深衣、乘無泥障馬也、無御神樂云々、神樂

是夜宿所事也、而件行幸度々有神樂云々、而此度

不被行、無神樂、時人長候否可尋也、

十七日、丙戌天晴、今日有冊命皇太子事、

九月

四日、有帶力試、去夜有流星天變、

五日、有東宮行啓、自大內出御、上東門院也、

七日、有陣定、大宰府推問使事、可被問咄流星事、可有奉幣云々、流

星事可令諸道勘申、由有仰事云々、

十三日、有八省行幸、左宰相中將長賴爲勅使伊勢、

今日依當故宣旨六七日、囑真律師令供養佛經、

二幡阿彌陀三尊色紙摺、經律師廿正、鈍色綾襪、香軸中小表紙銀布之、布施一重四僧各四正、

預_正、但義經心祐公等不着_{請僧座、思召聽此座後返之}八人、僧供於東西設之、

堂莊嚴撤簾懸幡、立禮盤輔長莖本佛東、並立

新佛東方修_{手作布}諷誦_{廿段}、

十六日、乙卯於尊重寺修故宣旨法事、請權僧正

仁海僧都等供曼陀羅、禮堂內佛面東西間懸兩部曼

陀羅_{東胎藏、西金剛}、其前各設道具、胎藏界壇上張蓋懸

幡、其幡色隨_西方角懸之、東脇机置金泥法華經

具經等_{有共續寶}、願文同置此机、金剛界依無壇蓋不

張_{欲移張處雖不張}、佛供阿伽一列居之、仍佛供多

減其數色、一同用赤、有壇敷絹、禮堂一行敷紫

端疊爲讀衆座、但胎藏界讀衆中有蓮昭律師、仍

東橫切敷高麗端疊一枚、但金剛界時撤件疊、以紫端疊、當壇前一行鋪之、口疊爲金

剛六人座也、南庭退東立誦經帳、以東廊爲權僧正房、

其南廊設童子等所、以西廊爲胎藏界讀衆房、其南廊爲同從僧座、以常行堂南口爲僧都房、西底爲讀衆房、法花堂南設同從僧座、同東底設僧都童子座、禮堂東馬道爲人々住所、日暮奉僧供、後權僧正被向三南中門、右道將監扶宣取蓋候、着裝讀衆集會後爲先三下薦一列槌、鏡頌讀入堂、執蓋者從行道後着禮盤、座定後此間燈臺二說法誦經如例、下薦讀衆分三僧正律師前經、自餘堂僧引之、但僧次供養法、其綱料堂僧持之、在讀衆後誦經文、同僧奉之、參房奉之、絹五後行道之出、僧正御布施主殿頭令持、參房奉之、絹五足綿三屯米十石、請禮六口足綿二屯米五石、自餘絹六足綿二屯米五石、布衣人々置仁海僧都入堂、讀衆爲先三下薦左右相分、袈裟、打饒鉢、頌讀、扶宣差蓋、師蓋所隨身也、右近將監、右近府生扶武張蓋、岡官人代忠武則永秉燭前行結髮頭着尻長袍、童二人執玉幡在左右、十弟子一人、次螺在後、昇壇後執蓋退、口口着禮盤、次着禮盤、次持金剛六人行道、此間以玉幡立禮盤左右、其後着座、頃之隆範阿闍梨起座、敷草座於前、所作了後還着本座、供養法了先

置讀衆布施、六足二次尊師布施、廿足廿石、換從僧、執蓋等又進作法如入、次引誦經物、依入夜明日、有大堂供濫僧侶口等、今日誦經、殿北政二、本家、行、淡州、同內方、大膳亮、合百段也、但本家二百段、從殿以孝親朝臣被訪仰、又給絹五十疋云々、今日有陣、可被問咄事云々、推問使向家、佐可問若稱、除不相會、已下可問家令、家令依不可口口者、依流星有恩赦、內記不候、左少辨書詔云々、免物不被仰使、後日成勘文可免者、但先例恩赦之時或被仰云々、十七日、今日齋宮從大膳職入御野宮、出御自侍賢門、從一條路東行、於同東河原御禊、從二條路還御、入御野宮、今日儀如常、百官六衛府判官以下一員供奉、大納言中宮中納言新也宰相中將中右四位四人、定長、其經、保家、五位四人、經家、長季、基朝、定季、及前後次第等任例供奉御與後別當左近中將資房朝臣候之、其後引威儀御馬各一疋、有口御馬出車六兩、但童女不候、裝束忽以相違云々、騎馬女房有其數、飭馬童女泥障供奉、上卿以下四位五位次第、五位六位皆着杏葉、其口々者不着、

別當着之、衛府尉志^{平裝束}曲侍候之、所衆不候也、

廿日、宣旨正日、淡州修之、極樂變色紙經、存日願

等身古金色藥師佛供養、源泉法橋爲講師、布施等

事如去十三日、但以^三屋裝束爲^三噓嘍物、

今日八十嶋祭使者、典侍三位藏人^{左衛門尉章經}皇后宮中宮

東宮屬各一人、宮主御巫等、各相加令持御衣、山

城攝津依例供給諸宮祭物、右宣旨中舖司備之、本

宮不知行給、佐同、別勅使云々、

廿五日、八十嶋祭使昨日歸京云々、中宮使重則爲

勅使、藏人被^三凌礫^三有^三愁申事^三云々、固祭設祭場

熊河尻而神司宮人申云、例於住吉代家濱祭之

云々、仍忽召夫馬運祭物、使等騎用向伴濱祭之

云々、

廿七日、有宮定考、先亮大進行親少屬重則着座、

^{權亮不}着^レ之、順々重則、史生資親、賴宣等三人取^レ筥^{一人紙}、

机^{一人}、列立南庭、亮召、稱唯昇、一々置亮前退

出、屬着座、亮以紙筆見合札、以冊筆書札頭、

了後屬重則召史生資親一聲稱唯出來、撤筥退出、

^{一人取}筥^{不記}、□□□請印、此間權亮少屬良節着座、請印了

^{無請印目錄}只捺^{考文也}、有^三饗[□]、一獻^{大進行親勸盃}後汁物、次起座、

於御前有^三所宛事^三、其儀如^レ例、^{但不}□□□□宛文

行親覽^三殿下^三、今日有^三內文^三、^{右神寶結政請印、字佐使}□□□□

□□部卿被^レ行^三內文^三之間、官符留^レ座給、少納言結

政、右大辨着云、□□□□生着座、後史部持^レ筥來、

不^レ似^三前例^三、件請印多當日行也、□□□結政歟、然

而先朝御時有^三此例^三云々、今日有^三宇佐使儀^三、內藏

頭設^三使[□]用^レ机云々、丹波守設^三殿上饗^三云々、□可

出口爲事也、

十一月

一日、平座如^レ例^{左衛門督、左右大辨、侍從宰相}、至^三于口獻^三、左中辨可

勸杯、去^三猶豫之氣^三、右大辨被^レ示云、轉盞之間可

無^三使者^三、仍右少辨重欲^レ折間、權右中辨以^三內豎^三

示^三案內於左中辨^三、可^三參着^三之由也、右少辨已起^レ座

了、然而可^レ勸盃^{之由示權辨}、仍□勸杯、^{着座之後、又起}

行歟、外記實政覽見參等、上卿卷籠下給、而外記
取_レ出祿_二法、權_{□□}卿被_レ答_二不可_レ然之由、似_レ直_二
上卿之失禮、書_二其事等、甘心本已多有_二橫判_二云々、
上卿被_レ奏見參、被_レ還着之間、外記從_二壇上_二參入、
是雨儀路也、失也、

二日、中宮大夫被_レ行_二位記請印內文_二、辨被_二仁王會
闕請_二、依_二雨儀_二少_{□□}、經_二春興殿廂_二、從_二宜陽殿南
第一間後砌上_二北行、從_二軒廊南砌_二入_二案間_二立_二位
記請印_二之後、覽_二內文_二如_レ例、但出案東經北砌
宣陽殿壇上參入今日殿
上逍遙、參_二齋院_二、參_二宮云々、大和守義忠書序代_□
{□□□□}淨水歸{□□}參大內之間、參_二中宮御方_二有_二杯
酒事_二、有_二五節定_二云々、

五日、亥酉今日一代一度仁王會也、着_二東廊座_二、從慢
東南
行不下榻、左中辨同是中置衛云、_□座_◎度々間
入出_二於薦上_二揖、跪脫_レ香着座、辨_□面_二少納言東_二、次出_レ居入_二
樓東門、從_二壇上_二北行、入_レ自_二座南間_二座、上卿着
座之後、依_二宮行事_二不_レ待_二行香_二參宮、候_レ宮間、依
_二有_レ催參_二外記_二勤_二勅使役_二、廳前設_二平張_二、前有_二少

納言外記座、少納言別座、依_レ勤
使歟、西戶着之、後有_二史生座呂使勤_二、堂童子、講
闕日記本黒川
本並缺注文、

太政官候廳

修仁王會

講師年曆

々々々々

々々々々

々々々々

右於_二中世_二六講之內_二一講朝夕_二座所_二修如_レ件、

長曆元年十月五日

勅使正五位下行少納言兼云々

歸參勤_二南殿行香_二、今日宮仁王會裝束、弘徽殿東廂
四間御簾、母屋并東廂南妻戸每_レ間懸_二幡_二二流花鬘代
板、但懸間不
懸花鬘南第三間懸_二佛像_二、以_二紙捻_二結_二付御簾其前立_二香花
机、其前立_二佛供机、飯二杯、柿二杯、
粉餅二杯有_レ鹽其南北立_二燈臺二
本_二供_二燈明_二、有_レ打其前立_二禮盤二脚、其南北立_二高座
二基、有_レ前机前垂等_二南置_二元
順經上卷、北置_二下卷件等机高座等皆有_二下敷少

庭、寺部寮、南戶前敷^{◎門イ}、南面端疊一枚、爲^二咒願等座^一、北

御障子前敷^二黃端疊^一、爲^二法用座^一、立替件、當^二佛前^一、立^二

行香散花机、南第一間第二間敷^二緣端疊^一、爲^二公卿座^一、

座東有、東簀子南第一間第五間敷^二少庭各一枚^一、爲^二堂重

子座、東片廂敷^二疊^一、二行數之、上達部、居^二饗饌^一、用^二机

申二刻右兵衛督着座、次僧侶參入、七僧皆召用僧侶、次堂

童子參入、右少辨定親、少納言經成、右朝講了退下、次夕

講了行香、此間上達部被^レ參、時長延任取^二火舍^一行

香、賜^二僧祿^一、講師大猷一領、六僧白襦各一重、口下文簀賜童子了、大夫已下上達部

取^レ之、殿上人傳奉、次上達部被^レ着饗、一献之後

汁、下^レ箸之後上達部被^二退出^一、撤^二御裝束^一、進奏亮爲勅使一加

名、

中宮職

請^レ修^二仁王會一堂^一事僧名如外記、但不注寫一

右依^二官宣^一所^レ修如^レ件

官行事所^レ進布施飾^二置香花机^一、御佛經咒願預行佛供

職掌奉^二仕堂^一、具請^二申殿^一納^レ殿、

六日、甲戌今日藏人右衛門督章經被^二除籍^一、依^二中宮

屬重則事^一也、權右中辨依^二仁王會不參^一、可^レ進^二怠狀^一

之由被^レ下^二宣旨^一、

十一日、巳卯御賀茂詣如^レ例、左少辨定親、少納言

行親、左大史義賢、大外記賴隆候^二御前^一、右、少納言巡

方、帶^二時輪銀黑地袈少

總轡、并用^二楚歌^一之、

舞人近衛司者上社有^レ饗、

十四日、壬午從^二今日^一殿下令^レ行^二大般若御八講^一、給

一卷^二覆

廿卷、伴御經少字也、納六百卷爲^二卅卷^一、一卷覆以^二十

卷^一納^二宮一合^一、以^二宮三合^一納^二大宮一合^一、以^レ錦各覆^二

大少宮、居^レ案、其前立^二花机^一、皆有^二敷物^一、以^二三件机

等^一立^二花足臺上^一、以^二錦地敷^一敷^二其下^一、御經十卷香染表紙

卷背表紙琥珀帶淡組、十卷紫表紙水精軸紫淡組^二寶組綾口^一、各

相分納^二御經少宮^一、一合銀、一合^二一合香繪時繪^一、大菩薩繪也、其

北安^二置御佛堂^一、莊嚴儀如^レ例、經素着^二束帶^一、有^二三行

番^一、堂童子御願文義忠朝臣作^レ之、請僧^二證議者權僧正、

源心、桓舜、齊慶、貞範、蓮昭、講師故四僧都

寺、律師源泉、法橋推命也、以十六會日分四會一人、釋

二會有^二論義^一、疑字一、上不

十五日、今日被_レ分_二褻法服_一。平褻裳、橫被差貫袍、第二單差貫、自餘僧綱薄紫褻裳、綾赤色袍裳、綾純色袴差貫、凡僧無文、薄物純色褻裳、無文純色、褻裳袍裳、無文差貫、各有裳之。

以_二諸大夫差_三各房_一、今明日着_二件裝束_一、今日上達部

以下宿衣無_二堂童子_一、於_二西對南廂_一有_二御設_一、內府參

給、

十六日、如_レ昨、

十七日、結願、如_二發願日_一有_二御誦經_一、行香之後賜

_レ祿、薄色綾襖各一重、絹米各有_レ差、

廿二日、依_二流星變_一、於_二八省_一被_レ行_二仁王會_一、於所々院宮被_レ

行、有_二行幸_一、其儀如_レ常、但有_二鈴奏_一、供奉之人着_レ靴、

以_二高御座丑寅角_一爲_二御所_一、諸僧從_二東西_一參入、威儀師在

前、昇_レ自_二東西階_一、雅樂寮諸大夫酒部所等在_レ前、

舞人着_二色裝束_一樂人端前、(○冠イ)有_二惣禮_一、僧於_二座前_一禮、上達部已下

於_二庭中_一禮、皆有_二座東_一、上達部、次辨少納言、次外記

史_三行候_一、壇下有_二百官座_一、上達以下皆置_レ笏解_レ、御屏着_レ綾有_二辨少納言

出居_一、式部彈正候_二朝座_一了、僧侶上卿退下、夕座如_二

朝座_一、堂童子束用可然、經藏人諸大夫、而如_レ例用_二忠明時親等_一、行香了賜_二布施_一、上達部

辨少納言外記史取_レ之、西南方殿上人取_レ之、但大臣大納言辨少納言傳取奉_レ之、自餘外記史奉_レ之、上達部着_二東廊座_一、但夕座之時不_レ被_レ着、

廿三日、行_二幸女院_一、於高陽院有_二此儀_一其儀如_レ例、被_レ行_レ賞、

正二位經通、從二位隆國、從三位_{通房}、正四位上行任、從

四位上_{上別當}、已_{定任}、正五位下_{隆經}、從五位下_{貞章、賴成、已上判官代、}

廿七日、今日上東門院主殿所舍人入_二去_一中山女房局_{ナシ}

殺_二傷女房二人_一、一人小貳命婦、一人少貳女子、件男成_レ犯之後逃去、中

臣有武_{東宮藏人隆方}、雜色男也、於_二河原_一射留獲_レ之、則下_二給獄所_一、

官人等切_二其手_一、翌日死去云々、件所犯之根源故賴貞

朝所候_レ院、其從者日者逃隱、世之所_レ稱武州殺_二件女_一

也、仍爲_レ雪_二此事_一、召_二具女_一、仰_下可_レ進_二件女子_一之

由、令_レ候_二院廳_一主殿所舍人、件女兒也、丹波守行任

召_二此男_一仰云、可_レ召_二進件妹女_一、不_レ然者可_レ給_二獄

所_一者、聞_二此事_一、去_二其所_一、尋求之處、入_二院中_一者乍

驚尋召處、入_二武州局_一殺_二同宿女房_一也、少貳女子重

服也、武州同重服也、仍見誤所爲也、母制_二此事_一問

被殺也、即乘車出了、但依有穢參入之人々不昇殿上、上達部殿上人諸大夫上中下濟々焉、

卅日、捕犯人有武可有賞也、被召問處、申云、至于身殊無所望申、父吉重年已老、無所帶職、欲被補民部案主史生者、仍以吉重可補史生之者、以右衛門權佐被仰民部卿云々、

十一月

四日、今日於殿有中宮行啓定、大進行親執筆、源大納言右兵衛督被候矣、已刻三位中將參陣給、御前五位六人無礙隨身、

着陣并宜陽殿給云々、宜陽殿裝束事被仰右大辨云云、

今日除目也、中宮御給^{最初}、名簿大夫不被參、仍權大

夫無加封、

橘義濟座右一同、上臈藤原義實在其次、口同蔭子也、以三年齒義實雖有所申、猶以上臈所給也、

今日右衛門權佐隆佐、右衛門尉成通、左衛門志忠方、

向前歸宅、

皆束帶騎馬、所司雖立、床于於彼家不立云々、

五日、除目入眼也、

十一日、今日被聽昇殿、少舍人來差、杯酌之後給

絹三疋、仕人同開座、賜手作布五段、來殿申祝、參內以典藥助章祐令奏慶問、食湯漬退下、參宮御方退出、

十二日、參內并殿、

十三日、早旦參內、三日之間不賜障於於口所、晚

來參殿、令奉仕宮御裝束、今夜亥刻宮出御高倉

殿、依可有御座有饗饌、女房衛重賜屯食於所

所、於東對上達部座、殿上人在西并南廂、侍從諸

衛佐在廊、事了賜祿、

上達部大儀、次爲黃袋殿上人正絹、諸衛尉志府生正絹舍人信乃布、

主殿官人大舍人如例也、

今夜候內宿、

十四日、關白給退出、內一云、案內於侍中不觸

陣、依凶會日之、

十五日、五節參入、

新中納言、右宰相中將美濃守、備前守、

出御帳臺、其儀

如常、

十六日、御前試、今日初供膳、朝夕供之、

十七日、童御覽、依有制不着紅色等、殿上人參

宮、着中院神熊座^{辨在東}、依有所憚不昇神座、辨宰相昇之、

十八日、節會如常、今夜大威儀師覺照房燒亡、寄宿之人甲斐守永職母燒死云、

廿二日、試藥、今日被下除目下名、及二十餘日、希代之事也、

廿三日、臨時祭、

廿六日、御書所有作文^{脩竹錄於松}、殿上人兩三献、今夜右少辨子加元服、宮内卿爲加冠、

十二月

七日、今日東宮於院有御拜、於簀子敷有此事、其後參御前給、今日東宮御使^{侍從信長不帶額}參一品宮御

方^{有舍人於東戶下}以^左右中辨^{不行}令申案内敷

座於東戶前^{疊端}、次使參入皇后宮大夫、取御書

參入、數巡之後賜祿^{女裝}、少舍人^{二正許小舍人於}

九日、於陣被定^{但馬前司事}、上達部定申可被

免之由、仍可召返之由被仰下了、即成官符

於結政請印、

十三日、庚辰今日亥一刻一品宮有御着裳事、^{即今夜參東}

宮給也、其儀寢殿東三間爲御在所、御裝束體如常、但

南庇辰巳角間立五尺屏風一帖^{南北}、其前立三階御厨

子^置香取筥等、東面御座北如例立五尺御屏風、

二階御厨子者置御櫛筥一雙卷紙筥等、及昏黑間、

宮御使右少辨經家參入、中宮大夫於東對唐廂行御

書致持參、頃之召御前^{寢殿辰巳角}、給御返事祿

物等^{先列今日無御返事、然而由七日已後無吉日、仍今日有御返事也}、小舍人祿如前、但

無杯酒之事、次關白殿令獻御裝束二具^{立中}、御

衾二條、次三位典侍參入、候北渡殿、豫立屏風几帳、

敷茵疊等、理髮小節折同以參入、及刻限召理髮

者於寢殿辰巳角間、令參^{少納言行親、越後權守兼安行}、次三位參入、奉理御

髮、關白殿奉結裳腰給、御座前敷茵一枚爲殿下

御座、次三位退下渡殿、賜祿裝束一襲^{紅梅織物五重、唐衣蒲蜀染織}

物五重、別紅打襖、薄色綾袴、蘇芳綾襪、紅單袴、藤宮入帷裏等、長絹十疋、^{右宰相中將頭}次供

御前物御臺六本、大四、小二、有打數、右兵衛督爲三陪膳、殿上人

四人已下益供、從三南面供之、次被奉三殿御祿、赤色

織物唐衣、蒲團染織物五重、襖子同織物、紅打衣、口單袴、御達物御帶、鷄形入袋納、苜以青薄物裏之付、銀松枝、中宮大夫右兵衛督被

之取、次上達部殿上人祿、內府大祿一領、織物五重襖一重、人々自餘大祿一領、殿上人正絹也

退出、次參御、以三寢殿西二間爲三東宮夜大殿、有御

使、女房賜三女裝束一襲、關白殿令候給、懷三御沓給

云々、以三殿御衣覆之、三日不動、又有三三三不

消三御殿油者、

十四日、上達部被參有饗、右之饗屯食、如昨供三

御前物、侍從宰相爲三陪膳、

十五日、今日有御使、昨日依欠日、無此事也、上達部被參、昨

今殿下御直衣饗饌如昨、一兩巡後權亮通基爲使參

入、小舍人持三御狀、在前、雖帶銀、內府示給可解之由、左中辨申事由、數座於東月前御

使參入之間、杯酒如常、及三昏黑、間賜三御返事、即賜祿、女裝束

二疋、次供三御前物、左大辨爲三陪膳、入夜後人々退出、

今夜供三御餅、亥刻供之、民部卿所被勤仕也、銀花足盤盛、餅四杯、作洲濱立、鷄令持、銀御簀、納螺鈿沈香盤、

若有編折立、殿下令供給云々、

十八日、故保資朝臣宅燒亡、院西、中宮東、依三所申三

近邊、上下騷動、院東宮一品宮齋院皆御三御車云々、

十九日、今日東宮始渡三御一品宮御方、申刻許渡御、

殿上人從三北廻參、有三上達部殿上人饗、又賜三院飯於

殿上臺盤所、欲三還御三之間賜三上達部祿、還御之後賜三

女房祿、次賜三女官祿、以三絹付三大進範國朝臣、

廿口日、有三位記、召辨、一人不參、少納言二人參

入、上卿一人被行云々、無三請印、仍外記結申了、次

申無三印文三之由云々、

廿六日、有政、內外文、史生先覽三內文、次覽三外文、那撒三

內文、有急書、史生申三急書三之後、少納言待三持來、

從後見了即入、今日越前國實錄帳不與狀并二卷

明日可奏、仍所三口三之也、雖無三例佐殿御氣色所

令三申也、

廿八日、有三三番申文、須三明日三可有此事、而上卿

皆有障、明日不可三參着、仍所被行也、

卅日、追儼也、亥刻着三南廊座、時刻中務省進三分配

簡、承奉_二上卿_一、上卿被_レ傳_二宰相、宰相傳_二辨少納言_一、
見_レ了返_二進上卿_一、上卿給_レ承、承授_レ錄令_レ讀之後、陰
陽寮進_二弓矢_一、次方相入、入_二承明門東戶_一
宣命後經_二敷政宣德等門_一、從_二溫明殿東_一入_二仙華門渡
殿前_一、從_二麗景殿納殿前_一退出、上卿以下從_二馬道_一出
來、

右一卷以九條殿御藏本(修史館御借入)一校了、外題ニハ行親記トアリ、

明治十五年一月廿九日

源 忠

積 興 勘

書籍目錄云平記左衛門權佐行親武藏守從四位下

行義男

玉葉曰安元二年十一月廿二日已刻少納言信季來

申元三之間事中略依申請行親記十一卷借與信季

彼家文書也而相持云云余不慮自凡下之人手所尋

取也信季大悅

助无智秘抄曰卯日 承暦二年平時範布袴ヲキルア
ヲイロニモヘキノハムヒナリ是平行親例云々

天明八年十一月 縫殿頭兼大和守積興

右平記一卷以積興宿禰本令書寫訖

寛政八年正月

藤 原 以 文

殘闕日記本奥書

此書原本誤字多一覽之次以愚按朱書于旁猶他日得善本可校正者矣

以 文 重 識

宇治關白高野山御參詣記

永承三年十月十一日、
 □子、□□□□□□□□
 左方

廟令參_三紀伊國金剛峯寺一給、供□□□□□衛門督

隆國、中宮權大夫經輔、□□□□□□將隆俊朝臣、左

近衛中將定□□□、□□□□定經朝臣、伊豫守範國、

備後守實範朝臣、前丹後守高定、

前越後守口良、前因幡守俊經、前能登守直方、掃部

頭□□□、前□□守貞章、筑前權守資成、駿河權守

爲仲、左衛門尉貞叙力夫等也、此外圖書賴輔、散位

清資實殷 口口國重、興藥允粟田憲重、主計允惟宗漢

大藏丞中原成則、典藥允惟宗經所司、雅所司、右兵衛

尉平扶永德曆令就三職掌一加三供奉之烈、大僧正明尊、

權律師長算、阿閣梨行口祇候、

曉更出御、御車上達部已下着三布衣一前駢、遲明於三

渡一遷二御々船一宇治殿前備後守長貞朝臣先年所造也而皇
漸隔、莊嚴頗棘、仍爲宛此度御用一新所修飭也

御衣櫃料一艘、大和守賴親朝臣造進、藏人所船一艘、召用播磨守行任朝臣槍皮葺平太、

僧料三艘、檜皮葺二〇〇〇殿一艘、寶殿三艘、政所三艘、御

隨身所一艘、僧料副船三艘、
已上十一艘、檢非違使右衛門
志村主重基奉_レ仰、仰淀山崎

刀禰散所等、令造板屋形、前日遣藏人所司内藏允藤原良任、與重基相共令分充件船、以棕橋御庄夫卅人、攝津大江御厨夫卅人、

分給ニ水手等、桂鵜飼廿艘宇治鵜飼十四艘依レ召候ニ御共、始白□船並
支_三配船々々令_ニ勤役、送以_ニ近江國司所進白米卅斛、分充_ニ僧供料、并

充道間 卯刻着御山崎南岸、□□留御船、着御衣冠、

更御_二御車_一令_レ參_三石清水_一給、前駟之中範國朝臣一人

着_二宿衣_一、依_レ勤_二仕陪膳_一也、於_二宿院南橋下_一有_二御

稜、橋上敷長筵、其上裝高麗端疊二枚（常寺）、諸御手水御稜具等、政所儲之、主稅頭時親、知家事內藏屬息長利着束帶、時

親令申云、先於例被戸雖有
被、依法眼清成申、奉仕此處者、御被畢、令參進社頭給、

至于時親、自_二先着_二御々休幕、御在所辰巳角頃之令_レ着_二寶

殿御座一給、中門西廊二間四面懸御簾、御後立五尺御屏風、其内裝御座、供御菓子塗高坏四本、中門東廊鋪亘長筵、其

上鋪高麗端紫端疊、爲上達部殿上人坐、坐後立切五尺屏風一帖、同儲菓子（高坏二本）諸大夫料交菓子等餽御休養、於

寶前一令_レ奉ニ御幣一給、
金銀各三捧、至于白妙御幣一
 豫置ニ御棚、金銀幣莒同置、
 御拜畢、

別當兼任傳賜、奉_レ置_二御前_一傳_二祝祠_一、即賜_レ祿、自御一重着_二

御御坐、召ニ法眼□□ニ同賜ノ祿、銚色綵襪一重、況僧俗所司等

賜_レ祿有_レ差、

© 2006 The Authors
Journal compilation © 2006 Blackwell Publishing Ltd

© 2006 The Authors
Journal compilation © 2006 Blackwell Publishing Ltd

© 2006 The Authors
Journal compilation © 2006 Blackwell Publishing Ltd

© 2006 The Authors
Journal compilation © 2006 Blackwell Publishing Ltd

權別當二人、俗別當一人、神主一人、單衣一領、

修理別當一人、上座二人、寺主二人、

都維那師一人、倉一修代、用足續、神主之中賜信布百端、膝突

口仰

辰刻還御橋下、移御播磨守行任朝臣所進新口

船、先二艘渡所將參也、船隱所廣宛如樓臺、上葺作鴛鴦之尾

形、塗以空青綠青之貴丹、四面垂木、左右高欄皆塗朱砂、多打

金物、況翠巖畫障之防、黃頭棹郎之儲莫不事而非獨、凡非露泉日

觸事得便宜、提取四人摺染襖、襖袴着蘇芳領、水手十人紺目染狩

衣、袴紅色、惟已上着草襪、櫓梶棹等併用、添軸體四角、居草敦代

之箱、其內納紺濃布、四面雁齒下引廻紺布、以色々糸綴、海生

之文、體方一面立櫓五枝、江岸盛集之

男女、不彈制止以之爲壯觀矣、贊殿供御膳、并儲上

口部已下饌、丹波守章信朝臣諸御飯、御菜御菓子等、豫所渡也、藏人所并御隨身所

料同儲酒饌、此間法眼清成獻御菓子、盡折數并別高坏等、不經

幾程、令給河水甚淺、往還停滯之由依有其聞、兼遣

大藏錄重高、召便宜人夫、令堀淺瀨、尋流口立

標、就中乳牛牧前水絕瀨改、彌有往還之煩、而江

口瀨間、以葦拊垣、積柴候堰、河流決移、已如舊跡、重高獨棹舳艫、近候御船之前後、每所稱已殊功、即蒙淀供御所執行可歟、勤仕之定、伏地再

拜、仰天彌甚、此間江口崎遊女等舉首參進、還御

之次可參之由各賜戒返遣了、過御長柄橋下之比、

漸及昏黑、鵜飼等各燃笹井火、普照行路、入夜

着御熊川、國司岸山作萱葺雜舍一字、爲行事所、

其西五六段許拵廻葦垣、爲御船寄所、爲禁察口下

往反之道也、御膳、上達部殿上人饌、僧綱料等、國司

儲其料材、緣付贊殿令供、今夕明旦料、此外饗七十前、

一度、秣二百束、千萬万把、宿料、同所儲候也、屯食十二具

真飯等、召御領所名、召夫五十人馬卅二疋於國司、

馬廿疋、僧三口上下某人料、十二疋、兼口遣案主々稅史生御野

御誦經口布等運料、夫口給所々料、泉敷、御宿所雜事、

信光、令催行當國並和家、泉敷、御宿所雜事、

一度御儲所入雜物等

饗七十前國司儲

藏人所料十六前 侍所六前 御隨身十前

政所二前 上達部共人十五前一所各九前

殿上人共人六前一所各 僧共人十五前一所各

屯食十一具召領所、

贊殿一具、政所一具、小舍人所一具

御厩一具、上達部共人三具、僧共人三具

雲飯四百〇三万五十二果召御領所

贊殿十果、政所五十果、御隨身所卅果

御厩卅果、小舍人所卅果、上達部共人六十果

殿上人共人卅六果、僧共人六十果、諸大夫從料百

果

侍從料卅六果

秣二百束、葛万把國司儲一宿料

十二日丁丑天晴、曉更自能口令廻給、大江御厨司

忠光引率下司等、每手秉燭近候御船邊、爲路指

南、宿霧漸齊朝陽初昇、頗雖有西風之氣、波瀾已

收海上甚穩、辰刻於住吉濱暫維纜、著御衣冠令

參社頭給、卿相已下乍着布衣、浮雲按轡、半漢

執鞭、綾羅爭粧錦繡驚眼、村邑之男女或走騷松

柏之蔭、或交集離垣之內、偏宗見物、殆忘禮節、會

同之響、衆蚊作雷、神主保忠迎參秣戶、雖儲候

御座、依先定無御秣、直進令參御前給、當于

寶殿庭中鋪長莖二枚、其上鋪高麗端疊爲御座、

東奉幣金銀御幣、於白妙例幣、豫置寶前、御拜了、神主保忠賜祿白祿一重彌宜

絹、其次叙爵之由被召仰保忠、大膳大夫範永朝臣傳仰其由、保忠奉

仰再拜、不知手舞足蹈、還御之比、浪花重々忽呈

一清之色、松風颯々自傳千年之齡、觸時之感自然

相應、保忠參御船之邊、獻菓子百合白米三斛御酒

三樽白炭十荷、於和泉國石津湊令用御馬給、西

風尙不止、前途依有憚也、元水手狹抄之外、御厨

人夫相共隨御船、共可令曳入湊內之由、召忠

光賜其戒了、

午刻着御會禰御借屋、去石津廿餘町、雖和泉國內攝津國司

勤仕御宿所、并御儲御料并上達部殿上人諸大夫僧俗

之外不及廣博、秣葛少々所儲候也、口昏着御日

根御宿、造立五間二面檜皮葺屋爲御在所、制南

庇東行立三間廊南在此、爲諸大夫座、制北庇東行立

三間渡殿、爲御屏風御几帳御座、一向國司所儲候

也、觸_レ物極_レ美、每_レ色盡_レ善、惣非_二一國之力_一、上下驚
感、就_二中地形之爲_レ體、西得_二蒼海_一、南面_二青山_一、長河
廻_二其前_一、孤帆去_二其間_一、四望眇然極_レ目、衆心悅豫致
_レ感者也、其東町餘拵_二廻柴垣_一、其內造_二並數屋之薨_一
爲_二贊殿政所御隨身所小舍人所御廐_一、此外區儲_二上達
部殿上人諸大夫僧宿所_一、御膳并上達部殿上人僧料、
自_二贊殿_一令_レ供諸大夫已下饗、國司所_二儲候_一也、自餘
雜事同前、國司別供_二御菓子廿合_一、

十三日戊寅、天晴、早旦令_レ立_二御宿_一給、御膳、并上
達部殿上人儲所々饗、屯食等、如_二去夕_一、午刻着_二御紀
伊國市御借屋_一民部卿所領邊去_二噫嗽山之南卅許町_一、木御川
之北不_レ經_二口_一、占_二樹木蒙龍泉石幽奇之地_一、造_二立件御
借屋_一、五間三面檜皮葺屋一字爲_二御在所_一、御簾下屏風
鋪設、裝束各盡_二美麗_一、當_二于御所西庇_一北行立_二五間一
面板葺屋_一爲_二諸大夫坐_一、御所東方南行立_二三間板葺廊_一
爲_二僧坐_一、東西柴垣外并北面造_二儲所々假屋數十宇_一、
御膳并上達部殿上人僧料皆用_二丹青懸盤_一、

御料以_二蘇芳
塗紫檀地_一、其

次色々畫圖、偏非_二好過差_一、攝
宿_二儲只求_一便宜且又儉約也、供膳之後不_レ經_二幾程_一令_レ立
給、未_二昏黑_一之間、御_二着高野政所_一、以_二別當房_一爲_二
御在所_一、其南廊爲_二諸大夫坐_一、其東爲_二贊殿_一、以_二便宜僧
房雜舍_一爲_二上達部殿上人僧綱已下宿所_一、始_二自_一御所
鋪_二設裝束_一政所、御廐、御隨身所、小舍人所、諸大夫
宿所、國宰所_レ儲也、供御膳、并所々饗饌屯食餐飯秣葛
等如_二昨_一、遣_二業主官史生川瀬重則_一令_レ催_二行當國所々
御宿雜事等_一、

十四日己卯、從_二曉更_一甚雨暫降、及_二辰刻_一雲收天晴、
御膳并所々饗饌如_二去夕_一、供奉人々侍雜色各一人共三
人乘馬一疋外、不_レ可_レ及_二他之由_一、兼賜_二其戒_一、是今
夕與院御宿、素恣不用_二牛馬_一之上、地狹路嶮、葛秣
之類運送亦有_レ煩之故歟、雨止令_レ立_二御宿_一給、諸大
夫已下着_二麻履_一勤仕、前驅着_二御山簾_一之後、自_二政所_一
十餘町、令_レ下_二御馬_一給、御共上下皆以步行、深觀僧都御迎、雖
令_レ奉_二腰輿_一、唯供_二御共_一、依_二爲_一一門之上首、爲_二致_一
參會_一之節豫祇_二候與院_一、半坂聊構_二黒木假屋_一儲_二御湯

漬、未刻之終着御、臨昏令着與院給、此日金剛峰寺件寺三時許、是後後步行所、勤仕也、以別當房爲御在所、鋪設裝束、寺家所勤仕也、御膳上達部殿上人饌僧料等、國司侍贊殿令供、他事等如前、此口以範圍朝臣遣理趣三昧僧法眼卅具於僧都房、布衣襪一重、要步裝、兼分給明日請僧、

十五日庚辰、午刻着廟堂給、自本寺六十町許、南小川上假造橋殿爲御休息、引屏口、暫留御件所、

以範圍朝臣遣問堂壯嚴之作法、僧都被申云、依事便宜奉仕禮堂者、件堂吉廟堂三許丈、而御定云、尙可依入道殿御時例之、仍任御定、忽改前庭、其儀廟堂前

二許丈立高座二脚、其前立禮盤二基、當于講師高坐後、鋪高麗端疊一枚、少向北、爲講師咒願坐、其後鋪長莚二枚爲理趣三昧僧坐、十五口、當于講師高坐後、

鋪紫端疊一枚、爲令理講師三禮唄散花堂達坐、其後同鋪長莚二枚爲理金泥法華經一部、入講繪宮具、快簀、墨

字理趣經卅卷、無別、禮堂北砌鋪長莚、其上鋪高麗端

疊爲御坐、其末一行儲上達部殿上人坐、西上北面、長算律師行觀閣梨候御坐西方、禮堂東方一許丈立御誦經案、手作布、堂莊嚴了、七口三昧僧等着坐、講師大僧正明尊、請定、百端、先是奉供御明十萬燈、居廟堂、無別御導師、

講師所兼仕也、有御明文并御誦經文、無願文名香、講庭說法文約旨廣、

緇素仰信、加之從淺藹之時爲相承之師、其齡及衰邁、其職致極位、舉鶴坂之嶮路、忽沸鶩子之辨泉、倩思其由緒、旁以足歸依、就中入道殿下先年於此砌演說供養法華妙典、以心譽僧正爲講師、其

時記之大師者是智證大師之別舅、講庭者已爲一門之末葉、今之今日之講庭亦一室之同侶也、年序雖隔痕跡、無斷機緣、相應於斯見矣、講演了賜布施、

講師絹廿五疋、米廿五石、隆俊朝臣取之、呪願絹廿疋、米廿石、定房朝臣取之、爾餘僧絹三疋、米五石、諸大夫四位已下取之、次令供養法之間、晴天暫陰飛雪忽降、改庭中儀、移禮堂、禮堂中落板敷爲御坐、上達部祇候其末、卅

口三昧僧之中抽堪能者爲供養阿闍梨、事了同賜布施、阿闍梨絹五疋餘、僧各二疋、但阿闍梨重預卅口一烈之布施也、次所司三綱賜祿、別當絹五

巴、三綱等
余各一條、僧供料米百斛、還御之間、於橋殿聊有御

儲、御湯黃菓秉燭還御、御儲如朝、古老住僧等內

內相語云、伺尋故實、當時執政連步於此砌、古今未

聞、依萬機之務無一日之滯也、見今日之儀式、御

願之趣莫事而非鄭重、門徒之面目山上之光華也、

只從與院參廟堂之道、藪澤間深有妨行步、而昨

夜風雪、地汙水凍、沼水如鏡、山路鋪練、佛法靈驗

觸事分明、

十六日辛巳、天晴、拂曉供御膳、僧都被參御宿所、

有贈物夜裝束一具、并引出物事、御馬以令禮大師影堂、給

畫像方一室中脇息繩、床木屨杖等皆在世之物具也、雖

經數百年、其形皆以如新、僧都以大師眞跡手書一

卷、入木造玉股一柄、入綿袋三股一柄、被獻、物皆珍重、

情感叶時矣、其後下御、雪行泥深、彌雖嶮岨、不依

先例、上下皆以步行、午刻之終着御半坂、御儲如初、

中途日暮、前程尙遠、目云臨昏之間、隨衆議御

於腰輿、國司令物續招參會、爲勤政所、御宿所事、

此曉先立所向也、行步不堪之輩、或鞭驚馬、偷以

先行、或懸几杖遙離黨類、秉燭倍仕前後其數非幾

勝、而捧火持松之輩、連々參會、宛如呈、況山月

高昇、嶺雲已霽、及村閭之漸近、路頭立柱松、前途

分明、枝路无悵、子刻之終着御政所御宿、御儲等

如初、

十七日壬午、天晴、辰刻供御膳、所々饗饌了、令

立宿給之間、國司儀華船於河邊、令候氣色、殊

有許容、忽以移御、

注御料一口編鴨船二艘其土搦御屋形、以後屏幔爲覆、以白

龍纓窠交背額、簾川村濃綠竹、高欄軸左右鷹齒下引廻經物紺

布、御坐障子等殊靈華美、棹差四人着赤色襖袴蘇芳袖、僧料一

艘、同方組二艘、屋形葺紅葉、諸大夫料一艘、名方二艘、葺蘆花、

身料、御隨

爰解錦纜而漸擢、妹山巖山之紅葉浮穴、卷珠簾

而閑望、斜岸遠岸之青苔展茵、或有碧澤之湛々、或

有白此之漠々、奇巖怪石繞之參差、古松老杉亦以雜

插、凡每所无不驚眼、每物莫不發興、其西不經

幾程、覽之止御船、自岸邊迄于寺更罷、恐可有粉駟令

河寺給、先着御々休幕、堂之西作五間二面之板屋一字、便

留御之由、供有召御手水、令參佛前給、禮堂西二

間懸列御廉、其內裝御座、南庇鋪疊二枚、爲上達

部殿上座、先奉供御明五千燈、御導師名寺僧次令行

誦經、手作布百端、施僧供、召國司、次所司三綱賜祿、別當絹三

各二疋、自餘各疋、此外御願三味堂調直僧六口同賜三疋絹、

件三味從成章朝臣任奉、爲殿下所始行也、頃

之出御於便所、移御御船、國司獻御菓子御酒等、

臨昏着御市御宿、御儲同初、

十八日癸未、天晴、卯刻供御膳所脱力、饗饌了、令立

御宿給之間、召國司定家、賜御馬一疋、鵜毛、方棹

華船、迄于木御川尻、令下給、是行路之便爲御覽

吹上濱和歌浦也、已刻之終着御湊口、御馬并人々

馬共遲時來間、光景欲傾極興難抑、仍先召國司倍

從、近邊所在之馬各宛騎用、先御覽吹上濱、朱紫比

袖、尊卑爭行、于時蒼海眇邈、清砂崔嵬、如登三天

山、似向葱嶺、頃之經難賀松原、令向和歌浦

給、翠松傾蓋、白浪洗蹄、每見風流之飽地勢、彌

感七宜之稟天然、猶指點吹上之濱和歌之浦、雖山

邊之說柿本之調合此地、則難矣、加之按轡扣鞍

爭拾色々貝之輩已不別老若、各任志之及乘與

之餘、殆忘日暮、未刻還御御船、贊殿供御湯漬、國

司獻檜破子荷、始自御料次、皆以色紙付探光力、未刻於木濱御

御馬自笠道山、令通給、山中秉燭、海濱伴月、亥

刻之終着御日根御宿、國司御儲如例、

十九日甲申、卯刻供御膳所饗饌同前、外獻御菓

子廿合、凡每物莫非華美過差、頗雖過兼日之御

定、尤有便當時之見日、出御之刻賜御馬一疋於國

司季定、今泉御后獻菓子五十合御酒二樽、午時着

御會彌御假屋、當國宰吏勤仕御儲、晚頭令參天王

寺給、見物感集之輩男女駕肩、道路爲目、入御

西大門之比、寺家樂所忽發音聲、應聖靈之廟意、

賀希代之先臨也、於是召御手水、先令禮西方

給、古人之所傳當極樂之東門云々、陪仕上下同以

應_レ之、_マ御手水具并御叶_マ、次於本堂、令_レ奉_二御明五千燈_一、

給、寺家供_二御座_一、以_二寺僧_一爲_二導師_一、_{布施絹}、被_レ行_二誦

經_一、_{手作布}僧供、_{米卅石}、次所司賜_レ祿、次令_レ禮_二聖靈院_一、

給、則太子之影堂也、佛法之赴有_レ之、秉燭還御之次

御覽龜井水、入_レ夜着_二御熊川御宿_一、去十一日以後俄

造立檜皮葺御在所屋并釣殿、驚_二隣境_一、過_レ之、勤致

云木不日之構歟、鋪_二設裝束_一、殆過_二衆日所課之國々_一、

饗饌如_レ前、于_レ時漢月□□□其朗_二江岸如_レ畫_一、加_レ之

離_レ洛之後已經_二累日_一、送_レ口之間、非_レ无_二其煩_一、仍殊

有_二議定_一、且爲_レ遊_二淀移_一御御船、解纜之前召_二國司隆

口_一、賜_二御馬_一、亦豫召_二儲綱手夫二百人於所々庄園_一、始

自_二御船_一所々人給_二船共_一、并僧船等各分給、飼飼等

迎參、各懸_二篝火_一、互候_二御船_一之先後、

廿日乙酉、天晴、遲明着_二御馬飼御牧之邊_一、丹波守章

信朝臣奉仕、御儲洲渚栽_二口不松_一、汀引_二屏幔_一爲_二御

船寄_一、所々_{行力}岸上作_二假座_一、儲_二諸大夫饗_一、御膳并上

達部殿上人儲自_二贊殿_一、令_レ供、次々饗饌色目雖_レ同、他

國、其儲甚豐瞻、不_レ經_二幾程_一、解纜令_レ上給、江口神崎

遊女等連_二笠爭_一、揖各以率參、高_二爭_一、哀邁之者、強_二街_一、容

色、求_レ入_二見參之列_一、壯齡歌唄之輩各整_二衣裳_一、偏待_二

餘恩之及_レ過_二御山崎橋下_一之間、分_二給_一、桑絲二百疋、網殿

米二百斛、_{伊豫所}返遣_二也_一、_{上下各}其次袖爲_二上首_一之者

兩三、_{觀童右衛門}諸大夫被物、蓋依_二御定_一也、其後且參_二御

船之邊_一、有_二纏頭事_一、臨_レ昏令_レ着_二淀給_一、入_レ夜入御、

伊豫守範國朝臣奉仰記之

寶永二年仲秋上旬加修補了

果快

右永承三年高野山御參詣記一卷原本所寫于應德二年正月法勝

寺用途注進狀及治曆二年八月十三日御祈願用途狀等之背紙

者卷爲橫披一軸、東寺觀智院所藏也、住僧秘襲不散出之于院、外

化十一年甲戌六月八日訪彼院欲認寫之倉卒始樂同月廿七日再

訪寫功成時炎熱如熾殆不可堪云

興田吉從記

江記

天仁元年十一月廿一日、□□□□□□□□□□□□□□□□

故土御門右府語給云、宇治殿以二子故大將被中

任大嘗會國司、至于終身運否者別事也、非無此

例、延久源右府付予被奏以下師忠可被任大嘗

會國司、主上被仰云、約他人畢、早不申之故也、

大臣被申云、年來之間、如此小事莫不叶心、今

臨老後如此、可悲々々、未聞所望時、以先

申爲理、仍被任、

出_レ自_二齋場所_一悠紀者、自_二一條行_一東、自_二大宮行_一

南至_二七條_一、自_二七條_一西折至_二朱雀_一、自_二朱雀_一行_レ北

至_二會昌門前_一、或催_二諸道學生_一標體、諸家膳部等_二令_一相

從、皆着_二青摺_一、
稻實公忌子八女等、各相從夫八百人、主基又准之、
近江守有佐朝臣、介四位少將宗能、忽方、銀、行事辨
爲隆、具辨權介光平、寄行事大外記師遠着、小忌大夫
史盛仲不參、丹波守敦宗朝臣、男藏人式部丞有成相從、裝束所察煩也、放給宛欲
着青色者、則昨日合小忌卜、又五節之間除一勞藏人外不着青色、欲着小忌、則似國司、欲着短服、則給宛高巾于袴、綠彩袍、非路頭面目、予察之非、內行事辨長忠朝臣、具辨權介藏人
少將忠宗、具御藏小舍人、裝束馬嚼隨、介重康、大掾泰長、近
江權守重資、丹波權守顯實依爲公卿、不行列、
敦宗朝臣前日來語云、行事所之催難堪事三、
央イ一_レ決中可有_レ着_二藍染變繪袍_一者、予云、件裝束者
衛府儀服也、他人輒不可着之由見_二式文_一、若行
事所見注_二青摺_一、認_二所催_一歟、
一銀千三百兩進了之後、更有_二三百兩之責_一、予後問
行事辨、辨云、依_二寬治例_一募_二榮爵一人_一所催
也、依_二銀不足_一也、
一砂金廿兩進了之後、更又有_二五十兩之責事_一、行事
辨云、本召_二七十兩_一之內也、
永承、近江守泰憲與_二備中守師成_一相挑、行列之時、先

密令打塞朱雀門西扉、主基至此支度相違久經三時、刻、荷物等多以落損、持夫等多重帖一處之故也、今度近江柴垣并屋等、七日以前不寄一木、俄以造之、以急作爲雄歟、

承保、實政爲左中辨兼近江守、卽爲悠紀行事、泰憲卿難云、猶以佗辨可被行事、今度悠紀智爲行事、主基弟爲行事、而去月十日故大將通房室家薨去、依其服暇改主基行事辨、被改任國司、並伯母服也、

寬治、悠紀辨基綱、主基辨重資也、自七條主基夫等奔走、如聞鼓競馬、辨又奔走、依主基走悠紀又走、故攝政殿女房爲見物雖出立、支度相違、某綱參殿申標早引畢之由、不足言而止、經信卿責予云、何依人亂我又可亂哉、人々各還、入夜參內、諸衛將佐兼國司者不改螺鈿純方角蒔繪九輅、但至于小忌者尙今朝美服也、五倍者着九輅、今日童女御覽云々、參議等爲愁之上、大嘗會年必不

覽童女之由、有上皇御氣色云々、酉刻殿司供齋火御燈於仁壽殿露臺、自此大忌人入陣中、件公卿以下參八省、入自南門着大忌幄云々、

主上御裝束御總角、長實經忠等朝臣本仕之、絲色可尋帛御裝束、并御絲鞋等也、攝政於鬼間被着小忌、大臣雖不合、今夜許着小忌之時、小忌之尻者自帶上手引夾之、前者作左右引夾、帶垂之云々

皇后御南殿御帳北廂、如御視也昇立大刀契於南殿南簀子西第二間一如恒、

小忌右近將經階下渡東、先是鳳輦安于日華門、

主上立御南殿御帳前、內侍二人取銀璽在左右、次

小忌公卿列立、大納言經實、中納言能實、參議俊忠次小忌近衛引陣、次少

納言出鈴、不奏、定通次寄御輿、入御、不脫絲鞋次乘御、給上依神

事無次入御璽、次下御格子、不問、下次皇后乘御、不問、下

公卿前行、出建禮承明兩門、入自昭訓門於龍尾

壇東階上敷長席、於其上遷御腰輿、御輿經迴入之

立殿北并西、自南下御、內侍取、御輿、白木床子大刀契鈴等可

置於廻立殿坤角壇上、入御之後殊禁高聲、仁和四年記云、入自南戶、先御西方御床、皇后御座在同殿內西方、以壁代隔之、其中敷縹緗端爲御座、鳳輦退安於御輿宿幄、

近衛小忌陣在大嘗宮內左右、同大忌陣在同門外左右、左右兵衛陣在兩橫堂間、小忌北、大忌南、左右衛門小忌陣

在會昌門內、同大忌陣在同門外、先是並立儀仗、

如御即位時、但不立纛隊旗、石上榎井二氏各二人

着朝服、今度依爲六位、着小忌、率內物部三十人、着紺衣、大嘗宮南北門

立神楯戟、門別楯二枚、長一丈二尺、次伴佐伯御即位時叙爵者、

分就南門左右、次隼人司率隼人、分立左右朝集堂

前、次式部設公卿以下版於大嘗宮南門外庭、門南去二丈五尺置

版、奏事東西去一丈五尺、重行置公卿以下版、次掃部寮

以神座供于嘗殿中央、中戶、其神座禮八重帖三行

也、延喜式并小一條大將抄、小野宮右大臣抄、清涼新

儀式等、與近代所行大以相違、稱掃部寮古老說、

二行敷之、是成光明成等說云々、

依延喜式心作圖奉院仰云、彼時只依所司說耳、如式并圖者、以河內國黑山莚帖長一丈二尺五寸二枚敷神座中央、東西、南北相去九尺、次官人四人一度以帖四枚敷黑山莚帖中、南北、中央二枚相重用、察縹莚廣四尺五寸、其上帖者莚一枚薦七枚、無裏、自餘帖、並自布、其左右又敷四尺帖二枚、用黑、相合三行帖、東西一丈二尺五寸也、

神座或行事辨申時以前令敷、或御廻立殿之間、小

忌公卿參上令敷如新嘗祭、以坂枕置中央帖二枚

中、東西、以打拂宮置一神座東帖上、神座東重敷六

尺帖四枚、其上帖莚一枚薦七枚、無裏爲、御座、次以

八尺帖一枚敷神座與御座、已上、東西、各半分相懸供

神座儀、

小忌納言參議以下、參上、上卿取打拂宮到南中階

下、脫沓於階下、昇廣廂、到南戶下、掃部官人取之

置於殿內坤角、次參議與辨若少納言、依位階、昇坂

枕、如初、同戶外付掃部頭、次々之人昇神座御座

等如_レ初付_二掃部_一、件官人候_二殿内_一、或相_二從王_一、_{卿參上}

官人等先取_二八尺帖一帖六尺帖四帖_一、以上白布、_{緣廣四尺}、重置_二於殿内東戸内_一、_{東西}、次以_二九尺帖四枚_一、重置_二於殿中央_一、

南北次以_二一丈二尺五寸帖一枚_一、敷_二九尺帖之南_一、次以_二同帖_一、敷_二九尺帖之北_一、_{並東西妻敷之、件等帖並白布緣}、次官人四人_{左右各二人}、

一度引_二九尺帖各一枚_一、一枚於_二東西_一、並敷_レ之爲_二三行_一、東西端與_二一丈二尺五寸帖_一、件帖二枚並南北端二枚用_二河内黑山

蕨_一、以上並_二中央九尺帖二帖_一、上下相重廣四尺五寸與_二一丈二尺帖_一、_{廣四尺}、件帖一枚無裏、或說_二件帖薦七重_一、次引_二東戸内八尺帖一枚_一、引_二懸於東九

尺帖上_一、_{各懸半分}、六尺帖四枚爲_二御座_一、最上帖_二以_二短帖_一、_{黃布倍_二於東戸前_一、臨御出期如藏人取_レ之敷_二六尺帖東_一、}

代所行_二二行敷_一之、無_二上下_一之東西行帖、以_二六尺帖四帖_一、雙_二敷東西二行_一、_{每行二行、北無裏南北妻}、其上以_二一丈二尺五寸

帖二枚_一、相並敷_レ之、其上重_二敷九尺帖四枚_一、_{第二帖一枚、引_二寄東方_一}、其東以_二短帖_一、爲_二御座_一、以_二八尺帖_一、引_二懸神座_一、并短帖

上_二已達_一、式文_二又不似_一、八重帖_一、_{供_二之於神座東_一、但踐前大}、_{式長帖十二枚也、短帖六}、_{大尊宮御狹、後說可_レ叶敷}、次中臣忌部各一人率_二縫殿大

藏等官人_一、_奉、令_二置_一、衾單於_二悠紀殿神座上_一、次内藏官人奉

置_二御服一襲并_一、緒幟頭於_二廻立殿_一、_{積中折敷高、器、帳者階也}、掃部寮官

人設御口、敷_二簀十六枚_一於殿内、其上加_二席十四枚_一、其

上敷_二黃端帖八枚_一、中央雙_二立白木御床二脚_一、其上敷_二纓綯端帖各一枚_一、床東西敷_二白端御帖四枚_一、縫殿又進_二天羽衣二領_一、

立殿西幔内、口_二寮式云_一、御_二廻立殿_一、掃部女官喚_レ寮、即昇_レ自_二殿北廻授_一、女孺云々、次神祇官率_二神服宿

禰_一、置_二綳服案於_二悠紀殿神座上_一、_{東西}、次忌部置_二龜服於_二同座上_一、_{東西}、綳服在_二南龜服在_一、北、承保主基南北

行置_レ之、次主殿寮以_二齋火御燈_一、供_二殿中良巽角_一、_{燈樓居_二白木雲、寬治神座巽坤供_一之、}又設_二燎於南庭左右_一、伴佐伯宿禰各率_二門

部八人_一、_{着_二青}、於_二南門外_一、通夜、設_二庭燎_一、時刻、主殿寮供_二御湯_一、先取_二下水_一、_{以_二斗}、次入_二御湯_一、七度、次御湯殿

人、_{左衛門佐顯隆於_二女官帷_一、解_二袍下重劍劍等_一、不_レ解_二老懸_一、不_レ脫_二其_一上着_二口_一、藏人_二衛門尉藤原說定_一、解_二劍_一、_{着_二小忌_一、他}、_{裝束不_レ改}、顯隆以_二右手_一、合_二御湯_一、向_二神殿方_一、攪_二遣御湯_一、七度、次張_二蓋_一、_{二幅}、次奏_二御湯取之由_一、主上渡御、次}

撤蓋、主上乍着御帷、令下御槽給、件槽東西妻也、其北立白木床、故源右府御說、專不可令下御槽、

給、立床子、可令沃懸給上之、而後三條院仰云、乍

着御帷、令下御槽給之由見、朱雀院御記云々、

次奉摩御背三度、次脫捨御帷於槽中、令上給、

着他御帷拭御、次供御河藥、供御河藥不見舊記、而隆方朝臣私記有此義、三條院抄

惟仰、次還御御所、次着神態御裝束給、只易御袍

御半臂御下襲許、自餘物等不易、童帝不用幘、諸司

供御手水、頭五位藏人奉傳之、小忌王卿着異角

庭、上座大臣一候、坤角座、但主上渡御大嘗宮之後可着敷、主上正笏

以劔方爲上、次渡御大嘗宮、其道大藏省鋪三幅

布單、其宮中地鋪八幅布、單八條或二張云々、宮內輔二人、兼基代官繼殿頭信俊、左右膝行、

以葉薦隨御步、敷布單上、掃部頭雅康朝臣、允信

貞、以上二人從後卷之、人數不、主上先例徒跣、而童帝

不脫御絲鞋給、又不不着幘頭、車持朝臣一人、垂纒

執御蓋、件蓋御纒、子部宿禰笠取直、張御笠綱、細燕尾老懸、追紅

白布袴、伊共膝行、解弓箭劔、御劔璽、信通朝臣忠宗取之、右近次將執御劔

知比屋巾、

執御纒候前後、不脫、次攝政大臣解劔、率中臣、定朝臣、

部、兼衛、也在御前、大臣在中央、中臣率主親定在左、忌部大皇

單上行之、依北山抄并御即位時御前命婦、御巫、小忌束帶袍、猿女

左右前行、平間子赤、次主殿官人二人、允貞道、秉燭照路

在左右、自大嘗宮北門入、經德記殿西布單上、自

南面、裏廬簾入御、經神座西北、着御、如東座、少

異、相傳云、攝政入神殿內、闕白不入云々、此間發稻春歌、入女、裝束如女

官、炊神膳、料理神膳、稻實翁鑽火、束如、應劔、忌子

女物觸手、裝束如御巫、次小忌群官着其座、大嘗宮東

邊、就之、西面北上、辨少納言并侍從等同、次璽劔、近衛將立、在

神殿南簀子、次開門、伴佐伯宿禰開大嘗宮、次宮內官人率

吉野國栖、十二人、猶當工入、自左腋門、就位、次伴佐伯

宿禰率、語部、十五人、入自東腋門、各就位、並着青摺衣、前座國

栖、次歌女、裝束如節會命婦、次語部皆北面東、其群官初入時、俾

人發吠聲、立定即止、先國栖奏古風五成、其音似、指似摩

次悠紀國奏國風四成、其聲似、神歌、遲、但主基丹波國奏早歌、

次語部奏古詞、其音似、出雲、美濃、但馬語部各奏之、

裝束 小忌、次隼人司隼、隼人入、自右腋門、於御在所屏

外、北面立奏、風俗歌舞、二人舞之、神祇式、國柄等奏後、群官

歌舞云々、儀式國酒、參入、隼人發、吹聲、乃進、橋前、拍手

等似、前後兩度奏、以次退出、次公卿以下五位以上、就上庭

中版、異位寬行、承平史部王記云、進、馳道東、近伏南、式部不置

版、量程行立云々、今案公卿立、馳道東、四位以下相分立

東西、跪挿、笏拍手四度、度別八通、神語所、謂八、畢復座、座

定安倍朝臣五位二人、六位四人、左右相分就版、

奏、侍宿文武官分番以上簿、主典以上書、姓名、分番唯奏、其

諸司進之安倍朝臣、凡奏、事於亥、一刺供三神膳、其次第自三柏

御在所、者皆跪若雨瀉立奏之、

殿東、其行列次第、伴造一人執燎火、以僉懸頸受

爐、次采女朝臣一人捧削木、稱警蹕、次宮主取竹

杖立、次主水司水取連一人執蝦蟇船、是土手、次水部

一人執多志良加、土瓶、次十女、采女、其中典水二人、一人

執楊枝葛筥、納御楊枝并刀子、還等、一人執御巾葛筥、次

八女、一人執神食薦、其薦以木綿貫之、一人執御食

薦、號次姬、一人執枚手筥、號最姬、陪膳也、一人執御箸

筥、納竹筥六具、歟可尋、區竹、一人執御飯筥、納、霍手、一人

執生魚筥、一人執千魚筥、一人執菓子筥、納菓子四

結、次內膳司高橋朝臣二人、一人執鮑汁、一以上汁漬

盛陶器、次膳部二人各執空盞、可盛二種御饗之料、同

短高杯、以葉覆之、二人昇御羹八足机、居、羹二

木綿結之、高杯下鋪枚手、次造酒司酒部二人昇御

酒案八足、納酒於平居瓶、居之、以陶器覆瓶、着

柏葉盤、結以木綿、供三神膳、次第、伴一人、采女朝臣

一人、相分左右立階前、宮主取竹杖、從南第一

間參入、水取采女等次第列座、宮主候、中戶間外

膳、及女男官候、戶南腋、東西二行北上對座供、御手水、次典

水采女二人各所執筥、暫授水部、昇槽參入、立八

重帖上、南北、一人留候、北面、一人往還取楊枝筥參、

授留采女、還又取御手巾筥同授、又還取多之良

加、授留采女、采女供御手水、西面、楊枝手巾筥等

置槽南邊、次御盟、御手水沃之、畢撤楊枝筥手巾筥、准

初、次昇槽退去、列候良角、次八姬六男共以南面、

若先雁行者不、次陪膳取神食薦、敷八重帖上、東西、留候

戶內、追、次後取采女取御食薦、傳授陪膳、陪膳取

之敷御前八重帖南北次姬一々取供物傳陪膳陪

膳受之供之、手轉、先取平手筥置於御薦上巽角、

次取御飯筥置於平手西、次取生魚筥干魚筥置

平手北、次取菓子筥置於生干魚西、次取蛇汁高

坏立於魚北以下薦北、次取海藻汁漬置於鮑西、次

取御箸置御飯西、七女六男退候、戸南腋、次後取采

女持空盞是盛和海松之器、一高坏參來、陪膳取之立於鮑

北、又持一高坏參來、陪膳立之於海松西件二種變居於八

足立於戶外膳部盛之授後取之者退坐於采女之列、陪膳先始

自空盞及平手手莖、一々解開蓋畢件蓋柏者置御食薦北下八重

帖、次取御箸、始自御飯一々立之、次陪膳取平

手奉天皇、天皇取之、盛之授陪膳、陪膳承之置

於神食薦上始自東中間行北二行置之、但一枚、或記云、置件膳之中央東方是爲帖引道所餘其體如五出、

或記以下次四度重置如初、御飯五柏、其上御菜五柏、陪

膳加汁漬於五柏之御菜上、菓子六柏、五重置於御菜上、

其儀陪膳以兩手奉平手一枚於天皇、天皇以箸盛之授陪膳、陪

膳以左手受之、以右手奉、次平手以上各三箸一々盛授之、

次後取取清酒參來、陪膳取本柏抑角請之、酒部

外盛之令供、近代所行始○姬イ盛之奉天皇、奉天皇、天皇取之灑神食上、

其柏使置神物上、如此四度度別易、次陪膳取五

箸入御箸筥、更殘一箸立殘御飯、次天皇稱唯、

此兩宮先皇御嘗御飯三箸、餘味不嘗、次後取盛御酒

於陶器盛之於戶外、持參授陪膳、陪膳取之奉天皇、天皇

拍手小低頭肅敬又可、了御飯、如此八度、酒部候南席東月間外

次陪膳覆結如初始自平手筥、盡于空盞、即始空盞撤之、一々授後取手轉、陪膳取

天皇御食薦授後取、次取神御食薦之東端推掩棒

持退出、如供儀、陪膳欲取神食薦、私祈曰、先可挾

給之物乎後爾挾給比及諸咎有止毛神直保比大直保二受飯イ

給、八姬六男列座南面手轉、訖即北面待、御手水畢、次

供御手水、其儀如初、供了撤去、次第退出、先宮主、

次御手水采女二人、次陪膳、次後取、次六姬、次六男、

次主水官人二人、供曉膳儀同、夕、次還御廻立殿、

其儀如初、次子刻御湯殿、次御手水采女時申、丑刻

御主基殿作法同上、但經大嘗宮東方入、小忌公卿以下渡

西、寅刻還御廻立殿、陪膳采女進、南戸下申云、采

女水取夕へ曉之御膳平爾仕ツト申ス、勅答好、承保例如レ此、而長元御記、於ニ主基殿「申レ之云々、

次改ニ御裝束、御鸞輿、皇居同輿、小忌公卿并近衛司供奉、出

自ニ西華門、於ニ小安殿北馬道ニ下御、

辰日大嘗會供神物

多賀須伎八十枚窪手也、又稱葉碗、高五寸五分、口徑七寸、無蓋、折足四所、

別盛 隱岐鰻十四兩、烏賊十四兩、海鼠十口十五兩、魚蒸籠イ鮓一升、海菜十兩、鹽五兩、

並居ニ葉碗、覆以ニ笠形葉盤、平手也以上魚、

比良須伎八十枚高及口徑裝飭各與多賀須伎同、但不折足、

盛具物種々別五合

山坏三十合

別盛 鮎鮓一升、鰻腊一升、裝束與ニ比良須伎同、

荒盛筥三百合長一尺五寸、廣一尺五寸、深二寸(◎三イ)、

盛東鰻筥五合別入十斤

隱岐鰻筥十六合別入十二斤□□六斤

熬海鼠十六合別入十二斤

烏賊筥十一合別入六斤

佐渡鰻四合別入十斤

煮堅魚十五合別入籠一不開

堅魚筥廿四合別入十二斤

腊筥十五合別一籠不開

與呂度魚筥十一合別入一斗五升

鮭筥二合別入十隻

昆布筥四合別入十五斤

海松筥十合別入六升

紫苔筥四合別一籠不開

海藻筥廿合別入六斤

橘子筥十合別入十蔭

搗栗筥五合別入一升

扁栗筥五合別納筥不開

干柿筥十合別入五十連

梨筥五合別入一斤

燒栗筥二合別入一斗

削栗二合別入二斤□□一斗

熟柿三合別入一斗

柚筥二合別入三顆

餠筥五合

株^{エタ}豆子筥五合

大豆餅筥十合

小豆餅筥十合

捻頭筥五合

糴^{アロシゴメ}梳筥五合

以上六種別入六枚

祭訖山坏以下皆置山野淨處、餘皆頒給諸司、

造酒司所供

等呂須伎十六口口別酒五斗

都婆波三十二口斗^{十六別入酒一斗十六別入五升}各以八口置一案、

肥八口石^{別酒一斗}二斗各置一案、

小盞六十口

以上皆盛筥置案

長女柏一合置案

祭畢都婆波以上亦置山野淨處、餘皆准上頒給

式七

大嘗祭供神物

橘

搗栗

扁栗

熟柿

小安殿裝束

馬道東四間爲御所、西面中央立戶、其南北塗壁、

件^件戶冠^冠木^木仰^仰之、南面東第二間戶又亦如此、件戶懸御

簾、其內東第二三四間假敷板敷、其上敷滿廣庭、其

上供御座立廻大床御屏風、立大床子、西平敷御座等

也、張錦承塵北戶間懸幌、西戶內不敷板敷、但第

七間無戶、東面中央亦庇立戶、件西戶懸簾、北戶懸

幌、登廊腋西戶并腰長押壁等如先年、就御裝束懈

怠、已及晚頭人々窮屈、早不參入之所致也、大

鼓可立於會昌門、而立於龍尾道上、已上以改立之

上官座例設於子午廊、宣化門以北、今日設於東福門內東

邊、公卿着同西掖座、治部卿不參

一於何處、可問諸司乎、

人々申云、於御宿所、可被問、可准御卽位時

內辨議也、

一攝政不可着入下、諸卿參上之間、可讓內辨於

民部卿、但自何方、可退哉、

民部卿申云、直可被參、自高松軟障東妻、不待

公卿着座、可令參給歟云々、

件事爲房自嘉喜門前階、經東福門階、往反云々、予

案着可經東廊、歟、有屋蔭路、時不用庭歟、殿下

參大極殿、被行諸事、先於御直廬上第三間簷、召

外記師遠、被問具不、其後於大極殿東壇上、以隨

身被押、笏紙無續飯、仍往反、此間開門、近衛過

兵衛陣、開會昌門、若准儀鸞門、歟、彼度兵衛陣在

門外、可尋案之事也、聞司着昭訓門座、諸卿入自

會昌東間、着標異位、重行、祭主親定朝臣入、自同

門、着版、插笏、開天神壽詞、讀申、訖退出、權右中辨

爲隆、近イ忍着版、奏多米都物色目、畢退出、諸卿跪地、但

不拍手、尤可怪之、內辨同跪、次諸卿退出、徘徊於壇下、

依路遠、入夜歟、殿下着昭訓門兀子、內侍臨櫃、

內辨起座、稱唯北行、自東福門南階斜行、至左衛門

陣南頭、留立、次向西口、日華門、向西一揖、次乾向再拜、

次立一揖右廻、兩足不向、至東階、揖昇着第四兀子、

先是隨身等留廊下、召舍人大舍人於昭訓門外、唯少納言定通昇

自東階、着尋常版、內辨宣、召刀禰世、少納言稱

唯出、諸卿着標、小忌爲先、異位重行、內辨宣、敷尹爾、

謝座謝酒如常、公卿參上之間、殿下起座、自高松軟

障妻、參御帳給、若下、自南階、自東福門、可參

給歟、小忌徘徊不着之間、殿低下給者、諸卿先皆可

下、誰見攝政被下跪、居高座哉、民部卿自掖到

東登廊、令押笏紙、復座云々、又可下、自東階、

歟、又可申、請內辨笏紙、歟、事々任意之世也、

次采女撤_{御臺盤}、次內膳令_{史一人}前行_{執白稱}

、警、次四人供_{御膳}、采女迎_{取東階上}供_之之如_恒、

居_{膳之體}如_{朝夕御膳}、但唐菓居_{一御臺南}、鱸窪坏

居_{一御臺御菓坑北}、御菜八坏居_{同東西}、鱸汁物居_{於北鱸}云々、給_{臣下}、昆屯小忌料_{國司儲}、大忌大膳御箸

下、_{以御扇動銀御}、臣下隨下_箸、次供_匏、_{散昆}次供_御

飯、_{散案}次供_{內膳十二坏}、凡最初四度御菜并十二盃

等、自_{公卿座末}供_之、給_{臣下}飯汁物、於_{御箸下}

臣下應、每_居畢物、左大辨示_{氣色於內辨}、內辨又

乾向候_{天氣}、公卿饗_{龜惡也}、不_用樣器_{用土器}、次

供_{白黑酒}各四度、_{以上自棚師}給_{臣下}各一度、_{稱唯}

飲_之、今_不、次一獻國_{栖奏}、_{先例云々、自寛治始有此事此}、次

獻_{悠紀所鮮味}、行事辨爲_{隆介}光平并任用以下、入

自_{昭訓門}列_{立於御前}以東、內辨宣、何曾乃物會、爲

隆以下稱_{物名}、內辨宣、柏部爾給_へ、稱唯退、伴獻物

付_{松枝}、歟、次二獻仰_{御酒}、勅使次奏_{風俗舞}、_{樂所行}

朝、先奏_{音聲}、次歌人入_幄、次國司入_幄、光平、次舞

人官人二行、_{光末爲上首}、_{愁云、前例給小忌料右三十段米八十}、_{石而今度給不用布二十段米十一石至基皆下之}、

次三獻_{此潤昇}、御插頭花、次退出、退_{音聲}、

檢校以下三人并參議俊忠昇_之、俊忠非_{國司}、依_內

辨責_昇之、尤可_恠、

參_自東階、_{上竊在西}、次昇_{御琴臺}、二人昇_之、_{行事}

宗能_{少將}、二張居_{一案}、并立_{於御前南榮}、_{琴左}、依_{幼主}不

獻_{御插頭}、左大辨重資奉_{攝政}插頭、經_{座末}出

自_{高松軟障}、出_自東到_{御几帳北}、跪脫_靴、

跪奉_插右方、_{攝政座在壇上良}、退着_{靴復}座、小忌以下料行

事辨以下奉_之、_{臣下殿拜}、依_不奉_{御插頭}、無_拜

歟、

內辨說、可_有御插頭拜云々、可_恠、

次內辨民部卿依_爲檢校、退下可_案執_盃、_{內豎執}到_二

小忌座上、跪飲_酒、次起_斟酒唱平令_飲巡行、及_末

比_入西、昇_自內、一座人順行勸_之、未_聞此例_二

人取_{內外坏}時可_{遲上}也、如_{列見}定考內宴等_歟、

又出_{寛治元年}故經信卿遲上勸_之了、次入御、右大將

稱警、次公卿西度戶部着光範門內兀子、主上出御

於主基帳、或一、本作式、在東机、內侍出、內辨大臣西華

門斜行、到右仗南再拜、昇自西階着座、次諸卿

列立、北面西上、異位重行、不待仰謝座謝酒、訖着座撤、餽、供膳

如悠紀、未供御膳之間主上入御、仍不供後々

膳、攝政鳴御箸給、奏白黑酒、一獻國栖奏、二獻奏

風俗舞、樂行事家後朝臣、舞一人之人如悠紀、國司着幄了退出、三獻御酒勅

使內辨着西華門兀子、見々參入、自同門參上於高

松軟障西妻、付藏人奏之、返給之後於始兀子下

少納言、少納言復座、次一々向祿所、伴祿辛櫃儲於

昭訓門內、納言以下白大濤一領、四位宰相紅大濤一

領、國司奉之、侍臣黃裳、六位匹絹、事訖人々退、今日大鼓

鉦等立龍尾道上、依基綱卿諷諫改立龍尾道、

廿三日己巳、參入、公卿攝政右大將二位大納言同昨

日、但治部卿參入、爲房朝臣仰內辨於民部卿、東福門內座、

民部卿出幔外令押笏紙之後復外座、令奏外

任、爲房寮小安殿異幔、外記昇、白東福階進、外任奏、次主上渡御大

極殿、如昨日、公卿出着、外辨右大將問諸司具不云

云、近衛口陣於東福門內廊下階西邊取執戈進、民

部卿着昭訓門內兀子、內侍臨檻謝座畢、當中將下陳南經陣

前并東階着西第五兀子開門、近衛開會昌門、可尋、

舍人、大舍人於昭訓門外稱唯、外辨少納言定通着尋

常版、內辨宣、刀禰召世、少納言稱唯出召之、公卿入

自會昌門東間標、小忌爲先、內辨宣侍座、謝座謝酒

如昨日、采女撤御臺盤覆、所司供膳如昨日、今日

不供白黑酒、未供御飯前入御、不待內侍公卿

復座、次又出御、一獻風俗舞、先參音聲、次歌人、次

國司拜舞畢退出、退音聲、二獻倭舞、三獻御酒、勅使、

左大辨、入御、公卿着仗、出御於主基帳、大將着光範

門兀子、內侍下西華門、於右仗南內侍出、內辨民部

卿謝座昇着座、諸卿列立北面東上、不待仰謝座酒

畢着座、采女撤、所司自西階供膳如昨日、一獻

主基、鮮味如昨日、行事辨國司介重、康、據奏長也、次風俗奏如昨日、

二獻御酒、三獻昇御插頭、花白靈芝、樹鷄鷄、檢校三人昇、

御琴二張^{長忠等}、攝政插頭如^レ昨、^{今日圓座在_{御帳乾角壇上}}小忌以下

插頭、^{行事辨以下取_之}、檢校顯實卿插^レ紅梅花、可^レ恠、右衛門督

不^レ行酒、今夜無^レ插頭拜、

民部卿着^レ西廊兀子、見々參^レ着高松軟障西、付^レ藏人

奏^レ之、未聞之事也、奏^レ了到^レ初兀子、乍^レ立廻復座、後

一々向^レ祿所、^{光範門內}、次於^レ殿下御宿所、人口預^レ膳、右大

將、二位大納言、藤中納言^宗治部卿、宰相中將、新宰

相顯、

次有^レ小安殿曲宴事、

御裝束如^レ寬治、但依^レ御寢、垂^レ御簾、行^レ如在之禮、攝

政先着^レ東方、令^レ頭召^レ諸卿、^{清撰有_限}、召^レ民部卿、

早出、右大將、二位大納言、按察右衛門督^{雅參}、藤中納言

宗、治部卿、宰相中將^{忠等}、次殿上召^レ人、四人着^レ座

末、居^レ衛重、右大將在^レ西上頭、勸盃一巡、爲房取瓶子

忠清、次給^レ和琴等、次神樂本^{在_西}、宗通、末宗忠、笛信

通中將、和琴伊通、篳篥經忠朝臣、柳幣杓^レ韓神、了

居^レ攝政家所、備之湯漬、諸大夫持^レ來西方、殿上人取

之居^レ之、次勸盃兩行東方基綱卿奉^レ勸^レ於殿下、瓶子

定通、西忠教卿勸^レ右大將、依^レ有^レ父子之約、有^レ辭退

之氣、然而被^レ責遂勸^レ之、次左爲八利、次星朝倉其駒、

次有^レ御遊、給^レ琵琶等等、箏攝政殿被^レ彈、拍子宗通、

琵琶基綱卿、篳篥和琴等如^レ本、笙雅定、少將先唱、穴

尊三返、鳥破急二返、席田二返、賀殿急二返、次唱、伊勢海、

五帝樂急^{十返}、次先^レ是昇殿被^レ定二人^{敦兼朝臣宗俊朝臣}祿給、大臣

御半臂下重并御表袴、大納言紅打袍一重、中納言紅

袍一領、參議表袴、侍臣^{以上短少御裝束也}足絹、殿上人役^レ之、節

會裝束懈怠、仍晚頭被^レ始行、左右大鼓鉦鼓臺二面立^レ

龍尾道上、可^レ立^レ應天門外、仍今日改^レ之、上官座前

例設^レ於東子午廊、^{宣化門以北}、今夜在^レ東福門內南東腰、五

節所新宰相越後等在^レ東廊并北廊、嘉喜門東腰西第三

間以西、宣化門北腰南第四間以北也、若避^其御所、歟、

攝政可^レ被^レ奉^レ仕內辨、由、予引^レ承平例、所^レ定申也、

今日奉仕給、於^レ直廬、被^レ問^レ諸司、具不^レ引^レ南第三間

簾、召^レ師遠於南壇上、被^レ問云々、此間攝政乍^レ立被

問御即位例、歟、外任奏直被返下云々、殿下被仰、
今度之外不可奉仕内辨、仍秘說可盡、但恨日晚、
各公卿參上之後、依不可着人下、可讓民部卿云々、

右江記依 仰按合書寫

享和三年八月 日

檢按保己一

圖書寮本（松岡文庫）奥書

右天仁元年十一月廿一日大嘗會記者前權中納言
大江匡房卿記也端一枚破損午日以下無其記蓋當
時傳寫之人不終功歟惜哉今年就大嘗會大外記中
原師庸朝臣以傳奏庭田黃門重條卿献攝政殿御覽
後此記事於伏見院心日御記中爲匡房卿記事分明
也仍可爲龜鑑由被仰下貞享四年十月廿五日從庭
田黃門拜借而一晝夜中謄寫之加校合且不審之文

字以朱點之子孫不可他見依祭主神祇大副景忠卿
懇望奉借而已其外不他見秘密之記也不可出門外
可秘々々

貞享四年丁卯十月廿九日御厨子所預紀宗恒
右一帖借備前守宗恒所持之本書寫之子細見與書
誠可爲鴻寶可禁外見

元祿二年己巳正月廿四日

左官掌紀氏辰

以廣幡家本令寫

文化六年夏

持進資雉

平知信朝臣記

長承四年二月二日、大納言殿可_レ令_レ蒙_二任大將宣旨_一

給_一、仍大殿渡_二御東三條殿_一、午刻許大納言殿令_レ參給、

晚頭大納言殿令_二參內_一給、擯榔御車、前駟六人、前甲斐守

雅職右京權大夫顯親、少納言雅國等扈從、御

共_二口口_一、參着右仗座_二承_二宣旨_一、可任大將可勅申日時之由先例也次

令_レ退出東三條給、關白殿出_二御對南面御座_一、內府已

下伺候、大納言殿同令_レ候_二于座_一給、次召_二知信_一、束帶、

知信參上、被_レ仰_二陰陽師可_レ召之由_一、歸出_二藏人所_一召

_レ之、陰陽頭家榮朝臣衣冠、參_二候于南簀子_一、知信參上、

候_二于弘庇_一、被_レ尋_二仰任大將日次_一、知信仰_二家榮_一、家

榮申云、八日壬子、知信入申_二上之_一、依_二先例_一也、此

日時勘文付_二職事_一被_レ奏_二件日_一、殿下仰云、紙書可_レ持

參者、知信退入、仰_二諸大夫_一先令_レ立_二切燈臺供燈_一、

次指_二笏取_一視續紙_二參上_一、當_二于御座間_一候_二于弘庇_一、

置_レ硯拔_レ笏伺候、次依_二御氣色_一、置_二笏卷_一返續紙、隨

仰書_レ之了、被_レ口_二與紙_一卷_二定文_一、撤_二硯筆_一盛_二件折

敷_一、於_二定文_一着_レ迄_二笏昇_一長押上_二口進_一之、乍折敷置御座前

援_二笏歸候_一弘庇、殿下披覽給、內府次第見下、次第

殿下如_レ故盛_二折敷_一、少令_二差出_一、知信參進指_二笏給_一、

知信歸居_二本所_一、如_レ故盛_二硯筆於折敷_一、加_二盛定文_一退

入了、次內府以下退出、關白殿入御了、次依_二先例_一始_二

御裝束造_一、始_二御隨身所臺盤祿_一敷_二女裝束_一袴_二足絹

等_一、不可_レ蒙_二召_一諸國、從_二殿方_一可_レ令_二調儲_一之由、

依_二大殿仰_一令_二忿調_一、至_二于布祿饗等_一者可_レ令_レ申_二院

給_一者、

八日、壬子雨下、大納言殿令_レ任_二右大將_一給、御裝束

儀、東三條殿寢殿南庇六ケ間放_二出之_一、敷_二滿長筵_一、有差筵鎮子等南

面簀子_一、而弘庇西透渡殿等敷_二滿筵_一、南庇西第六間、

子午鴨柯下、母屋面五ケ間、西妻功二ケ間、西庇南

第二間、卯酉鴨柯并九ケ間垂_二御簾_一、其內懸_二壁代_一、

件壁代柱外付、御簾懸_レ之、鴨柯下懸_二御几帳_一、惟如

例、添其御簾立亘四尺御屏風十帖、南西南面底

御簾卷上之一、自南底西第四間至第三第二間、西柱

下敷高麗端帖、其上敷同綠地鋪、其上施東京錦茵

二枚爲宰相中將座、第一茵與第二茵對座、其西絕席三許尺敷

高麗綠圓座六枚、爲中將座、已上東上南面非參議中將上座、與南第四人對座、其

南自西第五間西邊西行、自第四間東柱進出、第五間茵一枚許也、至同

第一間、座未有、敷高麗綠圓座爲宰相座、西底二行對

座、敷紫端疊四枚、爲殿上人座、以南爲上、西透廊泉南

母屋二ヶ間、敷長莖敷綠端帖三枚、爲將監將曹座、

北上、西藏人所廊馬道間以南三ヶ間二行對座、敷紫端

帖爲諸大夫座、次居饗膳、

次將座赤木机八前折白絹面、有簀薦、

梨菜 干鳥 蒸蛸 雉 鯉 保夜 海月 飯

箸 酢等也、

上達部座同机十二前、有簀薦面等、饗、色目同前、兼居飯同前、

殿上人黑柿机十前、無簀薦、居、物色目同前、

將監將曹座朴木机七前、黃絹面無簀薦、物色目同前、

諸大夫座居机饗、

南底東第一二間、西底南第三間西向戶、西弘底南向

戶第四間、ケカ女房出袖、西透廊南二ヶ間、切上長押間南之南間二ヶ所、

敷莖三行立食床各二脚、爲府生已下座、行

別居高盛院飯卍坏、

菓子十坏、大菓子、小菓子、串柿口餅、伏菟、已上各二坏、

魚物廿坏、干物五坏、生物五坏、具物五坏、燒物五坏、

已上高大盛之、仍卍坏一行難居滿敷、件食床

借用諸陣并御隨身所大盤先例也、

其院飯前居例本平盛饗卍前、二種物有、飯箸等、

三行皆以如此、若北上東面、泉北庭立酒部幄、其

內立酒樽大臺二階、案主瓶子、置樣器盃繪折敷等、

一如大饗時、晴儀酒部幄立所如大饗時、府生在西

透殿南庭、而康平五年四月廿二日、前大殿任大將

日雨下、件日府生以下座酒部立所如此、今日從彼

例也、但康平故尾州御記云、酒部具立泉北頭、依

雨者、今度屋中立幄、如康平記者、不立幄、以

酒部具許立_三泉北頭_一歟、今日屋中立_一幌若是謬案歟、

西御隨身所懸_三垂布_一敷_三高麗疊_一、立_三新造臺盤_一二脚、

小大盤一脚、寢殿西北廊垂_三御簾_一、其內引_三綱懸祿_一、寢

長臺盤一脚、殿母屋御簾內立_三並床_一敷_三疊_一爲_三女房御見物所_一、今朝

召_三仰本府_一令_三進_一官人已下見參文、爲_三祿法召儲_一也、

午刻大納言殿令_三參內_一給_三從_一西面_一出御、前驅八人、

大皇太后宮大進有成、中宮少進顯憲、前肥前守爲實、散位清職、左馬助長時、參河權守成定、勾當高階仲行、源盛賢等也、殿上

人扈從、皇后宮亮信雅朝臣、右京權大夫顯親朝臣、右近少將公能朝臣、忠賴朝臣、左少將俊雅、少納言雅國、若狹守公信

等也、此間左府參_三東三條_一給_三宿_一除目執筆內府、除目

了參_三入東三條_一、關白殿於_三弓場_一令_三奏_一御慶賀_一給_三

次新將軍於_三同所_一令_三奏_一慶賀_一給_三御隨身始以警蹕、

本府差_三進御隨身等_一、有_三差文_一、

將監中原貞清、將曹清原遠兼、府生道守重元、

番長下毛野原則、厚力

近衛泰公近、中臣行兼、泰重正、中臣道助、藤井

武清、

府生已上束帶、壹胡錄、番長已下褐衣白狩袴、

移_三御馬門_一、厚力同令_三儲_一、不見_三陳頭_一歟、

再拜了之間番長原則始發_三前音_一、府官人已下於_三弓場

邊_一發_三歌笛聲_一、次將軍令_三奏_一官人已下可_三給_一饗祿_一之

由_三給_一、勅了次參_三中宮御方_一令_三申_一御慶賀_一給_三令_一退_一

出東三條_一給_三府中少將乘_一車扈從、將監已下騎馬在_三

御車後、御隨身番長以上四人乘_三移馬_一候_三御車前_一、前

驅八人如_三初_一、入_三御自_一西門_一、入_三中門_一、昇_三自_一祿所

廊西小橋、經_三同南簀子_一、暫御_三坐西庇殿上人座_一、次中

將忠基朝臣、經定朝臣、少將公能朝臣、忠賴朝臣、經

宗朝臣等率_三府生以上_一、於_三西透廊_一有_三拜禮_一、依

進_三出庭中_一康平例也、次將一列、將監已下一列、已

上各東面北上也、宰相中將重通朝臣不_三列拜_一、故實

也、次將軍從_三西弘庇_一經_三南簀子_一、暫御_三坐上達部座

上頭_一、次子參_三進將軍御南簀子_一奉_三仰_一、降_三自_一南透渡

殿西階_一、徒踐、傳_三次將可_一着座_一之由、向_三忠基朝臣_一揖

也、次子經_三泉東_一昇_三小板敷_一、次忠基朝臣已下昇_三自_一

透渡殿西階_一、經_三南庇西戶_一着_三與座_一、宰相中將重通朝

臣追加着故實也、宰相中將二人也、仍敷_二茵二枚_一而實衛朝臣不參、次將未_レ着座以前、撤_二件茵一枚_一、敷_二加圓座_一了、次將監多忠方、五位、中原貞清、府生道守重元、下毛乃助忠、番長海正友、秦正清於_二西廊_一舞_二求子_一、依雨不出、庭中也立舞番長着_二下襲_一先例也、和琴將曹遠兼、件琴自_二殿下_一給_レ之、笛清原成貞、篳篥豐島行永、此間上達部被_レ候_二殿上人座_一、次將軍起座、經_二南簀子_一西行、於_二西第一間簀子_一差_レ笏令_レ取_二盃_一給、大皇太后宮大進有成持_二參盃_一、藏人右少辨資信取_二瓶子_一、將軍自_二簀子東_一進、經_二上達部座上_一入_二奧座_一、令_レ勸_二宰相中將_一給、左馬助長時持_二參續瓶子_一、此間中宮少進顯憲取_二將軍圓座_一、出_二自_二東方_一敷_二次將座上頭_一退入、前甲斐守雅職勸_二將監諸大夫_一、五位取_二瓶子_一、依_二元四位_一被_レ用_二五位_一也、散位資兼勸_二府生_一、瓶子同前將軍令_レ着_二圓座_一給、散位爲基、重範昇_二將軍御前机_一立_レ之、赤木机也、居物同、公卿不居飯元膳薦次民部卿、忠教、大皇太后大夫、師賴源大納言、顯雅右衛門督、定能藤中納

言、伊通中宮權大夫、宗能右兵衛督、顯賴大藏卿、經忠左宰相中將、成通左大辨、師俊左新宰相中將、公教着座、次殿上人着座、此間坐上供燈、上達部座上下各一燈、殿上人座下一燈、西透渡殿一燈、將監座前一燈、南庭立明左近宮人也、左大將之時召_二右近_一、右大將之時召_二左返_一云々、池邊舉_二籌_一、次二獻、民部卿勸_二左少辨_一、後力後雅取_二瓶子_一、盛定取_二續瓶子_一、雅清勸_二將監_一、勸_二府生_一、次三獻、大宮大夫勸_レ之、瓶子侍從光家、續瓶子清職、家時勸_二將監_一、行佐勸_二府生_一三獻以後、惡將監已下勸盃先例也、三獻以前、用_二樣器盃_一、酒部所獻_二件盃_一之由、度々記、此取見、仍自_二饗所_一分_レ就_レ之、能可_二相尋_一、次居_二次將汁物_一、汁物等、今度有、殿下仰座、件例也、計僧加、醋燒物、權次供_二將軍飯汁物等_一、有成爲、陪膳供、主人飯汁物、之條先例不詳、而元永二年二月關白殿任大將日、供_二飯_一長、忠兼爲_二中納言以下手長_一、散位宗賢爲_二殿上人手長_一、次四獻源大納言勸、瓶子中務權少輔師能、續瓶子行佐、今度已後用_二春日器盃_一、亦公卿次將相互擬、最末公卿盃轉_二殿上人_一、次羞_レ汁、雉羹加_二烏賊生鮑_一、

次第并手長益送如_レ初、次五獻、右衛門督勸_レ之、瓶子散位有敎、續瓶子清職、次居菓子、椿餅、栗、板柿、橋手長如初

次昇立祿案一脚於西透廊馬道間、賜_レ府生已下祿、

家司前周防守廣親、知家事紀俊光唱見參、案主等分給云々、

府生六人、六丈絹各一疋、番長八人、布各四段、

案主五人、布各三段、近衛十三人、布各三段、

次關白殿出_二御自_二東方、令_レ着_二上達部座上_一給、先

_レ是少納言雅國取_二菅圓座、出_レ自_二東方、敷_二上達部座

上頭、次供_二肴物、脩折敷高坏三本、顯親朝臣爲陪膳、有成爲實盛定等役之、次民部

卿勸盃、關白殿侍從公通取_二瓶子、盛實取_二續瓶子、

次大殿令_レ出_二自_二東方、給、皇后宮亮信雅朝臣取_二菅圓

座、敷_二西第六間、追東屏風少々容南敷之、關白殿令_二起座、給、雅

國出_レ自_二東方、移_二敷關白殿御座於奥座上、顯親朝臣

有成爲實盛定等參_二進自_二西方、移_二居關白殿肴物於奥

座、此間公卿次將等退座、次關白殿經_二奥座後、令_二着

座、給、次公卿次將等復座、次予指_レ笏居_二御盃於折

敷、持參進、大殿取_二折敷、退歸、左大辨取_二瓶子、大

殿令_二上達部_一給、雅國取_二續瓶子、長時又取_二續瓶子、次大宮大夫勸盃、大殿瓶子侍從光家、續瓶子爲實、此間賜_二將監將曹祿、

將監五位將監忠方單重一領、六位二人□□

將曹

次々將祿、

宰相中將一人、女裝束一具、中將二人、各綾細長一重、四位少將

三人、綾襦各一重、袴各一腰、

殿上四位已下取_レ之、各以纏頭退下、

次上達部祿、

大納言三人、各女裝束一具、加綾細長一重、

中納言四人、各女裝束一具、

宰相四人、各綾襦一重、袴一腰、

已上殿上四位已下取_レ之、但大納言祿中宮權大夫

取_レ之、又同卿引出物御馬一疋、件祿自_二上臈_一給

_レ之例也、

次關白殿被_レ眞、龍蹄二疋於大殿資兼、清行、佐

職長時、宗賢等四人引之、二人取炬前行、出自

東方、引廻前庭、引西廊方、御鈔一腰、納錦袋、小狐軋、宰相

成通卿取之、請取人、次大將殿被獻御贈物於關白

殿、琵琶一面、和琴一張、已上各納錦袋、請取人可尋之、此間賜立

明官人祿足絹、次召府年預將曹下毛野季俊於欄下

給、尙殿下御衣、依爲院御隨身、殊有饗應、依新

制不及他人纏頭、先是上達部已下退出、次將軍

於西透廊、令申慶賀給、予申大殿、次申北政

所給、皇后宮亮信雅朝臣申之、給隨身腰差、次

令歸昇給、次予奉仰仰御隨身所別當前甲斐守雅

職、中宮少進顯憲、仰書式有之云々、召御隨身厚原

則仰之、尙別當着御隨身所橫座、居肴物有盃

酌云々、次居例飯、御隨身着之、

今日女房打出色々掛五領、紅單打衣柳織物、表着紅

蒲萄染織物、唐衣、摺裳等也、

十三日 丁巳、◎底本十三日上有長承四年二月六字今削之、天晴、大將殿參所

所、令申慶賀給、自大炊御門高倉御所、令出立

給、辰刻許予着束帶參被殿、頃之兵部省持參

移文、予取之覽之、留移文返給營、令訖、次令

給祿、

錄一人、史生二人、已上各疋絹國交絹也、省宣衣冠者取之、使部五人、布

一段、下家司取之、

內府中宮權大夫左大辨參入、午刻出御、

前駟廿三人、

四位一人、知後五位十八人、六位四人、

御隨身員數裝束等如去八日、假御隨身等猶以候、信

雅朝臣、顯親朝臣、公能朝臣、忠賴朝臣、公信、以上殿

人顯定、基教、已上院殿上人等各乘車扈從、先令參院御所、

小六條院別當民部大輔經親五位奏之、舞踏了依召

令參御前給、次退出、令參關白殿給、家司

中宮大進予申之、再拜之後又申同北政所、予同申之、次

昇自中門廊內、令參御前給、此間有御隨身

腰差、次退出、次女院、判官代知道奏之、舞踏之

後依召令參御前給、次前齋院、次豐門前齋院、

再拜之後依_レ召令_レ參_二御前_一給_二御本_一、褰_二白浮線綾_一付_二銀枝_一、

又有_二御隨身腰差_一、次皇后宮、再拜了依_レ召令_レ參_二御

前_一、簾中仰_二和琴_一、令_二退出_一給之間、女房被_レ押_二出

簾外_一、信雅朝臣亮參進取_レ之給_二前駟_一、又有_二御隨身腰

差_一、次令_レ參_二御殿御所_一給、去八日於_二東三條_一令_レ申_二

慶賀_一給了、今日雖_レ无_二其儀_一、慶賀日不_二令_レ參給_一

可_レ有_二儀之由_一、◎可_レ之上、脫不字歟、依_二新儀_一所_レ令_レ參給_一也、次

御退出還_二御于大炊殿本府_一、假御隨身將監將曹府生

給_レ祿返_二遣之_一、

將監絹三疋、將曹二疋、府生一疋、已上侍所同次給_二分給_一之、

吉上、御輿長、駕輿丁等祿、

吉上六人 布各二段

御輿長六人內番長一人疋、絹近衛五人布各二段駕輿丁十七人布各一段

已上召_二本府_一見參分給_レ之、

去八日移馬四疋置_二移鞍_一、自_二院分_一獻給、今日同前、

仍彼日不_レ給_二舍人祿_一、今日一度給_レ之、

御厩舍人四人布各居飼四人、布各五段

事了退出、

十五日、己未大將殿來十七日可_レ令_二着陣_一給_二之由_一、

召_二府年預中將忠基朝臣_一被_レ仰了、又召_二大夫史政重

被_レ尋_二仰吉書事_一、

十七日、辛酉大將殿始可_レ令_二着陣_一給、早旦着_二衣冠_一

參_二彼殿_一、尋_二沙汰件事_一、今日時申_レ吉之由豫以尋聞

了、召_二府沙汰_一、件事官人忠清內々御覽、今日吉書

忠清進_二一通文_一、

右近衛府

合中將已下府生已上、

正四位下行權中將兼皇后宮權亮藤原朝臣忠基、從

四位下行權少將兼伊豫介藤原朝臣忠賴、正六位上

行將監橘朝臣景通、正六位上行將曹清原真人遠兼、

正六位上行府生惟宗朝臣忠清、正六位上行府生道

守宿禰重元、正六位上行府生身人部宿禰真近、以

前今月十六日宿直如_レ件、

長承四年二月十七日

正二位權大納言兼大將皇后宮大夫藤原朝臣

以此文號_二日奏、令_二着陣_一給之後令_二加_二御名二字_一給者、大臣時朝臣云々、

右近衛府移 主計寮

納畢米參佰斛狀

右播磨國當年大糧米、相_二加精代雜貨_一所_二納畢_一、如_レ件、以移、

長承四年二月十七日 府生惟宗

權中將藤原朝臣

以此文號_二納畢移_一、令_二着陣_一給之後所_二請印_一也、年預中將加判、

件二通文經_二御覽_一、聞_二食子細_一返給了、

又大夫史政重持_二參吉書_一、内々經_二御覽_一、

鈎_レ匙文二枚

大羽出羽

午刻陰陽頭家榮朝臣參上、予奉_レ仰令_二勘_一申着陣日時、今日辛酉時申、予以_二件勘文_一經_二御覽_一、家榮祇候爲_レ令_二由_二件刻限_一也、又藏人方吉書可_二儲候_一之由遣_レ仰_二頭辨許_一了、刻限成了之由家榮令_二申_一、仍出御、前駈

六人、御隨身番長着_二染狩袴_一、垂下臈五人白袴也、殿上人扈從令_二參内_一給了、次予退出、

後聞、大將殿於_二敷政門代外_一先令_レ問_二刻限_一給、次令_二着_二本陣座_一給、次中少將着座、次將監進_二吉書_一、_{入_二日奏_一}一通_二下臈少將取_レ之進_二大將_一、次將監進_二祝苗_一、同少將取_レ之置_二大將前_一、次大將披覽、日奏令_二加_二御名二字_一給、次少將取_レ之返_二給將監_一、次將監又納畢移一通封紙等入_レ宮進_レ之、少將又取_レ之進_二大將_一、大將令_二披見_一給了、次取_二封紙_一令_レ書_レ封給了、如_レ本入_レ宮、次少將取_レ宮給_二將監_一、又取_レ硯給_二將監_一、次近衛二人昇_レ机立_二御座北庭_一、印盤印櫃等置_二件机上_一昇_二出之_一、次將監歟取_レ宮參上、請_二印移文_一、次返_二納印_一、其當付_二御封_一了、次將監取_二移宮_一退入、次近衛參進、昇_レ机退入、次中少將起座、次大將令_二起_レ座給、次大將令_二着_二仗座_一給、左大辨參着、申_二申文由_一、次着_二床子座_一見_二申文_一、次着座、次史申文、次頭辨宗成朝臣下_二奉吉書_一臨時公用請奏也、次大將殿令_二退出_一給了云々、

今日被_レ仰_二下大將殿御厩別當_一、中宮少進顯憲

廿五日、己巳天晴、大將殿始着_二直衣_一有_二御出御_一、

直衣檳榔車、紅打出褂野釵、前駟衣冠御隨身布衣、

但番長冠壺脰巾狩胡籙、殿上人扈從、已刻許上皇渡_二

御東三條、大將殿令_レ供_二奉御幸_一給、上皇入_二御自_一

西御門、寢殿階間蓋_レ車、大殿令_レ候_二御車寄_一給、未

刻許有_二御馬御覽_一、大殿關白殿令_レ候給、自餘卿相等

祇候、右中將忠基朝臣束帶取_二硯毛付等_一候_二于寢殿南

簀子_一、階西先_レ是垂_二庇御簾_一了、大殿令_レ候_二于簾中_一給、

關白殿令_レ候_二于西簀子邊_一給、自餘上達部候_二透渡殿_一、

檳榔御車、御直衣紅打出衣、野釵、

前駟五人、雅職、顯憲、清職、長時□□

御隨身布衣、

番長_{厚力}原則冠狩古六壺歷中二盞上下

下薦五人、

今日大將殿御所始、別當去十七日被_二仰下_一訖、預案主等未_レ被_二仰下_一、

勸

中右記

長承四年二月八日上略次公卿次將復座

次中宮大進知信朝臣居益於折敷持參下略

又此記文之中同十三日記云家司中宮大進予云々以之推之爲知信明朝臣記明矣

吉田中納言爲經卿記

後嵯峨院 寬元四年正月廿九日脫屣

寬元四年正月八日 讓國事已露顯、來廿三日可有

行幸冷泉皇居、隆親亭元皇居也、前右府加修理、東宮明日可有行啓

前右大臣第一、於彼第二可受鈿璽給上之故也、讓位

來廿八九日之間云々、左府爲傳、當踐祚可蒙攝

政詔之由、被申禪定殿下、爲傳之人達龍興任

執柄之例、六條攝政爲一條院坊傳任之、但法性

寺入道被讓任、當時入道殿下承久龍興、爲傳任

攝政、是又依爲外舅也、

廿九日、有讓位事、

被補院司、

別當

權大納言藤原朝臣

公相顯定

御廐別當

權大納言源朝臣

執事

參議藤原朝臣 定嗣 院中雜事可奉行云々、

右中將雅家朝臣

左中將顯朝朝臣

判官代

右中辨顯雅

藤原重名

源仲基

藤原雅綱

藏人

菅原長雄

主典代

中原景資

安部資俊年預

院司被仰下之後、申拜賀、次院司公卿着殿上

有孟酌、房名朝臣持參孟云々、

殿上人四十五人被仰下云々、在位之時殿上人被

撰定、先例皆渡之、建久被撰渡、被追彼例歟、

委可尋記、

卅日 天晴、參院、着束帶於陣外下車是例也、殿

上無_二居饗盃酌之儀_一、

二月一日、天晴、臨_レ夕雨下、參院東帶今日被_レ立_二

御馬八疋、栗毛、鹿毛、川原毛、黑駝、川原毛、鶴毛、黃斑、御牛三頭、黃斑、前右

府進_レ之、御馬御厩舍人六人、召_レ之、居飼六人牽_レ之、

御牛童藥師丸、愛引_レ之、密々有_二叡覽_一、垂弘御所御簾、即德丸、鶴丸、於其中御覽、

立_二御厩御牛屋等_一、依_レ爲_二厩始以前_一、人々於_二陣外_一

下車、今日始有_二御湯殿_一、右少辨顯雅申_二沙汰_一之、又

被_レ加_二補院司_一、右大臣前內大臣、定通右大將、堀川大

納言、具實源大納言、通忠子、三條中納言、公親、左大辨

別當、花山院三位中將惟忠朝臣、定賴朝臣、隆行朝

臣、時經、高雅云々、土御門大納言執事、給_二交名_一下_二

知主典代云々、又被_レ補_二主典代親清、繁俊_一、先朝出納

五日、天晴、參院、御祈始被_レ行、河臨御秘、御衣

御服所堀川大納言妹尼沙汰云々進_レ之、御衣營被_レ用_二御在位御時宮_一、

使殿上五位、可_レ尋藏人佐奉行云々、

十三日、天晴、院廳始也、依_レ有_二別催、秉燭之後參

院、車代綱代車差綱今日先有_二尊號、御隨身_一、先例先府生以下宣下之、追行、將費除目

召_レ加之、今度任_二建久例_一、破宣_二下將曹以下_一也、久員元將監也、

曾爲_二前關白左府生_一、然而無_二更被_一任_二將曹之儀_一、以_二將監_一任_二將曹近

師兼令_レ申、先例不詳之由、封戶、頓宮衛士、仕丁等、宣下、頭辨、

宣_二三下右大將云々、頃_レ之前內府參入候_一公卿座、不著殿上

院司公卿堀川大納言、具實土御門大納言、顯定于、

新宰相、花山院三位中將、依_レ可_二參行幸看_一螺鈿銀、院司公卿

等着_二殿上_一、不居、饌無_二孟酌_一、然而依_レ例、僅所參也、

書注_二有_一孟酌之由、不足、四位院司以下不_レ着、依_レ無_二

孟酌_一歟、參川守房名下覽_二吉書於土御門大納言_一、

執事、仍雖有_二上_一、美作國之封解歟、大納言見了返給、次奏_二御所_一歟、

此後加_二下書_一下_二廳歟_一不見、次判官代二人持_二參返

抄并硯、返抄入、第一一人持_レ之、置_二堀川大納言前_一、大納

言加署、次第被_レ下_二加署_一、至_二予所_一、披_レ見_レ之處云、公

卿院司云、四五位院司不_レ盡_二其人_一、參入之人許書

之、但右大臣并大宮大納言雖_レ不_レ參入、書_二入之_一、右

大臣者依_レ爲_二上首_一、大納言者依_レ爲_二御厩別當_一也、

先例非_二院司_一多_レ之歟、建久雖_レ不_レ參、院司判官代皆

悉書入、依_二人數少_一歟、今度公卿以下數輩仍別被_レ催

之、前內大臣加朝臣字、於公卿座被加之、兩亞相被加之、真

名、此事先例忽不覺、仍隨兩人之所爲、加真名、

畢、各加署了、判官代雅綱了、於中門下給主

典代資俊云々、次人々起座、院司內藏頭惟忠、參

川守房名等朝臣、判官代右少辨顯雅、六位二人着廳

居、饌有孟酌、加返抄署之、廳假用隨身所廳

始了、可居隨身所饗云々、御隨身所始、先本府

進差府右少辨顯雅奏聞、被仰可候所之由、次御

隨身等着所居饗云々、御隨身兼殊有沙汰被召

之、

左將曹秦久員久清法師、前關白左府生也、元將監也、不被行將曹除目、

右將曹秦兼利賴次男也

左府生秦久則久員弟、年頗少歟、賴峰當仁歟、但不可爲兼利下屬之由訴申之間不被召也、

右府生秦兼躬武之子、年少之由人難歟、

左番長秦賴方賴峰子

右番長秦久賴

下臈等可尋注、

武者所之衆等同被始之、所々雜器垂布饗等諸國勸

之、今日事各右少辨顯雅奉行也、

十六日 天晴風靜、今日可有御幸承明門院、土御門殿、

蓋脫屣之後初度御幸也、午刻着束帶參院、綱代車差網相具乘

馬、于時人々漸參集、頃之先有御馬御覽、今日攝

政所被獻之移馬六疋便覽之、先上皇出御南面簾

中、前內府、束帶大宮大納言、公相御座別當、參候御前簾子、

不敷執筆次上臈御隨身六人引御馬、下手御座御前乘

之三面折廻之後引出之、次等所引也、抑將曹二

人不騎之、各令下臈師峯賴澄等令用代官、頗似

不可然、第五御馬栗毛依爲僻物、不令乘之、

御幸始日依無骨也、御覽了入御、立御車於南庭、人

人參集之後空歷數刻、申刻出御、有御反閑、在尙朝臣奉仕之、

公卿列立南庭、右大將中宮大夫、花山院大納言引候、其外大納言以下懸裾、寄御車於南

階、頭中將雅家朝臣、頭左中辨顯朝朝臣等付御車、先

自簾中被出、御劔頭中將參進取之入御車、次兩

貫首懸打板、次攝政殿參進奏御簾、上皇乘御、此

間公卿自_三上臈_二退騎馬、御車出_三御門前_二之後、經_三一時_二、是先陣不_三早過_二之故云々、頻以_三廳召使_二有_三催促_二、于_レ時夕陽傾_三西嶺_二之間也、其行列先殿上人卅餘輩、兩貴首亂位公卿右大將、實基堀川大納言、二爲上臈具實中宮大夫、隆親中院大納言、通忠花山大納言、定雅萬路小路大納言、公基權大納言、實雄土御門大納言、顯定予、三條中納言公親、權中納言冬忠、土御門中納言顯親、左衛門督實藤、新中納言公光、大宮中納言公持、左宰相中將、實任別當、通成新宰相、定嗣土御門宰相中將、通行花山院三位中將、師經土御門三位中將、顯良次居飼舍人、赤色以下款冬衣次御隨身將曹秦久員、同兼利府生同久則、同兼躬番長同賴方、同久賴將曹府生襖袴、番長白袴或菊閑或付_レ花、次御車唐車轎網蘇芳未濃御籠有_二雜物_一、御車副冠褐次下臈御隨身、次後騎大宮大納言、公相次攝政車扈從、其路萬里小路北行、大炊御門西行、東洞院北行、近衛東行、萬里小路北行、先陣着女院御所之間漸及_レ暗、御車進_三於路次_二、

取_三松明_二云々、但院司各先行、御車邊不_レ取_三松明_二歟、殿上人列_三立御車宿前_二、公卿列_三殿上前_二、御車於_三門外_二脫_三御牛_一、院司兩三輩取_三松明_二祇候、次差_三入御車_二於門內、廳官付轅次寄_三御車_二於中門廊、攝政被_レ候_三御簾_二、上皇入御、先供_三御膳_二、前內府候_三陪膳_二、近習雲客隆行、顯方、通世等役送云々、次渡_三御女院御方_二有_三御對面_一、次被_レ進_三御贈物琵琶_二、堀川大納言取於中門、惟忠中院大納言取_レ之、朝臣請取_レ之、定賴朝臣請_レ取_レ之、次還_三御冷泉殿_二、於_三中門_二放_三御牛_一、引_三入御車_二、院司惟忠、定賴、經俊、高雅等取_三松明_二前行、下御之後退出、即着_三布衣_二歸參、今日布衣始也、頃_レ之前內府着_三烏帽子直衣_二參入、近習公卿殿上人等着_三布衣_二參入、候_三廣御所_二、上皇着_三御布衣_二、白浮織綾御侍衣、紫織出御頃_レ之入御、人々退出、着_三布衣_二參入人々、堀川大納言、花田織襖御侍衣、綾色衣中宮大夫、已上平禮、白唐綾襖中院大納言、花山院大納言、予、花田御侍衣、白土御門中納言別當、平禮花田御侍衣新宰相、花山院三位中將、雅家朝臣、

資信朝臣、顯方朝臣、信家朝臣、成俊、通世、

已上不及別催、近臣等着布衣所參入也、

今日御幸、顯雅奉行也、前内府注進次第也、後日

上皇仰云、御隨身於馬上可取松明歟、今度不

然如何、尤可取之、又御厩舍人等下薦爲先歟、

上薦爲先歟、前内府申云、打任爲先下薦也、定

嗣卿申云、後鳥羽院御時上薦爲先有所見之由有

沙汰之旨所見及也、

十七日、天晴、未刻參院、於門下下車、廳申刻於弘

御所御覽御馬、昨日移六疋御隨身等騎之、久員依召

候庭上、上皇御座簾中、女房候左右、前内府、堀

川大納言、中宮大夫、前大納言、爲家、花山院大納言、

予、土御門中納言別當、新宰相三位中將、頭中將

等、候御前簀子、殿上人候御厩緣、此有騫馬非

無興、久則、兼躬、賴方各堪能、

廿一日、天晴、院上下北面始也、上北面以殿上北

面二ヶ間爲其所、下北面副北築地有三五間屋、

以件屋爲其所、懸紺垂布立朱漆臺盤、撤足、先

兼日被改下交名、廳相觸之上、北面左馬權頭以良

朝臣、左京權大夫經朝朝臣、已上衣冠參入書着到

退出、下北面廿人

此中五位友景、行範、宣季、盛長、重澄、以上五人、五位尉也、殘十五人六位也、各

被撰召重代輩云々、參集北面、各束帶、有三獻云々、

自今夜於院被始行北斗法、阿闍梨圓滿院僧正

壇所自應點近邊屋、雜事二品沙汰云々、自來月

可被行長日御修法云々、不聞、

廿四日、天晴、昨日進上北面輩、仲家朝臣十人皆

是撰召也、

廿五日、天晴、參院、下北面輩内友景已下八人可候

内北面之由被仰下、新宰相下知友景了、

廿八日、天晴、參院、有御鞠、前大納言揚鞠、晚

頭退出、入夜歸參、始有名謁、於西中門内有

此事、上皇自令問給、タズ、土御門大納言、予以下名

謁、下北面於庭上名也、

今日有尊號御報書、判官代高雅奉行、刑部卿淳高

卿草之、使土御門大納言、判官代仲基、前內府東帶參入申沙汰、

三月一日、天晴、參院、有御燈御被、判官代高雅奉行也、御束帶、其色普通黑袍文、菊八葉引唐草、御下襲躑躅打、下襲

紅袍、御笏自殿下被獻之入宮、於寢殿南面

有御袂、御隨身等候也、頭中將陪膳云々、次有弘御所、御直衣、

前內府、堀川大納言、予以下祇候、上北面輩候御

厩簀子、下北面候中門邊、數床北面輩今日始候、出

御別記之、

二日、今夜上皇御幸宣陽門院、廂御車、年預調進御車副

布衣白張裏、公卿中宮大夫以下廿餘輩、殿上人廿餘

人、公卿直衣、殿上人衣冠、御隨身上薦冠、各盡美、

曉鐘之後還御、贈物尋建久御幸安井殿之例上有

御儲云々、惟忠朝臣奉行之、

四日、天晴、今夜御幸承明門院、密儀也、綱代八葉

御車、今日始御乘用、襄御幸始是也、下北面四五輩候御供、（旁書）近習殿上人布衣上

結供奉駕、水干鞍、

五日、天晴、參院午後之程也、前內府被示云、御身固既了者、今日始有此事也、陰陽師十人結番云々、

十一日、深雨、午後晴、今日御即位也、自閑院行

幸官廳、院御見物、八葉御車、御靈召次前行、御牛童兩三人付御車、北面

下薦五人候御共、女房宰相典侍候御車後、被立

御車於大炊御門堀川、北面近邊小屋前植竹、廳官少々兼向定通其所致沙汰、雖爲密儀兼有用意

也、大納言二品并前內府追以參入、立車於近邊、今

度御見物儀度々雖廂御車、公卿殿上人少々可前駈

之由被仰之、忽公卿殿上人許着衣冠可候之由

有其沙汰、猶窳密儀可宜之由被定了、

十三日、天晴、午上參院、自今日被始行千日御

講、以廣御所東小御所三ヶ間爲道場、判官代宮內

少輔成俊奉仕堂莊嚴、懸幡花鬘拾三ヶ間、東北二

面障子上懸翠簾、以東爲御聽聞所、以北爲女

房聽聞所、西障子不懸簾猶可懸敷、中央間副北立佛臺、奉懸

御佛、阿彌陀佛、件御佛先帝被圖繪之、每

機供一香花燈明、其前立禮盤前机等、置香爐、已

上螺鈿也、前内府進之、西間敷高麗壘、爲御導師

座、東西行、副東障子敷同臺、南北行、爲御續經衆座、座前

立經案、安表紙御經一部、八卷無量壽經、心經、阿彌陀經

品、阿彌陀經一卷、心經一卷讀嘆之、前廂敷高麗壘二帖、爲公卿座、御願

文刑部卿淳高卿草之、其趣奉資、後白川後鳥羽土御

門三代上皇御菩提、淳高卿今朝持參之、觀覽之後、

左京權大夫經朝朝臣清書之、紫色紙散薄、兼有前机上、未刻許出

御廣御所、大相國以下候御前、御講事具後渡御聽

聞所、大相國前内府等候西簀子外簾中、堀川大納言

直衣中宮大夫、束帶、參長講、堂之故云々、予直衣土御門中納言、新宰相

已上、等着座、參公卿所、參座也、御導師法印宗源法服着禮

盤、御讀經衆良能僧都題名兼着座、純色裝束、禮盤、揚御

經題名、無法用、仍下花筥、說法了懸布施、御導

師綾被物一重予取之、褰物一右中將爲氏朝臣取之、

御講經衆褰物一新宰相取之、次御導師退下、公卿又

起座、良能轉讀御經一部云、御導師云、御讀經衆

每旬可被撰召能說能讀之輩云々、御佛、御經、

素紙三十六部、每日御布施等、前内村沙汰之、一品可講讀也

御講事右少辨顯雅奉行之、而顯雅今日爲取蓮華

王院損色參向之間、成俊假所奉行也、

以禁裏御本書寫之、

寛正五年卯月廿二日

按察使親長

後稱念院關白冬平記

乾元二年八月五日、此日改元也、改乾元二年爲嘉元元年、入夜着束帶參內、依召參朝餉、即着陣、奧吉田大納言經長大炊御門大納言、良宗、萬里小路中納言、師重、權中納言、師信、久我新中納言、長通、中御門宰相、宗冬、右大辨宰相、定資、等着此座、以春宮亮雅俊朝臣持來年號勘文五通、籠懸紙以紙捻結申、予披懸紙取一通結申、雅俊朝臣仰曰、可有殘披見如元卷置前、雅俊朝臣退去、予懷中文書、或給文書移端、或承揖起座、此間定資朝臣起座移端後歸着端着端座、直沓令敷軾、次余取笏目吉田大納言、置笏授勘文、袍達之間抱道大納言居寄取之次第見下留大辨、前定資朝臣不見勘文、伺氣色、予仰可讀申之由、定資朝臣問云、先例爲兩樣、先何勘文可讀申哉、先可讀文章博士勘文之由示之、而先讀別勘文之間、傍卿等告之、予云、先例

爲兩樣、先被讀別勘文之條不可有苦者、仍先讀別勘文、次讀文章博士勘文、次次第可定申之由又示之、自下膳申之如參本逃足可申也、今夜不然、長通卿一人逃之中御門宰相文嘉、新中納言、文弘、權中納言、嘉元、萬里小路中納言、嘉元、大炊御門大納言、文弘、吉田大納言、嘉元、予嘉元、久長、次返上勘文、置余前、招雅俊朝臣奏舉申之文弘、皆悉今一度可被申之由示此大返上勘文、數刻還來、趣、之令聞職事之料也被申仙洞一同可定之由被仰下、此間種々意趣等申之故歟、無他字者被用之條、何事有哉之由有之、嘉元、文弘、久長、本朝年號打返之例無之、然而准漢家例、沙汰之間可被計用之歟之由有衆議、仍此趣奏之、有數刻頭亮歸來、仰曰、依天變並炎旱、乾元二年可爲嘉元元年、任天永例、令作詔書、此間議悉退出、大臣在陣之時參木早出不可然、余以官人召內記、大內記親信參、仰此由、即持參草、書紙厚紙披見、令讀內記、即以雅俊朝臣內覽奏聞、此間以官人召廷尉佐、左佐藤朝參、仰曰、任詔書趣可免四人者、舊記曰、九條殿子孫、詔書清書以前仰之云々、然而先例不同、法性寺殿元永度清書了、被仰之、保安度草奏聞之後被仰之

次被_レ返_二下詔書草雅俊朝臣_一曰、關白早出、清書內覽

可_レ免云々、即返_二給內記_一令_二清書_一即持_二參之_一余披見

了返_二給內記_一起_二座經立_一蒞西立_二弓場代_一內記小內

記持_二參詔書_一招_二雅俊朝臣_一奏_二聞之_一返_二給_{有御}歸_二着

陣、內記置_二詔書篋_一次召_二外記_一大外記師宗參、問_二

中務參否、申_二候之由_一仰_二可_レ召之由_一中務輔_{不_レ知_レ參}

軾、乍_レ當給_レ之、次右中辨經雄朝臣持_二來官方吉書_一

予披見返給、奏聞了又持來、余結申了返給、次雅俊朝

臣下_二藏人方吉書_一予結申了招_二經雄朝臣_一下_レ之、余

則退出、及_二曉更_一也、抑人々定申年號奏聞之後、土

御門宰相中將雅長卿參、余示曰、年號事且奏聞了、可

_レ被_二申_一何號哉、嘉元文仁之由示_レ之、其詞、勘申年

號事、嘉元引文_{未_レ示_レ之}、文仁同依_二天變_一可_レ被_レ改_レ者、就_二

賀老人星之文_一、嘉元猶可_レ宜歟之由示_レ之、

勘文等如_レ此、年號事

長祥 脩文殿御覽曰調長祥和天之喜風也、

齊治 禮記正義曰、國立_二有司之官_一、以_レ法齊治、

文觀 周易義廣會曰、其文觀_レ之、

前權中納言藤原俊光

勘申 年號事

嘉元 藝文類聚曰、賀老人星表曰、嘉古元吉、弘_二

無量之祐_一、降_二克昌之祚_一、普天同慶、率土合歡、

長永 藝文類聚曰、可_二以長生世永年_一、

久長 吳志曰、安_二國利民_一、建_二久長之計_一、

弘元 後漢書曰、所_二以求_レ善贊_レ務弘濟_二元々_一宜_レ

採_二納良臣_一以助_二聖化_一、

寬正 史記曰、寬以正可_二以比_二衆_一、陸善注曰比和

同也、

文仁 毛詩注疏曰、有_レ鳥曰_レ鳳、膺文曰、仁自_レ歌

自_レ元必有_二此二字_一舞見、則天下安寧、

右依_二宣旨_一勘申如_レ件、

乾元二年七月六日

正二位管原朝臣左嗣

勘申 年號事

大長 周易注疏曰、有_二大長貞正、

和元 尙書注曰、能諧_二和元后之任、

仁興 漢書曰、文王好_レ仁則仁興、

文弘 晉書曰、博_レ我以_レ文、弘_レ我以_レ道、

康永 金樓子曰、魏明作_二康樂永休諸堂、建_二承露

之盤、

右依_二宣旨_一勘申如_レ件、

乾元二年七月二日

從三位行勘解由長官菅原在兼

勘申 年號事

元延 晉書曰、踐_二元辰_一延_二顯融、我皇壽而隆、

弘治 宋書、興王立_二訓務弘_一治節、

嘉元 脩文殿御覽曰、天氣柔且嘉、元吉隆初已、

正弘 周易注疏曰、安_レ民在_レ正、弘_レ正在_レ謙、

應安 毛詩曰、王國之內幸應安定、

右依_二宣旨_一勘申如_レ件、

文章博士兼越前權介藤原朝臣淳範

勘申 年號事

天明 孝經曰、明王事_レ父孝故事_レ天明、事_レ母孝、

故事_レ地察、長幼順、故上下治、天地明察、神明

彰矣、

貞正 尙書曰、一人元良、萬邦以貞、注云、真正

也、言常念_二慮道德_一則得_二道德、念_二善政_一則成_二善

政、

嘉慶 毛詩曰、有_二嘉慶_一禎祥先來見也、

右依_二宣旨_一勘申如_レ件、

文章博士藤原朝臣敦繼

嘉元四年十二月十三日、藏人右衛門權佐賀冬來奏_二年

號勘文_一前藤中納言俊光並菅宰相在_二嗣卿等勘文所_一奏

也、式部大輔并兩文章博士勘文直付_二資冬_一、資冬仍

持_二來之_一、相具可_レ奏之由仰_レ之、件勘文付_二外記_一、外

記進_二上卿_一、上卿奏_二聞定事_一也、而文章博士等直付_二

職事、不可然也、於公卿勘文者、多直進上卿、今度俊光在嗣等卿如此、

十四日、改元定也、仍秉燭程着束帶、時繪識參內、

依召參臺盤所、即着陣入敷政令敷軾、按察大納

言實泰卿、權大納言師信卿、土御門中納言雅長卿、

六條中納言有房卿、源宰相顯資卿、近衛宰相中將實

香卿、左大辨宰相定資卿、三條宰相實任卿、滋野井

宰相中將實前卿等着座、藏人右衛門權佐資冬下勘

文、予取一通五通籠懸紙結申之、依變異可有改

元、令諸卿令定申之由仰之、殘一々披見、資冬

退、次余取副勘文於笏、目按察、即遣勘文、按

察聊居寄取之披見、爲早速、次第可見下之由示

之、予答可然之由、仍一通、隨見了下之、此間

大炊御門大納言良宗卿參着、仍勘文更取上、大納言

披見了、次第取下之左大辨宰相依予氣色讀勘文、

先文章博士、次別勘文讀了、次第可定申之由予示之、自下臈

定申之人々定詞予申云、年號事、文仁、正和、其外人學申

字忘却、追尋記次返上勘文、余取之置前、次招資冬奏

人々申詞、此次返上勘文今一度可被仰聞之由示之、仍面

面重申之也、資冬飯來云、德治正和之間可定申者、

人々申所存等、資冬召置軾令聞之予德字不可用之由、白河

鳥羽有三代法言、然而可被用哉否、宜在時議

歟、德字居上事本朝無例、於異朝者一兩度有之

歟、皆不快歟、就中齊後主改隆化用德昌、其時

太不吉歟、仍不舉申、正和又和字先例強不快、然而

就輕舉申之了、所詮可在衆議歟者、德字可被

用之由兼日有沙汰云々、仍近臣等可被用德治

之由頻申之、太略一同歟、仍余奏其趣、資冬還來

云、德字雖有二代法言被有用有何事乎、然

者改嘉元四年可爲德治元年、依永久例令作

詔書、觸神社訴之輩非赦限、次予召內記、大

內記親信參着軾、仰詔書事、如職事仰詞即持參草入宮、

予見了以資冬奏聞、即被返下、仰下可清書之由、

予下內記、即持參清書、予見了進弓場奏之、即

被返下_二實_一御_二予歸_一着陣_二參議_一兩在_レ座、召_二外記_一、仰_二中務可_レ召之由_一、次中務輔參_レ軾、乍_レ宮給_二詔書_一了、次召_レ佐、右權佐資冬參_レ軾、詔書施行以前可_二勘免_一囚人之由仰_レ之、次右少辨冬定下_二官方吉書_一、予見_レ了奏聞、被返下_二之時結申了_一、下同辨、次頭中宮亮惟輔朝臣下_二藏人方吉書_一結申了、召_二冬定_一下_レ之、予則退出、

勘文等如_レ此

勘申 年號事

文觀 周易義廣會曰、其文觀_レ之、

仁興 漢書傳曰、文王好_レ仁則仁興、得_レ士而敬_レ之則士用_レ之有_二禮義_一、

仁化 隋書曰、被_二雷德義_一、仁化所_レ及、禮讓之風自_レ朝滿_レ野、劉子曰、聖人爲_レ治_レ之以_二爵賞_一觀_レ善、以_二仁化_一養_レ之、

前權中納言藤原俊光

勘申 年號事

文仁 毛詩注疏曰、有_レ鳥曰_レ鳳、齊文曰_レ仁、自舞見則天下安寧、

長應 史記曰、正義曰、老人星一日南極爲_二人主之壽命延長之應_一、見國長命謂_二之壽昌天下寧_一、

仁長 晏子春秋曰、稱_二仁長_一其意、

德治 尚書大禹謨曰、注云、俊德治能之士並在_レ官、

左傳曰、能敬必有_レ德、德以治_レ民、

正和 唐記曰、皇帝受_レ朝奏_二正和_一、

寬久 會要曰、承寬既久、

右依_二宣旨_一勘申如_レ件、

嘉元四年十二月七日 正二位菅原朝臣在嗣

勘申 年號事

寬安 毛詩正義曰、行_二寬仁安靜之政_一、以定_二天下_一、得_レ至_二於太平_一、

建安 漢書曰、建_二久安之勢、

建平 漢書曰、明_二帝王之法制、建_二太平之道、

曆長 後漢書曰、漢曆久長、

曆萬 後漢書曰、通_二天然之明、建_二大聖之基、改_二

元正曆_二垂_二萬代則、

文保 梁書曰、姬周基文久保_二七百、

右依_二 宣旨_二勘申如_レ件、

嘉元四年十二月 日

從三位行式部大輔兼駿河權守菅原朝臣在輔

勘申 年號事

建文 唐書曰、建_二文武大臣一人、爲_二隴右元師、

延文 太宗實錄曰、詳延_二文學之士、馳_二聘載籍之

場、

長寧 晉書曰、四海長寧、萬國幸甚、

德治 後魏書曰、明王以_レ德治_二天下、

應安 毛詩正義曰、王國之內幸應安定、

右依_二 宣旨_二勘申如_レ件、

文章博士藤原朝臣淳範

勘申 年號事

天明 孝經曰、明王事_レ父孝故事_レ天明、事_レ母孝、

故事_レ地察、長幼順故上下治、天地明察、神明彰矣、

萬安 漢書曰、陛下深留_二聖思、審固機察、於見往事

之形、以折中取_レ信、居_二萬安之實、用保_二宗廟、

延慶 後漢書曰、本_二文武之業、擬_二堯舜之道、攘

_レ災延_レ慶號_二令天下、

右依_二 宣旨_二勘申如_レ件

文章博士藤原朝臣敦繼

裏書 良宗卿建安

實泰卿仁化 德治

師信卿德治 建平

雅長卿文仁 長應

有房卿長應 建平

顯資卿長應 正和

實香卿德治 正和

定資卿仁化 文仁

實任卿德治 文保

實知朝臣正和 建平

前イ

德治三年十月二日、頭右兵衛督爲藤朝臣來云、來九月可有改元、定勘文一事可宣下者、即遣召大外記師顯朝臣之處、稱所勞之由、令進六位外記、給口宣了、彼口宣如此、

德治三年十月二日宣旨

令前權中納言俊式部大輔菅原朝臣、並文章博士藤原朝臣、同淳繼朝臣等撰進年號字、

藏人頭右兵衛督藤原爲藤奉

九月、改元定也、先例多者讓位翌年有此事、而今度關東内々有申旨之間、忿被行別儀也、秉燭着束帶參内、前斯三四人、維色長武、益少將實盤朝臣連車參臺盤所、有出御、

此間東宮頓給料以下事宜下、上卿大夫師信卿云々、次予着陣、人々同着之、頭右兵衛督爲藤朝臣來、軾下勘文、予取一通結申了、次第披見之、了授按察大納言、先取副笏、氣色之次第見下之、中御門宰相爲行卿讀勘文、先別勘文、次文章博士、可伺上卿命也次予次第可定申之、由觸諸卿、次自下請定申之、中御門宰相、慶長、權中納言定資卿、康永、春宮權大夫雅長、康永、花山院大納言家定卿、春宮大夫師信卿、延慶、康永西園寺大納言公顯卿、延慶、康永按察使大納言實泰卿、慶長、康永余、延慶、康永各舉申了、招爲藤朝臣奏聞之、重面々令仰聞之此次返上勘文、此間且可被申所存之由示人々、仍面々評議、爲藤朝臣歸來、仰可一同之由、不參仙洞攝政被示、兼被承院卿、延慶慶康永之間可被用之由申之、慶長不聞吉、但貞字元字等漢音吳音先例相共被用之、然者慶字ケイト被讀之條無苦也、不聞惡無殊難之由按察申也、此趣同奏聞之、爲藤朝臣歸來云、康永其字釋不快也歟、先例誠不詳、近衛院代始改永治爲康治、今改德治爲康永、之條不可然之由、西園寺大納言申之、其小例折

返、異朝年號先例不_レ宜之由有_二沙_一延慶慶長之間重而可_二計_一
次、如_二元永_一嘉例又有_レ之歟

申、慶字漢音有_二何事_一哉云々、其後猶評定、慶雲、元慶、天慶皆吳音也、改_二漢音_一之條、猶無_二左右_一難_二計_一申之由人々多申_レ之、下_二置慶字例又不快之由按察申之間、猶難_二一決_一之由、重而奏聞之處、歸來云、改_二德治三年_一可_レ爲_二延慶元年_一、依_二代始例_一詔書令_レ作_二予召_一內記_{大内記}行氏、仰_レ之退出、依_レ有_二勞事_一所_二早出_一也、此後事可_レ奉行_一之由示_二按察_一也、詔書以下與_二奪納言_一之條有_二先例_一、

年號事

以下以_二部類記_一可_レ書加、勘文等別本_二有_レ之、

〔以下圖書寮本後稱念院殿御記ト題ス〕
延慶元年十一月十六日、此日天皇登壇即位日也、余

又攝政詔以後可_レ申_レ慶、其儀如_レ恒、即參內拜舞畢、昇_レ自_二小板敷_一著_二殿上御倚子下_一、有_レ揖、即起座參_二臺盤所_一、_{經鬼}召_二御裝束間_一也、先_レ是有_二行幸_一召_二仰歟_一、_{上卿}小時右府參入著_二陣_一、先覽_二藏人方吉書_一、_{轉任以}後無_レ著

陣之故
云々、次覽_二宣命_一、元草、余於_二臺盤所_一見了返_二下_一之、其

次給_二位記筥_一、_{下名稱}即右府被_レ參_二官廳_一歟、御束帶如

恒、出_二御清凉殿代額間_一、_{予指}內侍持_二劍璽_一候

前候_二御路_一、供_二庭道_一令_レ立_二留南殿北戸下_一給_二劍璽_一、

內侍立_二御帳左右_一、主上入_二北戸_一令_レ立_二御帳西間母

屋_一給、余候_二同西方_一、_有陰陽頭在_二益朝臣_一、余進

反間了、令_レ立_二御帳前_一給、_經予候_二南廂西

方_一、_{內侍立}次間_二右將渡_一、左公卿列立、_兩予候_二南廂西

役_一、乘御之間予候_二御裾_一、歸_二居本所_一御座定之間、

警蹕如_レ常、奉_レ昇_二出御輿_一之間、予經_二御帳後_一下_二

東階_一著_二靴_一、勲_二裾_一、經_二日花門代_一於_二四脚前_一騎馬、

供_二奉腰輿_一後行列在_レ與、攝政之時或供_二奉左近陣御

綱末_一、_{嘉承}幸路出_二御左衛門陣_一、_留三條坊門西行、

烏丸北行、二條西行、町北行、郁芳門大路西行、宮

城東大路北行、入_二御待賢門_一、美福門未南行、至_二于

官廳東門_一御輿寄、後房南面、予於_二東門外_一下馬、

宮儀、

昇朝所、東方參進候、西方、經忠卿參進、卷廂御簾、
中間一開、間計也、取御劔、授內侍、次下御、御候、次經忠卿取、御候、授內侍了、下御簾退、主上御、大床子西

平敷御座、內侍置、劔、於大床子上、余以御前、西園寺大納言公顯卿同祇候、此間余向正廳見廻、御

裝束歸、余御調度改之、天皇著御禮服、大炊御門中納言冬氏卿奉仕之、其次第是歟、著御裝束給之間、內

令告內辨、休幕、先定召奉行職事、五位職人光經、仰左

右行事辨、左右中辨、乍候御前仰之、侍從代褰帳執

翳、命婦等可參之由仰、光經催之、次天皇、次予、

不踏、次供奉女房如例、命婦留立、高御座北階下左

右、兩內侍立留北戶外、北也、主上入御北戶、予先

昇高御座北階、褰御帳、天皇著御、南面、內侍等參上

置、劔、命婦內侍女房等候、北廂幔內左右、余於

高御座東面、每事加催促、其後儀如例、次還御後

房、余案御帳如初、余下立地上、御輿出御東門、予雖可

參本宮、可申慶於所々之間不參、仍不見本

元亨四年正月十九日、丙午晴、今日余著直衣、平絹、同指貫、始出仕、又可候、詩御會并御遊、西時計參

內、於北門西邊、下車、入同門并和德門恭禮門

代等、經南殿御後、不脫、神仙無名等門代、昇自小

板敷、著殿上奥座、御侍、頭中宮亮藤房朝臣來可參、

臺盤所、之由示之、余起座經下戶、候臺盤所、臺盤上執

柄祇候、出御朝餉、少可參、萩戶御所、之由有仰、仍

參彼御所、經鬼問灰、又出御有被仰下事等、次有

御遊、出御仁壽殿代西面、御座南面、公卿、頭亮藤房朝臣持

端以下、與端相分著座、御座南面、公卿、頭亮藤房朝臣持

參御笛筥、予取之參進置御前、次殿上人等置樂

器、笛筥置余前、琵琶藏、次下笛筥、糸竹合音、笛御所作、

前右大臣雖申、笙按察使大納言親房卿、左宰相中將公

泰卿、篳篥右宰相中將光忠卿、琵琶子、箏春宮大夫、和琴大炊御門中納言氏忠卿、拍子左大臣、付歌宮內

卿冬定卿、呂新年春庭樂藤生野、賀殿急三反、地久

急三反、律萬歲樂青柳、依仰二反歌之、三臺急五反等也、其

後期詠德是北辰、五常樂急五六反、條有之、次撤樂器當取上之留

左府御笛筥余給之、給藤房朝臣、次文人等著加、

伶人起座、兩方兼帶留座、藏人辨秀房持參切燈臺、置御前左、移次置

文臺、可取替歟之由有仰、次敷講讀師圓座、續師座御殿前右方也

上人等役之、次人々置詩、殿上人詩藤房朝臣持參置之、公卿自下

薦經座前、次第置之、予欲起座之間、先披見、次讀師

中院大納言長通卿進著圓座、俊基同著座、讀師取

下詩、下讀師參進重之、次第講詩、此間予并左府、依仰居上座

俊範、長員、在登等卿、家高朝臣子、等依召參進

講之、大臣二人詩有頌聲、臣下詩講頌畢、讀師以下退、左大臣

依召參進著讀師圓座、左府披御製、下方向講師方、俊範卿

以下更參進講之、數反之後有頌聲、次講師以下退、

左府懷中御製復座、有朗詠、御製落句也、冬定

卿助音、次人々起座畢、經南殿御後簀子、出和德

門并北門退出、今日予行粧、

文人

予

中院大納言長通卿

按察大納言親房卿

父子三人參仕事萬里小路中納言宣房卿

弼宰相實任卿

平宰相惟繼卿

中院宰相中將光忠卿

冷泉三位俊範卿

式部權大輔在登卿

宗平朝臣

具行朝臣

行氏朝臣

檳榔毛車、下部不著下袴、弘安先公例也、前駝衣冠牛靴、五六人、難色長武

益、中將實益、忠定、公豐朝臣連車、抑弘安先

公御直衣始時庇御車也、然而件車修理遲々之間、

用毛車、是又不可有難歟、

左大臣

春宮大夫公賢卿

左衛門督公敏卿

右衛門督師賢卿

宮內卿冬定卿

左大辨宰相公明卿

左宰相公泰卿

左京大夫長員卿

藤房朝臣

長冬朝臣

清忠朝臣

家高朝臣

中將

隆資朝臣

左少辨

經躬

藏人辨

季房

藏人

大江宗房

余詩如_レ此、_{書高}檀紙_一

早春同賦

宸遊萬歲春

應製一首_{以情}爲_レ韻

太政大臣從一位藤原朝臣冬平上

今日 宸遊春興成、鶯歌萬歲協歡情、儀形四海再

扶德、刺奏管絃雅頌聲、

抑今日予令_レ彈琵琶元興寺也、當時在_二禁裏_一、昨日可

_レ被_レ下_二御琵琶_一之由依_二申入_一也、伴琵琶本在_二平等

院經藏、而去々年歟被_二取出_一之處、其音拔群之間、

暫可_レ被_レ置_二御所_一、其替可_レ被_レ納_二木繪於經藏_一可_レ爲_二

何樣_一哉之由被_二仰合_一之間、無_二左右_一難_二計申_一之由

申處、猶被_二取替_一云々、木繪攝家相傳之器歟、元興

寺又後朱雀院御時給_二納殿砂金_一、被_レ召_二置禁中_一相傳

東宮學士
在淳朝臣

顯盛

俊基

有_レ便歟之由有_二沙汰_一云々、予十二歲時於_二平等院經

藏_一彈_レ之、其後今日彈_レ之、音聲珍重琵琶也、此琵琶

依_二御秘藏_一、御所作之外未_レ被_レ許_二他人令_レ彈_一、然

而余令_レ彈之條勿論、_{是イ}定叶_二冥慮_一歟之由有_レ仰、今夜

名物殊出_二其音_一之間、曲調和合珍重之由、後日被_二

仰下_一也、

廿二日、晴、禁裏和歌御會也、及_レ晚被_レ下_レ題之間、

付_二御使_一詠進畢、加_二懸紙_一書_二封字_一也、歌書_在裏、

春日同詠松爲久友和歌

太政大臣藤原冬平

千とせともえやはかきらむ

庭の松なをすることをききみかめ

くみは

見桃花藏_長
後稱念院殿下御記

元亨四年四月二日未刻參内著冬直衣子細見建治

二年祖公御記同廿七月初著夏直衣參内

匡遠記

〔建武二年〕

〔四月〕

〔廿八日〕

淮后宣下也

也從二、三、愚抄）位藤廉子、春宮母儀、中納言一位公廉女也、

上卿堀川大納言具

視卿、佐次侍從中納言公明卿、德大寺中納言公清卿、

左衛門督實世卿、左大辨宰相實治卿、職事頭中將宗

兼朝臣、大内記長綱六位藏人六位史延賢等參陣、左中

辨宣明口雖ニ參陣、剋限不見、中務輔外記不ニ參候、

仍延賢下_二賜勅書_一、可_レ傳_二中務輔_一口、又勤_二外記代_一

了、勅別當冷泉大納言藤原公泰卿也、
法親王宣下事

其後有二法

親王宣下、上卿侍從中納言、職事頭中將辨

不參候間、上卿直召_二史延賢_二被_レ仰候、任詞云聖助

爲二法親王云々、

〔同年力〕

〔五月力〕

七日 戊子晴、自十三日可被始三行最勝講、可二

存知一候由、冬直宿彌與口祐小史了、可存知一候由

出_二請文_一、以_二廻文_一即相_二催局中_一也。

准后廉子今日始御入内也、自萬里小路殿一御所出御、

御新
所造

以_二黑戶_一爲_二御所_一、御車_{系毛}步儀也、供奉人散_口繼_左

本所侍以下、今日被_レ行_レ之云々、

[illegible]

平野祭也、上卿不參、櫛右中辨實夏朝臣、高內侍少

外記康基、史左端俊春、官掌國明等參行之、申刻被

✓行云々々

九日、晴、梅宮祭也。

十日、晴、今日於所々被_レ召_二捕犯人云々

今夜已亥有二火事一
二條朱雀小象一兩字燒失云々

爲陣中之間、騷動至極云々、督□□發珍重々々、

仲參朝、每事幸甚々々、

今日八幡臨時祭也、散口繼左、内記不參候間、宣命以少外記康基勤内記代了云々、

十五日、朝間雨降、自午時許屬晴、參着記錄所、

十六日、晴、參着記錄所、

十七日、晴、

十八日、晴、參着記錄所、先參殿下、造大裏事草

草史、

十九日、晴、今日於鷹司油小路邊、召捕犯人云

云、警固也上卿、

廿日、晴、日吉祭也、上卿右大辨宰相清忠卿、左少

辨光守朝臣、内侍

外記四薦師廉、官掌尙繼等

參行云々、祐小史分配也、督依爲拜賀以前口、其

子細口口了、仍史不參也、

今日午終刻有地震、

廿一日、晴、賀茂祭也、供奉散狀繼左、北陣儀以北

決繼所被構御棧敷、使者參内之後、行幸御棧敷、

云々左大臣殿、右府御親公兼中、一位大納言宣房卿

堀川大納言具視卿、冷泉大納言公泰卿、殿大納言殿

師平卿、德大寺中納言公清卿、左衛門督實世卿、右兵衛

督公重卿、左兵衛督尊氏卿等者大床、職事以下近衛

次將等着庭候、瀧口等祇候慢慮云々、其儀相同口日

吉小五月會之式云々、殊謝々々、

〔年號未考〕

〔十一月九〕

爲内裏修理御覽御幸土御門殿云々、洞院前右府

御出會之由被申也、

十二月大建

一日、晴、時々雪降、季冬之朔每事幸甚々々、

新見庄事被下勅裁、院宣大藏卿雅仲卿奉行也、御

卽位之次第可畏存也、

九日、晴、殿下二度御上表紙體也、六位史不參、掌燈立明以下事、加_二下知官掌尙繼_一了、後聞上卿大宮中納言隆蔭卿、職事頭中將宣繼朝臣、大內記長綱等着陣云々、

十日、晴、御體御_レ奏也、上卿不參之間、奏文被_レ付_二內侍所_一了、五臈外記利顯參陣云々、史不參、十一日、晴、

〔年號未考〕

十二月大建_{癸丑}

一日丁卯、晴、季冬朔每事、吉祥壽福圓滿、幸甚々々、御即位可_レ爲_二來十六日_一、官方勤用內且三萬七千疋被_レ付_二其足_一了、定可_レ爲_二五日_一云々、行事宛今日下_二行事所_一了、數_レ口已被_二下行_一候間、忍所_二書下_一也、

二日、晴、依_レ召參_二殿下_一近衛殿着_二藏人所_一、以_二勘解由小路宰相光業卿_一申_二入之_一、就_二御即位後_一口御裝束事條々_二被_二尋下_一之、再三申入候、其後退出了、

東大寺博_レ會、自_二明日_一可_レ被_二始行_一、左中辨常治朝臣今日下向、

被_レ行_二小除目_一、上卿大宮中納言隆蔭卿、執筆綾小路宰相重資朝臣、職事藏人勘解由次官親名、外記三臈師守、史安大盛宣等參陣云々、寅刻被_レ行_レ之、

九日、晴、十日、晴、

〔原本以上爲一卷〕

〔建武二年〕

〔六月〕

四日甲寅、晴、藏人右少辨藤原範國參_二向延曆寺_一六月會、其以前辰_レ口出床子下吉書、_{近江國}左少史延賢下_二賜之_一、

五日乙卯、晴、六日丙辰、晴、

七日丁巳、雨降、祇園御輿迎也、

八日戊午、雨降、

九日己未、晴、

十日庚申、雨降、御體御卜奏也、上卿、

月次祭幣□也、右中辨光守朝臣左一史□□□□□□

十三日癸亥、雨降、官_軍國友召具神祇官大炊寮等

令參候、兩傳奏大貳卿、依_三洪水_二不及_三出仕、仍

今日退出候云々、

十四日甲子、晴、今日右中辨召具神祇官大炊寮等

被_レ參候、神供粟事有_三御渡_二云々、

祇園御□會上渡了、

十五日乙丑、雨降、造大内裏行事可_レ始也、以外記

廳南所_二被_レ用_三其所_一、第一間東面_{積數}設_三上卿座_二、第二

間北寄設_三辨座_二、第三間設_三史座_二、第四間設_三史生官掌

座、以上各西上南各一列設也、諸司座也、上卿不參、

坊左中辨藤實夏朝臣、左中辨藤宣明朝臣_{任位次}、右大

史高階景職、左史生紀氏兼執□、左官掌中原國明等着座

史高階景職、左史生紀氏兼執□、左官掌中原國明等着座

也、各□□□也、諸司獻盃三獻之後覽_三吉書_二云々、

十六日丙寅、雨降、

十七日丁卯、雨降、今日被_レ行_三止雨奉幣_二、上卿左衛

門督實世卿職事藏人左少辨藤長_{兼行}外記康基、史依

春等參陣、

十八日戊辰、雨降、被_レ差遣_三止雨奉幣使上卿堀川大

納言具親卿職事藏人左少辨藤長_{亦兼行}外記三藤藤基、

史_{執力}頭富村等參陣云々、

十九日己巳、晴陰不定雨降、一昨夜十七日武士多馳_三

集持明院殿_二被_レ奉_レ移_三院於京極殿_二云々、子細不審、

尤可_三尋_二糾_一之、從_三同_二哺_一□□□□外中將等參申、成_三

御幸_二之勅使也、

廿日庚午、晴、春日神木今日遷_三座木津_二云々、依_三此

事_二世間物_一恣、武士多馳_三參內裏_二、

廿一日辛未、晴、先參_三右府_二條々申入之後、參_三着史

□所_二有_三御渡_二其後着_三□□所_一、

廿二日壬申、晴、參_三史□所_二了、

廿二日壬申、晴、參_三史□所_二了、

今日西園寺大納言公宗卿日野中納言入道實名卿父子三人被召置云々、各武士發向云々、心外事上、又於建仁寺前召捕隱謀輩了、正成師直發向云々、於所々猶爲召捕云々、

廿三日癸酉、晴陰不定、時雨降、

廿四日甲戌、雨降、被差遣止雨奉幣使上卿左衛門督實世卿職事藏人左少辨藤長辨兼行外記三薦康基等參仕也、內記並吏不參、外記勤代云々、

廿五日乙亥、晴、後宇多院聖忌憂陀羅供僧名定也、

上卿堀川大納言具視卿職事藏人右少辨範國、執筆右中辨光守朝臣、史安大盛宣等參陣、外記等不參、次知行免者上卿以下同前、官人章村五位東帶召官人、被

下勘文、合點同五人云々、

廿六日丙子、晴陰不定、時雨降、祇園社造營日時定也、上卿堀川大納言具視卿、職事藏人右少辨範國官方兼行外記四薦師廉、史安大盛宣等參陣了、陰陽寮不參、同時内々召儲云々、

陰謀輩名事、

官方カ

□□藏人辨於便宜所下宣旨於盛宣草文注左、

陰陽寮

擇申可被立感神院神殿雜事日時

始木作日時

今月廿七日丁丑 時未二點

立柱上棟日時

八月十日己未 時未二點

立柱次第先東 次西 次北 次南

建武二年六月廿六日

陰陽博士 賀茂朝臣存永

頭 賀茂朝臣在冬

建武二、^{年カ}三ノ六月廿六日 宣旨

權大納言藤原朝臣公宗、左近衛權中將藤原朝臣俊季、左衛門佐藤原朝臣氏光、文衡法師、散位中原朝臣清景等奉太上天皇旨、謀危國家、宣仰明法博士等、令勘申所當罪名、

上對三座數一候、先誦小史□□□□□□次着三□□座、

院、法皇兩御方、內々有_二出御_一、傳奏權中納言經顯

卿、大宮中納言隆蔭卿、大藏卿雅仲卿等着座庭中、並評定事兩三ヶ條有之、

右兵衛督實夏卿參末着陣也、□□立明事、下知官掌尙繼了、史不參、外記利顯參陣云々、

十四日、陰、左衛門督爲定卿(◎原書漆抹爲字改爲長字蓋誤歟)□陣也、大辨

座頭不參、右中辨定視朝臣申文安大夫盛宣□候、亥刻也、申文國(旁書)職事藏人□官親名朝臣吉書伊勢、美作等、□文右大

史高階景職□□、

御卽位十六日延引、可爲廿四日之由被仰下候、

今日□□同延引了、

今夜有火事、聖護院殿燒失云々、

十五日、晴、

十六日、晴、殿下第三度御喪也、□延引云々、

十七日、晴、

十八日、晴、

十九日、重文殿了、

廿日、晴、

廿一日、晴、

廿二日、晴、

廿三日、晴、菅三位長冬卿今曉卯時他界、此間有可

萬事哀事也、卽遣使者、訪子息康長卿了、

廿四日、晴、美德山年貢今日且到來、

廿五日、晴、

〔曆應二年〕

〔十二月〕

六日、晴、或仁語云、水銀降、自四條邊町至高

倉邊、出現路欠云々、諸人成群□令拾□云々、

希代事也、

七日、晴、

八日、晴、

九日、雨降、午剌雷鳴及數聲了、

苗鹿預所貞嚴堅者持參一献了、

十日、陰、被行□□御(◎軒廊力)卜大神宮造替御御杣山□□□□□□□□

○博士貳人業方宗光、外記一蔭利顯、史安大盛宣陰陽寮、

御體御卜奏上卿同○、

十一日、晴、

十二日、晴、

十三日、賀茂臨時祭也、□□□□□□□□□□

○榮光、業信、長綱、邦長、棟有、藤原□房、輔知説カ

兼庭座、上卿左門督源通冬卿、可役殿上人敦有朝臣、

長嗣朝臣、□清、兼尙等也云々、座庭歡盃二献、無三

出御、依神木動座也舞御覽北陣旁書□圓無北陣候云々御饌等如例、

宣命上卿左衛門督內記行光朝臣等也云々、

十四日、晴、依庭中參着文殿了、

十五日、晴、

十六日、晴、入夜雪降、□□□□□□□□□□

□□

十七日、晴、今日御即位日時定之由、被仰下一處延

引了、

今日可被行列見候由被仰下一處、依到來不台期延引了、

十八日、晴、

十九日、晴、

廿日、晴、

〔建武四年カ〕

〔十一月カ〕

二日、晴、

三日、晴、依庭中參着文殿、平座不出仕之間、備中前司カ今日着染重了、

○□賴元、大外記師有、中外記師利今日初參□□□博士大

夫判官明成、正親町博士大夫判官章有等同着座、內

內如例出御、傳奏權中納言經顯卿、大宮中納言隆蔭

卿、大藏卿雅仲卿等着座庭中十餘々條有沙汰、其

外有評定事、及晚退出了、

四日、晴、

五日、晴、御即位延引、可爲來月廿六日之由被仰

使、且武家令_ニ執申_ニ之趣云々、就_レ之踐祚事、又急速可_レ有_ニ御沙汰_ニ也、代々踐祚儀一卷被_レ進_ニ洞院殿_ニ畢、依_レ被_ニ尋仰_ニ也、國史之所見以下注_ニ申_ニ之者也、

廿六日丁卯、陰風吹、承久仁治奉行職事被_ニ尋下_ニ之間、注_ニ進殿下_ニ畢、

廿七日戊辰、未刻雨降則止、今日匡遠依_レ召參_ニ殿下_ニ、召_ニ御前_ニ有_ニ御對面_ニ、踐祚間事條々有_ニ御問答_ニ、且代々踐祚儀、國史所見以下一卷内々注申訖、抑官位以下事如_レ元不_レ可_レ有_ニ和違_ニ、凡止_ニ正平一旦儀_ニ、每事可_レ被_レ用_ニ觀應御沙汰_ニ之由、武家令_ニ執申_ニ之趣被_レ語、仰尤可_レ然之沙汰歟、其次又參_ニ向處々_ニ訖、

廿九日庚午、及_レ晚雨降、代々受禪奉行職事、五位藏人例被_ニ尋仰_ニ之間、注_ニ進殿下_ニ畢、

卅日辛未、時々雨降、踐祚日次事、内々先可_ニ撰申_ニ之由、去夜被_レ召_ニ仰陰陽頭親宣朝臣_ニ畢云々、奉行職事

頭左大辨仲房朝臣已治定云々、

七月

一日壬申、時々雨降、踐祚日次事、親宣朝臣内々撰_{今月十一日、十}申_{七日、廿二日}之間、自_ニ殿下_ニ被_レ進_ニ女院_ニ被_レ申_ニ合_ニ之_ニ、

二日癸酉、晴、今度踐祚儀可_レ爲_ニ何様_ニ哉事、被_レ尋_ニ問人々_ニ、_{近衛殿、一條殿、鷹司殿、左大臣殿、久我前太政大臣殿、洞院殿、}御所存_ニ、奉行頭辨

爲_ニ御使_ニ參向云々、又日次事被_レ仰_ニ談武家_ニ云々、

四日乙亥、晴、入_レ夜少雨則止、長綱朝臣入_レ夜來臨、自_ニ殿下_ニ被_レ仰下_ニ之趣條々談_レ之、踐祚間事不_レ能_ニ具記_ニ、

七日戊寅、晴、今度踐祚儀事、如_ニ准據例_ニ、所存別可_ニ注進_ニ之由、自_ニ殿下_ニ被_レ仰_レ之、去二日御教書也、仍其定則令_ニ注進_ニ訖、繼體天皇御例以下注申者也、見_ニ勘草_ニ兼豐兼前宿禰被_レ召_ニ殿下_ニ、就_ニ國史之所見_ニ御不審事等、有_ニ御問答_ニ、繼體天皇御例、兼前宿禰申狀參差之由有_ニ沙汰_ニ、兼豐之所存無_ニ和違_ニ云々、

八日己卯、晴、申剋雷鳴、被_レ催_ニ出仕人々_ニ、御教書書樣等事有_ニ沙汰_ニ云々、日時可_レ被_ニ勘下_ニ哉否、同有_ニ沙

汰、可_レ被_レ尋_ニ申一條殿洞院殿兩御所存_ニ云々、十四日乙酉、晴、來廿二日可_レ有_ニ踐祚、任_レ例可_レ致_ニ其沙汰之由、頭辨下知御教書白紙也、卽下_ニ知裝束使_ニ訖、

十七日戊子、晴、御輿事、官掌國豐申狀、付_ニ奉行職事_ニ申入了、踐祚日可_レ被_レ渡之故也、

廿一日壬辰、晴、踐祚延引可_レ爲_ニ來月三日_ニ之由、頭辨下_ニ知之、

廿二日癸巳、晴、踐祚日藏人頭一人出仕例、被_ニ尋下之間、注進畢、

廿六日丁酉、晴、入_レ夜雨降、踐祚條々事、頭辨以_レ狀問答、委答_ニ所存_ニ畢、

廿八日己亥、晴、御元服之事、被_レ尋_ニ申一條殿洞院殿兩所御所存_ニ云々、又御名字勘旨已治定、前左大辨_◎者イ

三位菅在成卿可_ニ撰申_ニ云々、

八月

三日癸卯、晴、踐祚延引、可_レ爲_ニ來十七日_ニ之由、頭辨

相_ニ觸之、又腰輿可_レ被_ニ新造、可_レ注_ニ進功程_ニ之由、被_ニ仰下之間、下_ニ知裝束使_ニ畢、

七日丁未、陰晴不定、小雨聊注、御名字事、在成卿內々先令_ニ撰申_ニ云々、

十二日壬子、晴、御名字事、被_レ尋_ニ入々_{近衛殿、一條殿、久我太政大臣殿、洞院殿、御所存_ニ云々、}

十三日癸丑、陰晴不定、踐祚日輕服職事出仕例、被_レ尋_ニ下之間、

十六日丙辰、雨降、以_ニ長綱朝臣、自_ニ殿下_ニ有_ニ被_ニ仰下之間、所詮內侍所御辛櫃渡御間事、匡遠令_ニ參向_ニ可_レ申_ニ沙汰之趣也、不能_ニ具記、

明日官方吉書可_ニ召賜_ニ之由、右中辨相觸之間、美作

國年料解文一通成獻了、

十七日丁巳、雨降風吹、晡時以後風雨休、入_レ夜屬_レ晴、

今日院第三皇子_{御諱彌、春秋十五歲、御母三位殿、新院御母弟也、}踐祚儀也、仍匡

遠西終剋先參_ニ向佐女牛若宮、內侍所御辛櫃渡御事爲

申沙汰也、戊終許御幸櫃渡御、其次第注典、其後直參陣、

土御門東洞院殿南北、四足一町西、禮皇居也、着床子座、大夫史清澄、大外記師

茂同候之、奉行職事頭左大辨仲房朝臣祇候殿上、公

卿以下次第參集、左大臣殿、右大臣殿、中院大納言、

洞院大納言、大炊御門中納言、西園寺中納言、今出川

宰相中將、葉室宰相、職事兩貫首、仲房朝臣、兼綱朝臣、五位二人、

親顯、忠光、共以新補、六位三人、富長、賴氏房、辨官右大辨俊冬朝臣、右中

辨經方朝臣、右少辨時光、少納言長綱朝臣、兩局匡遠

清澄師茂、六位權少外記中原康隆、右大史安倍盛宣等

也、今夜召使不參也、兼雖及沙汰、遂不出來云

云、

丑剋許關白殿下御參內、直有御堂上、其後新帝自持

朋院殿有渡御、八葉御車堅固密々儀也、自東面高倉

門入御御在所、東御所爲御元服、先渡御此御所云々、

此後於東御所、有御元服、堅固密儀也、加冠關白殿

下、理髮頭辨勤仕也、其儀無程事訖、

震儀御直、出御御在所西第一間、有渡御于御殿、先是

格子、挑掌灯、女孺等役之、關白并中院大納言、洞院大納言殿、西園寺

中納言被奉扈從之一、一條中將公村朝臣、四條少將

隆家朝臣、前兵部權大輔親顯、左兵衛權佐忠光、六位

藏人二人、爲先下薦、各秉脂燭、先行之、於御殿被改

換御裝束、歟、經數剋者也、

天明之後、徹掌燈、立明等、被始行其儀、上卿左大臣殿、無御帶、無

府之諸卿皆辭、經床子前、匡遠清澄師茂、令參着杖座、

經參內、經二床子前、匡遠清澄師茂、令參着杖座、

端、賜葉室宰相長顯卿同參着之一、

此間新主、御直衣、御張袴、出御畫御座、關白殿下令候、寶子

給、關白如元之由有勅歟、次關白召藏人、第二萬

菅原富長、一萬以清依、輕服不出仕、被問先例及沙汰、參砌下、奉仰拜舞退

去、次召同藏人、被仰條々事、公卿昇殿、勅授牛車、殿上人藏人頭以下事、但

注折紙被下之、富長下給退去、則向陣進、軾、勅

授牛車等事仰上卿、上卿召大外記師茂被仰之、

仰詞云、公卿勅授牛車等事如舊云々、師茂奉之、稱唯退去、此間震儀入御、

關白殿下、御帶、於無名門代前、令奏慶給、有御拜舞、

門中納言、西園寺中納言等列立弓場代、被申勅授

慶、左府以下於陣、所有一御帶銀、殿下令相加給之後、各有三拜舞、藏人、

勤申次洞院大納言、此拜以前有御早出、其後殿下放列令着殿上給、次左

大臣殿已下被申昇殿慶、此時今出川宰相中將、葉室

宰相相加之、殿上人藏人頭二人、仲房朝臣、公村朝臣、一

中教言朝臣、內藏、頭、經方朝臣、辨、時光、辨、親顯、藏人、忠

光衛權佐、等列立公卿後、其後左府以下一同拜舞、中次

如元、六位藏人氏房、群卿舞踏訖、一揖之程、參列頗遲

遲歟、殿上人自下薦退、公卿右大臣殿以下長顯卿

以上參着殿上、立臺盤并備饗膳、內藏、察勤歟、官方存例相催了、無勸盃云々、此

渡累代御物雜具等之由、被、被、御次、殿下須臾起、殿上座、

移御直廬、有吉書事、先官方右中辨候之、次藏人方

頭辨候之、次政所執事右大辨奉覽之云々、此間左

右兩相府起殿上御退出、大炊御門黃門同被早出

畢、

次主上御直出御晝御座、右中辨進御前奏官方吉

書、美作國國年料解文、仁治例也、出御次頭辨藏人方吉書、無

程事訖、

主上入御、

此後中院大納言、西園寺中納言、兩相公移着宜陽殿、

仰裝束使史生、令奉仕其座、立臺盤兼令居饗膳了、北第一間

謂兩面半帖爲大臣御座、同第二間東西相對設黃端半帖爲納言

參議座、北第一間南柱下置所司軾也、三綱端座東、長顯卿一人與座

也、此綱端座無絕席、可存略之由被中之處、可有參差與座

之次第、上綱被有一獻、少納言長綱朝臣勤之、瓶子內豎

并少納言座任例雖設之、不及着座、長綱朝臣自

中門下直進出之了、公卿次第被飲傳之、內豎取瓶

勤之、不、及、入酒儀、被、須臾事訖、又有二獻、長綱朝臣同

勤之、傳、盃計也、此條々如何、是今日第二分勸盃也、建武度、其儀及翌日之

了、座、被、重行之、任彼例、可有沙汰之由、其後公卿起座

軾下吉書、次兼綱朝臣、藏人兵衛佐忠光同下之、公

卿召右少辨、先是參、被下之、吉書三辨於敷政門代

傳匡遠結申儀如常、次右中辨進軾下官方吉書、

上卿披覽之後即被返下之、辨傳匡遠如先、次右

大辨巡方帶也、右中辨着床子、有申文儀、座頭匡遠申

文、右大史盛宣候之、

申文和泉美作國陶文、右大史高橋秀藏馬料也、任仁治例用意之、

其次

第如例、無程事訖、次藏人富長進軾、藏人頭以下

禁色殿上人雜袍事、仰上卿、上卿召三師茂、仰之、仰訓由傳仰ヨ云々、

禁色雜袍如舊之

次頭辨就軾仰三警固固關事、上卿召三師

茂、仰三警固事、其詞云、警固事傳、仰六府三察云々、召三右中辨、仰三固關事、

辨於敷政門代、招三匡遠、傳之、其詞云、三箇國關令付國司ヨ、此後親

顯進三軾下、吉書、上卿召三右少辨、被下之、辨傳三匡

遠、此吉書藏人頭以下同時可下歟如何、其後上卿起座、經床子前、被

退出、于時翌日午剋也、

大殿祭、御膳以後可被行云々、神祇官人體少副大官方

催儲之、

日時事兼日有沙汰、不被勸下之、

版位事、外記催促令置南庭畢、

大刀契鈴印不被渡之、令紛失一歟、大刀契者年來

無實云々、

御輿鳳輦入夜奉渡之了、腰輿事兼日雖有沙汰、遂

不出來、新造又遵行之沙汰、

御殿南殿通用勿論也、御裝束事、藏人方之沙汰、官方不知之、

內裏修理事、木工頭知任朝臣下給料足、致沙汰云

云、

內侍所御辛櫃渡御事、別被仰下之間、匡遠今夜先

參、向佐女牛若宮、令申沙汰、奉渡內裏畢、朱漆

御辛櫃一合也、去五月武家差進賢後僧正於八幡奉渡此辛櫃駕輿丁等如例奉

昇之、神前簾外立黑漆机、其上奉安置之間、刀

自進昇奉出之、本社禰宜稱兵衛大夫盛兼着布衣爲案内者、令

參候者也、右大史盛宣并刀自即令供奉之、可爲

密々儀之旨被仰下之間、非普通者也、此條兼內

內被經沙汰、如此治定云々、相催駕輿丁等之外、

官方無殊沙汰、刀自參入事、自殿下被召仰、

御名字、前左大辨三位菅原在成卿撰申之、壽永仁治

度、當日諸卿被定申之歟、今度兼日被尋人々御

所存、治定之間、當日無被定申之儀歟、

今度次第殿下内々御作進之、御元服次第、同令作

給云々、

今度儀被_レ因_二准繼體天皇御例_一畢、於_二當日之次第_一者、以_二壽永仁治等例_一有_二沙汰_一歟、抑璽劔不_二御坐_一號_二踐祚_一、壽永爲_二濫觴_一歟、彼度太上天皇詔宣被_レ行_二其儀_一訖、元弘建武兩度被_レ守_二件例_一之處、今度上皇又御_二坐外都_一之間、其次第難_レ被_二遵行_一、仍溫_二上古渺焉之嘉躅_一、今日儀無爲被_二遂行_一了、可_レ謂_二後代之規模_一歟、就_レ中風雨以外之間、諸人周章之處、晡時以後令_レ休、臨_レ期快晴、天道已與_レ善、聖運之令_レ然也、且踐祚日降雨、近則仁治弘安御佳例、舊蹤亦天慶延久也、旁以珍重次第歟、

十八日戊午、晴、今日宜陽殿勸盃儀見_レ右、

十九日己未、晴、宜陽殿饗如_二一昨日_一令_レ催_二居之_一、子刻公卿西園寺中納言一人參着、被_レ着_二第二_一問云々、右少辨時

光勤_二一獻、內堅取_二瓶子_一、辨座雖_レ設_レ之不_レ及_二着座_一如_二昨日_一、長綱朝臣之作法、自_二中門下_一直進出云々、今日兩局不參也、

殿上有_二勸盃_一、頭辨以下着行云々、

北面假名記

〔一名院北面始記又は北面源康成記〕

ゐんの御所はやなぎはら、ひの^{日野}、とう中納言忠光卿
御宿也、

應安四年後三月廿七日

北面はじめあり、

一人じゆの事

源康成

みちづの右衛門尉はじめて

藤原信泰

いせの左衛門尉これもはじめてまいる

藤原頼國

近藤石見右衛門尉こんごしよさん初也

藤原定重

かわちの左兵衛尉

源康衡^{じかじ}

ゆきの右衛門

源康重^{音イ}

以上六人

一さじきの事、

御くるまやごりにてあり、

かりいたじきを二けんにしかるゝ、

一たれぬの、かちん二けんにかくる、せんゝの事、

一みなみかしらに、にしむきにおくのぎにつく、は
しざ束むき、

一だいばん二きやく、はちあし、

一きやうせんいせんこれあるか、

一さじきの事、

康衡まづゝく、めんゝは天じやうのへいのまゝ

によういす、康成もぎにつくべきよしの使あり、

一中門へないゝしゆつぎになりて御らんある間、

夜るなれどもはれがましき事申ばかりなし、御く

るまやごりのまへに、たてあかししろくせさせら

るゝ、とらの時康成まづすゝむ、中門のまへにて

かしこまる、これを見てかしこまる物もあり、又

すぐにまかりとをるもあり、しりをひきて御もん

のとをる、

一さじきの事、

しかしまづきやうせんのはしをたつ、そのゝち上

しゆ、しだいにはしをたつ、

一まづしかし、さうし二こゑよびていづ、すゞりちやくたうと申、すなはちもていづ、そのゝちはしをたつ、そのゝち

一けんはい、又さうしを二こゑめす、こたゑていづ、へいしまいらせよと申、すなはちかないろのてうしもちていづ、かさねかはらけ三づゝ、はしきをしさの上をし、さうしをぞの上へすゝみてあり、康成かさねかはらけをとりて、はしのさの上又をしたのつぎゑれいをす、せんゝの事、

一三こんながら康成さかづきをとる、れい上におなじ、

一三こんはてゝ、さうしを二こゑめす、こたうかゆまいらすべしと申、すなはち一づゝかはらけに入てをく、そのゝち、しかしはしをぬきておさむ、そのゝち上しゆ、しだいに一人づゝはしをおさむ、一そのゝち、すゑより一人づゝたちて、もとのやうに天じやうのまへにかへる、それまで御ざありて

御らんありしほごに、又かしこまりてまかりこをる、康成、康重カ音カようのたちにいらおぐずす、むものこんちや、

一しやうぞくの事、かふり、ほそゑい、おいかけ、ろうさうのわきあけのはう、下がさねはひむのらん、しりぢちやう、けうゑのきぬは四條にしのとゝるんのせんないかり候二具、下具うゑのはかゝしりながその中將殿基明ニカおかり申候、これをば康音ちやくす、いしのおび、ひらお、しやく、ようのたち、い下はうゝゝにてかりる也、

一中けんにとともに五人、ひたゝれきをめしぐす、定重もわらはすいかんひたゝれき二人、そのほかのものひたゝれき二三人づゝあり、

一ぶきやうの院用中御門右中將藤宣房也、しけんはやなぎわらごのゝ藤中納言家忠光卿、康音しけんゑさんじて、御とふらひのやうにくだしあり、ないないは、りやうあみをもつて、しけんよりおほせ

く候カだされしき、

一院中に北面始よりほかのさふらひのかいこうのは
れなしに、しやうぞく、ろうさうのわきあけのは
う、しりなが、したがさねはひんらん、しりなが
六七しやく、あ□□、いしのおび、さすたちはよ
うのたち、あしをあいかわこんちのひらおさす、
つかぶくろをつくる、しやうぞく六位おなじ、か
ふり、ほそゑいおかけしたうつはしくつのしきい
たきぬにて、ゑのもんしきいにかくたうけいらん
もんのまる、

一應安、北面始のいま四人かひくマおさすめんくふ
しんをなす、かわちのおひごりにて、ば、やすむ
ねの道入カ、ふるき物にて、これほどの事わきまゐす
候事ふしぎ也、又さだしげ、とし廿八才申候、や
すひら十七さい、のぶやす十四歳、よりくに十五
才申候、やすおと廿九才お口申候、

一近藤石見右衛門尉定重は應安北面始まいりとか、

しやうぞくの事をもしり候、惣あいたふちをくへ
わへみて、かれも申たんし候也、廿七日まづ定重が
もとへ康成、康音、季景三人まかり候て、けんぱい
ぎしゆらいおす、くれく、まろこひ候し、北面始
定重はじめてまいら候也、

けんぱいのぎ、さじきこまざりなりさい、なくさ、む
はじぎ、うちかゑしの事、
かいのつまへれいをす、又そばのわきへれいを
す、二人のほかはれるをせず、しだいくにか
やうにれいをす、はいどる、

貞和四年十二月十七日

三こんはて、きやうせんのはしをおさめて、
はい一ごして、すゑのぎより一人づゝたつ、
一しんゐんの御かたのほくめんはじめあり、ちみや
うゐんごのにて、すいじんごころにておこなふ、
一ぶきやう四條の大なごんごの、ほくめんのぶきや
う、
一しやうぞく、そくたいに、かりおのたちをはく、

こんちのひらおさす、つかぶくろをつくる、

一さじきの事、

申をこなふ、

五いのしよし一人、

六位のしよし一人、

ざにつきて、六いのしよし、しよしのともがらの
さうし、かなを二こゑよびて、けみやうじを申て、
さうしてよぶ、それにつきて一人づゝ、ざにつく、
さかのひざをつきて、ちやくざす、だいばんにむ
きて、一ごゆうをする、しやくをたゞしくもちて、
さかのひざとは、わくざにつくときは、さのかみ
のひざをつく、はしのざのときも、さのかみのひ
ざなり、わきあけのしり内、かカ下かさねのしりをさ
けてつく、ゆうをして、さちしりカをうしろへなを
す、たちの下へくわへをく、

齋藤基恒日記

飯尾左近太夫清親 依田新右衛門尉貞朝

下總守 肥前守 爾後下總守

飯尾肥前彥三郎爲數

永享十二二 同十三(二十七改元)

同嘉吉二

同 三(二五改元)

文安二

同 三

同四

同 五

同(七廿八改元)

寶德二

同 三

同四(七廿五改元)

享德二

同 三

同四(七廿五改元)

康正二

同四(康正)

永享十二年庚申

二月

一九州使節 飯加爲行 飯和貞連于時九州奉行

同年

一政所寄人新加 執事 伊勢守貞國

號信濃入道淨親、加恩賞一方内談乘等、號信乃入道享信、非恩賞方、

四月

十六日、八坂塔供養、導師影面和尙、◎按影面齋藤

五郎基緣就二先規一方奉行、此時去十日移三右筆、

臨時也、

五月

管領右京兆持之

十四日、一色修理大夫義貫於三和大陣失三生涯、依

被_レ仰_二付_一武田治部少輔、於三陣所三誘飯令三招請一如

此也、被官人等或討死、或切腹、其外悉上洛、◎按一色

誅戮諸書作十四日似可

十六日、早朝、一色五郎教親爲_レ請三取勘由小路堀川

匠作宿所三進發之處、被被官人等出合、數十人或討

死或切腹、則懸_レ火了、彼等之振舞驚_二耳目_一、古今

希有云々、

被官人私宅等被_レ下三方々了、

分國充行人數、

若狹國 武田 丹後ニ五郎教親

三河ニ細川讚岐守

一同時分土鼓世保大膳大夫了、被_レ仰_二付伊勢長野_一

失_二生涯_一了、分國伊勢被_レ下_二一色五郎教親_一了、

一同年開_二和州陣_一、

使節歸洛 松對貞清 飯加爲行

飯三右爲秀

十二月

一日、肥前守爲種 申_二御成_一了、

永享十三年辛酉改_二元嘉吉_一、

正月

御吉書 御的

一管領右京兆 侍所

山名 岩右金吾

一諸大名并奉公方 拍子物在_レ之

飯和貞連 飯加爲行 齋五兵衛基等被_レ召_二加

之_二成_一唐人_二了_一、

十日、飯尾肥前守爲種止_二出仕_一、同五月御免、

廿六日、政所内評定旅行執事 貞國

於_二春日東洞院_一被_レ行_レ之、

廿九_二日_一、畠山尾張守持國違_二上意_一下_二向河内國_一、則

出家云々、家督事被_レ仰_二付舍弟左馬助持永_一了、

二月

一日、被_レ行_二御前御沙汰_一、管領京兆持之、

五月

六日、鹿苑院卅三年御佛事、直藥藏主諸篇申沙汰也、

相國寺修造事終也、

洛中洛外寺庵悉被_レ入_二御佛事錢_一了、

東山白山事歟 此時永壽寺僧五人分_二五百文_一施入、

六月

十八日、富樫介教家違_二上意_一、家督事被_レ仰_二付舍弟

喝食_一、則號_二介泰高_一、

廿四日、赤松大膳大夫入道性具_{俗名} 申_二御成_一、於_二其

座_一有_二御事_一、則令_レ放_二火私宅_一、子息彦次郎教康、舍

弟左馬助——、同伊與守以下、引具之、沒落播州、

令御供、討死人數、

山名岩中務大輔 佐々木加賀守 大内大膳大夫市

遠山 ◎今按大内此日不討死

手負人數

三條亞相實雅卿 督款 山名右衛門佐侍所

細川下野守

一若君樣、伊勢守貞國許御座候間、同日管領右京兆被_レ馳參、御警固申了、其後被_レ成將軍之宣旨、則花御成御移也、

一御茶毗於_二等持院_一被_レ執行之、

一右筆方分、其夜廿四日至十二月、爲御用心、以結番參候小侍所了、

一爲赤松性具并餘類退治被_レ成治罰

綸旨、右筆小川坊城俊秀也、

一播州進發人數、

山名右金吾 同名匠作入道 兵部少輔敎之
其外一族 細川阿波守 同名淡路守

同名上總介 赤松名字中 九州勢

一御政道事爲御代官、於管領右京兆之許被_レ執行之、

判奉行清左近將監久定

賦奉行飯尾備前入道常進

一御沙汰次第自閏九月至十二月、

一評定衆

攝津掃頭滿親 波多因幡入道元昌

二階堂中務少輔行 町野加賀守

右座訴諫之儀被_レ執行之、仍以御判紙被_レ成爲_レ種也

御下知狀了、細々事、飯肥入永祥、飯加入其妙、飯和性通等、以三判下知之了、

閏九月

一天下一同德政被_レ行之、政所被_レ押壁書了、仍諸土倉質物等責取之間、納錢忽停止了、

伯耆守義

一性具首、山名兵部少輔敎之被_レ捕_二進_一之、

一子息彦次郎敎康、獨_二伊勢國司下向之處、誅_レ之被_レ

捕_二進其頸之間、爲_二恩賞之地、美作國大原庄被_レ

遣_レ之、

一性具分國補任人數

播磨國山名右金吾

備前國兵部少輔敎之

美作國修理大夫入道——勝

但三ヶ國金吾被_二申給_一分也、

攝州中島郡爲_二御料所_一

細川右馬助持賢_{法ノ}道賢

播州內三郡赤松播磨守

一故御所樣御臺_{三條亞相實}御出家、被_レ建_二御寺_一號_二瑞

春院_{爲大御所也、}

十一月

一御代始御評定、御前御沙汰始在_レ之、御的以下在_レ之、

一月日

侍所職事

京極

佐々木中務少輔持清被_レ仰_二付_一

之、山名金吾依_二出陣_一也、

一性具并安積首被_レ渡_二大路、獄門樗木_{今度植}一之枝

性具、二枝安積首被_レ梟_レ之、

一侍所自_二六條河原後_一隨兵、

一判官姉小路大判事明世、

一河原者千人帶_二兵具_一警_二固_一之、

八月

一畠山尾張守持國依_二御免_一、自_二河州_一歸洛、則爲_二家

督、仍舍弟左馬助持永沒_{六角}落於越中國_一生涯了、

一佐々木大膳大夫入道——宿所爲_二山門_一破却了、

十二月

一飯尾左近大夫清親參_{後號信乃八道淨}恩賞方、_{親爲引付衆、}

一御料所方事 飯備爲秀 布民貞基 齋民基恒等

爲_二奉行_一各申_二付_一之、

折紙在_レ之、至_二文安三四年_一、

一御折紙錢未納催促事、同承_レ之、

嘉吉二年壬戌

正月

一御吉書 御の如_レ常、

一碗飯赤松播磨三郎勤_レ之、至同三年正月同、

一御評定始、管領右京兆

一政所内評定始、勢禪眞蓮於春日亭_ニ在_レ之、

二月

一管領職 上表、

一管領職 尾張入道德本被_レ仰_ニ付_ニ之、

賦奉行飯尾六郎右衛門尉、後任越前守、

一任職始 御評定、御前御沙汰、被_レ行_レ之、

一洛中洛外酒屋、政所寄人分_レ手罷向注_レ之、去年德

政以來納錢方減少之間、如_レ此注立、以來除一衆中

治阿貞政齋上熙基 基恒以下以_ニ政所二人_ニ遣_ニ奉

書_ニ相_ニ觸_ニ之、役之錢到來之時、加_ニ下書於道狀_ニ納_ニ

御倉、粗井備後人道許、則御倉請取持參候時合點了、

八月

四日、先職右京兆持之逝去、號_ニ弘源寺_ニ、御息九郎勝元、

一富樫龜童 教家息

嘉吉三年癸亥二五改元文安

正月

一管領 德本、侍所中書少輔持清、

一御評定始如_レ例

十七日、御的同前、椀飯、

廿六日、政所内評定始、執事眞蓮、

七月

廿一日、公方樣嘉御、號_ニ慶雲院_ニ、管領德本、御舍弟鳥丸家御

座若君爲_ニ將軍_ニ、御禮在_レ之、花御所無_ニ御移居_ニ、以_ニ

彼亭_ニ爲_ニ御所_ニ、其後御寢殿臺屋御門等外者被_レ曳_ニ

方々了、

九月

廿三日、内裏炎上、管領并侍所同前、日野右少辨以

下牢人亂入也、

付箋
二五改元文安ノ六字恐衍
嘉吉四年ノ下改元文字ノ四字アリ

主上無恙渡御于近衛殿也、其後於伏見殿

爲內裏數年御座也、

一伏見殿移居轉法輪三條家亭御也、

一內侍所內豎奉取出之、爲忠賞給屋地了、則

奉入近衛殿之處、口被送申伏見殿了、

廿五日、寶劍事、同廿五日早朝、清水寺僧心月坊承

桂入堂之處、於內陣奉見付此靈劍付札云々、令注

進之間、基恒熙基則罷向清水寺、持寶劍於桂

乘輿參管領之間、不移宛カ時奉入內裏了、爲

恩賞美濃國加納鄉日野右少辨家跡、被方方行承桂了、

一神璽者此時失却了、經年赤松自南方執進之長祿二年歟

彼惡黨等楯籠之間、被仰付使節被誅了、肥

前入道永祥條々申沙汰也、

一管領德本今度大儀依申沙汰靜謐之間、以敷定

叙三位了、

十一月

一御代始御評定、御前御沙汰、被行之、管領三品

御的在之、奉行貞基熙基等也、

嘉吉四年甲子、改元文安、

正月

一御吉書、御評定、御的、奉行如去年、管領三品五ヶ日枕飯

如例、

廿二日、播磨國三郡事、退赤松播州給山名金吾、

奉行永祥、

廿六日、政所內評定始、着到清筑、貞俊、

真蓮治越尊宗齊加依入飯加性通飯信貞直

貞政治阿基恒齊遠亨信依入熙基齊上爲數飯新古秀興松八左

國通治貞秀清八左貞俊

二月

十三日、管領德本出仕、供三番有御吉書、

四月

四日、攝津掃部頭入道常承今出川宅火、

十三日、北野宮寺炎上、六月廿五日御事始肥加布參上

廿九日、細川九郎勝元始參宮、奉行方爲札申之

閏六月

一造 內裏料被_レ付_二諸國段錢_一、

肥禪永祥惣奉行國分在_レ之、

齋上熙基爲_二段錢使節_一濃州下向也、

一同料、洛中棟別十疋充被_レ懸_レ之、右筆方老若相分

堅_二少路_一、自身相向取_二宿所_一居_一、以_二若黨_一注_レ之、

要脚所納事町々奉行與_二永祥真妙通等_一加判、納_二御

倉_一了、

廿九日、於_二土岐亭_一誅_二富島_一了、因_レ茲齋藤越前與_二

富島餘類_一及_二合戰_一之間、美濃國錯亂數年也、

一內裏四方并裏築地等、諸大名被_レ築_二進之_一、

十月

廿五日、夜赤松播磨入道、同三郎、同名彦五郎、沒_二

落播州_一、及_二國中亂_一云々、

十一月

三日、御的奉行事基恒承_レ之、

廿八日、赤松播磨以下爲_二退治_一、山名金吾、同一族中、

進發、金吾先但馬國下向也、爲_二上使_一齋上熙基飯
新左爲數下向、

翌年二月在_二陣中_一爲數叙爵、

文安二年乙巳

正月

一御吉書 梳飯 管領三品 御評定等如_レ例、

十七日、御的 基恒貞基奉行、

廿六日、政所內評定始執事勢州入、

二月

一御前御沙汰始、

一管領職事島山殿上表、則右京兆勝元任職也、

御評定、御前御沙汰、被_二施行_一了、

六月

廿九日、內宮假夫工米被_レ付_二國々_一、頭人常承、開闢爲秀、

五月

廿八日、花御所御寢殿以下被_レ曳_二移高倉御所_一御作

事納下行方、飯和性通、飯濃貞元、玄良等承_レ之、

元鳥丸家亭也

一立柱、上棟等御祝之時、着直垂出仕、御太刀進

上之、但貞元依所勞不參、

一要脚事、一國別百五十貫文宛沙汰也、

下行方、三判之外伊備貞親加判、

文安三年丙寅

正月

一御吉書 御評定 御的

廿六日、政所内評定 頭人眞蓮、着判 眞政、

二月

一御前御沙汰

一洛中 同錢屋注之、政所寄多分行向了、
人字脫カ

同四年丁卯

正月

一御吉書 御評定始管領京兆 御的 椀飯

二月

一政所内評定始 頭人眞蓮

一御前御沙汰始

三月

二日、納錢方會所一就被定置、河村民部房、諸酒屋

一字別三十疋相懸之、以上百疋餘在之、貞政熙

基基恒成奉書申付之、

一洛中洛外、號日錢屋隱取質物之間、以寄人

手分質物員數注之、彼本錢十分一被付納錢方、

基恒貞政熙基以三判納御倉了、

六月

遠江

一基恒落髮、法名玄良、

文安五年戊辰

正月

一御吉書 椀飯 御評定 管領京兆 御的

一内評定始 頭人同前、

二月

十七日、御前御沙汰始、

五月

廿六日、外宮役夫工米被_レ付_二國々_一、頭人掃部頭入道、
□□飯備爲秀、

一内宮役夫工米少々國々被_レ寄_レ之、

美濃國使節 齋上熙基

出雲國使節 布民爲基 貞基長子也、

九月

廿二日、八幡善法寺兄弟喧嘩在_レ之、

十月

十一日、齋藤上野介熙基死去、

原本表紙ノ上
日記九之内

文安六年己巳

正月

一御吉書 碗飯

十一日、御評定二階堂山城守忠行始着座、飯尾美濃

守貞元始着座、奏事布民大貞基、鬨子役治四左國

通、

十七日、御的

二月

十七日、御前御沙汰始、

三月

十六日、治阿正阿俗貞政死去、于時政所
執事代也、

四月

二日、執事代事被_レ仰_二付_一立良、頭人眞蓮、
代總新右入知溫、

酒屋土倉錢味噲屋等役錢等就_二催促_一、以_二立良_一下

書、御倉糶井備後入道納_レ之、

一洛中關所屋事隨_二出來_一、以_二二人懸札差代_一下_二行之_一、

一每月於_二觀音殿_一懺法要脚拾_二三貫文宛事_一、

爲_二諸大名役_一以_二二人遣_一短冊、直鹿苑院請_二取之_一、

一五節供要脚事、依_レ爲_二諸大名巡役_一以_二短冊_一申_レ之、

十六日、夜御所樣御元服◎衍力
諸篇觀應安御例也、

一管領右京兆勝元依_二申沙汰_一、昨日十五被_レ仰_二武藏守_一、

賴之例也
先例也、十二月辭_二武州_一復_二任京兆_一也、

一御吉書清筑貞俊、着_二白直垂、

一攝津中務大輔元親任_二掃部頭、親父掃部頭入道常承任_二攝津守、法體已後受領近例也、

布施民部大夫貞基、

松田主計允貞長 以上白直垂、

於_二御寢殿_一悉被_レ執_二行之_一、

一管領一人於_二御寢殿_一御太刀進上也、則被_レ下_二白太

刀、御太刀自_二御倉_一以_レ代付進上、執事代申_二付之_一、

一御前用

伊勢兵部助貞藤、貞親舍弟也、伊勢備後又七貞熙、

一膳奉方

大草二郎兵衛殿公延 待招等也、

十七日、役者御太刀於_二御東向_一進_二上糸卷、基雅同進

上、齋藤孫四郎也、親父玄良雖_レ爲_二執事代_一、御狀候間、以_二子息孫四郎基雅_一爲_レ代、

一御要脚士倉役六百貫、玄良申_二付之_一、執事代之故

也、

一要脚下行貞基貞長申_二付之_一、

廿九日、宣下 官長者長興宿禰持參、於_二庭上_一之親請_二取之_一、

一長興奉祿砂金_二褰_一、二十兩、之親居_二葛之闔、自_二御寢殿_一持_二向之_一、於_二庭前_一給_レ之、

二褰金基雅入_二御硯之闔、自_二御倉元_一出_レ之、於_二御前_一渡_二之親_一了、此金者向_二伊勢備中守貞親之許_一基雅請_二取之_一、奏者野詰主計、

十七日、物次御太刀於_二東向_一進_二上之_一、

一傳 奏中山家

一御參內

廿七日、御評定始、同日御前御沙汰被_レ行_レ之、御硯

役山城守忠行歟、

廿八日、御_二成始管領_一、

廿九日、將軍宣下、

基雅雖_レ無_二其用_一、爲_二政所方役_一之閒、祇_二候殿中_一、着_二白直垂_一、是者當日事歟、寫畢加之、

一就_二御元服_一、石清水御寄進之地在_レ之先規也、仍攝州兵庫庄內、以_二御教書_一御寄進也、右筆貞基、

廿六日、政所執事被_レ仰_二付_二二階堂山城守忠行_一了、

仍_レ爲_二先例_一伊勢入道眞蓮上表之故也、執事代事被_レ

仰_二付_二玄良_一同前歟、

四月

七日、就_二番文執行_一三月三日備上覽歟合_二奉行右筆等新加衆_一

御太刀進上出_二御東向_一御對面、

爲_二一人奉行_一肥禪永祥代_レ息歟、三左之種同道出仕、齋

藤加賀又四郎種基、齋藤彌四郎基周、基雅、同時齋藤孫四郎後

號民部大夫親基移_二右筆_一

六月

五日、清筑後守貞俊他界、本名貞綱、頭人城州五十六才

六日、政所寄人新加、爲_二執事代_一玄良申_二沙汰之_一、仍

被_レ召_二加寄人之旨_一、各調_二渡奉書_一了、

依田中務丞秀朝 松田主計允貞長 齋藤加賀又四郎

種基 齋藤彌四郎基周 飯尾信濃彌四郎基雅

廿六日、政所內評定始、執事新補儀也、二階堂也、行珍以來再與歟 寄人

着_二裏打直垂_一

着到 松田豐前守貞寬

一式三獻、前用_二三人_一着_二直垂_一、

一寄人名、練貫一重、太刀金、

一執事代玄良、染小袖一重、太刀金、

一侍羅仕四人參勤、

一爲_二內談一獻_一、二千疋自_二納錢方_一下行、玄良申付之

一頭人令_レ持_二參着到_一備_二上覽_一、歸宅有_二五獻_一、大飲皆

改_二直垂_一着_二上下_一了、

七月 改元寶德

廿七日、飯尾加賀入道眞妙死去、自_二去月_一中風、管

領京兆、

御吉書

一飯尾孫右衛門尉之清實父眞妙、末期被_レ召_二加恩賞

方_一了、廿六日歟、

八月

一吉田社別奉行 玄良承_レ之、眞妙次玉、同二年十二

月依_二禁忌_一也、

廿八日、宰相中將御拜任御參内、

廿九日、一色左京大夫教親侍所上表、所司代羽太

十月

五日、依右京兆上表也管領職事左衛門督入道德本三品再任、賦以下

奉行飯六左、

御評定出仕十一月九日也、御前御沙汰同、

閏十月

十一月

朔旦冬至

九日、管領始御評定、

十二月

二日、河上諸關停廢使節

齊遠禪 玄良 飯四左爲久 貞數

治四左國通

十日、河上使節上洛

廿七日、治部左衛門尉國通恩賞方御免

寶德二年庚午

正月

一御吉書 挽飯

十一日、御評定始、管領三品、加禪玄忠着座始、越禪

遵宗同前、

十七日、御的

廿六日、政所評定始、頭人城州、執事代玄良、

二月

十七日、御前御沙汰、

一當年吉田社造替料段錢、三ヶ國申寄訖、

美濃國 飯尾與三左之種使節

越前國 守護清 請力 和泉國同前

一五伊上蒲御局 一色右馬頭息女 御產所被_二仰付_一、

二階堂 予時政所也 爲_二御手沙汰_一 五百貫文分質物、御具足十

兩被_レ出_レ之、執事代申_二付諸土倉_一了、

三月

廿九日、大納言御拜任 七月五御直衣、

七月

五日、御直衣

十二月

十二日、飯尾下總守爲數被_レ仰_二付執事代_一立良次、

一治式部四郎元俊移_二右筆_一、依_レ番又施行也、

一飯孫右之清、飯與三左之種參_二政所寄人_一、

寶德三年辛未

正月

二日、御吉書 管領金吾禪

十一日、御評定 奏事飯濃爲數、
齋藤上野五郎豐基、

十七日、御的

廿六日、政所内評定始、頭人二階堂、

二月

一御前御沙汰

不知_二月日_一
一飯尾和禪性通依_二南都訴訟_一止_二出仕_一訖、伺公御免、

此時南都使節、濃州貞元、飯總爲數、松主貞長、

四月

二日、上様御矢開、小笠原民部少輔教清勤_レ之、

十一月

十二日、齋藤加賀入道立忠俗基貞死去、

十二月

管領金吾禪
一清式部八郎左衛門尉貞秀參_二恩賞方_一、

一一色左京大夫教親逝去、號_二成就院_一、歟、

寶德四年壬申

正月

二日、御吉書 五ヶ日境飯

十一日、御評定始、管領金吾禪、奏事、關子、同_二去年_一、

十七日、御的

廿六日、政所内評定始、頭人二階堂、

二月

一御前御沙汰、

廿九日、攝津入道常承俗滿親死去、息掃部頭之親、

三月

廿五日、飯尾備中守爲秀死去神宮開闢

五月

一小五月會延引

六月

廿五日、細川右馬助政賢早世、勝元舍弟、右馬頭禪門道賢爲子、

七月

改元享德元年也、

廿二日、神宮御吉書 管領金吾禪□□被仰付玄良、

九月

九日、松田豐前守貞寬死去、

一修理替物方事、清八左貞秀被仰付之、貞寬之次、

十一月

一管領職、右京兆勝元再任、余吾禪依上表也、

十二月

二日、御評定管領始也、

奏事、飯總爲數 圖子、清四元俊

同日、御前御沙汰、

管領京兆

一松田丹後守秀興參恩賞、

享德二年癸酉

正月

一御吉書、五ヶ日碗飯、

十一日、御評定、管領京兆

十七日、御的奉行 布野貞基 飯總然數

廿六日、政所內評定始頭人忠行

新加、清四元俊後爲元定

二月

十七日、御前御沙汰、

三月

廿七日、於禁裏有晴御鞠、

四月

廿六日、於內裏舞御覽在之、

廿八日、關白二條殿宣下官長者長興宿禰持參

五月

九日、內宮役先來被寄諸國段錢、

頭人加州、開闢玄良

國分

布野貞基 飯總爲數 齋三兵基益

松丹秀興 諏信忠卿 飯孫右之清

治四左國通 濱八左興秀 松主貞長

玄良

享德三年甲戌

正月

一御吉書、流飯五ヶ日、

十一日、御評定、管領京兆

奏事、松丹秀興 鬨子、松田豐前九郎貞賴、

一御的 奉行 布野、飯孫右之清、爲數之次也、

廿六日 政所内評定、頭人同前

二月

十七日、御前御沙汰始、

三月

一大方殿勝智院事也 奈良御社參、

爲數 貞基御供、

番方衆御供、

四日、伊勢入道眞違死去、俗貞國

七月

一日、關白 鷹司左府冬家公御補任、

十二日、阿茶子局造宮使妹、姫君御誕生、

御產生細川上總介氏久亭被_レ下_二備中國段錢_一了、役者如_二先々_一、

八月

廿二日、畠山伊與守義夏河内國沒落、於_二七條道場_一

遁世、

廿九日、畠山彌三郎被_レ仰_二付家督_一出仕也、

十月

德政 一土一揆亂_二入京中_一、諸土倉質物等悉責_二取之_一、

一於_二諸借錢_一者、以_二十分壹_一被_レ付_二納錢方_一、

一奉書右筆飯總爲數、同加判頭人貞基、

一借錢弁_二破十分_一請文在_レ之、

條々壁書政所押_レ之、

十一月

二日、山名金吾禪門爲御退治_二俄騷動、

三日、赤松常陸彦五郎_{元家之舍弟}有馬小次郎以下沒落播州_一

了、金吾御退治依_レ不_二事成_一也、

一山名右衛門督入道崇岸被_レ宥御退治、被_レ追_二下但

馬國_一了、子息彈正少弼教豐被_レ仰_二付家督_一了、

十二月

十三日、與州義夏御免、自_二河川_一歸洛、有_二御對面_一、

廿七日、齋四右種基被_レ召_二加恩賞方_一、管領執事伊勢

守伺中也、

享德四年乙亥 七廿五康正改元有_レ之、

正月

一御吉書 境飯

八日、佐子上臈御局、_{大館上總入、這常譽女、}姬君御誕生、

御產所被_レ仰_二付佐々木近江守賴久_二六角令_二用意_一之

處、依_レ無_レ間_二于御出_一、俄總州亭降誕、仍御雜掌等

江州被_レ送_レ營_レ之了、

諸役者如_二先々_一、

十日夜、相國寺內炎上、

十一日、御評定、管領京兆勝_一、

忠行依_レ爲_二御產所奉行_一不_レ參、

奏事、飯孫右之清

關子、松九貞賴、

十七日、御的

廿六日、政所內評定、頭人_二階堂

二月

七日、南都使節、_{爲_二畠山彌三郎對法也、}

飯濃貞元、飯總爲數、松主貞長、_{此時任_二對馬守_一}

閏四月十日歸洛也、

一與州義夏任_二右衛門佐_一、_{能州守_二義統_一任_二左衛門佐_一、}

十七日、御前御沙汰始、

廿一日、飯和禪性通_{俗貞連}他界、

三月

廿六日、畠山三品禪門德本_{俗持國}逝去、

四月

八日、關東成氏爲御退治、今川上總介并奉公方輩

進發、

廿八日、山名霜臺教豐爲赤松常陸以下對治進發、

同年八月廿七日歸洛、

五月

一越中國使節、矢野越中入道寶映、依田信乃入道享信、爲畠山彌太郎御退

治也、

十二日、赤松常陸彥五郎并有馬小三郎以下、於備

元家舍弟

前國大馬嶋生害、同十三日、於播州法雲寺實

檢云々、

一兵庫嶋使節、治河國通、松九貞賴、爲渡唐二合

船也、武田依申請也、

六月

一日、飯尾大和新左衛門尉元連參御前衆伺事、

廿五才

作事申之

持通公

房平公

五日、關白、二條殿御再任、鷹司殿御次、

十二日、右衛門佐義夏并左衛門佐、爲彌三郎對治、

進發河內國、同十一月廿日開陣、同十二月十三

日被申御成二了、

不知日

一侍所職 大膳大夫持清再任 左京大夫 教親次也

一加賀國使節、町野加賀守淳康、爲畠山彌三郎對

治也、

七月

二日、和泉國使節飯孫右之清、飯與三左之種、子細

同前、

十日、奉公方 三番四番兩番悉和州出陣、爲彌三郎御對

治也、

廿二日、飯濃州貞元落髮、法名常息、

廿四日、南都開門、畠山彌三郎儀也、

廿五日、改元康正元年、但管領京兆出仕 八月廿七日也管領出仕、供

三番、御吉書國通調之、惣頭御太刀進上也、

廿六日、彌三郎舍弟共爲右衛門佐成敗殺害、

廿七日、武田若州下向、

八月

一殿中伺候女中昇進、但此內少々
六月昇進歟

鴨祝女
右衛門佐局任兵衛督

造宮使
阿茶子局任別當

乳母局女
少將局任大藏卿

新大夫局任右京大夫

攝津入道常承女
左京大夫局任左衛門督
其後號春日局

赤松伊豆刑部大輔姉妹
卜部局任宮內卿

廿七日、大將御拜

關白 二條殿

管領京兆勝一

惣奉行攝津掃部頭之親

右筆飯尾下總守爲數、清式部八郎左衛門尉貞秀

九月

八日、管領八幡參籠、奉行方各貳
百疋持參

一彌三郎方軍勢首管領實檢、則鼻三六條河原、所司

代多賀四郎右衛門尉、

一大神宮御祭以下御代官參奉行事被仰付立良、性通
之次

也、其後令與奪飯和元達了、

廿九日、相國寺入院有御成、

十一月

一去年德政之時借錢十分一事、爲頭人賦寄人飯總
爲數
奉書以下成之

一納錢方、堤右京亮有家爲伊勢守貞親代存知之、
一重壁書被押政所了、

一錢主借主共申給奉書各寄人調之、頭人加判、各奉
書裏判事不知子細、執事以下不肖候故歟、不
可

說之、

一十分一事、自是以後爲五分一被付納錢方了、
此時條々於政所內談在之、爲數被相除之、
自此時政所方奏者塙左京亮行久也、

一吉田社別奉行重立良承之、性通之次也、至
寬正三四五、爲管領
被仰付之、使者清備前守久定、

十二月

一平野社別奉行立良承之、爲秀之次也、
管領御使林三河守、

一河上諸關過書一方玄良承之、性通次也、一方濃禪、

一三番四番衆等和州開陣、

一御的奉行松丹秀興承之、飯孫右之清、依指合也、

廿七日、玄良一方內談衆御免、管領被執申之、伊勢守伺申之、

自今以後於政所內談披露事ハ斟酌也、

布野貞基 聞忠以來再興歟 誣信忠鄉同日御免也、

廿九日、各御太刀進上也、

一飯尾彌六兵衛尉貞有布施民部丞爲基兩人被召加

御前衆了、

一同日、飯尾下總守爲數一級御免、

一同日伊與國守護職河野刑部大輔敦通右京兆勝元拜領也、

一赤松有馬上總介元家遁世、遺跡被仰付同名治部

少輔入道一衍、於住宅相國寺水車正實舊宅被成御倉、糶

并給之、

一貢馬

原本表紙ノ上日記九之内

康正二年丙子

正月

一御吉書 碗飯五ケ日、

十一日、御評定、

御座

管領勝元

津攝 波多野 酒掃元親 雲禪元忠

城州忠行 二階堂 元忠息始着座 飯尾 因州通直 濃禪常息

奏事 飯尾與三左衛門尉之種

圖子 矢野長門孫太郎貞倫

十日、肥禪永祥依所勞近年無着座、

一伊勢守貞親四品同引付權頭御免、

一飯尾肥前入道永祥四品御免、四代以前有、其例歟、近年所勞無出仕也、

十五日、巳刻、鷹司願、近衛殿、大館上總入道許、頼方

同兵庫頭許、自土御門至近衛室町東類、火三

口丁餘炎云々、

十七日、御的

廿六日、政所內評定始、

政所内許定着到患行 康正二年正月廿六日

二階山城守

爲數 飯尾下總守

之清 奏事貞秀

齋藤遠江入道

飯尾孫右衛門尉

之種

飯尾與三左衛門尉

清八郎左衛門尉

齋藤四郎右衛門尉

視基本名基雅 齋藤民部丞

齋藤彌四郎基益

清式部四郎

國通

二月

十二日、飯尾與三左之種叙爵、飯尾孫右之清任二加

賀守、飯尾彌六兵貞有有二叙爵、布民爲基叙爵、

十七日、御前御沙汰始、

三月

二日、若王寺御成在レ之、

一御方違 行幸

廿七日、右近衛大將次第儀悉永享御例云々、

管領京兆 侍所 大膳大夫持清

小侍所 細川下野民部少輔教春

奉行 飯總爲數 布野貞基

四月

二日、爲二造 内裏料、洛中洛外棟別被レ相二懸之、

奉行 飯總禪常息 布野貞基

一右筆方老若於二管領于京兆時以二圖子一分之、各二人町

別侍所被官人一人召二具之、於二町々一注二棟數一了、
便宜二在所取レ宿申也、

一 一字別百文納レ之彼送狀二、町別奉行與二濃禪布野一

列二加判一納二御倉、

一洛外 仰二領主所一納、

親基者、治阿國通國道備所垣見左京兆堀川與二油小路一

之間、又萬里小路與二富小路一間、一條以南、九條以北、自二四月

三日二至同六日一注レ之、洛中八手別レ之、以上十

六人也、

一惣奉行爲二濃禪一之處、半二被レ仰二付飯總爲數、

十一日、造 内裏土御門殿立柱上棟、濃禪布野口着直垂

出仕、

同日、高倉御所、常御所、立柱上棟、

奉行飯總爲數 松丹秀興 飯加之清

一 造 内裏奉行被_二仰付_一、飯總州被_レ仰_二付_一之、

洛中洛外檜木等用木所々被_レ注_レ之、

右筆方衆罷向了、諸五山内悉注_レ之被_レ伐_レ召了、

專以_二清水寺之山木_一被_レ用_レ之、

七月

廿五日、天晴、申刻大將御拜賀、

一 扈從公卿 廿三人次第

一 殿上前駟 卅四人

一 地下前駟 十人

一 一員 六人

一 御隨身 八人

一 官人 三人

一 反閑 一人

侍所 佐々木中務少輔勝秀父光祿持清代歟、

供隨兵卅騎、皆腹卷、各負_レ矢、

正員一人鎧也、負箭一

小侍所 細川下野民部少輔教春、供十騎、直垂、

是者扈_二從公卿後_一、

次前 番頭八人左右

御帶刀二行廿四人

番長下毛野武春

御車

衛府 十人一騎打

大名 一騎打

畠山右衛門佐義就 佐々木大膳大夫持清

伊勢守貞親 富樫介泰高

土岐美濃守成賴

管領右京大夫勝元 供十騎

後御官人 三人二階堂山城守忠行今度任_二判官_一

奉行 攝津掃部頭之親今度四品、

飯尾下總守爲數

布施下野守國基

八月

一日、依田信乃入道亨信、越中國使節討死、

畠山彌三郎對治事也、兩使一人矢野越中入道寶映

被_レ疵、

廿九日、河上諸關停廢使節 同九月十一日上洛

以納錢方二千疋給之
玄良 松丹秀興

清八左貞秀

十二月

廿一日、玄良 一級御免、伊勢守貞親 申沙汰之

布野州貞基 諏信州忠郷、十一同前上方

廿三日、親基 廿一才 被_レ召_二加恩賞方_一、勢州貞親御沙汰

同日、御太刀進上、御對面、玄良同進上也、

申次上野民部大輔

十二日、治四左國通

任_二河内守_一

清八左貞秀

任_二和泉守_一

矢野孫六種倫

任_二左衛門尉_一

齋彥五郎基尚

任_二右衛門尉_一號新右

齋上野五郎豐基

任_二兵衛尉_一

飯孫五郎貞行

任_二右近將監_一

諏次郎貞郷 改爲一通

任_二左近將監_一

廿七日、貢馬

一以_二奉書_一所帶御成敗事

正長 靱井 知行分 治越宗秀、松對貞清奉行

永享 藥藏主 貞連一判

同 山縣右京亮 肥爲種一判

同十一、佐々木黒田四左 治四右貞政伊勢守貞國

一就_二出仕_一御免出一筆

永享 長生庵貞連 白山林泉齋加 基貞

一太神宮開闔次第

齋 加賀守基喜應永 齋 四郎右衛門尉貞

飯尾肥爲種 自永享五承之 松對貞清

飯備爲秀

玄良 享德元七廿二承之、至長祿三十五

飯加之清長祿三五承之

飯左大之種寬正二五承之

治河國通應仁二承之

清泉貞秀文明六承之

文明十五八廿五常通辭退答無之、

清筑元定文明十九六廿六承之、常通次

一政所執事代

清式部左衛門大夫行定至應永十一

清和泉入道正治俗秀定、自應永十一至永享二、

飯和貞連法性通自永享二、式評定衆辭退、

飯信清親法淨親、引付衆、嘉吉二ヨリ至文安四二、安カ

治阿貞政法正阿自文安四、至同六三、

玄良齋遠禪文安六四二承之、至寶德二二二、

飯總州爲數寶德二二二承之、

飯左大之種總州式評定時與舊引付衆、

清泉貞秀引付衆、文明二二二一承之、至同六二、

布野州英基自文明六、至十七五、

松對州數秀自文明十七、至長享元、

清備禪眞性

諏信州貞通

一侍所開闔

飯加爲行眞妙

布民大貞基嘉吉以後歟、引付衆時辭之、

飯左大之種長祿二承之、同四六神宮□□時辭之、

治河國通長祿四五歟、引付衆時辭之、

飯兵大貞有難加引付衆、不辭之、祖父常廉儀云々、

松豐貞康文明十一承之、

飯三左入永承文明十八六承之、

清式大元定享德元於御陣承之、同年十二廿七辭之、引付衆御免故也、

飯左德大爲親享德元十二廿七御引付衆辭之、元定次、

松豐賴親文明元十二廿九、爲賴次、

一公人奉行

此流始歟

飯濃禪常廉貞之

此流始歟之觀可尋也

齊加州基喜

此流始歟但貞秀爲公人奉行

松丹禪常昌滿秀

飯肥州爲種永祥

飯總州爲數

飯濃禪常恩貞元

布野州貞基祥順

松丹州秀興宗棟

飯濃州貞有

飯和州元連宗勝

松對州教秀
明應元十

飯加州清房明應二五

基世奉公次第

應永 圖子役 勝定 御代

同年 政所寄人同七十二十九上洛

永享 恩賞方 永享七十廿六爲注山門中堂用
木江州使節基世

嘉吉元改基世爲一恒、矢野長門守倫基杉生還能

護正院、同年十二受領、

文安二神宮寄人、同年替判形、頭人攝掃禪、

同他方寄人、頭人同、

同四年法躰

同六四二政所執事代、頭人眞蓮、

享德元七廿一神宮口口、頭人加州、

康正元十二廿七一方内談衆、仍政所披露事略、
レ之、着座如元、

長祿二九而目所勞同十一月出仕、

同十二廿六式評定衆御免、政所着座略レ之、

文明三三十九他界、七十八才、

一永享八攝津國段錢使節 治四右貞政

清四右貞綱

一永享九十廿一行幸室町殿、爲種貞元小出方

一永享十八 放生會御上卿

(原本表紙ノ上原本九之内今存三本)

東大寺法花堂要錄

長祿三年^{己卯}四月三日、河上庄石原キテ入所出分之

事 法花堂地主方田地、

二段、^{地主方リウコヤ作、合七百文出た、}二百五十四文、^{土木逆柴代文ハ、地主百廿七文、}人夫

事實五十文、^{一口別}硯水十文、合十一日ノ反別ニハタ毛ヲ

二日百姓役ニシテ、九日ノ納ヲ地半下作半出ベキ由

申^{問歟}口、寶徳元ノキケ三ノ時スデニ人夫口、百姓三分

一ハタフク由申ス處ニ、其三ハミナ^{算カ}ナ口用口ト

テ、反別地主方二百廿六文出了、合三百口リウコヤ

作ニハ、一反ニ石原キテカ、リテ、一反ニハ申口ト

云事アリ、追而尙々糾明アルベシ、

從ニ地主方^レホヤフクソ出了、是ハ九日ノ夫賃ノ口

口スル也、其故ハ學侶方石原キケニライテハ、三段

口口内一段ノ地主、法花堂サタスレバ六分一ニアタ

ルナ^{リカ}口、寶徳元年也、キテノ時、地作百姓三方シテ、

夫ノ口サタ、明鏡ノ日記ヲ讀テキカスル處ニ、此儀學口口トヤランノ納所ヘ聞エテハ難治也トテ、右夫三分一ニテ、子細ナ^{ク歟}請取了口口方ヲ、九日ノ夫ニシテ半分請取之由承了、

口段、^{山口地主方、三百五十三文出了、}一段、^{アシタ、方同之、}一段半、^{當行方地主ニ、段分ニ出ス、}

高倉祭ノ料所一斗所ニ百姓口屋、地主ハ法花堂よ口

切々ニ申之間、子細申分ケ、百文出サレ口、是止分

ナレバ、加口^{様カ}ノ所出アルベカラズト多重問答也、

長祿三^{己卯}四月十四日、夏入砌ニテ、中門堂ヨリ披、

巨細ハ定口^{觀カ}房^{良尊}既ニ津宗以上タリシカト、衆下ヲ

披テ不^レ住スデニ十九年、シカルヲ^{只今カ}シテ交衆望

事、新記祿ニ付テ如何之由、口榮春^{大カ}口披露結束シテ

曰、不住ノ間、清肥ノ口^{如何カ}之處ニ交衆免許ニライテ

ハ、口入ニ准シテ、律宗ノ最下ニ口著シテアラン勿

論也、サレト口行躰等ト云、古疎行ト云、只律宗ノ

上座ニ口シテ、大以上以後ハ戒牒ニ任テ著スベシ、

兩堂混亂ノ供料、^{大北殿}七夜導師、^{法花會}讀經僧ト口ニハ、法舜

良房重俊田光房法圓カ定源、讀經僧ニ入□□、中□嚴房□□、

法天春房眞實、差□房義カ堅□、舜良房、圓光房、當時律宗

分七夜導□任セラレテ、後ナラデハ後闕アリトモ、

定□房□ニヲイテハ、入ラルベカラザル由返事アリ、

其通ニ而著シテ、同十九日中門堂へ入事サタシテ、

其夕幸勝房良存ト改テ交衆アリ、

卯月廿六日、大乘院殿一乘院方内侍原中間候破却、

其後兎角ノ評議アリト云々、

五月二日、法花堂之地ニ石ヲツム事、滿堂淨行衆、

石一ヲ十文ヅ、ニシテ勸申ス、延□一同ニ執サタ、惠カ

五月三日、金春太夫八幡宮ニテ法樂アリ、七番、是

ハ猿樂ト相論無爲□、兩社悅申也云々、

五月十日、午刻ニ京都松月庵逝去、七十一□、

同十二日夕、大乘院御侍夕門□ノ中間家、一乘院方

ヨリ破却、先日ノ儀□□了、落居カ

同十三日ノ夜、觀カ禪院ノ門タラル、九世事也、

同十九日、池辨才天女サウ除ノ爲、アコヤ川ノ丈

三ノ□來了、此時日中以後酒アリ、禪長房□□鉢舜觀カ

子分之内百文ヅ、出シテ、二方ニ三百文ノコサレ□

□、

六月一日、成身院筒井殿安堵ニテ、奈良入、

同廿五日、蜂起アリ、

小泉、番條、万歳以下皆度々軍ニセ□ヲ□□、メ歟 畢カ

七月□八日ヨリ賢良大禪長房入峯也、□□祈アリ、

歸テ一コンサタス、九月一日ニ寺入、九(マ、)

一八月十日ニ大風吹テ、ソコハクノ坊舎在□吹損ル

事申ニ及ズ、吉野川大水風ト□出テ、川ツラノ家

ナガル、事ハ皆々ナガレテ、死□三百五十人ト云

リ、言語道斷事也、

定田圓カ大榮春、九月ヨリ□例シテ、十月一日ニ於ニ西

坊ニ定□大實專千部經ノ供養アリ、十月七□二月堂

佛餉職事、法花堂ヨリ長弘、延□、實專兩三人ノ間

ヲ入ラルベキ由、折紙ヲ堂司方へ入ラレ□、シカ

リト云ヘドモ中門堂延春、久長、乘練、行衆ノ二□

□タリトテ競望、長弘トアラソヒテ、落居ハ闕ニ
春道房大カ

□□、□□□□長弘トリアタリテ、補セラレ畢、

十日□□、

一大佛殿佛餉職事詔ヲ入ル、ソヤノ評定□六堂童子
ノハカヲヒナリ、補任ハ執行所ヨリ□出サル、也、
任料一貫三百五十文、此外公人中へ□五百文ナリ
ト云々、

一十月十一日ニ頓事出來テ、布施ノ勢ウタル、事六

□、

一執金剛神長日仁王講、十五日延惠有ベキ事、十月

十三日ニ定リ畢、

一中門堂方同教房盛範、七夜ノ大ニ□□ラレ畢、幸

勝房良尊去ル契約ニヨテ□超ラレ畢、

一舜良房重俊ハ讀經僧ニ入、是又□□、

一例時供ニハ禪長房行賀ヲ惣□□入ラル、也、其故
ハ入峯ヲ以テ本ト□□供料ナルニヨテ、堯專房實
成上ニアリト□超越シテ、己卯十月十四日夜ヨリ

參□□、

一二季アミダ經供料事、現春房尊英入□□戒和上春
五日マ、

尊、賢圓大良秀トハ良秀次座ナル處、新入當行ノ

大小月ヲ勘テ日數ヲ取ル、ニヨテ、良秀ヲ入ラル

ル□云ツ、シカラバ尊□實成初行ハ一年前ナレ共、
英カ

入峯ノ大行ニ付テ□□衆□ノ事ナレハ、行賀
巨那カ

補任スベキ歟ノ□、二人マデノ超越ハ無下也トテ、
處カ

故□ナ□、
意カ

一八幡宮二日夜經ノ事、施主家長殿法花堂ヨリ執サ

タ也、十月二日ヨリハジマル也、

一ダラニ供_{不參}竿合申義分、十二月九日上坊ニサタ、爰

顯春房良寂度々サイソクノ處ニ、出サレヌニヨリ、
如何カ

評定□□之處ニ、三ケ日ノ中ニ利ヲ加ヘテ出サル

□、仍兩堂ヨリ引違之、若無サタナラバ、供料□

改ラルベキヨシ中門方_{マ、}今學房ヘモ申送畢、
圓カ

一同日、新仁王講不參竿合、定田大榮春 死去間、配

分ヲ取スト、評定事終畢、又延春大□退散前之由

處カ

評定□、是又當座支配下ヲハツサル、也、アマリ
ニ、無下ノ御沙汰ト存之□、

一公人ノ中、師御房ニ延惠ヲ請用間任ス、入事ナル
由申ス處ニ定田^{圓カ}大學春□日記アルニヨテ、其由存
知スト云ヘ共、書狀ニ□□五百文ニ佗申ベキ由申
送テ無爲ニ成候、則十二月八日ニ三ヶ月參勤講布
施送ラ□、

一圓光房定源六供ノ入事、十一月晦日、去ル六日大
師講サタノ次ニ引^レ之、支配前々ノ如シ、□衆分ヲ
ヲキニヨリ、諸進□五十文ヅ、配分□、

一去年^{十二月}ヨリ新禪院ニテ御遺告須□妙抄^廟玄秘
抄廿日マテアリ、二ノ抄ハ題□等計ヲ如^レ形トリ
ワタサル、英^マ乘五師、春海得業感□々々、宥憲々
々、禪識房々々、延□房、此方ニ定春、延惠大、
實專大、二百廿一文ヅ、出シテ合^{實カ}二生文、

一十二月十一日、上坊辨才天講ハテ、二龍事、是
サタス、延惠大通夜方□五人、夏一、諸進聖、各五

十文ヅ、大三二人二百十六文ヅ、小三人百四十
□、其外少事ノ借書ヲアケラレ畢、

一定圓大榮春舍利講方、彼此ニ寄進ノ料所ア□、近
來ハ是程ニシタル人マレナリ、舍利講ニ□□正月
十五日、卯月十五日、五月十五日、六月十五日、
十月一日僧繕アルベキ由申ヲキテ寄進也、其狀ヲ
□□庫藏ニ納畢、

一公人ノ中、師御房入事五百文ニテ佗ル處ニ、少々難
儀ト申ス、シカルヲ御佛餉下一事ノ時、只一貫文
ナルベケレトテ、十二月八日大殿ス、ハチニ□□、
一十二月十五日、原村ヨリ廿貫文持參ス、中門堂手
水屋ニテ評定アリ、

一當行方物ナキニヨテ、年籠如何之由サタアル間、
□惣ヨリアカキ御社、元三酒□ノ不足分ト、又□
米金伏ニ三斗代五百文ト出サレ畢、

一十二月廿七日、中門堂手水屋ニテ申具定集會アリ、
新仁王講供料半分年内ニ下□アテ、殘正月十五日中^{行カ}

尊勝

可三不行^由、院家ヨリ御侘事也、仍衆議四力ナク、只今事ハ其通ニテ、□後ニ□年内ニ下行ナクバ、則正月朔日ヨリ閉門、以下大□^{訴カ}ニ及ベキ記録ヲシテ、五百文大晦日ニ下行、堯專房實成寺住ニアラズバ、交衆叶ベカラズ□、明年春中ヲ可三待申^由、堅申送レ畢、

十二月十九日、ス、ハキノ時ノ事也、

同日

一堂司人未三入峰、丑時等ノ行ヲヘズバ叶マジキ□水ニアラザル人、律宗ニ上ルマジキ事、不住ノ人

人満堂記録アルベキキニテ草案アリ、是往古ノ例、

同日

一上坊、奥坊、西坊等ノ公坊ニ傳ル盜財ノ刀□、長弘、良實、實專忍デ出サレ畢、

一兵庫兩關事、過書用ベカラザル寺訴アリテ、當寺

官藏照五師延營、他寺官兩人同□マデ□□□□

落居カ

□□□□□□畢、

長祿四年庚辰分

一大佛殿修正、二日夜ヨリ執行也、越中國高瀬□東室

殿預所ニテ御入アリ、然ヲ去年己卯老^{伯カ}□得分、

重圓法印、英真律師、經真疑講、英覺、澄春、

聰海、々々半分下行ノ事難儀□□、愁訴ニヨリテ也、

大方ノ評判云、去年^{戊カ}未□半分、去年己卯十二

歲カ半カ

月始ニ下行アテ、己卯才分□□、同廿九日ニ御下

行ノ處ニ、修正朔日ノ勤行ヲ闕^{トモ歟}セラル、ハ、先僧

分ノ無骨也、非例タリトイヘ□□、前ニ既一年モ半

年モ待申テ、當年何□ソヤ、速御下行ナキハ申ニ

尊カ

及ズ、只今勤行□、□罰ヲバドナタヘムクウベキ

哉、當中ニミ□、

興福寺西金堂衆、脇坊春日社季頭ヲシテ律師ニア

カル、シカルヲ堂中ノ引物ヲサタナキニ□用ス、

サルヲ御奉書ヲ付テ出仕ス、但堂司□次座ニ著ス

ト云々、堂務ハ寺門ニハ疑講ニ准□、シカラバ次座

事イハレズ、戒和上ハ律師ニ准□、事ノ次アテ此

事存知候間記置者也、

兵庫北關、東大寺へ寄附事、延慶ヨリ始ル、十ケノ

舊カ

御願ノ料所也、^{舊カ}冬關過書ノ煩ノ時此サクアリ、三月廿六日、八幡宮經供養アリ、

一三月十七日、信花坊經藏西連^{物カ}切テ盜^{物カ}入畢、幾許之^{物カ}取ト云フ、過十日比ニ尊勝^{物カ}ニテ米俵十

五取、以外盜人ナリ、

惡黨カ

十市ノ興田、興福寺ヨリ、西^{惡黨カ}ナルニヨテ頸ニ錢

ヲカケラル、處ニ、四月六日福智庄ニテ、サ川山岡^{ト歟}云者頸ヲ取テ勸賞取ト云リ、

一三月廿二日、過シ請^{ト歟}雨ノ大般若、放鳥、興福寺ニ

廿日アリ、東金堂ヘ寄附ト云リ、

卯月八日ヨリ^{舜カ}觀房今快新入當行也、

素カ

同ツレ事、十一日ニサタアリ、後段ニ^{華カ}麵アリ、

禪長房行賀水ニアカル事、卯月十五日ヨ^{華カ}、^{華カ}專

房實成同水ニアカル云々、

堂ノ鍋^ニ古ケ旨、代物四百文ソヘテ、ツナシヲ

買了、

執金剛神御門四足以外ニ破損ノ旨、北方分ヲ^ニ、堂

中ノ沙汰トシテ拂造、^マ月ヲ沙汰畢、卯月十日ヨリ始カ^{始カ}、巨細別記アリ、

法花堂修理事、聖ヲ以テ油倉ヘ申送畢、

三月八日夜、九日夜灌頂アリ、延惠九日夜重位ヲ

布施カ

サタス、^{布施カ}物一貫文進畢、其外長弘、良^ニ、定

源モサタアリ、

當堂當行四人、卯月廿七日早朝ニ歸、

京都飛井殿、春日社御參、御宿西室エ御同道アテ、

知足院ヘ御參アテ御下向、北室西廡ニシテ呼、御

留アテ行躰ノ趣委細御尋アリ、

同日卯月廿七日、招提寺御長老、法花堂ニ御^アア

テ、寢眞御影御所望アリ、招提奥院ニ朱櫃御入定、

カ様ニコソ御座アルラメトテ御落涙アリケリ、法花堂ニシテ大^{殊勝カ}井ナド好相御祈^{殊勝カ}、^{殊勝カ}ノ靈地、ヨリ

ヨリ可^{リ歟}結縁^{リ歟}之由御弟子十人アマリワタ^{リ歟}ケル

ニ仰アリ、

惣堂一軒アリ

同日、延惠花供ニ、先達^ニ入峯、當堂ノ同行、

願春房長英西金堂定信房寛清籠口、近州已高山ヨリ

菩提山ニワタリケルヲ同道ス、

卯月廿八日

一執金剛神御寶前水曳乾殿賢幸新調ア口、寄進廳而

春道大、定舜大惣ヨリノ禮ニ罷出口、

一延惠寺立、花供事、卯月廿九日、五月十一日歸寺、

一逆峯寺立、七月六日同行、小納言得果カ口感宗、定

堂

信房口口、東藏行人、良滿行人、九月一日ニ歸寺

ナリ、

一潤九月九日、畠山殿、彌二郎、河内立、奈良マデ下

向、七十騎バカリ同十六日ニ龍田マデ陣立、成身

院同行、畠山殿、衛門助公方御勘氣、九月廿日ニ

御屋形御アケ口、翌日ニ大夫殿東山ニ御引居アリ、

物念カ

無カ

天下口口絶事口、八幡山ニ口口ラル、寺方學

城カ

性供ニカケ口口、

一カ

口潤九月廿日、八幡宮ニテ宇治日吉法樂ヲス、

一同廿一日ニ招提寺御長老、鑒眞御影拜見ノ御爲口、

法花堂へ御客、尊勝院ヨリ案内者同道アリ、過夏

御參ハ一室ノ坊主ニテ御座也、

懺法所障子ニ樂書事外ナル間、口口講問等口僧奉

推量カ

ノ中間以下、並小幡宜書條勿論ア口、

リ歟

一大東年預五師隆晏へ滿寺集會之時披口アテ、剛口

料絹納所へハリナホサルベキ由、兩聖ニテ申送處、

如ル此題目、諸進ヲ以テ可承哉、仍披露スベカラ

ザ口歟

返事之間、一兩日アテ、兩諸進ニテ申送畢、中

間等物ニ心得タルヲ仕ハル、五師へ聖ノ時ハ口

口出合ズシテ聞ツガセラル、ニ、當年預所從ナキ

靈カ

口ヨテ、申サル、條タシモ、口理ニハアラザル歟、

兩口衆分諸進ナドニテ可ニ申送ニ事尤也、半越口供

思カ

養法、戒口房入事、十月十九日ニ沙汰アリ、

縁誤カ

受戒會縁誤カ外ニ打テ、寂良房重俊ニ當ル間、書

晏カ

狀年預五師隆口申送ラレ畢、

衛門助

去ル十月十日ニ辰田へ寄テ、畠山殿方數十人打レ

百

口、受戒會新入役寂觀房ナリ、

一定寂大實專、去年春道大不出分ニ出テ、當年可ニ出

仕□□□、千手堂西方タ、ミスクナリテ、事カク

ル間、堂達東金堂申テ、□上ヨリシキタサレ畢、

九日夜祿事外ナル間、年預五師隆曼書狀ニテ申送
リ

寛正元庚辰十二月廿一日改元長祿四年

同二年辛巳分

一堯恩房榮珍カラシ律宗ニ所望アリテ、以後一貫五
百文支配アリ、大小配分方廣各五十文、諸進聖各
五十文ナリ、

一聖年籠ノケタミノ事、計會以外ナルニヨセテ、當
年免カ□□アルベキ由、再三侘申ト云ヘドモ、麵ナド

ノ事ハ免ストモ、皆□叶ベカラズト申付ラレ畢、
二月

十四日中食ニサタカタノ如ナリ、

去年新仁王講半分下行否事、堅訴訟アテ、皆下ナ
辰十二月廿九日

リ、

一宗學房久ク無音ナルニヨテ、堂先達延惠披露シテ、
ガラニ供辭退ス、寺住方廣堯覺房ニ入ベキ由申サ

ル、補任等難儀トテ侘事ノ間、當年ヨリ輪轉ニ
ナサレ□、

一正月十八日夜、花餅支配事、堂司春道大不出□、
如何之處ニ、例時分ハ出仕ニ□ラル、准又ハ候カ經方事ハ出

仕ナレ共、□讀サル人モアル上□トテ配分ナシ、
平衆分イツレ配分ナキ事、往古ヨリノ軌則也、

一二月廿三日、樋坊ノ春序マ殿出家、戒師坊主延春大、
サカ□請用モナキニ、堂司ト號シテ、明覺大其用
意ニテ出仕アル處ニ、相違ノ間立テ歸ラルト云々、
盡カ未□事ト□、

一三月九日ニ正眞、行□、乗カ原村ヘ未進催促ニ下□、
下部一人同道マデノ糧物、
圖カ

同廿六日ニ講堂ニテ□繪藥師供養アリ、□□各出
仕散花、明覺大サタ行道アリ、

一六月五日、粥漬堂方ノヲ闕ニヨテ、五師延磐堅□
アリ、仍日ノ入程ニ法花堂手水屋ヘカキ送、ミ□
後湯ヲ抑ヲカル、處ニ、小々唐戸ヲハヅシテ入者

リ歟

モア□、又ツカヘテ□□十、年間申處ニ、堂ノ湯ハツル□□入ベキ由下知マテ入者モアリ、シカル間湯屋ハ□後湯ニ成ヌ、下ラルベカラサル由申處、東南院兄□、其外役人以下ヨソヘ行テ、ハタラク事先ハ□ナキ由申ト云ドモ、後湯入ニヨテ申付ラレ□、

一寛正二辛巳六月十日ニ、溫病ニヨテ正眞死去、

須カ

契カ

□□狀ニマカセテ、與次郎正法タルベキ處ニ、

任料子□事來年マデ延引ノ倅事、粗其サタアルニヨテ、舍利講ノ次ニ上坊ニテ三ヶ月ヲ過ベカラザ□□、先記等ヲ披テ堅申付ラル、同以記錄アリ、

舊カ

一八月廿二日ニ、千足分ヲ出シテ、□記ノマ、ノ□

竿合アリ、但修二月方ニ五百文ヲカル、其外□過上方ノ借書一通アケラレ畢、

一八月ニ興福寺六方衆ヨリ年預五師延□方へ牒狀アリ、明覺サシ笠ヲサセテ、寺邊□往反ス、當寺トシテ□戒ニ及スハ、他寺ヨリ其サタニ及ベキ文

彼カ

言也、小綱源與ヲ以テ、□狀□加言シテ云、頸□ノ事、大佛殿中ノ床□着座事、當寺ノ衆議トシテ不レ可然之由申送ラル、中々返事ニ及ズシテヲカル、者也、凡極暑ニサシ笠ノ事、當寺ハ聖武天皇御願寺タルニヨテ、昔ヨリ其儀ナシ、然ルヲ五六

年ノ間寺家□葉サシ笠ヲスベキ由評定ノ事零落ノ基タリ、堂家ニヲイテハ、不背ニヨテ今マデ其儀

ナキ處、明覺サシ笠ヲサセテ他寺邊ヲ旦サマニ往

返シテ牒狀ヲ入ラル、事、公私ニ付テ歎事也、

一カ

□八月十一日ノ僧センヲ、納所ヨリ倅事ニヨテ、九月十一日サタアリ、其砌ニテ與次郎ニ聖法師正法

タルベキ由ノ補任ヲ出サレ畢、

延惠入峯、滿堂ヨリ例式一□アリ、九月一日歸寺

アテ、皿夕□酒ア□、同行石見君宜、善行、籠ニ

ハ江州滿願寺ノ新行一人ナ□、
一七月十七日ヨリ興福寺訴ニヨテ、七大寺開門、
一執金剛神御領仁井令長州村□□トモニヨテ□、嚴

重ノ三晝夜、例年ノ處ニアリ、十月三日ニ始□入、
同アマヤ川方ニテサタアリ、

十月九日兩堂ヨリ行、乘原村へ下サレ畢、

一同十一日ニ手水屋ニテ、松石カミヲナル正法ニナ

ハ□、滿堂諸衆方廣諸進マデ出仕、西座ニ餅ニ

煎松タケ、イリ菓子マデ三獻、出家以後中食アリ、

サイ汁ニ戒師堂司春道大長弘ソリテ、圓光定□、

堯忍榮珍□□染ケサフタモタセテ堂内ヲ入堂、

同□八日□□□□ニ春道大堂司事サタス、上坊□

アリ、通夜十一口、方廣九口、世俗舊記ノ如シ、

捧物□紙一束ヅ、定舜大マデ壇帋一帖ノ加□、

受戒會事七大寺閉門ニヨリ闕如ス、

寛正二、十一月廿日ニ興福寺閉門アリ、

當寺訴訟未ノコルニヨテ、廿四日ニ閉門アリ、

同廿五日、尊勝院殿御寺務トシテ御入堂アリ、播

州原村年貢上ル、色々ノ事共アリ、

十二月二日、大佛殿修正、六日夜法花堂ト廻請□

往古ヨリアル處ニ、七日夜ニ出テ奉ヲトラル、ヲ、

現□、隆乘奉ヲ乞テ出ス間、年預小綱源與房住所

□人ヲ遣テ撰ケシテアル處、小綱年預五師延□ニ

成下テ申ス處ニ、古キ廻請ヲ以交合セラ□、昔一

通モ少シトテ聽書ナホシテ送ラル、ニヨ□、奉ヲ

シテ出サレ畢、五師儀如此ノ由源□□、

一十二月十七日、辰定ニ法花堂内陣ニテ通□□分ト

シテ、觀音經各十一卷同音アリ、池中色紅ニシテ、

世間ニ血ニ堀ノナルナド云ヘル、是□云儀ニヨリテ

祈禱ナリ、但法花堂ノ池紅蓮花ノ如ニアランハ、剩

吉事ナル哉トモ云リ、去ル丁卯此池ノハタニテ蛙

軍ヲシタリ、其年ノ秋他寺トノ確執アテ、寺家ウ

セタリ、

一此勤行砌ニテ評定、圓光房、寂觀房、二月新入ノ

用意處ニ、他堂ニ幸勝房參籠アルベ□サタアリ、

彼ハ久不住ナレドモ、古陳ナリ、又一堂ニ□ヅ、

トワケハ、當堂ノハ五口ナリ、九人ノ例ハ貞永以

後口云トモ、寺ト只今訴論無益ナリ、寂觀房尙口
日花ナリ、サ様ノ行シテ、二月堂事延引アレト云
送口口、

一中門堂、猪名庄煩ニヨテ開門アルベキ集會度々ア
リ、シカルニ無爲ナルニ治定ノ由、已十二月十八日ニサタ
アリ、

寛正三壬午分

一榮珍外番頭三貫文出之了、正月十日、

一二月十八夜ニ、只今兩堂陳行八人アリ、仍以後當

堂ニ新入望ノ人アラバ、當參四人之内上一カ口口ツ、

略シテ籠メラルベキニ定ラレ畢、

一三月十八夜ニ、後年ニ律宗ニ上ルベキ事、禪カ口長房

上座ノ仁心得カ口ラルベキ由披露シテ置也、

一三月廿四日ヨリ知足院地藏菩薩、新キ堂へ御入

アリテ、三方ノ戸ヲヒラカレテ、八日逆修口リ、尊

像殊勝ニマシマス事、涙ヲモヨホスナリ、

一元興寺二王、西ノ方ニマシマス御碇マアリ、三月廿

八日、

一執金剛神大般若ノ勸進、過シ三晝夜時ヨリ評定ア
テ、同卅日ニ出來分七貫文餘アリ、

一卯月七日、八幡宮經供養アリ、

一卯月三日、法花寺塔供養アリ、導師西大寺長老ニテ

御入アリ、

一同十四日、水門之堂ノ供養アリ、

一同十日、河内今天野金胎寺へ軍兵取ヨル也、同十二

日ニヨセテ多ク打レ畢、

一顯春房良寂 大分所望ノ書狀ヲ卯月十九日堂司坊へ

入ラル、同廿一日ニ他堂司へ書狀遣テ、凡新記

錄ノ如ハ混亂ノ事ナレ共、此條先年ノ記越度至極

也、其故ハ他寺ニ里衆大分アリ、難澁シテ若他寺

ニ口衆セハ、如何ナレバ免ゼラルベキ當堂評定也、

仍他堂ニモ異カ口儀ニ及ズ、

一五月十三日、仁井領之事、學侶年預方へ色々申事

アリ、口々年辛巳庚辰分事也、委細之日記高ニア

リ、端多之間略レ之了、

一六月十四日、祇園會アリ、山手搔、源三位賴政ヌ
エヲ射タル所ナリ、又今□□ト押上ト舞車押ス事
イヅレ前後ノ論アリ、當寺成敗事間、筒井殿勢ヲ
中御門マデ出シテ、東大寺御支ヲシ、尊勝院殿御
儀分ニテ、中御門、今□□、押上、三郷サクリヲ
祇園殿ニテ取テ落居セリ、手搔ハ本郷トテ論ニ及
ズ、所詮往古ノ如ク□□ヲシテ、次ノ會ノ時ハ餘郷
山舞車ヲストテ、笠バカリ□□サタスベキマテ□
定了、

一興福寺ヨリアナシ山ノ事ニヨテ、十市ノ市場ヲ焼

ハラハレ畢、六月十九日、

一六月廿九日、□門堂行乘^{聖カ}□入事、一貫文出スト云

云、通夜方廣マデ上分ニ支配□□□、

一七月十九日ニ、執金剛神ノ御涌出之杉木マハリ池
御影ノ池ノホトリ當堂ヨリ老若人ヲ出シテ、悉^{三味カ}苺
トリ畢、其故ハ過シ長祿貳年ヤランニ、□□堂ノ

谷ト云ル上ハ、中門堂ヘ知行ノ由、聖ニテ申送ラ
ル、間、三昧堂南ノ壇ヲ下テ、アテノ木大木アリ
シモ、法花堂ヘキル、スナヲ取時モ尊勝院ヘ申テ、
法花堂ヨリ禁制ス、□□池ノ乾ニ櫻木アリシヲモ、
慶賢大祐專モラヒテ、コ□キタツレナト、クハシ
ク返事畢、シカル間此一兩□此アタリヲ事ヲカキ
テ、此方ヨリカラス、サル處一兩日以前ニ明覺大
春惠、ヤ、モスレバー一人二□^{人カ}苺ル物ヲ詞^{飼カ}テセンカ
ンス、仍七月十八夜評定シテ、苺ベキニ定了、サ
ル處二十九日ノ□四聖坊ノ下部一兩人來テ苺ル間
追立テ、此方ヘ苺畢、

一同九月十七日ニ西坊定寂大ニ内々人知ル由ト、比
興之物云アリ、沙汰之限ニアリ、

一德政ノ事ト號シテ、四條ヨリ五條マデ焼タリ、世

之ミダリガハシキ事は非ナシ、□月□□□、
^{九カ}

一木津進發、爲ニ筒井殿大勢ニテ上□□□リ、色々訖
^{洛ア歟}
事アリテ落居了、十月廿日□ニ軍勢ニテ下ラレ

寛正三凡寛永廿一マテ百八十餘年カ

一受戒會恒例三ケ日アリ、當年ヨリ食堂法用定アリテ、千手堂ヲバアケラル、也、

一同廿二日東南院殿覺尋臨時ノ御受戒アリ、和上邊ヘ千疋、御訪アルヲヤト云リ、

一十月中旬カ、通夜番堯專房實成シタル處、行キ方ヲシラザル間、一薦ヨリ淺薦マテ歟□一日夜ヅ、勤仕畢、

一同廿一日、初行砌ニテ地藏講頭役事實成タリ、如何之由評定、無^レ力次頭人禪長房行賀勤仕アリ、堯專房科之事追而評定アルベシトナリ、

一當寺ヨリ講堂ニトボス諸進火事、臨時受戒會、廿二日夜東南院殿覺尋メサル、時、法花堂諸進基カ玄祐トボス、中門堂ノ諸進御出仕ナシ、仍和上ヨリ出ス粥ノ代二□ノ分取テ、灯明分十文中門堂ヘ申スニ及ズ、

一臨時受戒會ニ會堂ニトボス油事、東南院殿堂童子伺申之間、先規ニ御入ナキ由返答アテ、和上邊ヘ御尋候處、和上又舊記ナシトテトボサズ、仍堂童

子先トボスト云リ、恒例ノ時ハ權和上役ニテ油三升出之ナリ□云ハザル、權和上サタルベキ事也、

一四ケ寺新入役事、廿日夜、廿一日夜、綱所ヨリ鑑ニテ度々催促アリ、堂達會堂ニテ披露、返答云、受戒會闕タル年、同又臨時受□ヲバ數ニ入ズシテ、恒例受戒會四ケ度ヲ以□サタル事□例ナリ、去年兩寺訴訟ニ闕、各□明年ニ當ル、去ル寅歲カ□モ近日此例アリト返事□、子細オ歟□ホシト云ヘ共、其通ニ成テ受戒會無爲ニ□□、

一臨時受戒會ニ當寺新入役事、此先々臨時ノ多重ノ問答アル、ヨテサタモスズ歟、先規延惠懷カ□□スル處ニ、今度マ一元ノ問答サヘナシ、

一東南院ノ御時ニカギリテ、受衣ノカコキ堂内ニア□、但今□ハ度カ、只今ノ會堂ハ柱ヲ中壇ニ立タル間、外□良角ニ用意アリ、先々堂内ニ用意時ハ、坤角ニアリ、今度良角ニ用意、年預越度ナリ、

一 東南院殿御出家、戒師和上へ俗服ノ代以、毎度十貫文ナリ、今度ハ去ル戌歲御出家ノ□三貫文御出シアリテ、只今臨時ノ會ニ七貫文和上へ御渡シアリ、前門主珍濟 御時ハ御出家戒師ニ參ル、和上ニアラズシテ臨時ノ御受戒□取御行アル間、和上御俗服ノ代□ルニ及ニモアラズ、巨多ノ入用不便ノ由、度々侘事申ニヨテ、臨時ノ受戒會執サタスル、和上廿貫文御下行アリ、御出家數年ノ後臨時御行アルニヨテ也、

一 臨時受戒會ニハ敎授師ノ役ヲ羯摩サタフ、興福寺 專師寺ノ敎授ハ請師ト引導トハカリ□、今度臨時ニ請師

ハテ、引導ヲ東金堂羯摩寂圓房大實專サタノ間、正面内陣 三禮ニ及□處ニテ引導此方ニサタ也、□如何カ之由申テ、三禮□□上壇ノ引導マデ明覺大春惠サタアリ、

十一月十一日夕部、大行事下部小源倉□彌三郎ヲ殺害了、□リテ一年モトラ□、人ヲ□如スル事アル茂

ベカラズ、
同十日ヨリ他寺維摩會アリ、延年ア□、リ歟 講師西南院殿、延年頭人鷹山奥、ハセ 惠忍寺兩人ナリ、當寺堅者英豪、賢祐也、

一 堯專房通夜番カギタルニヨテ、永代通夜衆分ニアルベカラザル由、去月廿四日ニ正法之申送ラレ畢、十一月十六日、春日大鳥居マ 一本□□、以前ノ一本北里引之、只今ノ一本南里引之也、此木ハ宇智郡ヨリ出タリ、

一 西南院御門徒講師後サタノ御□トテ、金春太夫能ヲサタ、十一月廿日、

十一月十九日、舍利講終ニ堯專房通夜事叶□カラザル記録アリ、

十二月五日ニ、地藏堂毎月廿四日御經千部滿□供養アリ、是去長祿□戊カマデ滿□足カ供養、

去十一月、越中國入善庄東室殿へ立歸、此間御知行西室殿御迷□也、惑カ

寺方隨羅尼供、十二月九日湯札タチ□下行アリ、
堂方未下ナル間、十九日年預五□安樂坊催促アリ、
仍廿七日ニ勸學院ニ□戌年分皆下也、

此間堯專房事、安樂坊口入色々アレトテ、承諾ナ
シ事スミ了、

一顯春房禮堂ウスベリ五帖サシテ出サレ畢、十二月
廿九、

寛正四癸未 分

一御影池ノメグリ萱共、潤六月三日夕各ノ坊ヨリ下
部出シテ蒔^レ之畢、

執金剛神之大般若經廿三貫文ニ南都南□□買
^了之了、同過シ五月ニ堂中祈禱爲談□□、

潤六月評定願英ガラニ供闕アリ、方庵衆ニ□□人
ナシ、然間以後モ入ラルベカラズ、只通夜トシテ
輪轉ニナシテ、執講ツトメテ可^レ然様ニサタアルベ
シトノ結束リ、

同十七日、興福寺六方沙汰衆へ兩堂一二□□ヨハ

レテ出^レ之、東大寺津坂木、中院門□モラハル、
也、知行ト云ナガラ切事ナク、由談通返事セシム、
サレ共押テ十八日立木ニ□枝木ニ卯切レ畢、以前大
佛殿草創ヨリ六ヶ年前ノ木也云々、昔何事トヤラ
□切ケルニハ、柚狂亂シテ七代非人タルベシト、
八幡御託宣アリ、其□ヲコタリテ、神人ニ成レリ、
今度ハ切ソムルト同時ニ、□雨一時バカリフル、
枝木ノ中ヨリハ蛇出タリト云々、

一會新往來堯專出サル、ヲ質ニ取タル、覺禪房 申

合テ、過シ正月ニ會アリ、仍四貫二百文納所ハラ
マレタルヲ、一貫五百文堯專ニトラセテ、源長房

二貫七百元取了、□六月廿三日、

堯專罪科ヲムルシテ、方廣分ニテ置之□□□、

一寛正四癸未八月廿七日、中門堂閉門也、

法華堂カタラハレテ閉門也、コレハ東南院三昧堂
之火頭御サタナキニヨテ也、訴訟ノ□童形ニテモ
大頭御サタアリタル先規アリトテ、連年申サル、

處、御受戒サヘナシトテ、于今御延□タリ、今ハ御受戒アリ、^{争カ}□御サタナカラシテ、切々ニ申ス處、修正大頭以後、御サタルベキ返事ノ間、愁訴也ト云々、安樂坊仲人ニテ^{落カ}□、

一 九月二日、圓光房、寂觀房出峯也、惣ヘ酒□、同五日ヨリ天地院以講アリ、別院ノ^{勤カ}初行ト□、長弘、延惠、重衣ニテ出仕ス、中門堂衆出ラレズ、三日タ此事兩堂集會アリテ結束也、十月十四日ムサ^クト開門アリ、

一新戒和上、東金堂中常院、禪忍大圓□拜堂アリ、誦經導師延惠、

一 十二月十一日ニ、勢奈良ヘ少々上ル、溜州會堯領ト云人ノ子息遂哉否事也、

一同十二日ニ、兩寺開門也、兵庫關舟共盜テトホルニヨテ、管領細河殿ヲ訴訟也、春日若□神事イマダナシ、今度新^マ淺ノ掟旨アリ、□□アリケル時寺煩タリト云リ、新ト云事諸事□□之由、故人ノ

云ル實ル哉、

一 春日社モ開門アリ、大明神御動座ヨリ是ハ□ヨリ以後事也、

一 八幡宮他寺ヨリ重牒送アテ開門也、

一 四ヶ保三ヶ所分、東南院奉行邊ヨリ出サレ^ズフ、每度兩堂ヨリ修正之足タル由申處、今度開門ニヨテ修正ナキ間、下行アルベカラザル由、^{答カ}隨而爲ニ後訴^マ、其通ニテ待事^マ、御油ノ五升同□也、

一新仁王講半分五百文、大晦日ニ下行アルベ^キ音信アリト云ヘドモ、先年ノ記錄ニ任セテウケラレズ、仍徒ニ越年ナリ、

寛正五年^{甲申}

一 正月十日法花堂集會始、以後中門堂手水^{屋カ}□ニテ新仁王講催促アリ、集會アリ、

一同十四日辰定五十六文料ノ集會中手水屋□アリ、十八日以前下行ナクバ、十九日ヨリ^{逐電カ}遂□□ベキ由、堅書狀ニテ僧都經眞方ヘ書狀遣了、一味同心タル

ベキ神水記録アリ、

一十六日ニ修中蜂起初マリ、既御動座開門ナドノ時ハ別事也、此時バカリ要須門ヲバ^{開カ}カル、由サタアリ、

一十七日ニ年預信花坊へ新仁王講愁訴^{之由カ}□□、折□堅

申遣サレ畢、仍廿二日己□定ニ皆下ナリ、

一正月日^{廿五日}ニ檜原入堂ノ處ニ反□事ニヨリテ、興□□

ヨリ矢ヲキカケラル、サレ共成身院中人ニチ其儀^{落居カ}□□也、仍二月十四日、檜原ナラヘヨラル、トテ、ハヤ鐘ヲツキザツトウ是非ナシ、

河上地獄谷田ノカマチ、知足院、地藏堂造立瓦ノ土ニ取ベキ倭事度々アリト云へ共許可ナシ、寺へ

披露シテ三斗米闕ベキ由申ニヨリテトラス、

三月廿日、西室殿ニテ喧嘩アリ、丹後君^{侍法師}、宇松^{衆徒}□殺^{チ歟}

害シテ、法用庄勘解由方域マ^{落居カ}落ラ□、終日武者

出テ、日ト共ニ□□ス、其子細更ニウケトラス、存サル由噉文ニテ、軍勢引、

一卯月十三日戌刻ニ、春日大明神御歸元、兩寺開門

アリ、興福寺之儀ハムサ^{判カ}ト落居ス、先日御□

七通トシ^{ラン歟}下ツルニ、トナトヤ承諾ナカリケレ、

アサマシト云口ヲ閉アリ、

一同十五日夜ヨリ、大殿修正アリ、其間ハ矢^マ、吹度人ハ吹ケリ、

一十九日少綱ニテ寺ヨリ申送ラル、開方供□余ニ年年未下間、近付ナレマテ勤行□、其布施モ半分タルベシト也、仍廿一日二日、□番ダラニ供ノ一日ハカリ參勤セリ、

一同日奥坊真英法花千部供養サタアリ、

一延惠、花供之一獻、卯月廿八日西坊ニテ在^レ之、其

砌評定同入峯人自堂勤行ニヲイテ、向後參勤之□タルベシト云々、往古ヨリ□□儀タリト云リ、□

說ニ不參ノ事アリト云々ヨテ、事ニ一堅定ラレ了、

恒例千部大殿ニテアリ、平番ニ中間法師參勤之、

太以無ベカラズトテ、學寂^{東金方}、定覺^{新藥師堂衆}ヲ沙汰人中ニ評

定トシテ擯出アリ、相殘經衆御□ヲ抑留シテ、訴

經カ

訟アルベキ由アリト云ヘドモ、然ベカラザル由成
身院ヨリ□申付候、ヨテ沙汰人所存候テ□成了、

五月七日歟、

法花堂

一五月十四日、通夜衆ニ百姓凡下ノ子共、奈良田舎

□ヨラズ叶ベカラザル記録堅在_レ之、庫藏ニ納_レ之

了、

一同十七日、春日若宮神事、去年癸未訴ニヨ□闕如

分在_レ之、大雨ニヨテ所々方々大水出タリ、

一九月四日ヨリ春日社御八講アリ、織戸_{性寂大}東金堂里

衆分ニテ、一人季頭ソエヒキ五貫文ヅ、也、律師

得請アリ、本寺零□只欲ニノミフケラル、由、壁

ニ耳アレドモ申合テ、去シ七月廿五日ニ、方衆、

恩_{寂カ}舞房ヲ寂學房ト方衆殺害ス、トカクサタアレ共

叶ズ、只寂學下人住屋ヲ破テサケハテ畢、

九月十三日手搔會アリ、安樂坊少綱、五師順實、

田樂頭サタアリテ、擬講ニ上ラル、大□律師ニコ

ソアカルニ如何、_マ細男ツ、屋サハ、

一十月廿日午定、西金堂下松院圓覺盛賢拜堂アテ、

受戒會ヨリ引物六百八十□、誦經導師延春大、授

者西座傳法院部屋、

一同廿八日、東室殿隆實僧正御他界、五十九ニ御□、

越中國入善庄故僧正得□アテ_マ久ナルモ、此一兩年

御知行、今少シモ可_レ惜御命哉□、不知行ニテモ命

ハカギリアリ如何、

一興福寺維摩大會、同十一月十日ヨリアリ、講師東

北院之御弟子御房、延年アリ、頭人白□坂上也、

一十二月六日、普門院_{秀經僧正}御圓寂、能々ノ御老躰也、

一公方様御舍弟_{他服}淨土院殿ノ御弟子ニテ御□アリ

シヲ、御猶子ニアソバサレテ、新御所ト申□、「い

か、せん心の月のすめる世もわりなき雲の□□□

迷□め」如_{ナ歟}此アソバシテアリト風聞ス、實ノ御心

ナラバアリガタシ如何、猶子アレバ實子御出來ア

リ□云ナラハセル故ト云々、末ノ世ノ事サ_マ如何乎、

寛正六年乙酉

一正月七日夜、修正火之頭禪^法長房行實、悉以肩ヲツキ
タリ、

一修正後夜導師闕、請□人其闕日ヲ□セズシテ、六
日夜ヲサタ、辨律師堅□未□事也ト云々、寺ニハ
一薦法印ノ外代官ヲ用ズ、初夜導師堂ニハ代官ア
□如何哉、

二月十七日、當堂之寂觀房^マ、練行衆新入出事^マ、熟調
ニテ、手水屋ニテ兩座會合アリ、例時供不參^マ、合
事、相積テ四ケ年也、仍去年□月迫ヨリ他堂ヘ度
度申處、無^ミ承引^一候間、寛正六年正月ヨリ當堂分
參勤セズ、條々問答アリ、公方様御若君御出來ア
リ、七月上旬經師娘御□、公方御下向九月廿一日ニ
アルルベシトテ、筒井、池口□□、此末文明五ノ
所ニ又クハシクアリ、定ヨリ□之堂^マサタ書□□、
室町殿御下向九月廿一日アルベシト、
普光院ノ例ヲ每事ニ用ラルト云リ、仍廿一^日□先例

タル處ニ、惡日ニヨテ十六日ニ御下向アルベシ□
仰出サルト□^{云カ}へ共、若宮ノ神事成ガタキニヨテ、
廿一^日□タルベキ由、興福寺注進ニヨテ也、

法花堂西方白壁、後戸マデ合六間並正面橋一支朽
ルニヨテ取替ラレ、後戸脊ナ□二重ニナサルベキ
由、度々惣寺ノ評定トテ、當□大東隆衆徒分隆果申
サル、返事云、アカ棚北□手水屋ハ堂ヨリノ修理
也、則先年異論^{掃磨}、原□五石米ニヨル事也、余ハ油倉
サタアルベキ□狀^{契カ}ヘ分明ル通申ニヨテ、油倉ヘ堅
申サルトイヘ共、假坊□ラバ上表ス共、法花堂修理
事難儀ト云々、只今事□無力堂トシテサタアテ、
以後事油倉ヘ申サタ□ベキ分、惣寺節中ニヨテ滿
堂ヨリサタス、仍正□橋木一支、後戸脊木板一枚、
油倉八幡山ニ引□フク内ヲ出サル^{レカ}畢、シカレ共、脊
木ニハ成ガタキ故、新造屋古材木内ヲ佗^テ取替了、
九月六日後戸山西ノ掃除、十日同、十一日^瓶□花□
□、當行衆内陣サウヂ、惣ヨリ百文出了、十二日

同惣サ□□、公方様着帶ノ御儀ヨリテ、八幡宮御社參事如何之風聞アリ、□過シ八月十五日、男山□上啓御サタアリシニ、雨風事外也、御ケガラハシキ□ニテ也ト云々、シカル間當寺神主傳□□古シカラザル子細紙面ニノセテ披露アリ云、□宇佐社、譽田社、平岡宮ナドニ苦シカラス由申ス、男山ニカギリテ忌申事御不審也ト、傳奏御納經、寺務ヘカクトサタアリ、

馬場御棧敷用トテ、所々方々竹ヲキル也、

堂方ダラニ供衆當寺御參社御順禮、兩日出仕アル□キ分、年預ヨリ申送ニヨテ、先々ノ如ニ日別百文科□メルベキ由、兼日ニ寺住田舎マデフレ畢、日中ハナシ□、祭禮時ニハ相替ル也、御順禮日マデ執金剛神ノ開帳ノ御爲ニ、堂司精進別火ノ故也、九月十三夜□打程ニ、光物天ヲ飛、腰障子ノ□□ニ連子アリ、ウツル事タトヘバ大ル續松ヲ□□リ上ル影ノ如シ、仍起出テ外面ヲミルニ、天晴□

月明々タリ、不審ノアマリ椽ノハシニ暫クヤスラフ處ニ、鳴神ノ落ル様ナル音シテ、踵ヲ動スノミナラズ、住坊ユラメク事大地震ノ如シ、光物モ鳴動スルモ、南ヨリ東北ニ廻ルト云リ、何事哉、公方様御下向、當國貴賤失墜ヲ歎ク事、聞モ悲ク見モアサ□シ、殊興福寺□儀之カ、學侶六方衆中ノ沙汰トシテ律儀ニ似ル事ナリ、怨賊ノ振舞ニモ□クレ過テ、謀□甚深也、元興寺ノ石壇ヲ取テ□金堂福寺ノ講ノ橋ニワタサル如何ル事ゾヤ、所詮大宗□□時杜丹芳カサ方ニヤ、一度モ幸セズ、百司ソナヘテ□□ノ氏ヤスカラズト云々、事カケザル人煩ヲ僧ヲ□□□ラル、アサマシク、仍春日大明神、鹿鳴□□歸モアルニヤ、今ノ代ニテ如此筆□恐アレ共、露ノ身ノ消ナン後、御理ヲノコサバラメヤ、法花堂正面ニウラナシ一足、公方様御用アタラ□□金剛ザウリ五六足ヲク、寺務大勸進上人ナ□□御共人用也、カウシノケハナシヨリ、ソト禮堂

ニ置之、公方様御下向之時、執金剛神御前ニ立砂ヲ寺ヨリ置カ□□セラル、然ルニ今度此方催促ノ間、返事處ニ、尙以被_レ申_レ之□先ヲ□、懺法所障子コシハルベキ分トテ、百文寺ヨリ出サ□、只時ハ料絹チ歟ノ納所ヨリハラル、也、御下向時ハ如_レ此ニ□、八幡宮ニテノ百座仁王講、九月十七日辰定ニア□、一貫卅文年領五師所ヨリ切符ヲ出シテ、スナ□□□ウケトル時、位坊ニテ懺法堂注化堂請取ヲ認テ□□法ヲ□取ニ遣ス、仁王講以後、支配七十上八人□□□法花堂方十一口、中門堂方二口、五師申サル、ニヨテ、當堂ヨリ請取了、懺法所障子、時ノ一蔭中門堂ニアルニヨテ、九ベ五十ワタス、八ベ五十ニテ不_マシヲ、惣ヨリ出シテ、東ノハシヨリ二間ト、障子一枚ヲ半分トハル也、廿一日、七貝ノ少シ前程ニ、公方様御下向アリ、寺モ堂モ裳頭ニテ、手搔門ニ立テ見ル也、心落也、北ノハシニ出仕ス、法花堂分ノ中門堂ノ人、覺禪

房只一人也、其モ此方ノニ交テ立タリ、公方様四方輿、御方者カキ奉ル、殿上人其御次跡カ二十騎バカリ御打アリ、關白二條殿、傳奏日野殿、外三條殿烏丸殿アマタ四方輿ニメシテ御入アリ、其ニ□騎馬一人二人裝束ニテアリ、其面々ハ乘馬ニテ下ス、其跡細川下野入道殿始テ、近衆人タチアマタアリ、下野殿下馬ノ間、皆々下馬也、山名殿、武衛ナドノ騎馬、皆々下馬、其後引サガリテ細河殿大人衆ニテ御共也、其騎馬ハ先陣ヲ下タルヲ、見ラレヌニヨテヤ下ラレズ、

唐禪院之堂ノ門前サウデヲスベキ由、年預ヨリ申サル、間、入口ノ事也、セス共ナレ共、再三承ニ□テサスル也、門中ヨリ東分ヲ法花堂ヨリサセラ、ナリ、スコシ遠レ共、門ノ中ヨリ東ヲスル、公方様春日社御參アリ、廿二日日程也、其體見事也、一乘院方裳頭ハ東ノ御門ヲ上座□シテ、西ノツラニ立ル、湯屋ノ門ノ南邊マデヒシトアリテ、

南ノ^{ハ歟}ニ中綱アリ、大乘院方ノ鬘頭、例年神事ノ如
ニタ、レタリ、門跡モ御出アリ、八幡宮御參社ナ
シ、着帶ノ御儀ニヨリテ也、難掌池田、深夜ニ及
マデ傳奏ニ召候シテ伺申ス、不^レ可^レ然分返事出了、
是又寺門零落之基、日々夜々ニ出來、何事故哉、
廿一日夜、道ノ延年アリ、廿二日春日社御參御還
御以後、一乘院へ御成、檜皮屋ニテ御申也、晚ニ
及テ大乘院へ御成、廿三日松林院へ御成、其後寺
務西室殿へ御成、

廿五日四座猿樂間、此内一番ヅ、壇
峰樣ナスル也廿六日法花寺殿

へ御成、其後尊勝院へ御成ア□、廿七日若宮神事
御拜、廿八日後日御見物ア□、廿三日ノ夜自、聖德太子所也延

年アリ、普光院ノ時□、興福寺佛地院へ御申也、

當寺ニテ他□、戒壇院御受戒之、次ニ長老坊へ御

□、今度此二ヶ所ナシ、イヅレモ零落故也、

一御臺樣御着帶ニヨリテ御下向ナシ、三分一人數ノ
スクナキ由來也、御輿モ五十丁ハアルベキ物ヲト

云々、

一八幡宮へハ御代官ニ三條殿、廿二日ノ八程ニ御參
也、御奉幣アリト云々、其日神馬モマイル、御神
樂錢三千疋事、切符未^レ出也、

一寺ニハ學性供ニ鬘頭ヲカケラル、一日別一貫文料
也、堂ニハガラニ供ニカケテ、日別百文ナリ

一廿二日ニ日野殿へ當寺難掌池田メサレテ、今度東
大寺方進物具色、足カ
幣カ雜□ノ外ハ御寄進アルベキ由被^ニ

仰出ニ云々、法花寺殿ヨリ進物モ東大寺へ御寄附
分云々、推量スル□、普光院御代、西院執沙汰ノ

儀ニヨテ也、今度毎事其例也ト云々、

一法花堂へハ三昧堂ノ前へ興明社前ヨリ御通アケ、

當堂坤角石橋ヲ御渡アテ、正面ヨリ内陣御參アテ、

西方御通アテ、執金剛神ノ御前ニ着御アテ、是ハ

何□御座ゾト仰アリ、寺務西室殿公惠御返□、執

金剛神ニテ御座アリト御答、其後日□、是ニハ勅

封ハ付ズ、御代ニ一度ノ外ハ御開帳ナシ、法花堂

執金剛神ト申ハ此御事也ト御申アリ、兼殊勝異他
ニ□召シメシケルニヤ、日野殿左ノ御手書ニツキ
テ□入アリ、公方ニハ心經一二卷カ酉程御座アリ、安
樂坊順實公方様自然御尋ノ事モヤランズルニ、
延惠罷出テ蹲踞シテアルベキ由異見ニヨテ、執金
剛神ノ東ノ方白壁三分二程ニ首ヲ地付テ袒候セ
リ、參向ノ褰頭ヨリ歸タルマ、ナレバ、重衣ニ白
五帖ナリ、公方様執金剛神ノ御前ヲ御立アテ、御
尋ノ時、日野殿後ヘト御申時、御座外東ノ脇下疊
ヲ御通アテ出御也、御座ノ疊事寺ヨリサ、ルベキ
ヲ□サ、ズシテ、八幡宮神人ノ一薦役ニテ、社頭
ノ用サシタルヲ借用シテ、持來テイツモノ上ニ重
テ敷也、ソレヲ又戒壇院ニテ御受戒ノ用ニ長老御
借用ノ間、侍者僧三人法花堂内陣ニ相待テ御立ア
テ、後上テ持セテ南正面ハ出テ歸レ畢、往古ハ定
テ其用ニサシテ、其マ、立レヌラント存者也、堂
司精進事、前七日心精進、其内三日別火ノ由申傳

タリ、鈍色ニ表甲シ□□ニテ、今度長弘大サタア
リ、只重衣ニ同五□タルベキ乎内々評定アリシ
ニ、寺ニ日記アル由申サル、ニヨテ如此也、

一眞言院東ノ四足門ノ前ニ參向、門ヨリ南ノ築地ヲ
半分アマリヨリ、南未ヲナシ兩堂ヒトツニ二反バ
カリニ立ツ也、法花堂方出仕廿人、其内袈裟衣ノ
可レ然ヲ南ノ端ヘ擇出シテ立セ申也、サル處ニ年
預ヨリ兩堂各別ニ法花堂北ノハシタル由、少々四
人アリト、少綱尊幸ヲ以テ被ニ申送、延惠返事ニ、
先例ハ只今□如シ、但舊記アラバ兎モ角モヤスカ
ルベキ由申處ニ、重テ音信ナキニヨテ、此方ノ出
仕ノマ、也、南ハ西ヘノ道ヨリナヲ南ノツキヂヘ
カ、ル事弓長二斗也、執金剛神開帳ノ爲ニ寺方ノ
一二人歸ルヲ見テ、當堂進夜分千手院口ヨリスグ
ニ法花堂ヘ歸畢、
一堂内料理ノ事、南ノ正面カウシヨリソト一尺バカ
リ置テ、ウラナシ一足内陣ヘメサ□様ニ置レ之、

金剛ザウリ五六足東ノ脇ソト口重テ置レ之、南カウシシ
シキキ兼テヨリハヅシテミテ、正面一間ノカウシ
ヲ以テ、禮堂巽角ニ置也、サテ腰懸ヲ尋常時ヨリ
二寸バカリ北ヘ引出テ置、

一正面ト後戸トニ張ヲカケテカザル、正面ノ脇机ニ
獅子ノ香爐合テ置也、海邊ト地藏菩薩トノ間ニ大
般若櫃六合ヲ置也、正面後戸ヲフソク一連カ口ヅ、置
ル也、御ヅシノ薇手ノツボニ幡一流ヅ、カクル也、
相應ノ物體、新禪院ニテ借用之、只每事殊勝ナル
様ニ本走、今度ニ過ベカラズ、

一三倉寶物共拜見ノ爲ニ、堂内取ヲサメテ出仕ス、
假屋ニ勅使御座アリ、三綱倉口口アリ色掌ノ公人
アマタアリ、雲頭ハ假口ハシヨリ倉方ニイタルマ
デ南北ニ立タリ、兩堂モ入マゼニ二人ヅ、モア
シココ、ニ立タリ、但法花堂通夜分ハ北ノ方ノ中
程ヨリ西ヘ立タリ、

一向後ハ堂司ト番衆一人トハ參向ノ出仕口略シテ、

堂中取コシラヘテ可ニ相待ニ事也、今度兼用意アレ
共、拜見ノ貴賤盡カ口未口ノ寺僧、内陣ヲ公方様ヨリ
以前ニ伺ヘルヲ制戒難治也、所詮後戸ヲハ口ソト
ノ大戸ヲ立テ開帳シテ、カウシ以下口ハヅシ口チ
テ、正面ノキダハシナド御アガリ安術カ住坊時分口
開ベキ也、正面ノカウシ西ノ出口 戸後西ノ脇戸
ハヅシノキテ、雜人ヲ入ザル様ニスベキ也、今度
人アマタ入タルヲ追出スニ、儀儀カガマシクテ無念
也、兼ヨリモ能々人ヲ入ズシテ用意スベカリケル
也、寺務中門ニ參向アテ、先達ナリ、少綱二法眼ノ口
口リヤ人六人前口アリテ出仕、其躰キラビヤカ也、尊勝
院ヨリ執金剛神ノ御戸ニ付ベキ勅封也トテ、口者
口德ニテ廿五口日夕部送ラル、此事不可ニ審一也、
日野殿公方御共ニテ付ザル由御申 分明也、口之
様偏以良家判也、勅使ナドノ封ニアラズ、推量ス
ルニ尊勝院ハ、別當口ラルトイヘ共、堂家ニハ
文永ニ決性寺殿、尊勝院ノ家門ニテ口ケル、

殿下ノ祈願所タルベキ由、堂家申タルヨリ、マテ
ナヒ也、伽藍ノ中門堂等ニハ替テ寺ノナリ、堂家
□□殿東ノ脇士ヲ行ヘル入人ナリ、□篇ニモ餘所
ノ様ニ別當タルベカラズ、サ様ノ意趣アルニヨテ、
勅封ト號シテ別堂中等□封ヲ付ラレケルニヤ、殿
下ノ御祈願所□永ニ仰ケル、越前國ニ關務ヲ取テ^マ
時其爲也、□七日ニハ春日若宮神事アリ、此邊人
少々鬘頭ニテ出仕スル人アリ、見物ニモ殊ル儀□
シ、□篇乎、無益ノ事也、

執金剛神御張ヲアケテ、兩方幸ニ大口入、先達^{十三}
延惠所持ノ貝緒ニテムスビアゲタ□、當山方
山臥先達中ニ、一ノ貝緒ナレバ、可^レ然物躰□ニテ^{□福寺}
上タテマツル也、後代ニ又宜相計事也、□ハ八白^{見物枝葉事}
ニハ後日アリ、西方ナル假屋ニハ諸山ヨリ□一
タル鬘頭アリ、其外此方ニテ非衣非學ナドノ□
□□、此邊法花堂ヨリ六七人出テ見物アリ、□ル
長^長延^延道ノ衆自延年衆ト打マゼニ、アサ□トシタ

ル延年□□院ニテアリ、是ハ廿六日アルベキ處ニ、
雨フルニヨテ今夜アリト云々、御下向アルベキ廿
日夜雨□テ、朝ヨリヤミ□□氣ヨシ、廿六法花寺
ヨリ尊勝院へ御□□□□□、廿八日ニモ□□タレ
共、日出入テ天氣吉、廿六日法花寺へ御成ニハ、
被觀音ノ御帳□□アリタリト云々、參ルベカリケ
ル物ヲ無念也、

執金剛神開帳時タラシアリ、向後モ此方□人其□
ヲ得テ防護スベキ事也、

當寺へ御順禮時ハ、南大門中ノ間ヨリ□通也、公
方様ノ外ハ乗物ナル人ナシ、手輿□□バ跡ニカキ
タル二三丁アリ、公方様ヨリ□□ハコシ前程ニ三寶
院手輿ニテ御入アリ、□レハ東□芝中へ通テ、池
ノ東へ御通アリ、

二月堂御詣ノ用意ニ堂方練行衆分、兼日ニ末ヅ、
萬一兩人堂司ヨリ案内アテ以^マ、出了、同又廿七日
ニ取置由申テ音信處、見物ニ出タル人アリ、相殘

タル老僧ハ未ノ役トテ出ズ、御輿ノ役ニ上グル人ナド悉取置了、

廿四日御詣之時、爲ニ供花ニ罷出ニ之由被申之間、法花堂衆事者、執金剛神開帳ニ指合候間、□□□テ出テズ、

一東大寺方進物御寄附、大佛殿灯油方へ百貫□、戒壇院長老坊建立ノ爲ニ三百貫文、灯方ハ日野殿、戒方ハ飯尾大和方内□計略也、其餘ハ寺へ寄進也、二百貫文寺ヨリ進上、百貫文尊勝院、百貫文寺□法花寺殿、東南院、普門院、東室殿、後此百貫□□□□、其外盆、香合、太刀以下百貫文ニアマルベシ、

一公方様順禮メサレテ参向、雲頭躰御覽□ラレテ零落至極ト□タリ、兎ノ一人モナシト仰ラルト云々、尤ノ御事也、

一八幡宮へハツキニ御参ナシ、三條殿御代官ニ御参也、神馬一疋□□□參錢三千疋京ニテ正實房申所

ヨリ請取ベシト御切符出タリト云々、此外御太刀モマイル乎、

御順禮時、南大門ニイタリテ御指笠ヲ御ノケサセアリケリ、

廿五日ノ朝、内々ノ儀ニテ東北院へ御成アリ、不精進ヲ御マイリノ用ト云々、世ノ聞エ然サ□ア□□ル事也、其時公方様御發向アリ、「はふ薦や松に紅葉□松に」老カすか山門主脇匂沙汰アルベキ由仰出サル、分ニ、日野殿門主、連歌サタナキ由御申アリテ、日野殿脇ヲ御沙汰アリ、「秋ヲさかりの鹿のこゑく」トアソバスト云々、良家ノ御身トシテ聊モナトヤ御サタナカリケレ、

一東大寺御順禮、道スガラノ事、南院ヲ東□アカリ南アテ、南大門ノ中ノ間ヨリ御入アテ、大殿へ御参、其後東ノコンラウへ御出ア□、淨土堂ニテ舍利御拜見アテ、興明□前ヨリ池ノ堤ヲ北へ、三□堂ノ味カ前ヨリ法花堂廻廊乾ノカドヲ正面ノキサ橋へ御通

アテ、正面ノ一間ハヅシタルカウシノ間ニ、内陣西ノ方ヲ御通アテ、執金剛神御前□□リ心經二間^{卷カ}バカリ間御着座アテ、後戸□御出アテ、二月堂南ノ石壇ヲ御上アテ、同又南ノ壇ヲ御クダリアテ、アカキノ屋ノ前ヨリ上坊前ヲモトノ如、鐘鏤マデ御下向アテ、鐘ヲ御ツカセアテ、又石壇ヲ御クダリ、大殿ノ廻廊東ノ方ミゾヨリソト北ヘメグリ西ヘヲリテ、中門堂ノ前ヨリ戒□東ノ門ヲ入テ、□御出アテ、劔塚ノロヲ御通アテ、西室殿寺務坊ヘ御成アリ、御□□中ノ門ヘ御出アリ、

一執金剛神開帳、堂司精進料一貫文事、無音ニ候間、

十月二日ニ年預ヘサイソクス、

^{カウシ}

一執金剛神御帳之中ニ又行子アリ、ハヅス事ナシ、是分明ナル事也、然ラ今度師僧都^{法印}經真先ハハヅ

サレタル由、内々物語アリト云々、大ナルヒガヲボヘナルベシ、キト出ベキ様ナシ、其上普光院御ハヅシタキ事ナル由、内外ニサタアリタル事也、

一御張ヲバ内ヘマキテ上ル也、イカニモカタクチイサク間テ、御面像拜タテマツル様ニアルベキ事也、^{卷カ}一公方様鐘御覽候時推事、細川淡路殿四力アル人也云々、鳴事四五也、ツク事三度、凡人モ四五ハツクニナレズシテ、鐘ニツヨク御アタリ見トカ、一廿八日、後日ノ猿樂見物ニ、當寺ヨリモ少々出テ、西方ノカリ屋ニテ見物、其内ニ學侶分寂勝房□□仕丁ヨビテ、アタリヲ拂ベキ由申ス處ニ、立モアカラ□、中門ヨリ下知之外仕フ人ナシ、推參ナル由返事ア□云々、口惜ク出仕サヘ無益之事ナル物哉、

一廿四日、西室殿ヘ御成アテ、還御之時、色裝□公人ニ六人御サキヲ拂テ、雲の坂ニ到ル□、蹲踞シテ可^三罷歸ニ候趣ノ處、猶參ベキ由御□ノ人申サルルニヨテ、西ノ御門マデ參シテ歸ル、□月ニイタリテ供目代ヨリ彼六人ヨビ付テ、□□可^レ然候由申サル、間、上件ノ様ヲ返事ス、甚後□就内外安樂坊

ヨリ被ニ申遣了、

執金剛神開帳料事、鹿園院殿御代ヨリ今度マデ條條ノ日記數帖アレ共、出シタル事ナシ、剩へ上分事訴訟アレ共、出サズト弘豪大貳法印書レタルアリト、十月三日ニ年預五師隆^{果カ}申サル、也、仍同六日ニ此方ノ先記共事書ノ様ニ認テ出ス、其條^{案カ}□□代ノ□□ニ相副テ置也、尙以承引アルベカラザル由、滿寺集會評□アリト返事也、

同十五日、□□師所へ出ス、先記寫テ寺務出世後見へ出シテ、受戒會出仕難儀ヨシ、先記ニノベテ出シ畢、受戒會事叶ベカラザル由申遣了、十八日ニ此方日記ノ兩帖、春道大ト賢良大ト所持シテ、年預五師所へ罷出了、其外少々寺邊ノ可然方へ見セ申ス也、

普光院御下向、此通法花堂
白壁ニ長專圓貫被ニ□分一地、

永享元酉九月廿二日御下口、廿四日ニ御詣開張^{意延之事也}アリ、西室衆大進アサリ寺へ披露アテ、一貫文、^{淨願坊}

十月十一日ニ堂司へメサレ畢、コ、マテ^{カヘニア}

廿三日兩社參、廿四日御順禮、廿五日六日御成共、廿七日神事、廿八日後日、廿九日ニ御上アリ、一十八日夕、安樂坊へ春道大、堅良大、禪長□案内者ニテ來ルベキ由申サル、ニヨテ、出口彼執金剛神上分錢事、寺ノ記ニナシ出サズトアリ、堂方先記ニハ取タリトアリ、受戒會出仕難儀由訴訟、如今ハ寺ノ反古ニ成ベシ、其ハ餘ニカリタル歟、潤色シテ□□ラレ、追テ御張ナドカエラルベキ奉加分、准ヘテ寺門へ申サレハ、^マ渥分異見アルベシ□テ、鄭重ノ一獻ヲ取成テ、侘事之□十八夜例時ノ砌へ立歸テ委細披露□、明ル十九日朝其儀ニ隨申由、惣ヨリ返事申畢、一獻ニフケルニ似レ共、^ガ□□ナラス侘事事ナレバ、隨ニ其儀ニル計也、

一明徳二^{辛未}九月十五日、北山殿御下向、十六日雨、十

七日若宮祭禮、十八日後日御見物、十九日兩御順禮、執金剛神御開帳アリ、廿日ニ還御、

一應永廿四丁十一月十四日夜、爲正藏主ニ寺務一尊勝院執金剛神開張アリト舊記アリ、

一今度御下向九月廿一日、仍廿四日兩寺御順禮アリ、執金剛神爲開張、春道大長弘堂司精進事、前七日ノ精進一日

ノ別火ト云々、不可然歟、二月五口練行衆ノ正月廿三日ノ様ニ始テ、御張口破ルベキ事歟、今度申間、六口ハ重口同坊ニアリ、毎事口サタアリテ、上分口口重疊シテ煩ケルジャ、

一應永廿四、八月廿九日、マ少河殿ノ御爲執金剛神御開張ノ上分錢事、色々訴陳、落居ハ大部庄納所如意輪院大進公尊勝院追從ニ一貫文出サレタリ、事間ス出ス上者、罪科ニ及、寺務方ヨリ經返スベキ寺ノ集會ニ、文見坊、淨願坊主重辨張木ニテ惡口以下アリ、寺務尊勝院爵忿是非ナケレ共、播磨得口俗縁以下ツヨシ、文見坊ハ高口良口公方ノ御醫師ノ子ヲ弟子ニセラレタリ、其マ、過ル處ニ、良學遠流セラル、其口文見坊モ立カヘルベキ由ナ

タアテ、田舎口餓死ニ及テ、寺僧冥伽ツキハテタリト口、淨願坊モソコハク後ナレ共、普光院ノ御口ウセテ、天河水カ峯ニテ腹ヲ切テ、寺僧冥伽盡タリ、オソロシ、コレハ今度出スベカ口サル先記候由ニ、當五師隆果カ晏物語アリ、口方ノ記ニハナシ、

追云文明六甲午十二月十三日

下シアリ 甲午

寛正七年丙戌

一尊勝院新大搬若供料、西室樵野口口東室高瀬老僧得分、學生供皆以來口、ヨテ去年二月堂ニテ神水アリ、子細ハ口口下行ナクバ、修正以下抑留シテ、戌三月ヨ口口門スベキ分ナル處ニ、未下ノ間修正ナシ、

一尊勝院兩堂ヘ供料、新仁王講未下ニヨテ、正月五日引手師法印經眞、八日ヨリ勤口共抑留シテ、十六日ヨリ可ニ閤門之通、年口マデ後遣了、サレ共

未下ノ間、十六日□集會ハジメ以後、申具定ニ兩堂閉門、

一同廿二日未刻バカリニ開門アリ、來二月□□以前ニ供料下行アテ、向後年内ニ必ズ下行アル□□分契約狀ヲ引手師法印經眞、般若坊專□大法師、中院願賢大法師三人ノ連判也、□□ニテ落居アリ、一上ハ今ノ分ニテ密々ノ儀ニテ、供料下行之、兩堂ニテ祈禱分ニ准テ貳百疋出サルベキ分、堅契約アテ、中院兩堂司ヘ折紙被レ出、

一潤二月、般若寺文殊師子鳴タリトサタアリ、又□□大口殿ニテ鶴越年ワロキ事也ト云々、八幡宮御棟瓦三枚ヲノレト落タリ、又云二月十七日、□□ヘツイ殿釜ノヌカニ四寸斗ル筭一本□□□、
一減^{調カ}二月廿八日、文正元ト改元在^レ之、

一三月廿九日、尊勝院西室殿、東室殿供料□ヨテ、滿寺閉門アリ、

一三月十七日、公方様伊勢御參宮アリ、山田ニテ事

外大雨風ナリト云々、

一卯月六日、大地震ナリ、龍神動也、

一卯月十三日、乙法殿出家、賢壽房剛永ト云々、執金剛神ニ永代ノ御加護ヲ仰ニヨテ如^レ此也、花事同十四日ニサタアリ、

一六月四日夜、四恩院ニテ願禪房ト云萩別所ノ□子コロシニシテ物ヲ取、學禪房ト云テ見塔院□息ナリ、事外ナル智音トシテ、其年納所ニア□千部經倉ノ鑑ナド預ケルニ、米以下兼々取□、アゲ句ニ如^レ此サタアリト云々、後交代衆ノ人可^レ得^二其意^一事也、

一六月廿七日、新仁王講去年分下行アリ、凡二月中契約延引アテ、新大般若ヲ皆下事ナド無念ノ處、契約ノ貳百疋慥ニ渡サル、間、時ニアタリテハ又^レ息シト云々、供衆律宗分八人ニ八百文、通夜方廣四人ニ五十文ヅ、支配也、當堂ノ儀如^レ此他堂事ハ不^レ知^レ之、

一鼓坂ノ唐禪院ノ畠壇ヨリソト北方、西ノハシハ四聖坊虎丸、其東ハ安樂坊十郎丸、兩堂ハ申請テ開ケリ、六年以後百文ヅ、地子サタスベシト契約也、加様ノ所年預五師延營寺ノ衆議トテ、寺地ノ由再三申サル、間、大道マデ手搔會、公方御下向ノ時掃除サタス是二又沙汰衆、鼓坂應永ノ頃堂ヘ乞請テ、名字ニ准テ住坊ヲ立ベキ所望アリシ事ナド返事シテ、只今切ミナラヌ事トテ、其分申捨テ置□、津坂方地子サタノ時ノ納帳上坊ニアリ、ソレ出スマデモイマダナシ、

マ、
中□□

一開門事、西室殿會料事、勸學院□密乘坊ト請乞テ落居ノ間、七月十四日ニ開門アリ、蜂起其夜アリ、
七月

一修正十六日夜ヨリアリ、夕涼ニ參ル人多、

一五月千部御經、七月廿日ヨリ八月一日マデアリ、
七月

一片原山中川ノ者盜ヲ山封スル時ニヨテ、見付テ鎌ヲトリタ、ク處ニ、廿一日ニ山子共山ニ立處ヲ、タ、キ返シ、以外ノ嗽々ニ及間、條々ノ寺訴アリ、

彼山ノサタ他寺マデヒヰキテ事條々也、

一五月千部經、法花堂方新入一人アリ、新入事佛餉一口ト番衆分ニ一口ト合二口時ノ番衆、現春房隆衆ニ配行シ畢、訪經ノ支配同レ之、往古ノ義ニカハリテサタ歟云々、但其故ナキニアラズ、向後以レ之可ニ行守ニ事也、

一八月上旬ヨリ京都武衛^シ河^シ殿^シヲノケテ、筑紫ヨリ義

俊是ハモトノ武衛ヲ□意トシテ、安堵ノ事仰定ラル、ト□、諸國ノ軍勢上ル事は非ナシ、只今ハ武衛□、山名殿聲ニテ御入アルニヨテ、山名殿□、

公方様トノ御煩ニ成タリ、終ニハ讒訴人トラ□、

伊勢殿、隨西堂、^{醫師}民部卿ニ義俊マデ九月六□朝、江州ヲサシテ沒落ナリ、是□今出川殿御謀反ノ由、

彼面々訴訟アテ、既御生涯□及ブ間、細川殿ヘ

御落アテ、申御ヒラキアリテ、諸大名多分引合テ、條々被ニ申入ニニヨテ也、事端多ナリ不^レ及ニ□□ニ

〱落書アリ、如何なれば字こそ多けれ政ノ字ノ二ニ切テ年號也□、是公方様ヲ義政ニテ御座アル

ヲヨメル□□、

一當國ノ物云以外ナリ、衛門助殿河内へ打入、嶽山ノ城ヲチタリ、十七日朝歟、遊佐長直當國引退シ畢、散々事也、

一京都急劇ニヨテ、洛中ノ馬借アルヒハ十分一ニテ

□トリ、或ハ本分ニテ雅意ノ德政也、仍南都ヲチ

□、廿□日ヨリ山城ノ者共、般若寺並中野へ取向

テ責ル事ヲビタバシキ也、廿五日ニハ大ヨセトテ、

南堂、二月堂防護分ニアリシヲモ催サレテ、法花

堂軍勢ニテ出、筒丸腹當ノ人衆十一人、楯□スハ

ダル人數マデ廿六人、上ヨリ三蕭マデ道脇ニ白袴

ニテ、毎事成敗ニ相制シ日中□□南ノ拜殿ニテサ

タス、全假貳ケ赤飯ニタ、ミ酒一ケ、是ハ一坂ノ進發ノ爲

ナル由、他寺ヨリ牒送ヨテ也、廿四日日暮テ、寺

ヨリ被ニ申送ニヨテ、方□以下悉催スニ及バズ、

無人數也、中門堂方ヨ□一人モ出ズ、二月堂ヘサ

ヘ連日ニ出ズ、下部ノ一人仕フ程ナル者ナケレバ

不_レ出モ勿論也、零落アサマシ、西金堂楯六七條

ニ上下廿人アマリニテ、此方□陣ノ後ニアリ、腹

當キタル物只一人、彼堂當□眞俗ノ零落内外ニ存

知ノ事ナガラ、□□打過テ他寺へ出ルニ、是程

マデ心モナキアサ□□、實以下輩ノ物哉ト存ル計

也、一向物□ノ者體也、

一當國アナタコナタ勢出テ、布施郷ハシ_レヲ燒打

制、馬借マデヲ迫ル事、九月廿二日ヨリ今日十月マ

デ北口西ノ方ヤム事ナシ、

十月五日戌刻、東室殿御出家、御實名、御戒師

上坊春道大、兼日ヨリ召ル、間、如何之由延惠ニ

談合ノ間、當受戒會ニ出仕セズ云々、シカラバ當

年□カリ延惠出スシテ、出仕セハ沙彌戒和上タルヘシ春道大出ラ

ルベキ由申定了、頗ル潤□ノ儀也、純色ニ青甲ニ

テ、作法トサタシテ、世俗□安樂坊ノ局ニテ受用

スト云々、明ル朝御俗□直□ト送リ□ルト云々、

一土一揆防護ニ、般若寺大手番、十一月三□ヨリ晝

夜十ケ日分、東大寺ノ寺僧サタアリ、是ハ興福寺

六方ヨリ牒送アテ申サル、ニヨテ也、然間晝ノ番

八日ノ日法花堂ヨリサタ、人數合四十八人、筒九
腹當ノ衆廿人、其内皆具ナル衆五六人アリ、殊今日
他寺方衆籌ノ木切ラルベキ爲ニ、十二三人般若寺
ヘアガリテ奈良坂ヘ出ラル、防護ニ此方衆タテ
十帖ニテ坂額マデ出了、眉目共也、

一同十二日、又法花堂ヨリサタ人廿八人、筒九ハラ
アテ十二人、再三辭退スト云ヘドモ、寺ヨリ堅申
サル、ニヨテナリ、

一中門堂五日ニスル、合十人、腹當ナル二人、同十
一日ニ我執テサタ、合廿七人、具足衆九人、

一布施モ高田モ十月十六ニ落畢、

一筒井ト小泉ト和談アリテ、國中無爲也、

一大湯屋ノ釜ノツイハリノ釜損シテ、十二月十七日

ノ湯アリ、油倉風呂アリ、午時マデ寺、未時マデ

兩堂、申時分マデ後湯ナリ、堂ヨリ依ニ申送、九口

鐘ヲ十四日ノ湯ヨリツク也、

一十二月十一日ニ、新仁王講事ニ中門堂ニテ兩堂老

若ノ神水アリ、大佛殿ノ修正抑留、正月十六日ヨリ
兩堂閤門、十八日午具ヨリ集會アテ、逐電アルベ
シトノ結束也、

文正貳丁亥

一新仁王講事ト正月十六日閤門、同十八日ニ離寺、

同廿二日夜色々請狀出テ、二月堂參籠アリ、

一木津邊馬借、興福寺東方御□□□□又廿廿三日

燒了、當年三月廿七日夜、般若寺ノ文殊院ユカレヤノ

坊燒了之、同卯月朱雀院ノ寺塔燒了之、

一大頭殿御前机、ミノ、國施主アリテ、□□奉リ畢、

一新仁王講供料廿二貫文、兩度ニ且請取ノ相殘事切

切申之、五月八日ヨリ大殿ノ御經以下支テ様々ノ

事共也、天下又物忿ナレバ、物事シンシャクナリ、

京都大變條々ノ事

一去ル正月十八日ニ、畠山彌二郎殿屋形ニ火ヲカケ

テ、上御靈ニトヂコモラル、ヲ、翌日衛門佐殿責

ラル、夜ニ入テツサル、兩方ニ人ノ死ル事は

非ナシ、衛門佐殿ノ方ニハナヲ多ク死スルト云リ、是ハ山名入道殿雅意ニ振舞テ、公方様ヲバ思サマニ申ナシテ、兩方イヅレノ大名モ合力アルベカラズト仰出サルベシト定ラル、ニヨテ、數日堪忍アリシカ共、彌二郎殿十八日ニ御落アリ、城ハヲチタレ共、軍ハ彌二郎殿勝也ト云リ、

一五月初比ヨリ、正月ノ軍ノ無念ニヨテ、彌二郎殿ヲ引最ノ細川殿、色々ノ御アツカヒアリト風聞以外也、然ル處ニ赤松二郎法師殿、京極殿フチシテ御ヲキアリ、仍衛門佐殿、武衛、山名殿、一色殿御所へ押入テ、正月ノ如ク可_レ申ニ沙汰趣アル處ニ、近衆ノ人々サシフサギテ入申サズ、一色殿屋形ニマトマリテ、二郎法師殿、京極殿扶持事不_レ可_レ然之由、度々ノ使者アリト云々、其日ハ一色殿ニ皆皆クラシテ、各ノ屋形へ歸ラルトナリ、

一五月廿六日夜、一色殿屋形ニ火ヲカケテ御ヲチアリ、火ヲバ打ケシテヤケズ、大和衆アタリニアアル

ニヨテ、箭ヲキカケ申テ、スデ□軍ハジマル、一條モドリバシニテ太刀打アリテ、讃州、京極殿、二郎法師殿、武田殿侍分五六十人モドリ橋ニテ打レ畢、其後毎日軍、中々是非ナシ、軍ヲスルニワロシトテ、焼拂物ヲトラントテ焼拂、京都ハ半分ニ過テ焼タリト云々、細川殿、山名殿兩方火箭ヲ夜ル／＼キル、大ナル星ノ飛ガ如シ、時ノ聲一方分一時バカリアリテ、又一方一時バカリアリト云々、昔モ軍ハシゲ、レ共、京都ニテカ、ル軍ナシト云リ、事アマリニ多ケレバ注ニ處ナシ、

一六月廿五日、六日、武衛ノ屋形ヲセム、細川殿軍勢、同京極殿、タケ田殿、二郎法師ドノナリ、中ニモ二郎法師ノ手、眞島、ウラカへ始トシテ、數十人ウタレテ、城ハヲチズ、

一京都ノ焼失、中々是非ナシ、中ニモ飛鳥井殿、西蘭寺殿、久我殿是等ハ軍勢陣ニナルモ口惜シトテ、自燒ニメサル、

一京ヨリ方々へ落ル尼女ナドヲバ、道ニテ惡黨物ヲ

トル事、中々是非ナシ、

上下カ人

一七月十一日ニ、遊佐新サエ門、奉行房同道シテ奈

良へ下ル、布施ナド同心ニ河内若井城ス、同十三

日ニ入畢、越智衆一二百人城ニアリトイへ共、ハ

ツシタリト云々、

一同十三日ニ大内殿上洛、既播州室津マデ着岸ト云

リ、大船七百艘、人數廿五六萬人ニ當ル、遠量ナ

キ謀計セル人々如何成行ベカラン、

一同廿三日ニ兵庫へ入レ畢、大軍ノ間中々防ニ及ズ、

同廿五日六日武衛ヲセムルト云々、其興ナラズ只

徒事也ト云々、

行聴房新入當行事

七月

一廿八日ヨリハジム、是ハ去ル夏、馬借事ニヨテ、

平野ノ通路叶ハザルニヨテ、三ヶ年ニ交衆及ブト

云共、延引ニヨテ也、新入秋當行事進所ナシ、但

往古多分ハ年籠ニ新入アリ、沙汰ニ及ベカラザル

事歟、尤柄迎事、

初日上坊、二日又圓光ニ、三日入マ、是ヨリ一日ヅ

ツ沙汰候セ申處、既用意ノ由返事ニヨテセズ、

一ツレ事、八月三日已定アリ、飯サイ六追セン、タ

ダシサイ三、合計二、菓九、追座カニサウメン、フ、

スイトン、菓子、麻口桃アリ、

一八月七日ニ大内殿尼崎ヲ悉焼ハラハレ畢、是地下

老ル物ハ随フ處ニ、若衆敵對申テ如レ此ナリ、一宇

モ殘ラズ焼レテ、女童部落トモナク打殺レ畢、

アサマシク、

一攝津國面々、池田、板見、アク田河、皆々ウラカヘ

ルト云リ、剩へ秋場モウラヘルト云々、二郎法師

殿ノ勢甲千バカリ、棕橋ニ陣取テ相サ、へ、自他

ノ間ニ一二百人打レタリト云リ、然ニ面々ウラガ

ヘルニヨテ、殘ル勢アリマ山ヲサシテチリクニ

成ト云々、

一廿二日ニ京極殿、武田殿自焼シテ、細川殿ト一所

ニナラル、京極殿相國寺ヲ陣ニ取ラルト云リ、
一近衛殿、鷹司殿、細川方勢引ツ出ツノ代ニナルト
テ、朝倉焼拂畢、是ゾ野馬臺ニ星流鳥野外テト云
ルニアヘル者哉、

一大内殿廿三日ニ東寺邊マデ上落ト云々、此後ハ京、
奈良通路トマリテ、毎事不聞ス、

一廿二日ニ公方今出河殿、細川殿へ入申サルト云々、
雜説アリ、如何アルゾヤ、

一八月廿九日歟、山名殿方諸大名皆々陣カハリ、三

寶院殿ナド燒了、
當寺

一八幡宮三社之内、本社棟瓦三枚ヲチタリ、去年丙戌正月、如

レ此アリテ、去年秋武衛事以下アサマシク、其後

同十一月廿日、北御殿ノ棟瓦三枚ヲチテ、御殿鳴
動スル事は非ナシ、此所ニヨテ只今天下珍事也、

一次郎法師殿、津國ニテ打モラサレニ津國衆加テ、

甲三千餘ニテ山崎ニ陣ヲ取テ、夜々籌ヲタケリ、

九月十日比事也、其後東山ノ岩倉へ夜中ニ入テ陣

ヲトル、伯耆守侍衆カ口武衛ノ朝倉以下、追上テ谷へ
馳ヲトサレテ、死ル事俱利加雜谷ノ昔ニモヲトラ
ズト云々、仍迫手中山邊へ引退了、南禪寺ニテ山
名方タツチウ共、二郎法師方ヨリ燒レ之了、又細川
方タツチウ共、朝倉以下燒了、兩方ヨリ燒ニヨテ
佛殿以下一字モ殘ラズ黑燒了、

一十月二日ニ中山ニ陣ヲトル、朝倉以下略中へ引退
了、則岩藏ヨリ二郎法師殿軍勢共、法勝寺五大堂
邊マデヲリサガリ畢、其後細川殿陣へ一々成了、
是ハ畠山衛門佐殿東山ニ敵ヲ置テ、二方ヲ支ル事
難儀ナリ、只細川殿ト一所ニナル様ニトノ案ニヨ
リテ、中山ノキテ一所へ入ラル、ト云リ、

一十月三日朝、夜ノ中ヨリ相國寺燒畢、是ハ山名口
僧共内ニアルアナタコナタニ火ヲサシタリト云々、
俗口マ勝テ、伽藍ニ放火アサマシ共云ニ及バザル
事也、ナドヤ其身ヲ猶山深クモカクサバリケン、
サル程ニ衛門佐殿ハジメテ、山名方軍勢共、火事

ト同時ニ亂入、武田殿、細川殿ノ衆ナド、蓮池ノ
前ニテ煙中タ、カウ事習日也、衛門佐殿方勝イク
サニナリテ、武田殿ナド御所へ引入レタリト云々、
大裏、仙洞、公方様、細河殿へ入申サル、由□、偏
執ノ人會其儀ナシトモ云リ、爰東ノ門ヨリ□□イ
タリテ、御局タチヲ始申テ、百五六十人カチハダ
シニテ、泣^叫□テ御落アリケリト云々、此内ニハ□
土ヲモフマヌ人モコソアルベケレト、哀リケル世
ノ理哉、サレ共自敵共ニハキタ、キナドハセスト
云々、セメテ□□事ニヤ、サル間衛門佐殿ハ相國
寺燒跡□野陣ヲハリテ、カイタテヲ上テ、御所衆
ト箭軍アリト云々、每朝御所方へ三度禮セラルト
云リ、□□シャソシルベシヤ、
仙洞サマ今度御所へ御ウツリアリテ、御落髮アリ
□云リ、亂タル世ノ御恨ナリト云々、仙洞、公方、
主上御自害アラントメサル、事數度アリト云、果
報ハ本來無盡ナレ共、吾等如ノモノニ今ノ御悲ハ

ヲトリマシマス、況ヤ黃泉□□玉マシマサハラン
御事、愚僧モ思ハルベキ世ノフシニハアラズ、同
時ニテ西ニテ細川殿迫タ、カウ、成身院ノ陣ヲ翌
日セメタリ、是ハ山名殿衆大内殿ノ衆セメタ□、
十二^二月^二日、衛門佐殿、武衛、山名殿連狀アリテ、東人□合力ア
ルベシ、然者一所寄附アルベキ由アリ、返事ニハ一
天太平祈念アル由返事ナリ、
廿日受戒會事、新仁王講殘アルニヨテ、大殿八幡宮
勤行、九月一日ヨリ抑留ノ上ハ、受戒事サタニ及
ズ、然處大安寺議衆□□之處ニ、西金堂和上邊ヨ
リ無力一ケ□□闕タリ共、去年ナシ、只今天下アマ
リニ淺掃□キ祈禱ニ、專寺□^之儀子細ナクバ、サタ
アルベキ由申ニヨテ、六ヶ寺□^于執行、先代未聞ノ
事也、新仁王講殘分、廿日八ノ過ニ請取畢、
受戒會アリ、授者興福寺喜多院禪師御房、
東北院禪師御房、是ハ佛地院殿ニテ御入アリ、
行聰房新入當行、十一月廿九日マデサタアリ、

執金剛神修正料所證菩提院畠事、久ク尊勝院請籠
知行處ニ、先年質ニ流サレテ、禪花坊知行四百文、
此方地子兎角云テ、去年當年沙汰ナシ、尊藥師堂
修正抑ヘテ申處ニ、圓祈坊口辨ルトテ、十二月廿
九日四百文請取畢、仍藥師堂修正願春房出仕アリ、
大佛殿修正事、天平以來毎年不_レ易勤行ナルニ、
惣寺訴訟ニヨリテ、今マデ延引、天下式會ニアサ
マシトテ、神水ヲモ寺ニ□ヲ、極月廿九日□ヨリ
アリ、然ニ兩堂四ヶ□□年分、_{保セカ}于今出サレズ、仍
修正ヲサヘテ、初夜時□東南院□□一貫二百五十
文渡サレ畢、東室殿ノ野田庄分ノ一貫三百文、請
人ヲ立テ來二日マデ侘事アリ、講堂導師堯忍房出
ラレ畢、

一 明年戊子修正分事、打ツ、□□ベキ披露處、新仁王講
未下行間、下行以後□行アル返事、兩堂ヨリ年預順
_{始カ}實五師ヘ申□、新仁王講十貫文下行アリテ、殘廿貫
文事來六七月ニ下行ノ請文アリ、「應仁貳戌子分、

新仁王講供料事、毎年十二月中必可_レ□□_{様カ}下行□候
也、恐々謹言、_{應仁貳戌子越後}十月十日經正如_{紙カ}此折□出テ、
持明院殿基經袖判アリ、其狀他堂□ヲカレ畢、
一 野田庄、應永廿二重而沙汰アリテ後ハ一貫三百文
不易ニ東室殿御出シアリ、然ルニ去年應仁年□天
下大變ニヨテ、一粒ノ所務ナシ、ステ□一向無音
候由アテ、御難澁ナリトイヘドモ、臆□□カ、ル
時ノ用也トテ、修正ヲ支テ、一貫三百文、大佛殿
修正、正月十一日夜ヨリアリ、

一 應仁貳年戊子三月日ヨリ始テ、執金剛神燈明田横
井貳段、齋二郎土屋當年マデ十二年無沙汰之間、咒
咀ノ札ヲ立テ嚴密ニサタノ間、古市ノ井上殿中人
ニテ、五月三日ニ_マ辰市下地二段ヲ取テ、狀ヲ取遣
テ無爲ニ成了、一段ハ晦日舍利講、一反ハ當行方
ノナリ、如_レ此ノ間、秋ノ年貢十月十日ニ寂良房
當行納所行宗房正法下向シテ、□見アリ、カイハ
カリニテ一石二斗ナリ、同十九日ニハカル、此方

十合ニテ一石一斗八升五合ハカル、年々ノマスヨ
リニテ、一石一斗八升五合ハカル、年々ノマスヨ
リチト大ナルニヨレリト云々、來潤十月ヨリ晦日
ノ舍利講アルベシトナリ、

一京都大反事、南禪寺、相國寺、天龍寺所々方々ノ
焼失、兩方ノ打死アマリニ事シゲクテ注ニ及ガタ
シ

一新仁王講未下ニヨリテ、受戒會ナシ、色々行陳共
ナリ、

一ミセクシノ事、此五六年トカク地下人申テサタセ
ズ無力アマリ他寺ノ沙汰衆、神戸殿へ申テ仕丁シ
コ屋ヲソヘテ、十月十三日ニ時ノ酒五十六文ツ、
取ナリ、合一貫七十文アリ、當年ミセ出サス所、
家四間ナリ、又廿日ニ去年分取り、且五百四十文
取畢、神戸殿へ禮錢一貫文、仕丁シコ屋へ二百文、
其後押上郷二年分四百文サタアリ、

一賢壽房新入堂行事、卯月十三日ヨリ始テ、同八月

十三日朝マデ百廿日無爲ニサタアリ、此内ニ小月、
卯月、五月、七月也、ツレ事以下如ニ恒例、

一八月卅日ヨリ執金剛神御寶前ニテ、臨時三晝夜鄭
重ニアリ、是ハ新仁王訴訟時、去丙戌歟立願ナリ、
一去年丁亥、新仁王講供料未下行、七月八月ニト契
約正躰口クシテ、十月廿日受戒會、同廿五日同朋
會抑留アリ、同朋會指過タリヤノサタアリ、終ニ
ニケ會闕如シ畢、

一大乘院禪師御房、臨時受戒會御サタアルベキ牒送
アルヨシ由、年預寶性院大進、五師亮信被ニ申送、
既二十會闕如ノ上ハ口評定アリ、
一閏十月十日比、臨時受戒會否返答、年預亮信切々
ニ申サル、然處ニ新寺務東南院殿ヨリ新仁王講事
ハ寺務ト年預トシテ、尊勝院殿へ催促アルベケレ
バ、此會事如何様ニト被ニ仰出ニ間、寺務ノ御始ナ
レバトテ、相違ナク返事中サル、十一月十三日夜
アルベシトノ事也、終十一月十三夜ニアリ、

一興福寺別當東門院殿へ臨時受戒會事ニ南堂司出スル、琳乘房經算出向テ、既ニ領狀ノ上ハ目出シトノ分也、

一臨時受戒會ニ平ノ良家御受戒アリヤナシヤノ事、今度大乘院アソバスニ伺テ、東宝殿ヨリ先規御尋ノ間、應永ニ勸修寺殿臨時御受戒ニハ、本受者三人同年號ニ大乘院殿、臨時御受戒ニハ法雲院禪師御房、光明院禪師御房サタル分、良專日記ノ面ヲ注テ進畢、

一東山法勝寺五大堂悉コホシテ失ヒ畢、是ハ大内殿ニ雜兵共サタスト云々、アサマシク、

一長洲庄事ニ十一月一日ニ乾ヨリ大内殿へ使者ヲ上ラル、事書認テ出了、戒壇院長老近比ヨリ草案ノ由仰ラル、也、

一攝州中島ニ安富遠江アリ、長洲知行ナリ、仍狀ヲ惣マクモ遣了、

一閏十月三日ニ、原村十五貫文兩堂へ上了、

一閏十月ヨリ興福寺花林院ノ跡ヲ乾ノ方湯屋ノ料所トテ、在家ニナサル、爲地ヲ引、大ル地多シ、小キ土塔多シ、堀川百首ノ□□永祿ノ舊跡也、

一興坊二郎殿出家、十月八日禪春房宗信、同十日ニ花事アリ、毎事如ニ恒例ニ也、

一閏十月十五日、原村法花堂方七貫五百文、行乘マ賛シ立タル所ヲ、中門堂ヨリ伊賀新別符マキレトテ抑留アリ、色々問答アリ、

一臨時受戒會ニ良家加リテ、御授者ノ時ハ疊ヲ高下ニシテ、常ノ時ノ様ニ御サタ也ト、今ノ和上下松院圓覺大東室殿へ申スト云々、然ルニ大乘院ニハ臨時興行所ニ、如何トサタアリト云々、如レ此ノ間、東室殿只今未授戒ニテ御事モカケス、大乘院分同時モハレナリ、可有ニ御延引ト也、

伊賀國新別符マキレトテ、中門堂トノ問答共ノ事、十一月十二日記之、

一マギレアテハ兼日ニ承ル共可ニ申開ニ事也、抑留原村

年貫何事ゾヤ、於渡□ハ今日ニナリ共可_レ有_二糺明_一

云々、掠儀アラバ可_二返辨_一之由、兩三度十五日ヨ

リ十六日マデ申ス、

一行乘_{中門マ}遮_{堂聖}而賛テ、一言ノ案内ニ及ズ、中門堂へ渡

ス事、一向盜人ノ由申_{閏十月十五日}拾_マ畢、世間ノカハシニ難其

方へ渡ス事アリヤ□□、_{如何カ}

一使者定_{寂カ}□大シテ、兩堂同輩ノ事也、爭抑ヘヲカレ

テ、禮堂以下ニ跪テ、可_レ及_二平用_一哉、所詮渡給ラ

ハ、定寂大請ニモ立申テ、□□ニマギレ可_レ有_二糺

明_一之由重申了、

一十八日ニ定寂大シテ、請ニモ立テノ事、又申トイ

ハ、共、同篇ノ返事タル間、サrah抑留ノ料足ヲ中

門堂有縁ノ深位坊敷勸學院敷ニ兩堂ヨリ預置テ、

弘明以後可_レ取之由、定寂大ニ願春房ヲソヘテ申

ス處ニ、集會アテ可_二返事_一由申タルマ、ニテ、被

レ及其儀_{ニル}事、

一興福寺不動院ヨリ催促ニナラヘテ、法花堂へ下村

方、土屋方、閏十月廿九日利ニ陪テ、合ル所ヲ書

上テ狀ヲ入ラル、其返事ニ上件ノ様ヲアラノ書

テ、カンヨウ伊賀方ノマギレト承リテ、只今又法_{エテ}

花會料ノマギレト申サル、事不_レ得_二其意_一由返

事ス、思出スニマカセテ如_レ此之儀、根本伊賀方事

慥ナラヌニヨル事也、

一十一月七日ニ、勸シ□□井上彦二郎方ヨリ問答返

事共事、申酉ナドノ才不足共ノ日記ヲバ、ソレハ

毎度送文ヲソヘテ渡申ス上ハ、今ニ至テ承ル事不

足、信用之由申畢、

一戌年分事ハ百文ニ米三斗ニアマルヲ、貫文ニ一石

トホリ可_レ渡候由申ス間請取ス、コレハ戌年徳政

ニヨテ、伊賀ノ米國ヲ出ザルニヨテ也、ソレヨリ

相續テ催促スレ共、京陣ナド申テ、事スマザルニ

ヨテ、亥年扇火箸ヲ遣テ申ス也、□□候請取ト□サ

ル所ニ當年六月中旬ニ二貫三百文上ル、米イヤト云遣

此方支證_{ナリ}、是ハ戌年分共、亥年分共シレズ、サル處ニ

中門堂方扇箸代六十四文、延惠給ル處ニ、定使ニ
下行三百文、其カモ二色ノ代モ返スベキ由切々ニ被申
間、扇火箸代返シテ、定使方ノヲハ其ヨリコハル
ベキ由返事ス、アナタヨリ返シノ茶廿袋ヲ中門堂
方へ、十袋送ラハトラレ畢、ソノ由申處ニ、下村

彦二郎方以外ノ事也ト申サレ畢、

〔○此次に入行消しの印あり、文讀み難し〕

一法花會料事、中門堂申處非理至極也トテ、中人モ
取上ラレズ、假嚴重告文ニ及トモ、理更ニナシト

中門堂へ申サレ畢、

一臨時受戒會、十一月十三夜ニアリ、東室殿御サタ
ナシ、松林院殿禪師モ御サタアルベシトノ兼日ニ
沙汰アリシモ、御サタナシ、

一大乘院殿中ノ門ヨリ千手堂ノ前ヘトホリテ、南ノ
四足出テ御待アリ、其後烈ノ鐘ナリテ、大少十師
出仕シテ待申處ニ、御着座以後正師ヲナス、餘ハ
恒例ニ同、引道ハ明覺大、

一諸進分裝ノ代七文出ス、以外事也、恒例三分一

ト云意歟、恒例ニモ一ケ夜臨時ニモ一ケ夜ナリ、
□□先規皆廿一文也、重可ニ申進□、
一京都東方有間殿、御所ノ門前ニテ打ル、ト云リ、
赤松ノ惣領競望ニヨテトナリ、

一十一月廿一日ニ、新別符法花會料以下、中門堂ヨ
リ申懸ラル、事、無力不運ナリ、兩篇落居分ニ四貫
文出シテ、以後和合アルベシトテ、勸學院ニテ珍
賢、快賢、彦次郎以下申定テ落居也、

一今出川殿武衛へ御入アリト云々、武田殿送申サレ
テ、細川殿落居シ申サルト云々、如何ル儀共知ズ、
廿一日ノ事ト云々、

一長洲庄事、大内殿へ事書ノボル、同江口遠江方知
行タル間、其方へ堂ヨリ狀ヲ遣、閏十月ヨリ十口
月下旬マデモ一□ナシ、

一十一月卅日、實相坊ノ用トテ、油倉ニテ一貫カケ
ノ次支始ル、五年マデハ親ノ辨ヘナシ、其後ハ年
年ニツレテ幾許辨ヘナルベシ、如何アラン、既七

十才ニ成ル人順次ノ事歟、淺増く、後人可レ得ニ其意也、

十二月廿五日午定、中門堂ニテ新仁王講事ニ集會、廿四日夜安樂坊へ春惠、長宗、長弘、延惠呼レテ□リ、天下只今之式、申スニ及ザル上者、大殿修正可レ有ニ參勤ノ由堅申佗ラル、也、年預亮信、實相坊良重三人ナリ、寺ヨリ撰レテ出合ル、ナリ、廿五日以ニ折紙返事修正闕如ヲ□タリトモ、度々神水ノ上ハ叶ベカラザル事也、仍只今離寺閉門事ハ、クレく承間、先々延引ノ由返事ス、同尊勝院へ依佗狀遣了、

一安樂坊ヨリ同篇ノ佗事ノミニテ、大佛殿修正終ニ闕如ナリ、無ニ勿體く、

長洲庄事、叶ベカラザル返事、西室殿ヨリ聞ユル間、其□力ナキニヨリ、執金剛神御室前ニテ、廿九日未時ヨリ始テ、大内殿弘政、安富遠江忠行、弘中重勝三人、名字ヲ御足下ニ納テ、不動尊ヲ御本地

トシテ供養法アテ、諸衆□□咒ヲ滿テ、調伏ノ懇祈先ニケ日アリ、

應仁三年己丑分

一尊勝院家當若□院主上表ト云リ、サレ共花嚴宗シ

ヒ申サレテ如レ元也ト云々、□冬院□跡ノ木共

ウラル事言語道斷アサマシキ體ナリ、

一正月十八日、當寺衆徒集會トテ、公人□室邊ニテ

成清、十文字屋ヲ殺害ス、九世事也、

同廿六日ニ古市□支アリ、千七百人ト云々、五百

貫文取リシハ丹後庄地下ノ堂ヘトレリ、買ニハ百

五六十人ノキタリト云々、

延惠大先達トシテ入峯、七月五日ニ寺立ナリ、同

行合廿六人、其内當堂ヨリ行聰房、賢壽房新□ナ

リ、

一十月十八日、兵庫ニコモル大内方、山名ノ彈正迫

ヲトサレテ、兩寺ノ關屋モ燒畢、

一十月廿日夜ヨリ、受戒會アリ、授者當寺東室殿、

他寺修南院殿禪師御房兩人御サタナリ、今二人他寺ニ御座アリ、四人ハ如何之由沙汰ノ處ニ、御サタナシ、

一廿日マデ綱牒到來セズ、鑑取下ラズ、始行アルマジキ由和上申サル、ヲ、綱牒未ニ到來、先規本意ナラザレ共アリ、鑑取ノ事一人アルヲ召出シテ、サタアルベキ由東室殿ノ安樂坊成身院へ堅申サタニヨテ、和上□力ナク取サタ也、藥師寺、法隆寺ナドへハ□クレニ寺次^マ束ヲ持テマワルト云々、然處□日夜ニ入テ、綱牒所持シテ、鑑取下向□道ヲシノキ、様々ニ京ヨリ三日ニ下向ト□、登壇役ハ宗覺房榮延サタナリ、

一東室殿御戒師春道大長弘タルニヨテ、延惠へ會參セズ、爰ニ明覺大春惠、會參ノ一薦タリト云事也、春道大□□處ニ、ソレハ先尊勝院殿御出家ノ御戒□、明覺大競望アテ、治定ノ處ニ、彼院家評定衆法花堂ヨシミアルヲ、指置ルベキ事然ルベカラズト

テ、俄ニ定圓大榮春上坊ニ參勤申サル、間、サラバ競望申タル分ニ、安田者ト號シテ參申シ、御一獻ヲ受□アリシハ、一薦ニヨラズ大十師ノ中タラバ、□上ノ支證□ノ中ニアリ、榮春ヨリ春惠次座ナリ、其ノミナラズ他寺ニハ二人ノ出□召ル、次第二參ス、當寺ニハ四人ノ中□□次第ニ參ベキ事、餘儀ニ及ザル由具□□シラク間、其上ハ所作ヲバ延春大サタアテ、大十師今一人初テ出仕アル時ニアタリテハ、大ナケ^マ持テ所作ヲバサタアルベシ、明覺大事ハ罪科アルベキ分堅□ヲクラル處ニ、明覺大ハヤ會堂へ出仕ノ由返事アテ、受戒會無爲ニニケ夜廿二日朝共ニ□□、

一同□會子^{歳カ}才ノ分、□□月廿五日アリ、當年分廿六日ア□、

一修正十一月十四日夜ヨリアリ、四ケ保皆下ナリ、文明二年^庚正月ヨリ

一修正朔日ヨリアリ、新仁王講分、兩堂へ十貫文寺

ヨリ出サレテ無爲ナリ、

一禪長房行賀二月堂新入アリテ、定寂大コモラレズ、
一三月廿八日ヨリ、臨時三晝夜江口安富三貫文奉加
也、

一卯月十三日ヨリ、禪春房宗信新入當行ナリ、中門
口宗覺房新當行ナリ、

一五月八日夜、大雨フリテ大洪水、同十六日夜又大
雨大洪水ニテ、田地多ク損ス、以外事也、

一六月五日、カロツケ堂寺共ニナシ、

一六月十三日、大殿御佛飼用トテ、寺中寺外棟別口
十文、人別一文ヅ、出了、堂方分ハ年預ヨ口狀入
テ、取アツメテ遣了、法花堂方之分、

一衛門佐殿、大内殿ノ勢、山階ヲウチナビケ、題胡
ヲ木津マデシタガヘテ、下狛ニ住ス、七月廿四日
ナリ、蓬來ノコトアリ、中人アリテ廿九日ニ少々
引之、

十一月晦日、法花堂極樂口口始ル、二百二人、仍

二百四十人ニス、メタシテ興行也、

一尊勝院ノ家門西蘭寺殿御下向アリテ、越前御領ナ
ド御存知アリ、仍新仁王講事堅愁訴アリ、

十月廿五日、同朋會會抑留、新仁王講故ノ事也、
十一月日、普門院殿寺務ニ御成アリ、此院口ニハ
只今ハジメナリ、

一新仁王講、連々御未下ノ分、訴訟ニヨテ十二月廿
一日戌時ニ兩堂閉門也、

文明三年辛卯正月一日

一新仁王講事、寺務^{普門院家節}中ニテ貳拾貫文下行アテ、
殘拾貫文事正月末以前ニ下行アルベシ、然ラズバ
十六日ヨリ又可口閉門アルベキ由、拆紙ヲ御出シ

アテ落口ナリ、

一修正朔日ヨリアリ、四ヶ保東南院殿下行ナキ、ヨテ
兩堂愁訴色々アリテ、朔日夜講堂導師口口大退散
アリナドシテ、終口六日七日闕如スベキニ治定ノ
間、寺ヨリシテ引違テ出サレ畢、關ノ公用ヲ抑、

東南院ノヲトルベシト評定ト云々、兩堂淵底也、向後訴訟ノ時モ此儀アルベキ間、日出く、東室殿野田庄分ハ朔日ニ下行、

新仁王講事、正月廿三日、二月堂煤拂ツカエテ未時ニアリ、正月十八日ヨリ開門、兩堂堅申ニヨテ、安樂坊、勸學院、般若坊、除住坊、其外宿老中人ニテ、殘十貫文事三月中ニ可有ニ下行ニテ落居ナリ、終ニ卯月上旬ニ下行アテ無爲ナリ、二月堂咒師再任、順實五師半中風ニアヒテ、十日ノ朝歟被レ出了、□堂家失ルベキ結構共故カト云人モアリ、

卯月廿一日、西方ヨリ木津ヘヨセテ、追拂ハレテ□式ナリ、

五月十六日、今市東殿ヲ西殿打テ、禪春房當行兩、
六月十日比、カハタノ城ニテ東方ノ山城ノ□々、
多ク□□

一同廿三日ニ甲雙庇一黨、泉州ニテ數百人ウタレ畢、

一七月十二日ノ早朝、侍從公住坊六方ヨリ發向ナリ、
七月^{エタ善アミ}一
去月始ヨリ中院ニ庭ヲスル、元興寺楚ヲ引アツメテ立石ニセラル、六萬衆サタナリ、

一當寺法花會、八月廿五日ヨリアルベシト云々、
一炎旱ニヨテ□雨アリ、廣目天ニテ信讀、
八月六日^{殊カ}

ニアリ、大雨時々ハタル、□勝く、
一八月十六日、講堂ニテ藥師ノ圖繪アリ、十八日マデ當寺仁王講アリ、白五帖、

一九月六日ヨリ法花會アリ、委細別ニアリ、

同四年壬辰

一正月廿五日、兩堂新仁王講訴訟ニヨテ、二月堂コモルヤ否ノ事アリ、

一二月堂牛王人別、一口人ノアツラヘスルベカラザル由、禪學別紙ノ記錄アリ、堂方ノヲバ此方ニヲ
キテ出サズ、二月出事時サタ、

一大佛^{後カ}□千部經、大內殿ノ江口佛事ニ讀奉ル、金十兩寄進也、

一五月六月以外ノ大炎旱也、ナラ田キウヘズ、

一七月廿日夜、大風吹、住家ヲ、ク損ス、

一七月廿七日夜、執金剛神御前ノ唐戸并カウシヲ燒

破テ、盜人憑^マ支ノ庫藏ニ伺ヨル、時ノ番衆賢壽房

剛永起合テ追出ス、一物モ失セズ、結句アハセ鐘

七ツ、火打袋ニ香合ス、ケメヲ藥トモ入タルト、

燒金六ツト庭薙口、ソコハクノ物ヲ捨テ逃去畢、

併是ハ冥慮ノ至也、番衆ノ高名也、其時ヨリ障子

帳ノ二階造立之メクリノ戸共、ヨク／＼堅メラレ

畢、

一尊勝院御出家、十二月八日未具定ニ出仕申、御斗

會事外ナルニヨテ、證菩提院ノ東ノ坊棟ヲ一コホ

シウリテ御サタ、御戒師延惠、五百文取ルベキ由

仰ラル、間、スイカン御コメテ有ルベケレド、ス

イカンバカリ有テサタス、五百文事ハ院家ノ爲、身

ノ爲、不^レ可^レ然ニヨテ也、又中門堂方ノ人ニサタ

セラルベキ由歟ト承及間、三日ノ夜法花堂ヨリ恒

例參勤ノ由、書狀ヲ入申畢、但明覺大春惠^{逐電カ}遂^{ハセ}電ナ

リ、延春大長宗ハ慈恩寺トヤランニ七ケ日護摩ヲ

燒ル、間、叶ベカラザル事歟、御名實光□テ御入

アリ、

一貫文渡之了、惣ノ衆十疋ヅ、取ノ勤行、觀音經

一卷^{卷カ慈救カ}一〇〇〇咒廿一反、天下太平ヲ祈請申者也、堂司

ノ振舞同廿五日巳時ニアリ、乙酉御下向事、

一十二月十六日、興福寺珠德院坊主長願房ヲ弟子良

順房トヤランシメ殺テ、合□^{載カ}以トアリ、

文明六甲午同七乙未同八丙申同九丁酉同十戊戌同十

一己亥□□□□二庚子三殊事ニヨテ不^レ記^レ文、

文明十三年卯月廿日ヨリ法花會アリ、

讀師延惠サタ□□□會ノ事別記ニクハシクアル

ベシ、眞俗共ニ本走ナリ、

同年八月十日申時、東室殿若君御出口、御戒師延惠

勤仕之、其砌歷々ニシテ迷惑、□□水旱、御俗服

拜領畢、尊勝院ナド參勤、申時出家アテ御出之間、

沙彌十戒授申ス、今度者首尾一向ニ勤仕ス、御布施二重ニ入ベキ上者、東室殿ノ御沙汰尤ノ御事也、御實名任親、

文明十四壬子

三月下旬時分ヨリ、川上庄夏供事、借物返辦之口、安居アルベカラズ、然レバ供料アルベカラズト被ニ申送、色々細アマリニ、兩三^{首カ}口尾ノ日記別ニアリ、五月二日フト殊ニ大儀也、兩堂ノ勢共過分ニアツマル、落居^マ眉目共也、供料ノ事料足ニテ、官務古市殿取ツギテ下行也、

文明十五癸卯

一六月十四日、淨土堂ノ御舍利御失アリ、時ノ番北上院順宗住屋其日ノ未時分破却アリ、條々ノ事多シ、七月十一日ニ他寺邊ヨリ被ニ返付、高札之面、勸賞七十貫文可^レ取哉不^レ可^レ渡哉、尙以其云事口、

一盜人住所ニテ封ヲトカントスル時、立烏帽子ニ淨

衣ノ人、ウツ、ニ非ズ夢ニアラズシテ、トクナラハ即時ニ命ヲタ□□ヨリテトカスト云々、其後毎夜ノ夢ニ、八旬老僧カセ杖ニテ佛舍利立^{副カ}闕テ、一向ハナレ^{居カ}□スト見、俊乘上人ニテ御座アル歟、淨衣ハ八幡大菩薩ニテ御座アル歟、但盜人詐ト露顯セザル上者、何□□□□ヅヤ、カ様ノ事ハ理ノ外ニ偏達アルモ常篇ノ習也、疑ベカラズ、如^レ此ノ沙汰アルコソ則實事ナレト云々、

繼芥記

永祿十三年 四月廿三日改元
爲元龜元

四月大

一日戊戌、晴、無殊事、從三西有使、夕飯罷向、則自彼亭參内、御盃有之、參衆三亞、實澄、中前亞、孝親、四大、季遠、

二日己亥、晴、三亞今日源氏講尺箒木始、常御所足城作之間物忿、仍於御方御所有之、及晚退出、三日庚子、晴、當番祇候、花鳥餘情於御前按合、予讀之、又料帑百枚被折双帑、今日信長米五十石進上、使花井田^{デン}右衛門云々、

四日辛丑、晴、及晚少陰、内藏頭來臨、双帑被書、雲松箒等候哉、双六張行、

五日、雨下、攝取院前住亡日被供孤僧、今朝信長參禁中、其後於櫻馬場乘馬云々、攝取院同宿、從

余所來、則今日成喝食了、賞金光院、

六日、同前、自晝已前晴、覺勝院月次罷出八句出之、申刻終了、其後向飯、其歸路に三西へ罷向、昨日料紙五帖被送祝着之由也、此間講尺間に源氏連々書之、其爲合力者也、懇志々々、

七日、晴、今日禁中講尺、今日三西當番也、宿ヲ替畢、自講尺不及退出祇候了、

八日、晴、今日晝祇候、宿ハ三西トカへ了、及晚退出、今日薰陸ツキ了、此間御薰物御調合也、密々源氏箒木卷書寫了、御本申出了、大乘院禮來臨、

九日、晴陰雨不下、今日安竹後室法樂一折興行、四

大覺僧、頭辨、治部卿、飛鳥中將、予互過^{能州}松梅院、

^{公方御同朋}富成小二郎、此外朽木兵庫^{奉公}□□□西刻事^{春阿彌}

了大酒也、及音曲予句七句出了、

十日、晴、奈良大乘院去口日上洛、宿毘沙門堂、今日禮罷向、一昨日謝禮、則有夕飯毘沙門堂相伴、十一日、晴、自久我前右大將有使、夕飯可爲相

伴_一由也、此間勅勘、去月比親王御方迄祇候云々、此

亭主入道

故□剋向、柳一品、□□□□前右大將、山科帥大納

言、柳原黃門、予薄等也、有湯漬、

十二日、源氏講尺參内、箒木卷□□□孟二同於御方

御所_二有_一一盞、今出川前内府入道近日甲州下向御暇

乞、御樽被_レ獻云々、同入道被_レ參_二御三間_一、又有_二御

酒_一及_レ昏間逐電了、

十三日、雨及_レ晚晴、當番祇候於御方御所、十五首

被_レ遊_二御當坐_一予五首詠_レ之、親王御方、親綱朝臣、

予計也、各五首、

十四日、晴、自_二當番_一退出、源三郎自_二加州_一上有_二

運上_一廬山寺、金光院、竹中坊、寶林院等順等來、

伯後室北被_レ持_二飯酒_一、

神事也

十五日、晴、今日祭籠明候間伯被_レ來、午刻許禁中祇

候、源講尺也、箒木也、

十六日、

十七日、

十八日、晴、今日當番也、祇候相番中山少將只一人也、

十九日、晴、參_二竹門_一、無_二殊事_一、

廿日、晴、紹巴來、今朝信長若州下向云々、見物不知_二實正_一、又越州へトモ云々、此間先勢盡下向、今日ハ信

長計也、日野飛鳥井等下向可_レ憐云々、

廿一日、晴、源三郎加州へ下、

廿二日、晴、明日改元、於_二三西_一今日習禮見物云々、拜力

廿三日庚申、晴、當番祇候、今日改元定並大將

賀、座主宣下等也、上卿三條大納言、亥刻計左大將

拜賀着陣、其後座主宣下、此時及_二半漏_一次改元仗儀

衆、三條大納言上卿也、左大將式部大輔、年號勘進持明院

宰相、四辻宰相中將等也、奉行頭右大辨經元朝臣、

辨左中辨晴豐朝臣、改_二永祿十三年_一爲_二元龜元_一、式部大輔

勘進也及_二天明_一仗儀了、其後左大將式部大輔退出了、次

詔書事有_レ之、日高各退出了、無事珍重々々、有_二天孟_一

廿四日、晴、改元今日辰下刻事了、睡眠無_二正體_一盡

寢、無_二殊事_一、

二十五日、晴、無殊事、明後日信長爲祈禱內侍所御千一度三亞與行云々、山科此由□□、

廿六日、同、今日千度延引、三亞所勞也、

廿七日、同、今日當番也、祇候、昨夕自長橋局有御文、今日信長爲祈禱御樂百返可有^{○行カ}可取數云

云、着直衣參內數取了、初五返、第二同、第三

、第四三^{各五常樂也、御人數七人也、}第五太平樂二返、此後賜天

酒、御所作箏、親王御方箏、四辻大納言同、帥大納

言笛、持明院宰相箏、四辻宰相中將箏、橘以繼篳篥

等也、晝已前事了、越州之儀種々說候、多分信長及

迷惑云々、禁中御修理半也、可哀々々、則宿了、

自四辻亞相有使、明日藥師^{因幡}御代官七人詣也、

可參云々、心得之由返答了、

廿九日、晴、御格子已前退出歸宅^{シテ}四辻亭へ罷向、

亭主持明相公、相公羽林^{亭主}息、廿內藏頭、予、伯等也、

有^ニ小汁、其後參了、信長彌迷惑之由風聞如何候、又

三亞煩以外云々、則彼亭罷向、無殊事、被^ニ雜談珍

重云々、

卅日、晴、及^レ晚陰、從^ニ三西有^レ使、亞相煩又以外之口處、誠於^ニ昨日無煩問、意庵遣^レ呼來見^レ脉、大事云々、歸宅及^レ晚、

五月小

一日、雨下、今朝自^ニ三西有^レ使、小得^レ減由也、又或語云、昨夜信長自^ニ越州上洛、十人計召供云々、自^ニ若州奉公沼田彌太郎案内者云々、江州無道故也、其後又坂本^ニ江下向之由風聞、不知^ニ實說、越州金崎城信長方ヨリ落云々、人數盡被^レ殘了、

二日、晴、三亞相訪^ニ病床、此間隔日起、今日起口也、只今最中、歸路參^ニ竹內殿處門跡、覺惣僧正准后、當今御舍兄、此程山門坐主被^レ任、仍西塔院主職上乘院^{青蓮院殿門下、道順僧}

依^レ望被^レ補、今日御檜被^レ進、仍被^ニ召留參加人々、

甘露寺左中辨、治部卿、中山少將、予、伯等也、此外

昆沙門堂等也、及^ニ音曲、事終伯予同道、予宿歸宅、

於^ニ路次大乘院殿懸^ニ御目、伯始申^ニ御禮之間、予私

宅來儀之間、又及三大飲、及昏事了大乘院九條殿故尚經公入道殿

□今朝稱名院忌日、攝取院被供一僧、

三日、晴、今日雖當番、甘露寺明日□□間、今日

可參、明日必賴候由也、仍徒然、

四日、晴、今日番祇候、昨日甘露寺代也、無殊事、

相番四辻大、予、伯等也、宿同、

五日、晴、今日信長可參之處、無人之間可祇候、

□朝飯食於長橋局、松木中將與予兩人有朝飯、

及晝、然共不參候間、申御暇退出、後聞今日不可

參云々、歸宅後菖蒲湯沐浴、其後所禮罷向、其後

歸宅歟○行カ參內、酉下刻參內、參衆、四大、季遠卿、萬大、惟房

帥大、言繼卿、宰相中將、公遠卿、三條亞相子息、公明弟名公宣、頭右大辨、

經元、言經卿、內藏頭、言經朝臣、左少將、親綱朝臣、右少辨兼勝、右少將公

明、下官等也、御方御所御參之所、可取脂燭□□

殿上人無之間、無燭御參、其後天酌畢、還御御方

御所、其時脂燭被召留、御酌有之處無人、下薦子注文カ

然共禁色雜役之事不可然、公明上衆禁色旁同、於

兼勝者雖其仁、貫首藏人禁色之由、花、其上祖

父入道忽任槐、然者親綱朝臣非其仁故、內藏頭取

之甚遺恨有氣、不可說々々、有御酌、事畢今夜

當番只一人祇候、可候御副番之由被仰之所各故

障、番衆萬大祇候、正親町中將實彥朝臣故障さへ不

申不參、度々被遣御使、然共不參、不違介子推

賢人々々、不可說々々、今一人薄藏人式部承橋以

繼不具云々、予被仰之處、明日爲生日之間、故障

之由稱之、

六日、雨下、今日予生日也、仍供一僧仁王經令

轉讀、其後詣御靈社雨下之間急歸宅、

七日、雨下、今日實澄卿番代之事頼之由、然者八日

可祇候之由、昨夕有使者、心得之由返答、則今日

參內、入江殿御喝食、御所御參、安禪寺殿衆帶伏見殿、式部卿邦

輔親王御息女御樽進上、今宮社祭仍御物畢、○見脱歟

八日、晴陰、早朝退出、無殊事、信長下向濃州之衆

少々見物、三亞向見訪、

九日、今日信長下向、見物了、今日今宮社祭還御云々、十日、陰晴、及_レ晚甘露寺來臨、四相公、左中辨、勸中納言、治部卿、中山少將等來臨之間可_レ來、然者夕飯可_レ持來云々、心得候由返答、有_二汁罷向、有_二双六、石殘數七十也、左方勸中、治部卿、予、大外記師廉等也、右方四相公、亭主、左中辨、中山少將等也、予方勝了、催_レ興而已、

十一日、晴、參_二竹門、其後三西訪_レ病、属_レ減珍重、歸路又參_二竹門、今日高辻へ罷向、讀書始之間持_レ飯了、亭主斷_レ酒之故也、毛詩讀了序半分計也、依_レ無_二隙_二亭主也、明後日雖_二當番、連歌月次有_レ之間、代類候由伯處へ申遣、心得之由返答、

十二日、陰、朝飯已後高辻罷向、殘序其外二扁受了、及_レ晚廬山寺、金光院弟子等順、又寶林院顯存等來、顯存_二朗詠、等順論語等教へ了、

十三日、晴亦雨、今日月次連歌也、終日催、及_レ晚事了、

十四日、陰、今日伯番代可_レ參候處有_レ使、今日_モ可_レ參重可_レ申之由告來間、心得了、傳聞今朝右京少進中原重弘卒云々、風氣七日計煩云々、属_レ減亦如_レ此云云、向_二高辻受_二毛詩、

十五日、雨下、無_二殊事、

十六日、雨下、

十七日、雨及_レ晚属_レ晴、三西罷_二向本復、祝着々々、暫閑談、顯存、等順等來、

十八日、晴、當番祇候、無_二殊事、

十九日、晴、早朝退朝、

天正七年日記

正月

二日 戊申、今日奉_レ懸_二妙音天、未刻許_{左馬助}來臨、

則樂三張行、_{五師樂急、太}次神孟頂戴了、勸_{平樂急慶德}一盞、其

後樂共、暫吹_レ之、及_レ昏向_二飛鳥拾遺亭會始也、祖

父大納言、持明院中納言、_{基孝、衣冠}中山宰相中將、_{親綱、衣冠}予

直衣、日野右大辨宰相右衛門佐永孝朝臣、拾遺、_{當年十}一才歟、

源元仲、以上直垂也、可參禁裏之衆上姿也、但元

仲也、題春松契千年、講師源元仲、講師發聲大納言

兼帶、其後三獻卒參內、拾遺手跡故父卿面影甚相

似、徒催懷舊而已、

五日辛亥、今日己亥御樂始也、先朝有此事、當年始御再興也、結番被定、

予笛一番也、一番言繼卿、代言經卿也、重通卿、等、予、已上

三人也、然而依爲初日結番之衆皆參也、平調五

常樂急、太平樂急、慶德也、笙持明院中納言、基孝、

左衛門督、言經、篳篥橘諸光、笛子、雅朝々臣、源元

仲、比巴親王御方、箏御所作、四辻中納言、源中納

言季滿、太鼓奏兼行、鞀鼓廣遠、鉦鼓公久、打物者次、第不同也、

以黒戸御座東面、北面下壇、親王御坐也、南面押板、公卿力

於被奉懸妙音天、西山内、府筆也、花瓶、梅、薄紅、口口自御

前、北上西面着坐、六位二人着簀子、地下同南面、

御打板、高ク構へ、打物簀子ニ置テ打之、持明院中

納言吹小音取、次諸光付之、次予吹之、予笛音

頭出之、細事間、番々ノ役タルベキ由被定之

也、

六日、公久來、萬歲樂、只拍子吹候、御樂始可爲

平調、故也、次双調酒胡子武德樂習之、是又來廿九

日己亥御樂ニ可有之故也、非當番仁於執心者、

必可參云々、仍予可參也、勸一盞、及秉燭參

番兼持卿代也、於御方御所三臺急アリ、雅朝、元

仲也、次予吹越殿樂、親王彈比巴給了、三臺急

御箏也、

七日、榮羹之節祝着而已、予笛要略譜小本壹越樂等

付拍子、未刻許公久來河南浦同管了、延八拍子、

拍子合頗未吹得、來廿三日己亥有之、予當番也、

次平調品口習之、二三反吹之、

八日、入夜就寢之後、有召使、亥刻、則參內、左馬助

元仲同可召之由從、伯番許、被告送、則可參云々、

不移時參於御湯殿上、有御樂、御所作、箏、親王

御方、同、源中納言、同當番、通勝、笛、伯、和調、源元仲、同、

予吹音取音頭、先三臺急、二反、急五常樂、二反、太平

樂急、三返、殘樂予吹之、老君子、三反、殘樂元仲、小娘子、二反、越殿樂、三反、殘樂雅朝、慶德、二反、次萬藏樂只拍子、其後於此所有一盞、傾數盞、及半更、事終、御樂大略無異儀、相調者也、其後不及退出、親王御方宿了、元仲同宿了、頭辨兼勝廣橋當番朝臣力□□同宿了、依輕服也、於御湯殿上音曲之時被差加了、九日朝欲退出候處、於御方御所有一盞、其後平調御樂也、數返被遊也、雅元等也、箏源彈之、於昨日禁中也和歌御會始廻文到來、披見之所、藤中納言在此內、然而加奉、彼父卿去年霜月廿五日比逝去、到來十五六日、五旬之由也、近代五旬之後、除服宣下雖有之、□□任儀候、然而除服之後、來十六七日之比、重而可被觸事歟、然而五旬之內加奉之仁、是又除服理運之由存之歟、甚不知物由、非沙汰之限、不可說々々、向後能々可存知也、同來十三日御月次御樂廻文到來、則加奉、萬急、三急、五急、太急、老、小、慶、入夜有召使、御樂

云々、爲當番之間、只今參之處之由答之、則參內、大炊御門外樣當番、經賴卿、長教等也、兩御所被申葉室藏人辨御禮、其後葉室頂戴天盃、於男主也、御失念ニテ歟被中驚、暫被移刻之後被出之、其後御樂始行、於御湯殿上御タキ火アリ、當番基夏卿、予等也、伯兼而伺候、元仲同應召、御所作、箏、親王御方、同、基夏卿、筥、松風子、篳、丸也、雅朝朝臣、同、源元仲、同、三臺急、伯殘樂、慶德無殘樂老君子子殘也、小老子無殘樂、五常樂元仲殘也、越殿樂予殘也、大平樂急伯殘也、其後陵王破音取伯吹之反笛バカリ也、拍子ヲヨス舞立也、大略音律合、其後五常樂急、舞立吹也、今夜音頭伯也、五常樂急、予吹出也、其後於同所、傾數盃、陵王破御感也、及半更、事終、予一人宿黑戶、依重持明院番衆可也、伯別火了、天酒也、過分々々、十日陰或雨下、久我三位中將季通卿參內、予未刻許參了、申次頭辨兼勝朝臣、於禁內廣橋謁四中、公宗卿、三臺急拍子之事力□□談之、能調了□□□□、

十一日 己日也、仍參御樂、今日二番衆也、當番基

孝卿、雅朝々臣、季滿等也、非當番衆左金吾、予、

四中、元仲、源中口、諸光等也、音頭伯燒殘、吹之

青海波、越殿樂、千秋樂也、予スソ野、元仲、郭公也、

其後事終輪臺日柱被遊之、音頭予以燒殘、吹之、

伯濯野、元仲郭公也、親王御方、四中、其外無所作

人也、其後入口今日地下不參也、其後吹三陵王破、

五常樂急舞立等也、其後於御三門有一盃、又於

常御所馬道一盃有之、大吹無正體者也、今日中

山宰相參聽聞了、今夜爲一番之間、宿御方御所

了、

十三日 今日月次御樂也、午初刻參之、未無人、打

板敷事申付、万里進人、伏見殿當年始御參内、

未終刺參給、於御前御盃有之後被始之、御所作

等親王御方^{比巴}伏見殿、^{同御加衆}去年御元服中務卿云

云、御裝束黑七立涌御袍也、御借着敷、二條殿邊之御

袍也、今日太平樂急、小娘子不遊之云々、持明中笙、大

唐三臺急太平樂急、殘之、四中^{等洲濱}左金吾笙、口袖ノ

下小笙、口口邊ヨリ不尋出之、予^{スソ}留野、三臺急殘樂

吹之、燒サシ仰了、兩人之内可吹之由被仰下、然而

斟酌口口吹之也、和朝笛、郭公、太平樂^{景長カ}急被殘之、季滿等、小波、橘

諸光、^{景長カ}源元仲、^{郭公、太平樂}笛、從昨日他行、景長、^{急被殘之}笛、燒サ

子殘之、音頭失念散、^{今日臨期何候也}公久、大鼓、廣遠^{松風、老君}笙、三臺急、老君子不

三反、各失念、老君子殘之、抑調子之時、公久吹^{問カ}笛スソ野、

堂上笛調子無之、一兩返習之、未吹覺之口、予不

吹之、尤無沙汰口口、於番衆所^{問カ}有此事、御學

問所妻戶御簾被垂之、御三口口口^{問カ}兩親王御坐

御學問所也、公卿四人番衆所上壇雲客口^{下カ}壇、地下

四人打板、東砌、御坐敷際也、次第萬只、三急殘^{急、殘樂、老、殘樂、小慶、殘樂、也、事終從下}下起坐、

次於此所、又有老五急、伏見殿彈^{比巴}給、卿父子

彈^彈等、予元仲吹^彈笛、諸光^彈笙也、老殘樂元仲吹之、

五常樂持明吹^彈笛、次御三間ニテ一盞、大領於御底

女中等被懸之、予於此所爲御酌、傾數盃、入

夜事終、御月次始珍重候、爲番召了、

十七日 亥御樂也、予非當番伺候也、朝明之事終後一兩有之、始テ燒サシ吹之絶妙也、

廿三日 巳、當番、入道内府持公危急之間、伯ニ與奪黃鐘調也、

廿九日 亥、入道内府去廿四日薨去、予爲輕服、

卅日 服十日之間不參也、將又依此事被略之云々、二月暇ハ過也

五日 巳、服中不參、傳聞去廿九日之分同、近日アリト云々双一、今日分平調云々、無御所作、親王口御出座ナシト云々、

六日 今日除服出仕了、

十日 口口堂遣教經ニ罷向、去八日ヨリ毎年始行、

口口同道、四中、予、伯、薄左馬助、地藏院、口海永舍兄、
筮也、
相卿廣遠等也、先ヤウメイ坊ニテ一盃、次ニ本堂事

始、貳五段、每段樂有之、一段一鳥急、二胡飲酒破、三酒胡子、四武藏王、五陵王破、二反予

吹音頭、先之坊召樂二也、興行胡飲酒鳥陵二也、

坊主法印彈箏、八十二才云々、凡數年入切執心、及萬秋樂一相傳數奇人也、然而能達音律、行年之人可惜也、近年耳ヲボロナル故音律不相叶云々、歸路

北野邊歷覽、青蓮院、妙法院懸御目、口口有一盞、若衆等濟々及青曲、了口同口口經御聽聞也、

十一日 亥、爲予當番間參候、盤涉青海波、越天樂、

千秋樂、四源、伯、薄左馬、予、廣遠等也、親王御所作、主上不及御所作、予吹音頭、

十七日 巳、當番雅朝々臣、季滿也、壹越調口季滿代

公遠卿也、此外予、口光、元仲計也、地下公久、廣遠也、親王御所作、主上御肩痛云々、

十四日 今日禁御樂始也、午刻已前予參内、未無人、

其後一兩人口口口、及未斜各參集、於儀定所有

此事、所役五位被相催候仁遂無人、以各談合橘以繼口口、中納言口口、其外雲客也、公口自身持參

也、其後有親參撤器之時役之也、次第着坐、次奉

行目六授_ニ於山科大納言、次第披見、次及_ニ地下、山科吹_ニ調子、笛公久一人吹也、調子爲明、廣遠、兼行等也次、萬歲樂次、_{口急}、_{予殘之、笙爲明、鮮兼行、比親王、}次五常樂急、次_{口口口口}、_{笙山、笛元仲、諸光比親王口伏見口口、}老君子、小君子、_{笛景長、箏、}笛散々返數相違如_レ泥歟、度々如_レ此也、慶德次、朗詠、_{德是、爲、明遣也、}太平樂事終撤_レ器、自_ニ地下一起_レ坐、次堂上、後下_レ蒲起_レ坐也、

凡今年頃正月五日雖_レ有_ニ御樂_ニ御樂始之儀今日也、先

例大略二月有_レ之云々、御人數

◎_{作力}

御所_口箏、親王御方比巴、伏見殿比巴、內府比巴、山科大納言_口笙、持明院中納言_口笙、夏、奉行四辻中納言_口笙、公遠

左衛門督_口笙、源中納言_口笙、大炊_口口口口口納言_口笙、_{經賴、五常力}樂、

老君子、慶德三吹_レ之、衣冠也、依_レ未_ニ拜賀_一也、友

行吹云々、凡未_ニ曾有_ニ事候_一、如_レ此人攝_ニ宴遊_一、_口家輕

忽也、甚不可說、南郭竊却可_レ謂_ニ美、予_口笙、長治朝臣、

箏、雅朝々臣、_{笛、今日有、改、障、不吹、殘樂、}季滿箏、橘諸光箏、源元仲笛、地

下景長笛、公久、_{大鼓、調子、}廣遠_口笙、太神景治_口笙、_{常樂、慶德、}五

常樂、慶德、

カリ也、最前度々打_ニ鉦_一、_口行、_{筆樂等}

也、

事終於_ニ鬼間_一二盞、折物二合、_{マンチウウ、}則下_ニ地下_一、_{於_ニ陣座_一各賞翫云々、珍重々々、}

廿三日亥、晴、_口御樂、非番也、然而禮參_ニ御兩御所_一、

無_ニ御所作_一、當番公遠卿、雅朝々臣_口笙、_{橋諸光、河南浦力、}無_ニ御所作_一、當番公遠卿、雅朝々臣_口笙、_{橋諸光、河南浦力、}

_口樂、拾翠樂急也、各二返、_口退出、於_ニ伯亭_一、

傾_レ坏、樂急、長慶子、春庭樂、_{只拍、}習_レ之、公久來

也、及_レ晚歸宅、

廿四日 今日晴、朝間細雨霏々、今日月次御樂也、

_口從_ニ奉行_一被_ニ相觸_一、太食調_ニ傾坏樂急_一、太平樂急、

長慶子、此外平調曲可_レ有也、時刻午一點、子已終參、

未無_レ人也、未始_ニ始行番所衆所_一、御坐御三間、親王

御坐御學問所、妻戶御簾被_レ垂也、_{不參故障、}山大_口明、_{太平樂、所作、}

四中、源中_口笙、_{故障、}予、伯、季滿、橘諸光故障、源元仲_口口、

地下兩人、公久、廣遠也、兼行不參、先太食調々子吹、

次太平樂急、傾坏樂急_ニ反、次長慶子_ニ反、此後平調御

樂有_レ之、調子更平調吹_レ之、音頭已上公久也、三慶

急、老君子、小君子、林歌、慶德也、予林歌不及
所作、抑長慶子、傾坏樂、並林歌等、伯、元仲、御譜
密々沙汰不可、予譜、林歌如形雖所吹之、
有拜旨、口簾中、親王御口所也、爲口口口口用譜、是
又老者大略、常口口旁不可說也、今日大食御樂初而
所作、然而惣別樂如形調者也、其後有御酒、及晚
退出也、

廿五日、晴、今日內御會也、可參之由一昨日以親
王御方、內々被仰下、畏候由申入了、今日日野月次
法樂和漢約族、按、
詔歟、然而勅口口問、不及是非之
由申遣之處、彼會口廿六日云々、重而謝々二月口事
他、口刻計參內、未無人也、及數刻、漸參內者近臣
五六人之內歟、遲速有之、朝家輕々謂歟、抑源元仲
及子終參、如形之輩、以應召爲過分義之處、
遲參甚狼藉也、其後持明院參、未始許始行、御三間
爲其所、親王上壇御座、主上御引直衣也、赤大口口
口、公卿參、持明院、前孝、四中、公遠、口口親綱、予也、雲

客雅朝々臣、源元仲、雅力口朝番衆所上壇歟參也、次親

王口、予則參進取御硯蓋進御前、此事兼而親王被仰
下、中宮、內々色代

之處、可參之由被命、上首歷々
早非可憚、仍不及時宜也、次進親王御前、次置三下壇中

央退、次臣下次第進取了、次又進之、其次主上兩

首令取給、親王被
仰入也、又親王一首令取給、次臣下及口口

兩首以上十五首也、予非可進於親王之由頻申入

候處、令取給候後下給之間、不及是非頂戴了、口

口御詠草紙并御硯進之、臣下口口口則取三下之、元

仲各分、之、口口口口同進之、次持明院起座、口口

口口口口、主上其後令起給、口口口^{◎三字原}
御本塗抹之及日

沒各清書、其後出御、各口座<sup>此時乘
燭也、</sup>次進口口蓋、先親

王、次臣下、建置終之後進御前、予無案內候處、隨

御氣色了、次被召、可被讀上云々、予參進讀

之、御製七首、親王五首、以下一返也、其後退、次入御、

其後有口蓋、^{一カ}口及音曲、其後退出、口口當年御會

始無之、三光院事以下口之故也、仍內々最密也、傳聞
口口衛門公國新地三光院之時分口相口之由、今日信長

被^レ申云々、珍重々々、

於近日度々□物喚時宜快然也、源氏物語御本^{竹川卷可}不足

書進之由被^レ仰下之間、則先日立^レ筆、此御本先朝

被^レ遊候立處之御本也、□□伯也、隨分能筆之衆也、□

□^{雖力}斟酌、堅勅命之間如^レ此□歟、相半先年□□亭樂

□也、從^レ七年□法樂^{天神}也、發句^{亭主、每}月如^レ此、□□□にもい

どふ嵐かな^{發句ナルベシ}□□高辻長雅卿ほのかなる聲を

名殘の鷹鳴て予、

高辻藤中^{永相}、柳中^{淳光卿}、左衛門督、言經、水無瀬、兼成、予

□辨^{鳥力}宣^{亭主}、□□廣橋^{兼勝}朝臣、右衛門佐^{永孝}、五條爲名等也、予

十二日沙汰了、入^レ夜歸宅、□□間抱^レ取□千部經也、

天王寺樂人、三人、□□□四中公違相伴□頭見物之次、□樂

等助成了、二三卷終之後、□□之時青海波二反、予一身

吹也、□□後衆僧休息也、此間□□門跡久我故大將息

也、□□前於^レ彼間、有^レ一盞、是□□殿上人來、今□□

□山科同異體□□來了、實門樂也、興行太越也、□之跡、

夕經始、亂聲伽隨千秋樂吹也、此時爲^レ見物、諸光來

入同助^ニ成筆集、六ノ卷之跡、越殿樂同一身吹^レ之、公

久□□及八卷終候時、同枚伽隨之調子□□□寶寺衆

云々、導師因播□□也、根本寶寺之實相坊也、□□

彼附第也云々、

□□亭一盞、以^レ予親王御方へ被^レ申入、□□儀談^レ之、

水無瀬同道、其後□□□予等□異體東山知恩院邊□□、

晚小雨下、侍也、^{備力}東山歸路之砌、□□一身騎馬、人

數百五十計也、

□□□也、再返到來、到來□□僞^ニ相傳也、□□今

日□□樂當番也、然而臨四□□□歌之陽伯^ニ相傳了、

傳聞四中左金□□左馬助等云々、連歌水無瀬同道及

晚、

□□□□□前右府堂上廿三人、御注文入名□□□

□□此後□有^ニ參賀人、其後參長門□□助□□參^ニ殿

御方御所、御□面、御放布結□□也、入^レ夜參内、參衆

□□□中、廿中、左金、源中、勸中、□□雅朝々臣、

季滿、慶親、橘諸^{光力}□□□□間外□□□

□□□□□□□內有御法談、可參候由今朝被仰、
□□□等□始行於小御所、山大、源大、□□予、雅
朝々臣、□存、橘□□、源元仲、

〔以下缺〕

嘉永四年亥初冬於京地得之

中院通勝卿自筆小卷二卷合爲一卷

同五年初冬得閑暇爲復本寫之 丹鶴書院

東大寺繪所日記 天文四乙未正月廿七日

東大寺繪所方日記 補任フニンノヤウ

勸學院クワンカクキンノ年預ノ五師、時天文三ノ午ノ年ノ

春ヨリ申懸被_レ下、明同天文四乙未正月ノ廿日 文科フンレウ

七百文トヤク_約ソク申、ソノ廿日ニ貳百文沙汰申候、

ノコリ五百文ナニ時ニテ候へ、御寺門ヨリ下行アル

ベキ時、沙汰可_レ申ト申サクソク請狀申シ候、其後

カノ年預ノセウカウ順禪房、貳百文禮トシテコノフ

ニシ_任ヲツク也、其時ハ二月十八日、カノ順禪房セウ

カウケカレノサシ合アリテツケズ、正月廿日ケンカ

ウ房セウカウ同道ノ後、フニントリテ、二月十八日

マデアヅカリ候、コノケンカウ、セウカウワ其時ハ

預年ニテワナシ、コノ人ニテ五師へ申入被_レ下、喜

多ノハウ琳賢殿トフチカツ丸ト東大寺兩繪所コレナ

リ、セウナンニンフニントウサル、□□□ノテフテ

カツ繪所ニ入カハリ、

八幡宮作營アルベキ祐專上人勸進之聖トシテ、東大

寺ニ_{總起}ニ_勝キ大佛三卷コレアリ、ニクワン林賢沙汰、壹

卷フチカツサタ、ニニ_{繪ニ五段アリ}五タンアリ、ニタンヲ代ニ_{三〇〇}百

文、

藤勝殿

沙汰候時_(預年)チン用如意輪院中將之五師、工ノ事ハ勸

學院本坊令ニ沙汰進所也、_{天文五年六月六日}

又壹段、祐專上人壹貫貳百文令ニ沙汰候、鎌倉殿

前右大將後門番沙汰アル所也、

其外大佛殿ノラキハン_{福板}ノケシヤウノレンケノ事

ヒカシリンケンサタ、ニシフチカツサタノ事マギ

レナシ、

一東大寺八滿宮作營候、天文七戊戌十一月晦日彩色

候、琳賢_{慶カ}之助我等存所、_{小南院中琳賢共ニ}少南院春勝出則杖領此參

沙汰助書之聞候而、同十二月六日出ニ門足一候、ヲ

キノケ候、

林^賢 助^{不和也}
リケン^{年預}ト スケン中ワルキ也、

予ンニヨリ地蔵院ニテアリ、寺門

ヨリ中人アリサタ、^{沙汰}

天文十六丁未十二月十三日ヨリサタアリ、

一東大寺八幡宮若宮殿造榮アリ、御簾彩色アリ、琳

賢助公兩人於^(云ユリ)勸學院百文ツ、日別而沙汰アリ、

春勝五日ヨリ五百文一人別ナリ、

ミスノカズ五枚、^本ホン社ニ一枚、ワキ二枚、^脇年預

ノ五師地蔵院弓勸房ト申ナリ、ソレヨリ廿日ウノ

日ナリ、^{社頭}シヤトウエノボル、少南院ノ中坊、琳賢

殿、助公三人ナリ、御マエニテサグリヲトリテ、^{取テ}

ワカ宮殿サキシク、^{彩色}南之方ヲ助、^{北ノ端}西ノ方中坊、北

ノ方ヲ琳賢殿、キタハシワ、^{ニツ}上フタツハ上ノスキヤ

琳賢殿^(キタハシ上ニ)中フタツワ^(中ニツニ)助公、下フタ

ツワ^(下ニツコン)ソツ殿、サクリヲトリテ、^殘ノコリテ

一アリ、カナモノカタ中ワリンケンハウ院^{琳賢房}喜多^{少南院}兩ノ

ワキワ東坊助公、^{彩色}スケノ^{キミ}スチサキシキワソツ殿、コ

レモサクリ、

一寺ヨリ出候物ハ、^珠シユ、^膠ニカワ、^{桶カ}ヲキエハフテス、^筆

キノヘニハチニツ、^{興炭}ヲコシスミハヒハチ一ツト

合三ツ、

カンシ松煙十丁、^{間飲}納所ヨリケンスキタルモチヲコ

シコメ、^餅上人ヨリケンスキ、^{密甘}モチ、ミカン、ウツ

ラヤヨリウトン、^{餛飩}酒^(シンサウ)サケ、^{新藏}ノ屋宿坊^{助ハ同}シヘヤナ

リ、

一^{遷宮}セシ宮日、同廿六日、^{彩色}サキシキ方^{レキシ所}リケンハ代ハ

廿一日三方ニ拾貫文入出來後廿六日三方江江三貫

文下行、同廿九日三方へ三貫文下行候、

芝藤勝殿返事

□賢□

天文十七年申、^(メウコン井ンキヤウノウ)年預ノ五師妙嚴院ナリ、大宮殿キ

タハシノ彩色アルベキニ、小南院方ヨリ以ニ申狀

愁訴申候、既寺門并筒井殿御談合ニ及ヒ、三人ト定

候事無^{筒井殿}紛上ハ、則ツ、キトノ狀寫并中坊狀是ヨリ

順昭^{井殿}ツ、英舜房ヘ懸ニ御目一候處、年預五師江飯田

飯田ハ筒井カ家老カ、飯田居住内侍
原ニアリ、飯田辻子分ハ御宮こいふヲ遣相尋被^レ申、參一

進無^{メウコン井}之候歟、

年預五師之狀多シ

妙嚴院ヘ八幡宮御タ、リアリ、其御ワヒコトニミ

ヅカキノヨリモノサキシキテマキラセントナリ、^{彩色}

私ナカ^レノキレキン事ツキテ、淨賢トホウシア

リ、コレ則使ナリ、サタノヨシアリ、^{ケレトモ助ニ}

^{キチ、リンケンヨリ如^レ此ヨ申サル、間、}
則メウコン井申助申トツタルニヨリテ、

天文廿一年壬子二月二日、東大寺八幡宮ミヅカキ

ノヨリモノ五マキツ、^枚、妙嚴院ヨリ彩色^{寄進}キシン代

百卅文^{ワタクシ}ナル間、^{此如ク代成由}繪所三方コレサタ、ムカシワ代

貳百文ヅ、ニテ候、^{今ハ}キマワヤスクテ^{安ケテ}

同二月十日後彩色出來候間、ミツカキエリモノ五マ

嚴院ヘ後エリモノ渡ス、則其代六百五十文、淨賢

^{コシチニ}ク人ナリ、使トシテ請取申也、

天文廿一壬子十一月十四日、東大寺八幡宮ミヅカ

キノエリ物、琳賢殿ヘ六枚ノヨリ木屋ノカキト

院トリ沙汰ナリ、然上ハ後民部サセ申サル、上、

繪所中三方申合、興福寺六方妙喜院ニ沙汰非人可

^{評定}レ有旨平定アリ、民部シウキロ^レワビ事仕ニヨリ、

延引、シカレ共後水ガキノエリ物サキシクナレバ、

福住殿ヘ談合シ、中ノ坊ノ中間三人、後民部ガ宿

所ヘ遣、三カヲキケルホドニ、民部ハウセケル、中

ノ坊ヘ禮五百文トリツキ、百文十二月八日^観預舜ト

申者召伴^{十二月}八日助法橋繪所三方禮出ナリ、

東大寺年預ノ五師ヨリ中ノ坊門届申サルノ様體ハ

此水墻ワタクシ二三入シテ奉賀ナレバ、繪所エハ申サズトアリ、中ノ坊返事ハワタクシナリトモ、彩色ハ繪所可^レ令ニ沙汰候旨ナリ、此度マヅサキハクバカリナリ、以後ニ此ノゴトクナラバ、ケンテウノセキバキアルベシト返事アルナリ、

東大寺八幡宮水墻エリ物三枚、普賢院ヨリ沙汰、代百卅文ヅ、合已上三百九十文、竹屋ノ等慶願人トシテ、天文廿一壬子年十二月大晦日エリ物ヲ渡ナリ、則枚足渡有也、并木屋ノカキトニ、ミント申、シラウト申エリ物六枚サイシク、代七百四十文渡セト申、繪所ノ衆三方申合、筒井殿并輪住殿ニ談合モテ、中ノ坊チウケン三人ツケ、ランハウシテウシナキケル、其禮ニ三方へ三百文出テ、ワビテ其エリモノワケケル、

一天文廿三甲寅 六月、東大寺八幡宮大宮殿御マエノ

キヌフセギノエリ物サキシキ、合四マキノウチ二枚ヅ、其代百文ヅ、喜多坊東坊兩人シテ沙汰貳百文、兩人分ナリ、納所地藏院年預五師、

一同若宮殿ミヅカキエリ物五枚、合十五枚ノ内、代百文取、天文廿三甲寅七月晦日、地藏院修理ノ納所一龍江成ニ沙汰、又若宮殿犬フセギノエリ物四枚ノ内、勝南坊中坊壹枚、東坊助方へ壹枚、ノコリ貳枚、琳賢殿一龍ノサタナリ、代百文ヅ、一大宮殿キダハシノ彩色、大參御殿一社、助法橋指彩色沙汰ナリ、其代貳貫五百文ヅ、三社七貫五百文、天文廿三甲寅四月十六日ヨリ沙汰、

一コン十七日ウヅラヤノウドンサケ^{ウリ}ツケ一コン、又上人ムシム申、

又一コン九月朔日地藏院、同廿七日ニコンニヤノヌキ物、サケアリ、タソアカキメシ、キモタウ入タルミニテ、シンザウノ屋ニテ一コンアリ、サケ地藏院シヤウハンニテ、

一八幡宮若宮殿水塙より物一枚、天文廿三甲寅八月

十五日、有專上人持置ナリ、代百納所地藏院、

一八幡宮彩色ハ中社琳賢房、南二之御殿、勝南院中

ノ坊、大ミ御殿、芝東坊法橋、塔寺門以平定ナリ、

助法橋沙汰、

一天文廿三甲寅八月十六日ヨリ東大寺八幡宮太宮殿

キダハシサキシキサタ、貳貫五百文、日數ハツカア

マリカ、九月六日マデ沙汰候、年預五師修理地藏

院弓口房、

一元龜參年壬申四月廿九日、

大佛殿其沙汰大勸進道安法師、山田房繪所助法橋、同四

月廿八日大殿出、同尺迦如來可ニ插薄ニ事、并蓮花

一花本尊カキ可レ申事候、

一少南院フニン觀舜ニハトラサル事一定、其子細ハ、

當寺ミシンケン沙ニキカト申貴僧アリ、其ノクワ

ンラクノ時、八幡於ニ新藏屋ニシンサウノヤニテ、青口金剛ミツエ

申專行其時モ少南院方ハ不レ出、林賢方計沙汰ニ、其

時此時フン藤勝モ出事シヤウ明ケキナリ、

一エキノ時寺御存知事修理之時ハ成福院ノ會合クワ定五師

ハ中將マニスチ文ニ勸學院ウケ有、則人之五師同道申、

觀音院ニ出候處、寺ヨウロクヲヒク也、藤勝ウケ

有、繪ヲサタス、此時少南院如何候カマワレ候ハ

スヤ、

一當寺觀進、ラウベン、テウケンヨリコノカタ、口

セン上人カキリ奉賀ラズにて、寺社コンリウノコト、

メツンアラス候、何哉彩色他ニ存知候哉、

一當寺繪所存故ハ、淨土堂後拜、逆修、御本尊二月ハ

林賢、八月ハ助、此兩人沙汰事于今候、不思儀方

にて可レ成御尋知肝要候、マキレ無レ之候、

一大佛殿禮ハンケシヤウノサキシキコヒ申事、

繪所祿東坊

惟房公記

天文十年

十月

一日癸丑、晴、時々雨、小春佳節珍重々々、家門祝着如_レ例、座主宮、三位局、中院前宰相中將、行向述_二嘉言_一了、入_レ夜參内、新大納言廣中、予、伯二位左衛門督、四辻相公、羽林高倉、以緒朝臣、國光、源爲仲等參_レ之、天酌如_レ例、

二日甲寅、晴、傳聞攝州多鹽川城郭、近日、三好、波多野以下責向之處、木澤飄楯之條、三好已下陣所悉以敗北云々、右京大夫進退如何、天下又大亂之基歟、午刻向_二新大納言第_一、中院同在_レ席、一盞張行之後、漢和一折催_レ興、予上句、菊殘霜隙地、落葉か庭にそよく山風、新大納言夢歸るかりねの枕月ふけて、中院、以下略_レ之了、今日吉川庄家領書狀等依_二吉日_一調_レ之、

當年予始而調_二遣之_一了、求_二路次之便_一、山井因幡守景雄近日可_二召下_一之由課_レ之了、如_二先規_一可_二京着_一之條勿論々々、

三日乙卯、晴、柳厨子邊火事、五十間計燒失、家公、予、内山等馳_二向相國寺_一、松泉院近所之由告來之故也、

堯西堂持向、盃勸_二一盞_一、沈醉歸宅、爲_二番代_一參内、内々可參之由、留守中有御文、一續可_二罷遊_一之由有_二勅言_一、予、當番、伯卿、當番、四辻宰相中將、非番、高三、非番、以緒朝臣、當番、十五首、御當座也、勅點之事申入、在_二此裏_一季遠卿於_二御前_一讀上了、

四日丙辰、晴、因幡國會下僧禪師號之事懇望、仰_二子細_一之處、然者改_二書狀_一一筆所望之由申之間、文言無_二其謂_一之由頻固辭之處、重申之條、如_レ此遣_二書狀_一者也、引合用之事、凡丞相之風躰也、不_レ可_レ然歟、但東山左府所爲又不_レ苦之樣被_二記置_一之間宥用了、

因州智頭郡龍田山與雲寺者、爲_二石屋門派_一、臺昭和

尙已來酌_二法流之滋味_一、住持相承于_レ今無_二怠慢_一之由、尤神妙候、彌可_レ被_レ奉_二祈_一天下安寧_一事可_レ爲_二專用_一候、法威貴敬之餘令_レ投_二短筆_一候、恐々敬白、

十月四日

惟房

興雲寺

立文如_レ例、禮節已下有_二所存_一、如_レ此調遣了、仍禮青銅百足送_レ之了、

五日丁巳、晴、

六日戊午、晴、

七日己未、晴、及_レ晚參_二座主宮_一、御參內之時云々、入_レ夜向_二四辻相公羽林亭_一、中院等在_レ席勸盃、

八日庚申、晴、入_レ夜參_二座主宮_一、今夜中院前相公羽林御櫓可_二持參_一之由申之間、予令_二召具_一參之者也、

庚申之間及_二夜半時分_一祇候沈醉退出、今日番代、依_二不具_一不參、

九日辛酉、晴、無_二殊事_一、就_二紫課役之儀_一、茨木四郎右衛門入_レ夜來、家公御對被_レ下_二御盃_一了、自_二坊城_一

記六五合可_レ預_二置文庫_一之由懇望之間、入_二置文庫_一了、頭右中辨宣治朝臣明日越州下向云々、宮御方御對面、於_二愚亭_一勸盃、

十日壬戌、自_二微明_一雨下、晝浪々及_レ晚屬_レ晴、予誕生日也、別而看經如_レ例、

十一日癸亥、晴、早旦行水、三十願未進一卷書寫之、入_レ夜參內、御嚴重可_レ令_二拜領_一之用也、宮御方御參內如_レ例、甘大、新大、予、伯卿、菅相公、四辻、羽林相公、高三、以緒朝臣、重保、源爲仲等參之、

十二日甲子、晴、無_二殊事_一、細川家逆亂未_二靜謐_一、日風聞難_二勝計_一、

十三日乙丑、晴、

十四日丙寅、晴、

十五日丁卯、晴、早旦行水、日待立願果也、祇候御方御所、

十六日戊辰、晴、向_二新大亭_一白地對顏次參_二座主宮_一、御參內云々、次向_二中院第_一對顏歸宅、

十七日己巳、

十八日庚午、微雨下、入夜參座主宮、今夜新大納

言實世卿嫁娶云々、能州畠山九郎息女也、

十九日未辛、晴、

廿日壬申、無殊事、畿内少々今日納所之事相論云

云、細川邊家僕等對甲冑徘徊云々、

廿一日癸酉、

廿二日甲戌、

廿三日乙亥、

廿四日丙子、晴、論語御講釋御再興也、七之卷之末清三位入

道參之、

廿五日丁丑、聖廟月詣、路次依物忿未進、

廿六日戊寅、晴、

廿七日己卯、

廿八日庚辰、晴、

廿九日辛巳、晴、木澤左イ右京亮謀逆之事、自昨夜又

興盛、自曉天下騷動、今日細川右京大夫至東

岩藏山本館取退了、室町殿頗可奉供奉之田雖申之、無御同心、

卅日壬午、晴、無殊事、今日大樹至慈照寺御沒

落、

端書私山槐記也
治承三、正、

傳聞、故法性寺殿被示字治左府曰、依號沓脫

乍着之昇降之條、雖可然隨時事也、庭上有入

之時、懸尻於沓脫着沓者也、予往年爲殿上人一

時、朝覲行幸之日、於院立中門廊砌、他殿上人一

兩同立此所、故中院右府入道于時爲右大臣左大

將、昇中門廊之間、脫沓於地上被昇沓脫者也、

今隨思出記之、

治承三、二、

廿六日、天晴、新大納言公教被承大將兼宣旨、晚陰

參内、頭中將曉更宣下云々、内府實辭退替云々、

治承三、三、

一日、饗事、大臣大饗不論親疎行向事也、至于

大將饗者強不_レ然事、也

二日、天晴、大理殿二男祇王 爲_二第子始、被_レ渡_二宮法

印_二最雲七條河原房、若公裝束二重織物櫻狩衣、二重

織物紫差貫、各織
鷄丸、薊黃句三紅打、同單衣、以_二紅薄樣_一

爲_レ口帖帟、薄樣扇檜扇
畫繪、

同月四日、

今日有_二除目、左大將藤公教、權大納言
第五將菅清原助種、

上卿內府宰相春宮權大夫云々、

右以惟房卿自筆令書寫了

天明二年十一月十一日

正二位藤(花押)

天文十一年壬寅 權中納言從三位藤原朝臣惟房廿一
歲

正月大

一日壬午、天晴、四海平安之春萬民快樂之時也、奉

拜_二諸神衆星萬佛、如_二例年、參_二詣春興殿、家君同御

參詣也、爲_二神樂代、付_二刀自、刀自奉_レ引_二御鈴、此間令

祈_二念心中之所願、神威所_レ奉_レ仰也、

家門祝儀如_レ例、爲_レ禮來人々不_レ追_二于記、

四方拜如_レ例、藏人右中辨國光奉行云々、頭左中辨宣

治朝臣已下五位職事皆參獻、頭左大辨資將朝臣管領
願自

去年、在不參之間、定_二御簾已下宣治朝臣促_レ之歟、脂

燭已下可_二尋記、

宮御方強供御如_レ例、予可_レ勤_二御陪膳者也、衣冠、此

宮御方御參內、予先着_二衣冠參內、天酌御強供御、

御小盃等、如_レ例、

元日節會也、子剋許着_二束帶參內、巨細記_二于別、衣

紋之事兼日令_レ約_二高倉三位卿所束也、勸盃、

今夜奉行職事藏人左少辨賴房初度申沙汰也、兼而送_二

一通_二捧_二請文了、仍所_レ參也、

二日癸未、天晴、家門祝儀如_二昨日_一鏡向之、大餅
也、俗之

所_二向用也、

三日甲申、天晴、早旦行水、元三日也、

爲_二番代參內、伯卿以緒朝臣等參_レ之、先_レ之天酌如

例、無_二御強供御、

四日乙酉、天晴、入夜權辨晴季來、宮方申文作法尋之、令諷諫了、家君御出座勸盃、禮衆不略記、

五日丙戌、雪下、入夜屬晴、叙位議也、戌二點參內、着束帶、無文九韉紺地平緒、薛繪細太刀如例、於太刀者、義隆朝臣先年賜之、舊冬拜資日帶之後、今日又帶之、昇高遣戸排徊簀子邊、奉行職

事藏人右中辨國光申云、只今奏聞撰定終云々、內覽

之事殿下准后也前太政大臣種家公就大樹御同道、自舊冬坂本御在

國也、仍不及其沙汰也、巨細記于別、執事三條大納言實世卿、初度也、入眼奉行之事、予内々可存知

之由、兼日及沙汰雖斟酌、且傍若無人、至闕如者、補朝儀有何傍難哉、仍搆參者也、作法記別

紙、

六日丁亥、

七日戊子、天晴、家門祝着如例、禮衆不記之、

白馬節會也、予參勤之事、兼日奉行職事、頭左中辨宣治朝臣所觸也、仍參內、戌剋許束帶參內、無參

勤之人、內辨甘露寺伊長卿三納言ケ度也已下、先着衣冠、被參天酌、予爲早速着束帶參天酌了、北陣

等及半鐘被始之、左馬寮役御馬之事及違亂、以外遲々窮屈過法休息于傍、夜半時分節會始之、今

夜參勤人々內辨甘露寺大納言、廣橋中納言、予、左衛門督言繼卿中院宰相中將、通爲卿、舊冬還任、今夜拜賀也、四辻宰相中

將等也、次將左基孝朝臣、右重保朝臣舊冬少納言業四品

賢朝臣、辨賴房歟可尋之、不着外辨也、職事頭左中辨宣明朝臣、右中國光、左少賴房等也、晴秀不參也、巨細注別了、

八日己丑、晴、

自今夜於小御所太元法護摩一七夕日理性院嚴助僧正勤之、每年之作法也、中院宰相中將來被談、

九日庚寅、晴、

十日辛卯、晴、

十一日壬辰、晴、早旦行水、於地上看經念誦如例、於御乳人局佳例勸盃如例、入夜宮御方太元法御

聽聞、予以緒朝臣等供奉、

十二日癸巳、晴、節分也、打豆事如例、

十三日甲午、晴、元三日也、入夜參內、宮御方御參

內也、天酌如例、無御強供御如何、今夜番代、申

故障了、

伏見殿、大聖寺宮、座主宮、三位局、內府、正親町

一品禪門、甘露寺亞相、廣中、日野中納言、左衛門

督、中山前宰相中將、宣治朝臣等亭行向了、當年禮

也、

十四日乙未、晴、入夜雨下、

十五日丙申、雨下、入夜屬晴、家中祝儀如例、入

夜參內、宮御方御參也、先之宮御方御強供御如例、

甘大已下各被參了、天酌如例、此後於東庭御三

毬打又如例、

廣橋中納言先日當家代々內辨御勤仕之分可書給之

甲仰舍之處、今夜於禁中賜之、此分也、松林院儀同

殿御勤仕之內猶可有之歟、可勘知者也、

十六日丁酉、晴、自昨夜潔齋、早旦御靈社歡喜寺等參詣也、千卷心經看經等如佳例、

十七日戊戌、晴、

十八日己亥、晴、及晚色參番代、今夜御三毬打

也、依女院御忌月無大鼓鼓、只以竹葉ハヤス

迄也、

十九日庚子、晴、和歌御會始也、御題兼日家君被相

催者也、廻文如例年、午剋參內、御會紙令持參

了、家君依御不具無御參、予各々懷紙取集之、招

飛鳥井大納言下讀師之事於御三間申了、於御三

間講稱如例、讀師發聲飛鳥井大納言兼行之、家之

人之故也、前內府內被入之、講師之事去年頭左

中辨宣治朝臣勤之、當年連年斟酌之由雖申之、先

例勿論之上、講稱無御人之間、於雅教朝臣者可

被召加之、宣治朝臣講師可存知之由被仰付了、

廿日辛巳、晴、

廿一日壬寅、

廿二日癸卯、

廿三日甲辰、

廿四日乙巳、

廿五日丙午、晴、皇上爲御祈禱、因幡堂藥師參各申

沙汰也、今月今日廿大被_レ始_レ之、先向_二彼亭_一了、廿

大、勸大、予、伯卿、左衛門督、高三七人也、

廿六日丁未、晴、向_二勸修寺大納言亭_一、朝食各相伴、

及_レ晚沉醉歸宅、西國使僧上洛、

廿七日戊申、

廿八日己酉、

廿九日庚戌、

卅日辛亥、向_二中院相公亭_一、沉醉歸亭、

天文十一年

三月

權中納言從三位藤惟房

一日壬午、雨下、早旦行水如_レ例、雨儀依_レ不_レ合_レ期、內

侍所月詣懈怠、三十願同前、今夜內侍所御神樂也、

去年惣用之儀不_二相調_一之間、至_二當年_一延引也、奉行

職事權右中辨晴秀自_二去年_一管領頭資將令與奪云々朝臣今日奪之、早參

己下可_二尋記_一、午剋參_二座主宮_一、今夜不_二參內_一、故障之子

細有_レ之故也、

二日癸未、晴、午尅向_二中院宰相中將第_一、左衛門督

等參、令_二勸盃_一及_二數盃_一、入_レ夜歸亭、於_二彼第_一明應

致_二連歌懷紙_一一覽了、於_二德大寺亭_一張行之懷紙云々、

其人數、逍遙院入道內府、冷泉民部卿入道、姊小路于時侍從大納言

中納言其綱、已下雲客歷々、細川、政春、細川右京大

夫高國、兼載、此外不_レ知人數有_レ之、亭主于_レ時前左

大臣也、句上之所、只任_二句之次第_一書_レ之、又當官書

_レ之如何、於_二大臣亭_一連綿如_レ此歟、又對_二政春等_一會

釋歟、假令前左大臣、政春、姊小路宰相、侍從大納

言、高國、兼載、基春朝臣ナド如_レ此書_レ之者也、

三日甲申、晴、踏青佳節珍重、家門祝着如_レ例、

午剋參_二座主宮_一、此後參_二伏見殿_一、中書王講御見參、此

後三條大納言、中院宰相中將令同道、參大聖寺宮、御對面、被出御盃、此後向內府第對談之後、又參座主宮、兩人依勾引也、御盃及數獻退散、次參內、於常御所天酌如例、宮御方御參內也、傳聞一昨夜御神樂、出御時分聊屬晴云々、所致神感也、主上今夜早還御云々、庭燎之內還御云々、被表御宿德之心也、連年之時以後云々、如此御代々御沙汰也、後土御門院殊更御老後如此云々、

去月廿九日午齋亥刻地震云々、在富卿進勘文云々、天下御愼云々、坂本殊更鳴動云々、

傳聞、除目執筆無御人、各故障、仍前內府公條被轉右府參勤之事被仰出云々、內々申領狀云々、三公以下無人之體也、彼流右府之事初例也、尤過分之御沙汰歟、且相似傍若無人者也、剩爲拜賀之料、千疋被付下云々、驚耳目一事也、除目執筆令練磨之者、向後諸人可汚槐門事、可及連綿哉、爲家之初例之上者、可謂冥加歟、又可蒙天罰、

之基歟、不知事也、每事莫言々々、四日乙酉、晴、入夜微雨又屬晴、

聖天御法樂和漢御會也、兼日被催之、女房題以辰文也、

刻所參內也、前內府、前當大納言爲學卿甘露寺大納言、三條大納言、予、中院宰相中將、執筆也、四辻相公羽

林、高倉三位等也、入夜退出、御茶以緒朝臣勤之、

五日丙戌、晴、及晚天參座主宮、次向中院相公

羽林亭、入夜歸宅、

六日丁亥、晴、自午剋參座主宮、各御銚子御樽等

令携之、庭前梅得其盛、爲各申沙汰催興了、

內大臣、公賴前內大臣公條卿、竹門、甘大、飛鳥井大、予、

中院相公羽林、高三、宣治朝臣等也、歌曲入夜、亂舞

沈醉之後、伏見殿渡御、及半鐘退散、

七日戊子、晴、及晚向中院第一、

八日己丑、晴、今日禁裏御法樂御和漢也、觀喜寺御法樂、

兼日預其催、今朝俄申故障之子細畢、番代、又

不參內、

九日、庚寅、侍從宣綱今日四品之事勅許云々、舍弟頭左中

宣治朝臣頻執申之間、前內府内々奏聞、依有子細

面向甘露寺大納言奏之云々、在國之者尤雖可爲

斟酌之儀、宣治朝臣言上分者、涯分爲名代可勤奉

公、假令貫首當年中可令存知者到來年昇進事

可堪忍之由申之、仍勅許云々、讓勞之沙汰尤神妙

神妙、

眞光院前僧正尊海今日轉大云々、

十日、辛卯、家公御當官亞相之事今日以辭狀付宣治朝

臣御申之、猶可有御存知之由被仰出云々、重

奏聞云々、

春日祭參行之事承候、聊雖無疎略候上難調候、

殊上首歷々之事候間、當年之儀者彼中可被仰定

候、於事調候者、更不及守次第候歟、今年諸

知行等無足過汰候間、此度事不能了簡候、此由

可然候様可預御奏達候謹言、

三月十日

惟房

辨殿
廣橋殿

十一日、壬辰、

十二日、癸巳、雨下、内々御申沙汰兼而伯卿觸之、

依雨儀延引、於御樽者今日各進之、父子不各

別、於參内者祇候云々、伯卿内々示送之了、及晚

向中院亭、除目清書、今度可存知、内々習禮可見

訪之由示送之故也、少々述愚意了、

十三日、甲午、晴、内々之申沙汰如例年、於御三

間御盃參者也、宮御方、中務卿宮、大聖寺方丈、南

御所女中等簾中也、簾外祇候之衆、一位入道、黃純色薄紅梅浮

也、甘露寺大納言新大納言尹豐卿廣橋中納言、權中納言、

卿公叙予、伯二位、左衛門督、四辻和公羽林、高倉三位、

基存朝臣、外樣者也、近年依無人歐、被加外樣者云其家不相應之事歟以緒朝臣、重保

朝臣、晴秀、藤原氏直、源爲仲等也、七獻之時天酌

也、藤原氏直參之近年如此無勿體歟、下京之地下

者卅餘人祇候、音曲亂舞入夜者也、

十四日乙未、晴、及曉向中院相公羽林亭、除目大

間、長祿三年度、久我相國通尚公執筆、參勤大間、令

遂一覽了、以次如法三寶院內府通顯中院先祖也、神木入洛

之時叙位執筆勤之、彼記遂一覽候、彼家説用花園

方説云々、小折紙叙人之内、尻付臨時卜付之、自

院被仰云、只一院御給ト可改之由後曰被仰下之

由見彼記、

十五日丙申、晴、宣治朝臣來、勸盃、入夜參座主宮

勸盃、禁中花下令申同道了、

十六日丁酉、晴、早旦下向坂本、大樹御沒洛之後、

未御禮申、當年御禮又不申之、旁家君爲御名代

下向也、宣治朝臣令同道者也、各異體申御禮之

由風聞何如、各着戎衣者也、依御陣中也、桃花坊右府可

有下向、路次内々御同道之由示之、申同道了、

令下向、則内々申次入魂、今日御一獻時分也、明

日由申之、仍空相待申了、

十七日戊戌、晴、參室町殿御陣所肩衣袴體也、予、宣治朝臣令同道參之、今日申次朽木民部少輔也、

ソハツ、キ體也
此後右府被參之、假被引延屏風、予等其次袒候、

先右府御見參、申次資將朝臣也、次予參之、依東

衆自御座敷參之、朽木民部少輔申次也、次宣治申

之同東衆也、次參前關白給御盃、此外知音方へ

行向了、次起宿所參社之後入夜歸亭、

十八日己亥、晴、入夜微雨、昨日申刻於河内國太

平寺邊一戰、木澤左京亮信貴城、二上、飯盛等城郭之

人數五千餘人相引打出之、高屋城人數遊佐新次郎、此

外泉人數并三好神五郎等八千人餘人隔落合川及

一戰、木澤左京亮首、遊佐被官小島捕之、此外百餘

人打死、木澤一陣須臾之間敗北、少々近邊爲灰燼

云々、盛者必衰之間更不堪驚者也、木澤首及晚

自細川右京大夫方召進室町殿、明旦可持下坂本

云々、

及晚參内番代也、於御前數剋申入請事了、以緒

朝臣一身入夜相加了、不參御前袒候也、久不申入候、年始御儀早々可申上候處、路次

以外由候間遲引、恐存候、就中當季御祭上卿御參向之事御難澁令折節尤候、雖然寺門煩敷被申候、於社中者御理運之次第不存候間、不能是非候、御放氏事爲寺門不相捨被申候、則南曹申入候、所詮爲禁裏樣寺門へ可被仰下候事肝要候、來冬季之時上卿御參行無相違御座可爲詮要哉、寺門多人數は種々評定に間如、此、更於神主不存如在、此旨宜預御披露、恐々謹言、

三月十六日

家統

奥梁瀬修理進殿

十九日庚子、朝雨、及晚屬晴、一昨日十七日及晚自奈良之音書、今度春日祭上卿之事、未從之人々故障之間、可注交名之由自寺門申之、若於故障之人々者可放氏之由、去十五日歟註進、新大納言尹面歟豊卿、日野中納言光康卿、同新中納言晴光卿、予四人免々奉行申送故障之子細之處、自職事國光方申送之歟、

重一昨日申送分者、四人之内予參行理運之處、及儀無勿體、所詮可放氏之由爲寺門頻申上、尤驚入者也、於新大納言者、中納言時遂不遂參行、日野黃門兩人是又于今未役之也、今度又各故障之處、閣上首四人、予及放氏之沙汰子細如何、爲歟慮堅及仰出之由有之間、先令安堵了、更無分別申狀也、自京誰人令和談哉驚入者也、所詮當季之事者、自去十五日學侶有申旨、先日及喧嘩、爲學侶閑籠云々、仍諸事停止之上者、雖有其仁、冬季可爲延引事也、冬季之事堅可被仰付之由、爲禁裏被仰下、微臣無所在之心底、併可在神慮者也、就此儀神主家統當家御師也、號新藥師與、送書狀、種々入魂尤所祝入也、

今朝陣座立柱云々、

二十日辛丑、

二十一日壬寅、早旦行水、三十領未進書寫之、

二十二日癸卯、

廿三日甲辰、番代申_二故障子細_一了、

廿四日乙巳、吉田神主兼右朝臣子息昨日加_二首服_一、今

夜爲_二御禮_一參_二親王御方_一、衣冠五位、不_レ能_二御對面_一御

太刀進上云々、予不_二對顏_一沈醉之故也、烏子百枚芳

給之、尤祝着者也、主上御對面云々、可_二尋記_一、加冠

廣橋中納言云々、

廿五日丙午、晴、向_二中院第_一、通冬卿曆應四年度叙位

執筆記借_二請_一之、於_二彼亭_一少々令_二書寫_一了、

廿六日丁未、晴、九州へ書狀遣_レ之、買船之便也、

廿七日、戊申、晴、早旦行水、春日祭日也、上卿依

無_レ下向之人、被_レ付_二社家_一之由先日之沙汰也、但

依_二閤籠_一諸神事停止云々、一向無_二其沙汰_一歟、予於_二

庭上_二奉_レ拜_一之、三十頌臨時一卷書_二寫_一之、奉_二行心

中之喜安_二了_一、

廿八日己酉、天晴、柳營今日自_二阪本_一御入洛、御乘

馬也、以_二相國寺法住寺_一假爲_二御所_一、被_レ宛_二吉方_一故

云々、若公御板輿、同渡_二御相國寺_一也、御臺御方

同前、陽明前關白塗輿、資將朝臣騎馬也、供奉之、大
直綴之體也
覺寺門跡乘馬、久我中納言同乘馬、諸大夫兩人騎馬
召_二具_一之、

右京大夫等今日自_二阪本_一上洛也、自_二攝州_一一昨日上

洛、昨日_日廿七至_二阪本_一參_二御迎_一云々、天下躰先似_二太

平_一者哉、

廿九日、庚戌、晴、入_レ夜前關白被_レ參_二親王御方_一、

當年御禮云々、有_二御見參_一、宮御方御ソハツ、キ也、

久我中納言同被_レ參_レ之、今夜參內之歸云々、廣橋中

納言爲_二申次_一參了、

去廿七日以_二便宜_一對_二家統_一遣_二奉書_一、今度祭之事、

寺門申狀令_レ懸_二不審_一者也、案文續_二與方_一了、

禮節有樣遣之事、已書遣之條、向後可_レ改之者哉、

猶々御未役之御方々數多之處、於_二御故障_一は各

一同_二可_レ及_二其沙汰_一之處、中納言殿御一身指

當て被_レ申_二、其謂_二哉_一、寺門御返答之趣被_二注

進申_二、可_レ被_二喜入_一、

先日御狀不_レ取_二御返事_一、使者下向申、今日不_レ能_二一封_一、抑當季御祭上卿御參行之事、中納言殿任_二其理運_一可_レ有_二御參行_一之處、被_レ及_二異儀_一之條、可_レ放氏申_一之由爲_二寺門注進_一、被_レ驚入_一候、其故は御上首四人未役之御事處、最下薦へ指當而被_レ申事如何哉、先第一ニ勸修寺大納言殿、是は中納言之御時も御未役、殊今度は是非之御返事無_レ之由、西園寺中納言殿_{是は十月迄鳥丸殿御重服也}、日野中納言殿、同新中納言殿等歷々御座之事、先是等上首之御未役次第被_二申達_一、於_二御難澁_一は、彼切口え放氏沙汰可_レ有_レ之事、中納言殿御儀は第五番メ御切口之事、當年之儀は不_レ及_二御覺悟_一處、指詰て被_レ申、剩及_二放氏之沙汰_一事之子細如何、所詮歷々御上首之切口え可_レ被_レ申事勿論、寺門御分別了_レ殘、惣別神慮之儀、不_レ被_レ守_二次第_一於_二御事調_一者別而被_二申請_一可_レ有_二御參行御分_一處、如_二御存知_一播州就_二錯亂_一、御家領非_二沙汰之限_一

之間、種々雖_二御馳走_一不_二御事行_一、是は格別之事、今度之儀就_二御理運_一、御難澁曲事之趣、寺門之申狀聊參差、此等之子細定不_二相届_一之條、此分は哉、態以_二御使_一可_レ被_レ申處、路次物忿之故、先以_二便狀_一申候、能々寺門へ可_レ申達_一之由、中納言殿仰所候也、恐々謹言、

三月廿七日

光成(花押)

新藥師奥殿

天文廿四年乙卯

十月

廿三日甲酉、天晴、今夜改元定也、予參陣之事、兼日奉行職事藏人權右中辨經元内々示_二御點之由_一訖、右大臣_{公朝公一上也}故障云々、上卿無_二其人_一、予上首、雖有_二兩三輩_一彼等元祖無_二奉行之例_一、此内中山大納言_{孝親}有_二忠親公例_一、_{于時號堀川大納言(忠親)改元曆爲文治之時上卿也于時大納言}被_二相模_一歟、被_二仰出_一之處、平故障云々、然者予奉行事

不可讓于他、勿論也、理運也、必定可存知之由
 被責仰之、經元爲勅使、度々傳示仰之旨云、頑
 愚質云、不合期旁雖難定參否、慙繼元祖之遺
 慶、忽在卿相之班列、又普及連議奏之仗給、剩永
 享新號之時、建聖院內相府于時大爲上卿御參勤
 也、無所于逃者哉、予不堪其器、不做其才、
 倩案之、雖似補朝儀、須蒙蒼天之責諸者哉、
 凡延久六年以來勘文、大納言奉行例希有、纔廿餘ヶ
 度歟、予可加邂逅之員數之條、可謂高運乎、
 如招傍嘲耳、既捧請文之上者所構參也、
 子尅許着束帶、位飽文響唐草當家用之、一門不然、時調一枚折紙次第繪細大刀、細地平緒無交王邊方帶等如例條取等令懷中之、小雜色八人取松明先行、如木雜色、
 一人取松明、右方、前驅、二人、中務權少輔源清種、入道前右大臣諸大夫前渡者也、取松明先行、在左方、如木雜色路次之程可在後歟、單物
 侍五人、此外雜々五六十人在共、扈從之輩頭辨賴
 房朝臣、彼又雜色二人取松明、先行云々、藏人權辨經元、同前、從路次、
 大外記清原枝賢朝臣、局務也、馳來令扈從云々、此扈從事、出門之砌

及臨時、內々申之、可爲前驅歟、可爲扈從歟、不審之由示之處、高祖父內大臣殿御時、彼先祖度々令扈從之由申定云々、於大納言御奏慶之時、者無此議、旁以不詳者也、於今夜亞相之拜賀馳走之志者隨分也、猶就自他之例、可勵之也、行粧如斯、舞踏畢着殿上、起殿上參御所
 方、拜龍顏、戴天盃之後、則着陣覽吉書、不起
 座行事、此作法難、勿論衆目猶誤、入道前右府者也、着與座承仰、則於與座行事、一上之外本儀也、但於與座行事如無其便也、然者承仰結申勘文一通之後、令懷中移着端座、更令披見勘文兩通之後、可見下之條宜歟之由、入道前右府等相談也、此儀後日勘之處、舊記分如此、先例如合符節、雖然幸今夜着陣之次不起座相宜之由存定、仍於端座行事訖、下吉書於淳光之後、正笏候、吉書作法、通爲卿、端座、依前官如何、有議之事也、侍從前中納言也、雖當官或如此、管中納言、長雅新宰相、親成卿、第二參議也、着源宰相中將、六位外記保重卿等相引列座、次予以官人召外記、其詞、大外記可參事歟、召大外記中原康雄跪小庭稱唯、更來職、外記之處、小外記來之條尤奇怪也、後日枝賢朝臣來申云、清家外記不參之、以少外記爲代每度之例云々、中家外記雖爲局務參之云々、此事不審、清中勝劣如何、既參陣之條可應上宣事也、仰云、上達部ハカク天文改元之時有沙汰歟、猶可尋記之、仰云、上達部ハカクハカリ也、中原康雄稱唯退去、藏人權辨來、下二年號勘文、二通在懸紙之內、兩通之、予置笏取之置疊上、刷衣衫、任當手取上之、結申之時、經元仰云、依

兵革可被改元、各定令申、予微唯、氣色、經元退、

不卷之以前更能々見之、可相叶道理一歟之由、

當座愚意也、結申ハ承仰之作法也、依改元勘文之内可存定事也、引文以下能々令暗誦可及難陳事也、仍

更見定之、先、次今一通取之靜見之、加懸帛置下、

氣三色廣橋大納言、次取勘文遣之、及手遣之口位次之時、取易可氣色

歟之由、雖令工夫、正長度建聖院殿御所爲不然也、仍僕之兼日

談入通前右府之處、其分甘心云々、但不接席對座之條、猶取笏

引勘文之兩端也、取笏候、廣大未取勘文以前、令

目侍從前中納言、此條不審也、先取勘文置我

前之後令氣色、于位次可披見者哉、彼先祖所爲如此、蓋准之、

次第々々見下之、至源宰相中將并置懸紙上、取

笏候、予云、讀申サレヨ、日記云、讀申也云々、此事者者大

行之時、此詞似尾籠、或讀申サシメヨ、臣奉行之時如此歟、爲大納言奉

云々、此詞猶可用歟、又無難用之、源相公申者、何勘文

ヨリ可讀申一哉、此申詞微言不入聞也、剩如述他事、仰云、

博士勘文ヨリ讀申サレヨ、次取博士勘文讀申、今度文章

博士無其仁、仍テ管中納言兼任之也、平惟繼卿中納言之時、兼

任之例々々、於參議散二三位者先例勿誦也、但無博士勘文之例、

近例有之云々、次取兵部卿爲康卿、權勘文讀之後、加

懸紙置前、取笏候、予仰云、被定申、源相公

羽林云、初參候、可被免發言候哉、予重仰

云、先例勿論也、猶可被定申候、次源相羽林逃足、

右方座上也、普請之說逃座下、是中山家說、定申云、□□□□

□次新宰相逃足定申云、□□□□□□

次管中納言申云、所存勘文ニ戴テ候、

次侍從前中納言定申云、貞正元龜之間可有聖斷

候、

次廣橋大納言申云、□□□□□

次予定申云、年號字事兵部卿菅原朝臣勘申寬安、權

中納言菅原朝臣勘申光龜、等可宜歟、此中詞、元曆度吉

元祖御所爲多ハ年號字計ト取條給者也、仍高祖父御所爲可被用此

說之由、正長度御初參之時被模之、予今度倣此說了、長雅卿計

之文章博士菅原朝臣、菅原朝臣ト可號哉之由、兼日訪入道前右府

之處、非本儀之博士、只權中納言ト可然云々、予重尋云、菅原朝

臣ト可號歟、同朝臣可號歟、入道前右府云、

菅原朝臣ト更可號哉之由演說、任彼諷諫事、

次以官人招藏人權辨經元、經元來軾、予示諸

卿云、今一度被定申、爲令開職事、每源相公羽林

重申云、建德新宰相申云、寬安文元、管中納言云、

所存勘文ニ載テ候、侍從前中納言貞正元龜、廣橋大

廣橋大納言遮而相尋云、何號令_ニ治定_ニヤ、予云、弘治之由在_ニ聖斷_ニ示_レ之、聞_レ之後起_レ座、此事先日談_ニ入道前右府_ニ之處、詔書施行已前、諸人不_レ可_レ知_レ之、於_ニ其座_ニ又不_レ可_レ及_ニ告知_ニ之儀、可_レ相_ニ叶_ニ道理_ニ之由、仍不_レ示_ニ諸卿_ニ之處、廣大尋之條、仰聞了、此儀是非如何、尙可_レ示_ニ群卿_ニ之條、可_レ有_ニ其理_ニ哉、新號之治定不_レ知_ニ之者、議奏云、卿相可_レ爲_ニ闇然_ニ之事也、但舊記必示_ニ諸卿_ニ之儀無_レ之、猶可_レ引_ニ勘_ニ之、今夜之儀任_ニ先達_ニ之所爲_ニ訖、次源相公羽林、新相公拾遺前黃門起_レ座、菅黃門一身在_レ座、可_レ覽_ニ詔書_ニ之覺悟歟、

次持_ニ參詔書草_ニ、書宿紙入筥置_ニ笏引_ニ寄筥_ニ、披見之後令_レ見_ニ菅中納言_ニ、依_ニ程遠_ニ及_ニ右手_ニ遣_レ之、彼卿又及_レ手取_レ之、一見_ニ之返賜、舊次第等云、內覽奏聞已前令見、舊卿云々、或者令見屬文之人云々者、儒卿云、一身令見彼卿畢、諸卿相殘之時、其內雖下臈可令見列座之人歟、第一公卿可令見見、後舊例先哲之作法可勸記也、予取_レ之入_レ筥、取_レ笏仰_ニ之內覽_ニ、中原康雄取_レ之退、此間菅中納言起座退出、向_ニ關白直廬_ニ進_レ之歟、

(注)此事兼口談_ニ入道前右府_ニ云、大內記參陣之時、此作法勿論也、君爲_ニ六位少內記_ニ者、招_ニ職事_ニ可_ニ內覽_ニ歟、或者就_ニ弓場_ニ以_ニ職事_ニ內覽奏聞_ニ仰之說在_レ之、可_レ用_ニ此說_ニ哉、或者大臣奉行之時、乍在陣奏聞之時、以_ニ職事_ニ內覽奏聞_ニ仰_レ之、於_ニ着相_ニ者連綿也、是非如何之由談_レ之、入前云、於_ニ弓場_ニ內覽奏問_ニ可_レ仰_ニ之條有_ニ其謂_ニ歟、但六位少內記持參之上者、以_ニ彼可_ニ內覽_ニ之條勿論也、家司或者以_ニ職事_ニ可_レ申入_ニ之條可_レ有_ニ內記存分_ニ、強而上卿不_レ可_ニ相構_ニ之由被_ニ諷諫_ニ了、尤同_ニ此義_ニ了、不_ニ事始_ニ之已前、示_ニ廣橋一位_ニ云、詔書內覽之時分、殿下猶可_レ有_ニ祇候_ニ候哉、然者內覽事今夜大內記不參、以_ニ少內記_ニ可_レ申也、若又令_ニ早出_ニ給者、以_ニ申免分_ニ不_レ可_レ及_ニ此義_ニ之由談之處、定不_レ可_レ有_ニ早出_ニ口、仍令_ニ內覽_ニ了、則歸來奉_レ之、予即又押_ニ遣_ニ之、居廻揖起_レ座進_ニ弓場_ニ、以_ニ職事_ニ奏聞、職事經元出逢、無名門外西予指_レ笏、但

強物也、不自由不_レ差得_一。顧_二內記方_一進寄、捧_レ筥取_レ之渡_二之間令_一懷中畢。

職事、取_レ廻渡_レ之以_二文下_一。拔_レ笏云、奏、職事奏聞_一。自臺盤所妻月付_二內侍_一

如_レ例、之後返_二下之_一、予懷_二中笏_一取_レ之、令_レ持_二內記_一

歸_二着陣_一。提等如_レ例、清書可_レ持參_二之由仰_レ之、內記於_レ軾

從_二懷中_一取_レ出清書、黃紙、入_レ筥出_レ之披見之後、則令

持_二內記_一、起_レ座進_二弓場_一奏_二聞之_一如何、草_二奏聞_一之時、

清書之儀一說也、雖_レ然今夜予初度也、邂逅之公事略儀不可_レ然哉、續目以下任_二本次第_一、大概令_レ進退_二者也、被_二返下_一

之後、予_レ令_レ持_二筥於職事_一、取_二於詔書_一見_二御書_一之

有無_一、廿三ノ兩字以_レ勅筆被_レ加之、卷_レ之入_レ筥、取_レ筥遣_二內記方_一、還_二

着陣、內記置_レ筥退、次以_二官人_一召_二大外記_一。其詞外記召_レ之、可_レ召_レ之後日枝賢朝臣云、予上_レ卿之間、此時以_レ崇敬之儀、參_二之由申_レ之云々傳聞說、

大外記清原枝賢朝臣來_レ軾、問云、中務輔候ヤ、

申_二候之由_一。此詞遣不入_レ聞、重尋_レ之、參陣之由答_レ之、仰云、

候ハシメヨ、此詞如何、只可_レ爲_レ目計、勅可_レ勘_レ之、枝賢朝臣稱唯退、次以_二

官人_一召_二中務輔_一。其詞中務輔召_レ之、藏人稱唯退、次以_二中務大丞源爲仲來_レ軾、

(注)輔不參之時、以_レ承爲_レ代事先例勿論也、兼日仰_二

含枝賢朝臣之間如此、今夜予前駐、中務權少輔

清種也、尤可_レ用之儀也、但局務不_二分別_一歟、仰_二源

爲仲_一云々、但清種早出候如此歟、

取_二出詔書_一遣_レ之、此時予誤致之事仰_レ之歟、惘然不覺、依_レ風病之所勞忘却、起座之後失却之由示_二源爲

仲_一、次召_二內記_一返_二遣筥_一、

(注)或者予_レ筥遣_二中務輔_一有_レ例、此說正長度後久我

相國清道公_{子時大納言}、予_レ筥遣_レ之、不_レ爲_レ可_レ之由、

高祖父御記被_レ注_レ之、爲_二內記筥_一可_レ返_二遣內記_一

之條本路故也、以_二此儀_一令_レ記_レ之給者哉、

次招左中辨淳光_一仰_レ赦令事_レ。其詞詔書旅行已前載_レ詔置令_二原免_一、

此仰詞、常赦之時ハ勘_レユルセ也、大赦之時は原

免_二仰之例也_一、依_二永久例_一可_レ令_レ作_二詔書_一之由職

事仰_レ之上者、永久度被_レ行_二大赦_一乎、然者大赦之

分勿論也、仍原免_二仰之訖_一、

次淳光起_レ軾、於敷政門、代_レ仰_レ史歟、次吉書事移_レ尅之間、密々令

目_二官人_一示_レ之、吉書之事早速可_レ持參_二由仰_レ之、次

頭辨賴房朝臣、藏人方吉書予結_レ之、賴房朝臣仰_二々

詞_一起_レ軾、依_二大辨_一不_レ召_レ留_レ之、更以_二官人_一招_二左中

辨淳光_一下_レ之、取_レ之可_レ起_レ軾之由令_二氣色_一之條、

可_レ結申_二之由示_レ之、仰詞被_レ下如_レ例、略而不記之、次淳光持_二參官方吉書_一、強紙一枚書之加懸紙、予取_レ之結申之儀如_レ元、淳光又結_二申之退_一、次召_二官人_一令_レ撤軾、起_レ座出_二宣仁門_一之時分、源爲仲來告_レ之御祝也、早可_レ參之云云、昇_二高遣戶沓脫_一參_二御所方_一、以_レ經元_一無事珍重之由申_二入之_一、參_二御三間庇_一、御祝天酌之時分也、廣橋一位兼秀藤大納言永家卿、中山大納言孝親卿、廣橋大納言東帶、按捺中納言言繼卿、新宰相親氏卿、源宰相中將重保卿、等列座、中山已參、天酌之時分也、予着_二加之_一、則參_二天酌_一、三度被入之、予不_レ耐_二窮屈_一之條、不_レ待_二下薦祇候_一、令_二早退_一訖、天已及_二曙色_一、月猶在_二半空_一、初度奉行無_二一事之障礙_一、自愛何事如_レ之、依_二兵亂之改元號_一、期_二八挺平安之始_一、萬民快娛之時_一而已、

〔原本以上一卷〕

永祿元年

四月

一日、天晴、初夏之節珍重、早旦行水、神宮神拜日課臨時如_レ例、家領佳例祝儀如_レ例、向_二禰名院亭_一、談_二條々_一、稱云、主上御扇着イ蠅幅一本可_二申出_一之、或人屏風可_レ押之由懇望云々、可_二申入_一之由答了、但只今諒闇中淺黃御扇被_レ持之、去年以來不被_レ持_二金御扇_一也、新扇少々進上之事有_レ之、則各之被_レ頒下_一之由答了、萬供事彼是談_レ之、理性院へ五千疋、此分少々自_二長橋_一下行之可_二申付_一、云々申候、般舟院へ黑衣三部經頓寫經營布施已下千五百疋可_レ付之由申之處經營方五百疋分不_レ可_二事行_一之由西堂申_レ之云々、予、狀一通可_レ賜之、以_二省略_一可_二申付_一之由、可_レ爲_二文言之由所望也_一、稱直談_二西堂難_一申聞之由也、予雖_レ掛_二酌千萬之心底_一、周備干見也、任_二彼命_一可_レ遣_二狀之由諾了_一、今度後柏原院宸筆法花經_{三ノ卷五六行ニ至テ被_レ染_二御筆_一}各奉_レ書之、一部供養也、是又黑衣於_二般舟院_一二尊院長老供養也、加_二布施之事_一、御扇杉原御座候は、可_二申出_一云々、可_二尋申入_一之由答了、入_レ夜參内、天酌

如例、各參之、加_レ布施、并屏風御扇事申入候處、共以_二御拂底之由_一被_二仰出_一了、

二日、大神景雅來、右近將監景致累代之笛事、一管ノ燒サシ、アマ管スソ野、一有不慮子細、自_二先皇御代_一在_二禁中_一、只今スソ野可_二申出_一之由、先度申入候處、有_二勅定之旨_一、但被_二思食_一分可_レ被_レ下之由申_レ之、予可_二執申入_一候由示_レ之、言繼卿先度披_二露_一之、只今予申入タル末之様申_レ之、不分別之趣條々述_二愚意_一了、

三日、萬供着座事、予參勤之事依_レ不_レ合_レ期、雖_レ不_レ及_二其沙汰_一、今一人同者可_レ然候哉、及_二其沙汰_一、仍_レ俄構試之事也、内儀出立方々儀相調候事有_レ之、仍而企之者也、

夏袍之事申_二遣伯卿許_一、此袍不_レ發申_二遣左大將_一了、晴季卿中山以_二右中辨_一被_レ申云、一向宗高田事、内々僧正之事、以_二稱名院_一申談云々、自_二本願寺_一可_レ加_二分別_一、無_二勅許_一候様可_二申沙汰_一云々、松尾祭禮被_レ付_二社家_一之由勅裁事所望遣_二伯卿許_一了、般舟院へ見遣狀之事、

今日調_二遣稱名院_一了、只今稱名下_二向伏見_一云々、五日、經元夏裾芳借致來、

管中納言長雅卿狀到來、中御門與_二坊城_一公事之事申様之儀風聞被_レ尋_レ之、不_レ存_レ之由答了、

六日、柳原資定卿有_レ狀、田舎者勅願寺_二遣參内事懇望_一、可_レ令_二披露_一之由示_レ之、予云、明旦爲_二着座_一下_二向城南_一之條、只今雖_二申入_一明日同前、其以後可_二申入_一之由答了、

今朝到_二城南般舟院_一、家公御下向、明日御燒香、自_二今夜_一爲_二讀經念誦_一云々、阿彌陀經香典五十疋被_レ付_二寺家_一云々、山科前中

納言明日着座劔笏之事、上首命次第可_二申談_一云々、彼卿内々雖_レ爲_二一身可_二帶劔_一之由存分之由、或人談

之、今日來談候趣可_レ隨_二予命_一之由被_レ談了、予云、略_レ劔可_レ持_レ笏之由答了、巨細之段注_二別記之條_一不

違_二于記_一、

七日、陰陽不定、自_二拂曉_一不_二向般舟院_一、着座之儀俄構出候故也、中院亞相、山科前中納言、新中納言重

保、經元、言經、源爲仲令同道了、予板與用意令
昇之、雖然各同道、仍令步行了、巨細有別錄、
八日、晴、理性院僧正上洛、昨日御法會無事珍重之
由被申入云々、三種三荷被執進、禁裏於議定所
御對面、於大典侍局被下天酒畢、兩種一荷賜
予、不思寄芳情也、今朝精進解、爲大典侍局
有相伴之事、家公予計也、

入道前右府參內、於御前被不天盃云々、昨日所
被廻向之詠歌^{五十}并三部經等被備叙覽云々、予
依沈醉早出、家公御祇候云々、

從大坂順興寺、佐順僧都禮札之事到來、爲糸卷代
三十疋自中山大納言被付之、

國勅願寺也

鈍色

九日、一昨日自日野一位申送口口、大僧都參內
之事勅許、彼一品先例等被勘進之、仍於便殿御
對面、小御所也、此等之類後柏原院御宇於、順興寺息號本善
寺佐順權少僧都御禮三合三荷追上、中山大納言令
申沙汰了、

十日、參番別殿行幸巡流參之、番衆三人計也、
鑑取事從理性院條々被申送了、彼申分無先例
之由引舊禮被申了、

中御門、坊城公事之儀、申遣勸修寺一品許、中御
門左少辨宣時來、氏直入道同道、扇臺一荷持來對酌、
彼公事之條々青述思意了、

十一日、鑑取事惣在廳隆生參勸一品亭、具申合之由
演說了、醍醐大藏律師嚴詢鑑取事無謂申分候由申來
了、存分申聞之由答了、賜盃、

先日御願文諷誦^{竹門}爲一覽歟、上々到來、

柳原一位家儀

十二日、鑑取事、眞繼美乃守、先年天文元眞光院僧
正阿闍梨事、依惣在廳緣邊、自然之儀爲名代令
馳走、此者申分彼下行、自色衆有之由申之云々、
仍尋遣了、眞繼於梅尾眞光院同宿了、爲色衆雖
及異儀、不分出之云々、不休之事歟、不審云々、
新中納言重保卿、永相朝臣等參、家君山國條々事申
談云々、

十三日、

十四日、南之方庭裁木少々改之事有之、

勸黃門來談、扇三本哥計可書寫云々、染筆了、大藏律師鑑取事申來事、從二一條殿以三太弼々、彼陣官人證跡被備叡覽、可一覽云々、予云、博奏勸修寺一品也、予內覽、且者有私斟酌之間、早々可付勸一品之由申入了、不及一覽、

十五日、御即位事、豐後國大友修理大夫以三太德寺

之內德禪寺長老以雲和尚可申談、彼長老於三豐州師檀入魂之故云々、此事先度左衛門督雅教卿密々申談者也、彼卿一向卒爾之仁也、仍予令用捨不立入是非也、此以雲和尚事、内々對一品申談之故、如此被來申了、尤可然之由答了、

從三太坂本願寺祖母慶壽院三種折計、ハム一折、鯛一折、角樽三

荷以狀被送之、不思寄芳情也、以次高田極官無勅許之樣、賴入之由有之、

十六日、息女髻ソキ三獻祝着、家公御局已下各來臨、

本願寺返事送三遣雜掌寄所了、

入夜勸黃同道向三進齋許、他行、於勸一品亭中御門坊城公事之儀談之、留守之間從三柳原一品有狀、楮座公事之儀内々可披露之由也、巨細之儀不知事也、期三明日者也、

十七日、

十八日、於三目々典侍局汁有之、相伴了、

楮之事内々令披露了、出納楮存分申來之、其故者藏人方之儀也、仍毎々出納存知之處、只今不及出納、取次自三柳原之品直申入候條、無覺悟之由申之、此事可爲此分之由加三分別、予今朝尋遣出納許之處、他行云々、仍倫旨事先被仰三柳原許了、

楮座倫旨事以下關文

十九日、楮事、以三眞繼兵庫助三柳原一品被述三存分、相三尋楮座田中家久之處、出納取次更不存之由申之云々、更不休事也、出納猶可加三問答之由申付了、

目醫師白語ト云入道來、予目所勞談之ヌル、金當

之一包唐ノ物也、段子ノ如キ物一尺計也、持來、不慮之芳情也、

廿日、就御即位之儀、慶龍來、養雪同道也、大德寺以雲和尚到豐州、大友修理大夫ニ可申下之由條々談之者也、

廿二日、大和宮内少輔許へ遣使者、先度申送中御門公事邊表裏之事示送、

廿三日、

廿四日、以勸中納言越前守進齋方へ中御門公事大和宮内申分相違之趣、對筑前守可申分之由示送了、

此事以下於禁中申遣了

格座繪旨事、日野一品資定卿内々被申入之條、令

披露勅許也、此事子細不審之條々、數反以使者

問答、出納職者一謫出納也、然處先年天文十三繪旨申

出候時、重弘可下知之由有之、日野前中納言資將

所書出也、此事第一不審、第二出納取次可存知

之事候由予不審之處、無其儀之由田中格座申之由、

一位返答、先任此儀勅許也、淳光所書出也、後

刻出納重弘來尋此儀候處、以出納續目繪旨可申入候處、直以緣近申談之條無覺悟候由、予如不審存分申之、予云罷向日野一品亭可申分之由示聞了、

中山大納言息十五歲、明日可加首服云々、一官侍從叙爵之等之事、就輔房被申入、予令奏聞了、輔房口宜等持遣之云々、兼日一官所望之事、童形之分也、先例歟、

廿五日、御即位事、國へ可見遣之由勸一品予連署狀案三通遣一、勸一品分予所書遣也、女房奉書案三通同遣之者也、三ヶ度迄被仰出之條、和尚申下之由國へ可申之由也、尼子方へ狀共遣之、家領之事條條申下了、

中村越前入道就禁裏御賴所之儀、雲州再興事、又雲州御代始御禮事、新中納言重保卿召下書也、事イ次言傳者也、

中山子息新冠元服、今日被來禮云々、

廿六日、風雨、

參內、勸一品彼狀之事談之、

楮事兩度柳原一品許へ申送了、

廿七日、家門奏者所之緣令造作了、

口野一品、楮事被申來、田中狀一覽之、猶出納被尋

御返事可被申入之由堅申合了、

廿八日、參內、於目々典侍局知恩院長老瓶持來、

一盞張行、半井驢庵鯉一折送之、不慮之懇志也、

廿九日、鯉汁、目々典侍被相伴了、

晚喰汁、大典侍御乳人令招引令相伴了、

楮之事田中出狀、自口野一品許到來、

五月

一日、風雨、及晚屬晴、早旦行水、拜神官并諸神

如例、家門祝儀如例、來賓不及記之、及晚參

入江殿、去月廿七日北隣御寄宿、世上物忌之故云々、

入夜參內、於常御所天酌如例、勸一品已下大概

參衆如常、

資茂足汰如例、

二日、侍從卜部兼和來、若州等之儀條々言談、

三日、雨及晚晴、今日室町殿從龍華至坂本被

移御座云々、晴元朝臣令供奉云々、都合人數三

千餘人云々、武將御乘馬朽葉御拾廣袖云々、御衣裳

之體執々有其沙汰定雜說歟、

四日、室町殿遷座之條、京都尊卑馳走物忿、東山邊

諸卿黎民負戴道路之輩不知其數、

角黍卅自禁裏拜領、長橋文有之、自山國枝卿如

形所執進也、

五日、家門祝儀如例、來客濟々不及記之、向入

道前右府亭、於御方前有御酒宴、

六日、御方前棚御造作事有之、聰蓮社於大典侍局

一盞張行、

七日、住持職事從長橋被申入之、右中辨可書與

之由云々、職事禮之事、以樽代三ヶ可調之由、

前長橋被申云々、無是其次第也、強而聊爾之由

有存分者、禮物過分似所望、仍令領狀了、内々

以狀目々典侍局へ申送了、但後日可_レ申入_レ之由先案内云々、江州僧云々、可_レ尋_レ之、

粟津修理來、世上之儀申_レ之、

今宮祭如_レ例、今夜從_二室町殿_一以_二廣橋大納言國光_一、禁裏御代始御禮被_二申入_一之、柳營以_二御内書_一被_レ進_二陽明准后_一、同令_二披露_一云々、國光卿直於_二御前_一申入云云、家公御祇候御取合云々、御太刀糸卷御馬代五百疋云々、馬代五百疋前代未聞之事歟、自_二武家_一五百疋馬代未_レ聽_レ之云々、千疋之内無_レ之云々、御太刀糸卷之類是又不可_レ然事也、銘アル御太刀必被_レ執進云云、御牢人之故歟、及_二遲々_一剩如_レ此聊爾之事也、可_レ謂_二末世_一歟、

八日、自_二禁裏_一御馬代之内少拜領之、目々典侍局有_二懇志之儀_一、若宮渡御、御樽拜領、二荷二色

九日、白語來、手瘡飼_二水蛭_一、經元、枝賢朝臣來、改元之事申送、三好許返狀枝賢持來之、今宮祭祀如_レ例、

十日、番外樣衆自_二明日_一番之儀御再興云々、十一日、行水日課如_レ例、

五條爲康卿來、禪師號所望之輩有_レ之由示_レ之、道正内申之由一章被_二覽_一了、令イ公私御禮儀餘、以_二聊爾之條_一、此事申聞不_レ及_二披露_一也、

十二日、五條兵部卿地下人正道正禪師號事、只今如_二本式_一難調之條、然者御對面はかり申入度之由頻懇望候、之イ内々可_二申入_一之由先答了、也イ通正入道對面若宮渡御、

勸修寺中納言來、從_二松永禪正忠_一就_二武家御出張_一罷上之條、京都御警固無_二別儀_一之由、内々可_二奏聞_一之由申送云々、

勸一品云、御即位之事豐州へ近日使僧可_二罷下_一分也、然者使僧爲_二覺悟_一、御即位大底いかなる事あるぞ可_レ尋之時可_レ答之由、一紙可_二注進_一之由所望云々、

白語來、水蛭飼_レ之、粟津來世上之儀申_レ之、十三日、惣持庵比丘尼珍立來、御對面之事、今朝及_二子細_一之條可_レ然候樣可_レ申_レ調之由頻懇望之、道正所

申也云々、以_二右中辨_一重申入了、勅願所之由申_レ之、一紙到來、仍勅許、明日可_二參內_一云々、

勝軍山邊被_レ揚_レ狼煙云々、室町殿足輕共云々、

室町殿御禮之御返事、今日從_二禁口_一被_二仰出_一云々、中落カ

家君副狀所望之由國光卿申_レ之被_レ遣_レ之云々、

十四日、禁中築地覆_トモ少々以_二陣座板_一令_二修補_一了、

道正取次、兵部卿_{爲康卿}申_二入石州僧_{川イ}依_二勅願寺之由_一

申_二入御對面_一所小御被_レ用_二便殿_一了、益香合代三百疋、

爲_二申次_一一潘芳志、佛物可_レ恐、

十五日、予當番參_レ之、右大將_{通與卿}爲_二番祇_一候於宿者、

中院大納言終夜可_レ勤_レ之、宵程先參_レ之云々、被_レ出

天酒_一中山等及_二數盃_一、

十六日、北隣入江殿へ依_二御招引_一參之、中院同道、盃

酌有_レ之、

十七日、

十八日、理性院上洛來臨、

十九日、早朝三好筑前守士卒京中爲_二打廻_一數千騎徘徊

徊、惣大將同名日向守松永兄弟已下也、伊勢守息十郎同爲_二打廻_一爲_二右衛門督永相朝臣名代粟津修理亮加_一此人數、一万五千人云々、從_二鳥羽九條邊_一大宮通行_レ北、自_二御靈社脇_一出_二大原辻_一富小路、東_テ行_レ南到_二鳥羽_一歸陣云々、將軍家御人數從_二東山_一一切不_レ被_レ出之、天下之安否難_レ側式也、

廿日、理性院筆之汁有_二張行_一、女中衆已下來臨、

廿一日、行水日課臨時如_レ例、三淵彈正左衛門方江遣狀、歡心之趣申遣了、

廿二日、禁中小御所御庭菊之籬被_レ造_レ之、滋野井已

下參_レ之令_二細工_一了、予參_レ之見物、

廿三日、籬同前、入江殿方丈被_レ參_二禁中_一、御檜被_レ進

_レ之、但脚氣之煩行步不_レ叶、於_二御方御所_一、御對面、

御盃二獻、

廿五日、參番、

廿六日、三淵返答到來、母許へ内狀、去永祿改元事、武家へ無_二御案内_一之條不_レ被_レ用云々、内々被_二申入_一可

然之由令入魂者也、此事傳奏無沙汰、言語道斷儀也、

廿七日、向稱名院亭談條々、今夜別殿行幸、依召參之、

廿八日、無殊事、

廿九日、禁裏御誕生日也、嘉例之御盃參云々、女中之沙汰也、予於目々典侍局一蓋張行

早旦行水、於庭上兩宮諸社奉拜之、禁裏御誕生日奉祈寶祚長久者也、看經臨時致沙汰之、

六月

一日、早旦行水、臨時之看經、家門之祝儀等如例、來賓又濟々不及記之、入夜參內、天酌如例、

參仕衆大概如例、

二日、今曉三好筑前守軍兵到勝軍張陣、小屋已下片時相調、室町殿明日到此山可有山取之由必定、仍爲折衝遮而如此云々、世上物忿、地下人等預物等、巷路難通之式云々、

三日、勝軍之人數、其外軍兵徘徊之外無他、

四日、大樹御人數到如意嶽登山結棚、鹿谷邊揚

烽火、近鄉燒拂、自勝軍人數又打出云々、於鹿谷之傍防戰、手負左右及數十人云々、

五日、東麓邊爲敵味方成灰燼、土民家々不便、

六日、大概如昨日禁中陣下物忿氣遣之外、別無

可記之事恐懼□□、

七日、仁木女房衆來宿也、武家依隔心也、

勝軍山之人數、三好人數、伊勢守人數、永相朝臣加之云々悉以打入京中、

但法恩寺、四條道場、等持寺、唱門土村、東寺吉祥寺

邊云々、於勝軍之陣屋者懸火了、即刻大樹御人數自如意嶽到勝軍登山被構陣屋云々、

八日、東河原、東山麓邊野伏有之、

九日、晴、昨日八日至如意嶽責上之人數、三好日向、

松永彈正忠、松永蓬雲軒、其外攝丹之衆下山、自

神樂岡東河原到四條七八九條邊欲引退之處、大

樹御人數五六百人追懸之條、於白川口防戰、討死手

負左右方及三四百人云々、大樹御人數奉公衆山名中務、松任、布世、本卿、松田次郎左衛門尉、此外大館被官富森、甲可衆、龜井之兩人於太刀場討死、此外手負數千人云々、三好人數不知其名、不_レ及_レ記_レ之、手負已下百餘人云々、及_レ晚引退、大樹御人數到_二勝軍山上_一奔昇云々、

十日、番、仁木入道自_二先日_一在此亭、招引勸_二一盞_一了

十一日、行水看經如_レ例、

十二日、

十三日、

十四日、眞繼兵庫助就_二御倉兩人分之儀_一、續目繪旨之事申入之、從_二先日_一所_{也イ}示之、存分申遣、到_二今日_一、重可_二披露_一之由來申候條、慙被_二領狀_一了、

十五日、仁木女房衆以下、今日歸宅云々、兩種三荷芳志、兩御局已下來臨、一盞張行、當番故障、右中辨參_レ之、

十六日、今日號_二喜定_一有_二祝儀之作法_一、家門嘉例如_レ常、局々各江所_レ參如_レ例、午刻自_二目々典侍局_一招引、喜定有_二祝着之儀_一、各一盞及_二數盃_一、沈醉之外無_レ他、從_二是齋方_一氏直入先度中御門與_二坊城_一公事_二付_レ之、三好下知之案可_二返遣_一之由有_二折紙_一、醉臥不_レ知_レ之、

十七日、眞繼繪旨之事申入之、一兩日惡日之條申_二含子細_一了、

十八日、

十九日、是齋申下知案返遣_一、大樹_禁江御音信遲了申_二送子細_一、就_二三淵彈正左衛門_一申入、

廿日、

廿一日、三淵彈正返狀到來、先日御代替御禮從_二大樹_一被申歟申入_二候處御返答遲々_一、又永祿改元未_レ被_二申入_一、于今弘治之由有_レ之、武將御無興之由、内々彈正所_二示預_一故カ也、去七日即御禮、御返事有_レ之、改元事同被_レ申_一、依_二何事_一于_レ今遲々、不_レ達_二武將御聞_一

哉、不審千萬事也、

廿二日、

廿三日、早朝藤藏入種直來對面、彼云、去夜防城種長到_ニ中御門亭_ニ馳入云、此間就_ニ公事邊_ニ不快、已種長及_ニ餓死_ニ之式也、抛_ニ万事_ニ可_ニ申談_ニ閣意趣_ニ之由被_レ申_レ之、驚入之由各申者也、此間爲_ニ叡慮御中分_ニ也、雖_レ然主_ト主_ト直談、閣_ニ鬱憤_ニ上者相調之始歟、以_ニ此上_ニ猶可_レ然之樣、叡慮之儀賴_ニ入候_ニ由申云々、予云、不慮之進退驚入者也、此間爲_ニ叡慮御籌策_ニ、聊相障之儀有_レ之條、自然之遲引更非_ニ公私之踈意_ニ之イ、候處、如_レ此不_レ能_ニ案内_ニ、不_レ經_ニ叡慮_ニ如_レ此之條、於_ニ愚老_ニ者先_レ如_レ失_ニ面目_ニ、叡心難_ニ相計_ニ者也、先直談被_ニ相調_ニ之由、於_ニ拙臣_ニ者可_レ謂_ニ珍重_ニ者哉_ニ也イ、猶自_レ是可_ニ申述_ニ之由申送也、非_ニ沙汰之限_ニ、悉皆氏直入道、大和宮內大輔張行也、雖_レ爲_ニ無事之儀_ニ、何不_レ經_ニ叡慮_ニ令_ニ出奔_ニ哉、此殿先以曲事之隨一歟、向後之始末如何可_レ見者也、恐遣_ニ使者於管中納言長雅卿

許_ニ、彼卿自_ニ先年_ニ同_ニ相尋候處_ニ、自_ニ昨日_ニ他行云々、申置歸了、_{之イ}

廿四日、愛宕地藏權現宿願之儀有_レ之、行水看經也、心中之所願成就勿論々々、是齋來訪、防城進退之儀不_レ能_ニ分別_ニ之由條々述_ニ愚存_ニ一、兵部卿_爲康卿_來、種長進退之儀述_レ之、於_ニ下拙_ニ者此後之事不_レ可_ニ存知_ニ也、每事無與所_ニ驚入_ニ也、鬱憤條々示聞了、

廿五日、聖廟畫像名號奉_レ懸_レ之、看經法樂、入_レ夜參番、

廿六日、目々典侍局來臨、對酌之儀有_レ之、自_ニ左衛門督_ニ有_レ使、女房衆也、明日元服也、參內、明日禁裏御衰日、可_レ爲_ニ如何_ニ之由被_レ示_レ之、於_ニ參內_ニ者不_レ苦也、一官加級者明日可_レ然之由示了、

廿七日、今日左衛門督雅致卿子息雅敦元服云々、祖父加冠云々、理髮極蔦爲_ニ仲云々、

廿八日、

廿九日、從_二左衛門督許_二兩種一荷到來、今夜可_レ來云々、午刻向_レ局、局云、從_二庭田新中納言_二以_二女房衆_二被_レ申云、雲州杵築社神主二位之事所望也、披露頼入云々、此事如何云々、

神司二品之事、更以不_レ聞事也、吉田預兼俱卿初例歟、是者有_二子細_二而別儀歟、此外初例不審、普光院殿御代春日神主二位事雖_レ有_二御執奏_二、依_レ無_二先例_二被_レ閣_レ之_一、不_レ及_二沙汰_二之由答_一、

入_レ夜左金吾來臨、双瓶又被_二持來_二、丁寧之沙汰令_二迷惑_二了、一盞張行、彼卿今夜申分取_レ要記_レ之、

一御即位申沙汰之事、豐州大友内々存寄_{之イ}事也、去年直談也、其分猶罷下者、可_二申調_二候趣不分明被_二相述_二予云、此事内々以_二別人_二令_レ仰之筋有_レ之由承及_一、猶令_二奏聞_二可_レ申由答_レ了、

一歌鞠兩道之事、先年前大納言八境圖數十卷相調、ハ幡法師也橋本坊ト號ス廻_二諸國_二取_二門第_二云々、頗以不_レ可_レ然之由先皇江申入、勅書申出之云々、一卷

加軸表紙被_レ閱_二一覽_二、勅書之趣、

近日在國早可_レ罷上之事、乍次被_レ仰、近比道之者トテ、非分之者_一事、代々御師範事、兩道再興事、一當今 勅書同可_レ申出_二云々、

如_レ此アレハ二樂少將頼孝入道までは可_二相支_二之由存分也、此事者不審之事歟、庶嫡其流々者其通傳受可_レ授_二他人_二之條勿論歟、橋本均ナト尺門之身、以_二父之八境圖_二賦與之儀者不_レ可_レ然事也、可_レ有_二差別_一、

卅日、向_二左衛門督亭_二、糸卷太刀出_レ之、賀_二首服之儀_二、左金吾雅敦兩人對顔、一盞張行、參番、

中山大納言云、雲州住人安倍氏之輩有_レ之、有春卿餘流也、久絶而不_レ預_二官爵_二、今度以_二便脚_二叙爵令_二懇望_二也、可_レ有_二如何_二哉之由被_レ談之、予云、安倍庶流之輩於_二必定_二者叙爵程の事は假令雖_レ及_二數代之中絶_二、不_レ可_レ有_二別儀_二事歟、北面侍サヘ其外侍モ叙爵ハ被_レ免之事也、若一向作リ言申輩多之、然者其

段能々可_レ被_レ究之由答了、中亞云、猶使者可_レ尋究云々、予語云、一昨日歟從_二庭田女房衆邊_一就_二目々_一典侍_一被_レ申云、雲州杵築社主二品所望云々、此事不_レ及沙汰之由予申合了、重被_レ申云、然者三位所望云々、予云、無位之輩直叙_三之三位_一、言語道斷由又答了、又被_レ申云、然者四品事所望云々、予云、直叙_三之四品_一、是又不_レ及沙汰事也、如_レ此事重保卿淵底可_レ爲_二分別_一之處、如_レ此申分不_レ可_レ然、只一向不_レ可_レ被_レ取揚之由答了、若此者就_二其方_一今叙爵ト號_二令_一所望哉、不審之由答了、中山云、此事一向不_レ觸_レ耳事也、猶可_レ尋云々、以次中山語云、先年先皇御代、アソノ官神主二位トヤラン三位トヤラン之事、菅中納言長雅卿位記ヲ書寫テ職事ハ弟ノ日野前中納言資將卿分ニ調テ遣_レ之了、取次ハ持明院基世^{德大寺家}禮ノ者也彼國ニ通達、仍相談云々、叙爵ヨリ上階マテハ國カラハ次第々々ニ申入キ、一部持明院中ニテ打留テ謀書ヲ召下了、三位ヤラ二位ヤラノ謀書之

時、長雅卿同意令_二露顯_一了、仍於_二神主_一者無_二聊爾_一之條、今一度可_レ申改_二之由_一勅定、仍自叙爵次第申入ヘキトヤラン聞及シト云々、於_二長雅_一、基世_一者其時遂電了、其後長雅ハ勅免、一級ヲ被_レ除_テ如_レ此、又昇四位了、於_二某世_一者永令_二沈淪_一御成敗之差別巨細不_レ知_レ之、依_二偏頗_一如_レ此之由其世比風聞了、以上亞相語也、飛鳥井侍從雅敦昇殿事、一昨日廿八日申_レ之、侍從事同申_レ之、如何之由被_レ仰下、申入云、侍從事ハ無_二相違_一事也、一昨日可_レ申入_{之イ}候處、依_二御衰日_一用捨、只今申入者也、昇殿事は又無_二別儀_一事也、但一昨日即爲_二御禮_一參内、御對面之條、翌日昇殿之事申入之條、事之理相違歟、其上近年各如_二無沙汰_一不_レ及_二申入_一也、其分可_レ然哉之由被_レ仰者可_レ然之由申入了、本儀可_レ申請_二之條_一勿論也、父左衛門督以_レ文付_二勾當内侍_一申入云々、此段不_レ可_レ然事也、非傳奏、傳奏、職事者直奏可_レ依_レ事之事也、

後六月

一日、行水日課臨時已下如例、家門祝儀又如例、兵部卿營中來、防城事以別人可取替之趣存分可奏聞之由談之、予云、今度之儀對左右方失面目之式也、此一筋曾以可閉口之覺悟、更不可被奏聞、非等閑之趣申放了、伯卿來臨相談事、土州孫之事申下候處、難召上候由返答云々、入夜參内、天酌如例、參仕衆如常、外樣番衆山科前中納言賴房左金吾也、

二日、於局敦光爲一品使來、彼杵築神主二位事也、三位分注小折紙四品云々、先御代ハヤ四品之身云々、昨日以庭田申分者、四品今イ又可申入之由申之、前後不同之申分如何、於局有二盞之事、左衛門督侍從雅敦兩人、於御方御所御庭蹴鞠之事有之、山科前中納言同參之、烏帽子葛袴也、御櫛進上、被下御盃雅敦初參、被下御翹了、中山大納言以大典侍彼有清叙爵事被申入了、勅答予兩人加分別可宣下之由被仰下了、

三日、家公御振舞、鴻汁御張行、局伊氣等來臨、兵部黃門來如朔日之儀、重申之堅申放令固辭了、中山大納言來臨、安倍有清叙爵名字在清下在ノ字之由、以右中辨傳語、予以狀右之字不審之由申送之處、尤無餘儀、然者有ノ字ニ改テ宣下賴入之由被申了、

四日、禁裏御本御虫拂、愚臣參之、少々御本拜見、今度或女中或臣下盜取之先賢御病臥之問之事也由聞及之處、實以其分也、御記六、哥書已下和漢之御書籍悉以紛失、不堪嘆嗟事也、

五日、禁裏御本御虫拂參之、入夜番、

正親町一位入道權大僧都口宣所望名字日請云々、予云、若於蓮黨者不可然之由令不審之處、薩摩者也、非蓮衆之由返答、仍書遣了、輔房分也、自勝軍城大樹御人數百餘人打出東河原云々、足輕兩人粟生少將法師此外步兵三人討死云々、

三日分記之、

中山大納言内々被_レ相談、安倍有清叙爵事、安倍氏之條、有ノ字勿論、予存分尤也、今之使者無_ニ分別、主モ文旨之故、在之字付_レ之云々、然者改_レ之者可_レ爲_ニ本望_ニ之由被_レ談了、賀茂氏在字、これハ上アキ如_レ此訓也、安倍氏は有ノ字アリ也、申分何とも不_ニ分別、雖_レ然中山大納言無_ニ聊爾_ニ之由、已入魂之上者、強而不_レ及_ニ是非_ニ事也、禁裏御禮并上卿職事禮事、八月ニ使者可_ニ罷上_ニ之間、其時可_ニ申入_ニ之由約_レ之了、無_ニ相違_ニ事之由亞相被_レ命之條、以_レ次可_ニ申入_ニ之由答了、

中山亞相神宮傳奏被_レ談云、去月廿三日神宮外宮上棟、無事令_ニ沙汰_ニ之由注進云々、有_ニ或比丘尼_ニ號_ニ上人_ニ、先皇御代被_レ下_ニ上人號、女房初例歟、名慶光院卜號ス、以_ニ諸國勸進之力_ニ此上棟取立者也、内々又内宮上棟存立云々、雖_ニ不相應之事_ニ、末世如_レ此之儀、神慮有_ニ子細_ニ歟、不_ニ測知_ニ事也、以上三日ノ記ノ分也、

六日、吉田兼右卿今朝自_ニ若州_ニ京着、

清侍從宿所、依_ニ風中_ニ寄宿、御

料所之儀猶樣躰可_ニ來示_ニ云々、勸一品來臨、豐州下向之僧云、口書御即位之事假令別人申入候共、此筋はかりにて可_レ被_ニ仰調_ニ之由一筆所望云々、書遣云々、

七日、從_ニ若州_ニ吉田兵衛督兼右卿一昨日上洛、依_ニ所勞_ニ今日參申入者也、御料所之事爲_ニ御使_ニ罷下_ニ候處、國之儀依_ニ去年旱魃_ニ不_ニ事行_ニ、以_ニ種々秘計_ニ萬疋爲_ニ舊未進_ニ所_ニ進也、於_ニ當年_ニ者從_レ跡可_ニ運上_ニ云々、國々覺悟沙汰之外也云々、毎月三千疋宛也、然處先皇御代以_ニ有春卿_ニ二千疋宛御佗言申入之間、年中二百四十貫之由令_ニ覺悟_ニ云々、此段先御代未盡之事也、落居可_レ有_ニ如何_ニ哉、其時之傳奏廣橋大納言國光令_ニ申沙汰_ニ歟、但父入道申入歟、父子之間申分不_ニ治定_ニ之由申入者也、

之イ

禁裏江鶴一兼右進上也、若宮御方へ鳥子百枚、局へ杉原茶碗、大典侍卷物、家公卷物、予同、早フク、五束、三好人數一万四五千到_ニ白川口_ニ打出之、無_ニ何事_ニ又

打入了、大樹城郭之内心替之者共有之歟云々、

淨花院松山人數陣取之云々、此院事從前々寄宿停

止之處如レ此、不及了簡事也、其外六町一條二町
正親町二

町、烏丸
橋厨子之事禁裏御近所、自然之儀又御番等令勤仕

之間寄宿、度々令用捨之處、今度又各陣取之由申

レ之、以永相朝臣被仰出了、返答之趣未聞レ之、

若州江勾當請取被出レ之、袖之内申次加銘、此度之

儀予可レ加之由於國兼右卿申談候由、其分之由申

レ之、仍乍斟酌加銘、

予袖書
如斯

若狹國尾濱御年貢、年々未進分、且万疋到來事、

勾當内侍請取如レ此、

永祿元年後六月七日(花押)

わかさくつ御れう所年々のみしん分、まづ萬疋か

つうけとり爲參候、

永祿元年後六月七日

八日、勸黃卿來臨、對進齋、彼坊城公事之届之段、

對松永申聞哉否事尋遣之、内々申聞了云々、從禁裏松永鶴可被遣哉之事御談合、進齋今日故障、仍明日可持向云々、

九日、禁裏御本共虫拂、少々取目六了、及晩退朝

之外無他、從中嶋關錢二百疋到來、未進請取、彌左衛門未上洛、

十日、虫拂、令參内者也、次爲御使向、前右府入

道亭、彼杵築社神主上階之事有勅問、其趣者柳原一

位資定申云、此事可有如何哉之事、談前右府入道

稱名院
事也之處、一階之事者皇室被成下之分ニテ、上階

之儀無別儀、事之由被申、然者以此儀勅許無相

違之樣、賴入之由被申、昨夕來臨之處、予依沈醉

不能對顏、家公内々有返答云々、其趣者稱名院其

分有領納者、定先例無別儀歟、被任先達之

所存、可有勅許歟、面向付勾當内侍奏聞可然之

由有諷諫云々、仍今朝小折紙并狀ニテ柳原申入之、

彼狀不拘先例、只勅許無相違候樣ト如此載レ之、

又小折紙申從三位、從四位下藤原、孝如、此、予一覽
之申入云、四品之事未定之事也、其故者、先日付、
目々典侍、從重保卿內儀、申入之分、二位之事申請
度、^{候イ}由有之、此事無案內之申分也、無先例之由
申遣候處、^{之イ}重申入云、然者三位事申入度云々、此事
又自無位、申入之條不可、然之由返答、又申云、然
者四品之事申入度云々、此段又五位加級已下次第、
不申入者、從六位四品之儀不可、然之由制止了、
既四品之儀懇望候處、^{之イ}今又小折紙四品之分所載未盡
之事也不審也、又自四品、越階上階之事於無先例
者、理連申沙太以不可、然事也、雖然稱名院無別
儀之由被申者、可有子細、勅問可、然之由申入之、
則向彼亭、仰也趣相尋之處、此事先日資定卿申訖、
一階之事者前申入タル分ニテさも可有候哉、既彼神
主所勞危急之由申入云々、然者被成度候者如此も
可有調法之由申訖、但此段強而不可、然事也云
云、予示云、以重保卿連々申入之趣、又二級ヲ越

階、申入之條、先例不審也、但如此之輩一向沙汰
之外ニテ、越階も仕候哉不審之由尋候處、^{之イ}越階之例
誠以不可、然哉、先例不知之云々、又資定卿申云、
今四品之分也、從四位上をハ先皇被成下候方ニテ
正四位下をハ當今去年踐祚已後被成候分ニテ只今
上階勅許候様ニ懇望也、此事予對資足卿、先度述
愚意、其趣者只今上階之事申入候はでは不叶子細
有之者、自然可及御了簡歟、更以非分之叡策可
被成下之條不可、然哉、其上先皇不被成下候
加階ヲ爲、當今前ニ被成候分ニ御沙汰モ不叶道理
候哉、假令以御調法被成候共、御一代之内ニハ可
爲、叡慮次第歟、先皇勅許も無之候物を、被成候
方ニ爲、當今御沙汰之次第ハ太以物忿之事也、殊從
四上ハ先皇御代叙之分、正四位下ハ當御代去年分ニ
被成下候て、連年上階之事、曾以不能分別事也、
自然杵築社之儀、只今神主無上階者一社滅亡之子
細有之歟、よし、越階も御調略も對神慮如此

之由、世以可_レ就_二道理_一歟、先以無案内之儀、或者號_二所勞_一、或者號_二老牀_一、七句 俄所望之儀立入是非之段、且者神慮更不可_レ納受_二事歟_一、神不_レ受_二非禮者哉_一、亂階物忿之儀更以不可_レ謂_二政道_一歟之由、條々令_二言談_一之處、稱名云、尤可_レ爲_二其分_一事也、愚意金言之由承諾、予云、然者次第之加級_{これ}も四品治_{定之上之事也}可_レ入申_一之由被_レ仰可_レ然候歟、稱名云、其分可_レ然云々、又予云、次第之加級年序令_二遲延_一者、老體無_レ所期哉、其段者中三年四年を二年にも又連年程にも勅許不可_レ有難_一歟之由談_レ之、此段如_レ此も可_レ然云々、予又云、如_レ此次第加級申入之後ハ、上階之事可_レ有_二御沙汰_一候哉、就自餘之社例、假令彼家雖_レ無_二上階之例_一、被_レ任_二傍例_一歟之由尋候處、上階之事可_レ有_二如何_一哉之由思慮之趣也、予云、加級之儀於_二申入_一者、定可_レ及_二數年_一歟、先可_レ爲_二其時之沙汰_一哉、但使僧在_二此方_一、其段定可_レ尋究_二可_レ有_二如何_一哉之由強尋問之處、さもこそ御沙汰候はんすらめと被_レ申訖、次源氏御本可_レ有_二新

寫之由勅命也、鳥子五百牧今度於_二若州_一被_レ透_レ之持向之、談合候處、尤可_レ然事歟、御料紙可_レ然之由被_レ申訖、直參内申入此趣訖、勅命云、然者資定卿方へ勅答之趣御案文可_レ書進_二云々_一、即染_二愚筆_一、きつきのやしろ神主上階の事、たゝいまのこおりかみ、四ほんのまゝにておつかいの事しかるべからず、おぼしめし四ほんの事もべちぎなき事にて候は、しだいのかきう申入候て、上階の事はかさねて御されたも候べきかにて候よし申爲_レ參候、

大概此分注進

然處資定卿云、稱名院相談之處、不可_レ有_二別儀_一之由慥被_レ申候條、任_二其儀_一申入候處、今如此又被_レ申入_二候由_一、悉皆惟房申掠之由鬱憤、仍以_二淳光_一尋_二稱名院_一之處、無_二別儀_一、但四品さへ不定之趣申候條、旁以不可_レ然歟云々、四品之段無_二別儀_一事候處如_レ此申成候條、問ニヨル答ナリトテ、重資定卿行向之尋候處、二級之事以_二彼御了簡_一無_二別儀_一事之由、最前之

儀同前也、只今愚臣申分相違之由、對家君被述所存云々、家公被仰云、資定卿分治定歟、惟房申分治定歟、兩般之趣不存知之、明日家公向稱名亭尋究之、勅許不可有別儀之由、於同心者可令申沙汰之、若不_レ然之由被申之分於必定者、不可有等閑之趣被仰含云々、家公被尋予之條、有樣具申入了、如此事以何事可_レ構虛言哉、言語道斷之事也、假令稱名院勅許無相違之由被申候とも、大底於_{ナシ}愚意不能分別、其故者、四品之儀さへ未定之處、よし_{ナシ}四品之事者先御代被成下候分にて、從從四位下不_レ經二級令越階之儀、太以不可_レ然事歟、自然於_{ナシ}社官者傍例勿論之子細有_レ之、者更不可_レ有怪惜候事也、無先例者以何事之賞二級之越階可_レ及御沙汰哉、就中從四上ハ先御代勅許之分ニテ、正四下ハ當御代去年勅許分にて、又當年上諧勅許無別儀事之由覺悟之事、非沙汰之限事哉、如此官爵亂逆之段、雖_{ナシ}竊慮不可

爲自由事歟、代天授爵之由有本文歟、然者雖爲國主、非分之勅許不可_レ叶政要者哉、假令雖逆_{ナシ}竊慮、雖_{ナシ}絶朋友之交、於相違之儀者愚存可_レ申入之覺悟也、資定卿年齡及六十餘歟、耳順之年也、所存又無比與之仁也、於此儀如此以調法有勅許之樣にと申沙汰之段、存慮之外之事也、甚以不當之心底也、諸人如此心中出來、併朝儀零落之瑞兆歟、御不運之事也、股肱鹽梅之臣大切之事也、愚臣愁可_レ謂外威臣歟、爲君爲臣微塵不可_レ存私、欲可_レ抽忠功之心中也、竊慮相違之儀、世上若令風聞者、愚臣之耻辱歟、更不可_レ謂主上之御失錯者也、國有諫臣者何可_レ亂政道哉、寐寤可_レ思之、

若州江兼右卿召_{ナシ}下人云々、然者今度御公用少分不可_レ然之由、被_{ナシ}出女房奉書者可_レ申之云々、對予被_{ナシ}出奉書、則加銘遣_{ナシ}之了、

十一日、早旦行水、所作如_{ナシ}例、

自入江殿御旅宿、御齋食被_レ送_レ之、是龍山禪尼_{故方丈}廿

三回也、六月正忌也、依世上物忌、今日有_レ作善云々、

十二日、參内、御虫拂之用也、言繼卿大納言所望之、

事、近日就_二家君_一申入歟、_{未及奏聞云々}今日就_二家公_一申入趣、

御披露可_レ如何哉_二之由_一勅_二問于予_一之條、自_二前朝_一

御沙汰之次第具申入了、彼申狀之趣、聊相違之儀有_レ

之、稱名院心中以_二中亞院相_一尋試之處、老毫每事忘

却之由返答之由、自_二中亞相_一對_二山科_一被_二申送_レ之訖、

自_二氏直入道_一女房衆妙香圓一包送_レ之、

十三日、若宮御方渡御、稱名院江瓜五送_レ之、近日大

切之式也、仍如_レ此、杵築社神主上階事、柳原女房衆狀

對_二典侍殿_一到來、家公等不_レ相屈_二之趣_也、存分又返

答有_レ之云々、又以_二句當内侍_一禁裏へも被_二申入_一、有_二

勅答云々、近江守景長來、_{樂入也}朝喰申付之、不_レ能_二對

面、安藝大膳助來、妙香圓一包有_二芳志_一、禁裏江同執進

之由申_レ之、仍相_二副使者_一召_二進局_一了、

十五日、中院亞相來臨、山科昇進事、昨日以_二大典侍_一

於_二禁中_一被_二仰談_一云々、此事分別之段具述_二愚意_一、兼
右卿來、明日勝軍江御音信之御樟并御禮御返事遅々
之子細等相談_一、武田陸奥入道_{俗名信虎}所望之三躰和歌
之奥書并外題之事、重所望書_{寫方}與了、

此一冊依_二武田奥州禪門所望_一頃刻之程馳_レ筆、莫_二
敢令_二再覽_一矣、

永祿元年後六月十五日前亞槐_判
十六日、

爲_二御音信_一五種五荷被_レ參候、被_レ表_二祝儀_一計候由、
爲_レ私得_二其意_一可_二申入_一之旨被_二仰出_一候、宜_レ有_二御
披露_一候、巨細右兵衛督可_二申入_一候也、恐々謹言

後六月十六日

惟房

三淵彈正左衛門尉殿

從_二禁裏_一爲_二御音信_一五種五荷被_レ參候、餘以無見
立_レ候得共、路次之儀不_レ合_レ期之由、吉兵被_二申聞_一
如_レ此候、其段可_レ然候樣可_レ有_二御披露_一候、巨細猶
吉兵可_レ有_二物語_一候、兼又先便内々承候する、御代

替御禮被ニ申入候、其御返事不ニ相届候イ之由承候、驚入候、則慥被ニ申候、日付をしるして母儀中脱カまで進候末參候歟、從其後又禁注文イよりも以ニ御太刀ニ被ニ申候處、是又于今不ニ相届之由仰天候、早々被ニ尋究候はば可然候、此方の儀ははやく相届申と被ニ思食候事候間、中々此趣不レ及ニ達ニ寂聞候、其方よりきと御届干要候、爲ニ御心得一日付共注進候、年號候儀は同廣橋可ニ申入一ハ、旁期ニ面日候也、恐々謹言

後六一包扇子五本表
寸志此奥々々々々

三

尙々御代替御禮之事、御陣中御取亂候處、被ニ申入候とて、一段被ニ悦思食候處、此方御返事之段遅々無ニ勿體候、能々御分別して可レ被ニ尋究候

御出張珍重候、早々期ニ御入洛、向後每事御取合所レ仰候、路次不レ合レ期候條、久不レ能ニ音問候、慮外之様候、兼又爲ニ御音信、以ニ右兵衛督被ニ申候由候、就ニ案内ニ者如レ此候、三彈可レ有ニ披露候、自然之儀相共御馳走干要候、猶右兵衛督可

有ニ演說候、恐々謹言、

後六

上野民部大輔殿

御出張珍重

後

彦雅參る

四月十三日の御内書、五月七日ニ披露、御返事やがて七日ニ被ニ仰出候、

六月一日禁裏より以ニ御太刀ニ申され候、此次改元の事申渡候、

御樽目六以ニ檀紙二枚爲ニ折紙、(右注折紙遣候也)勾當内侍調進之分也、

ひしくい 一

ひたい 一おり廿

はむ 一おり廿

二ふ 一おり廿

うり 一おり五十

やなき

五か

以上

(美豆)

(眞天)

三淵方へノ作名

予カ分作名

十七日、從_二目々典侍局有_レ使、可_レ來云々、坂井新

介鈴物持參、一盞張行、沈醉歸畢、

十八日、

十九日、

廿日、兼右卿來談條々、來九月惣用之事、未_レ及_二

其御調、内々武家へ被_レ申可_レ然_{候イ}之由言談、仍認_レ狀付_二

彼卿_一、

先日者種々御馳走之由、殊上意御機嫌相宜之由珍

重存候、即御報備_二 寂覽_一候、御出張之折節、御

近所御警固以下之事無_二 別儀_一候、樣能々可_レ被_二 申

入_一候、兼又來九月之事、漸無_二 餘日_一候、可_レ有_二

如何_一候哉、内々此旨可_二 申入_一之由被_二 仰出_{遣イ}候條、

可_レ然候樣被_レ加_二 御分別_一可_レ有_二 御披露_一候、猶巨

細右兵衛督可_二 申入_一候、恐々謹言、

後六月廿日

三淵彈正左衛門尉殿

但右之狀共遲々、于今不_レ遣_レ之云々、

廿一日、機_二 公事課役之事_一、今日内々所_二 觸催_一也、

廿二日、

廿三日、

廿四日、結城山城入道對_二 勸一品有_レ狀、自_二 松永禪

正忠_一御檜代千疋禁裏へ執_二 進上_{丁イ}也、予相共可_二 申入_一

之由有_レ之、彼使者寄子長井右衛門尉也、於_二 大典侍

局_一一張有_レ之、局務枝賢同在席、

廿五日、内々衆、外樣衆今日被_レ召_二 禁中_一、被_レ下_二 御

盃、麵類之體也、昨日所_レ進之御樽各被_レ下_二 之體也、

予依_二 沈醉_一不_レ能_二 番祇_一候、

廿六日、兼右申云、武田彦次郎所新圖之人丸贊之事、

勅筆申入度由懇望也、彼歌者若見方歌をと、自_レ國

懇望云々、則向_二 大局_一申入之處、御斟酌之由被_二 仰出_{遣イ}

了、以_二 林越前守_一 舜國許_二 江積善院出京_{道イ}之事、水尾_二

可申合^{候イ}之由申談了、

廿七日、無^ニ殊事、六月祓輪之事、新藏人進上被^ニ仰出^ニ之旨有^レ之、

廿八日、無^ニ殊事、井上丹後來、積善院明後日可^ニ出京、迎等事申合了、

廿九日、知恩院長老來臨、双瓶被^ニ持來^ニ對酌、今朝自^ニ中院有^レ狀、御輪事新藏人長治代物二十疋到來、極薦在國如何之由被^レ尋^レ之、大局江申入候處、可^レ付^ニ長橋^ニ之由承、直被^レ付之歟、

積善院迎之事、結城山城方江申遣令^ニ領狀^ニ了、

右蟬冕魚同 永祿元年四月五
月六月カ後之月 壹冊元祿己卯冬小野澤助之進得之京

師寫

原本花山入道定誠公所藏也

永祿七年甲子

正月

一 日己巳、朝雨、夕晴呈^ニ豐年瑞^ニ、祝^ニ着家門之繁榮^ニ

之者也、四方拜出御如^レ例、春雲聊灑、猶以被^レ用^ニ晴

儀^ニ々、云奉行藏人頭辨經元朝臣、^{御覽御稿}貫首已後^{初度奉行}御劔頭中將

重通朝臣、脂燭殿上人、左兵衛佐爲仲朝臣、飛鳥井

少將雅敦、源興治、御草鞋、藏人右中辨晴豐々々、

雖^レ及^ニ天明^ニ猶取^ニ脂燭^ニ云々、或者略^レ之、或者夜中

之分取^レ之、雨說也、早旦行水、用湯、家門之祝着如

^レ例、看經念誦如^レ例、依^ニ小雨^ニ於^ニ座席^ニ四方拜、予

重服、天地四方拜已下之事、舊冬對^ニ兼右卿^ニ尋^レ之、

彼卿任^ニ存分^ニ令^レ沙汰^ニ之、

家門之禮者嘉賓不^レ及^レ記^ニ之、

今夜參內之儀依^レ不^レ合^レ期不參、右大辨宰相參也、

今剋參^ニ御方御所^ニ直垂之體也、頂^ニ戴御盃^ニ了、於^ニ御

伊茶局^ニ勸盃^ニ、二荷兩種送^レ之、

御伊茶局江送^ニ二荷兩種^ニ、有^ニ勸盃^ニ、儲君御盃申出

了、

二日丙午、天晴、家門祝儀如^レ例、廣橋大納言送^ニ

使者云、日野侍徒輝資辨官所望之事、送^ニ所望之

折紙、予對使者云、奏聞之事去年秋之頃辭敷奏、雖然大辨宰相舊冬被補敷奏、可披露之由可

申傳之仰合了、則奏聞勅許下地頭中將云々、入

夜參内、天酌如例、直衣、右大辨相、宰參之衣冠天盃之事、天酌之

次可令頂戴之由急申勾當局、仍巡流之盃不受

之、以天盃一拜受持起之次、於御方御所御酌巡

流、今夜祇候之衆、勸修寺一位、中山大納言、四辻大

納言、予、帥中納言、言繼、源中納言、重保三條中納言、

實福、右大辨宰相、輔芳新宰相中將、公遠松夜叉丸、

中院頭辨經元朝臣、頭中將重通朝臣、内藏頭言經朝

臣、左衛門佐爲仲朝臣、藏人右中辨晴豐、中山少將親

綱等也、抑帥中納言着襪參之月元日如此候、定御免

之事申入者哉、不相應之儀非御沙汰之限、竊慮定

依御無案内被免之歟、云々其家云々年齡尤以傍

若無人之事也、

向北隣新大典侍局、塾居之故也、樽代

三日丁未、天晴、行水、家門祝義如例、慈惠大

師備供物、看經如例、御局已下供物之餅酒令頂戴之、

日野輝資送使、松浪、辨官勅許畏入之由也、三種三

荷不思寄芳志也、

四日戊申、晴、禁中千秋萬歲參歌曲如例云々、

右大辨宰相參之、木子三河禮來、對面賜帶、三筋、嘉

例也、

五日己酉、晴、禁中千秋萬歲參之、櫻町唱門士

云々、

入夜番參、午廻井上丹後、同但馬來、持參物有之、

從大典侍局賜樽肴、

御倉兩人來、對面、長谷川賜盃、

禁中飽始、大工參、予對面、

六日庚戌、

早旦從番退出、

與一來、駕輿樽代丁持參、對面、先於傍一獻已後

賜盃、

天正日記一卷

撰人名氏闕、相傳舊本出_二於華族內藤氏_一舊高遠藩主家、

舊高遠藩主

蓋其祖清成從_二德川氏_一移_二江戶_一時所_二筆錄_一也、清成初稱_二彌三郎_一、更_二修理亮_一、爲_二江戶町奉行_一、兼_二關東總奉行_一、事蹟具_二寬永系圖及藩翰譜_一、今審_二其書_一、全編既殘闕、其存者自_二天正十八年五月_一迄_二十一月_一、凡_二一百六十七日_一、餘皆不_レ傳、附_二載慶長五年八月十一月、六年三月、十一年正月、各一日_一、乃斷簡也、考_二書中所_レ紀_一、如_下墾_二姬池_一、修_二牛島堤_一、置_二驛站於青山_一、徙_下局澤十六寺於神田_上、他書未_二經見_一、可_レ以補_二地志之闕_一、又入_二小田原城_一、勸_レ降者、他書皆作_二羽柴雄利_一、是編乃作_二羽柴勝雄_一、豐臣氏收_レ城、他書多係_二七月七日_一、是編特係_二之六日_一、俱當時所_レ聞見、必得_二其實_一、其他紀_二都邑經營之事_一、多諸書所_レ未_レ載、皆可_レ以資_二史氏之用_一矣、此本稟原信充就_二舊本_一所_レ影抄_一、觀_二其體式_一、通編

記用_レ假字、旁行斜上、漫無_二定格_一、殆使_二讀者誤惑_一、且敘事簡朴有_下難_上遽解_二者_上、今尋_二語脈_一、別抄_二一本_一、又參_二校史傳_一、注_二之欄外_一、以便_二省閱_一、其不_レ詳者姑闕焉、按德川氏開_レ國、百事草創、史官未_レ備、今世所_レ傳日曆、文祿以上率屬_二闕略_一、求_二之諸藩_一、僅有_二家忠記_一、當代記等數種、而其書流傳已_レ久、至_二是編_一、則未_レ行_二於世_一、先輩安積氏於_二烈祖成績_一、松平氏於_二大_三川志_一、林氏於_二實紀_一、於_二府內備考_一、備探_二諸家傳記_一、並未_二收載_一、可_レ知_二傳本尙尠_一、世人罕_レ親也、則雖_二卷頁不_レ多要當_二珍賞_一之矣、

明治十四年六月

茨城 小宮山昌玄考述

原稿箋註、在烏絲欄外、不便排印、爲刊書家所請、乃移置每條下、遂致與老語不稱、讀者或惑、爲贅一言、

癸未桂月 昌立識

癸未桂月

昌立識

天正日記

天正十八年庚寅

六月一日、かのごひつじ、天氣よし、きしゆく、だ
てごの内々にてこの方へ御こし、ゆふき様より御た
のみ也、

六月一日ハ猶小田原ニ在テ記スル所ナリ、今文體
ヲ以テ之ヲ考フルニ、此記實ニ内藤氏ノ親カラ記
セシモノニハ非ズ、蓋其家士ノ手ニ出シモノナル
べし、且五月以上ノ記ヲ逸セシコトハ八月ノ條下
ニ註スル所ヲ見テ知ルベシ○きしゆくは危宿○だ
てごのは伊達政宗○ゆふき様は結城秀康、

二日、さる、ふる、だてごのゆふき様御ちそう、ふろ
たくべしと仰出さる、

三日、とり、六がう殿の御内平八郎まいる、この方御
とりもちたのみの事、はちがたより新五郎様御こし

被レ成候、

六郷殿ハ北條役帳ニモ見ユ、然レドモ其人實ニ詳
ナラズ、今ヲ考證スルモノニ説アリ、一ハ新編武
藏風土記、六郷領北蒲田村ノ條ニ橘樹郡稻荷新田
ノ記ヲ引テ、六郷殿ハ上杉式部大輔氏幸ト云フモ
ノナリトテ、略其事蹟ヲ記スレドモ、上杉系圖ニ
其名ヲ載セザルノミナラズ、其記モ亦信ジ難キヨ
シ云ヘリ、只上杉氏ノ六郷ニ居リシコトハ北蒲田
妙典寺ノ過去帳ニ見ユレバ疑フベキナシ、一ハ栗
原信充手簡ニ六郷殿ハ行方氏ナリ、榊原家記此書ハ
未考ニ出ヅト云ヘリ、行方氏ノ六郷ニ居リシコトモ小
田原記以下諸書ニ散見シ、六郷領中ニモ其舊迹少
ナカラザレバ、此說モ亦斥ケ難シ、然レドモ今兩說
ヲ夷考スルニ、風土記ノ說可ナルニ似タリ、其故ハ
役帳ニ此役御牢人御人體ニ付而赦免御事トアリ、
又領名ヲ稱シテ姓氏ヲ稱セザルヲ以テ、其家族ナ
ルコトヲ知ルベシ、行方氏ハ本上杉ノ家人ヨリ出

デシモノナレバ、北條氏宜シク如^レ此優待スベカラ
ズ、且彈正直清此歲三月山中城ニ於テ戰死シ、其
子孫アルコトヲ聞カザレバ、當時徳川氏ニ降附セ
シモノヲ乃行方氏ナリトモ思ハレズ按ニ行方ノ一族徳川氏ニ仕ヘシモノハ寛永中ニ行方六左衛門胤吉アリ、台徳公靈屋造營ノトキ、其下奉行ナリシヨシ國師日記ニ見ユ、然レドモ其家傳此記ニ合ハザレク、六卿殿ノ其人ニ非ザル事ハ明ナリ、是ニ由テ之ヲ觀レバ、六卿殿ハ乃上杉氏ナリトスルモノ是ナルベシ、只恨ムラクハ
其名及事蹟絶テ考フル所ナキノミ式部大輔氏幸ハ天文永祿ノ頃ノ人ナルヨシ、徳川氏ニ投セシモハ蓋其子ナルベシ、○新五郎ハ未^レ詳、

四日、大との様ゆふき様だてごの御一所に殿下へ御
こし也、くすのこ一はこ平右衛門にかはせる、

大との様ハ東照公ナリ、下文ニこの様トアルモ並
ニ同ジ、○殿下ハ豊臣氏ナリ○くすのこは葛粉か
○平右衛門ハ淺草上平右衛門町ノ名主村田平右衛
門ノ祖ナリ、當時内藤氏ニ從テ關東ニ來リ、其先導
及江戸地割等ノ事ニ與リシヨシ、村田本姓ハ三枝
氏、濱松ノ人、

五日、夜にいり大雨、小田原城中火事、この方より
五十人ほど出る、そのうち火しづまる、おしのなり
たかたより、此方へ内々たのみ申來る、殿下より御
使あり、何かしれず、

城中火事ハ、家忠日記追加ニ、和田ガ從兵百五十
人役所を自燒シテ出奔スト、此事ナリ、○おしの
なりたハ忍ノ城主成田下總守成氏、

六日、江戸の事いろく仰出さる、庄兵衛めしつれ
平右衛門平八郎くら助三人にて内々江戸へ下る、よ
つや五郎兵衛方へ、

庄兵衛ハ村田平右衛門家藏古書元和二年ニ、數田吉兵
衛、大谷庄兵衛、久木善兵衛來ル、此三人ハ御入國
ノ節内藤青山御兩所ノ旨ニ從ヒ夫々働キタルモノ
ニテ、此方トハ格別ノ譯ニヨリ來ル、今ハ何レモ
子ノ代ナリ、又云無年號數田吉兵衛沼津の宅へ歸リ
候ニ付、跡ハ庄兵衛ニ用向アラバ申スベク候様申
ス、庄兵衛ハ久シク一ツ木ニ居リ候コトニ付、用便

可ニ相成候、岩淵ノ久木ハ明月頃罷越ス云々、此庄兵衛ナルベケレドモ、其何人ナルヲ詳ニセズ○よつやは今ノ四谷、古記ニ所見ナシ、始テ此書ニ出ヅ、五郎兵衛ノコトハ下文ニ見エタリ、

七日、うし、淺艸へ行、いろ／＼たゞしかた、町屋みなひつそく、内々のことにて、とりわきこまる、本住院へよりてめし、

本住院ハ長祿圖ニ下平川村ニ在リ、此寺古ク廢シテ其事蹟不詳、舊説ニ本所法恩寺トスルハ非ナリ法恩寺ニ其文書ヲ傳ヘシヲ以テ附會セシニヤ○按ニ此時ハ河村秀重既ニ城ヲ開キシ後ナルベシ、八日、とら、庄左衛門、彌太郎、善兵衛、藤十郎、喜作、喜左衛門、此六人小だばらへめしつれる、ゆかず、

善兵衛ハ久木善兵衛カ、已ニ上ニ見エタリ○此條原書ハ塗抹ヲ加フ、ゆかずトアレバ其事寢ミシナリ、

九日、う、はれる、かなすぎにてひるめし、庄左衛門きもいり、

十日、たつ、ごうけ坂にて甚之丞 このもの、よくわかる、

ごうけ坂ハ澁谷ノ道玄坂ナルベシ、

十一日、み、ふる、青山しゆく場とりたて候様、甚之丞申出る、御入ぶの日と申、

青山ハ其地勢ヲ推スニ、必今ノ青山ニシテ、驛場モ此時ニ置シナルベシ、舊傳ニ青山忠成ノ別邸トナリシ以來、始テ青山ノ名アリト云ヘドモ、恐ラクハ是ヨリ先已ニ青山ノ名アリテ、偶其姓ニ同ジケレバ、遂ニ其説ヲ記ケシコト、猶上野ノ藤堂氏ノ別邸ナリシトキ、伊賀ノ上野ニ附會セルガ如キニヤ、一説ニ青山ハ往時赤坂ヨリ往來ノ宿驛ナリ、故ニ今ニ至テ青山宿ノ稱アリト、此説是ナルベシ、但此驛ノ早ク廢セシ所以ハ、其後幾何モナク高繩ノ官道開ケシガ故ナルベシ、

十二日、ふる、めぐろにどうりう、新右衛門、十兵衛、十兵衛まめのもちくれる、

當時ノ小田原路ハ四谷ヨリ青山、澁谷、目黒ヲ經テ、矢口或ハ六郷ニ抵リ、此ヨリ東海道ニ出シニヤ、今澁谷及中延、矢口等ノ村々ニ古道又ハ鎌倉街道トテ舊迹ノ遺レルハ蓋是ナリ、但品川ノ臺ニモ一路アリシコトハ下文ニ見エタリ、

十三日、はれる、小田原より忠藏きたる、

十四日、はれる、小田原より急にかへれと云事、

十五日、はれる、江戸をば平八郎、平右衛門にあづけ、明七時のり出す、

十六日、はれる、小田原へ着、城かた心がはりのものありといふ事、

十七日、ふる、松田むほんのよししれる、はちがたせめの衆大勢きたる、殿下御はらたちとさたあり、

松田ハ尾張守 憲秀○鉢形攻ノ衆ハ前田上杉等ナリ、豊臣氏只其降ヲ納レテ、一城ヲモ屠ラザルヲ怒

リシナリ、

十八日、ふる、江戸より平八郎、平右衛門かへる、町かすたて十二町、よこは三四町、所々にてさだまりなし、家かすやけ後故たしかならず、

町數云々ハ未レ詳、當時江戸城西ノ民家多ク兵火ヲ被フリシトモ無量山志料云へバ、或ハ其事ナルベシ、

十九日、ふる、平八郎六郷へかりたしと申、江戸のことにて今日はどめる、

廿日、はれる、六郷殿御出候、江戸の事内々承る、御本意の後は、海てにてやしきとりもち候様御たのみ、

廿一日、はれる、山田いがの守御目見へ、

山田ハ松山ノ城主上田朝廣ノ家士伊賀守直安、此歳徳川氏ニ出仕セリ、

廿二日、ふる、六郷殿いろく御申分あり、さか井殿夜に入て御入、

廿三日、ふる、近藤、向坂御ほうび、殿下様よりも

同斷、

近藤向坂ハ近藤季用、向坂傳藏、篠曲輪ヲ奪ヘル功ヲ賞シテ、豐臣氏馬ヲ賜ヒシナリ、但徳川氏之ヲ賞セシコトハ家譜ニ欠ケタリ、

廿四日、はれる、みの、守參上、城中へ和平の御使こでら如水、はしばかつたけ、米この節黃金一枚に四十石貳斗、

美濃守ハ北條氏規○小寺ハ黒田孝高、羽柴ハ瀧川兵部少輔ナリ、勝雄ノ名諸書多ク雄利ニ作ル、或ハ又雄雅、雄親ニ作ルアリテ各同ジカラズ、只家忠日記追加及藩翰譜越前家ノ傳等、勝雄ニ作ルモ此記ニ合ヘバ、本名ハ乃勝雄ナルバシ、然ルニ藩翰譜瀧川ノ傳ニ至テ、又雄利ニ作ルハ如何ニヤ、○黃金ハ天正大判ナルベシ、按ニ慶長見聞集ニ、天正年中金一兩ノ代ニ米ハ四石、永樂ハ一貫、但鏹ハ四貫ニ當ルト、大抵本文ノ相場ニ符合セリ、廿五日、ひつじ、ふる、江戸より町人三人來る、よつ

やの五郎兵衛も來る、

四谷ノ五郎兵衛ハ村田家藏古書

天正十八年六月廿六日

ニ、八十

五文ヨツヤノ五郎兵衛來ル、イロノトセワヲヤ

クユエ、コノミノサケ

銚ナリ八十五文ハ其價ナリ、

ヲ買テヤル、

今バン直ニカヘルトイフ、此方泊宿ヨリ五郎兵衛

宅ヘハ遠ク、アスノバンニナクテハ歸ラレマジ、

カゴヲヤトヒノセテヤルト、此時ノコトナルベシ、

又云五郎兵衛ノ忤モ五郎兵衛ナリ、オヤコオナジ

名モヲカシ、サレドモ百性ナレバカマハストイフ、

コノ後參リ候節、干肴クレロト申シ遣ハス云々ト

アリ、又四谷角筈ニ住シ、五郎兵衛、或ハ角筈關

野氏五郎兵衛ナド見エタリ、乃其人ナルベシ、

廿六日、するがのもの江戸へ御こし候はゞ、めしつ

れくれろと申て、七人參る、

廿七日、とり、本住坊見まいくれる、いてうの實、

いてうハ銀杏ナルベシ、

廿八日、さる、神明の神主さとう見まい、江戸の事今

日さるなり、

申ハ戌ノ謬リ○さどうハ神明ノ祠官西東氏ナレバ、いノ字ヲ脱ス、

廿九日、はれる、大工三郎兵衛、五郎三郎參上、大鋸引、藤澤、奈古屋のもの、五郎三郎下に七十餘人、三郎兵衛下に二百人は可有之と申、

大工大鋸引は北條役帳ニ大工三郎兵衛、番匠五郎三郎、藤澤大鋸引、名古屋大鋸引ト見ユ、其地ニ世々其業ヲ傳フルモノアリシナルベシ、○奈古屋は豆州田方郡ニ在リ、

七月一日、かのえね、はれる、五郎三郎下の源兵衛、忠右衛門、四郎兵衛、藤吉、藤右衛門五人出る、かまぐらの小一右衛門、庄右衛門、

二日、材木師七郎右衛門、これは伊豆、五郎兵衛、これは江戸もの、山引師八郎右衛門、江戸より忠次郎きたる、

三日、とら、あざぶより源兵衛きたる、

四日、う、

五日、たつ、城うけとりいよく明日と云事、籠城人行かたなきもの大勢あるよし也、此方にて三日分かゆせげう、

城受取は諸書多ク七日ニ係ク、此記及小田原記、家忠日記等並ニ六日ニ係ケシモノ、皆當時ノ所記ナレバ、實録ハ蓋如此ナリ、

六日、はれる、ろうじやう衆追々いづる、下總のさかる殿このうちにあり、

下總ノ酒井ハ土氣ノ酒井左衛門佐康治カ、然ラバ上總ノ謬リナリ、康治ノ子與左衛門重治ハ慶長中徳川氏ニ出仕セリ、

七日、くもる、ひるよりふる、わき坂殿御小屋へかゆをたきおくる、三次郎まいる、これははま、つもの也、

わき坂ハ前日小田原城ヲ收メシ脇坂安治ナリ、八日、ふる、上州のにつた、ながを、この方へはし

り入、いづれとも申なげく、萬右衛門殿より被_レ申、この外大勢名しれず、

新田ハ金山ノ由良信濃守成繁、長尾ハ足利ノ長尾但馬守顯長ナルベシ、由良ハ此歲徳川氏ニ出仕スレドモ、長尾ハ豊臣氏ヨリ佐竹へ預ケラル、○萬右衛門ハ未_レ詳、

九日、はれる、うちまさ兄弟衆、田村の家へ御入、わか屋かた無事のよし、大閣様御意のよし也、

田村ハ醫師田村安栖長願○わか屋かたハ若屋形ニテ、北條氏直ノコトナリ、徳川氏ノ婿ナレバ、豊臣氏カク云ヘシナルベシ、

十日、はれる、江戸入のしたくにて、萬右衛門殿はじめ、ごり_くかけはしる、酒一升七十文、するがより五文たかし、殿さま今日御城へ御入也、

酒一升七十文ハ米價ニ比スルニ太抵五倍ノ差アリ、酒價ノ古記ニ見エシモノヲ參考スルニ、餘リ貴キニ似タリ○御城へ御入トハ徳川氏此日小田原

城ニ移レルナリ、

十一日、はれる、江戸のもの追々まいる、十二日、くもる、藤五郎まいらる、江戸水道のことうけ玉はる、

藤五郎ハ菓子司大久保主水の祖主水忠行ノ初名ナリ、忠行東照公ノ旨ヲ承ケ、始テ玉川ノ水ヲ引キテ小石川ノ邊ニ達セシト云フ、是江戸水道ノ權輿ナリ、然レドモ此水路ノコト上水記以下終ニ明解ヲ得ズ、舊説ニ玉川ヲ引クトアルハ、後時玉川上水ノ成リシヨリ相混ゼシモノニテ、本ヨリ謬リナリ、今下文十月四日十二日ノ條ト相參シテ之ヲ細考スルニ、此水道ハ乃今ノ神田上水是ナリ、蓋當時此水道ヲ設クルトテ、目白臺ノ下ニ堰ヲ築キ、關口ノ名モ實ニ是ヨリ起リテ、元和寛永ノ間ニハ己ニ村名トナレリ、高田川ヲ壅キテ其水ヲ導キ、小日向、小石川、湯島、神田ノ臺下ニ沿テ委蛇東流シ、以テ小川町ノ邊ニ通セシナルベシ、其頃ハ未外郭ノ設モナク、小石川ノ水直ニ平川ニ

注キシトキノコトナレバ、下文ニ小石川ノ末トアルハ、小川町ノ邊ナルベシ、而シテ慶長見聞集ニ、

神田ノ明神山

元和ノ初マデ駿河臺觀音坂ノ西ニ明神社アリ

ノ岸ノ水ヲ東北

ノ町ヘ流シ云々、又古ヘヨリ細流タゞ一筋アリ、コレ

神田山ギシノ柳原ヨリ出ルナリト云ヘルハ乃此委流ナルベシ、猶附考ニ辨ズル所ヲ參校スベシ、

關口ヨリ水道ヲ設ケシト云コト、其明據ハナケレドモ、當時ノ事必如此ナルベシト、姑臆料ヲ以テ注セリ、

十三日、はれる、江戸入、御先ヘ可ニ相立旨、此方

并ニひたち様、味噌五貫目ほど船にておくる、

ひたち様ハ青山常陸介忠成ナリ、内藤氏始終青山ト同職ニ居リシ故ニ、記中青山ノコトニ及ブモノ多シ、

十四日、くもる、江戸案内者たづね、米はふくろに入て御もち候よし、七人分づゝ一ふくろ也、組々引わけ、そのしたくわんさんなき様と御直に被レ仰候、わんさんハ猥雜ノ訛音ナルベシ、或云俗ニ彼此ト云フガ如シ、

十五日、はれる、ひたち様御入御内談、江戸の事なり、此方の手人御かり被レ成たき由也、

十六日、くもる、八時よりふる、江戸案内者をいをいきわる、いづれも御きにいらす、

十七日、くもる、江戸案内者平右衛門、此はめらのむらた都合貳拾一人めしつれる、この外六人ひちた様へ御かし申候、權右衛門、喜六等也、

妻良ハ村田ノ領地ニシテ、豆州賀茂郡ニ在リ、北條役帳ニ村田妻良、福良トアル是ナリ、

十八日、ふる、うま五疋人夫十七人、かの川迄したて遣す、兵内殿、新六殿いづれも御先へ御こし也、みちしるく候由にて、だちんたかし、

かの川ハ神奈川○兵内殿、新六殿ハ並ニ未レ詳、新六ハ下文ニ新六郎トアルモ同人ナルベシ、或ハ松平新六郎康貞ノコトカ、當時佐竹義宣上京ニ付、豊臣氏ヨリ宿次傳馬ヲ觸レシ文書アリ、以テ類推スベシ、○しるくハ泥濘ノコト、板坂ト齋覺書ナドニ

モ見エタリ、

十九日、はれる、江戸へ出立、平右衛門召連る、半六、忠平、源助以下いづれも七時よりたつ、廿日、ふる、かうらいぢにて江戸のことだん／＼きき定める、矢野のじやうらんゐん、むかひとしてまいらる、

高麗寺村は相州洵綾郡ニ在リ、○矢野ハ今ノ矢ノ倉ナルベク、矢野ノ名寛永中水府代官方ノ舊記ニモ見ユレバ其古キハ勿論ナリ、じやうらんゐんハ常樂院ノ假名ヲ誤リシナルベシ、慶長中

馬喰町ノ邊ニ此寺アリシト云フ、按ニ此寺ハ淨土法華宗論ノトキ廢セシニ、其後淺州ノ慶印寺其廢迹ヲ再興シテ、今ノ地ニ移レルナリ、○按ニ此記ニ据レハ、徳川

氏以後新ニ築立シハ濱町以南ノ地ナルベシ、

廿一日、はれる、六郷にてみな／＼てわけ、われらは西方也、四ツや五郎兵衛宅へ入、平右衛門知人といふ事、

廿二日、はる、貝塚よりさくらだ邊へまはる、所のものいづれもまかりいづる、

此日以下ハ江戸ノ記ナリ○貝塚ハ麴町平河町ノ邊ヨリ赤坂一ツ木マデノ郷名、

廿三日、くもる、本多様御こし、岩付のことに付て也、五郎兵衛か、かしわもちくれる、稱心あん念佛、

稱心庵ハ未詳、心名ノ二字草體相似タレバ、或ハ稱名庵ノ訛リカ、然ラバ増上寺ナルベシ、

廿四日、はれる、めらより五人來る、たへまの源助、七藏、

當麻村ハ相州高座郡ニ在リ、

廿五日、はれる、あざぶよりしろかねまで、所のものさま／＼申出る、

廿六日、はれ、しんやの權右衛門、忠兵衛大こんもち來る、

しんやハ未詳

廿七日、しば崎くない、さいとう主せん、はじめて出る、

神田明神ノ祠官芝崎宮内、芝神明ノ祠官西東主膳

ナリ、

廿八日、くもる、五郎左衛門殿御こし、ひたち様衆
忠左衛門、平左衛門いづれも申合、

五郎左衛門ハ未詳、

廿九日、はれる、六郷へ出る、御先衆追々こゝにて
所々繪圖上る、彌九郎繪圖引、

三十日缺、

八月朔日、かのえむま、はれる、いちば迄藤兵衛、
權右衛門、小むかひにて忠右衛門、いろく書付出
す、八半時貝塚へ御着、御膳被_ニ召上、七時過御入
城、めでたさ申ばかりなし、御供の衆小屋わり、

市場小向ノ二村ハ橋樹郡ニ在リ、○此日ノ事徳川
氏ノ記錄缺略、其詳ナルコハ傳ハラズ、僅ニ此記ニ

据テ其大概ヲ知ルノミ、按ニ村田平右衛門家譜云、

天正十八年八月朔日、御案内相勤御目見、辰刻御

着ニ二本榎徳明寺_ニ此十一月ハ他ノ寺社ノ例ヲ推スニ、翌年ノ

十一月ナルベシ、且此寺
ハ元祿ノ頃已ニ廢セリ、未下刻貝塚増上寺入御、被_レ獻_ニ

御膳ニ七時過御入城之節御目見云々ト、是亦本文ノ

補注ナリ、當時増上寺ハ赤坂喰違ノ邊ニ在リシヨ

シ、落穂集ニ増上寺方丈ヲ小田原御陣所へ被_ニ召

寄_ニ御目見云々トアレバ、増上寺ノ接待モ或ハ其

宿約アリシコトニヤ、

二日、はれる、小屋くわり直し、いろく此方に
てとりもつ、

三日、はれる、夜にいり大ぶり、ちかごろおぼえず、
千ぞくの池あふれて、けが人といけきたる、ひめが
いけの水たかさ二尺五寸、

姫ヶ池ノ名ハ諸書ノ未傳ヘザル所ニテ、實ニ異聞

ナリ、按ニ長祿ノ圖ニ下谷ヨリ淺草ニ係リシ大沼

アリ、今ノ上野三橋ノ邊ニ一條ノ流_{忍川ナベジ}アリテ、

不忍池ト相通セリ、此沼ハ先輩或ハ姥ヶ池ニ充テ

シモノアレドモ、恐ラクハ然ラズ、乃姫ヶ池ナルベ

シ、江戸志下谷ノ條ニ、姫塚ハ立花家ノ屋敷ノ裡

ニ在リ、大ナル池アリテ其處ニ塚アリト、是必姫ヶ

池ノ舊迹ナルベシ、今其名ノ亡ビシ所以ハ、此沼一變シテ畊地トナリ、再變シテ宅地トナリ、遂ニ其古址ヲ失ヘルガ故ナルベシ、○千束ノ池ハ今池上村ニ在レドモ、本文ハ蓋此ヲ指スニハ非ズ、北條役帳ニ据ルニ、昔時淺艸千束ノ地頗廣ク、石濱ヨリ金杉ニ亘リシヨシ、然ラバ長祿圖ナル大沼ハ正ニ所謂千束ノ池ニシテ、其下谷立花邸ノ邊ニ係リシ處ヲ姫ケ池ト呼ビシニヤ、下文鳥越ノモノニ埋立ヲ請ヘルヲ以テ、其近地ナリシコト分明ナリ、或ハ長祿ノ頃ハ其池實ニ一ナレドモ、歲月ノ久シキ自分レテ二トナリ、一ヲ姫ケ池、二ヲ千束ノ池ト云ヒシモ亦知ルベカラズ、猶附考ヲ參閱スベシ、四日、くもる、水にて處々ざんみ、五郎兵衛、平右衛門同道也、しのばずの水たかし、ひめが池と一ツになる、

五日、はれる、御城より御米下さる、町人どもわり付、市右衛門きたす、このます取、權右衛門、ろげ

つ、

ろげつノコト露月町ノ舊傳已ニ亡ビテ、其義考フベカラズ、只京橋弓町書上ニ、老月ハ昔丸ノ内ニ在リシ村名トアリ、今此記ニ据レバ、蓋人名ヲ以テ地名ニ加ヘシモノナルベシ、其何人ナルヲ詳ニセザレドモ、荏原郡下大崎村文書ニ米ノ斗手ハ其郷ノ百姓頭ニ被_レ定候事ナド云フモアリ、必其地ノ宿老ナルベシ、按ニ江戸志ニ老月ヲ獵月ニ作ル、孰カ其本字ナルヤ、今露月ニ作ルハ近世ノコトナルヨシ、

六日、はれる、ほうおん寺見まい、からすもりいなり神主ふるき書もの持參、直に上る、

本所ノ法恩寺、其頃ハ下平川ニ在リ○鳥森ノ神主ハ山田宮内ノ祖ナルベシ、

七日、はれる、どうかういん、しんめい神主、古きことかきつけ出す、

淺草ノ東光院其頃ハ局澤ニ在リ、

八日、はれる、たかぎといふ馬くろう、ゆいしよ申出る、忠兵衛どの御きもいり也、

高木ハ馬口勢頭高木源兵衛ノ祖○忠兵衛ハ未詳、九日、はれる、たかぎきたる、馬場地の繪圖いたす、權右衛門うけ取、ひたち様衆へおくる、

馬場ハ馬喰町ノ馬場、

十日、はれる、さいしん寺江戸のふるてう所持のよし、さうくさし出候様申つくる、

本芝ノ西信寺カ、

十一日、うし島といふ所の大太郎といふものきたる、うし島邊の古ゑづ持參、所持のでんちゑづいだす、

牛島ハ今ノ本所向島、

十二日、小むめより權右衛門かへる、水出さきつく、つゝみふしん申付候由、ほり長さ千五百七十五間、つゝみつきたて明日よりはじむべし、

小梅ノ名始テ此記ニ見ユ、以テ葛西志ノ漏ヲ補フ

ベシ○堤ノコトハ、中之郷最勝寺藏、永祿十一年松田景秀文書ニ、須崎堤外畠之事云々トアレバ、是ヨリ先已ニ堤防アリシニ、更ニ修築ヲ加ヘシニヤ、又此堤ハ今ノ大堤ニ非ザルニ似タリ、○堀ハ未詳、或ハ今ノ請取寺島ノ間ニ舊迹ノ遺リシ古川ト云フモノカ、

十三日、くもる、御めしはなさき、なひらけの處たをれる、ごりごへのゑたよびてわたす、よりともいらいのゑたと申出る、

花咲ハ馬名ナリ、徳川氏累代其料ノ乗馬ニ、此名ヲ用キシト云フ、○内羅ハ馬病○鳥越の穢多ハ長吏彈左衛門ノ徒、其頃鳥越ニ居リシモノアリ、今ノ猿屋町ヨリ向柳原町ノ邊ハ其舊迹ナルヨシ、

十四日、くもる、あさくさのくわんおんへまいる、兵部備後めしつれる、喜兵衛、太右衛門出る、十五日、はれる、淺草の川へひたち様御一緒に御こしのつものり處、川水にごり候故おやめ也、

十六日、はれる、みやと川にてけんくわ、ゑちせんしゆと、ほり尾衆と也、相手方手負十三人、ほり尾彦八郎三人しごめる、

宮戸川ノ名古書ニ所見ナシ、此記ニ出デシ其始ナルニヤ淺草觀音緣起ニモ見ユレドモ、年號ナクレバ其先後不詳、○越前衆堀尾衆ハ並ニ未レ詳、或ハ堀秀政、堀尾吉晴ノ家士奥州ニ赴ク途次ノコトナルベシ、

十七日、はれる、十五日の夜みやと川にてのけんくわ御たづね也、御ことわりなく河舟にてさけのむまじきこのこと也、

十八日、はれる、つきちへ御うつり、うすゐのしろこの方へ、

築地、臼井ノコトハ按ニ烈祖成績ニ、五月十五日、神祖進軍築地、十八日下總臼井城主原式部大輔降ニ神祖ニ使ミ酒井家次取ミ其城トアリ、本文ハ二月前ニ在テ兩日ノコナルニ、今此月ニ係ケテ一日ノコトスルハ謬リナリ、蓋舊本此間ニ錯簡アリシナリ、

十九日、くもる、いはつきへしのびの御使、

烈祖成績ニ、岩築城主北條氏房在ミ小田原城ニ云々、十九日神祖使下本多忠勝、鳥居元忠、平岩親吉、植村

泰忠、將兵攻上之ト此時ノコトナリ、

廿日、ふる、殿下様より御茶、伊豆へ御使新左衛門、

廿一日、はれる、馬のくさ山中より五荷とりよする、新三郎米のことにてとはへかへる、

山中ハ豆州ノ山中カ、君澤郡ニ在リ○とはハ土肥ノ訛リカ、相州足柄下郡吉濱以下六村ノ郷名ナリ、廿二日、はれる、新三郎かへる、今ばん中につきたてをり候由、がまうごのより來るさざ二、

がまうハ蒲生、さざハ驚ナルベシ、

廿三日、三まいばしよりをのだかへりきたる、かはゐきたる、もちぐちの事、

三枚橋ノ地名武相ノ間ニ兩三アレドモ、此ハ駿州ノ三枚橋城ヲ云フカ、

廿四日、くもる、平六、權内はじめ七人、あみ打に

いづる、

廿五日、あめ、權内はらくだる、了せつ見舞、このさまゆもとへ御こし、

了せつは醫員岡良節ノ祖カ、○湯本ハ先ニ千葉新介ノ守リシ湯本口ナルベシ、○廿六日缺、

廿七日、山中山しろごのよりあん内あり、江戸とするがと御とりかへの由、

山中山城守長俊ハ豊臣氏ノ右筆ナリ、本文ハ徳川氏江戸ニ移ラル、發端ナリ、是ヲ以テ初ヨリ江戸ヲ居城ニ定メラレシコトヲ知ルベシ、

廿八日、はれる、めらより平右衛門まいる、いかだばの三四郎同道也、

筏場ハ豆州賀茂郡ニ同名ノ村ニアリ、孰レカ是ナルヤ、

廿九日、ふる、平右衛門江戸 事さまへ申上る、みそか、ふり、小田原より町人にげてまいる、大この様御用と申て、江戸のものめしよする、

按ニ十八日ヨリ此日マデハ五月ノ記ノ殘篇ナリ、

舊本ヲ次第スルモノ、誤リテ五月ノ殘篇ヲ取テ、

八月ノ闕文ヲ補ヘルモノニテ、此間ノ闕文ハ乃下

ニ見エシ殘闕ノ上トアルモノ是ナルベキカ、然レ

ドモ今舊本ニ從テ妄ニ改定セズ、但晦日ナル小田

原以下十三字ハ尙是八月ノ舊文ナルベシ、

九月一日、はれくもる、本町通り繪圖仰付らる、四

十丈ヅ、にわり可レ申旨、道は六丈にわり、よこ町

の分四丈より三丈二丈まで所によりいろく、

町割四十丈ノ制ハ、拾芥抄ニ見エン古時ノ四行八

門ノ法ニ、町各四十丈トアルニ据リシナルベシ、今

ノ町地ハ明暦大災ノ後ニ改正セシ者ニテ、之ヲ天

正ノ舊ニ比スレバ多少ノ差アルベケレドモ、其大概

ハ猶寛永ノ古圖ヲ按シテ知ルベシ、但此ニ本町ト

云ヘルハ今ノ本町ノミニアラズ、廣ク左右ノ町々ヲ

兼テ云ヒシナルベシ、○按ニ當時開キシ町々ハ、南

ハ日本橋ヨリ北ハ筋違ニ至リ、西ニ常盤橋ヨリ東ハ

兩國ノ邊マデナルベシ、猶附考ヲ參觀スベシ、此

レバ、先輩往々慶長見聞集ナル、慶長八年豊島ノ洲崎ニ町ヲ立テ南海チ四方三十町埋立云々トアルヲ、常盤橋吳服橋ノ外、乃今ノ下町ハ悉其時ノ新築ナリト云ヘルハ誤リナリ、

二日、はれ、新六郎殿御かた御さんあり、七郎左衛門、平右衛門御使にまいる、

三日、くもる、貝塚の御寺火をあやまち、開山堂の

堂もりやける、此間の小屋場なにともし、

貝塚ノ寺ハ増上寺ナルベシ、三緑山志ニ天正十年

貝塚ニテ焼失トアルハ、八ノ字ヲ脱セシニヤ、或ハ

此寺ヲ青松寺トスルハ非ナリ、

四日、くもり、御寺のやけ跡見分、殿はじめとしよ

り衆まいらる、はしのやくしよ權右衛、平右衛門、

五日、はれ、つばね澤の寺々のこりなく引うつし候

へと仰出さる、日れんしゆ五ヶ寺、かいづかのまつ寺

三ヶ寺、しんごん二ヶ寺、天だいゆ一ヶ寺、せんし

ゆ五ヶ寺、つがう十六ヶ寺なり、

局澤ハ北條役帳ニモ見エテ古キ地名ナリ、舊説ニ

ハ今ノ吹上御苑ノ邊ト云ヘドモ、其地ニ十六寺ア

リシヲ以テ考フレバ、猶廣クシテ上下平川ニモ亘

リシニヤ、按ニ今府下ノ古刹中往時本城ノ前後ニ

在リト云フモノ凡三十餘宇ニ及ビ、十六寺ノ名

ハ殆考定シ難ケレドモ、姑其事蹟ノ稍近キモノヲ

舉クレバ、日蓮宗ハ本所法恩寺、小梅大法寺、丸

山本妙寺、淨心寺、谷中本行寺、芝承教寺ノ内、

貝塚ノ末寺^{淨土宗}ハ、淺艸善德寺、聖德寺、赤坂淨土

寺、四谷西迎寺ノ内、眞言宗ハ、淺艸地藏院、牛

込多聞院、天台宗ハ淺艸東光院、清水寺、東漸寺、

麻布東福寺ノ内、禪宗ハ淺艸祝言寺、谷中青雲寺、

小石川祥雲寺、牛込寶泉寺等ナルベシ、此二數ヘシ寺々ハ現在

セルモノニ就テ云フ、寺ノ廢セルモ許多ナレバ、其内ニモアルベシ、其餘ハ不詳、文政三年ノ夏清水門ノ

石壁崩レテ、土中ヨリ四五百年前ノ古墓碑多ク出テシコトアレバ、田安ノ邊モ其舊迹ナルベシ、○又按ニ、當

時寺院ノ多キヲ以テ、士民ノ家ノ少ナカラザリシ

ヲ知ルベシ、江戸ハ徳川氏以前ト雖悉艸茅ノ曠野

ニハ非ズ、江亭記ヲ以テ證スベシ、

六日、はれる、ひき寺のしらべ、神田のだい、谷原
まちのかたへ十六ヶ寺を引わけて、寺やしき地わり、
神田ノ臺ハ駿河臺ナリ○谷原町ハ前後ノ所記ヲ通
考スルニ、蓋駿河臺ノ東ヨリ馬喰町ノ邊ニ至リ、
明暦ノ頃マデ寺院ノ多クアリシ處ナルベシ、淺艸
龍福院觀音院等ノ舊傳ニ、昔此邊ヲ谷寺町ト呼ビ
シト云ヘルハ其一證ナリ、又淺草寺中ノ古石像如
意輪觀音ノ銘^{無年號}ニ、願主神田谷原町泉屋久兵衛
ト題セルモノアリ、乃當時ノ物ナルベシ、
七日、はれる、つばねざはのはか、すべて引うつし
可申、せしゆのしれぬ分公義にて御うつしと申事、
八日、はれ、地ぞうさまの御寺と、やくしさまの御
寺といまゝでならびあり、新地にてもならび候様、
地わりたのみ入と申事也、

地藏ハ淺艸地藏院、藥師ハ東光院ナルベシ、明暦
ノ頃マデ小傳馬上町ノ邊ニ在テ、兩寺相隣リシハ、
局澤ヨリ移リシモノナルベシ、

九日、はれる、本町のはしかけ初る、水ふかく柱の
根入、土俵にてゆり入候、

十日、はれる、本町のはしばしらち、ぶの木あし、
上州にたのこほりより出る木よし、

にたハ新田、

十一日、ふる、伊豆よりこめ来る、このうち七表三
浦方へ、五表忠兵衛どの、いづれももみをすりたて
しよし也、

十二日、くもる、大坂より御使きたる、本町にやど
申付る、平八郎、平右衛門二人きもいり、ますだ、
大つばその外三人はど、宿ちん大坂とわり合可申
付、

大坂御使ハ未詳○益田ハ本町ノ名主文左衛門ノ
祖、大坪ハ本兩替町ノ名主捨五郎ノ祖ナルベシ、
十三日、このさまは御いたみとて登城なし、けんげ
うよばれる、平けあり、
は御いたみハ齒痛ナルベシ、

十四日、ふる、千ぞくのものきたる、町屋のねがひ也、観音さまの御寺とおなじ様との事也、そうはなるまいと仰らる、平右衛門に申付る、

十五日、ふる、いづの百姓かへる、めらのものへ申付る、あじ、あみ、ふか、何にてもよくほして、

あじあみふかは鱒苗鰻鱒ナルベシ、

十六日、はれる、川口の御寺よりもち來る、彌太郎、忠兵衛、平右衛門、丸山の地わり、今日よりはじまる、丸づか、本郷、下谷とも四五日中、

川口ノ寺ハ善光寺ナルベシ、○丸山ノ名ハ始テ此記ニ出ヅ、丸塚ハ昔時本妙寺ノ西ナル山上ニ丸某ノ墓アリ、之ヲ丸塚ト呼ビシヨリ、遂ニ此邊ヲ總テ丸山ト稱スルヨシ、津田某丸山由緒記ニ見エタリ、其ノコトハ諸書ニ其説ナケレバ、始据テ之ヲ注ス、書稍信シ難キモノアレドモ、丸山

十七日、はれる、川口いはぶちのものねがひ、平右衛門申聞る、さく夜平右衛門所にとまると、いはぶち、うすくら新右衛門きたる、

白倉新右衛門ハ未レ詳、岩淵領豊島村ニ白倉氏アレドモ、新右衛門ト云フハ聞ニズ○十八日欠、十九日、くもる、本町はし大かた出来る、土俵のこしらへ様いづのものに申付、當所のものふあんないゆへ、てまばかりかゝる、三文になは、

三文になはハ原書欠、

廿日、ふる、やくしのまちのものまいる、たかぎの馬場地わり、平右衛門に、はまゝつの通りさしづ申付る、

藥師ノ町ハ、落穂集ニ、平川御門外ニ平川町ト申シテ有之候、右平川町ノ内ニ藥師堂有之候ト、此藥師ハ東光院ノ藥師ト異ナリ、是等ノ處ヲ云フカ○馬場地ノコトハ馬口勞頭由緒書以下皆傳ヲ失セリ、

廿一日、くもる、今日かうしん、かうしん堂のおしやうまいる、このさま今日しぶやへ御こし、所々地わり御らん被レ成候、五郎兵衛所御ひる上る、

庚申堂ハ高繩ノ庚申最古ケレバ、或ハ是ナルベシ、

萬治二年白銀ノ鳩翁印行ノ勸善書ニ、
天正十九年ヨリ日參セルヨシ見ユ、

廿二日、はれる、しやうでんのおしやうまいる、久
四郎所よりあざぶのゑづさし上る、この久四郎はま
まつより、われらもしる人也、どうげんの庵室ゆい
しよさし上る、

どうげんの庵室ハ澁谷道玄寺ナリ、此寺久シク廢
シテ、諸書其年代ヲ詳ニセズ、然ルニ此記ニ據レ
バ、天正ノ末ニ尙存セシナリ、

廿三日、はれる、とりごえのものいづる、ひめがい
けうめたてのこと、それゝかきつけとり、このさ
まへあげる、ゑづも一所に上る、

姫ヶ池埋立ハ蓋築立テ新田ヲ開キシナリ、正保圖
ヲ按ズルニ、其頃下谷ヨリ淺草日本堤ノ邊マデハ
悉水田ナリ、羅山武州々學十二景ノ中ニ、下谷畊
田アルモ是ナリ、乃當時ノ新墾ナルベシ、
廿四日、はれる、すだむらのもの七人きたる、さて
ぶしんの事、彦兵衛、藤左衛門、市右衛門へ申付る、

彦兵衛ゑんじやすだの五兵衛、つもり書ではわから
ず、このさま見に御出と云こと、

彦兵衛、藤左衛門、市右衛門ハ町年寄喜多村、樽館
◎奈浪館
三字股カ 三氏ノ祖ナリ、此前後ニ同名ノ見エシハ
皆三氏ノ内ナルベシ、

廿五日、はれ、きのへね、御しろより大こくのあ
る所御たづね、はつちよ五郎兵衛右のものへ申付る、
はつちよハ未詳、

廿六日、はれ、忠兵衛どのすだむらへ御こし也、
彦兵衛、藤左衛門まいる、市右衛門は御用にてのこ
る、本町のはし大かた出来る、町わり大かたきまる、
小間大間といふこと、くわんどうの風也、

大間小間ハ後世ノ公役小間聞小間ノ類ナルベシ、
柏木成子町舊名主川本家藏古書ニ、慶長十年三月
六日、御達所ニテ御達、江戸廻リ村町ヨリ人足入
用出方、割合ノ不同有レ之由、時々爭ヒ事申出候ニ
付、以來江戸廻リニ付候人足入用ハ、持地ノ組合

大間ノ軒數ニ割合可申、村町限ニ拘ル事ハ、坪ノ小間ニ割合不同ナキ様申合ベシ、依テ人足入用出方割ハ大間、其所入用割ハ地坪ノ小間ト相定メ、其外ニ不時入用懸リハ達所ヘ申出、差圖ニヨリ其時可決定アリ、乃此時ナルベシ、是ヨリ先天正十八年十二月廿二日ノ觸書ニハ、江戸廻リ之内古クヨリ差出居候人足之義ハ、只今其高ヲ不改、其儘差出可申云々、割合之義ハ享徳年中之割付帳ノ如ク、村々其居所ノ軒數ヲ以、後々爭ヒナキ様可致候ト、又慶長四年十二月ノ觸書ニハ、江戸町々入用出方之事、其割合ナキ故、彼是ヲ生ジ候、然レドモ各持分地ノ多少モアリ、間數ニハ割合出來不申ニ付、以後持分地ノ二十坪ヲ入用ノ割小間トイタシ、以後是ヲ以テ何様ノ入用モ割合拂フベシトアリ、三書ヲ通考シテ大意ヲ了スベシ、其詳ナルコトハ別考アリ、

廿七日、はれる、九兵衛かたにさんあり、男子なり、

おくにても御さんあり、大かたおなじ時也、忠右衛門すだむらへ行、忠兵衛のものとかはる、

村田家藏古書ニ内藤家來押田九兵衛悴、三ケ日ニテ死ス、九月廿九日大照寺ニ葬ルト、此人ナルベシ、○奥ニテ御産ハ、徳川系圖ニ所載ナケレバ、或ハ内藤氏ノ室カ、○按ニ婦女ノ早ク移リ來リシハ、盖豊臣氏ノ請ニ因テ速ニ駿府ヲ退カレシガ故ナルベシ、

廿八日、ふる、あさくさの御寺のへいくづれる、御ちやあごの御出候て、しまつ被_ニ仰上、青山さまの素と御寺の衆といひぶんできる、ひたち様衆まけと云事、

へいハ塀ナルベシ○茶阿局ハ東照公ノ侍妾、其姓傳ハラズ、或云山田氏ナリ、

廿九日、はれる、ひたち様衆いひぶん、くわんおんの寺家衆、ひたち様衆は奉行のことゝて、下谷の寺あつかひ、くわんおんの寺家衆かんにんとふ事い、

ひたち様衆ひねの九郎右衛門うたをよむ、くわんおんのめうちりきにもとゝかぬはひきかねつ、むりどふけうの、よこくるまなり、

とゝかぬはハ原書塗抹シテ改メタリ、

くわんおん寺家衆のほしいを、ひたち様衆うまにてとをるとて、ふみこぼす、寺家衆かんにんぶんの、ろうりやう也、りふじんと申、ひたち衆馬のみちへ、ほし置候事ぶねんと申さる、馬のみちも寺内也、寺内へのり入候こといかいと申、双方いひぶんとなる、下谷の寺家衆あつかひ、馬のみちといふことかまくらにもあり、ひきの谷に惣門馬門とならびてあり、これは寺の衆のものをばこぶためのみち也、外の馬のとをるみちになし、さんけいの馬は門の外にておひること也、ひたち様衆ぶあんないの事也、ふみこぼしたる馬はくはんおんのけんぞく也、くわんおんのけんぞくが、くわんおんの僧衆のりやうをふみこぼすとして、けんぞくをどがめだてなるまじと云、これに

て寺家衆うちわらひいひぶんなしと也、

以上ハ正文、以下ハ旁記ナリ、原書ハ散シ書ニシ、如レ此重複アリ、

ひたち衆さんけいになし、用ありて寺へ入といはる、下谷の衆申さる、用ありて観音の堂までのり入給ふかといふ、ひたち衆、いや堂迄はといふ、これよりひきわかると也、おかしき事也、この事いひつたへて、おかちさま御聞、それより御聞に入、ちやあ殿きかれ、下谷の寺家衆よくあつかわれ候とて御ほめ也、下谷の寺家衆はいづれも小田原より引こし候衆也、

おかちハ東照公ノ侍妾太田氏ナリ、或云太田氏假令
夙慧ノ人ナリト

モ、年甫十三ノ女子ナレバ、其言宜ク日記ニ載スヘカラズ、疑フ
ラクハ別人ニテ、太田氏後ニ其名ヲ襲稱セシナルベシ、當時前後
二人ノ阿万アルモ其例ナ
リト、尙再考ナ俟ツ、○按ニ本文ハ前日ノ事ヲ重テ

詳記セルナリ、

晦日、はれる、吉兵衛小田原へひきやく、とへ吉右衛門罷出る、

吉兵衛は數田吉兵衛カ、已ニ上ニ見ユ、○とへハ

是亦土肥の訛リカ、不_レ然ハ久良岐郡戸部村ナル
ベシ、

十月一日、かのへうまはれる、王子の御寺御出、小
田原の引付持參也、上下平川にて二十五貫六百八十
文、牛込三貫百八十文、合二十八貫八百六十文、此
内平川牛込御繩ばり内也、引替地所見たて、可_レ申
候、淺草四十貫九百文、内十八貫四百文分町屋にな
る、せんばのきたいん參る、しのだのふごういん、こ
れは京將軍おとしだね也、ふごういんめし候へと仰
出され候、宇田川源七出る、地わりの事申付る、

上下平川二十五_ベ云々、此貫高ハ北條役帳に所載
ト全ク同ジ、乃當時ノ王子領ナリ、○平川牛込御
繩張ハ田安半藏ノ邊ナルベシ、○淺草四十_ベ云々、
此高モ役帳ト全ク同ジ、○仙波ノ喜多院ハ大僧正
天海是ナリ、不動院ハ常州信太郡江戸崎ニ在リ、
其頃喜多院ヨリ不動院ヲ兼職セシナルベシ、天海
俗姓ハ三浦氏_{或云松本氏}ナレドモ、一説ニ足利義澄ノ

子トモ云リ、按ニ慈眼大師傳ニ、天正十六年云々、
豐臣秀吉公拔ニ小田原城ニ時、盛重_{築名氏}歸ニ其幕下、
賜ニ常州河内信太庄六萬石、封内有ニ古刹ニ號曰ニ不
動院、十九年再ニ興不動院、迎_レ師居ニ此寺ト、之
ヲ本文ニ比校スルニ、年次ニ牴牾アリ、傳又云、
慶長四年至ニ仙波喜多院、十三年承ニ大權現命、初
赴ニ駿府、大權現封ニ群臣、稱述曰、儀容俊偉也、
恨相知之晚ト、此年次モ亦合ハズ、恐ラクハ皆傳
ヲ作リシモノ、踈謬ナルベシ、_{猶附考ニ注スベシ}、○宇田川
源七ハ未詳、

二日、はれる、芝ついき、すのはな、よしがま、し
ぎりたる處かりはらひ候へと被_ニ仰付_ニ彦兵衛、藤左
衛門、市右衛門に申付、藤左衛門手代新吉と申もの
請負申出る、ひたち衆請負とはよろしく無_レ之、日々
入込候てかりはらひ候へと仰付らる、
三日、はれる、夕方ふる、たきの川むらの源五右衛門
まいる、水ぐるましかけ申度と申出る、をし鳥澤と

申所水はきよろしく候由申出、

をし鳥澤は今瀧野川村ニ此小名ナシ、更ニ鴛鴦谷戸アリ、乃昔ノ鴛鴦澤ナルベシ、新編武藏風土記ニ押外土ニ作ルハ非ナリ、

四日、くもる、つくごの別當まいる、ゆしまのたかだいのした、小いしがはのすゑ池になりたる所、水はかせ、大かた干かたとなる、此分やしきにわり可^レ申候、小身衆いろく^く申こまれ候、地せばく人多くわり立候事むづかしく、藤左衛門に申付、地ゑづかかせ、けんちうちて、それよりと申定む、小石川水はきろしくなり申、藤五郎の引水もよほごかゝる、

湯島ノ臺ハ本郷ナルベシ○小石川の末云々ハ小川町ノ邊ナルベシ、長祿圖ニ往時此邊ニ一ノ池アリ、小石川ノ流ト覺シキアリテ之ニ通ゼリ、此池天正ノ末マデ猶遺リシナルベシ、舊説ニ小川町ハ入國ノ初マデ畔地ナリシトモ云ヘバ、既ニ開墾セル處モアリシナルベシ○藤五郎の引水ハ乃大久保ノ上

水ナリ、關口ヨリ導キテ小川町ニ通ゼシコト故ニ、僅三數月ノ間ニ辨ゼシナルベシ、後人或ハ大久保ノ上水終ニ成功ナカリシカト疑フモノハ非ナリ、五日、くもる、伊豆のものまいる、よしからせ可^レ申との事、めらの藤八、吉六、權六、忠助、八内、これらにて大かたかり取、よしはたばねてほし、上段々つき立候様申付、

六日、はれる、芝崎上人の繩ばり内に^ニ引せ可^レ申、ひたち殿と此方一所にて申渡す、

芝崎上人ノ所ハ所謂芝崎道場ニテ、今ノ淺草日輪寺是ナリ、當時神田橋ノ内ニ在リシヲ白銀町ニ移セルヨシ、辛巳六月大手町二丁目ノ大路ヲ穿テシニ、土中ヨリ永樂錢及石礎ノ類ヲ出セルコトアリ、或云是芝崎道場ノ舊迹ナリ、○按ニ此文ニ据レバ、今ノ一橋、神田橋、常

盤橋ノ邊ハ此時ニ曲輪ヲ設ケシナルベシ○又一所にて申渡すトアルニ付テ、其頃官司ノ所在ヲ考フルニ、西丸山里及外櫻田門ノ邊ニ奉行ノ宅落穂集ニ云ヘルガ如ク遠山諸士ノ舊宅アリテ、諸般ノ公事ヲ辨セシニ

ヤ、川本家藏古書ニ、二月三日原書無二年號、蓋天正十九年、小田原

御門御番屋ヨリ御達トアリ、又天正十九年三月十

五日ノ觸書ニハ、御城ノ内梅ノ林立枯ノ分被_レ下候

間、用立心得ノ者ハ下山番屋へ來ルベシ云々トア

リ、小田原門ハ今ノ外櫻田門、下山ハ紅葉山ノ下

山里ノ邊ニ在リ、慶長圖ニ見ユ御番屋ハ乃奉行ノ宅ニテ、

後世町奉行所ヲ番所ト稱スル濫觴ナルベシ、詳ナ

ルコトハ亦別考アリ、

七日、はれる、しば崎上人道場ひきうつし候事でき

不_レ申候と申、藤澤よりも助力出き不_レ申と書付いだ

す、

日輪寺ハ藤澤清淨光寺ノ末寺ナリ、

八日、あめつよし、ちやあごのより御用申來る、三

みやくいん引うつし方、此方にて手傳候様申さるゝ、

三藐院ハ今ノ坂本養玉院是ナリ、其頃大手門ノ外

ニ在リシト云フ、

九日、市右衛門出る、馬場のゑづもち參る、たが木

よびいだし申わたす、市右衛門の繪圖にては高木め
いわくと申、

十日、くもる、高木くらごのよりきりの木柳のきま

いる、下やしきのかきに植候へと七兵衛に申付る、

高木くらハ未_レ詳、○下屋敷ハ内藤新宿ノ別邸カ、

此邸ハ天正十八年九月所賜ノヨシ、

十一日、はれる、しゆり殿よりやしきわりに付て、

たてはいかほご長くともよろしく、間口は五丈ばか

りと申來る、それよりせまきはめいわくこの事、わ

がまゝいわるゝ人にて、奉行衆こまり入候、

修理殿ハ未_レ詳、

十二日、はれる、小石川の末にてうめたて候所大か

たやしきにわりわたし、大身小身すべて貳百三十貳

家也、此内小田原衆三人、ひたち殿口入にてわりわ

たす、

十三日、くもる、池上の御寺へ御うばごの御まいり、

御姥ハ其姓傳ハラズ、或ハ岡部氏トモ云フ、台徳

公ノ乳母大姥殿ト云ヘルハ是ナリ、本門寺中五層ノ浮屠ハ慶長中此乳母ノ請ニ因テ創立セシナリ、其事或ハ此時ニ胚胎セルカ、

十四日、はれる、本町まぢわり、平八郎、平右衛門出る、小田原のもの三人、かれはいひぶんに付、やしきわりかへる、土藏二けんと定る、

土藏二間ハ未詳、或ハ其梁間ノコトカ、

十五日、くもる、御藏しゆ三人とり越にてやしき被下る、藤左衛門相越地わり、此衆のやしき追てめしかへさる、

十六日、ふる、小石川の末出水にて、家ながす、このうち小身衆自身にて土俵いれ候衆あり、

十七日、はれる、米たかし、判金に卅五六石也、大工手間、上ハ八分、中ハ七分、下ハ六分五分、

金銀圖録ニ天正中金一兩ハ大抵銀四十二匁ニ換フヨシ見ユレバ、銀一匁ハ鑿九十五文二分三三ニ當ルベシ、因テ云フ、此役ニ石田三成忍城ヲ水攻シ、

其役夫ニ晝ハ錢六十文米一升、夜ハ百文一升ヲ給セシハ、凡倍賃ヲ以テ之ヲ募リシモノナルベシ、十八日、はれる、おか引、小引、おなじく六分七分也、くろくわ三分五厘四分、五郎兵衛、七郎左衛門いづれも今日よりふしんばへいづる、平右衛門はつききりのさだめ、平右衛門所にて御二人様御膳あがるゝ、

按ニ昔工匠役丁ノ屬ニハ雇料ノ外ニ飯米アリシコト、石田ノコトハ已ニ上ニ注シ、其外往々古記ニ見エタリ、梵舜日記、慶長七年八月十一日、寶殿神供所疊替ノ條ニ、作料口疊ニ付一升三合、飯料別ニ遣也、又一疊ニ付四升、コレハ飯料カケテ算用、又十八年九月廿九日、土屏ノヤチヲ葭ニテ申付、人足廿五人來也、葭之代百五十文、竹三百文、蕨繩二百文、以上一貫ニ飯米三斗計也、又多磨郡日向和田村農彌四郎藏慶長十一年藤原秀房文書ニ永七十四貫百拾八文、大鋸作料百五石三斗五合同扶

持渡ナドアリ、本文ノ大工鋸引ノ類モ或ハ工料ノ外ニ飯米アリシニヤ、再按ニ、是ハ賦役令以來已ニ如此、徳川氏ノ世ニ及テモ、明暦ノ頃マデ、猶此例アリ、然レドモ飯米ハ或ハ有リ、或ハ無シ、必シモ有ルニ限ラズ、詳ナルコトハ此ニ略ス、

十九日、くもる、芝崎の道場引うつしはじむる、大工百五十人くろくわ二百五十人、三四郎七五郎うけ取、上人より大工へかゆを出さる、

廿日、はれる、伊豆の上米百文に七升と申、うり可レ申哉と申、御下知まづ見合候へと也、

見聞集ノ相場ヲ以テ算スルニ、京錢百文ニ七升ナレバ、金一枚ニ二十八石ナリ、上米ナレバ其價特ニ貴キナルベシ、烈祖成績ニ^ニ秀吉給ニ小田原倉粟數十斛於神祖トアルハ此米ナルニヤ、

廿一日、はれる、奥州かさゐ大崎の一きほうと也、御使をつかはさるべきよし、

廿二日、はれる、ごみ永神四郎さかるへ御使と申、よく聞ばまみや庄八也、木村いせ守佐沼をあけてにげ候由、

富永ハ山城守政辰ノ初名ナルベシ、○間宮庄八ハ未レ詳、○木村ハ伊勢守貞重ナリ、貞重ノ名異同多シ、或ハ秀俊、長俊、重滋、吉請、吉定、好元ニ作ル、

廿三日、くもる、一きのことにて大坂より下る人あるべし、はやく町わり仕廻候へと申事、むりきはまりなし、

廿四日、はれる、をうしうへ御使たつ、町屋のふしんいをき候へと申、市右衛門よび出し、きびしく申付候、

廿五日、はれる、をうしうのひきやく、せんじゆにていきゝりたをれる、氏郷のうちのものをくら孫作、北川平次郎也、せんじゆのやく人ちうしん狀をもちてまいる、平八郎うけ取御しろへ上る、

小倉ハ蒲生家ニ於テ有名ノ士ナリ、○北川或ハ比ナヒ川ニ作ル、

廿六日、はれる、本町通りより淺艸まで御らんあり、まち／＼のもの出る、

廿七日、はれる、土ばし彌七、大はしぎはにてけんく
わ、彌七ふかで、藤一八ヶ所て負、彌七相手天野藤
一、

大橋ハ大手橋ノ舊名ナルベシ○土橋、天野ハ並ニ
未詳、

廿八日、はれる、大はしふしんばへ御かゆ下さる、平
右衛門ほねをり御ほうび、

御褒美ハ、村田家譜ニ、御刀一腰、金五十片、○
廿九日以下缺、

殘闕上

十八日、はれる、御城下はしふしんはじまる、ふな
いりぼりふしんはじまる、木はら方すいき方二手に
わかる、

以下十二月ハ八日中ノ欽文ナルベシ○木原鈴木ハ
普請方、木原七郎兵衛吉次、鈴木近江長次ナリ○舟
入堀ハ落穂集ニ、江戸町屋ノ始リハ今ノ日本橋ヨ

リ道三河岸ヲ堀ラレシヲ初ニテ、夫ヨリ次第ニ堅
堀、横堀ナド出来云々ト、是等ノ堀ナルベシ、按

ニ正西聞見集ニ、江戸中ノ御普請ノ事モ、本田佐

渡殿皆御サシヅ次第ニテ候、本田佐渡殿毎日明七

ツ比ニ御普請へ御出候ヒツルマ、諸大名衆不

レ殘チャウチン御タテ、丁場々々へ御出被レ成候、雨

風雪中ニモ御ケタイ無レ之候、淨和様松平康重キサイ天正

十八年晴西ニ笠間慶長六年笠間ニ移ルニ御座候内、御苦勞被レ成

候、我等共ハ御大名衆ヨリ尙以夜ノウチニ普請へ

罷出、朝飯ハヒル比被レ下、夕メシハ宿へ歸、火

タテ毎日被レ下、臥候ハント存候へバ、大雨ノ日

ハ堀ヨリ揚候ツチホリソコヘナガレ入候ヲ、夜普

請ニシガラミヲカキ候テセキトメ、又ハ堀ノ水ヲ

釣瓶ニテ五重六重カヘアゲ申候、無レ左候へバアク

ル日ホリホル事不ニ罷成候、惣侍衆モ中間同前ニ

歛取モツカウ持申候トアリ、是ハ必シモ此歳ノコ

トニハ非ザルベケレドモ、以テ往時ノ狀ヲ見ルニ

足レリ、因テ附載ス、慶長四年二月、觸書ノ中ニ新規ノ
レ成候ニ付、其所
ニテ構ヒナシ、

十九日、はれる、ふないりばりのかた、さきにすべ
し、はしのふしんさき、いづれか正しきと御せんぎ
あり、はしのかた第一といふことになる、

廿日、ふる、

廿一日、はれる、はしぶしんことはじめ、木はらか

た忠兵衛、次郎作、喜六、三之丞、市介、

忠兵衛以下五人ハ其後木原勘右衛門ニ屬シテ、地

割方ノ手代トナルト、舊手代ノ説ナリ、

廿二日、はれる、喜太郎殿、善次郎殿、半藏殿組衆、

いづれもはしの奉行仰付らるゝ也、

喜太郎ハ鐵砲頭堀内玄蕃頭利定ノ初名、○善次郎

ハ高木主水正次ノ初名カ、但其物頭トナリシコト

ヲ聞ザレバ、或ハ其父武者奉行主水助清秀ニヤ、○

半藏ハ渡邊忠左衛門守綱、服部石見守正成ノ初名

ヲ半藏ト云ヘバ、二人ノ中ナルベシ、

廿三日、ふる、五郎右衛門紀三郎はしの事申出る、

三之丞さあひあしゝとてはしの役所よりこぼる、

廿四日、はれる、本町のしにて土ばしを板ばしに

かけ直す、忠兵衛、喜六、五郎右衛門、四郎兵衛、こ

れは木はらかた也、

土橋ハ今ノ常盤橋カ、然ラバ紳書ノ説ノ如ク古ク

アリシ橋ナリ、

廿五日、ふる、

廿六日、ふる、

廿七日、はれる、三左衛門殿へはしのはしら材木き

り出し候様御下知也、

三左衛門ハ内藤豊前守信成ノ初名カ、

廿八日、はれる、新太郎殿奉行にてちゝぶのをくより

はしいたきりいだす、眞田をきごのゝ内たかはし五

郎兵衛、橋のことをよくしたると也、日光のはしか

け長兵衛もめしいださる、

新太郎ハ未詳、村田家藏古書ニ山元新太郎アリ、

或ハ其人ナルヤ、疑フラクハ山本帶刀成行ノ初名
ナルベシ、文祿中征韓ノ役起リシトキ、成行普請
奉行ト爲テ伊豆ニ赴キ、船材ヲ採リシコトアリ、
寛永系圖ニ山本新太郎正繼アリ、
レドモ、是ハ同名異人ナリ、○真田ハ、安房守昌幸ノ弟
隱岐守信尹ニテ、其後徳川氏ニ出仕セリ、○はしか
け長兵衛ハ、日光ノ橋方大工橋掛長兵衛ノ祖ナリ、
廿九日、はれる、はしかけ可申所貳百七十三あり、
そのうちさしかゝり急に入用の分百五ツあり、
橋梁ノ多キヲ以テ、當時細流小渠ノ多カリシヲ知
ルベシ、因テ按ニ府下ノ溝渠ハ悉新鑿セシモノニ
ハアラズ、舊來ノ池澤ヲ疏通シ、町割ニ從テ略其
水路ヲ改メ、以テ今時ノ地形ヲナセルニヤ、蓋慶
長八年ノ修造ニ大成セシモノナリ、

殘闕下

三日、はれる、小田原のもの又々にげ来る、大殿様
へ申あげ、平右衛門扱ひ也、とへの御つかひかへる、

以下ハ蓋十一月ノ記ナルベシ、

四日、くもる、本町の地わり少々なほる、少將様は
じめて御つき、御むかひ御案内に大助出す、

少將様ハ結城秀康ナリ、土冠追討ノ爲、奥州ニ赴
クトキ、先江戸ニ來リシナルベシ、○大助ハ、村
田ノ從者西尾大助、

五日、ふる、新大郎殿よりちゝぶの木きり出しの數
をうかいひ来る、大殿様より服部半兵衛の方へ御内
内の書御遣し、これは角筈の御社の事と申事なり、
本町のにし板ばしすへ付の事、喜六申出也、服部半
兵衛より行ちがひ使來候、そばこを持參る、ゆくか
たの新兵衛もいかうのかたの人となりたくと申候、

服部半兵衛ハ未詳、寛政重修諸家譜ニ同姓名ノモノ兩三
合フモノアリ、
人アレドモ、其時代事迹トモニ此記ニ
ノナシ、○角筈ノ社ハ村田古書ニ角筈ノ大宮トモ見

ユ、是今ノ八幡ナルベシ、此村ハ中野領中ニ於テ
最早ク開ケシニヤ、慶長圖ニモ半藏門ノ外ニ國府
方ヨリ角筈へ出トアリ、○そばこハ蕎麥粉カ○ゆ

くかたハ、村田古書ニ行カタ新兵衛アリ、乃其人
ニテ、ナメガタヲユクカタト誤記セシナルベシ、
○いかうハ飯河カ、然ラバ善左衛門盛之ナルニヤ、
六日、はれる、神田の臺下、土どり、あと道をなら
す、谷原町へ通りぬける様にと申付る、かねて谷原
のもの願につきて也、千束のいけの事今日きまる、
鳥こへのものへ申付る、ひきの七三郎かまくらより
か、比企の久六もきたる、六郷殿御内より忠助御つ
かひ箱をかへす、

千束の池ハ先ニ埋立ヲ請ヘル姫ヶ池ナルベシ、然
ラバ當時兩池相接セシコト益明ナリ、○ひきの以
下十三字ハ原書塗抹ヲ加フ、○比企ハ鎌倉ノ比企
ヶ谷カ、

七日、くもる、芝さきの御寺より、引地すみの御禮
に豆二俵、外二しな持參、葛野殿迄いだす、

外二品ハ村田古書ニ豆二俵、米六斗、椎茸一俵ト
アリ、○葛野ハ、眞田信尹初名ヲ葛野市右衛門ト

稱スレバ、乃眞田ノコトカ、
八日、くもる、六郷殿の御内の衆、池上の事につき
この方へ御出、ふるたき、あやまちをういたす、
あやまちハ村田古書ニ常陸殿ニテ火事コレアリ、
御見舞上ルト、此事ナルベシ、

九日、はれる、

十日、はれる、

十一日、ふる、観音の御寺四十貫九百文は其高わる
し、後々には五十貫文と定めのみし、内々被ニ仰聞
外に千束の内の事も其せつと仰らる、内々の事も、
瀧の川車は明日にせよと被ニ仰付、これは市右衛門、
平右衛門心得也、土どりのもの百二十二人來る、市
右衛門、平右衛門へ骨をりの御ほうび被下、御き
にいりゆへ六度めなり、忠五郎とかくうらみ申、吉
兵衛よりなだむる、相摸の千から殿御全快とのよし、
五十貫文ノコト、淺草寺志ニ逸シテ傳ヘズ、○御
褒美ハ、村田古書ニ鳥目五十貫文被下、○千か

ら殿ハ、同書ニ千柄由三郎アリ、其人ナルヤ、

十二日、くもる、おうしうよこ□□□□の飛脚□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

栗原信充云、原書屋漏ノ爲ニ腐壞シ、此間四五張

ヲ脱シ去ル、

めいわくす、千束の池、北の方は勝手にせよと被ニ

仰付、鳥越のものこゝろ次第なり、

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

廿五日、ふる、日光の橋懸け長兵衛の子召つれ出る、

三四郎の兄なりといふ、

長兵衛ノ子ハ、村田古書ニ長兵衛忤甚藏○栗原

云、此ヨリ以下四十張許爛壞シテ讀ムコト能ハズ、

附録

慶長五年

覺

市中之者役人之分

はち金 くさりしころ はちあて 手かうす

ね のぞわ

無役之者

はち金 くさりしころ のぞわ 手かう

右は急度支たぐいたし、兩人處へあつまり可レ申候、

子八月 修理 常陸

常陸

關原ノ役前ノ町觸ナルベシ、教令類纂等徳川氏ノ

法令ヲ輯スルモノ皆載セズ、

十月七日、はれる、ひたち様江戸町奉行被ニ仰付、

寛永系圖、町奉行前録等、六年十一月ニ作ルモノ

ト合ハズ、疑フラクハ誤リテ五年ノ末ニ次第セシ

ナルベシ、

慶長六年

三月八日、江戸町わりはじめ、きもいりの内へ平右

衛門申付る、

慶長十一年

正月十一日、平右衛門むすこ平八郎を、平右衛門にする、

以上ハ慶長ノ記ノ斷簡ナリ、

附考

青山 新編武藏風土記、原宿村ノ條ニ此地ニ立ル熊野社ハ、青山ノ總鎮守ト云ヘバ、本青山ト唱フル地、古クハ當村ノ内ナルニヤ云々、此地モ天正年間明屋敷番伊賀衆ニ賜ハリシ大繩給地七村フーナリト、其說如レ此、然ラバ其地ニ只青山ノ總鎮守アルノミナラズ、青山氏邸外ノ地ニ青山ノ稱アルヲ以テ、彌古ク此地名アリ、曾テ青山氏ト相干カラザルコト分明ナリ、

江戸水道 此水道ハ、乃今ノ神田上水ナルコト、略本文ニ註明スレドモ、更ニ一ノ證左トナスベキモノアリ、大久保主水ノ家傳ニ、御入國ノ節江戸ニ於テ水ノ手見立ツベキ旨仰ヲ承ハリ、小石川ノ水道ヲ見立シニ付、其賞トシテ主水ヲ名ヲ賜ハリ、且水ハ濁リヲ嫌フモノ故ニ、モンドヲ清ミテモント、呼フベシトノ仰ニテ、今猶シカク唱フルヨシ

見エタリ、是ニ由テ之ヲ觀ルニ、特ニ其水利ヲ檢定セシノミナラズ、水道實ニ成功アリシカバ、東照公ハ此名ヲ賜ハリテ之ヲ賞セラレシコト、猶鐵砲師宗八郎ニ厓氏ヲ賜ハリシガ如クナルベシ、既ニカク成功アリシヲ知レバ、所謂小石川水道ハ、今ノ神田上水ヲ措テ他ニ求ムベキナシ、是ヲ以テ今ノ上水ハ、乃大久保ノ舊鑿ナルコト愈疑ナカルベシ、抑此上水ハ玉川上水ニ亞ギテ希世ノ偉功ナルニ、後世其實ニ大久保氏ニ創マリシヲ知テ、之ヲ表章スルモノナク、竟ニ今日ニ至リシハ、一ハ文獻ノ徵スベキナキニ因ルト雖、蓋上水ノ不幸ニシテ、亦大久保氏ノ不幸ナリ、



酒一升七十文 酒價ノ舊記ニ見エシモノ二三ヲ此ニ拈出シテ、往時其價ノ甚貴カラザルコトヲ證スベシ、應永三十五年ニ和州ニテ新酒一斗三升ノ代二百卅文、南都春日若宮社日記 永正九年ニ甲州ニテ米八十文、小麥七十文、鹽四十文、酒十文、妙法寺記 天文八年ニ

和州ニテ吉酒三升廿文ツ、下ハ白酒十二文ツ、多聞院日記 同十二年ノ頃京都ニテ酒三石ノ代米三石九斗、室町殿日記 永祿十年ニ和州ニテ餅米五斗ノ代四百十九文、酒一斗一升百十文、多聞院日記 又河州ニテ酒一升廿五文、一斗四升三百五十文、河州觀心寺入目證文、無年號、蓋天正 以慶長七年ニ和州ニテ米三石六斗ノ代七貫二百卅二文、上酒一斗二百十八文、下酒二斗三升二百卅七文、南部般若寺古牒 寛永中ニ常州ニテ白米一石八斗三升六合ノ代一貫八百卅六文、酒二斗二百廿文、同十二年ニ酒八升二百廿四文、并ニ水府勘定方舊記 昔時ノ酒價及其米價トノ差ハ大抵如此、然ルニ本文ノ酒價特ニ貴キハ、或ハ地方ト年ガラトニ因テ然ルニヤ、隅田ノ堤 本文ニ今ノ大堤ニアラズト注セシ所以ハ乃左ノ如シ、墨水遊覽志ニ、今ノ大堤ヲ以テ太田道灌ノ所築トスルハ杜撰辨スルニ足ラズ、名所圖會ニ、天正二年北條氏ノ所建トスルモ、蓋四神地名録ナル熊谷堤ノコトヨリ推テ、此說ヲ設ケシナ

ルベケレバ、是亦從ヒガタシ、只江戸志及西葛志
ノ二書ニ、慶長中ニ所_レ設ノヨシ記セシハ、俱ニ其
明据ハナケレドモ、或ハ其實ヲ得ルニ近カルベシ、
徳川氏開國ノ初、伊奈氏父子郡代トナリテ諸處ノ
堤防ヲ興シ、灌漑ヲ通ジ、大ニ新田ヲ闢キシコト
其傳記ニ見ユレバ、大堤ノ當時ニ成リシト云ヘル
モ信ニ然ルベシ、但今ノ堤ハ天明丙午大水ノ後ニ
修築シテ、今ノ高サニ至リ、櫻樹モ其時重テ植エ
シモノナリ、按ニ隅田川ニ堤防ノアリシモ已ニ久キコトニ
テ、釋得立江亭記ニ淺野濱ノ長堤ヲ載ス、其外上
流諸處ノ堤防ハ往々
古書中ニ散見セリ、

本町々割 下谷金杉上町舊名主勝田家藏古書ニ、天
正十八年ノ觸書アリ云、御城内北ノ方ヨリ國分方
へ此度町屋ヲ開キ、諸商ノ辨利致サセ候ニ付、勝
手次第其所ニ移リ商ヒ始メ候テ不_レ苦候、尤御城
下東ノ方モ夫々ト御割渡可_レ有_レ之ニ付、其所ニ
移リ候共勝手ニ可_レ致候、此段申觸候事、十二月
廿五日兩人所トアリ、此ヲ見レバ麴町ノ開ケシモ

蓋同時ノコトナリ、紳書ニモ曾テ
此說アリ、國分方ハ昔赤阪青
山ノ邊ニ在リシ村名ナリ、舊說ニ是ヲコフガヘト
訓シテ、麻布筭橋ハ其遺迹ト云ヘルハ信ジ難シ、
本町ノ町割已ニ定リテ、右ノ觸書ヲ出セルニ、當
時ハ移住スルモノ猶多カラザリシニヤ、深谷記ニ
左ノ一事ヲ載セタリ、其略云、卯年天正十
九年中村高
齋等三人深谷町ニ罷在我儘仕候儀、其合手ニ武井
内藏助、杉田因幡等五人之者江戸へ參、波多野若
狹ト申者之處ニ宿取、茶屋四郎治殿頼入御訴訟申
上候云々、四郎治殿被_レ仰候ハ、深谷町トテ江戸
ニ屋敷ヲトラスカト被_レ仰候ニ付、内藏助深々敷體
仕取申間敷ト申候ヲ、因幡申候ハ、一町被_レ下候へ
ト申候ヘバ、神谷彌五郎殿ト申仁町へ御出被_レ成、
本町一丁目御割被_レ下候、則木曾ノクレ木買ワカ
サイマタテ、七字難
通其儘因幡内藏助へ申候ハ、我等
ハ、助三郎ヲヤガテ越可_レ申候、内藏助ハ善四郎
ヲ越候ヘト申候ヘバ、内藏助シキリニ佗言申ニ付、

兩人ナガラ越不_レ可_レ申、宿之若狹へ永錢十貫文ニ
賣歸申候ト、當時ノ狀以テ想ヒ見ルベシ、凡江戸
ノ繁華ハ關原役後諸侯藩邸ヲ置キシトキニ始リ、
寛永中諸侯妻室ヲ移セシ以降益隆盛ヲ致セルナ
リ、

仙波喜多院 慈眼大師傳記、天正十九年再ニ興不動
院、仰以延ニ天海ニ俾_レ住_レ院、慶長四年受ニ權僧正
豪海附屬、住ニ仙波喜多院ニ云々ト、大師傳、兩大
師緣起、東國高僧傳、御室歷代年譜ノ類ハ皆此謬
リヲ襲ヘルナリ、今天海兩院ニ住持セシ年月ヲ考
フルニ、喜多院緣起ニ天正十六戊子年初管_レ此ト
アリ、不動院舊記ニハ天正中從_ニ會津熊野堂_一入院、
在住七年トアリテ、其年月ヲ逸セリ、葦名記四家合
考等ニ据ルニ、盛重ノ常陸ニ走リシハ十七年六月
ノコトナレバ、天海ヲ江戸崎ニ招キシハ其七八月
以後ニ在ルベシ、然ルニ傳記ヲ撰スルモノ之ヲ詳
究スル能ハズ、遂ニ年次ノ錯亂ヲ致セルナリ、又

按ニ進藤夕翁手簡寄安積
澹泊ニ、嘗テ天海手書ノ中臣
秋抄ヲ見シニ、其奥書ニ檀那盛重之陣、爲_ニ祈念_一
書_レ之、不動院隨風トアリト、又不動院ナル智證
五大尊ノ裡書ニモ、醫王山法印大和尚隨風花押ト
アリ、蓋天海不動院ニ在リシ頃、別名ヲ隨風ト云
ヘルナリ、是等ノ逸事ニ至テハ傳記以下一モ擧グ
ル所ナシ、其疎脱アルコト乃如_レ此ナリ、

神田ノ臺下千束ノ池 川本家藏古書ニ小田原御門御
番屋ヨリ御達、此度芝崎口、神田臺、原道通リヨ
リ追々御開相成可_レ申被_ニ仰出_一ニ付、所ノモノ其
外ノ者共、所ヲ望ムモノ勝手ニ土浚崩可_レ申、多
分イダシ候者ヘハ御賞モ可_レ有_レ之、只今千束内外
ノ池、代山流_レ共埋立ニモ候間、浚土持出シ差
支候ハゞ、此埋立ヘ遣シ可_レ申候、右望之者ハ懸
リノ肝煎市右衛門、平右衛門、三郎兵衛ヘ申出、
此者ノ差圖次第ニ可_レ致候、兩人所ヨリモ見分ニ
出候事モ可_レ有_レ之候、此旨江戸内ヘ申觸ベク事、

二月三日、修理常陸トアリ、此書以テ本文ニ參稽スベシ、原書年號ヲ失スレドモ、乃天正十九年ニシテ、其事前年ヨリ翌年ニ涉リシハ勿論ナルベシ、所謂芝崎口ハ今ノ神田橋門ナリ、代山村ハ北條役帳ニ廣澤内代山、根岸源七郎分トアレバ、山下坂本ノ邊カ、其流ハ未詳、三郎兵衛ハ木原方三之丞ノ父ニテ、地割方樽三右衛門ノ祖ナリト云フ、

徳川氏江戸城ヲ取リシ月日 六月七日ノ條ニ河村秀重已ニ城ヲ開キシ後ナルベシト注セシコト、猶其說ヲ此ニ疏明スベシ、初江戸城ハ河村兵部、ソノ兄遠山景政ニ代テ之ヲ守リシニ、武田家ノ浪人眞田信尹等、徳川氏ノ爲メニ周旋スル所アリテ、河村遂ニ城ヲ開キテ退キシコトハ、詳ニ落穂集ニ見エタリ、但其月日ヲ載セザレバ、何時ノコトトモ辨ジ難シ、因テ按ニ家忠日記ニ、十八年四月廿二日關東之城々御味方ニ參候由、戸田三郎左衛門ヲ江戸へ被遣候トアレバ、乃四月中ノコトナルニヤ、

細川幽齋東國陣道記ニ、古田織部ノ角田川見物ノトキ詠セシ歌ノ返シアリ、其日ハ詳ナラザレドモ、六月廿二日ノ次ニ載スレバ、見物ハ其前ノコト、而シテ開城ハ彌其前ノコトナルベシ、是等ヲ以テ本文ニ參考スレバ、其事縱令四月中ニアラズトモ、必五月中ヲ出ヅベカラズ、又因ニ一事ヲ記スベシ、往時幕下ノ士ニ遠山莊之助アリ、天正ノ役ニ河村ト共ニ本城ヲ守リシ紀伊守直宗ノ子孫ニテ、遠山氏ノ嫡流ナリ、其家祖先以來東照公ノ親書一通ヲ傳フ、秘藏シテ妄ニ人ニ示サズ、然ルニ其書ハ今度異議ナク城ヲ開クニ於テハ、永世子孫マデ粗略アルベカラズトノ意ニテ、乃當時賜フ所ノヨシ、然ラバ河村以下モ皆同様ノ約ニテ開城セシモノナルベシ、莊之助ハ嘉永中ニ罪アリテ家絶ヘタリ、吾友中島重勝ハ其頃隣家ニ在テ往來シ、親シク聞ク所如此ト、是亦一ノ遺聞ナリ、因テ併セテ附記シ以テ備考トナズ、

親綱卿記

文祿四年

十月

廿三日戌、晴、依_レ召長橋へ參、御燒物香合等之儀有_二御談合、內侍所サイ賀茂已來、備前中納言內儀煩に付、御神樂可有_二御執行之由、民法有_二折紙、金子三枚請取了、則兩人長橋へ參披露申了、被_レ成_二御意得_二之由返事了、

廿四日亥、晴、寅刻伏見へ引向松木事、御香合等之事、民法へ口入魂了、御神樂明日廿五日たるべき由申届了、御亥子也、著_二衣冠_二參内、勸大、予父子、萬里、廣橋藤宰相、伯、右中辨、甘露寺、廣橋侍從等也、

廿五日子、晴、就_二六町々_二新在家普請之儀ニ付爲_二一安_二佗言申入候也、就_二其民法ニ折紙遣し候也、

亥刻許著_二衣冠_二參内、御神樂子刻許始也、丑刻入眼各被_レ散了、御神樂丑終刻入眼也、御劔飛中將、脂燭九人、

廿六日丑、晴、及_二晚頭_二雨降、雷鳴少音了、六町々新在家之儀に付民法へ遣_二折紙_二了、

廿七日寅、晴、御移徙爲_二祝儀_二御使妙門へ參向了、五荷五合御口口口、懸_二御目_二暫有_二御酒、

廿八日卯、朝間雨霰等降、

以_二文祿四十_二廿八日_二申入了

申 從四位下

正五位下藤原公益

申 正四位下

從四位上實條

申 從五位上

從五位下藤原忠長

申 從三位

正四位下左近衛權中將藤原雅教

申 正五位下

從五位上藤原雅賢

廿九日辰、晴、明日爲御使伏見へ可罷越之由、從民法有折紙、先度衆へ則申觸了、入夜更而又有折紙、彌明日必定由也、明後日二日御上洛之由被告送了、抑昨日廿八日本國寺上人被來禮、淺黃壹舌、一端芳賜、弟子同道、茶英心、同同心、勸一盞了、及黃昏冷泉令同道入風呂了、

十一月

一日巳、晴、早天伏見下、大閤御方へ懸御目了、一段御機嫌、各令満足者也、勸大、予、久我、鳥丸、日野、廣橋、藤宰相、飛中等也、

二日午、晴、石川久五郎諸大夫成候事、今日申入事也、大閤御所御上洛之由承候間、大佛へ行向之處、御延引之由にて歸宅了、暫有て又御上洛之由告來候間、又大佛迄下候所、又延引之由有注進、直聖門へ參、大御酒不知歸路候也、勸大、予、久我殿同道、先是右中辨、甘露寺、右衛門佐等參候、

昌紀父子等也、

三日未、晴、御上洛之由、依有沙汰、大佛へ引向所、又御延引之由にて歸宅了、

四日申、晴、依招請朝飯に坊城へ行向、蜻庵、予、宰相中將、冷泉等相伴、依長橋就官位之儀有召則參、然處大閤又御上洛之由告來候間、急大佛へ行向、御上洛、大佛於門外懸御目歸宅了、於路次泉涌寺、東音院、報恩院御酒振舞、久我殿等、鳥丸、同心、

五日酉、晴、大閤へ御使之儀に付、從朝飯以後兩三人私宅に相待及黃昏懸御目了、可有御參内之由御返事、聖門有御使、卷物二端拜領、但不懸御目、今日依御使也、

六日戌、晴、御參内可爲明日由御用意等也、入夜民江御座敷爲見俗參内、於臺所有御酒、勸大、予、藤相公、伯、大寺、右中辨等也、毛利諸大夫兩人有之、但名不知之、

二宮信濃守豐臣就辰叙爵受領同申入丁勅許、文錄四十一此上卿勸修

寺大納言此書付予御遣丁平出中御

七日亥、晴、今日御參內延引、御咳氣之由也、於三常

御所_レ可有御對面_二之由也、然間内々其用意也、

今日御月次觸_二調之、長橋送進候申遣也、

八日子、晴、大閣御所御咳氣_{其方}口之由にて無_二御參内、

俄伏見へ御下也、祭主一安晚迄招請了、

九日丑、晴、大閣御所御還御に付、民法相等へ遣_二折

紙了、

十日寅、晴、烏丸辨奏慶、予行向了、親王御方へ三

種貳荷御進上之由、二種貳荷遣_レ之了、拜坐伊賀從_二

大坂_二上洛、有_二書狀、アミウルカ芳賜、大佛僧來

禮、入_レ夜松下石見同來禮、但烏丸へ行之間にて不

入_二見參、

十一日卯、雨降、早天烏丸へ此間禮に遣_レ人了、松下

宿へも同遣_レ使了、禁裏御菓子今日書中立進_レ之了、

十二日辰、晴、

十三日巳、晴、朝飯に伊賀宅へ行向、早卒予父相伴

後_二に昨門眞光院參會、今日柳息奏慶之由也、樽肴

芳賜、從_二此方_二同兩種書荷送_レ之了、

十四日午、晴、從_二伏見_二有_二注進、大閣御所御煩に付、

於_二禁中_二可_レ被_レ行_二御修法_二之由也、阿闍梨青蓮院

殿へ相定了、内侍所御神樂御立願、其外御立願之

事、

一祇園御湯 一北野 一愛宕

一賀茂下上 一松尾 一清水

一八幡 一春日

以上

此分御立願也、

十五日未、寅剋許出門、伏見へ相越也、勸同道、昨

日書立通猶相究、直青門へ參、御導師等之事申談

了、留守柳女房には已來昌化同來、從_二筑州_二之儀

共申聞了、理性院來儀晚饌相伴了、菩提眞光相伴

入_レ夜歸宅、毛利諸大夫兩人御禮申入了、二宮受領

信濃守豐臣就辰書出、中御上卿、勸大勅許、文錄四十六

十六日申、雨降、今日先考御忌日也、

十七日酉、雨降、庭前亞相百ヶ日也、齋に行向、勸

大、予、正親町等也、泰長老招請、相國寺衆七人

懺法、從_二伏見_一折紙有_二返事_一、大閤御所無_二異儀_一通

之由也、御神樂、諸寺諸社勅使等之儀可_レ急之由也、

十八日戌、雨降、但及_レ晚屬_レ晴了、千妙寺之來禮、

夜禁裏御修法に被_レ參、馳走持_レ口之由也、

十九日亥、晴、於_二長橋_一改元穿鑿有_レ之、從_二民法_一被

申入、依_二子細_一也、

廿日子、晴、大應寺禪師號、上卿禮に長老來云々、但

不_レ入_二見參_一、銀子十二目ヲ持來了、從_二肴門_一三種貳

荷拜領、從_二大門_一菊、得度候儀に付折一ツ樽拜領、般

舟院來、依_二神事_一不_レ入_二見參_一、七條樣今日御湯被

懸了、

廿一日丑、早天賀茂下上へ參詣、大閤御祈禱、爲_二勅

使_一如法於_二森朝飯_一用了、

廿二日寅、就_二改元事_一、從_二民法_一兵部へ被_二申送_一、暫在

之_レ水無瀬中納言不_二相屈_一由也、於_レ勸有_二穿鑿_一、久

我予亭主水無瀬則被_レ來、兵部ニ渡了、

廿三日卯、晴、早天寅刻伏見へ行向、今度御祈禱代官

參、卷數共持向、今日御方違、大典侍局へ御成、

及_二黃昏_一出御、内々衆大方不_レ殘參候、但勸大は依_二

虫氣_一俄不參、

廿四日辰、晴、親王御方爲_二御加持_一勝仙院來儀、

廿五日巳、晴、於_二勸大_一水無瀬中納言書狀之事申談

了、藤宰相、水無瀬中將等令_二相談_一了、於_二私宅_一先

度別殿□□□晚饌用□也、了後約束儀、藤宰相等被

來了、□も同被_レ來了、袖岡越中爲□持來了、

廿六日午、晴、今日御神樂也、戌刻許著_二衣冠_一參内、

御神樂、夜半許入眼了、今夜參候人々、勸大、予、

其外外樣、内々如_レ例、

廿七日未、晴、晚饌於_二花山_一御振舞、予父子三人五

條也、西園御相伴、□□持向了、今日水無瀬□□

口之一儀、料紙口私に令才覺、一安兵へ相渡了、民法へ受取被申儀に付申之由也、

廿八日申、雨降、今日春日祭云々、上卿烏丸大納言云々、御月次今日詠遣之儀、可御沙汰之限、今日丹波替地米渡にて、從藥院渡候也、

廿九日酉、雨降、從右府有便風、御狀到來、令拜見了、

卅日戌、晴、就節會之儀鷹司殿へ參、勸亞同心、歸宅候後、内侍所サイ加茂來儀、兩種樽持來了、

極月

一口亥、晴、但時々小雨降了、節會之儀に付、今日西園寺殿へ參了、昨日他出故也、晚蜻庵御振舞、坊城相伴、歸宅之後、著衣冠參内、前八條殿へ參、御盃頂戴、

二日子、晴、明日醍醐へ可上之用意、内々申付了、三日丑、晴、早天醍醐へ令登山了、宰相中將同道、從跡冷泉同來了、予先三寶院殿へ直に參、御禮申入

了、黃僧同道、其後理僧正へ引向了、從三門主二獻有之、其後飯被出之了、於理スイ物同一獻、其後飯有之、其後水本へ行著了、頓而門主理師弟子來儀、スイ物有之飯相伴、

四日寅、晴、寅刻許落髮了、但予不及見、訪宿坊口章院中將同心朝飯、三主其外昨日衆相伴、鹿園院等相伴、終日大御酒令沈醉了、

五日卯、小雨時々降、但京着之刻令屬晴了、歸宅以後飛中、伯等へ爲禮行向了、

六日辰、晴、從醍醐有使者、明日伏見へ可罷越之由也、則令領狀了、親王御方御目藥師又始見了、

七日巳、晴、寅刻許出門、伏見へ行向了、水中禪師則出合了、民法は御城に被詰之由也、以書付則申置了、入夜伯へ爲見廻行向了、勸辨先是被見廻了、

八日午、晴、但朝程雪少降了、今日宮御方御湯被懸

了、從_レ准后_二御樽三種被_レ遣_一之了、坊柳來儀、先_レ是園令_二招請_一了、從_二吉田侍從大根二百本芳賜_一了、

九日未、晴、雪始積_レ地、嵯峨二尊院來禮、書順同道、其後予飛中へ行向、終日言談、抑今日准后仕了、予前フクリニテ過了、前代未聞、予不_レ杯故也、乍_レ去仕了フクリナド著スル事、此御代ヨリ必被_レ始、不_レ及_二是非_一義也、

十日申、晴、今度宮御方就_二御本復_一爲_二御禮_一左衛門佐へ今朝爲_二御使_一行向、三種三荷御馬太刀馬代青銅五百疋被_レ遣_一之了、則朝飯相伴、其後從_二醍醐_一新發出京、菩提山同道、行樹院良藏同道、祝着之餘傾_二數盃_一、沈醉無_二正體_一者也、

十一日酉、晴、依_レ召長橋へ參、節會之儀、小朝拜之儀、民法へ可_二遣申_一由也、則以_二折紙_一申遣了、神宮奉行之事、從_二來年_一傳奏三人可_二存知_一之由被_二仰出_一、故障之由度々雖_二申入_一無_二御領狀_一、畏存之

旨則御請申、則於_二長橋_一鬪取了、三月替可_二存知_一由被_二仰出_一了、一番勸大、二番久我、三番予、

神宮傳奏次第之事

一番 勸修寺大納言

二番 久我大納言

三番 中山大納言

如_レ此相調、懸_二御目_一了、今日水本登山、

十二日戌、晴、終日風烈甚候也、依_レ召長橋へ參、

民法へ被_二仰出_一儀共有_レ之、從_二一條殿_一七條様へ折壹ッ□□□ニッ御進也、予へ三種指樽壹荷拜領、

十三日亥、晴、早天伏見へ相越了、三人同道、但民法は御城へ被_二相越_一、一安兵部を以_レ從_二上仰_一之旨申

届了、從_二大閣_一禁裏へ鷹_二三棹被_レ遣_一、今度御煩に被_レ成、御肝煎之爲_二御禮_一如_レ此之由也、彌御本復之通可_レ申由也、

十四日子、晴、今日又從_二禁裏_一又伏見へ爲_二御使_一罷越候也、勅書有_レ之、

十五日丑、晴、早天行向之處、民法不_レ入_二見參_一、勅書有_二穿鑿_一歸宅了、朝飯久我殿御振舞、

十六日寅、從_二午刻許_一伏見へ行向、及_二黃昏_一民法へ入_二見參_一、勅書趣其外一儀令_レ談了、

十七日卯、晴、於_二長橋_一節會彼是大閣御返事等申入了、今日宰相中將息_二フカシキ_一也、其後於_二勸亭_一伯中御、葉室等參會、其後鷹司殿へ參、節會小朝拜等之事申入了、直に又西園寺殿へ參、同申入、

十八日辰、晴、但從_二己刻許_一時々雨降、爲_二御見廻_一聖門新宮へ參、歸宅之後目藥□□□晚饌相伴、宰相中將、同相伴、

十九日巳、晴、女房衆祇園へ參詣云々、大典侍局參詣故也、御茶々同道、大閣御方昨日大坂へ御越云云、

與村伊與_{筑州}
諸大夫

入_レ夜伊介大隅子令_二同道_一來、其故は大隅煩以外之間、子跡目無_二相違_一樣こと案内也、樽代二百疋

持來、折節□□心外□日也、

廿日午、晴、大隅夜前夜半許和果候由告來了、

今日賀茂競馬之一儀に付、繪旨相調遣_レ之了、爲_レ禮二百疋送_レ之云々、

廿一日未、民法從_二伏見_一上洛云々、

廿二日申、晴、七條殿御髮會木無事被_レ成_二御沙汰_一了、勸大、萬里、伯、予父子三人參候也、御髮予ハサミ了、入_レ夜御神樂令_二參候_一了、無_二出御_一、夜半許入眼、珍重々々、

廿三日酉、晴、晚坊城□□被_レ來候由也、

廿四日戌、晴、爲_二歲暮_一民法へ行向、勸大、予、久我同道、樽代如_レ例、丁寧振舞機嫌にて罷歸り、昨日丹波七條殿替地水帳渡了、

右以_二自筆記_一在_二花山院中_一納言愛德_一乎令_二所望_一命_二平忠種_一令_二書寫_一了、所々難_二讀得_一、予加_二一校_一了、

天明元五十六

正二位藤

九州下向記

慶長三年の夏、太閤大相國のおほせにしたがひ、石田治部少輔三成、國の事おこなはんとて、筑紫へくだり給ふに、此ついで名ある所くをも一見すべきやなど、おうせらる、もとよりの、のぞみなれば、供し奉りぬ、先五月廿九日に京をたちて、伏見より舟にて大阪へおもむく、船中友とする人は獨なかりしが、あまたにもまさりて酒興度々也、身をうき草の理も思ひ出られて、さそふ水に任せて着岸す、晦日は三成のやかたに遊び暮して、朔日の曙舟出の供也、あまが崎へあがり給ふて、ある寺にしばらくやすみ給、さかつきの催しなご事はてゝより、兵庫にいたりてとまり給ぬ、あくれば又旅だち給ふに、御宿のあるじ宗曆發句所望せられしかば、さはがしき折ふしながら、心ざしのわりなさぞのがれかねて、

涼しさも遙けき浪の洲崎哉、

わたのみ崎こゝなればや、繪かく事に妙なる友松と云人は、都出るより、かりのやごりまでもおなじやうにと、かたらひけり、須磨の浦にきたりて、源氏の君、この浦山見給て、御繪いみじうまさりけるむかしを思ひて、

詠てや思ひわくらんうつし繪の跡まさりけん須磨の浦浪」關もる跡は絶ぬれど、所の景にとゞめられて、こゝにて時をうつし給ひしかば、こよひはかつあかしまでなり、先、人丸塚にて四方をのぞみ、しばしありてぞやごりはしめ給へる、月の頃ならばいかにおもしろからましなごいひあへり、三日には又此浦を立給ぬ、かへらん時は秋の夜の月のかり臥にてぞあらましなごいひて、

歸るさは月みむ秋と契をきて明石の浪に立そわかるゝ、一くるれば姫路にとゞまり、四日には、先、むろの津にいたり、やすみくらししてぞ舟には乗給へる、

海上にて一夜を明し、五日の日も船ながら暮にけり、

下津井といふ所にかりねし給ふ、角南祭慶といふ人

岡山より七里の道をいできて、けいめい常ならず、

から琴の泊、むしあきの追門、宇嶋門も近き所也、

ひいきのなだも跡に成ぬ、小嶋といひしこそ名には

たがひて廣く見えしが、六日の御とまりは、忠タタの海な

り、ひるは鞆の浦にぞやすみ給し、七日は川尻迄に

て、八日にぞ嚴島へ舟をよせ給へる、あくる日は此

嶋にあそび給ふ、さまぐの神だから其拜覽の中に、

法華廿八品を一巻づゝ平家の一門書給へるあり、軸、

表紙、紐のかざり今の世にあるべしとおぼえず、

分て平相國の筆跡は人々目をおごろかす所也、此外

同筆の願書もありき、山のたゝすまひ、浦のけしき、

いみじき繪師も筆をよはずあらん、しほみちきて

は、はうくとしたる廻廊の下にたゝへたり、さる時

は、鳥居は猶浪の中也、其興に催されて、

みつしほのなかはひたせる神の門や龍の宮古に立

つゝく覽、

又、大聖院座主の御坊、發句せよとありければ、

夏ぞみむ軒の山松庭の海

十日にくはといふ候へ船渡しし給て、馬をすゝめ給

ふまゝに、高森といふ所、富田と云所、各一夜づゝ

にて、十二日に天神の府まで也、これ則周防の府中

也、菅丞相左遷のいにしへ、舟よせ給し所とて大社

あり、前なる海こそまりふの浦と云名所なりけれ、

御宿の圓樂坊重恵所望に、

秋の色は茂る木のまのいかき哉

十三日の朝、一里ばかりを過ぎて、又舟にて關門セキントへ

著給ぬ、あくる日もこゝにこゝまり給へり、阿彌陀

寺と云寺に、平家の一類入水の所のしるしとて、其御

影ども堂にあり、安徳天皇の尊形は木像にて、八歲

の御わらはすがた、まことにさりぬべきさまなり、

されば一見の人々の短冊どもあり、其人さねには

あらねど、心のうちの手向ぐさに、

沈けんよはひも八里のしほあひの浪は昔にかへる袖哉、十五日はあしやに日たかくつきて御身をやすめらる、明ければをのくいそぎたちて、博多へもいどとくつき給ふ、此わたりに名所どもおほかり、しがの島先まのあたりにひかへり、海の中道ははるくご一筋浪を分たる白洲也、山までついくとよめるもしるくぞみえたる、海の中道より、しがの島へわたる所こそ、しかすかの渡なれ、香椎宮も遠からず、箱崎の社は異國降伏のため西をまもれると聞傳へしも偽ならず、思ひよりしまゝに、

他國もしたかひにけりかゝる世を待てや神のちかひあらはず、博多の松原につきたる所也、ある時三成正松原に遊給ふ、いと涼しかりければ、

松原はこぬ秋風のやとり哉、

廿六日まで、こゝにどゞまり給へり、國のをきての事共によりてなり、廿七日には宰府へかへり給ふ、道すがら又みる所どもおほし、かるかやの關は名乗

たカ

どがむるさよりもなし、四王寺の峰は此うへ也、天拜か岳も見わたしや、都府樓の瓦の色、觀音寺の鐘のひびきき、いづれも菅丞相の名句にありとか、其所を尋

ねれば、都府樓は跡かたもなし、瓦の色はもとの土どや成にけん、觀音寺の鐘の響は昔にかはらずやあらん、本堂のみわづかに残れりといへども、扉も軒もあらはなれば、雨は佛のみかほをうるほすごぞみえたる、額は道風の手あとたゞしくてあり、嚴島の鳥居の額も此筆なりとか、誠に筆のいきほひおもかげさながら也、思ひ出たるまゝに申侍りぬ、鳥居には兩方に額あり、内は道風、伊都岐島と書たり、外は清盛の手にて嚴島とありき、天神の社は隆景と申せし人の再興也、されどもあたりくはみなあれしまゝ也、三成此頃大鳥居の住僧信寛に命じて、安樂寺、東法花堂、西法花堂、廻廊、僧坊ども、經藏、鐘樓などたてらるべき事、但マおこなはる、廿一の末社の事は、いふにたらず、塔の修理、橋の欄檻、し

そへらるべき事、池のみくさもかれはらひ、流せき
いるべき所々をも、今ぞ定をき給へる、此おりふし、
信寛所望

宮柱ならは、猶や夏木立、

又わたくしの宿坊、長次坊信讀發句こはれしかは、

すむ水も時ある花の蓮哉

と申せしは、廿年前此池に植たりし蓮實終に其しる
しなくて、今年はじめて生ぜり、不思議ともいは
いひつべき事と、人々沙汰ありしを思ひてなり、し
かるに後きゝぬれば、信讀池水のあづかりといへり、
自然の出あひ也、あくる日あひそめ川などみて、甘
木の郡へこえ給て、其又の日は三井といふ所へより
給て宰府へ歸り、一夜あかしてはかたのもとの御や
ごりへぞ入給ぬる、昨日はみそぎ、けふは秋たつ日
なれども、何の興もなし、二日には浦人ども、あみ
とゝのへて、綱手引しわざしてぞ、見せまいらせけ
る、御のほり程ちかくなれば、さやうの催し共にて

三日はまぎれ暮し給けり、四日もをのゝ同じいそ
がはしさなれど、友松とわれらは人に似ぬしづけさ
にて、いとま給ていきの松原見にぞいにける、道す
がらは舟なり、五日に博多を出で、あかまといふ所
に一夜の旅枕にて、關門へぞ著給ひける、七日には
舟人ども風あしゝと申ければとゞまり給ぬ、旅にし
あれば、夢の心もなかりしに、人のすゝめ給ぬれば、
天河稀なる中もわたるてふこよひしもなご舟とゝ
むらん、八日の夜はいはやといふ所に舟をかけ、九
日に天神の府までなり、御やごりもありし所也、十日
には、富田、花岡などいふ所々にて殘暑をしのぐ、
木蔭の宿りもとめてまぐさとりかひなごせしかば、
高森へは暮ふかくつき給ぬ、氣さは、くばまで馬に
て、やがて舟にうつりておんごか迫門まで也、あくる
待あへず舟出して、暮ぬれば輒に一夜のかりなし給、
あくる日は宇嶋門へいたり、こゝなごも、こよひ過
給はんとし給ひぬれど、沖は波たかく風もむかひし

かば、よきとまりにて明し給へり、月のおもしろかりければ、獨ここに

浪風を舟にうしまと思ひしもわすれて月にかち枕せり、小嶋ちかきわたりにて恕慶所望に、

月の色にもれたる波の小島哉、

曉よりこぎ出て、播磨の國しかまへ舟をよせ、これより又陸地の歩行也、しかまのかちとは此事にやあらん、よるともいはずひるともいはずいそぎのぼり給ふ、あかしの浦の月こそまことにおもしろかりけれ、影見えぬ比しも過しうらみさへこよひあかしの月に晴ぬる、十五日のひるつかた山崎をへて伏見へぞ、三成は馬をはやめ給へる、都出し日の契たがへず、友松と相伴ひ、ふたりばかりはすぐにぞ入ぬる、かかれば、旅のつかれをかくとにて筆をなげうちぬ、

慶三

是齋重鑑

七月十五日

續々群書類從第五終

明治四十二年七月廿五日印刷

明治四十二年七月三十日發行

非賣品

東京市京橋區南傳馬町一丁目十二番地

國書刊行會代表者

編輯
行輯
者兼

市島謙吉

東京市神田區蠟燭町八番地

印刷者
武木信賢

東京市神田區三河町三丁目四番地

印刷所
武木印刷所

EAST-ASIAN LIB. UNIVERSITY OF TORONTO



3 1761 03043 6752